

2024年度

星槎道都大学

授業計画（シラバス）



目次

6209203	キャリア支援演習 (D) 北嶋 洋一 後期	1
6331000	ボールパークプログラム 信濃・安藤 後期	3
7824000	絵画 西田 陽二 後期	5
2102001	情報基礎演習 (M) 由水・薦田・佐藤雅 後期	7
2102002	情報基礎演習 (S) 宮崎・薦田 後期	9
2102003	情報基礎演習 (D) 薦田・佐藤雅 後期	11
2102004	情報基礎演習 (A) 薦田・佐藤雅 後期	13
3202101	トイ語入門 (M) 河田 一郎 後期	15
5302000	建築設計製図 佐々木哲・向井 後期	17
7211001	専門演習 B 由水 伸 後期	19
7211002	専門演習 B 信濃 吉彦 後期	21
7211003	専門演習 B 河野 善文 後期	23
7211005	専門演習 B 鈴木 重政 後期	25
7211006	専門演習 B 岡島 徳昭 後期	27
7211008	専門演習 B 青山 浩之 後期	29
7211009	専門演習 B 石山 玄幸 後期	31
7211010	専門演習 B 天野 雅斗 後期	33
7211011	専門演習 B 石井 祐治 後期	35
7211012	専門演習 B 篠原 諒介 後期	37
7211013	専門演習 B 川津 大樹 後期	39
7211014	専門演習 B 小林 大州介 後期	41
7211062	専門演習 B 小早川 俊哉 後期	43
7211064	専門演習 B 藤根 収 後期	45
7211068	専門演習 B 大島 康雄 後期	47
7211069	専門演習 B 吉江 幸子 後期	49
7211070	専門演習 B 西野 克俊 後期	51
7211071	専門演習 B 畠山 明子 後期	53
7211074	専門演習 B 堀川 厚志 後期	55
7211075	専門演習 B 宮崎 剛司 後期	57
7211076	専門演習 B 松下 守邦 後期	59
7211078	専門演習 B 蝦名 美穂 後期	61
7211079	専門演習 B 星野 秀治 後期	63
7211080	専門演習 B 上原 正希 後期	65
7514000	建築設計演習 日野 桂子 後期	67
7543000	建築表現 安藤・君 後期	69
6102061	基礎ゼミナル B 竹内 美帆 後期	71
6102062	基礎ゼミナル B 後藤 啓倫 後期	73
6102063	基礎ゼミナル B 戸佐 晃一 後期	75
6102064	基礎ゼミナル B 米野 宏 後期	77
6102065	基礎ゼミナル B 佐藤 和裕 後期	79
6102068	基礎ゼミナル B 三嶋 康嗣 後期	81
6102069	基礎ゼミナル B 井坂 肇 後期	83
6102071	基礎ゼミナル B 阿部 一也 後期	85
6102072	基礎ゼミナル B 篠原 諒介 後期	87
6102074	基礎ゼミナル B 杉本 大輔 後期	89
6102075	基礎ゼミナル B 横田 肇 後期	91
6102076	基礎ゼミナル B 櫻井 美帆子 後期	93
6102077	基礎ゼミナル B 湯浅 頼佳 後期	95
6102078	基礎ゼミナル B 尾西 則昭 後期	97
6102079	基礎ゼミナル B 西崎 毅 後期	99
6102081	基礎ゼミナル B 宮嶋 達也 後期	101
6102083	基礎ゼミナル B 横山 哲也 後期	103
6102085	基礎ゼミナル B 向井 正伸 後期	105
6102086	基礎ゼミナル B 佐藤 恵利 後期	107
6102087	基礎ゼミナル B 千葉 聡美 後期	109
6102089	基礎ゼミナル B 河田 一郎 後期	111
6102090	基礎ゼミナル B 大島 康雄 後期	113
6102092	基礎ゼミナル B 山本 一彦 後期	115
6102093	基礎ゼミナル B 木村 浩紀 後期	117
6102094	基礎ゼミナル B 薦田 勇智 後期	119
6102095	基礎ゼミナル B 佐藤 雅一 後期	121
6102096	基礎ゼミナル B 塩崎 大輔 後期	123
7545001	建築計画 安藤 淳一 後期	125
7726001	基礎統計演習 (M) 河野 善文 後期	127
7726002	基礎統計演習 (S) 杉本 大輔 後期	129
7726003	基礎統計演習 (D・A) 伊藤 裕康 後期	131
2103500	データインプット 薦田・近澤 後期	133
3104101	英語入門 (M) 石田 暁子 後期	135
3104102	英語入門 (S) 横田 肇 後期	137
3104103	英語入門 (D・A) 宮嶋 達也 後期	139
5308000	建築構造力学 長森 正 後期	141
6333000	防災・治水プログラム 安藤 淳一 後期	143
7304000	立体構成 梅田 力 後期	145
7305600	行ストレーション基礎 佐藤 正人 後期	147
6104063	基礎ゼミナル B 戸佐 晃一 後期	149

6104064	基礎ゼミナール	B 米野 宏	後期	151
6104065	基礎ゼミナール	B 佐藤 和裕	後期	153
6104068	基礎ゼミナール	B 三嶋 康嗣	後期	155
6104069	基礎ゼミナール	B 井坂 肇	後期	157
6104072	基礎ゼミナール	B 篠原 諒介	後期	159
6104073	基礎ゼミナール	B 後藤 啓倫	後期	161
6104074	基礎ゼミナール	B 杉本 大輔	後期	163
6104075	基礎ゼミナール	B 横田 肇	後期	165
6104076	基礎ゼミナール	B 櫻井 美帆子	後期	167
6104077	基礎ゼミナール	B 湯浅 頼佳	後期	169
6104078	基礎ゼミナール	B 尾西 則昭	後期	171
6104079	基礎ゼミナール	B 西崎 毅	後期	173
6104081	基礎ゼミナール	B 小山 尋明	後期	175
6104082	基礎ゼミナール	B 宮嶋 達也	後期	177
6104083	基礎ゼミナール	B 横山 哲也	後期	179
6104085	基礎ゼミナール	B 向井 正伸	後期	181
6104086	基礎ゼミナール	B 佐藤 恵利	後期	183
6104089	基礎ゼミナール	B 大島 康雄	後期	185
6104092	基礎ゼミナール	B 竹内 美帆	後期	187
6104093	基礎ゼミナール	B 千葉 聡美	後期	189
6104094	基礎ゼミナール	B 山本 一彦	後期	191
6104096	基礎ゼミナール	B 河田 一郎	後期	193
6104097	基礎ゼミナール	B 木村 浩紀	後期	195
6334000	イラスト・マンガプログラム	佐藤正・三上	後期	197
7724000	経営戦略論	鈴木 重政	後期	199
7724001	経営戦略論 (SP)	鈴木 重政	後期	201
9113000	社会科・公民科教育法	松下 守邦	後期	203
1202001	社会学入門 (M)	山本 一彦	後期	205
1202002	社会学入門 (S・D・A)	松下 守邦	後期	207
5204001	平面構成	北嶋 洋一	後期	209
5209000	西洋美術史	竹内 美帆	後期	211
7332000	漫画	三上 いずみ	後期	213
7542000	アクションプログラム	伊藤裕・向井	後期	215
7725000	財務会計論	川津 大樹	後期	217
7728000	マクロ経済学	河野 善文	後期	219
9108000	社会科・地理歴史科教育法	塩崎 大輔	後期	221
9125100	生徒・進路指導論	高井 雅一	後期	223
7734000	会社法	青山 浩之	後期	225
5207201	デザイン	西田 陽二	後期	227
7590000	CAD演習	佐藤善・伊藤裕	後期	229
7741000	ホビー指導論	高井 雅一	後期	231
1207000	外国の歴史	横田 肇	後期	233
5108100	権利擁護を支える法制度	星野 秀治	後期	235
7311000	工芸実習	島田・中島知・楠本	後期	237
7751001	クリエイション概論	尾西 則昭	後期	239
3301001	外国語コミュニケーション (M)	岡島 徳昭	後期	241
3301002	外国語コミュニケーション (S)	信濃 吉彦	後期	243
3301003	外国語コミュニケーション (D・A)	宮嶋 達也	後期	245
5107100	貧困に対する支援	星野 秀治	後期	247
5207001	デザイン	西田 陽二	後期	249
5310001	福祉環境計画論	佐々木 哲之	後期	251
5404000	経営管理論	信濃 吉彦	後期	253
7568000	建築表現	安藤・君	後期	255
5113100	保健医療と福祉	宮崎 剛司	後期	257
7550000	建築法規	佐藤 善太郎	後期	259
9117100	道德教育の指導法	佐藤 雅一	後期	261
7742000	管理会計論	鈴木 重政	後期	263
7144002	人文地理学	塩崎 大輔	後期	265
7335000	ビジュアルデザイン	田中 靖之	後期	267
7539100	エバーカルデザイン演習	安藤 淳一	後期	269
7593001	職業指導 (M)	川津 大樹	後期	271
5115100	社会福祉調査の基礎	杉本 大輔	後期	273
7581000	鋼構造	長森 正	後期	275
7053000	生涯学習概論	藤根 収	後期	277
7319100	グラフィックデザイン	北嶋 洋一	後期	279
7583000	建築生産	小笠原 健	後期	281
7011100	地域福祉と包括的支援体制	上原 正希	後期	283
7571000	建築設計演習	向井 正伸	後期	285
7753000	ホビーと栄養	湯浅 頼佳	後期	287
7319200	プロダクトデザイン	林 春生	後期	289
9128000	保健体育科教育法	森 靖明	後期	291
7551000	住宅設計演習	君 興治	後期	293
7782400	地域政策論	信濃・石山	後期	295
9129000	保健体育科教育法	高井 雅一	後期	297
7014100	ソーシャルワーク演習 (専門)	小早川杉本櫻井大島星野	後期	299
7573100	建築環境	伊藤 裕康	後期	301
7729000	北海道経済論	小林 大州介	後期	303
7822000	写真表現	林 春生	後期	305
9131000	保健体育科教育法	高井 雅一	後期	307
7016100	ソーシャルワーク実習指導	小早川上原杉本櫻井大島星野	後期	309

7820000	行方漫画概論	竹内 美帆 後期	311
7570000	アクション・ドラマ	伊藤 裕康 後期	313
7588000	建築法規	佐藤 善太郎 後期	315
9138000	総合的な学習の時間の指導法	西崎 毅 後期	317
7028100	精神保健福祉制度論	大島 康雄 後期	319
7192000	特別支援教育実習(事後指導)	木村・千葉 後期	321
7337000	行方・ストーリー	浩而 魅諭 後期	323
9139000	介護等体験指導	堀川・木村 後期	325
7607000	測量学	長森 正 後期	327
7025100	ソシヤル・ワークの理論と方法(専門)	西野 克俊 後期	329
7332100	キャラクターデザイン	三上 いずみ 後期	331
7362000	技法・材料研究	安田 祐造 後期	333
7521000	施工管理技士演習	小笠原 健 後期	335
7365000	彫刻	梅田 力 後期	337
7557000	応用数学	横山 哲也 後期	339
7370001	漫画	五十嵐・鴨 後期	341
7372000	造形論	松岡 龍介 後期	343
7380000	彫刻	国松 明日香 後期	345
7614000	建築学特講	柿沼 博彦 後期	347
7615000	建築学特講	柿沼 博彦 後期	349
7294000	乳児保育	吉江 幸子 後期	351
7369001	工芸実習	(三上) 三上 いずみ 後期	353
7369002	工芸実習	(梅田力) 梅田 力 後期	355
7369003	工芸実習	(中島義) 中島 義博 後期	357
7369004	工芸実習	(鳴海) 鳴海 伸一 後期	359
7295000	乳児保育	吉江 幸子 後期	361
7542300	一級対策製図	小笠原 健 後期	363
7482000	保育の計画と評価	吉江 幸子 後期	365
7296000	子どもの健康と安全	宮崎 剛司 後期	367
7354000	映像表現	北嶋 洋一 後期	369
7532400	一級建築士演習	小笠原 健 後期	371
7791000	運動学(運動方法学を含む。)	米野・天野 後期	373
7484000	保育内容演習(人間関係)	松下 守邦 後期	375
7532500	一級建築士演習	赤木 良子 後期	377
9104001	教育行政学(M・D・A)	木村 浩紀 後期	379
9104002	教育行政学(S)	木村 浩紀 後期	381
7322300	グラフィックデザイン	林 春生 後期	383
7319800	CG技法研究	北嶋 洋一 後期	385
7542500	二級対策製図	佐藤善・向井 後期	387
7319900	CG技法研究	北嶋 洋一 後期	389
7805000	精神保健	畠山 明子 後期	391
7102000	肢体不自由教育	千葉 聡美 後期	393
9112000	工業科教育法	横山 哲也 後期	395
7103000	知的障害教育	藤根 収 後期	397
7337200	行方・ストーリー	佐藤 正人 後期	399
7522400	二級建築士演習	佐藤善・向井 後期	401
7599000	アクション・ドラマ	小笠原 健 後期	403
9114000	美術科教育法	竹内 美帆 後期	405
7104000	病弱者の心理・生理・病理	千葉 聡美 後期	407
7522500	二級建築士演習	佐藤善・向井 後期	409
9118000	工業科教育法	三上 いずみ 後期	411
7794100	球技(バドミントン)	戸佐 晃一 後期	413
7018100	ソシヤル・ワーク実習指導	小早川上原杉本櫻井大島星野 後期	415
7318300	WEBデザイン	上坂 恒章 後期	417
7319300	WEBデザイン	上坂 恒章 後期	419
7763000	ビジネス法務	青山 浩之 後期	421
7765000	産業心理学	吉澤 英里 後期	423
7803100	球技(ラグビー)	佐藤 和裕 後期	425
7027100	精神障害リハビリテーション論	畠山 明子 後期	427
7105000	民法	青山 浩之 後期	429
7357000	コンテンツデザイン	上坂 恒章 後期	431
7807100	ダンス	是枝 亮 後期	433
7790100	柔道	三嶋 康嗣 後期	435
9134000	教職実践演習(中・高)	藤根堀川千葉木村塩崎高井天野篠原三上 後期	437
7120000	精神保健福祉援助実習指導	畠山・西野 後期	439
7764000	コミュニティ心理学	吉澤 英里 後期	441
7297000	社会的養護	杉本 大輔 後期	443
7798000	ホリスティック生理学	天野 雅斗 後期	445
7100000	地誌	塩崎 大輔 後期	447
7613000	アクション・ドラマ	佐藤 善太郎 後期	449
7817000	クラウド・コミュニティ	由水 伸 後期	451
7145000	知的障害教育	藤根 収 後期	453
7782300	金融論	小林 大州介 後期	455
7121000	社会心理学	松下 守邦 後期	457
7732000	国際政治論	後藤 啓倫 後期	459
7730000	国際経済論	小早川 俊哉 後期	461
7810000	倫理学概論	尾崎 有紀 後期	463
7031100	社会福祉施設の人事・労務・財務管理とリスクマネジメント	上原 正希 後期	465
7176100	精神医学と精神医療	伊東 隆雄 後期	467
7029100	精神保健福祉援助演習	畠山・西野 後期	469

7168000	精神保健福祉援助実習指導	畠山・西野	後期	・・・	471
7299000	保育実践演習	吉江 幸子	後期	・・・	473
1104001	北海道誌	塩崎 大輔	後期	・・・	475
7188000	日本政治史	後藤 啓倫	後期	・・・	477
7103110	社会福祉事業史	小早川 俊哉	後期	・・・	479
7032100	福祉士国家試験対策プログラム	小早川 櫻井杉本畠山西野星野他	後期	・・・	481

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	キャリア支援演習 (D) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	1 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会人になるための心構えや一般的な常識、さらには学科の特性に準じた専門的な基本知識も学び、卒業年度に始まる就職活動に必要な態勢を早期に身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)
 デザイン学科のDP1、DP2に対応する。(2023・2022年度)
 デザイン学科のDP1、DP2に対応する。(2021年度)

到達目標

インターンシップや就職活動の際に実践することができる一般及び専門的な知識や技術の習得。さらには自ら率先し、周囲の状況に流されることなく就職活動に臨む姿勢を持たせる。

授業全体の内容と概要

まずは働くことの必然性を学び、社会人になることについての興味を引き出す。続いて、学科の特性に準じた専門的な進路のパターンを具体的な例を示し、それらを自らの選択肢として捉えられるようにする。これに加えて、あらゆる業種において共通する一般常識も伝え、会社説明会や会社訪問など、就職活動に参加する際に必要となる態勢を作る。

授業の方法

就職活動に必要な知識を伝えるためPowerPointなどの資料を提示しながらの講義が中心になるが、就職活動や各種業界に対する取材を適時行わせ、それらについての疑問や質問に対しては随時対応する。
 授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。
 一般常識を学ぶに当たっては「ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト」を用い、カリキュラム終了後は検定の受験を紹介し、希望者を募る。
 不測時における授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

毎授業に於いて、当日定時までに提出するレポート課題が設定される。
 授業中はスマートフォンやタブレットなどの通信機器を用いることが多いため、準備を整えておくこと。
 遅刻1回は0.5回の欠席扱いとする。但し、交通機関の遅延による遅刻は証明書類を持って担当教員に申し出ること。
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
 板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	80%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「社会人に必要とされる一般常識を理解している。」	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割について十分に理解し、実践可能なレベルで身に付けている。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割について十分に理解している。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についてほぼ理解している。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についての理解が不十分である。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についての理解が全くできていない。
思考力・判断力・表現力 「社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に望むことができる応用力を身に付けている。」	社会人に必要な一般常識を理解し、就職活動に於いては根拠的な実践ができるレベルに到達した。	社会人に必要な一般常識を理解し、就職活動に於いては実践できるレベルに到達した。	社会人に必要な一般常識を理解しているが、就職活動に於いては実践できるレベルには未だ到達していない。	社会人に必要な一般常識の理解が不十分であり、実践できるレベルには未だ到達していない。	社会人に必要な一般常識を理解できておらず、就職活動が行える段階にない。
主体性・多様性・協働性 「就職活動を前提とし、デザイン学科の特性に合わせて各種課題に対し、適切に対応することができる。」	与えられた種々の課題に対し、臨機応変に適切に対応しており、取り組みも積極的であった。	与えられた種々の課題に対し、適切に対応するよう努力しており、取り組みも積極的であった。	与えられた種々の課題に対し、適切に対応しようとしたが、適切に対応しきれなかった。	与えられた種々の課題に対し、適切に対応しきれなかった。	与えられた種々の課題に対し、取り組みができていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	キャリア支援演習 (D) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	1 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『2024年版 ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト』	一般財団法人職業教育・キャリア教育財団	株式会社 日本能率協会マネジメント	2023	978-4-8005-9153-1	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション/キャリアタスクの登録 (全学科合同) ・この科目の内容と目的の理解・評価方法等	シラバス全体を一読しておくこと(45分)	授業内容の整理(45分)
2	公務員の仕事について (全学科合同)	当該範囲のシラバス確認(45分)	授業内容の整理(45分)
3	公務員の仕事について (全学科合同)	当該範囲のシラバス確認(45分)	授業内容の整理(45分)
4	ビジネス能力検定基礎 (全学科合同) テーマ:「電話、メール、服装等について」	当該範囲のシラバスとテキストの確認(45分)	授業内容の整理(45分)
5	3. ビジネス能力検定基礎 (全学科合同) テーマ:「ビジネスマナーの基本」	当該範囲のシラバスとテキストの確認(45分)	授業内容の整理(45分)
6	デザイン学科の就活 「デザインの業種・職種」	当該範囲のシラバス確認(45分)	授業内容の整理(45分)
7	デザイン学科の就活 「志望企業情報の調べ方」 「様々なメディアの有効な活用法」	当該範囲のシラバス確認(45分)	授業内容の整理(45分)
8	デザイン学科の就活 「就活に必要なツール」 ・ポートフォリオと名刺	当該範囲のシラバス確認(45分)	授業内容の整理(45分)
9	デザイン学科の就活 「企業との接点の作り方」	当該範囲のシラバス確認(45分)	授業内容の整理(45分)
10	デザイン学科の就活 「就活の事例紹介」	当該範囲のシラバス確認(45分)	授業内容の整理(45分)
11	GPS-Academicフィードバック (全学科合同) GPS-Academicの活用方法ややるべき事	当該範囲のシラバス確認(45分)	授業内容の整理(45分)
12	インターンシップ 実践編 (全学科合同) テーマ: インターンシップとは	当該範囲のシラバス確認(45分)	授業内容の整理(45分)
13	インターンシップ 入門編 (全学科合同) テーマ: 将来就職活動をする上でのインターンシップの位置付け	当該範囲のシラバス確認(45分)	授業内容の整理(45分)
14	北海道テレビ放送株式会社 編成局アウンズ部兼情報局スポーツ部 五十嵐路介氏 (全学科合同)	当該範囲のシラバス確認(45分)	授業内容の整理(45分)
15	株式会社自然農園 制作部 マネージャー 浅谷智貴丸氏 (全学科合同)	当該範囲のシラバス確認(45分)	授業内容の整理(45分)
16	小テスト まとめ (全学科合同) ビジネス能力検定ジョブパス3級の紹介 授業改善アンケートの実施	全授業内容整理と小テストの準備(45分)	全授業内容のまとめ(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科1年生		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ボールパークプログラ (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築・教授)、信濃 吉彦(経営・教授)、鈴木 重政(経営・教)		研究室等所在	2号館6階(信濃) 他 各教員の研究室を確認すること	
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各担当教員の研究室前掲示板等を確認すること。				

概要

履修目標
我が街に在るボールパーク(エスコンフィールド北海道およびFビレッジ)に関する学び・調査・分析・講演を通して知識を獲得し、街の発展に寄与することを目的とする。各回の担当教員の専門域を通してボールパークを総合的に分析し、街の発展に寄与できる知識やアイデア提案をするための素地を作る。
授業の位置づけ
本講座は、大学のすべてのディプロマポリシーに対応する科目である。(2024年度)
到達目標
ボールパークの案内ができるレベルまで球場とその周辺を熟知しどうすれば地域や北広島市と発展的な関係を築くことができるかを思考できるレベルに到達すること。

到達目標
ボールパークの案内ができるレベルまで球場とその周辺を熟知しどうすれば地域や北広島市と発展的な関係を築くことができるかを思考できるレベルに到達すること。
到達目標
ボールパークの案内ができるレベルまで球場とその周辺を熟知しどうすれば地域や北広島市と発展的な関係を築くことができるかを思考できるレベルに到達すること。

到達目標
ボールパークの案内ができるレベルまで球場とその周辺を熟知しどうすれば地域や北広島市と発展的な関係を築くことができるかを思考できるレベルに到達すること。
到達目標
ボールパークの案内ができるレベルまで球場とその周辺を熟知しどうすれば地域や北広島市と発展的な関係を築くことができるかを思考できるレベルに到達すること。

到達目標
ボールパークの案内ができるレベルまで球場とその周辺を熟知しどうすれば地域や北広島市と発展的な関係を築くことができるかを思考できるレベルに到達すること。
到達目標
ボールパークの案内ができるレベルまで球場とその周辺を熟知しどうすれば地域や北広島市と発展的な関係を築くことができるかを思考できるレベルに到達すること。

到達目標
ボールパークの案内ができるレベルまで球場とその周辺を熟知しどうすれば地域や北広島市と発展的な関係を築くことができるかを思考できるレベルに到達すること。
到達目標
ボールパークの案内ができるレベルまで球場とその周辺を熟知しどうすれば地域や北広島市と発展的な関係を築くことができるかを思考できるレベルに到達すること。

到達目標
ボールパークの案内ができるレベルまで球場とその周辺を熟知しどうすれば地域や北広島市と発展的な関係を築くことができるかを思考できるレベルに到達すること。
到達目標
ボールパークの案内ができるレベルまで球場とその周辺を熟知しどうすれば地域や北広島市と発展的な関係を築くことができるかを思考できるレベルに到達すること。

到達目標
ボールパークの案内ができるレベルまで球場とその周辺を熟知しどうすれば地域や北広島市と発展的な関係を築くことができるかを思考できるレベルに到達すること。
到達目標
ボールパークの案内ができるレベルまで球場とその周辺を熟知しどうすれば地域や北広島市と発展的な関係を築くことができるかを思考できるレベルに到達すること。

事前相談によって、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートを行う。従って、該当すると思われる学生は必ず経営学科信濃教授まで事前相談に向うこと。

資格指定科目

評価方法・基準

単位認定に必要な出席回数は、見学会や講演会を含めて13回とする。遅刻は2回で欠席1にカウントする。また、遅刻は5分までとし遅刻者は入室時に必ず担当教員に遅刻の申告を行う事。飲食と戴帽は厳に禁止する。提出期限を過ぎた課題やレポートは、これを受け付けない。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	15%	0%	0%	70%	15%

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	ボールパークおよび周辺の状況を詳しく理解し、事例に対応した理想的な提案を構築できた。	ボールパークおよび周辺の状況を十分に理解し、事例に対応した新たな提案を構築できた。	ボールパークおよび周辺の状況を理解し、学習事例を理解できた。	ボールパークおよび周辺の状況を理解していた。	ボールパークおよび周辺の状況を理解できていなかった。
思考力・判断力・表現力	ボールパーク特にFビレッジの現状を完全に理解し、現状改善に向けた持論を展開できた。	ボールパーク特にFビレッジの現状を十分に理解し、現状改善の在り方を提示できた。	ボールパーク特にFビレッジの現状を理解し、現状改善の考え方を理解できた。	ボールパーク特にFビレッジの現状を理解していた。	ボールパーク特にFビレッジの現状を理解できていなかった。
主体性	学生の視点から本講座の目的を完全に理解し、クラスメートに対しても様々な意見を提案できた。	学生の視点から本講座の目的を十分に理解し、意見の展開を試みることができた。	学生の視点から本講座の目的を理解し、意見を提示できた。	学生の視点から本講座の目的を理解した活動を行った。	学生の視点から本講座の目的を理解した活動を行う事ができていなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科1年生		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ボールパークプログラ (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築・教授)、信濃 吉彦(経営・教授)、鈴木 重政(経営・教	研究室等所在	2号館6階(信濃)	他 各教員の研究室を確認すること	
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス 担当: 信濃・鈴木 シラバスの説明、授業計画、BP創造 米国のボールパークとは(理念・米国の	シラバスを読み込み、ノートを準備し初回の学習内容に関する情報の収集を開始する。(90分)	授業の振り返りを行いノートを作成すること。(90分)
2	BPと夢・幸福・平和、日本のボールパークの状況(目標設定) 担当: 信濃	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。(90分)	授業の振り返りを行いノートを作成すること。(90分)
3	BPマーケティング(顧客創造、デザイン) 担当: 鈴木	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。(90分)	授業の振り返りを行いノートを作成すること。(90分)
4	BPとイノベーション(オペレーション、デザイン)	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。(90分)	授業の振り返りを行いノートを作成すること。(90分)
5	BPとホスピタリティ 担当: 畠山	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。(90分)	授業の振り返りを行いノートを作成すること。(90分)
6	BPとヘルスケア 担当: 湯浅	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。(90分)	授業の振り返りを行いノートを作成すること。(90分)
7	BPと環境(SDGs) 担当: 鈴木	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。(90分)	授業の振り返りを行いノートを作成すること。(90分)
8	講演 ファイターズのスポーツビジネス 演者 株式会社ファイターズスポーツ&エンターテインメント担当部署	講演予定の内容に沿った情報収集に努め、質問事項や確認事項をノートにまとめる。(90分)	講演の振り返りを行いノートを作成すること。(90分)
9	BP建設までの経緯と現状 北海道日本ハムファイターズの場合 担当: 安藤	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。(90分)	授業の振り返りを行いノートを作成すること。(90分)
10	BP提案 北海道日本ハムファイターズへの提案(学生のアイデア) 担当: 安藤	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。(90分)	授業の振り返りを行いノートを作成すること。(90分)
11	BP概要#1 北海道日本ハムファイターズBP 敷地計画、建築概要 担当: 安藤	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。(90分)	授業の振り返りを行いノートを作成すること。(90分)
12	BP概要#2 北海道日本ハムファイターズBP 建築概要、周辺エリア、避難施設計画 担当: 安藤	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。(90分)	授業の振り返りを行いノートを作成すること。(90分)
13	BPファイナンス(財務・マネー) BPと北広島市のまちづくり#1 担当: 石山	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。(90分)	授業の振り返りを行いノートを作成すること。(90分)
14	BPと地域のwin win(地域マネジメント) BPと北広島市のまちづくり#2 担当: 安藤	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。(90分)	授業の振り返りを行いノートを作成すること。(90分)
15	BPと未来の街(行政マネジメント) 担当: 石山	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。(90分)	授業の振り返りを行いノートを作成すること。(90分)
16	総括&これからの北広島 担当: 安藤・信濃	本講座を振り返って、確認事項や満足度をノートにまとめ、質問事項や確認事項をまとめておく。(90分)	自分なりに本講座の感想をまとめてノートに記録すること。

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	絵画 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即して絵画の基礎を教授する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

絵画を完成させることで、手順を理解し自ら作品を制作できる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)
 デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2023・2022年度)
 デザイン学科のDP1、DP2、DP3に対応する。(2021年度)

到達目標

アカデミックな技法により、基礎的な絵画技術の向上と基本的な混色の理解をする。

授業全体の内容と概要

人物(顔)を中心にオーソドックスな手法を使い絵画で表現することで基本的なものの見方や技術をマスターする。

授業の方法

プレゼンテーションは板書にて行う。授業形態は実技を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

絵画用具等の材料は各自が用意する。
 不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(美術)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
解剖学的な顔の表現が出来るかを基準とする	固有色にとらわれない表現が出来た。	自然な形態感が出来ていた。	自然なバランスで表現出来ていた。	大きな調子の流れが出来ていた。	一部のみが強調されバランスを崩していた。
3原色に夜混色が正しく理解できている	彩度のコントロールが出来た。	色相のコントロールが出来た。	明度のコントロールが出来た。	大きな調子の流れが出来た。	一部の調子が破綻していても理解出来なかった。
自分が目標とした画風を最後まで表現出来るかを基準とする	作風の狙い等の確に表現されていた。	雰囲気のある表現が出来た。	個性的な表現を追及出来た。	無理のない画風を選択表現出来た。	思いっただけの画風で表現しようとした。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	絵画 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二 (デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即して絵画の基礎を教授する			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション=シラバスの説明 油彩画のための用具野説明、授業の流れと目的などについて。授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
2	オリエンテーション 油彩画のための用具野説明、授業の流れと目的などについて。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
3	個人的に構想(コンセプト)等の確認とアドバイス 資料づくり	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
4	個人的に構想(コンセプト)等の確認とアドバイス 資料づくり	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
5	個人的に構想(コンセプト)等の確認とアドバイス 資料づくり	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
6	個人的に構想(コンセプト)等の確認とアドバイス 資料づくり	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
7	個人的に構想(コンセプト)等の確認とアドバイス 資料づくり	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
8	個人的に構想(コンセプト)等の確認とアドバイス 資料づくり	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
9	(自画像創作)を描く(F12号)3色(青,赤,黄)の混色によって出来る色(暗灰色)で自分の顔をデッサンする。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
10	(自画像創作)を描く(F12号)3色(青,赤,黄)の混色によって出来る色(暗灰色)で自分の顔をデッサンする。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
11	ホワイトを盛り上げて塗り、マチエール(絵肌)を作る。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
12	ホワイトを盛り上げて塗り、マチエール(絵肌)を作る。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
13	3色のみの混色によって出来る様々な色とホワイトを使い、グレージング(薄塗り)によって描き進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
14	3色のみの混色によって出来る様々な色とホワイトを使い、グレージング(薄塗り)によって描き進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
15	の作業にホワイトによる形などの修正を加え、さらにグレージングの手法を使い描き進める	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
16	の作業にホワイトによる形などの修正を加え、さらにグレージングの手法を使い描き進める	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	描き込みを進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
18	描き込みを進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
19	描き込みを進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
20	描き込みを進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
21	描き込みを進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
22	描き込みを進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
23	描き込みを進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
24	描き込みを進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
25	描き込みを進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
26	描き込みを進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
27	描き込みを進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
28	描き込みを進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
29	描き込みを進める。(油の層が出来ていくことを確認する)	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
30	描き込みを進める。(油の層が出来ていくことを確認する)	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
31	細部を描き込み作品を完成させる。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
32	採点及び講評会を行う(解説・フィードバック)授業改善アンケート実施	提出課題の完成へ向けて準備をしておくこと(45分)	解説・フィードバックを受けて講義内容のふりかえりを行うこと(45分)

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (M) (科目ナンバリング:)					
授業担当者(所属・職名)	佐藤 雅一(経営学科・専任講師)、薦田 勇智(経営学科・専任講師)、由水		研究室等所在	1号館2階(佐藤)・2号館7階(薦田)・1号館2階(由水)		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 雅一)		CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容					
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

プレゼンテーション能力は就職や進学の場だけでなく、卒業後の学術的な発表や職場でのリーダーシップ力の鍵となる必須の能力である。プレゼンテーション能力を磨くためには、積極的に発言し、発表の練習を行うことが大切であり、スライドのデザインや話し方も重要なポイントである。本授業は、PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨くことを目的とする。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP4に対応する。(2024年度)

到達目標

本授業ではプレゼンテーション能力を伸ばすために、以下のように目的を設定する。

- ・人に伝える内容と目的を明確に把握し、情報を集めた資料を用意できること。
- ・情報源の明示、情報の正確性の確認、著作権を尊重すること。
- ・PowerPointを使って発表資料を対象者に応じて視覚的に表現できること。
- ・PowerPointのスライドを使って、わかりやすくかつ効果的に説明できること。

授業全体の内容と概要

- ・基礎編では規定課題を通して、発表の組み立て、資料の準備、PowerPointの基本的な使い方などを学ぶ。
- ・個人別作成編では、テーマを一つ選択し、個性を活かしたPowerPointスライドを作成する。
- ・自由作成編は、自由テーマでPowerPointスライドを作成する。これは定期試験に代わる評価対象である。
- ・個人別作成編と自由作成編の終了時には、それぞれ発表会と講評が設けられている。
- ・本科目は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム(情報リテラシー)の関連授業科目である。
- ・本科目は、以下のSDGと関連授業科目である。
 1 SDG4「質の高い教育をみんなに」

授業の方法

- ・ICTを活用した講義体制となる。
- ・解説・演習時は、大型モニターに教材(スライド資料等)を提示しながら行う。
- ・Microsoft Teamsを利用して課題提示、提出を求める。
- ・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・実習時は、大学に備え付けのPCの他、自己所有のノートPC(Windows/Mac)を使用してもよい。
- ・自己所有のノートPCを使用する場合は、Microsoft Officeを使えるように準備すること。(大学から無償で提供)。
- ・課題作成については著作権等の盗用(剽窃)無きよう、十分配慮すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

- ・単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。
- ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。
- ・課題を期限を超過して提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
情報収集力	複数の正しい情報源から情報を収集することで、情報の精度を上げていた。著作権についても確認していた。	複数の正しい情報源から情報を収集することで、情報の精度を上げていた。著作権についても確認していた。	正しい情報源から必要な情報を収集することができた。著作権についても確認していた。	必要な情報を収集することができたが、情報源ならびに著作権についての確認は曖昧だった。	必要な情報を収集することができなかった。
PowerPointを使った発表資料作成と表現力	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成することができた。説得力、表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成することができた。説得力、表現力は優れていた。	PowerPointを使った発表資料の作成することができた。説得力、表現力は十分であった。	PowerPointを使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が弱っていた。	発表資料を作成することができなかった。
効果的なプレゼンテーション能力	表情が豊かで、言葉と合わせて身振り手振りも活用して聴衆全体を惹きつけるプレゼンテーションができた。	聴衆全体に通る声で、明確で説得力のあるプレゼンテーションができた。	説得力のあるプレゼンテーションができた。	プレゼンテーションはできたが、説得力にかけていた。	プレゼンテーションがうまくできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (M) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 雅一(経営学科・専任講師)、薦田 勇智(経営学科・専任講師)、由水	研究室等所在	1号館2階(佐藤)・2号館7階(薦田)・1号館2階(由水)		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 雅一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション ・シラバスの確認 ・授業の進め方の確認	シラバスを読む(45分)	メモやノートを整理する(45分)
2	基礎1 Excelの基本的な使い方	Excelの使い方について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
3	基礎2 Excelの基本的な使い方	Excelの使い方について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
4	基礎3 ・Excelを使った計算 ・Excelで使える関数の確認	Excelの特徴について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
5	基礎4 Excelを使った表の作成		操作方法を復習する(45分)
6	基礎5 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的な理解		操作方法を復習する(45分)
7	個人別作成1 ・課題をいくつかのテーマから選択 ・各自がテーマに沿った内容で作成		操作方法を復習する(45分)
8	個人別作成2 ・作成の続き		メモやノートを整理する(45分)
9	個人別作成3 ・完成		メモやノートを整理する(45分)
10	発表会(予選) プレゼンテーション技法		メモやノートを整理する(45分)
11	発表会(選抜者) 講評		メモやノートを整理する(45分)
12	自由作成1(評価用) ・各自がテーマを自由に設定 ・採点対象作品の作成		メモやノートを整理する(45分)
13	自由作成2(評価用) ・作成の続き		操作方法を復習する(45分)
14	自由作成3(評価用) ・完成		操作方法を復習する(45分)
15	自由作品の内容確認と講評 ・講評は学生同士で行う ・優秀作を選出		操作方法を復習する(45分)
16	優秀作紹介 プレゼンテーションの発展的利用についてまとめ		試験で回答できなかった・自信がない項目について復習する(45分)

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (S) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)、宮崎 剛士(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階(薦田)・1号館2階(宮崎)		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

プレゼンテーション能力は就職や進学の場だけでなく、卒業後の学術的な発表や職場でのリーダーシップ力の鍵となる必須の能力である。プレゼンテーション能力を磨くためには、積極的に発言し、発表の練習を行うことが大切であり、スライドのデザインや話し方も重要なポイントである。本授業は、PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨くことを目的とする。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

本授業ではプレゼンテーション能力を伸ばすために、以下のように目的を設定する。
 ・人に伝える内容と目的を明確に把握し、情報を集めた資料を用意できること。
 ・情報源の明示、情報の正確性の確認、著作権を尊重すること。
 ・PowerPointを使って発表資料を対象者に応じて視覚的に表現できること。
 ・PowerPointのスライドを使って、わかりやすくかつ効果的に説明できること。

授業全体の内容と概要

・基礎編では規定課題を通して、発表の組み立て、資料の準備、PowerPointの基本的な使い方を学ぶ。
 ・個人別作成編では、テーマ一つ選択し、個性を活かしたPowerPointスライドを作成する。
 ・自由作成編は、自由テーマでPowerPointスライドを作成する。これは定期試験に代わる評価対象である。
 ・個人別作成編と自由作成編の終了時には、それぞれ発表会と講評が設けられている。
 ・本科目は、情報リテラシー教育の関連授業科目である。
 ・本科目は、以下のSDGs関連授業科目である。
 ・SDG4「質の高い教育をみんなに」

授業の方法

・ICTを活用した講義体制となる。
 ・解説・演習時は、大型モニターに教材(スライド資料等)を提示しながら行う。
 ・Microsoft Teamsを利用して課題提示、提出を求める。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・実習時は、大学に備え付けのPCの他、自己所有のノートPC(Windows/Mac)を使用してもよい。
 ・自己所有のノートPCを使用する場合は、Microsoft Officeを使えるように準備すること。(大学から無償で提供)。
 ・課題作成については著作物等の盗用(剽窃)無きよう、十分配慮すること。
 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。
 ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。
 ・課題を期限を超過して提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
情報収集力	複数の正しい情報源から情報を収集することで、情報の精度を上げていた。著作権についても確認していた。	複数の正しい情報源から情報を収集することで、情報の精度を上げていた。著作権についても確認していた。	正しい情報源から必要な情報を収集することができた。著作権についても確認していた。	必要な情報を収集することができたが、情報源ならびに著作権についての確認は曖昧だった。	必要な情報を収集することができなかった。
PowerPointを使った発表資料作成と表現力	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成することができた。説得力、表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成することができた。説得力、表現力は優れていた。	PowerPointを使った発表資料の作成することができた。説得力、表現力は十分であった。	PowerPointを使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が弱っていた。	発表資料を作成することができなかった。
効果的なプレゼンテーション能力	表情が豊かで、言葉と合わせて身振り手振りも活用して聴衆全体を惹きつけるプレゼンテーションができた。	聴衆全体に通る声で、明確な訴求力のあるプレゼンテーションができた。	説得力のあるプレゼンテーションができた。	プレゼンテーションはできたが、説得力にかけていた。	プレゼンテーションがうまくできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (S) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)、宮崎 剛士(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階(薦田)・1号館2階(宮崎)		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション ・シラバスの確認、授業改善アンケートからプレゼンテーション能力の重要性	シラバスを読む(45分)	メモやノートを整理する(45分)
2	基礎1 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	ネットワーク上のマナーについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
3	基礎2 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	Microsoft Officeについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
4	基礎3 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	Wordの書式設定について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
5	基礎4 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	Wordの書式設定について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
6	基礎5 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	ビジネス定型文書の作成1について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
7	個人別作成1 ・課題をいくつかのテーマから選択 ・各自がテーマに沿った内容で作成	ビジネス定型文書の作成2について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
8	個人別作成2 ・作成の続き	ヘッダーとフッターについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
9	個人別作成3 ・完成	Excelの特徴について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
10	発表会(予選) プレゼンテーション技法	Excelの計算式と関数について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
11	発表会(選抜者) 講評	Excelのグラフ作成について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
12	自由作成1(評価用) ・各自がテーマを自由に設定 ・採点対象作品の作成	Excelでよく使われる関数について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
13	自由作成2(評価用) ・作成の続き	ソートについて調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
14	自由作成3(評価用) ・完成	Excelの扱えるデータについて調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
15	自由作品の内容確認と講評 ・講評は学生同士で行う ・優秀作を選出	授業の全般について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
16	優秀作紹介 プレゼンテーションの発展的利用についてまとめ	全授業内容を確認する(45分)	試験で回答できなかった・自信がない項目について復習する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (D) (科目ナンバリング:)					
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)、佐藤 雅一(経営学科・専任講師)、由水		研究室等所在	2号館7階(薦田)・1号館2階(佐藤)・1号館2階(由水)		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)		CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容					
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

プレゼンテーション能力は就職や進学の場合だけでなく、卒業後の学術的な発表や職場でのリーダーシップ力の鍵となる必須の能力である。プレゼンテーション能力を磨くためには、積極的に発言し、発表の練習を行うことが大切であり、スライドのデザインや話し方も重要なポイントである。本授業は、PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨くことを目的とする。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP4に対応する。(2024年度)

到達目標

本授業ではプレゼンテーション能力を伸ばすために、以下のように目的を設定する。

- ・人に伝える内容と目的を明確に把握し、情報を集めた資料を用意できること。
- ・情報源の明示、情報の正確性の確認、著作権を尊重すること。
- ・PowerPointを使って発表資料を対象者に応じて視覚的に表現できること。
- ・PowerPointのスライドを使って、わかりやすくかつ効果的に説明できること。

授業全体の内容と概要

- ・基礎編では規定課題を通して、発表の組み立て、資料の準備、PowerPointの基本的な使い方などを学ぶ。
- ・個人別作成編では、テーマを一つ選択し、個性を活かしたPowerPointスライドを作成する。
- ・自由作成編は、自由テーマでPowerPointスライドを作成する。これは定期試験に代わる評価対象である。
- ・個人別作成編と自由作成編の終了時には、それぞれ発表会と講評が設けられている。
- ・本科目は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム(情報リテラシー)の関連授業科目である。
- ・本科目は、以下のSDG4に関連授業科目である。
「SDG4：質の高い教育をみんなに」

授業の方法

- ・ICTを活用した講義体制となる。
- ・解説・演習時は、大型モニターに教材(スライド資料等)を提示しながら行う。
- ・Microsoft Teamsを利用して課題提示、提出を求める。
- ・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・実習時は、大学に備え付けのPCの他、自己所有のノートPC(Windows/Mac)を使用してもよい。
- ・自己所有のノートPCを使用する場合は、Microsoft Officeを使えるように準備すること。(大学から無償で提供)。
- ・課題作成については著作権等の盗用(剽窃)無きよう、十分配慮すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

- ・単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。
- ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。
- ・課題を期限を超過して提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
情報収集力	複数の正しい情報源から情報を収集することで、情報の精度を上げていた。著作権についても確認していた。	複数の正しい情報源から情報を収集することで、情報の精度を上げていた。著作権についても確認していた。	正しい情報源から必要な情報を収集することができた。著作権についても確認していた。	必要な情報を収集することができたが、情報源ならびに著作権についての確認は曖昧だった。	必要な情報を収集することができなかった。
PowerPointを使った発表資料作成と表現力	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成することができた。説得力、表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成することができた。説得力、表現力は優れていた。	PowerPointを使った発表資料の作成することができた。説得力、表現力は十分であった。	PowerPointを使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が弱っていた。	発表資料を作成することができなかった。
効果的なプレゼンテーション能力	表情が豊かで、言葉と合わせて身振り手振りも活用して聴衆全体を惹きつけるプレゼンテーションができた。	聴衆全体に通る声で、明確で説得力のあるプレゼンテーションができた。	説得力のあるプレゼンテーションができた。	プレゼンテーションはできたが、説得力にかけていた。	プレゼンテーションがうまくできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (D) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)、佐藤 雅一(経営学科・専任講師)、由水	研究室等所在	2号館7階(薦田)・1号館2階(佐藤)・1号館2階(由水)		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション ・シラバスの確認、授業改善アンケートからプレゼンテーション能力の重要性	シラバスを読む(45分)	メモやノートを整理する(45分)
2	基礎1 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	ネットワーク上のマナーについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
3	基礎2 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	Microsoft Officeについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
4	基礎3 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	Wordの書式設定について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
5	基礎4 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	Wordの書式設定について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
6	基礎5 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	ビジネス定型文書の作成1について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
7	個人別作成1 ・課題をいくつかのテーマから選択 ・各自がテーマに沿った内容で作成	ビジネス定型文書の作成2について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
8	個人別作成2 ・作成の続き	ヘッダーとフッターについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
9	個人別作成3 ・完成	Excelの特徴について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
10	発表会(予選) プレゼンテーション技法	Excelの計算式と関数について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
11	発表会(選抜者) 講評	Excelのグラフ作成について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
12	自由作成1(評価用) ・各自がテーマを自由に設定 ・採点対象作品の作成	Excelでよく使われる関数について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
13	自由作成2(評価用) ・作成の続き	ソートについて調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
14	自由作成3(評価用) ・完成	Excelの扱えるデータについて調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
15	自由作品の内容確認と講評 ・講評は学生同士で行う ・優秀作を選出	授業の全般について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
16	優秀作紹介 プレゼンテーションの発展的利用についてまとめ	全授業内容を確認する(45分)	試験で回答できなかった・自信がない項目について復習する(45分)

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (A) (科目ナンバリング:)					
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)、佐藤 雅一(経営学科・専任講師)、由水		研究室等所在	2号館7階(薦田)・1号館2階(佐藤)・1号館2階(由水)		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)		CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容					
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

プレゼンテーション能力は就職や進学の場だけでなく、卒業後の学術的な発表や職場でのリーダーシップ力の鍵となる必須の能力である。プレゼンテーション能力を磨くためには、積極的に発言し、発表の練習を行うことが大切であり、スライドのデザインや話し方も重要なポイントである。本授業は、PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨くことを目的とする。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP4に対応する。(2024年度)

到達目標

本授業ではプレゼンテーション能力を伸ばすために、以下のように目的を設定する。

- ・人に伝える内容と目的を明確に把握し、情報を集めた資料を用意できること。
- ・情報源の明示、情報の正確性の確認、著作権を尊重すること。
- ・PowerPointを使って発表資料を対象者に応じて視覚的に表現できること。
- ・PowerPointのスライドを使って、わかりやすくかつ効果的に説明できること。

授業全体の内容と概要

- ・基礎編では規定課題を通して、発表の組み立て、資料の準備、PowerPointの基本的な使い方などを学ぶ。
- ・個人別作成編では、テーマを一つ選択し、個性を活かしたPowerPointスライドを作成する。
- ・自由作成編は、自由テーマでPowerPointスライドを作成する。これは定期試験に代わる評価対象である。
- ・個人別作成編と自由作成編の終了時には、それぞれ発表会と講評が設けられている。
- ・本科目は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム(情報リテラシー)の関連授業科目である。
- ・本科目は、以下のSDG4に関連授業科目である。
「SDG4：質の高い教育をみんなに」

授業の方法

- ・ICTを活用した講義体制となる。
- ・解説・演習時は、大型モニターに教材(スライド資料等)を提示しながら行う。
- ・Microsoft Teamsを利用して課題提示、提出を求める。
- ・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・実習時は、大学に備え付けのPCの他、自己所有のノートPC(Windows/Mac)を使用してもよい。
- ・自己所有のノートPCを使用する場合は、Microsoft Officeを使えるように準備すること。(大学から無償で提供)。
- ・課題作成については著作権等の盗用(剽窃)無きよう、十分配慮すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

- ・単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。
- ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。
- ・課題を期限を超過して提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
情報収集力	複数の正しい情報源から情報を収集することで、情報の精度を上げていた。著作権についても確認していた。	複数の正しい情報源から情報を収集することで、情報の精度を上げていた。著作権についても確認していた。	正しい情報源から必要な情報を収集することができた。著作権についても確認していた。	必要な情報を収集することができたが、情報源ならびに著作権についての確認は曖昧だった。	必要な情報を収集することができなかった。
PowerPointを使った発表資料作成と表現力	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成することができた。説得力、表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成することができた。説得力、表現力は優れていた。	PowerPointを使った発表資料の作成することができた。説得力、表現力は十分であった。	PowerPointを使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が弱っていた。	発表資料を作成することができなかった。
効果的なプレゼンテーション能力	表情が豊かで、言葉と合わせて身振り手振りも活用して聴衆全体を惹きつけるプレゼンテーションができた。	聴衆全体に通る声で、明確で説得力のあるプレゼンテーションができた。	説得力のあるプレゼンテーションができた。	プレゼンテーションはできたが、説得力にかけていた。	プレゼンテーションがうまくできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (A) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)、佐藤 雅一(経営学科・専任講師)、由水	研究室等所在	2号館7階(薦田)・1号館2階(佐藤)・1号館2階(由水)		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション ・シラバスの確認、授業改善アンケートからプレゼンテーション能力の重要性	シラバスを読む(45分)	メモやノートを整理する(45分)
2	基礎1 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	ネットワーク上のマナーについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
3	基礎2 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	Microsoft Officeについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
4	基礎3 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	Wordの書式設定について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
5	基礎4 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	Wordの書式設定について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
6	基礎5 ・規定課題を通してPowerPointを使ったプレゼンテーション作成の基本的を理解する	ビジネス定型文書の作成1について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
7	個人別作成1 ・課題をいくつかのテーマから選択 ・各自がテーマに沿った内容で作成	ビジネス定型文書の作成2について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
8	個人別作成2 ・作成の続き	ヘッダーとフッターについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
9	個人別作成3 ・完成	Excelの特徴について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
10	発表会(予選) プレゼンテーション技法	Excelの計算式と関数について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
11	発表会(選抜者) 講評	Excelのグラフ作成について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
12	自由作成1(評価用) ・各自がテーマを自由に設定 ・採点対象作品の作成	Excelでよく使われる関数について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
13	自由作成2(評価用) ・作成の続き	ソートについて調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
14	自由作成3(評価用) ・完成	Excelの扱えるデータについて調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
15	自由作品の内容確認と講評 ・講評は学生同士で行う ・優秀作を選出	授業の全般について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
16	優秀作紹介 プレゼンテーションの発展的利用についてまとめ	全授業内容を確認する(45分)	試験で回答できなかった・自信がない項目について復習する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ドイツ語入門 (M) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	河田 一郎(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河田 一郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ドイツ語の初級文法と簡単な会話をマスターする。グローバル化に対応するため、コミュニケーションの手段としてドイツ語を学び、自らの世界を広げることが目標とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP2に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

ドイツ語検定試験5級合格のための基礎を固める。ドイツ語圏への観光、留学をした際に困らない程度の日常会話を身につける。

授業全体の内容と概要

授業ではドイツ語初級文法を基礎から指導を行う。一年後には辞書を使えば、簡単な文章を理解できるようになることを目標とする。ドイツに関連することで、学生が興味を持ちそうなこと、また教養として知ってほしいことについて紹介および解説を行う。
*SDS 4.質の高い教育をみんなにの関連科目。

授業の方法

授業では板書をしながら、ドイツ語の文法・文化を紹介する。ドイツのDVD等も見て講義形式で行う。また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

新しいことばかりなので、とにかく授業に参加すること。ドイツ語検定試験受験希望者には特別講義を行なう。再試験の評価は内容の理解度を重視する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ドイツ語の初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる。	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
基礎的な文法を用いて、平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる。	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組みしたが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
ドイツ語の基本的な語彙を修得し、発音が正確にできる。	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ドイツ語入門 (M) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	河田 一郎(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河田 一郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『気分はドイツ(改訂版)』	渡辺・黒瀬ほか	三修社	2021	9784384123012	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	【ガイダンス】 授業の進め方・シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明。	シラバスの内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
2	【話法の助動詞について】 話法の助動詞の用法について学び、置き換えができるようにする。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
3	【話法の助動詞の用法について】 話法の助動詞の用法について学び、置き換えができるようにする。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
4	【ヒアリング練習】 ヒアリング問題に関する対策を学ぶ。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
5	【形容詞について】 ドイツ語の形容詞の用法について学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
6	【形容詞の比較・副詞的用法について】 比較・副詞的用法を学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
7	【分離動詞について】 分離動詞について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
8	【動詞の3基本形について】 動詞の3基本形について学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
9	【過去形の変化について】 過去形の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
10	【完了形について】 ドイツ語の現在完了形について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
11	【完了形の用法について】 完了形の用法について学び、英語との違いを理解する。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
12	【関係代名詞について】 関係代名詞について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
13	【受動態について】 受動態について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
14	【ZU不定詞について】 不定詞について学び、和訳することができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
15	【接続法について】 接続法について学び、用法を理解する。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
16	【定期試験および解説】 60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う。授業改善アンケートの実施。	試験に向け全体を復習すること。(90分)	試験および解説を受けて講義全体を復習すること。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	建築設計製図 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 哲之(建築学科・特任教授)、向井 正伸(建築学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階、2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 哲之)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所での設計業務の実務経験をもとに実技指導。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

積雪寒冷地における木造と鉄筋コンクリート造について、技術と製図の基本を修得することを目標としている。木造では軸組構法が主となるが、構造・構法の考え方や高断熱・高气密の建築技術を学ぶ。鉄筋コンクリート構造では、壁構造とラーメン構造の構造計画、外壁・地下室・屋上防水等の詳細図、積雪寒冷地の外装計画等を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP1, DP3, DP4に対応する。(2024年度)
 建築学科のDP1, DP2に対応する。(2023・22年度)
 建築学科のDP1, DP2に対応する。(2021年度)

到達目標

時間内に課題を完成させることができ、期日を守ることの重要性を身に付ける。木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨構造の設計図面の描写や技法が製図規約に従って、正しく表現できる。

授業全体の内容と概要

木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨構造の各種設計図の表現方法を学ぶ。課題は授業計画に従い、毎週提示された授業時間内に完成させ提出することを原則とする。課題により次の提出を認めている。課題は採点の後返却される。

授業の方法

課題解説、製図、およびそれらの指導は、すべて製図室で行われる。したがって、指定された製図道具を各自必ず持参し、授業に臨むこととなる。また、課題ごとに配布する資料と板書による説明をし、そのうち製図を始める。再提出や追加課題に備えて、自宅に製図板、製図道具等を揃えておくことが不可欠である。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施し、欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

当日の製図課題の説明は授業開始直後に行うので、遅刻してきた場合の説明は他の学生が製図に着手した後となるので、遅刻はかなりのハンディキャップとなるので注意をする。課題は全課題提出が原則である。
 30分以上の遅刻は欠席とする。また、遅刻4回で欠席1回とみなすので注意すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格科目」必修科目、教職課程(工業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

2コマ連続実技なので、単位認定に必要な最低出席回数は22回以上、かつ全課題提出とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	10%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
製図の基本技術について寸法とスケール、図面の表示記号、線の種類と描き方、建築図面の理解、空間の理解	- をすべて理解し表現できていた。	- をすべて理解し表現できていた。	- をすべて理解し表現できていたが、一部の表現が不十分であった。	- について理解できていたが部分的に不十分であった。	- について理解、表現とも不十分であった。
木造軸組工法の各種図面において、柱の位置、線種の使い分け、部材の寸法、図面のレイアウト、部材ごとの部材の組み合わせと線のメリハリ	- をすべて理解し表現できていた。	- をすべて理解し表現できていた。しかし、は理解できていたが表現が不十分であった。	- をすべて理解し表現できていたが、一部の表現が不十分であった。	- の項目の過半について理解できていたが表現が項目に限らずに不十分であった。	- について理解、表現とも不十分であった。
鉄筋コンクリート造・鉄骨造の各種図面において、柱割、線種の使い分け、部材の寸法、図面のレイアウト、部材ごとの部材の組み合わせと線のメリハリ	- をすべて理解し表現できていた。	- をすべて理解し表現できていたが、一部の表現が不十分であった。	- をすべて理解し表現できていたが、一部の表現が不十分であった。	- の項目の過半について理解できていたが表現が項目に限らずに不十分であった。	- について理解、表現とも不十分であった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	建築設計製図 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 哲之(建築学科・特任教授)、 向井 正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	1号館4階、2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 哲之)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 建築設計事務所での設計業務の実務経験をもとに実技指導。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『コンパクト建築設計資料集』	日本建築学会編	丸善株式会社			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンス1 授業計画の説明と履修指導	シラバスにより次回の部分を予習すること(45分)	授業計画の内容と履修内容を復習すること(45分)
2	ガイダンス2 製図のルール, 作図方法	製図のルール, 作図方法を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
3	寒冷地の木造建築 - 1a平面図(柱の配置, 軸組構法)	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
4	寒冷地の木造建築 - 1b平面図(壁の断熱と大壁・真壁)	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
5	寒冷地の木造建築 - 2a 展開図の描き方, 建具表の表現	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
6	寒冷地の木造建築 - 2b 展開図と建具表の作図	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
7	寒冷地の木造建築 - 3a 基礎の断熱, 寒冷地の1階床組	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
8	寒冷地の木造建築 - 3b 基礎伏図と1階床伏図の作図	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
9	寒冷地の木造建築 - 4a 2階荷重の伝播, 小屋組の造り方	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
10	寒冷地の木造建築 - 4b 2階床伏図と小屋伏図の作図	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
11	寒冷地の木造建築 - 5a 矩計図に表現される事項	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
12	寒冷地の木造建築 - 5b 矩計図の作図	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
13	鉄筋コンクリート造ラーメン構造 - 1a 柱スパンと柱の断面寸法, 外壁と構造躯体	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
14	鉄筋コンクリート造ラーメン構造 - 1b 平面図の作図	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
15	鉄筋コンクリート造ラーメン構造 - 2a 断面の考え方, 表現方法	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
16	鉄筋コンクリート造ラーメン構造 - 2b 断面図の作図	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	鉄筋コンクリート造ラーメン構造 - 3a 梁・スラブと階高, 断熱方法, 天井の構法	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
18	鉄筋コンクリート造ラーメン構造 - 3b 矩計図の作図	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
19	鉄筋コンクリート造ラーメン構造 - 4a 防水(屋上防水, 地下室の防水と断熱)	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
20	鉄筋コンクリート造ラーメン構造 - 4b 防水(屋上防水, 地下室の防水と断熱)	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
21	鉄筋コンクリート造ラーメン構造 - 5a外装 コンクリート打放し, カーテンウォール	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
22	鉄筋コンクリート造ラーメン構造 - 5b 立面図の作図	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
23	鉄筋コンクリート造壁構造 - 1a 壁式構造とは耐力壁の壁量と配置	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
24	鉄筋コンクリート造壁構造 - 1b 平面図の作図	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
25	鉄筋コンクリート造壁構造 - 2a 断熱材と開口部と納まり	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
26	鉄筋コンクリート造壁構造 - 2b 平面詳細図の作図	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
27	鉄骨構造 - 1a 柱スパンと柱の断面寸法, 外壁と構造躯体	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
28	鉄骨構造 - 1b 平面図の作図	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
29	鉄骨構造 - 2a 床・屋根スラブの造り方, 壁下地と仕上げ材 次回の製図内容を予習すること(90分)	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
30	鉄骨構造 - 2b 部分詳細図の作図	次回の製図内容を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 図面を完成すること(45分)
31	講評会-1	講評会にむけて, 今までの製図課題を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 課題図面を見直すこと(45分)
32	講評会-2 授業改善アンケートの実施	講評会にむけて, 今までの製図課題を予習すること(45分)	製図内容を復習し, 課題図面を見直すこと(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 由水 伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
ICTの専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的(客観的・論理的)な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ
経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標
多岐にわたる情報分野と経営学の知識を総合的に理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要
ICT活用に必要な応用知識の獲得の方向で演習が進められる。

授業の方法
講義、ゼミナール、実験、制作等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやティベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
30分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。授業内容は前後の相関関係があるため、欠席するとそれ以降の理解が難しくなる。全ての授業に出席することが望ましい。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件
授業16回のうち出席13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。毎回の授業における課題の過程と結果が得点として積算される。最終評価はルーブリックに従い、総合的に判断し決定する。原則としてS評価は全回出席者に限る。

評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
30%	0%	70%	0%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

知識・技能	真摯に取り組み、高いレベルで知識・技能を獲得する事ができた。また、独自の発想で課題に取り組み、高い結果を出していた。	真摯に取り組み、高いレベルで知識・技能を獲得する事ができた。	まじめに取り組み、知識・技能の獲得につなげていた。	知識・技能を得るための最低限の活動は行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	真摯に取り組み、深いレベルで思考力・判断力・表現力を獲得する姿勢が感じられた。また、独自の発想で課題に取り組み、高い結果を出していた。	真摯に取り組み、深いレベルで思考力・判断力・表現力を獲得する姿勢が感じられた。	まじめに取り組み、思考力・判断力・表現力の獲得につなげていた。	概ね、まじめに取り組んだが、思考力・判断力・表現力の獲得は不十分であった。	取り組みが不十分で、思考力・判断力・表現力の獲得に対する姿勢が全く見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組んできた。また、課題解決後もさらなる研究・改善に努めた。	与えられた問題解決に前向きで、努力して取り組むが疎忽した。	不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれた。	何とか授業はこなすものの、集中力が欠けていて理解する姿勢が不十分であった。	内容を身につけようとする姿勢が全く見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 由水 伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明、本専門演習の学習上の注意点 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	学習環境の整備 ・Microsoft365の設定確認 ・OneDriveの設定確認	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
3	Wordを使ったレポート作成 ・スタイルを利用した文書の書式管理 ・図形・写真の組み込み、表組み、タブの利用	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
4	Wordを使ったミニ新聞作成 ・縦書き段落を使ったレイアウト ・罫子の設置、図形・写真の組み込み	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
5	PowerPointを使ったポスター作成 ・目的に応じたデザインの決定 ・テキストボックス、図形、写真の利用	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
6	Excelを利用した表データの活用 ・ソート ・フィルター	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
7	Excelを利用したグラフの作成 ・グラフの種類と利用目的 ・円グラフ、棒グラフ、折れ線グラフ	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
8	Excelと関数(1) 基本的な関数 ・合計、平均、カウント(条件付き含む) ・文字の結合、分離、検索と書き換え	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
9	Excelと関数(2) データの活用 ・XLOOKUP関数 ・INDEX、MATCH関数	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
10	Excelとマクロ ・マクロとは ・マクロの記録と実行	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
11	画像編集 ・画像編集ソフトの選択とインストール ・用途に合わせた編集処理	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
12	音声編集 ・音声編集ソフトの選択とインストール ・サンプル音源の編集	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
13	動画編集(1) ・動画編集ソフトの選択とインストール ・サンプル動画の編集	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
14	動画編集(2) ・動画編集ソフトの選択とインストール ・サンプル動画の編集	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
15	画像や動画分野における生成AIの利用 ・種類と特徴 ・効果的な利用方法	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
16	定期試験 定期試験と解答説明	授業振返り作成(45分)	全体振り返り(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	経営学科各教員		研究室等所在	各研究室	
単位数	1 (単位認定責任者: 各教員)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

担当各教員の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的(客観的・論理的)な思考、研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナル担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを旨として、研究を着実に進めることが一層求められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナル、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う、テーマ別にディスカッションやディベートを行う、グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

各担当教員が授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業16回のうち出席13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとし、ゼミ担任が判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	100%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実証力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常生活の知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、本学経営学部生としての自覚が出来上がり、日本における社会人としての素養が身についた。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も積極的であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が見える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的だった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	経営学科各教員		研究室等所在	各研究室	
単位数	1 (単位認定責任者: 各教員)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	担当教員による授業 授業改善アンケートの実施	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	担当教員による授業 およびまとめと評価について	授業振り返り作成(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	河野 善文(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

日常のさまざまな疑問を経済学的観点からとらえるための知識を身につける。また、経済学の基礎知識を活用して、日常の問題を経済学的に考察する能力を身につける。さらには、演習内での議論を通して、人と協働して課題解決にあたるコミュニケーション能力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

日常のさまざまな事象を経済学的観点でとらえる取組みができる。
課題の解決にむけて経済学の考え方の活用に取りくめる。
経済学の考えのもとついたコミュニケーションに取りくめる。

授業全体の内容と概要

まず経済学の基本となる重要概念を学ぶ。学んだことを知識としてただ理解するだけでなく、経済学の考えの日常生活の事象への応用について、グループワークをありませず演習する。演習では、日常のさまざまな不思議・疑問から出発して、具体的な問題・課題を見出し、その解決にむけて経済学の考え方の活用を議論する。

授業の方法

各回の計画にそって、まず経済学の重要概念からテーマを選んで解説する。次に、その学んだ考え方を、日常生活の身近な疑問や不思議にあてはめて考察することを演習する。演習では、個人的考察にくわえて集団討論による考察も行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する可能性がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

グループワークやディスカッションを基本とした少人数に授業であるため、受講人数を10人から12人程度までに制限する。ただし、具体的な人数は、当該年度の対象学年の学生数等を考慮して年度ごとに決める。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	10%	0%	90%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
疑問への経済学的観点の適用	日常生活の疑問に経済学的観点を適用して経済学的問題としてとらえることができた。	日常生活の疑問に経済学的観点を適用して経済学的問題としてとらえることができた。	日常生活の疑問に経済学的観点をある程度適用できた。	日常生活の疑問への経済学的観点を適用に取り組めた。	日常生活の疑問に経済学的観点を適用できなかった。
問題の経済学的考察	日常生活の問題の経済学的考察を導くことができた。	日常生活の問いを経済学的に考察できた。	日常生活の問いについてある程度経済学的に考察できた。	日常生活の問いに関する経済学的考察に取りくめた。	日常生活の問いに関する経済学的考察ができなかった。
経済学的な議論の実践	経済学的思考のもとついで意見をまとめることができた。	経済学的思考のもとついで討議できた。	経済学的思考のもとついである程度討議できた。	経済学的思考のもとついで討議に取りくめた。	経済学的思考のもとついで討議ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	河野 善文(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション 授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明	シラバスを読む(45分)	シラバス等の確認とまとめ(45分)
2	時間割引について	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
3	時間割引の事例演習(1) 集団討論	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
4	時間割引の事例演習(2) 個別演習	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
5	時間割引に関する発表とまとめ	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
6	インセンティブについて	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
7	インセンティブの事例演習(1) 集団討論	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
8	インセンティブの事例演習(2) 個別演習	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
9	インセンティブに関する発表とまとめ	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
10	ゲーム理論について	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
11	ゲーム理論の事例演習(1) 集団討論	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
12	ゲーム理論の事例演習(2) 個別演習	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
13	ゲーム理論に関する発表とまとめ	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
14	後期演習のまとめ	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
15	後期学生生活の振り返り	後期の学生生活について振り返る(45分)	振り返りをまとめる(45分)
16	補講・課題等 授業アンケートの実施	これまでの演習課題等を再確認・整理してたりないものを補う(45分)	演習ノートの整理(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義 演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 鈴木 重政)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照 Teamsによるチャットは平日午前9時から午後5時まで対応				

概要

履修目標

目標は『未来を見通しビジネスを創造する力をつける』である。コロナ禍や強権国家の台頭など世界の環境の変化は目まぐるしく、未来を見通すには高度な分析力と総合力そして実行力が必要となる。分析力、総合力、実行力を涵養することを目標とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

経営学の視点に立つ分析力、総合力、実行力を身につける。

授業全体の内容と概要

北海道の北広島市、由仁町、神恵内村でのフィールドワークを中心に、実用的な活動を行う。SDGsでは「4. 質の高い教育をみんなに」「8. 働きがいも経済成長も」「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」「11. 住み続けられるまちづくりを」「12. つくる責任 つかう責任」「14. 海の豊かさを守ろう」「15. 陸の豊かさを守ろう」に関連する。

授業の方法

授業はフィールドワーク(北広島市、由仁町、神恵内村)が中心となる。研究室にて企画を立て、対象地域の人々とともに行動する。したがってコミュニケーション力も必要となる。フィールドワーク終了後はレポートを作成する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

分析力、総合力、実行力、改善力を存分に発揮すること。積極的な発言を望む。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要とされる最低出席回数は13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経営学の視点に立つ分析力	経営学の視点に立つ分析力が極めて高い	経営学の視点に立つ分析力がやや高い	経営学の視点に立つ分析力が高い	経営学の視点に立つ分析力がある	経営学の視点に立つ分析力が不足している
経営学の視点に立つ立案力	経営学の視点に立つ立案力が極めて高い	経営学の視点に立つ立案力がやや高い	経営学の視点に立つ立案力が高い	経営学の視点に立つ立案力がある	経営学の視点に立つ立案力が不足している
運営能力	経営学の視点に立つ運営能力が極めて高い	経営学の視点に立つ運営能力がやや高い	経営学の視点に立つ運営能力が高い	経営学の視点に立つ運営能力がある	経営学の視点に立つ運営能力が不足している
評価能力	経営学の視点に立つ評価能力が極めて高い	経営学の視点に立つ評価力がやや高い	経営学の視点に立つ評価力が高い	経営学の視点に立つ評価力がある	経営学の視点に立つ評価力が不足している
改善能力	経営学の視点に立つ改善力が極めて高い	経営学の視点に立つ改善力がやや高い	経営学の視点に立つ改善力が高い	経営学の視点に立つ改善力がある	経営学の視点に立つ改善力が不足している

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義 演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 鈴木 重政)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 地域活性化の定義	地域活性化の定義を考える	地域の分析を行う
2	フィールドワーク(北広島市 エスコンフィールド)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
3	フィールドワーク(北広島市・由仁町・神恵内村)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
4	フィールドワーク(北広島市・由仁町・神恵内村)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
5	フィールドワーク(北広島市・由仁町・神恵内村)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
6	フィールドワーク(北広島市・由仁町・神恵内村)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
7	フィールドワーク(北広島市・由仁町・神恵内村)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
8	フィールドワーク(北広島市・由仁町・神恵内村)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
9	フィールドワーク(北広島市・由仁町・神恵内村)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
10	フィールドワーク(北広島市・由仁町・神恵内村)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
11	フィールドワーク(北広島市・由仁町・神恵内村)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
12	フィールドワーク(北広島市・由仁町・神恵内村)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
13	フィールドワーク(北広島市・由仁町・神恵内村)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
14	フィールドワーク(北広島市・由仁町・神恵内村)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
15	フィールドワーク(北広島市・由仁町・神恵内村)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
16	フィールドワーク(北広島市・由仁町・神恵内村)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	岡島 徳昭(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

国際言語としての英語理解を基本とし様々な国際関係の時事問題を通して、経営学部生として主体的な学び姿勢、学問的(客観的・論理的)な思考・研究方法の基礎を磨く。さらにそれらを発展させ、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力を身につけ、就職活動や卒業論文へ活かす専門的な知識領域を磨く。基本的に専門演習 Aの内容を継続する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

「異文化コミュニケーション」の学びに沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを旨として、研究を着実に進めることが一層求められる。

授業の方法

講義、ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態をとる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習		反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

10名を上限とする。毎回授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業16回のうち13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価はすべての活動を通して加味し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	100%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な理解力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常生活の実践を身につけるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が出来上がった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も積極的であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	岡島 徳昭(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	授業 授業改善アンケートの実施	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	授業 およびまとめと評価について	授業振り返り作成(45分)	全体振り返り(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。法的なものの考え方を身につけ、ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を修得することとする。さらにビジネス活動で生じる法的問題の発見能力とコンプライアンス能力を修得することを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

会社を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できる。法的な側面から会社とは何かを考えることができる。

授業全体の内容と概要

企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。

- 「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。
- 「SDG 8.働きがいも経済成長も」の関連科目。
- 「SDG 10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

専門演習を進める上で、「商法」「会社法」(講義)を受講することが前提条件になります。専門演習は基本的に講義・発表(報告者はあらかじめ決めて順次報告)・討論する方法をとります。確認テストなどはプリント配布で実施のほか、Microsoft Formsの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・演習科目なので、積極的な出席が必要
- ・私語などの迷惑行為は厳禁
- ・講義中スマホの操作は厳禁
- ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
 ・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。
 ・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	30%	0%	70%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に授業に取り組み、実社会で対応し得る様々なスキルを学び、社会に貢献するための努力をしている。	各回の授業に真摯に取り組み、十分な実践力の獲得へ向けた理解が深まりつつある。	各回の授業に取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られる。	授業にまじめに取り組み、日常生活を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	授業への取り組みが不十分で、知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、主体的に活動を行っている。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり、活動を実社会で生かすことに前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的である。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られない。
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べる	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明ができる	事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を理解できる	事例を読み取れず、法律の条文を理解できない
課題に対し、問題可決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えている	解答は答えているが、一部に解答と関係ないことを答えている	解答が一通り答えているが、改善すべき点がある	解答を部分的には答えているが、的確ではない	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション 個別面談・履修登録チェック 授業改善アンケート結果反映の説明	授業への参加の心構えを考える。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
2	株式会社の経営体制・資格と役割(7)事例研究 大学の学びとキャリア(1) 大学で何を学び、身につけなければならないか	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
3	株式会社の経営体制・資格と役割(8)事例研究 大学の学びとキャリア(2) 大学で何を学び、身につけなければならないか	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
4	株式会社の経営体制・責任(1)役員 大学の学びとキャリア(3) 大学で何を学び、身につけなければならないか	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
5	株式会社の経営体制・責任(2)役員 大学の学びとキャリア(4) 大学で何を学び、身につけなければならないか	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
6	株式会社の経営体制・責任(3)事例研究 大学の学びとキャリア(5) 「働く」ということを考える	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
7	株式会社の経営体制・責任(4)事例研究 大学の学びとキャリア(6) 「働く」ということを考える	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
8	株式会社の経営体制・責任(5)事例研究 大学の学びとキャリア(7) 「働く」ということを考える	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
9	株式会社の経営体制・資格と役割(5)指名委員会等・監査等委員会・執行役 大学の学びとキャリア(8)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
10	株式会社の経営体制・資格と役割(6)監査役・監査役会 大学の学びとキャリア(9)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
11	株式会社の経営体制・資格と役割(7)会計参与・会計監査人 就職活動の準備(1)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
12	株式会社の経営体制・資格と役割(8)事例研究 就職活動の準備(2)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
13	株式会社の経営体制・資格と役割(9)事例研究 就職活動の準備(3)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
14	株式会社の経営体制・資格と役割(10)事例研究 就職活動の準備(4)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
15	株式会社の経営体制・資格と役割(11)事例研究 就職活動の準備(5)	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
16	個別面談・履修登録チェック 授業改善アンケートの実施	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	前期全体の振り返りを行う。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

当ゼミナールは、グループディスカッションを基本として、ゼミナールで実施するテーマの決定から実行、検証までを学生主体で進めることで、将来的に社会人として活躍できる人材に成ることを目的としている。

授業の位置づけ

経営学科のDP全てに対応する。(2023・2022年度)

到達目標

当ゼミナールの到達目標は、グループワークでの基本ルールを身に付け、他人の意見を尊重しながらも、自分の意見もきちりと発言できること。そして、他人の意見から、多面的かつより深い議論ができるようになること。

授業全体の内容と概要

専門演習 bは、専門演習 aと同じ手法で進めるが、専門演習 aでの改善点を踏まえて、より質の高い成果を目指す。

授業の方法

当ゼミナールは、毎回、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを基本として、研究テーマを決定した後は、フィールドワーク、PBL、調査学習を中心に進める。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

当ゼミナールは、提出物等の期限が守れること、無断欠席はしないこと、ゼミで積極的に発言・参加すること。この3つを重視する。この3つを守れない場合は減点対象とする。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	100%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な理解力を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が出来上がった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も積極的であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション:シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	グループディスカッションの基本	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
3	グループディスカッションによる研究テーマ選定 (研究テーマの候補をいくつか挙げる)	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
4	研究テーマの決定	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
5	研究テーマの実施計画の策定	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
6	研究テーマの実施計画の策定	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
7	研究の実行(フィールドワーク、調査学習、PBL)	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
8	研究の実行(フィールドワーク、調査学習、PBL)	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
9	研究の実行(フィールドワーク、調査学習、PBL)	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
10	調査のまとめ(報告書の作成)	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
11	調査のまとめ(報告書の作成)	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
12	調査のまとめ(報告書の作成)	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
13	プレゼンテーション(研究成果の発表)と質疑応答	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
14	本研究の検証(振り返り)	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
15	本研究の検証(後期に向けた改善点) 授業改善アンケートの実施	予習課題(45分)	授業振返り課題(45分)
16	担当教員による講評と評価についての説明	授業振返り作成(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	天野 雅斗(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 天野 雅斗)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的(客観的・論理的)な思考、研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

スポーツパフォーマンスを感覚だけではなく客観的事実(データ)からも評価できるようにする。その過程を通して、保健体育・スポーツ分野の専門家としての基礎的な知識の定着、様々な人々と一緒に仕事をしていくための人間力の育成、プロジェクトを遂行するためのマネジメント力、学んだ知識を現場に適用し有効に活用していくための社会人基礎力を向上させることを目標とする。

授業全体の内容と概要

スポーツパフォーマンス研究の現状を知る。調査から提案までのプロセスについて、実践を通して理解する。データの収集・統計分析・結果報告・改善方法の立案(Excel、Word、Power Pointなどを使用)について学ぶ。グループ毎にプロジェクト内容を決め計画・実行する。

授業の方法

大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う。テーマ別にディスカッションやディベートを行う。グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合はある。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

実践経験(体験活動)に重点を置いているため、好奇心を持って積極的に取り組むこと。また、パソコンを使用してデータ分析も行うのでパソコンを用意すること。そのほか授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業16回のうち出席13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとし判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	100%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自然科学における基本的な思考法やスポーツ科学の基礎知識・技能を身につけている	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常生活の知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚が生まれ、日本における社会人としての素養が身についた。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに關して前向きで、努力が見える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかかわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはない、日々の活動も受動的だった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	天野 雅斗(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 天野 雅斗)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明	シラバスの確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	研究計画の立案 先行研究の文献調査(文献検索の方法、読み方)	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	研究計画の立案 研究方法、研究倫理について	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	研究計画の立案 実験・調査依頼文の作成	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	実験・調査依頼	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	アンケート調査	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	スポーツパフォーマンス測定調査	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	スポーツパフォーマンス測定調査	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	スポーツパフォーマンス測定調査	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	スポーツパフォーマンス測定調査	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	調査結果のデータ分析	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	調査結果のデータ分析	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	調査結果報告資料作成	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	調査結果報告資料作成	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	調査結果報告発表	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	調査結果報告発表まとめと評価について	授業振り返り作成(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義、実技	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	石井 祐治(経営学科・特任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 石井 祐治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

- ・自分自身で行っているトレーニングの効果を検証する。
- ・トレーニング内容を確立する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

データ分析、パワーポイント、ワードでのまとめ方を覚える。
統計処理まで行い、より詳しい分析方法やデータ処理を身につける。

授業全体の内容と概要

主にデータ収集。テーマを各自決めて、その実験などに必要な被検者などはゼミ内でまかなう。データ収集と平行して、論文の書き方などの指導を行う。
・トレーニング
・新たなトレーニング方法の検証
・レース分析
・簡単な動作分析 など

授業の方法

自分が行いたいテーマを決め、スケジュールを組み取り組んでいく。
途中経過をゼミで発表し、意見交換を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

各自状態によってトレーニング内容が変わってくるため、日程調整しながらトレーニングを継続することが大事となってくる。トレーニングおよびレース内容をもとに評価する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	25%	25%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
論文の内容を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない
データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない
発表の際の工夫は行われたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていない力所がある	全く行われていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義、実技	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	石井 祐治(経営学科・特任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 石井 祐治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明	ガイダンス (45分)	学習内容の復習(45分)
2	各テーマの論文検索	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
3	各テーマの論文検索	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
4	各テーマの論文検索	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
5	各テーマの論文検索	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
6	論文発表	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
7	論文発表	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
8	論文発表	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
9	論文発表	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
10	トレーニング	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
11	トレーニング	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
12	トレーニング	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
13	トレーニング	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
14	トレーニング	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
15	トレーニング	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
16	まとめ・発表	パワーポイントでの作成 (45分)	学習内容の復習(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

- ・自分自身で行っているトレーニングの効果を実験などを踏まえて検証する。
- ・新たな指導法を確立する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

データ分析、パワーポイント、ワードでのまとめ方を覚える。
統計処理まで行い、より詳しい分析方法やデータ処理を身につける。

授業全体の内容と概要

主にデータ収集、テーマを各自で決めて、その実験などに必要な被検者などはゼミ内でまかなう。データ収集と平行して、論文の書き方などの指導を行う。

- ・トレーニング
- ・各部活における新たな指導法
- ・ゲーム分析
- ・簡単な動作分析 など

授業の方法

- ・自分が行いたいテーマを決め、スケジュールを組み、測定を行う。
- ・途中経過をパワーポイントで発表し、意見交換を行う。
- ・不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。
- ・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供します。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

データをとるなどの細かい作業もあり、日程調整などもあるため継続することが大事となる。データをもとに発表などから評価する。尚、不測の事態の際はオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	25%	25%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
論文の内容を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない
データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない
発表の際の工夫は行われたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていない力所がある	全く行われていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明	論文読解(45分)	学習内容の復習(45分)
2	各テーマの論文検索	論文読解(45分)	学習内容の復習(45分)
3	各テーマの論文検索	論文読解(45分)	学習内容の復習(45分)
4	各テーマの論文検索	論文読解(45分)	学習内容の復習(45分)
5	各テーマの論文検索	論文読解(45分)	学習内容の復習(45分)
6	論文発表	論文読解(45分)	学習内容の復習(45分)
7	論文発表	論文読解(45分)	学習内容の復習(45分)
8	論文発表	論文読解(45分)	学習内容の復習(45分)
9	論文発表	論文読解(45分)	学習内容の復習(45分)
10	ブレ測定	論文読解(45分)	学習内容の復習(45分)
11	ブレ測定	論文読解(45分)	学習内容の復習(45分)
12	ブレ測定	論文読解(45分)	学習内容の復習(45分)
13	ブレ測定	論文読解(45分)	学習内容の復習(45分)
14	ブレ測定	論文読解(45分)	学習内容の復習(45分)
15	ブレ測定	論文読解(45分)	学習内容の復習(45分)
16	まとめ・発表 授業改善アンケートの実施	パワーポイントでの作成(45分)	学習内容の復習(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	川津 大樹(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 川津 大樹)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体(商工会)に勤務し、地域の中小企業に対して金融・税務指導を行った経験に基づき、財務会計に関する理論、制度および実務を総合的に取り上げる。		
オフィスアワー	初回講義で説明、または研究室前の掲示等を参照。				

概要

履修目標

財務会計に関する知識を習得するとともに、経営分析等を通じてそれを活用する力を身につける。
また、4年次の卒業論文の執筆に向けて、その論点(財務会計の問題点)を自ら発見するため、自発的に考える力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

- ・財務会計の理論、国内外の会計基準およびそれらに基づく実務にまつわる知識を身につける。
- ・有価証券報告書等の公表資料を用いて、実際の企業を分析する力を身につける。
- ・卒業論文の書き方や参考文献等の資料収集を体得するとともに、卒業論文のテーマ・論点を見つける。

授業全体の内容と概要

3年次では、財務会計にまつわる文献を精読し、近年における財務会計の動向を把握する。その中で、自分なりに財務会計における論点(問題点)を見つけ、卒業論文の執筆に備える。授業最終回では、半年間のまとめとして、財務会計の動向または実際の企業に関する経営分析をテーマとしたプレゼンテーション回を行う予定である(具体的なテーマや実施形式は、受講生との話し合いによって決定する)。このほか、卒業論文の書き方や文献収集について随時指導していく。

授業の方法

テキスト等の指定された文献の箇所・テーマを各自レポート形式で事前にまとめ、当日はそれに基づいてディスカッションを深めていく。ディスカッションにおいては、積極的な発言を期待する。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供することがあり得る。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

他の会計科目を履修済みもしくは今年度に履修予定であることが望ましい。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。
自主的・積極的な演習内での発言を評価する一方、無断欠席は大きな減点要因となるので要注意。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
財務会計にまつわる知識の習得	財務会計の知識を踏まえ、経営分析等、授業以外の場でもそれを活用することができた。	財務会計の知識を踏まえ、経営分析等、授業以外の場でもそれをある程度活用することができた。	財務会計の知識を踏まえ、経営分析等、授業以外の場でもそれを活用しようとした。	授業で取り上げた財務会計の知識を最低限習得できた。	授業で取り上げた財務会計の知識を習得できなかった。
財務会計に対する問題意識の醸成と論点の発見	財務会計の論点・問題点を見つけ、その解決に向けた考察を行っている。	財務会計の論点・問題点を見つけた。	財務会計に対する問題意識を抱き、その論点となる問題を探している。	財務会計に対する問題意識を抱き始めた。	財務会計に対する問題意識を全く抱かなかった。
主体的・意欲的な授業への参加	自分だけでなく、他の受講者も巻き込んだ形で授業に参加し、授業全体の活発化に取り組んだ。	積極的に質問やディスカッションを行い、能動的に授業に参加した。	積極性は乏しいものの、質問やディスカッションに一部参加した。	授業には参加したものの、質問やディスカッションについて、受動的に姿勢に終始した。	授業に意欲的に参加しなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	川津 大樹(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 川津 大樹)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体(商工会)に勤務し、地域の中小企業に対して金融・税務指導を行った経験に基づき、財務会計に関する理論、制度および実務を総合的に取り上げる。		

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『新・現代会計入門 第6版』	伊藤邦雄	日経BPM	2024年		
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション:講義の方針確認 前期の復習 授業改善アンケート結果反映の説明	前期に用いた資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	金融商品会計	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
3	金融商品会計	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
4	従業員給付会計	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
5	従業員給付会計	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
6	連結会計	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
7	連結会計	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
8	企業結合・事業分離等の会計	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
9	企業結合・事業分離等の会計	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
10	外貨換算会計	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
11	外貨換算会計	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
12	経営分析	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
13	経営分析	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
14	プレゼンテーション報告会の準備	プレゼンテーションの準備(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
15	プレゼンテーション報告会の準備	プレゼンテーションの準備(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
16	プレゼンテーション報告会(本番)と総評 授業改善アンケートの実施	プレゼンテーションの準備(45分)	報告会での指摘事項を再確認(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小林 大州介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小林 大州介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	初回に周知する。また各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
担当各教員の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的(客観的・論理的)な思考、研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ
経営学科のDP全てに対応する。(2023・2022年度)

到達目標
多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要
それぞれのゼミナル担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを旨として、研究を着実に進めることが一層求められる。 「SDS 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナル、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う、テーマ別にディスカッションやディベートを行う、グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法							
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
各担当教員が授業時にアナウンスする。授業中に指定された課題は必ず行うこと。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
授業16回のうち13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	0%	100%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	0%	100%	0%							

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な理解力を発揮することができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常生活を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小林 大州介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小林 大州介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	初回オリエンテーション 授業内容の説明 授業改善アンケート結果反映の説明	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
3	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
4	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
5	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
6	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
7	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
8	前半授業の振り返り	前半授業の復習(45分)	授業の復習(45分)
9	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
10	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
11	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
12	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
13	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
14	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
15	担当教員による授業 授業改善アンケートの実施	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
16	後期授業の総括について	後期授業の復習(45分)	全体の復習(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小早川俊哉(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小早川俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

<p>履修目標</p> <p>社会の変化から社会政策(福祉政策)の変化を理解できるようになる。 専門演習 Bの目的は、知的トレーニングを積み重ねていくことにある。それまでの様々な講義から習得した知識を基盤とし、さらにゼミナール担当教員の指導やゼミナール学生とのディスカッションを通して、学生個々の独創性を磨き、独自の研究テーマを設定する視点と、それを論文として形にするための基本スキルとツールの活用法を取得する。さらに「勉学・研究テーマ」を探索する。</p>
<p>授業の位置づけ</p> <p>社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)</p>

<p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の社会システムを把握する。 自らの課題を見つけ、自らが学び考えてIN-PUT-OUT-PUTできる能力を身につける。 卒業テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。 次年度の国家試験を意識して、積極的に学ぶ習慣を身につける。

<p>授業全体の内容と概要</p> <p>大学生として理解すべき社会システム、特に政治経済の基礎、並びに、社会福祉学部の学生として福祉制度変革の背景の理解を主目的に議論中心の授業を展開する「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。</p>
<p>授業の方法</p> <p>教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・プレゼン・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。従って、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。 質問は随時対応し、プレゼンやレポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。 Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、教材配布等を行う。</p>

<p>アクティブラーニングの実施方法</p> <table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

<p>履修上の注意事項</p> <p>前期に履修した「専門演習 A」の教員が継続して担当する。4年次の「専門演習 AB」についても、原則としてこの科目の尚、不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。</p>
--

<p>修学サポート(合理的配慮)</p> <p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。その他、個別案件に対しては要相談。</p>

<p>資格指定科目</p>

評価方法・基準

<p>評価前提条件</p> <p>単位取得の最低条件である11/16回以上の出席をクリアすること。</p>												
<p>評価方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	0%	0%	100%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	0%	0%	100%							

<p>ルーブリック</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4年次における研究テーマの端緒を見つけ、それを研究テーマに昇華できる。</td> <td>自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明でき、且つ、今後のプロセスについて指針を持つことができた。</td> <td>研究テーマの端緒を掴むため、今現在自分が行っている活動(ネット、文献検索等)を説明できた。</td> <td>自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明できた。</td> <td>自分の研究テーマが明確になっており、そこに至ったプロセスを明確に説明できた。</td> <td>左記の内容が何一つできなかった。</td> </tr> <tr> <td>日本の社会システムを理解した。</td> <td>社会政策が必要となる背景を理解して説明できた。</td> <td>社会政策の主体と方法を理解できた。</td> <td>社会政策と経済政策の関連を理解できた。</td> <td>社会政策・経済政策の概要を理解できた。</td> <td>左記の内容が何一つできなかった。</td> </tr> <tr> <td>研究テーマについてのディスカッションを行うことができる。</td> <td>研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができ、尚且つ他者の発表を尊重し、双方向の発表の中で他者の意見をヒントを得て、他者にヒントを与えることができた。</td> <td>研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、他者の発表を尊重することができた。</td> <td>研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができた。</td> <td>自分の研究テーマを明確に発表できた。</td> <td>左記の内容が何一つできなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	4年次における研究テーマの端緒を見つけ、それを研究テーマに昇華できる。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明でき、且つ、今後のプロセスについて指針を持つことができた。	研究テーマの端緒を掴むため、今現在自分が行っている活動(ネット、文献検索等)を説明できた。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明できた。	自分の研究テーマが明確になっており、そこに至ったプロセスを明確に説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。	日本の社会システムを理解した。	社会政策が必要となる背景を理解して説明できた。	社会政策の主体と方法を理解できた。	社会政策と経済政策の関連を理解できた。	社会政策・経済政策の概要を理解できた。	左記の内容が何一つできなかった。	研究テーマについてのディスカッションを行うことができる。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができ、尚且つ他者の発表を尊重し、双方向の発表の中で他者の意見をヒントを得て、他者にヒントを与えることができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、他者の発表を尊重することができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができた。	自分の研究テーマを明確に発表できた。	左記の内容が何一つできなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
4年次における研究テーマの端緒を見つけ、それを研究テーマに昇華できる。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明でき、且つ、今後のプロセスについて指針を持つことができた。	研究テーマの端緒を掴むため、今現在自分が行っている活動(ネット、文献検索等)を説明できた。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明できた。	自分の研究テーマが明確になっており、そこに至ったプロセスを明確に説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。																								
日本の社会システムを理解した。	社会政策が必要となる背景を理解して説明できた。	社会政策の主体と方法を理解できた。	社会政策と経済政策の関連を理解できた。	社会政策・経済政策の概要を理解できた。	左記の内容が何一つできなかった。																								
研究テーマについてのディスカッションを行うことができる。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができ、尚且つ他者の発表を尊重し、双方向の発表の中で他者の意見をヒントを得て、他者にヒントを与えることができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、他者の発表を尊重することができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができた。	自分の研究テーマを明確に発表できた。	左記の内容が何一つできなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小早川俊哉(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小早川俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	自身の目標発表の準備(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業1	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	担当教員による授業2	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	担当教員による授業3	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	担当教員による授業4	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	担当教員による授業5	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	担当教員による授業6	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	担当教員による授業7	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	担当教員による授業8	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	担当教員による授業9	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	担当教員による授業10	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	担当教員による授業11	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	担当教員による授業12	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	担当教員による授業13	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	担当教員による授業14	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階研究室		
単位数	1 (単位認定責任者: 藤根 収)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や教育行政経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育や今日的な教育課題について指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

専門演習担当各教員の専門分野を中心に、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

- ・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
- ・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
- ・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
- ・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
- ・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

特別支援教育や今日的な教育課題等についてテーマを設け、探究、整理、協議、発表を行う。
各自が関心をもつ内容について整理、焦点化などを通して研究の方向付けを行う。
調査研究や文献研究の方法、情報の整理の仕方やまとめ方について、主体的に演習に取り組む。
「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々な授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自習が求められる。
質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教職課程を履修している学生で特別支援教育や教育の今日的な課題に対して、関心をもって主体的に学ぼうとする者を対象とする。
担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に努めること。
大学生として真摯に学ぶ姿勢と自習が求められる。
不測の事態が起きた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇算できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート執筆ができる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階研究室		
単位数	1 (単位認定責任者: 藤根 収)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や教育行政経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育や今日的な教育課題について指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業1 「特別支援学校教育についてのディスカッション」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
3	担当教員による授業2 「後期の演習及び研究についての説明と協議」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
4	担当教員による授業3 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
5	担当教員による授業4 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
6	担当教員による授業5 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
7	担当教員による授業6 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
8	担当教員による授業7 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
9	担当教員による授業8 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
10	担当教員による授業9 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
11	担当教員による授業10 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
12	担当教員による授業11 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
13	担当教員による授業12 「特別支援教育等の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
14	担当教員による授業13 「特別支援教育等の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
15	担当教員による授業14 「特別支援教育等の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
16	総括 専門演習 Bのまとめ(発表)	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期	授業形態	必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)		
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		
オフィスアワー			

概要

履修目標												
授業の位置づけ												
到達目標												
授業全体の内容と概要												
授業の方法												
アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									
履修上の注意事項												

修学サポート(合理的配慮)
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他						
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期	授業形態	必修・選択
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)		
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

子ども・高齢・障害分野に興味関心をもち、文献を調べる方法を理解する。
 積極的に意見を出し合い、周囲とのコミュニケーションを図る。
 主体的に研究テーマを決め、討論などを通して専門的な知識を深める。
 討論、発表を繰り返すことで周囲との意見の違いにも気づき、チームワークの大切さや自分の強みに気付く。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP 1, DP 2, DP 3, DP 4, DP 5に対応する。(2022年度)

到達目標

- 自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
- 個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
- 研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
- 自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

「専門テーマ」「自分発見」に沿った形で資料を活用し、要約の方法などを考察する。
 専門演習 Aから継続する。
 「SDG4: 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義・ゼミナール・実験・制作・見学・調査等様々な授業形態で実施する。
 大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
 質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。
 Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- 専門演習 Aから継続して受講。
- 不測の事態不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
- 吉江ゼミでは、学生の企画立案、実践、事後評価の流れを汲んで積極的参加を求める。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数11回以上とするが全回出席が望ましい。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇算できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてのネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できそこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できそこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート執筆ができる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 吉江 幸子)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 ゼミ内容のガイダンスと今後実践したい内容の意見 収集	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	ゼミ内の役割分担の話し合い	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
3	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
4	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
5	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
6	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
7	発表と討論・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
8	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
9	発表と討論・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
10	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
11	発表と討論・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
12	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
13	発表と討論・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
14	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
15	発表と討論・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
16	総括としての評価・ディスカッション	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標
ソーシャルワークの基礎知識・基礎技術の習得を図り、自身の考えるテーマを深める。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023年度)

到達目標
福祉の現場や働いている専門職役割を知識として学習する。専門職になるために、学ぶ・考える・関わるの基礎を学習する。自ら目標達成のために、計画性・実行性を習得する。コミュニケーション能力などの向上を図る。

授業全体の内容と概要
現場の話を聞き、現場の様子や現状を知り、それをもとにゼミ内でディスカッションをしながら知識を広げる。状況に応じて、現場交流や技術習得を目指すためのボランティア活動への参加。個人だけでなくゼミとして専門職として必要と考えられる知識や経験などを検討し、必要な計画を立て実行する。最終には知り得た知識の中で、何か一つテーマを見つけそのテーマに沿った内容を深く掘り下げる。「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
講義・ゼミナール・実験・制作・見学等様々は授業形態を行う。質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法			
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
20分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件
単位認定に必要な最低出席回数10回以上。

評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇算できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート執筆ができる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 西野 克俊)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	現場見学(福祉サービス事業所) シラバスの説明	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	現場見学(福祉サービス事業所)	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
3	現場見学(精神科診療所)	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
4	現場見学(精神科診療所)	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
5	現場見学(地域活動支援センター)	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
6	現場見学(地域活動支援センター)	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
7	現場見学振り返り(福祉サービス事業所)	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
8	現場見学振り返り(精神科診療所)	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
9	現場見学振り返り(地域活動支援センター)	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
10	卒業論文準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
11	卒業論文準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
12	卒業論文準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
13	卒業論文準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
14	卒業論文準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
15	まとめ	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
16	総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

「専門演習 B」の目的は、知的トレーニングを積み重ねていくことにある。それまでの様々な講義から習得した知識を基盤とし、さらにゼミナール担当教員の指導やゼミナール学生とのディスカッションを通して、学生個々の獨創性を磨き、独自の研究テーマを設定する視点と、それを論文として形にするための基本スキルとツールの活用法を取得する。さらに「勉強・研究テーマ」を探索する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2022年度)

到達目標

- ・自分の課題を見つけ、自らが学び考えて解釈できる能力を身につけることができる。
- ・個々の学生がそれぞれの「勉強テーマ」の糸口をつかむことができる。
- ・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につけることができる。
- ・研究テーマに沿った論文執筆の基本スキルを身につけることができる。
- ・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルが取得できる。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿って進められる。
SDG4「質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。従って、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、教材配布等を行う。基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

前期に履修した「専門演習 A」の教員が継続して担当する。4年次の「専門演習 AB」についても、原則としてこの科目の教員が継続して担当する。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
4年次における研究テーマの端緒を見つけ、それを研究テーマに昇華できる。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明でき、且つ、今後のプロセスについて指針を持つことができた。	研究テーマの端緒を掴むため、今現在自分が行っている活動(ネット、文献検索等)を説明できた。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明できた。	自分の研究テーマが明確になっており、そこに至ったプロセスを明確に説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
論文・レポート執筆のスキルを身につけている。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に付けており、それを起承転結に構成した文章で表すことができた。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に付けており、そのための確立ができた。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に付けることができた。	論文・レポート執筆のための基本スキルを身に付けることができた。	左記の内容が何一つできなかった。
研究テーマについてのディスカッションを行うことができる。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができ、尚且つ他者の発表を尊重し、双方向の発表の中で他者の意見をヒントを得て、他者にヒントを与えることができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、他者の意見を尊重することができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができた。	自分の研究テーマを明確に発表できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	調査活動準備	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	調査活動準備	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	調査活動実施	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	調査活動実施	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	調査活動実施	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	調査活動実施	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	調査活動振り返り	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	調査活動振り返り	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	調査活動振り返り	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	調査活動振り返り	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	調査活動振り返り	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	調査活動まとめ	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	調査活動まとめ	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	調査活動まとめ	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	調査報告会、総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	堀川 厚志(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 堀川 厚志)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育学、特別支援教育、障がいのある子に応じた教育等の専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

特別支援教育、障がいのある子に応じた教育等の専門分野を中心に、教育学、社会福祉学をはじめとする教育科学、社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

自身の関心のあるテーマを探り、研究を方向付けるために必要な文献・資料・データの活用方法を身につける。
 個々の研究テーマを追究するための研究方法に関するノウハウを理解する。
 研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
 自身の研究内容について、プレゼンテーションによる発表するスキルを身につける。
 学友の発表を傾聴し、内容の理解と的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

特別支援教育、障害のある子に応じた教育を中心に、関連する内容や今日的課題について探究、整理、発表、協議を行う。
 各自が関心をもつ内容について整理、焦点化などを通して研究の方向付けを行う。
 調査研究や文献研究の方法、情報の整理の仕方やまとめ方について、主体的に取り組む。
 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

プレゼンテーション資料等によるテーマの焦点化、調査方法、文献研究の方法について説明する。
 プレゼンテーション等の試行により関心事、文献研究・調査研究内容を焦点化し整理し、随時グループワークを実施する。
 プレゼンテーションの発表を通して、調査研究等の報告、情報共有を行う。
 質問には随時対応し、各自の調査・収集・整理した内容については、コメント等によりフィードバックを行う。
 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、所属を決定すること。
 「専門演習 A」を担当した教員が後期の「専門演習 B」を担当する。
 特別支援教育、障害のある子に応じた教育を中心に、教育に関連する内容や今日的な課題について、関心をもつ者とする。
 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。事前相談を受け、学生の希望する修学サポート内容と授業と評価の成立要件等を調整し、修学サポートを実施する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	20%	0%	10%	70%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についての資料を検索し、資料を具体的に提示できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート執筆ができる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	堀川 厚志(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 堀川 厚志)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 教育学、特別支援教育、障がいのある子に応じた教育等の専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明(活動の目的、方法、活動計画等)前期の取組の振り返りと後期の取組方針の確認	所属研究室選択資料の確認(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
2	前期の取組の振り返りと後期の取組方針の確認各自の追究する内容等(概要)の確認	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
3	各自の追究する内容等(概要)の確認調査研究、文献研究等の各自の計画(期間、内容、方法等)の確認	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
4	調査研究、文献研究等の各自の計画の確認及び計画による情報収集と整理 各情報収集内容の全体共有の実施計画説明	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
5	各自の計画に基づく調査研究、文献研究等による情報収集と整理 実施計画に基づく情報収集内容の全体共有1	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
6	各自の計画に基づく調査研究、文献研究等による情報収集と整理 実施計画に基づく情報収集内容の全体共有2	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
7	各自の計画に基づく調査研究、文献研究等による情報収集と整理 実施計画に基づく情報収集内容の全体共有3	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
8	各自の計画に基づく調査研究、文献研究等による情報収集と整理 実施計画に基づく情報収集内容の全体共有4	前期の振り返り(4.5分)	前期の振り返りの確認(4.5分)
9	中間報告資料の作成	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
10	中間報告会(前半の取組内容、振り返りと後半の取組方針)	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
11	前半の取組内容、振り返りと後半の取組方針の確認各自の計画に基づく調査研究、文献研究等による情報収集と整理	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
12	各自の計画に基づく調査研究、文献研究等による情報収集と整理 実施計画に基づく情報収集内容の全体共有5	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
13	各自の計画に基づく調査研究、文献研究等による情報収集と整理 実施計画に基づく情報収集内容の全体共有6	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
14	文献研究、調査研究等による情報収集内容の整理 発表資料の作成	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
15	全体発表会(後期の取組内容、整理した情報内容)振り返りと次年度の取組方針について	全体の振り返り(4.5分)	全体の振り返りと次年度方針の確認(4.5分)
16	全体発表会 後期の取組内容の振り返りの確認 次年度の取組方針の確認	全体の振り返り(4.5分)	全体の振り返りと次年度方針の確認(4.5分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	宮崎 剛司(社会福祉学科・講師)	研究室等所在	1号館2階専任講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 宮崎 剛司)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または各教員の研究室前のボードなどを参照。				

概要

履修目標
卒業論文執筆を通じて、社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル(問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等)を身に付ける。また、ゼミナールごとにキャリア支援教育が組まれており、身に着けたスキルを将来に生かす方法を探求する。
授業の位置づけ
社会福祉学部のDP1, DP2, DP3, DP4, DP5に対応する。(2022年度)

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上、論文作成など、一連の方法を身に付けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できるようにする。 各自の関心に基づき社会福祉関連の研究テーマを見つけられることができる。 関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。 研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。

授業全体の内容と概要
それぞれのゼミナール担当教員が学生に提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。 「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
<ul style="list-style-type: none"> 各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。資料等の提示については、板書、資料配布、プレゼンテーションソフトウェア等により行われる。課題等に関するフィードバックはコメントにてフィードバックされる。 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。 「基本は対面授業の実施」であるが、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
<ul style="list-style-type: none"> 各担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に務めること。 大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。 後期の「専門演習 B」も、この演習の担当教員が継続して担当する。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数11回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	0%	0%	100%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	0%	0%	100%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>卒業論文執筆のテーマが明確になっている。</td> <td>卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマに至るまでの文献・ネット検索のプロセスを説明できる。</td> <td>卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の執筆予定を説明できる。</td> <td>卒業論文執筆のテーマに沿って単立ができ、執筆を開始している。</td> <td>卒業論文執筆のテーマが明確になっている。</td> <td>左記の内容が何一つできていない。</td> </tr> <tr> <td>研究テーマに関するディスカッションができる。</td> <td>ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。</td> <td>ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。</td> <td>ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望を報告できる。</td> <td>ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。</td> <td>左記の内容が何一つできていない。</td> </tr> <tr> <td>自分の研究テーマについてプレゼンテーションができる。</td> <td>自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。</td> <td>自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。</td> <td>自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる。</td> <td>自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。</td> <td>左記の内容が何一つできていない。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	卒業論文執筆のテーマが明確になっている。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマに至るまでの文献・ネット検索のプロセスを説明できる。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の執筆予定を説明できる。	卒業論文執筆のテーマに沿って単立ができ、執筆を開始している。	卒業論文執筆のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。	研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。	自分の研究テーマについてプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる。	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。	左記の内容が何一つできていない。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
卒業論文執筆のテーマが明確になっている。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマに至るまでの文献・ネット検索のプロセスを説明できる。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の執筆予定を説明できる。	卒業論文執筆のテーマに沿って単立ができ、執筆を開始している。	卒業論文執筆のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。																								
研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。																								
自分の研究テーマについてプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる。	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。	左記の内容が何一つできていない。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	宮崎 剛司(社会福祉学科・講師)	研究室等所在	1号館2階専任講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 宮崎 剛司)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	担当教員によるガイダンス(シラバスの説明を含む)	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業2	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	担当教員による授業3	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	担当教員による授業1	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	担当教員による授業4	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	担当教員による授業5	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	担当教員による授業6	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	担当教員による授業7	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	担当教員による授業8	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	担当教員による授業9	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	担当教員による授業10	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	担当教員による授業11	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	担当教員による授業12	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	担当教員による授業13	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	担当教員による授業14	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	社会福祉学科・教授		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 松下 守邦)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。Teamsチーム(演習科目)には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標	卒論準備(アカデミック・シンキング)の基礎理解をおこなう。
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2022年度)

到達目標	卒論執筆準備のため、学術レポート作成の基礎を理解する。学術作法にもとづいて、社会科学の疑問をあきらかにする方法を習得する。
------	---

授業全体の内容と概要	<ul style="list-style-type: none"> 専門ゼミ初年度の1年間を通して、アカデミック・シンキングを学修する。 SDG4「質の高い教育をみんなに」の関連科目。 次の から について段階的理解をすすめる。 <ul style="list-style-type: none"> 学術論文のスタイルを確認する (書く作業のなかで思考を深める、先行研究理解、引用など、学術研究ルールを学ぶ) 大学教員や研究者が執筆した学術論文を自分の関心にあわせて図書館レファレンスサービスを見つけ取る。 学術論文、文献を読み、要旨をまとめる。 社会的現象について、複数文献を精読し、視点、考察方法の違い等を報告する。 学術論文、文献の読解作業をふまえ、先行研究の批評的思考をおこなう。 (定義を確認する、比較する、相違点や類似点を見つける)
------------	--

授業の方法	社会福祉学科Teams「2024年度 専門演習 履修方法」(2024年1月開示)には、「専門ゼミテーマ、内容一覧」(PDF)がある。アカデミック・シンキングのための文献精読は、ゼミメンバー確定後、演習にて道書、決定する。
-------	--

アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										

履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。 授業科目Teamsを利用する。履修学生はチームメンバーになり、以下のコースパケット利用が可能になる。 コースパケットは、履修学生に必要と思われる教材資料をまとめたものである。準備学習に必要な教材(論文コピー、報告書など)課題(練習問題、レポートの指示と執筆のための参考資料)授業のなかでは扱いきれなかった、関連文献、補足情報授業者への相談質問のための案内
----------	---

修学サポート(合理的配慮)	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。高校教育までにつけた支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら、科目サポートを進める。
---------------	---

資格指定科目	
--------	--

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数10回以上をクリアすること。これは、必要とされる量の基準であるけれども、十分条件ではない。学修は最後まで継続しベストを尽くすことを期待する。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	0%	70%	0%	0%	30%

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心のある主題について、信頼性のある情報を整理し、論点を抽出する。	信頼性の高い情報を網羅して調べ、多様な見解を整理している。専攻とそれに関連する領域の先行研究をふまえ、問題背景を的確に説明した。	信頼性を保ちながら情報を調べ、見解を適切に整理している。専攻領域の代表的な先行研究をふまえ、問題背景を説明した。	信頼性のある情報を調べ、いくつかの見解を整理している。自らの専攻についていくつかの先行研究を確認し、問題背景を設定した。	インターネット情報の信頼性を理解して文献収集してまとめる。大学の資料を収集するが、自らの専攻と先行研究に関する絞込みは十分ではなかった。	インターネット情報の信頼性の理解が十分ではない。Wikipediaなど、「いきなり検索」の情報収集にとどまった。
学術論文スタイルを理解し、学術レポートを作成する。	主題、内容、方法はキーワード、学術概念による適切な筋立の構成である。学術論文の引用が明確に示した。	キーワード、学術概念をもとにして適切な論点を見出している。引用形式は適切であり、その解釈は文脈をふまえた。	キーワード、学術概念を用いており、論理的説明の裏本はおこなわれている。文献リストの作成、本文の注釈、引用形式は適切であった。	学術概念に利用、引用、参考文献リストの作成が試みられているが、本文と文献の照合は十分ではなく、改善の余地があった。	文章は個人的経験、感想もとづく「素朴理論」であるが、参考文献のリストが示されなかった。
ゼミメンバーとして、学術環境を創造していく役割を自覚し、自分と異なる意見を統合させて、学修経験を高めていこうとする、関心・意欲・態度	ゼミメンバーとして、役割と責任を自覚して、積極的・協同的に行動することができた。	ゼミメンバーとしての役割は、おおむね理解しており、他のメンバーに配慮する行動をおこなうことができた。	ゼミメンバーとしての役割は、基本的な行動についておこなうことができた。	ゼミメンバーとして自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	ゼミメンバーとして自分の役割を理解すること、主体的な行動はできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	社会福祉学科・教授		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 松下 守邦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						テキストは初回ゼミにて相談決定する。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』	井下千以子	慶応義塾大学出版会	2019		
2	『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド』	佐渡島沙織ほか	大修館	2015		
3	『コピペと言われないレポートの書き方教室』	山口裕之	新曜社	2013		
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、演習ガイダンス	シラバス、科目Teamsの確認(45分)	スケジュールと準備学習の整理(45分)
2	アカデミック・シンキング基礎1(学術文献の種類)	テキストの読解(45分)	テキスト、ノートの整理(45分)
3	アカデミック・シンキング基礎2(調べ学習、自由研究、学術研究)	テキストの読解(45分)	テキスト、ノートの整理(45分)
4	アカデミック・シンキング基礎3(研究不正;捏造、剽窃、ほう助、自己剽窃)	テキストの読解(45分)	テキスト、ノートの整理(45分)
5	アカデミック・シンキング基礎4(学術倫理;ハラスメント、研究協力者への配慮)	テキストの読解(45分)	テキスト、ノートの整理(45分)
6	アカデミック・シンキング基礎5	テキストの読解(45分)	テキスト、ノートの整理(45分)
7	アカデミック・シンキング基礎6	テキストの読解(45分)	テキスト、ノートの整理(45分)
8	アカデミック・シンキング基礎7	テキストの読解(45分)	テキスト、ノートの整理(45分)
9	アカデミック・シンキング基礎8	テキストの読解(45分)	テキスト、ノートの整理(45分)
10	文献講読1(文献の選書、報告割当、レジュメ作成、準備学習)	資料の読解(45分)	資料注解の整理(45分)
11	文献講読2(分担報告)	資料の読解(45分)	資料注解の整理(45分)
12	文献講読3(分担報告)	資料の読解(45分)	資料注解の整理(45分)
13	文献講読4(分担報告)	資料の読解(45分)	資料注解の整理(45分)
14	文献講読4(分担報告)	資料の読解(45分)	資料注解の整理(45分)
15	文献講読5(分担報告)	資料の読解(45分)	資料注解の整理(45分)
16	まとめ	資料の読解(45分)	次年度への課題設定(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	蝦名 美穂(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 蝦名 美穂)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、教育領域、福祉領域、司法・矯正領域、産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前連絡後に調整をし、研究室で対応。				

概要

履修目標

「専門演習 B」の目的は、知的トレーニングを積み重ねていくことにある。それまでの様々な講義から習得した知識を基礎とし、さらにゼミナル担当教員の指導やゼミナル学生とのディスカッションを通して、学生個々の獨創性を磨き、独自の研究テーマを設定する視点とそれを論文として形にするための基本スキルとツールの活用法を取得する。さらび「勉学・研究テーマ」を探究する。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP 1, DP 2, DP 3, DP 4, DP 5に対応する科目(2022年度)。

到達目標

- 自分の課題をみつけ、自らが学び考えて解釈できる能力を身につけることができる。
- 個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかむことができる。
- 上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につけることができる。
- 研究テーマに沿った論文執筆の基本的スキルを身につけることができる。
- 自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルが取得できる。

授業全体の内容と概要

専門演習 Aで学習した内容を発展させる形で、身近にある「居場所」について調べる。いくつかの「居場所」に実際に赴き、現状を知る。その結果をまとめ、発表をする。それらの学びから卒論のテーマへつなげる。

「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義・ゼミナル・見学・調査・発表等さまざまな形態が取られる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

前期に履修した「専門演習 A」の教員が継続して担当する。4年次の「専門演習 AB」についても原則としてこの科目の教員が継続して担当する。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数11回以上。

評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
4年次における研究テーマの端緒を見つけ、それを研究テーマに昇華できる。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスをネット資料、参考文献を提示しながら説明でき、且つ今後のプロセスについて指針を持つことができる。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスをネット資料、参考文献を提示しながら説明できる。	自分の研究テーマの端緒を掴むため、今現在自分が行っている活動(ネット、文献検索等)を説明できた。	自分の研究テーマが明確になっており、そこに至ったプロセスを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできなかった。
論文・レポート執筆のスキルを身につけている。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身につけており、それを起承転結に構成した文章で表すことができた。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身につけており、それを草立てできた。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身につけることができた。	論文・レポート執筆のための基本スキルを身につけることができた。	左記の内容が何一つできなかった。
研究テーマについてディスカッションを行うことができる。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができ、且つ他者の発表を尊重し、双方向の発表の中で他者の意見からヒントを得、他者にもヒントを与えることができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表できた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重することができた。	自分の研究テーマを明確に発表できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	蝦名 美穂(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 蝦名 美穂)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、教育領域、福祉領域、司法・矯正領域、産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明	所属研究室選択資料の確認(45分)	授業振り返り課題(45分)
2	身近な「居場所」のピックアップ,見学の準備	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	身近な「居場所」のピックアップ,見学の準備	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	身近な「居場所」のピックアップ,見学の準備	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	身近な「居場所」のピックアップ,見学の準備	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	身近な「居場所」のピックアップ,見学の準備	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	見学	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	見学	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	見学	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	見学	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	見学の結果をまとめる	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	見学の結果をまとめる	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	見学の結果を発表する	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	卒論テーマの絞り込み	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	卒論テーマの絞り込み	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	星野 秀治(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 星野 秀治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	地域若者サポートステーションなどでの実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

「専門演習 B」の目的は、知的トレーニングを積み重ねていくことにある。それまでの様々な講義から習得した知識を基盤とし、さらにゼミナール担当教員の指導やゼミナール学生とのディスカッションを通して、学生個々の獨創性を磨き、独自の研究テーマを設定する視点と、それを論文として形にするための基本スキルとツールの活用法を取得する。さらに「勉学・研究テーマ」を探求する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

- ・自分の課題を見つけ、自らが学び考えて解釈できる能力を身につけることができる。
- ・個々の学生が、それぞれの「勉学テーマ」の糸口をつかむことができる。
- ・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につけることができる。
- ・研究テーマに沿った論文執筆の基本的スキルを身につけることができる。
- ・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルが取得できる。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿って進められる。
S D G s 4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。従って、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。質問は随時対応し、Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

前期に履修した「専門演習 A」の教員が継続して担当する。4年次の「専門演習 AB」についても、原則としてこの科目の教員が継続して担当する。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得の最低条件である10回以上の出席をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
4年次における研究テーマの端緒を見つけ、それを研究テーマに昇華できる。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明でき、且つ、今後のプロセスについて指針を持つことができた。	研究テーマの端緒を掴むため、今現在自分が行っている活動(ネット、文献検索等)を説明できた。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明できた。	自分の研究テーマが明確になっており、そこに至ったプロセスを明確に説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
論文・レポート執筆のスキルを身につけている。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に付けており、それを起承転結に構成した文章で表すことができた。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に付けており、そのための確立ができた。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に付けることができた。	論文・レポート執筆のための基本スキルを身に付けることができた。	左記の内容が何一つできなかった
研究テーマについてのディスカッションを行うことができる。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができ、尚且つ他者の発表を尊重し、双方向の発表の中で他者の意見をヒントを得て、他者にヒントを与えることができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、他者の家Kンを尊重することができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができた。	自分の研究テーマを明確に発表できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	星野 秀治(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 星野 秀治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 地域若者サポートステーションなどでの実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業1	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	担当教員による授業2	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	担当教員による授業3	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	担当教員による授業4	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	担当教員による授業5	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	担当教員による授業6	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	担当教員による授業7	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	担当教員による授業8	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	担当教員による授業9	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	担当教員による授業10	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	担当教員による授業11	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	担当教員による授業12	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	担当教員による授業13	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	担当教員による授業14	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義・演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 上原 正希)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえて講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

専門演習 A・Bの授業の目的は「卒業論文のテーマを見つける」ことである。卒業論文のテーマを見つけるためには、いろいろな視点から物事を考え、広い視野を持つ必要がある。様々な学問分野や福祉・保育・教育などの社会福祉学科で学んできた領域にふれたり、ボランティアや実習の経験など、多くのことに興味、関心を抱くことが大切で、その中から自分の興味の対象を徐々に絞り込んでいき、最終的に卒業論文のテーマを決め、卒業論文に取り組むことができる。よって、専門演習 A・専門演習 Bは、その過程を生み出す学習である。

授業の位置づけ

社会福祉学部 DP 1, DP 2, DP 3, DP 4, DP 5 に対応する。(2022年度)

到達目標

卒業論文は、大学での学業生活の総決算とも言えるものであるとともに、自らの主体性によって学問の世界に踏み込み、本格的に研究し、自分自身の成果を創造することが到達目標である。専門演習 Aで基礎を築き、そこから進歩するのが専門演習 Bの目標である。

授業全体の内容と概要

1. 卒業論文のテーマを見つける。
2. 卒業論文のテーマを見つけるために、様々な学問分野や福祉・保育・教育などの社会福祉学科で学んできた領域にふれる。
3. 卒業論文のテーマを見つけるために、ボランティア体験などを行う。
4. 卒業論文のテーマを確定させる。
5. 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。
6. 専門演習 Aで基礎を築き、そこから進歩するのが専門演習 Bである。

授業の方法

1. 授業形態は講義やグループワークやディスカッション、地域へ出向き活動を行う。
2. 適宜、質疑応答を交える。
3. 自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。
4. 地域の福祉・保育・教育の活動をしている実践家やボランティア団体のお話を聞く授業等もある。
5. 大学のバーバル化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

1. 3年生後期を担当することから、4年生の専門演習 A、Bおよび卒業論文を担当することとなる。
2. 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。
3. 必要な資料等は適宜配布する。
4. 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
5. ソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得の最低条件である10回以上の出席をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
4年次における研究テーマの端緒を見つけ、それを研究テーマに昇華できる。専門演習 Aで基礎を築き、そこから少しでも進歩するのが専門演習 Bである。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明でき、且つ、今後のプロセスについて指針を持つことができた。	研究テーマの端緒を掴むため、今現在自分が行っている活動(ネット、文献検索等)を説明できた。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明できた。	自分の研究テーマが明確になったっており、そこに至ったプロセスを明確に説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
論文・レポート執筆のスキルを身につけている。専門演習 Aで基礎を築き、そこから少しでも進歩するのが専門演習 Bである。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に付けており、それを起承転結に構成した文章で表すことができた。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に付けており、そのための確立することができた。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に付けており、そのための確立することができた。	論文・レポート執筆のための基本スキルを身に付けることができた。	左記の内容が何一つできなかった
研究テーマについてのディスカッションを行うことができる。専門演習 Aで基礎を築き、そこから少しでも進歩するのが専門演習 Bである。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができ、尚且つ他者の発表を尊重し、双方向の発表の中で他者の意見をヒントを得て、他者にヒントを与えることができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、他者の家コンを尊重することができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができた。	自分の研究テーマを明確に発表できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義・演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 上原 正希)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえて講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『別途指示します』					
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『別途指示します』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業及び地域活動1 専門演習 Aから進歩した専門演習 Bの学び	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	担当教員による授業及び地域活動2 専門演習 Aから進歩した専門演習 Bの学び	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	担当教員による授業及び地域活動3 専門演習 Aから進歩した専門演習 Bの学び	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	担当教員による授業及び地域活動4 専門演習 Aから進歩した専門演習 Bの学び	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	担当教員による授業及び地域活動5 専門演習 Aから進歩した専門演習 Bの学び	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	担当教員による授業及び地域活動6 専門演習 Aから進歩した専門演習 Bの学び	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	担当教員による授業及び地域活動7 専門演習 Aから進歩した専門演習 Bの学び	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	担当教員による授業及び地域活動8 専門演習 Aから進歩した専門演習 Bの学び	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	担当教員による授業及び地域活動9 専門演習 Aから進歩した専門演習 Bの学び	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	担当教員による授業及び地域活動10 専門演習 Aから進歩した専門演習 Bの学び	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	担当教員による授業及び地域活動11 専門演習 Aから進歩した専門演習 Bの学び	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	担当教員による授業及び地域活動12 専門演習 Aから進歩した専門演習 Bの学び	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	担当教員による授業13 専門演習 Aから進歩した専門演習 Bの学び	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	担当教員による授業及び地域活動14 専門演習 Aから進歩した専門演習 Bの学び	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	総括 専門演習 Aから進歩した専門演習 Bの学びと専門演習 Aと専門演習 Bへの展開	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築設計演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	日野 桂子(建築学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 日野 桂子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所を開設して20年、1軒1軒こだわりを持って設計、監理をしています。その実務の経験から建築設計の手法を伝える。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標
設計とは様々な事を考えること。四季の環境を捉え、敷地と建物の関係をよく把握し、建主の要望をくみ取るなど、一軒の建物を設計するのに沢山の思慮がある事を感じながら作図する。バランスが取れ、デザインの良い、魅力ある空間の建築を設計する。任意的設計を行い、配置計画、外部環境と建築との関わり合い、生活動線を考慮することで、豊かな建築空間を計画する。空間のスケールを体感しながら、建築を設計する事を身につける。さらに講評会に向けてプレゼンテーション能力を高める。
授業の位置づけ
建築学科のDP 1、DP 3、DP 4に対応する。(2024年度) 建築学科のDP 1、DP 2に対応する。(2023・2022年度) 建築学科のDP 2、DP 5、DP 7に対応する。(2021年度)

到達目標
2軒の住宅について、魅力ある空間、建築を設計し、そのプランニングの意図を正しく明確に図面に描くことができる。

授業全体の内容と概要
実際の住宅建築の画像等を紹介、住宅の特徴、コンセプト等を伝え、設計に生かす。 毎回エスキスチェック、作図チェックを行う。 エスキスからプランニング、配置図、平面図、立面図、断面図、面積表で2次元の図面作成と3Dパースまたは模型等で設計意図を表現し、A2用紙にまとめ完成させる。
授業の方法
設計のポイントを伝え、エスキスチェック、作図チェックを行う(調査学習含む)。 2つの講評会を行い、学生と教員とで意見交換をする。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
筆記用具、製図道具、巻尺は必ず携帯すること。課題制作のためには、製図版、製図道具を使って手描きで作図、または、コンピューターによるCADソフトで作図、(手描き、画像、CAD図のコラージュ、3Dまたは模型)。 設計課題を製作中は集中して作業に取り組む。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
「建築士試験受験資格科目」必修科目、教職課程(工業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
「単位に認定必要となる最低出席回数は、11回以上」 必ず巻尺を持参。設計する建物のサイズを実測して計画する。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>80%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	80%	0%	0%	20%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	80%	0%	0%	20%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>作図内容</td> <td>A2用紙に美しくバランスの取れた配置ができ、建物の名前、コンセプト文、配置図、平面図、立面図、断面図、3dまたは模型の画像が描かれ、完成図面としての必要事項を描くことができた。</td> <td>A2用紙にバランスの取れた配置ができ、建物の名前、コンセプト文、配置図、平面図、立面図、断面図、3dまたは模型の画像が描かれ、完成図面としての必要事項を描くことができた。</td> <td>A2用紙に建物の名前、コンセプト文、配置図、平面図、立面図、断面図、3dまたは模型の画像、完成図面としての必要事項が描くことができた。</td> <td>A2用紙に建物の名前、コンセプト文、配置図、平面図、配置図、立面図、断面図、完成図面としての必要事項が描くことができた。</td> <td>作図が完成できなかった。</td> </tr> <tr> <td>設計デザイン力</td> <td>その土地、季節、人物を理解した空間構成が優れた意図的にデザインされたプラン。</td> <td>その土地、季節、人物を理解して空間構成が出来たプランができた。</td> <td>プラン計画ができた。</td> <td>基本的なプラン計画ができた。</td> <td>基本的なプラン計画ができた。</td> </tr> <tr> <td>作業体制</td> <td>巻尺を使って様々な事を検討しながら、集中してエスキスどおりに作図することができた。</td> <td>様々な事を検討しながら、集中してエスキスどおりに作図することができた。</td> <td>集中してエスキスどおりに作図することができた。</td> <td>ほぼエスキスどおりに作図することができた。</td> <td>エスキスどおりに作図できなかった。</td> </tr> <tr> <td>講評会の発表</td> <td>建物の意図をわかりやすくまとめて、コンセプトや魅力を時間内に伝え、他の発表者の内容をよく聞き、時には質問をすることができた。</td> <td>建物の意図をわかりやすくまとめて、コンセプトや魅力を時間内に伝え、他の発表者の内容をよく聞くことができた。</td> <td>発表を期日どおりに行うことができた。</td> <td>期日に遅れても発表を行うことができた。</td> <td>発表を行うことができなかった。</td> </tr> <tr> <td>プレゼン力</td> <td>1軒の建築に時間を充分にかけて思考し、美しく、魅力ある図面を作成しバランスのとれたプレゼンテーション図を作成。作図のチェック項目をすべて描いた。</td> <td>1軒の建築に時間をかけて思考し、美しく、魅力ある図面を作成しバランスのとれたプレゼンテーション図を作成。作図のチェック項目をすべて描いた。</td> <td>1軒の建築に時間をかけて思考し、作図のチェック項目をすべて描いた。</td> <td>作図のチェック項目をすべて描いた。</td> <td>作図を提出しなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	作図内容	A2用紙に美しくバランスの取れた配置ができ、建物の名前、コンセプト文、配置図、平面図、立面図、断面図、3dまたは模型の画像が描かれ、完成図面としての必要事項を描くことができた。	A2用紙にバランスの取れた配置ができ、建物の名前、コンセプト文、配置図、平面図、立面図、断面図、3dまたは模型の画像が描かれ、完成図面としての必要事項を描くことができた。	A2用紙に建物の名前、コンセプト文、配置図、平面図、立面図、断面図、3dまたは模型の画像、完成図面としての必要事項が描くことができた。	A2用紙に建物の名前、コンセプト文、配置図、平面図、配置図、立面図、断面図、完成図面としての必要事項が描くことができた。	作図が完成できなかった。	設計デザイン力	その土地、季節、人物を理解した空間構成が優れた意図的にデザインされたプラン。	その土地、季節、人物を理解して空間構成が出来たプランができた。	プラン計画ができた。	基本的なプラン計画ができた。	基本的なプラン計画ができた。	作業体制	巻尺を使って様々な事を検討しながら、集中してエスキスどおりに作図することができた。	様々な事を検討しながら、集中してエスキスどおりに作図することができた。	集中してエスキスどおりに作図することができた。	ほぼエスキスどおりに作図することができた。	エスキスどおりに作図できなかった。	講評会の発表	建物の意図をわかりやすくまとめて、コンセプトや魅力を時間内に伝え、他の発表者の内容をよく聞き、時には質問をすることができた。	建物の意図をわかりやすくまとめて、コンセプトや魅力を時間内に伝え、他の発表者の内容をよく聞くことができた。	発表を期日どおりに行うことができた。	期日に遅れても発表を行うことができた。	発表を行うことができなかった。	プレゼン力	1軒の建築に時間を充分にかけて思考し、美しく、魅力ある図面を作成しバランスのとれたプレゼンテーション図を作成。作図のチェック項目をすべて描いた。	1軒の建築に時間をかけて思考し、美しく、魅力ある図面を作成しバランスのとれたプレゼンテーション図を作成。作図のチェック項目をすべて描いた。	1軒の建築に時間をかけて思考し、作図のチェック項目をすべて描いた。	作図のチェック項目をすべて描いた。	作図を提出しなかった。
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
作図内容	A2用紙に美しくバランスの取れた配置ができ、建物の名前、コンセプト文、配置図、平面図、立面図、断面図、3dまたは模型の画像が描かれ、完成図面としての必要事項を描くことができた。	A2用紙にバランスの取れた配置ができ、建物の名前、コンセプト文、配置図、平面図、立面図、断面図、3dまたは模型の画像が描かれ、完成図面としての必要事項を描くことができた。	A2用紙に建物の名前、コンセプト文、配置図、平面図、立面図、断面図、3dまたは模型の画像、完成図面としての必要事項が描くことができた。	A2用紙に建物の名前、コンセプト文、配置図、平面図、配置図、立面図、断面図、完成図面としての必要事項が描くことができた。	作図が完成できなかった。																																				
設計デザイン力	その土地、季節、人物を理解した空間構成が優れた意図的にデザインされたプラン。	その土地、季節、人物を理解して空間構成が出来たプランができた。	プラン計画ができた。	基本的なプラン計画ができた。	基本的なプラン計画ができた。																																				
作業体制	巻尺を使って様々な事を検討しながら、集中してエスキスどおりに作図することができた。	様々な事を検討しながら、集中してエスキスどおりに作図することができた。	集中してエスキスどおりに作図することができた。	ほぼエスキスどおりに作図することができた。	エスキスどおりに作図できなかった。																																				
講評会の発表	建物の意図をわかりやすくまとめて、コンセプトや魅力を時間内に伝え、他の発表者の内容をよく聞き、時には質問をすることができた。	建物の意図をわかりやすくまとめて、コンセプトや魅力を時間内に伝え、他の発表者の内容をよく聞くことができた。	発表を期日どおりに行うことができた。	期日に遅れても発表を行うことができた。	発表を行うことができなかった。																																				
プレゼン力	1軒の建築に時間を充分にかけて思考し、美しく、魅力ある図面を作成しバランスのとれたプレゼンテーション図を作成。作図のチェック項目をすべて描いた。	1軒の建築に時間をかけて思考し、美しく、魅力ある図面を作成しバランスのとれたプレゼンテーション図を作成。作図のチェック項目をすべて描いた。	1軒の建築に時間をかけて思考し、作図のチェック項目をすべて描いた。	作図のチェック項目をすべて描いた。	作図を提出しなかった。																																				

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築設計演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	日野 桂子(建築学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 日野 桂子)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所を開設して20年、1軒1軒こだわりを持って設計、監理をしています。その実務の経験から建築設計の手法を伝える。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜指示』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜指示』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明 授業の進め方と課題提出までのスケジュール。実務 住宅建築1 自分が設計に取り入れたい建築物のレ ポート提出。設計課題。大学生の自分の家 配置 計画、ゾーニング、エスキスチェック	シラバスを読んでおくこと(45分)	レポート作成(45分)
2	住宅建築2 設計課題。大学生の自分の家 配置図 、平面図、立面図、断面図 エスキスチェック	与えられた課題の構想を考えること(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
3	住宅建築3 設計課題。大学生の自分の家 配置図 、平面図、立面図、断面図、作図チェック	与えられた課題の構想を考えること(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
4	住宅建築4 設計課題。大学生の自分の家 配置図 、平面図、立面図、断面図、作図チェック	与えられた課題の構想を考えること(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
5	住宅建築5 設計課題。大学生の自分の家 配置図 、平面図、立面図、断面図、3d、模型 チェック	与えられた課題の構想を考えること(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
6	住宅建築6 設計課題。大学生の自分の家 配置図 、平面図、立面図、断面図、3d、模型 チェック	与えられた課題の構想を考えること(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
7	住宅建築7 課題提出 講評会	講評会の発表へ向けて準備をしておくこと(45分)	レポート作成(45分)
8	住宅建築8 設計課題。自分が設計に取り入れたい 建築物のレポート提出。家族の家 配置計画、ゾ ーニング エスキスチェック	レポート作成(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
9	住宅建築9 設計課題。家族の家 配置計画、ゾ ーニング エスキスチェック	与えられた課題の構想を考えること(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
10	住宅建築10 設計課題。家族の家 配置図、平面図 、立面図、断面図、作図チェック	与えられた課題の構想を考えること(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
11	住宅建築11 設計課題。家族の家 配置図、平面図 、立面図、断面図、作図チェック	与えられた課題の構想を考えること(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
12	住宅建築12 設計課題。家族の家 配置図、平面図 、立面図、断面図、3d、模型チェック	与えられた課題の構想を考えること(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
13	住宅建築13 設計課題。家族の家 配置図、平面図 、立面図、断面図、3d、模型チェック	与えられた課題の構想を考えること(45分)	与えられた課題に取り組むこと(45分)
14	住宅建築14 課題提出 講評会	講評会の発表へ向けて準備をしておくこと(45分)	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと(45分)
15	授業改善アンケートの実施 最終回において課題提出物に対して評価フィード バック。	教員のフィードバックに対する準備をしておくこと(45分)	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授) 君 興 治(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館3階	2号館4階	
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築は、図面や模型に表現されたものによってその内容を理解してもらえ、そのためには、考え出された建築をどのように表現するかということがとても重要となる。したがって空間表現や建築図面表現に必要な立体系の基礎的能力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDFP3, DP4, DP5に対応する。(2024年度)
 建築学科のDP1, DP2に対応する。(2023・2022年度)
 建築学科のDP2, DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

立体系の建築表現に必要な道具の基本的使い方を習得する。また時間内に課題を製作するための時間配分、期限内に課題を提出するという自己管理及び基本姿勢を身に付けることができる。

授業全体の内容と概要

基礎的練習課題とその作品の講評会を2週ごとこなす。前半はキーワードをもとに発想した空間の立体表現、後半では建築模型の基礎的課題に取り組む。課題製作は、原則として授業時間内におこない即日提出とする。やむを得ず授業時間内に完成させられなかった場合は、次週授業開始時まで完成し提出する。

授業の方法

シリーズごとに課題の目的・到達目標等について説明をし、課題制作に取り組む。課題のシリーズ終了ごとに講評会を開催し、各自作品のプレゼンテーションをおこない、その後指導教員が講評・評価をおこなう。基本的に授業は対面で実施するが、不測の事態が起きた際に、授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する可能性がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

実技科目であるため、全授業に出席し期限内に課題を製作し提出すること。また作品講評会に出席し自分の作品の解説(プレゼンテーション)することも評価する。原則授業にはすべて出席し、授業時間内に課題制作をおこなうこと。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席する(ただし最低出席回数10回以上)こととし、積極的に課題に取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	85%	0%	15%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
立体系の建築表現に必要な道具の基本的使い方を習得する。	基本的道具の使い方をもちにより高い技術を習得することができた。	基本的道具の使い方をもちにより高い技術を習得するための練習に取り組むことができた。	基本的道具の使い方を習得することができた。	基本的道具の使い方をとおむね習得することができた。	基本的道具の準備・管理ができず、使い方を習得することができなかった。
期限内に課題を制作し提出するというスケジュール管理及び基本姿勢を修得する。	すべての課題を期限内に余裕をもって作成完成することができた。	すべての課題を期限内に作成完成することができた。	課題提出のためのスケジュール管理ができた。	課題提出のためのスケジュール管理がおおむねできた。	スケジュール管理ができなかった。
立体系の建築空間の発想・構想力を作品としてかたち表現すること、そのための表現する技術を修得する。	配布資料のみならず他の資料も参考に建築空間を構想し表現することができた。	配布資料を参考に建築空間を構想し表現することができた。	建築空間を構想し表現することができた。	建築空間を構想することがおおむねでき表現もできた。	建築空間を構想することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授) 君 興 治(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館3階 2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明, 授業改善アンケート結果反映の説明, 授業計画の説明	シラバスの事前確認(45分)	授業内容の確認(45分)
2	使用する道具と材料・使い方の説明	授業資料の確認(45分)	使用道具の確認(45分)
3	立体構成1(壁)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
4	立体構成2(床)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
5	講評会(壁・床)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
6	立体構成3(タワー)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
7	立体構成4(スカイハウス)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
8	講評会(タワー・スカイハウス)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
9	立体構成5(サイコロの製作)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
10	立体構成6(建築模型の製作1) 建築模型とは	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
11	立体構成6(建築模型の製作2) 建築模型の作り方	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
12	講評会(建築模型)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
13	プレゼンテーション(建築模型の写真撮影)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
14	プレゼンテーション(プレゼンテーションパネルの製作)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
15	講評会(プレゼンテーションパネル)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
16	総評(全作品の講評) 授業改善アンケートの実施	提出作品の最終確認(45分)	総評の振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

マンガ、アニメを中心としたポピュラーカルチャーに関する様々な現象、表現、歴史を考えることを通じて、大学での学修に必要な基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習によって学ぶ。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)
 デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2022・2023年度)
 デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP8に対応する。(2021年度)

到達目標

マンガを中心とする表現の特性、産業としての側面や、専門用語などの知識を身に付け理解する。
 文献や資料を考察するための基礎能力を身につける。
 ディスカッションや発表などを通して、大学で学ぶための基礎的な学力(プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など)を身につける。
 表現・文化についての興味や関心、批判的思考を養う。

授業全体の内容と概要

マンガを中心としたトピックについての講義やグループワーク、ディスカッションを行い、語文化や社会について多様な視点から考える力を養いながら、文献調査の方法や発表資料の作り方などを学ぶ。後半では、各自でマンガについて調査分析を行い、発表・ディスカッションを行う。
 『SDGs16・平和と公正をすべての人に』の関連科目。

授業の方法

授業ではパワーポイントや配布資料のほか、DVDなどの視聴覚メディアなどを用い、講義形式だけでなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションなどを行う。
 授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収のほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。
 不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

自ら行う資料調査では、図書館などの機関を積極的に利用すること、個人発表では、自ら行った調査について短い時間でプレゼンテーションを行う。授業内でグループワークやディスカッションなどを行うので、積極的に参加すること。
 授業の内容は、集まった参加者の興味・関心等に合わせ適宜変更する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	30%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力(プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力)	授業で学んだことを超えて、自分の視点について他者に伝わりやすく述べ、他者と積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の視点について述べて、積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の意見を述べることができた。	促されれば自分の意見や考えを述べることができた。	授業内で自分の意見を述べられなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 オリエンテーション	シラバスを読んでおく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
2	産業としてのマンガ(1) 雑誌文化と新しいビジネスモデル	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
3	産業としてのマンガ(2) マンガ制作と流通 マンガ家の位置づけ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
4	「マンガ家」という仕事(1) 制作方法の特殊性(他メディアと比較して)	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
5	「マンガ家」という仕事(2) 制作方法の多様性	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
6	「マンガ家」という仕事(3) マンガ家の仕事の現場	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
7	マンガと社会(1) 戦争を語るメディアとしてのマンガ 中沢啓治「はだしのゲン」	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
8	マンガと社会(2) 戦争を語るメディアとしてのマンガ この時代『この世界の片隅に』読解	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
9	マンガと社会(3) 戦争を語るメディアとしてのマンガ この時代『この世界の片隅に』映画版との比較	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
10	プレゼンテーションの方法 レポートのまとめ方	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
11	個人発表(1)	個人発表の準備をする(45分)	個人発表の振り返りをする(45分)
12	個人発表(2)	個人発表の準備をする(45分)	個人発表の振り返りをする(45分)
13	個人発表(3)	個人発表の準備をする(45分)	個人発表の振り返りをする(45分)
14	個人発表(4)	個人発表の準備をする(45分)	レポートを作成する(45分)
15	まとめ	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく(45分)	授業内容を復習する(45分)
16	期末レポートの解説 フィードバック	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく(45分)	授業内容を復習する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

前期の A に引き続き、大学での学習の基礎になる、文献の読み方、発表の仕方、議論の仕方、レポートの書き方等の技能を修得する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。自分で調べ構想したことを、レジュメやパワーポイントを使用して効果的に発表できる。学習の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。

授業全体の内容と概要

前期の A に引き続き、講義の受け方・レポート作成方法といった学習のためのスキル、自発的に問題を発見し解決する力といった、大学生としてふさわしい能力や姿勢を修得するために、このゼミナールでは、学生自身によるテキストの読解、内容の報告、参加者による討論、レポートの作成を行う。

授業の方法

授業は次のように進める。
報告者はテキストの内容要約と議論すべきポイントに関するプレゼンテーションを行う。
司会役の進行の下、報告者のプレゼン内容について参加者全員で討論をする。
担当教員による講評を行う。
レポート作成に向けた準備を進める。
レポート作成は、社会福祉と政治・行政に関する文脈のなかから受講生と相談の上で決める。
Teamsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

毎回出席することが前提となるが、やむを得ず欠席する場合には、担当教員に必ず事前連絡すること。無断欠席は厳禁。
自主的な参加が求められるので、テキストは必ず事前に読んでおくこと
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自分で調べ構想したことをレジュメやパワーポイントを使用して効果的に発表できる。	プレゼンテーション等において、問題の核心をよく理解し、的確にまとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心をよく理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、部分的に問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできなかった。
学習の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。	独自の着眼点で設定されたテーマに基づいてレポートが作成された。	工夫を凝らして設定されたテーマに基づいてレポートが作成された。	テーマ設定ができたレポートが作成された。	テーマ設定が概ねできたレポートが作成された。	レポートの提出がなされなかった。
自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。	積極的に討論に参加し、リーダーシップを発揮できた。	他者に協力しながら積極的に討論に参加することができた。	積極的に討論に参加することができた。	討論に参加することができなかった。	討論に参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						相談の上決定。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜指示する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、テキストの決定	シラバスを読む。(45分)	議論内容の整理(45分)
2	テキストの内容報告と討論(1)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
3	テキストの内容報告と討論(2)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
4	テキストの内容報告と討論(3)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
5	テキストの内容報告と討論(4)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
6	テキストの内容報告と討論(5)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
7	テキストの内容報告と討論(6)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
8	テキストの内容報告と討論(7)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
9	テキストの内容報告と討論(8)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
10	テキストの内容報告と討論(9)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
11	テキストの内容報告と討論(10)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
12	テキストの内容報告と討論(11)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
13	レポートの進捗状況の報告(1)	関連資料の収集(45分)	議論内容の整理(45分)
14	レポートの進捗状況の報告(2)	関連資料の収集(45分)	議論内容の整理(45分)
15	レポート作成(1)	レポート(課題)の準備(45分)	レポート(課題)の準備(45分)
16	レポート作成(2)	レポート(課題)の準備(45分)	レポート(課題)の仕上げ(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	戸佐 晃一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 戸佐 晃一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

前期に学習した人体の構造や機能について具体的な内容の理解を深め、食生活(栄養)・運動実践・睡眠などの生活習慣を見直すことに生かし、健康的な学生生活を旨とする。
また、生涯にわたって運動習慣(軽スポーツ)を継続することで高齢になっても健康で長寿であることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

各自、無理のない体力・健康目標を設定し、健康で活力ある学生生活を送るために必要な食事・睡眠・運動の正しい知識を学び健康の維持・増進を実践できるようにする。

授業全体の内容と概要

各自自身自身の食生活・睡眠・運動について健康状態を把握する。
各自人体の脳や骨格・筋肉・内臓臓器の構造や機能を理解し健康の維持増進に努める。
各自栄養素について理解を深め健康的な学生生活を送るために食生活を見直す。

授業の方法

DVDなど動画を参考に基本的な人体の構造や機能を理解する。
グループワークで互いが課題の発見や指摘をし合い、ディスカッションを通して正しい理解ができるように進めていく。
Teamsを活用して連絡・レポート提出を行う。
なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する可能性がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	30%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
栄養素の働きの理解	栄養素の働きを良く理解している	栄養素の働きをほぼ理解している	栄養素の働きをある程度理解している	栄養素の働きを理解していない	栄養素の働きを理解していない
内臓臓器の構造や機能の理解	内臓臓器の構造や機能を良く理解している	内臓臓器の構造や機能をほぼ理解している	内臓臓器の構造や機能をある程度理解している	内臓臓器の構造や機能を理解している	内臓臓器の構造や機能を理解していない
運動の効果の理解	運動の効果を良く理解している	運動の効果をほぼ理解している	運動の効果をある程度理解している	運動の効果を理解している	運動の効果を理解していない

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	戸佐 晃一(経営学科・特任教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 戸佐 晃一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイダンス内容を理解しておく(45分)
2	個人面談(前期成績・取得単位数・学生生活)	前期成績・取得単位数を確認しておく(45分)	前期成績・取得単位数を把握しておく(45分)
3	個人面談(前期成績・取得単位数・学生生活)	前期成績・取得単位数を確認しておく(45分)	前期成績・取得単位数を把握しておく(45分)
4	栄養素の働きの理解	栄養素の働きを確認しておく(45分)	栄養素の働きを理解しておく(45分)
5	栄養素の働きの理解	栄養素の働きを確認しておく(45分)	栄養素の働きを理解しておく(45分)
6	栄養素の働きの理解	栄養素の働きを確認しておく(45分)	栄養素の働きを理解しておく(45分)
7	栄養素の働きの理解	栄養素の働きを確認しておく(45分)	栄養素の働きを理解しておく(45分)
8	内臓臓器の構造や機能の理解	内臓臓器の構造や機能を確認しておく(45分)	内臓臓器の構造や機能を理解しておく(45分)
9	内臓臓器の構造や機能の理解	内臓臓器の構造や機能を確認しておく(45分)	内臓臓器の構造や機能を理解しておく(45分)
10	内臓臓器の構造や機能の理解	内臓臓器の構造や機能を確認しておく(45分)	内臓臓器の構造や機能を理解しておく(45分)
11	内臓臓器の構造や機能の理解	内臓臓器の構造や機能を確認しておく(45分)	内臓臓器の構造や機能を理解しておく(45分)
12	運動の効果の理解	運動の効果を確認しておく(45分)	運動の効果を理解しておく(45分)
13	運動の効果の理解	運動の効果を確認しておく(45分)	運動の効果を理解しておく(45分)
14	運動の効果の理解	運動の効果を確認しておく(45分)	運動の効果を理解しておく(45分)
15	まとめ 授業改善アンケート結果反映の説明	授業内容を振り返り確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
16	フィードバック	授業内容を振り返り確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	米野 宏(経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1 (単位認定責任者: 米野 宏)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力の向上をはかる。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

自分でテーマを設定し、文章にまとめることができる。グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、小論文・レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議およびディスカッションを行う。後半は、特定のテーマでプレゼンテーションを行い、質疑応答も行う。入前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、新聞やインターネットによるニュース等を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は欠席扱いとする。対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨むこと。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	10%	0%	70%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとて巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通でできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取られた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をするのが普通でできた。	討議の中で、対話することが苦手で、ほとんど受け身であった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	米野 宏(経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1 (単位認定責任者: 米野 宏)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明)	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	注意事項を再度確認する。(45分)
2	グループディスカッション(学生スポーツの課題)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
3	グループディスカッション(スポーツと金)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
4	グループディスカッション(オリンピック)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
5	グループディスカッション(スポーツの未来)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
6	ミニプレゼンテーションの準備 1(スポーツの問題と課題)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
7	ミニプレゼンテーションの準備 2(スポーツの問題と課題)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
8	ミニプレゼンテーション(5分) 1-5番	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
9	ミニプレゼンテーション(5分) 5-10番	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
10	ミニプレゼンテーション(5分) 11番-	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
11	プレゼンテーション(15分)の準備 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
12	プレゼンテーション(15分)の準備 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
13	プレゼンテーション(15分)と質疑応答 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
14	プレゼンテーション(15分)と質疑応答 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
15	プレゼンテーション(15分)と質疑応答 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
16	ふりかえり 授業改善アンケートの実施	ノートに記載された内容を再確認する。(45分)	評価等の内容を確認しておく。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 和裕 (経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 和裕)	CAP制	演習		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

「健康とスポーツ」というテーマを基に、学生と教員双方の人間関係を築き、また大学での学習を進めるにあたり、コミュニケーション能力や思考力・判断力・表現力の能力及び意欲を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

健康とスポーツについて理解し知識を身に付け、自分に必要な課題探求の道筋を明らかにすることができる。

授業全体の内容と概要

授業に関しては、特定のテーマに沿って書籍やインターネットで調べプレゼンテーションを行い、ディスカッションも行う。「SDG4.質の高い教育をみんなに」

授業の方法

授業は配布資料で実施し、レポートの書き方については板書または資料にて説明する。授業によってはグループワークで思考・考察・発表を行い学習していく。課題や発表に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は欠席扱いとする。欠席をする場合は必ず事前に連絡すること。注意事項の詳細についてはガイダンスにて説明する。発表と意見交換の機会が多いので、主体的で能動的な姿勢で取り組むこと。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	10%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	健康とスポーツについての基礎的な知識を深く理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を比較的理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を多少理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルに達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体的・多様性・協調性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協調性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協調性に関して期待されるレベルに達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協調性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協調性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 和裕(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 和裕)	CAP制	演習		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験を指す。 学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明)	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイダンスの内容を理解しておく(45分)
2	健康について考える(飲酒)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
3	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
4	健康について考える(喫煙)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
5	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
6	健康について考える(薬物)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
7	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
8	健康について考える(食生活)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
9	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
10	健康について考える(感染症)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
11	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
12	健康のための生涯スポーツを考える(障がい者とスポーツ)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
13	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
14	健康のための生涯スポーツを考える(高齢者とスポーツ)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
15	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
16	まとめ	ノートに記載された内容を復習し理解する。(45分)	評価の内容を確認し自己評価を行うこと。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 三嶋 康嗣)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力の向上をはかる。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

自分でテーマを設定し、文章にまとめることができる。グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、小論文・レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議およびディスカッションを行う。後半は、特定のテーマでプレゼンテーションを行い、質疑応答も行う。入前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、書籍や新聞、インターネット等の情報を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は欠席扱いとする。対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨むこと。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	10%	0%	70%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとて巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通でできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取られた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をするのが普通でできた。	討議の中で、対話することが苦手で、ほとんど受け身であった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 三嶋 康嗣)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明)	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	注意事項を再度確認する。(45分)
2	グループディスカッション(スポーツの価値)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
3	グループディスカッション(アマチュアスポーツとプロスポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
4	グループディスカッション(日本でのスポーツの発展)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
5	グループディスカッション(学生スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
6	ミニプレゼンテーションの準備 1(身近なスポーツの課題)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
7	ミニプレゼンテーションの準備 2(身近なスポーツの課題)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
8	ミニプレゼンテーション 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
9	ミニプレゼンテーション 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
10	ミニプレゼンテーション 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
11	グループディスカッション 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
12	グループディスカッション 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
13	プレゼンテーションと質疑応答 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
14	プレゼンテーションと質疑応答 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
15	プレゼンテーションと質疑応答 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
16	ふりかえり 授業改善アンケートの実施	ノートに記載された内容を再確認する。(45分)	評価等の内容を確認しておく。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎セミナー B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	井坂 肇(経営学科・助教)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 井坂 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

スポーツパフォーマンスを最大化するために、データを活用しながら不足している体力要素を特定していく。さらには、その体力要素の向上のためのトレーニング方法を理解する。科学的なエビデンスに基づいたトレーニングを行うために、論文を読むようにする。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

トレーニング理論について理解できる。
課題解決のために他者と討議することができる。
トレーニングを実践することができる。
論文を読んで内容について理解することができる。

授業全体の内容と概要

スポーツパフォーマンスを最大化するために、データを活用しながらトレーニングを進めていく。論文を読み、科学的なエビデンスに基づいたトレーニングを行う。

授業の方法

講義はパワーポイント及び配布物資料で実施し、資料にて説明した後、グループワークを行う。データやトレーニング方法について考察し、他者と共有する機会を設ける。
学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

15分以上の遅刻は欠席とみなす。
遅刻2回で1回の欠席とみなす。
トレーニングデータの題材として野球の投手を利用することがある。
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	30%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
科学的なエビデンスに基づいたトレーニングの理解	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめた。また様々なケースにおいて採用されたトレーニングの方法について意見を持っていた。	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめた。	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べた。	トレーニング理論を説明できた。	トレーニング理論を説明できなかった。
他者との討議	他者と討議しながら解決のための具体策を提示すると共に、意見を集約してまとめることができた。さらには新たな課題を自ら発見し、他者との討議の場を生み出すことができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示すると共に、意見を集約してまとめることができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示できた。	他者と討議できた。	他者と討議できなかった。
データに対する思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを達成した。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	井坂 肇(経営学科・助教)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1 (単位認定責任者: 井坂 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	シラバスの内容を理解しておく(45分)
2	エビデンスに基づいたトレーニング 論文の読み方	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
3	エビデンスに基づいたトレーニング 論文の読み方	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
4	エビデンスに基づいたトレーニング 論文の読み方	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
5	エビデンスに基づいたトレーニング 論文の読み方	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
6	トレーニングデータの収集と理解 データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
7	トレーニングデータの収集と理解 データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
8	トレーニングの実践	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
9	トレーニングの実践	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
10	トレーニングデータの収集と理解 データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
11	トレーニングデータの収集と理解 データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
12	トレーニングの実践	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
13	トレーニングの実践	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
14	トレーニングデータの収集と理解 データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
15	エビデンスに基づいたトレーニング 論文の読み方	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	講義全体を振り返り質問事項をまとめておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	阿部 一也 (経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 阿部 一也)	CAP制	演習		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

陸上競技(駅伝)を通じて、生活の多様な側面から人間の生活と健康を理解し、より健康な生活を創り出して行くための必要な知識を理解する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

陸上競技(駅伝)を通じて、個人、家庭という様々なレベルにおける健康的な生活について理解し、知識を身につけ、健康について、一層の関心を持つことができる。

授業全体の内容と概要

陸上競技(駅伝)を通じて、生活の多様な側面に焦点を当て、個人、家族という様々なレベルにおける人間の健康的な生活について詳しく説明する。

授業の方法

資料を通読し、その内容の説明や質疑応答及びディスカッションを行います。健康に関するキーワードについて調べ、発表を行います。課題や発表等に対応するフィールドワークや要望等への対応は、少人数集団の利点を生かし、口頭で説明を行います。不測の事態が発生した際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合があります。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

「20分以上の遅刻は欠席とします。」
「遅刻3回で欠席1回とみなします。」

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	80%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	陸上(駅伝)と、健康について基礎的な知識を深く理解できた。	陸上(駅伝)と、健康について基礎的な知識を理解できた。	陸上(駅伝)と、健康について基礎的な知識をおおむね理解できた。	陸上(駅伝)と、健康について基礎的な知識を多少理解できた。	陸上(駅伝)と、健康について基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	陸上(駅伝)と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開に十分に考察できた。	陸上(駅伝)と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開に考察できた。	陸上(駅伝)と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開におおむね考察できた。	陸上(駅伝)と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開に多少考察できた。	陸上(駅伝)と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開に考察できなかった。
主体的に取り組む態度	陸上(駅伝)と、健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	陸上(駅伝)と、健康の多様な展開について理解したことを説明できた。	陸上(駅伝)と、健康の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	陸上(駅伝)と、健康の多様な展開について理解したことを多少説明できた。	陸上(駅伝)と、健康の多様な展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	阿部 一也 (経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 阿部 一也)	CAP制	演習		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス 「シラバス説明」	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
2	陸上(駅伝)と、健康についての調査説明	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
3	陸上(駅伝)と、健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
4	陸上(駅伝)と、健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
5	陸上(駅伝)と、健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
6	陸上(駅伝)と、健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
7	陸上(駅伝)と、健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
8	陸上(駅伝)と、健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
9	陸上(駅伝)と、健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
10	陸上(駅伝)と、健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
11	陸上(駅伝)と、健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
12	陸上(駅伝)と、健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
13	陸上(駅伝)と、健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
14	陸上(駅伝)と、健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
15	陸上(駅伝)と、健康についての調査まとめ・講評	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
16	陸上(駅伝)と、健康調査全体のまとめ	ノートに記載された内容を再復習し、理解する。(45分)	解説の内容を確認する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

国際的に活躍するエリートアスリートとともに働く世界の著名なスポーツ科学者達のリカバリーに関する最新の科学的データを理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

「パフォーマンスを向上させたい」、「オーバーリーディングや怪我を予防したい」と考えているすべてのアスリートやコーチを目指している学生のために、科学的なエビデンスに基づいた情報、また、エリートスポーツに携わるコーチやスポーツ科学者が、成功へと導いた競技現場でのリカバリーの応用例を実践する。

授業全体の内容と概要

すべてのアスリートやコーチを目指している学生がトレーニングや試合などの競技活動におけるオーバーロードや怪我のリスクを低下させ、最終的にはそれぞれのパフォーマンスを改善するリカバリープロセスを学ぶ。

授業の方法

- ・授業はパワーポイントを使用し、DVDの視聴、レポートなどの講義形式で実施する。
- ・不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。
- ・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供します。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻3回で1回の欠席とみなします。不測の事態の際はオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	30%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学修した知識・技能を確実に修得した	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修した知識・技能を修得できなかった
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
2	リカバリーの理解と修得 スクリーニングとアセスメントの概要	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
3	リカバリーの理解と修得 スクリーニングとアセスメントの概要	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
4	リカバリーの理解と修得 スクリーニングとアセスメントの概要	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
5	リカバリーの理解と修得 解剖学的科学と機能の科学	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
6	リカバリーの理解と修得 解剖学的科学と機能の科学	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
7	リカバリーの理解と修得 解剖学的科学と機能の科学	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
8	リカバリーの確認	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
9	リカバリーの実践 スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
10	リカバリーの実践 スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
11	リカバリーの実践 スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
12	リカバリーの実践 スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
13	リカバリーの実践 筋機能・動作と感覚	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
14	リカバリーの実践 筋機能・動作と感覚	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
15	リカバリーの実践 筋機能・動作と感覚	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標

本ゼミナールではキリスト教・仏教・イスラム教・儒教の教義内容とその特色を概観し、各々を構造神学的に比較したうえで、それらを振興する人々のエートス(行動様式)の生成と、そこから導き出された現代国際社会の諸相を分析し、併せて日本社会における宗教の影響と、日本人のエートスについての思考を深めるようにする。

授業の位置づけ

全学科のDP1, DP2, DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

- ・キリスト教、仏教、イスラム教、儒教の基本的協議を理解できる。
- ・上記宗教のから導き出されるエートスを理解し、現代社会への影響を理解できる。
- ・現代日本社会における「宗教」とその機能を理解できる。

授業全体の内容と概要

小室直樹『日本人のための宗教原論—あなたを宗教はどう助けてくれるか—(徳間書店)を基本参考文献とし(講義ごとに購読パートを教員がコピーする)、併せて、山本七平、橋爪大三郎、大澤真幸、の著書を参考に、音読しながら購読し、必要に応じてディスカッションを行う。

授業の方法

- ・各講義ごとに参考文献を音読してもらい、必要に応じて教員が説明を加える。また、ディスカッションも行う。
- ・ゼミで使用するプリントは前の週に配布する。熟読することが望ましい。
- ・学生の要望には可能な限り応じるが、教育上問題ありと思われる要望には応えられない。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

チャット、ライン等に「欠席理由」のしんこくがない、あるいは校間等の連絡がない場合は欠席とみなす。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定の最低出席数10回以上をクリアすること

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	30%	70%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
キリスト教・仏教・イスラム教・儒教の基本的協議を理解する。	ゼミナールで行った内容について説明できる。ディスカッションにおいて、自分の意見を明示でき、且つ、他者の意見について様々な指摘ができた。	ディスカッションにおいて自分の意見を明示できた。	高校のテキストにおける「宗教」の基本的知識を習得できた。	ゼミナールで行った内容について説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
各宗教から導き出されるエートス(行動様式)を理解する。	ディスカッションにおいて、自分の意見を明示でき、且つ、他者の意見について様々な指摘ができた。	ディスカッションにおいて、自分の意見を明示できた。	マックス・ウェーバーの「エートス」の概念を理解できた。	ゼミナールで行った内容について説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
現代日本社会における宗教的機能について理解する。	ディスカッションにおいて、自分の意見を明示でき、且つ、他者の意見について様々な指摘ができた。	ディスカッションにおいて、自分の意見を明示できた。	小室直樹・山本七平の「日本教」について説明できた。	ゼミナールで行った内容について説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明	高校の世界史の復習(45分)	配布資料の熟読(45分)
2	宗教のアウトライン1	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の熟読(45分)
3	宗教のアウトライン2	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の熟読(45分)
4	キリスト教1	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の熟読(45分)
5	キリスト教2	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の熟読(45分)
6	キリスト教3	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の熟読(45分)
7	キリスト教4	前回資料の読み込み(90分)	配布資料の熟読(90分)
8	仏教1	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の熟読(45分)
9	仏教2	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の熟読(45分)
10	イスラム教1	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の熟読(45分)
11	イスラム教2	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の熟読(45分)
12	儒教1	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の熟読(45分)
13	儒教2	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の熟読(45分)
14	日本人と宗教1	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の熟読(45分)
15	日本人と宗教2	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の熟読(45分)
16	日本人と宗教3	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の熟読(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇 (社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

基礎ゼミナール Aの継続として、学生が世界と日本の歴史と文化についての基礎的な知識と考え方を身につける。学生が、プレゼンテーション・コミュニケーションの基礎を身につける。文章作成の基礎の習得。

授業の位置づけ

全学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する。(2024年度)

到達目標

受講者において、プレゼンテーション・コミュニケーションの基礎が習得できていること。文章作成の基礎が習得できていること。世界と日本の歴史と文化についての基礎的な知識が習得され、理解できていること。

授業全体の内容と概要

毎回、教員による講義と受講者各自の学習(文献調査)により、世界と日本の歴史と文化についての基礎的な知識を習得し、合わせて、プレゼンテーション、レポート等によって学んだことを発信する。後期は、北海道以外の日本の歴史と文化を中心に学習を進める。

授業の方法

毎回、1)調査、発表者によるプレゼンテーション、2)討論、3)教員による補足と講評(フィードバック)を行なう。適宜、文章作成の練習も行なう。プレゼンテーションと説明では、スライド、板書、ボード等を使用する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

欠席、遅刻をしないように留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録音・録音を認める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	20%	60%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
情報収集・調査能力	多様で正確な情報収集と編集・整理ができ、的確に発信できた。	正確な情報収集と整理ができ、的確に発信できた。	情報収集と整理の基礎が身に付いており、発信の基本ができていた。	指示によって情報収集と整理が遂行でき、発信の基本ができていた。	指示による情報収集・整理ができなかった。
コミュニケーション・プレゼンテーション能力	的確な議論、明確なプレゼンテーションができ、適切な質疑応答ができた。	議論、プレゼンテーションの基礎が身に付いており、適切な質疑応答ができた。	議論、プレゼンテーションの基礎ができていた。	指示によって議論、プレゼンテーションが適切に遂行できた。	指示による議論、プレゼンテーションができなかった。
歴史と文化の理解・認識	日本の文化に関する広く深い理解ができ、発展的な学習ができた。	日本の文化に関する的確な理解ができ、発展的な学習が期待できた。	日本の文化に関する基本的な理解ができ、深めることが期待できた。	指示によって日本の文化に関する基本的な理解ができた。	指示による日本文化に関する理解がなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇 (社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						教科書なし
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜紹介
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、教員による日本の歴史と文化の基礎に関する講義	日本の歴史の基礎的事項の予習(45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習(45分)
2	教員による日本の歴史と文化の基礎に関する講義	日本の歴史の基礎的事項の予習(45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習(45分)
3	受講者による調査とプレゼンテーション(1)	日本の歴史の基礎的事項の予習(45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習(45分)
4	受講者による調査とプレゼンテーション(2)	日本の歴史の基礎的事項の予習(45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習(45分)
5	受講者による調査とプレゼンテーション(3)	日本の歴史の基礎的事項の予習(45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習(45分)
6	受講者による調査とプレゼンテーション(4)	日本の歴史の基礎的事項の予習(45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習(45分)
7	受講者による調査とプレゼンテーション(5)	日本の歴史の基礎的事項の予習(45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習(45分)
8	受講者による調査とプレゼンテーション(6)	日本の歴史の基礎的事項の予習(45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習(45分)
9	受講者による調査とプレゼンテーション(7)	日本の歴史の基礎的事項の予習(45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習(45分)
10	受講者による調査とプレゼンテーション(8)	日本の歴史の基礎的事項の予習(45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習(45分)
11	受講者による調査とプレゼンテーション(9)	日本の歴史の基礎的事項の予習(45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習(45分)
12	受講者による調査とプレゼンテーション(10)	日本の歴史の基礎的事項の予習(45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習(45分)
13	受講者による調査とプレゼンテーション(11)	日本の歴史の基礎的事項の予習(45分)	日本の歴史の基礎的事項の復習(45分)
14	受講者による調査とレポート作成(1)	レポート作成の準備(45分)	レポート作成の準備(45分)
15	受講者による調査とレポート作成(2)	レポート作成の準備(45分)	レポート作成の準備(45分)
16	受講者による調査とレポート作成(3)	レポート作成の準備(45分)	レポートの仕上げ(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会福祉実践に用いられることが多い語を学ぶとともに、基礎的なチームワーク力を涵養する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

用語と各々の意味を覚えるとともに、自分に適した暗記方法を身につけることができる。
チームワークに必要なコミュニケーションの初歩的なスキルを身につけることができる。

授業全体の内容と概要

福祉現場で用いられることが多い基礎的な用語(主にカタカナの用語)と基礎的な意味について学ぶ。
実践的なコミュニケーションについて学ぶ。
「SDG1:すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

基本はテーマに沿ったグループワークでの展開を基本とする。グループで議論した内容をまとめ、代表者が発表する展開とする。
一部、講義形式で展開をする。講義の際には随時質問を行うので、答えること。
随時、記録物を提出する。記録物はコメントを添えて返却する。
授業毎に使用する資料を配布する。
不測の事態における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する可能性がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

30分以上の遅刻は欠席とする。
出席を重視するので、遅刻や欠席をする場合は事前に連絡をすること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

10回以上の出席があること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉の仕事で用いられる事が多いカタカナ語を理解できる。	カタカナ語に該当する日本語を示すことができた。	カタカナ語の意味を答えることができた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
実践的なコミュニケーションをロールプレイで展開できる。	適切な態度や言葉を用いてロールプレイができた。	ロールプレイでは、相手を尊重した姿勢をとることができた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
クラスのメンバーと協働できる。	状況に応じ、リーダーシップをとったり、他者へのサポートができた。	自分の役割を責任を持ち果たせた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館4階	
単位数	1 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 現場の実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 福祉の仕事で用いられる事が多いカタカナ語	入学後、福祉の授業の中で知ったア行のカタカナ語を書き出す。(45分)	単語帳を作る。(45分)
2	福祉の仕事で用いられる事が多いカタカナ語	入学後、福祉の授業の中で知ったカ行とサ行のカタカナ語を書き出す。(45分)	単語帳を作る。(45分)
3	福祉の仕事で用いられる事が多いカタカナ語	入学後、福祉の授業の中で知ったタ行とナ行のカタカナ語を書き出す。(45分)	単語帳を作る。(45分)
4	福祉の仕事で用いられる事が多いカタカナ語	入学後、福祉の授業の中で知ったハ行とマ行のカタカナ語を書き出す。(45分)	単語帳を作る。(45分)
5	福祉の仕事で用いられる事が多いカタカナ語	入学後、福祉の授業の中で知ったヤ行とラ行とワ行のカタカナ語を書き出す。(45分)	単語帳を作る。(45分)
6	敬語の種類	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	ノートの整理をする。(45分)
7	敬語の使い方	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	授業で学んだことを意識し、目上の人と話会話を。(45分)
8	気をつけなければならない言葉や話し方	自分の言葉や話し方の特徴について箇条書きで整理する。(45分)	授業で学んだことを意識し、知人と会話する。(45分)
9	中間まとめ	1回から8回の内容を振り返り、疑問点や再度説明を希望する部分をまとめる。(45分)	1回から8回までで理解が不十分だった点を復習する。(45分)
10	コミュニケーションの意義・目的	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	授業で学んだことを意識し、知人と会話する。(45分)
11	コミュニケーションの役割 コミュニケーションの種類	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	授業で学んだことを意識し、知人と会話する。(45分)
12	福祉現場でのコミュニケーションを事例を用いて考える。	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	クラスのメンバーの意見と自分の意見を比較し考察する。(45分)
13	福祉現場でのコミュニケーションを事例を用いて考える。	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	クラスのメンバーの意見と自分の意見を比較し考察する。(45分)
14	福祉現場でのコミュニケーションを事例を用いて考える。	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	クラスのメンバーの意見と自分の意見を比較し考察する。(45分)
15	福祉現場でのコミュニケーションを事例を用いて考える。	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	クラスのメンバーの意見と自分の意見を比較し考察する。(45分)
16	まとめ	1回から15回までの授業内容を振り返り、疑問点や議論したい点をまとめる。(45分)	この授業で学んだ事を振り返り、2年生へ向けた自己の課題を明確化する。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 湯浅 頼佳)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
「食生活の重要性を考える」というテーマを基に、学生と教員双方の人間関係を築き、「課題探求能力」養成を軸とした学習活動やその意義を理解させ、併せて快適な学生生活を営むことが出来る様指導する。提示したテーマの他様々な事柄への好奇心・探求心・向学心を刺激しながら学習能力を高める工夫をし、また、「学びの方法」も修得する。

授業の位置づけ
全学科の DP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標
上記の授業内容や目的・ねらいを理解し、自分に必要な課題探求の道筋を明らかにする事ができる。

授業全体の内容と概要
人間は食べることのみによって栄養を取り入れ、様々な活動を可能としている。乳幼児から高齢者まで各々の目的や問題の違いはあれ、それぞれ生活リズムの確立や健康、QOL、疾病防止などを目的として望ましい食生活を営む事が必要となる。学生それぞれが自分自身の食生活だけでなく職業的(保育士、社会福祉士、スポーツトレーナー、教員等)に必要な問題意識を持ち知識を身につけることを目標とする。

授業の方法
食生活や栄養に関する問題の中からそれぞれが研究テーマを見つけ、プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等を実施する。また必要に応じて教員がテーマに関する講義も行い、カレントトピックスについても解説する。質問には随時応答する。

アクティブラーニングの実施方法						
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
・出席を重視する。欠席をする場合は必ず事前に連絡をすること。出席数を満たしていてもゼミの運営を乱す行為があった場合は評価をしない場合がある。また同じくゼミの運営に支障を来す行為があった場合は途中でゼミ異動を宣告する場合がある。 ・SDG.3「すべての人に健康と福祉を」の関連科目。 ・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
出席状況(3分の2以上)。ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>50%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	20%	0%	0%	30%	50%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	20%	0%	0%	30%	50%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>知識・理解(協調性、傾聴力)</td> <td>ゼミ内でのプレゼンテーションに積極的に耳を傾け、タイミングよく質問することができた。</td> <td>ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け、タイミングよく質問することができた。</td> <td>ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け、質問することができた。</td> <td>ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け何回か質問することができた。</td> <td>ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾けることは出来ないが質問できなかった。</td> </tr> <tr> <td>知識・理解(興味、関心)</td> <td>新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち積極的に食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。</td> <td>新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを概ね発見することができた。</td> <td>新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。</td> <td>新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち努力をしながら食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。</td> <td>新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>汎用的機能(トークスキル、表現力)</td> <td>ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう資料を十分揃えわかりやすく発表することができた。</td> <td>ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。</td> <td>ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。</td> <td>ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。</td> <td>ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>態度・志向性(リーダーシップ、態度)</td> <td>ゼミ内での自分の役割を十分に認識し、積極的にゼミ運営に関わることができた。</td> <td>ゼミ内での自分の役割を十分に認識し、ゼミ運営に関わることができた。</td> <td>ゼミ内での自分の役割を認識し、ゼミ運営に関わることができた。</td> <td>ゼミ内での自分の役割を認識し、ゼミ運営に多少関わることができた。</td> <td>ゼミ内での自分の役割を認識できなかった。</td> </tr> <tr> <td>態度・志向性(意欲)</td> <td>休まずゼミに出席できた。(出席16回)</td> <td>概ねゼミに出席できた。(出席15-14回)</td> <td>休みがちではあるが出席できた。(出席13-12回)</td> <td>欠席が目立つが出席できた。(出席11-10回)</td> <td>評価前提条件を満たす事ができなかった。(出席9-0回)</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・理解(協調性、傾聴力)	ゼミ内でのプレゼンテーションに積極的に耳を傾け、タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け、タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け、質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け何回か質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾けることは出来ないが質問できなかった。	知識・理解(興味、関心)	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち積極的に食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを概ね発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち努力をしながら食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができなかった。	汎用的機能(トークスキル、表現力)	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう資料を十分揃えわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができなかった。	態度・志向性(リーダーシップ、態度)	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し、積極的にゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し、ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し、ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し、ゼミ運営に多少関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識できなかった。	態度・志向性(意欲)	休まずゼミに出席できた。(出席16回)	概ねゼミに出席できた。(出席15-14回)	休みがちではあるが出席できた。(出席13-12回)	欠席が目立つが出席できた。(出席11-10回)	評価前提条件を満たす事ができなかった。(出席9-0回)
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
知識・理解(協調性、傾聴力)	ゼミ内でのプレゼンテーションに積極的に耳を傾け、タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け、タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け、質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け何回か質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾けることは出来ないが質問できなかった。																																				
知識・理解(興味、関心)	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち積極的に食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを概ね発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち努力をしながら食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができなかった。																																				
汎用的機能(トークスキル、表現力)	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう資料を十分揃えわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができなかった。																																				
態度・志向性(リーダーシップ、態度)	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し、積極的にゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し、ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し、ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し、ゼミ運営に多少関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識できなかった。																																				
態度・志向性(意欲)	休まずゼミに出席できた。(出席16回)	概ねゼミに出席できた。(出席15-14回)	休みがちではあるが出席できた。(出席13-12回)	欠席が目立つが出席できた。(出席11-10回)	評価前提条件を満たす事ができなかった。(出席9-0回)																																				

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 湯浅 頼佳)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション及びシラバスの説明	ゼミ初回に必要な事項について考える。(45分)	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の役割について考える(45分)
2	「食生活の重要性を考える B」 テーマの見つけ方(新聞・図書・雑誌等)	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
3	「食生活の重要性を考える B」 プレゼンテーションテーマの見つけ方(ニュース・ネット等)	栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
4	「食生活の重要性を考える B」 プレゼンテーション資料の作成について	栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
5	「食生活の重要性を考える B」 プレゼンテーション以外のテーマについて(フィールドワーク等)	栄養についてのプレゼンテーション以外のテーマを発見する準備を行う。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
6	「食生活の重要性を考える B」 プレゼンテーション以外のテーマについて(調理実習等)	栄養についてのプレゼンテーション以外のテーマを発見する準備を行う。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
7	「食生活の重要性を考える B」 プレゼンテーションとディスカッション(発表順1・2番目)	栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
8	「食生活の重要性を考える B」 プレゼンテーションとディスカッション(発表順3・4番目)	栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
9	「食生活の重要性を考える B」 プレゼンテーションとディスカッション(発表順5・6番目)	栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
10	「食生活の重要性を考える B」 プレゼンテーション以外のテーマ実施に向けたディスカッション	栄養についてのプレゼンテーション以外のテーマを発見する準備を行う。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
11	「食生活の重要性を考える B」 プレゼンテーション以外のテーマ実施	実施するための方法を探る。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
12	「食生活の重要性を考える B」 プレゼンテーションとディスカッション(発表順7・8番目)	栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
13	「食生活の重要性を考える B」 プレゼンテーションとディスカッション(発表順9・10番目)	栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
14	「食生活の重要性を考える B」 プレゼンテーション以外のテーマ実施に向けたディスカッション	栄養についてのプレゼンテーション以外のテーマを発見する準備を行う。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
15	「食生活の重要性を考える B」 プレゼンテーション以外のテーマ実施	実施するための方法を探る。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
16	まとめ	まとめの準備を行う。(45分)	まとめの振り返りを行う。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	尾西 則昭 (社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 尾西 則昭)	CAP制	演習		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

生活の多様な側面から人間の生活と健康を理解し、より健康な生活を創り出して行くための必要な知識を理解する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

個人、家庭という様々なレベルにおける健康的な生活について理解し、知識を身につけ、健康について、一層の関心を持つことができる。

授業全体の内容と概要

生活の多様な側面に焦点を当て、個人、家族という様々なレベルにおける人間の健康的な生活について詳しく説明する。

授業の方法

資料を通読し、その内容の説明や質疑応答及びディスカッションを行います。健康に関するキーワードについて調べ、発表を行います。課題や発表等に対応するフィールドワークや要望等への対応は、少人数集団の利点を生かし、口頭で説明を行います。不測の事態が発生した際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合があります。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

「20分以上の遅刻は欠席とします。」
「遅刻3回で欠席1回とみなします。」

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	80%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	健康について基礎的な知識を深く理解できた。	健康について基礎的な知識を理解できた。	健康について基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康について基礎的な知識を多少理解できた。	健康について基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	健康の基本を踏まえた健康内容の展開に十分に考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開に考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開におおむね考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開に多少考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開に考察できなかった。
主体的に取り組む態度	健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを説明できた。	健康の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを多少説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	尾西 則昭 (社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 尾西 則昭)	CAP制	演習		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『資料配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス 「シラバス説明」	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
2	健康についての調査説明	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
3	健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
4	健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
5	健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
6	健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
7	健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
8	健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
9	健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
10	健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
11	健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
12	健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
13	健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
14	健康についての調査 個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
15	健康についての調査まとめ・講評	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
16	健康調査全体のまとめ	ノートに記載された内容を再復習し、理解する。(45分)	解説の内容を確認する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)					
授業担当者(所属・職名)	西崎 毅(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 西崎 毅)		CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かし、教職に関連する事項を題材に、学生の主体的な学修姿勢や探究力を培う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標
教員になるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等及び主体的な学修態度を身に付ける。

授業の位置づけ
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標
教育の現状(全国・全道・地域)や教育制度等を理解することができる。 教育の諸問題について、自分で考える、詳しく調べる、自分の意見を表現することができる。 教員になるために必要な事項を理解することができる。

授業全体の内容と概要
教育の諸問題についての探究的な学修 教育法規、学習指導要領、中央教育審議会答申の学修 教員に求められる基本的資質の獲得(漢字、一般教養等) 学校体験活動等への参加 「SDG4・質の高い教育をみんなに」関連科目

授業の方法
各回のテーマに基づいて、探究的な学修(自分で考える、詳しく調べる、自分の意見を表現する等)を行う。 教育法規、学習指導要領、中央教育審議会答申を参照する。 教員に求められる基本的資質を獲得するための演習を行う。(漢字、一般教養等) 学校体験活動等の成果を発表・共有する。 毎時間、事前事後課題を課す。 課題や発表等に対するフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。 Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問対応、小テスト、教材配布等を行う。 不測の事態が生じた際に、授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
<ul style="list-style-type: none"> ○以下を履修条件とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・教職課程に登録し、大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意志を持つこと。 ・サブメジャー・プログラムの「教員採用試験対策プログラム」を履修すること。 ・担当教員が紹介する学校体験活動等に積極的に取り組むこと。 ・事前事後学修に真剣に取り組むこと。 ・漢字検定に真剣に取り組むこと。(受検級に合格するまで毎回確実に受験すること。) ・各自、B5版のノートを用意すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件
単位認定に必要な最低出席回数は11回。

評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>80%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	20%	0%	80%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	20%	0%	80%	0%							

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルに達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルに達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	西崎 毅(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 西崎 毅)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かし、教職に関連する事項を題材に、学生の主体的な学修姿勢や探究力を培う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	別途購入案内する。a					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	別途購入案内する。a					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明を含む) I Aの反省, 決意表明	シラバスを熟読しておくこと。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
2	北海道における学力向上策を考える。(思考・まとめ) 一般教養演習, 教育法規演習, 学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
3	北海道における学力向上策を発表する。(発表・質疑応答) 一般教養演習, 教育法規演習, 学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
4	教員に求められる資質・能力について考える。(個人の思考・発表・意見交換) 一般教養演習, 教育法規演習, 学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
5	教員に求められる資質・能力について調べる。(調査・まとめ) 一般教養演習, 教育法規演習, 学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
6	教員に求められる資質・能力について発表する。(発表・質疑応答) 一般教養演習, 教育法規演習, 学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
7	教員育成指標について調べる。(調査・まとめ) 一般教養演習, 教育法規演習, 学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
8	教員育成指標について発表する。(発表・まとめ) 一般教養演習, 教育法規演習, 学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
9	生徒指導とは何かを考える。(個人の思考・発表・意見交換) 一般教養演習, 教育法規演習, 学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
10	生徒指導の目的, 定義について調べる。(調査・まとめ) 一般教養演習, 教育法規演習, 学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
11	生徒指導の構造について調べる。(調査・まとめ) 一般教養演習, 教育法規演習, 学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
12	生徒指導の構造について発表する。(発表・質疑応答) 一般教養演習, 教育法規演習, 学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
13	問題行動等とは何か(個人の思考・発表・意見交換) 一般教養演習, 教育法規演習, 学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
14	問題行動等の状況(全道・全国)について調べる。(調査・まとめ) 一般教養演習, 教育法規演習, 学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
15	問題行動等の状況について発表する。(発表・質疑応答) 一般教養演習, 教育法規演習, 学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
16	1年間の反省及び今後の決意	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	1年間の自らの学修姿勢を評価すること。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	宮嶋 達也(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標
<p>デザインを通し自由な発想でプランニングからデザイン制作まで地域で必要とされることをゼミ活動で、できる限り一貫して実践することを目標とする。</p> <p>自らデザインした形を地域社会の中に残し貢献する。地域との取り組みに自分の創作意欲を掻き立てながらSDGsの達成のために、どんなことができるのか、地域イベントやワークショップなどに企画参加し、自ら学び、考え、そして楽しく活動する。</p> <p>昨年度の主な活動：食品パッケージデザイン、イベントポスター、行政・企業とのイベント企画、ビクトグラム制作、企業へのPOP制作、企業ロゴマーク、教育施設でのデザインワークショップや美術部とのアートセッションなど</p>

授業の位置づけ
<p>全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)</p> <p>デザイン・建築学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。(2023・22年度)</p> <p>全学科のDP2、DP3、DP6、DP7、DP8、DP11に対応する。(2021年度)</p>

到達目標
<p>(1)制作活動を通して何を学ぶのか、各自の問題意識を明確にする。</p> <p>(2)様々な活動場面に応じて、適切なコミュニケーションを取りながら、他者との関わりをもつ。</p> <p>(3)各自の活動経験を振り返り、今後進めていく上での自己の学習課題を設定する。</p>

授業全体の内容と概要
<p>授業では、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティビティを多く取り入れる。各自が問題意識を持ち、考察結果などをグループ全体で共有しながら、目標達成に向けて活動をする。地域との取り組みに自分の好きなデザインを交えながら、どんなことができるのか考え楽しく活動する。</p>

授業の方法
<p>グループワークを中心とした活動が多いため、一人ひとりが自主性を持ち、他人任せになるようなことがないように、常に問題意識を持ち、議論しながら問題解決し、積極的に活動に励む。授業では、グループワーク、討論、ワークショップ等のアクティビティを多く取り入れる。</p>

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
<p>受講定員15名</p> <p>受講条件</p> <p>本ゼミを希望する学生は必ず活動内容の説明を聞きに選択志望する前に研究室へ来ること。</p> <p>受講に関して以下の心構えがある学生を条件といたします。</p> <p>社会に役立って達成感を得たり、自分に自信をつけたい人</p> <p>やる気があり、最後まで活動をやり通す気力を持ち合わせている人</p> <p>協力し合いながら目標に向かい活動を成功させる意気込みがある人</p> <p>不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。</p>

修学サポート(合理的配慮)
<p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
<p>単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上とする。</p>												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	40%	30%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	40%	30%	0%	30%	0%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>積極性、社会理解</td> <td>積極的にアイデアを出し、採用された。他人の発言を聴き、積極的に意見した。</td> <td>積極的にアイデアを出した。他人の発言を聴き、十分な理解に努めた意見した。</td> <td>それなりにアイデアを出した。他人の発言を聞き、ある程度意見した。</td> <td>アイデアを殆ど出せなかった。他人の意見をあまり理解できなかった。</td> <td>アイデアを出せなかった。他人の意見を殆ど理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>課題解決能力と創造性</td> <td>仕事を的確に発見し、進め方を共有しあいながら適切に検討し、実行できた。</td> <td>仕事を進んで発見し、進め方を適切に検討し、実行できた。</td> <td>仕事を発見し、進め方を検討し、ある程度実行できた。</td> <td>仕事をあまり発見できず、依頼されたことだけ実行できた。</td> <td>仕事を発見できず、依頼されたことも、ほとんど実行できなかった。</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション能力と行動力</td> <td>他者をリードする態度で積極的に活動に取り組み、高いコミュニケーション能力と行動力があった。</td> <td>自主的・協働的に活動に取り組み、コミュニケーション能力や行動力があった。</td> <td>自らの考えでアクションを起すことはあまりないが、必要なコミュニケーション能力や行動力はあった。</td> <td>自らの考えでアクションを起すことは最低限度のコミュニケーション能力や行動力はあった。</td> <td>自らの考えでアクションを起すことができない。最低限度のコミュニケーション能力や行動力もほとんどなかった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	積極性、社会理解	積極的にアイデアを出し、採用された。他人の発言を聴き、積極的に意見した。	積極的にアイデアを出した。他人の発言を聴き、十分な理解に努めた意見した。	それなりにアイデアを出した。他人の発言を聞き、ある程度意見した。	アイデアを殆ど出せなかった。他人の意見をあまり理解できなかった。	アイデアを出せなかった。他人の意見を殆ど理解できなかった。	課題解決能力と創造性	仕事を的確に発見し、進め方を共有しあいながら適切に検討し、実行できた。	仕事を進んで発見し、進め方を適切に検討し、実行できた。	仕事を発見し、進め方を検討し、ある程度実行できた。	仕事をあまり発見できず、依頼されたことだけ実行できた。	仕事を発見できず、依頼されたことも、ほとんど実行できなかった。	コミュニケーション能力と行動力	他者をリードする態度で積極的に活動に取り組み、高いコミュニケーション能力と行動力があった。	自主的・協働的に活動に取り組み、コミュニケーション能力や行動力があった。	自らの考えでアクションを起すことはあまりないが、必要なコミュニケーション能力や行動力はあった。	自らの考えでアクションを起すことは最低限度のコミュニケーション能力や行動力はあった。	自らの考えでアクションを起すことができない。最低限度のコミュニケーション能力や行動力もほとんどなかった。												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
積極性、社会理解	積極的にアイデアを出し、採用された。他人の発言を聴き、積極的に意見した。	積極的にアイデアを出した。他人の発言を聴き、十分な理解に努めた意見した。	それなりにアイデアを出した。他人の発言を聞き、ある程度意見した。	アイデアを殆ど出せなかった。他人の意見をあまり理解できなかった。	アイデアを出せなかった。他人の意見を殆ど理解できなかった。																																				
課題解決能力と創造性	仕事を的確に発見し、進め方を共有しあいながら適切に検討し、実行できた。	仕事を進んで発見し、進め方を適切に検討し、実行できた。	仕事を発見し、進め方を検討し、ある程度実行できた。	仕事をあまり発見できず、依頼されたことだけ実行できた。	仕事を発見できず、依頼されたことも、ほとんど実行できなかった。																																				
コミュニケーション能力と行動力	他者をリードする態度で積極的に活動に取り組み、高いコミュニケーション能力と行動力があった。	自主的・協働的に活動に取り組み、コミュニケーション能力や行動力があった。	自らの考えでアクションを起すことはあまりないが、必要なコミュニケーション能力や行動力はあった。	自らの考えでアクションを起すことは最低限度のコミュニケーション能力や行動力はあった。	自らの考えでアクションを起すことができない。最低限度のコミュニケーション能力や行動力もほとんどなかった。																																				

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	宮嶋 達也(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	前期の活動における確認と振り返り シラバスの説明	演習の準備 シラバスの熟読(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
2	Planning1	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
3	Planning2	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
4	Planning3	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
5	Research activities 1	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
6	Research activities 2	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
7	Research activities 3	事前に作業しておくなどの準備をすること(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
8	Creative activities 1	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
9	Creative activities 2	事前に作業しておくなどの準備をすること(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
10	Creative activities 3	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
11	Creative activities 4	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
12	Creative activities 5	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
13	presentation	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
14	presentation	事前に作業しておくなどの準備をすること(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
15	レポート・後期活動のまとめ	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
16	1年間の活動における総括と振り返り	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が大学で必要となる数学の基礎知識及び2年のゼミナールで行うSPIに必要な知識及び思考過程をしっかりと身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)
 全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)
 全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP8に対応する。(2021年度)

到達目標

大学で必要となる数学の基礎知識及び2年のゼミナールで行うSPIに必要な知識及び思考過程を修得できる。

授業全体の内容と概要

数の計算、式の計算及び関数とグラフ等を練習問題を計算することによって、数学の問題を解く実感及びSPIに必要な数学の知識をつかませる。

授業の方法

授業は、板書で実施し、板書にて説明しながら、演習を行う。課題は学生が提出後、解説を行う。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

ゼミナールの内容を十分に理解するために予習・復習を怠らず、また講義や演習に対して積極的に取り組むこと。レポート等の提出方法についてはゼミナール時間中に指示するので、ゼミナールを欠席することのないよう留意すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	30%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
数学及びSPIに必要な基礎知識の修得	数学及びSPIに必要な基礎知識及び計算過程(思考過程)が100%理解できた。	数学及びSPIに必要な基礎知識及び計算過程(思考過程)が90%理解できた。	数学及びSPIに必要な基礎知識及び計算過程(思考過程)が80%理解できた。	数学及びSPIに必要な基礎知識及び計算過程(思考過程)が70%理解できた。	数学及びSPIに必要な基礎知識及び計算過程(思考過程)が70%も理解できなかった。
計算過程において必要な記述内容の修得	演習問題は計算過程を100%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を90%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を80%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を70%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を70%も記述したレポートにならなかった。
思考過程のプレゼンテーション	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して明確に出来た。また、質問にも正確に対応した。	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して明確に出来た。	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して出来た。	一部筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して出来た。	筋道の立った思考過程のプレゼンテーションが出来なかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス及びシラバスの説明	シラバスを読んでおくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
2	連立方程式(1)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
3	連立方程式(2)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
4	代数方程式(1)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
5	代数方程式(2)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
6	代数方程式(3)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
7	直線	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
8	放物線	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
9	円	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
10	不等式(1)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
11	不等式(2)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
12	領域	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
13	三角比	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
14	三角関数(1)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
15	三角関数(2)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
16	まとめ及び要点のフィードバック	総復習(45分)	総理解(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	向井 正伸(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	計画設計等の実務経験を活かし、多様な事例や課題解決法を紹介する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
都市や建築を構想することは、行政や都市計画者、建築家だけの仕事ではない。住民や地域に係る皆が、より良い暮らしを考えた実践した積み重ねが都市や街を形づくる。ゼミでは都市や建築のより良い未来を提案するための基礎を身につけることを目標とする。ゼミでは都市や建築を空間的な問題として扱う。
授業の位置づけ
全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度) 建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度) 建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP8に対応する。(2021年度)

到達目標
都市や建築の変遷やその社会的背景を理解し、都市や建築について自分なりの意見をもつことができる。

授業全体の内容と概要
前期で学んだことを発展・応用させるため、いくつかの課題に取り組む。グループに分かれて都市や建築について調査分析を行い、空間的な提案をまとめ発表・ディスカッションを行う。SDGs3.すべての人に健康と福祉を SDGs11.住み続けられるまちづくりを SDGs12.つくる責任 つかう責任

授業の方法
課題説明はパワーポイントを用いる。適宜プリントを配布する。重要だと思われるキーワードは必ずメモし、示された図式等はノートにスケッチをすることが望まれる。参考となる書籍・建築等を授業中に適宜紹介する。グループに分かれて調査分析し、提案を作成する。パソコンを使うため、各自ノートパソコンを準備すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する可能性がある。

アクティブラーニングの実施方法			
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
能動的な学習姿勢を望む。授業中に引用された建築、書籍に積極的に触れること。また、グループワークでは積極的に発言をし、議論をする。20分以上の遅刻は欠席とする。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>40%</td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	20%	40%	20%	10%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	20%	40%	20%	10%	10%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を越えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理解度</td> <td>授業内容を越えた自主的な学習を行なった。</td> <td>授業内容を理解し、自主的な学習を行なった。</td> <td>授業内容をほぼ理解し、自主的な学習を行なった。</td> <td>授業内容をほぼ理解し、自分なりの意見をもつことができた。</td> <td>授業内容を理解しなかった。</td> </tr> <tr> <td>調査・課題解決能力</td> <td>独自の視点で調査し、独自の手法で課題を解決することができた。</td> <td>独自の視点で調査し、独自の手法で課題を解決することができた。</td> <td>独自で調査し、課題を解決することができた。</td> <td>アドバイスをもち、調査・課題を解決することができた。</td> <td>アドバイスがあっても自発的に課題を解決することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>表現力</td> <td>構想したものを、独自性のある手法で表現し、考えを第三者に共感させることができた。</td> <td>構想したものを、独自性のある手法で表現し、考えを第三者に理解させることができた。</td> <td>構想したものを、独自の工夫で表現することができた。</td> <td>構想したものを表現することができた。</td> <td>構想したものを表現できなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	理解度	授業内容を越えた自主的な学習を行なった。	授業内容を理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自分なりの意見をもつことができた。	授業内容を理解しなかった。	調査・課題解決能力	独自の視点で調査し、独自の手法で課題を解決することができた。	独自の視点で調査し、独自の手法で課題を解決することができた。	独自で調査し、課題を解決することができた。	アドバイスをもち、調査・課題を解決することができた。	アドバイスがあっても自発的に課題を解決することができなかった。	表現力	構想したものを、独自性のある手法で表現し、考えを第三者に共感させることができた。	構想したものを、独自性のある手法で表現し、考えを第三者に理解させることができた。	構想したものを、独自の工夫で表現することができた。	構想したものを表現することができた。	構想したものを表現できなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
理解度	授業内容を越えた自主的な学習を行なった。	授業内容を理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自分なりの意見をもつことができた。	授業内容を理解しなかった。																								
調査・課題解決能力	独自の視点で調査し、独自の手法で課題を解決することができた。	独自の視点で調査し、独自の手法で課題を解決することができた。	独自で調査し、課題を解決することができた。	アドバイスをもち、調査・課題を解決することができた。	アドバイスがあっても自発的に課題を解決することができなかった。																								
表現力	構想したものを、独自性のある手法で表現し、考えを第三者に共感させることができた。	構想したものを、独自性のある手法で表現し、考えを第三者に理解させることができた。	構想したものを、独自の工夫で表現することができた。	構想したものを表現することができた。	構想したものを表現できなかった。																								

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	向井 正伸(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 計画設計等の実務経験を活かし、多様な事例や課題解決法を紹介する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明	シラバスを事前に把握する(45分)	紹介した書籍・建築事例等について調べる(45分)
2	課題1 説明	対象を事前に調べる(45分)	紹介した書籍・建築事例等について調べる(45分)
3	課題1 事例等調査	対象を事前に調べる(45分)	エスキスをフィードバックする(45分)
4	課題1 事例等調査	対象を事前に調べる(45分)	エスキスをフィードバックしまとめる(45分)
5	課題1 発表	プレゼンテーションをまとめる(45分)	発表を自己評価する(45分)
6	課題2 説明	対象を事前に調べる(45分)	講義内容を復習(45分)
7	課題2 フィールドワーク	対象を事前に調べる(45分)	フィールドワーク内容をまとめる(45分)
8	課題2 調査結果取りまとめ	フィールドワーク内容をまとめる(45分)	エスキスをフィードバックする(45分)
9	課題2 調査結果取りまとめ	対象を事前に調べる(45分)	エスキスをフィードバックしまとめる(45分)
10	課題2 調査結果発表	調査分析を行い、まとめる(45分)	発表を自己評価し、今後の課題を認識する(45分)
11	課題2 作業	提案内容を検討(45分)	エスキスをフィードバックする(45分)
12	課題2 作業	提案内容を検討(45分)	エスキスをフィードバックする。(45分)
13	課題2 作業	提案内容を検討(45分)	エスキスをフィードバックする(45分)
14	課題2 作業	提案内容を検討(45分)	エスキスをフィードバックしまとめる(45分)
15	課題2 発表	プレゼンテーションをまとめる(45分)	発表を自己評価する(45分)
16	まとめ・ディスカッション	授業を振り返る(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期		授業形態	演習・実習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)					
授業担当者(所属・職名)	佐藤 恵利(国際交流センター・センター員)		研究室等所在	本部棟3階 国際交流センター		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 恵利)		CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	基礎ゼミ B			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応。					

概要

履修目標
<p>交流を通じ、日本の時事問題や日本文化、日本の習慣などをトピックに挙げながら日本語の4技能を育成する。トピックを題材に、ディスカッションやグループワークなどの活動をし、自身の専門分野でも自分のことが十分に表現できる能力を身に付ける。大学間、または地域との交流活動に参加、また交流活動を企画、実施し、異文化理解、相互理解を得ること。</p>
授業の位置づけ
<p>経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)</p>
到達目標
<p>日本語での表現力を身に付け、自分の意見を正しい日本語で伝えることができる。他者の意見を聞き、そこから自分の意見を生み出し相手に伝えることができる。多文化との交流を積極的に楽しみ、異国(日本)での生活、大学生活をより豊かなものにする。</p>

到達目標
<p>日本語での表現力を身に付け、自分の意見を正しい日本語で伝えることができる。他者の意見を聞き、そこから自分の意見を生み出し相手に伝えることができる。多文化との交流を積極的に楽しみ、異国(日本)での生活、大学生活をより豊かなものにする。</p>

到達目標
<p>日本語での表現力を身に付け、自分の意見を正しい日本語で伝えることができる。他者の意見を聞き、そこから自分の意見を生み出し相手に伝えることができる。多文化との交流を積極的に楽しみ、異国(日本)での生活、大学生活をより豊かなものにする。</p>

到達目標
<p>日本語での表現力を身に付け、自分の意見を正しい日本語で伝えることができる。他者の意見を聞き、そこから自分の意見を生み出し相手に伝えることができる。多文化との交流を積極的に楽しみ、異国(日本)での生活、大学生活をより豊かなものにする。</p>

到達目標
<p>日本語での表現力を身に付け、自分の意見を正しい日本語で伝えることができる。他者の意見を聞き、そこから自分の意見を生み出し相手に伝えることができる。多文化との交流を積極的に楽しみ、異国(日本)での生活、大学生活をより豊かなものにする。</p>

到達目標
<p>日本語での表現力を身に付け、自分の意見を正しい日本語で伝えることができる。他者の意見を聞き、そこから自分の意見を生み出し相手に伝えることができる。多文化との交流を積極的に楽しみ、異国(日本)での生活、大学生活をより豊かなものにする。</p>

到達目標
<p>日本語での表現力を身に付け、自分の意見を正しい日本語で伝えることができる。他者の意見を聞き、そこから自分の意見を生み出し相手に伝えることができる。多文化との交流を積極的に楽しみ、異国(日本)での生活、大学生活をより豊かなものにする。</p>

<p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
<p>資格指定科目</p>

評価方法・基準

<p>評価前提条件</p> <p>全授業回数16回のうち、単位認定に必要な最低出席回数は13回とする。授業への参加、授業態度、ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。</p>												
<p>評価方法</p> <table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>35%</td> <td>5%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	30%	30%	0%	35%	5%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	30%	30%	0%	35%	5%							

<p>ループリック</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・技能</td> <td>自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすく、文法の間違いがほとんどない。声の大きさ、発音もよかった。</td> <td>自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法の間違いが目立つ。声の大きさが、発音もよかった。</td> <td>自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法、発音に問題があり、聞き取りにくかった。</td> <td>自身で考えているが、他者の協力がなく自分の言葉で表現することができない。文法、発音に問題があった。</td> <td>他者任せで、自身で考え、自分の言葉で表現しようとする姿勢が見られない。文法、発音に問題があった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・日本語での表現力等</td> <td>毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも積極的に参加している。発言も多かった。</td> <td>毎回の授業に参加し、授業に対し意欲的で真面目に取り組んでいる。積極性は弱かった。</td> <td>最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいる。積極的に活動に参加していた。</td> <td>最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいるが、授業内の活動に対し消極的であった。</td> <td>最低出席日数分授業に参加してあらず、授業態度も問題があった。</td> </tr> <tr> <td>主体性・多様性・協働性</td> <td>与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた。</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した。</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった。</td> <td>与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。</td> <td>与えられた課題に真面目に取り組まなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・技能	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすく、文法の間違いがほとんどない。声の大きさ、発音もよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法の間違いが目立つ。声の大きさが、発音もよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法、発音に問題があり、聞き取りにくかった。	自身で考えているが、他者の協力がなく自分の言葉で表現することができない。文法、発音に問題があった。	他者任せで、自身で考え、自分の言葉で表現しようとする姿勢が見られない。文法、発音に問題があった。	思考力・判断力・日本語での表現力等	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも積極的に参加している。発言も多かった。	毎回の授業に参加し、授業に対し意欲的で真面目に取り組んでいる。積極性は弱かった。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいる。積極的に活動に参加していた。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいるが、授業内の活動に対し消極的であった。	最低出席日数分授業に参加してあらず、授業態度も問題があった。	主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
知識・技能	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすく、文法の間違いがほとんどない。声の大きさ、発音もよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法の間違いが目立つ。声の大きさが、発音もよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法、発音に問題があり、聞き取りにくかった。	自身で考えているが、他者の協力がなく自分の言葉で表現することができない。文法、発音に問題があった。	他者任せで、自身で考え、自分の言葉で表現しようとする姿勢が見られない。文法、発音に問題があった。																								
思考力・判断力・日本語での表現力等	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも積極的に参加している。発言も多かった。	毎回の授業に参加し、授業に対し意欲的で真面目に取り組んでいる。積極性は弱かった。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいる。積極的に活動に参加していた。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいるが、授業内の活動に対し消極的であった。	最低出席日数分授業に参加してあらず、授業態度も問題があった。																								
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。																								

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習・実習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 恵利 (国際交流センター・センター員)	研究室等所在	本部棟3階 国際交流センター		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 恵利)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	基礎ゼミ B		

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバス、授業、評価の説明)、自己紹介	シラバスを読む・自己紹介の練習(45分)	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の役割について考える(45分)
2	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
3	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
4	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
5	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
6	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	授業内容復習(45分)
7	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
8	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
9	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
10	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
11	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
12	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
13	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
14	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
15	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
16	後期学習範囲の総括および反省・最終課題の提出(担当:佐藤)	最終課題提出の準備(45分)	授業内容復習(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	千葉 聡美(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 千葉 聡美)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政職員としての経験を活かして教職に関連する指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教員になるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び意欲を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

教育の制度や内容についてその概要を理解することができる。
 教育の諸問題についてその概要を理解することができる。
 教員になるために必要な事項についてその概要を理解することができる。
 教員に必要な語学力を身に付けることができる。

授業全体の内容及概要

各回の授業テーマについて考える
 教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などの通読
 教育に関する基本的事項についての調べ学習
 教員として求められる一般教養及び教職教養の学修
 漢字検定等への参加
 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッションを行う。板書や教材提示装置を活用する。教育に関するキーワードについての調べ学習及びその発表を行う。
 教員として求められる一般教養及び教職教養について演習を行う。テーマの考察や使用テキスト要約など端的に文章にまとめる練習を行う。
 Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教職課程を履修し、大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。
 サブメジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。
 漢字検定に真剣に取り組むこと。
 各自、ノートを用意すること。(ルースリーフは不可)
 プリント類はフラットファイルに格納し、毎回授業に持参すること。
 ○不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	20%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルに十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルに十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	千葉 聡美(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 千葉 聡美)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 学校現場や教育行政職員としての経験を活かして教職に関連する指導を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『別途購入案内する。』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『別途購入案内する。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明含む) 学習計画の作成	教職志望の理由をまとめること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
2	SDGsについて考える1 設定の背景と17の目標 学習計画の発表 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
3	SDGsについて考える 日本社会との関連 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
4	SDGsについて考える 教育との関連 授業で取り組むアイデアを交流 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
5	子どもたちの学力について考える1 学力とは 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
6	子どもたちの学力について考える 生きる力 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
7	子どもたちの学力について考える 学力調査結果 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
8	生徒指導について考える1 意義 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
9	生徒指導について考える 特別支援 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
10	生徒指導について考える 問題行動等 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
11	進路指導について考える1 労働の現状 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
12	進路指導について考える キャリア教育 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
13	障害のある子どもの保護者心理1 出生 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
14	障害のある子どもの保護者心理 家族 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
15	障害のある子どもの保護者心理 支援 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
16	後期の学修の総括及び反省	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	1年間の自らの学修姿勢を評価すること。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	河田 一郎(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 河田 一郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

建築・絵画・音楽などウィーン文化を考察し、ウィーンでの研修(希望者のみ)の準備を行う。また、このゼミナールでは就職活動時に必要になるスキルの修得を早い段階から始める。キャンパス・ライブを楽しみながら、自由な発想の展開、自己実現などをテーマに学びを広げる。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

ドイツ語圏への旅行、留学の際に、困らない程度の日常会話を身につける。

授業全体の内容と概要

ウィーンといえば、クラシック音楽である。毎回、クラシック音楽をBGMに、ゆったりとしたペースで授業を行う。ウィーン文化・見どころについてプリントを配布し、説明を行う。各自のテーマが決まった時点で、少しずつテーマについて調べ、ゼミ終了時にレポートを提出してもらう。「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では板書をしながら、ドイツ語の文法・文化を紹介する。ドイツのDVD等も見て講義形式で行う。また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

ドイツ語検定試験受験希望者には特別講義を行う。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能をほぼ修得した。	学修した知識・技能を修得したが、最低限確認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組み、最低限確認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題には積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限確認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	河田 一郎(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 河田 一郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	[ガイダンス] 授業の進め方・シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明。	シラバスの内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
2	[ウィーンのカフェの文化について]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
3	[オーストリアのワインについて]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
4	[ハプスブルク家の歴史について]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
5	[マリア・テレジアについて]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
6	[マリー・アントワネットについて]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
7	[シシーについて]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
8	[フロイトについて]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
9	[ウィーンの音楽について]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
10	[ウィーンのおペラについて]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
11	[オペラとオペレッタの違いについて]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
12	[ウィーンの食事について]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
13	[ハプスブルクの食卓について]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
14	[ザハートルテについて]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
15	[グリーヒェンバイスルについて]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
16	[レポートのプレゼンテーション] 授業改善アンケートの実施。	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照。				

概要

履修目標	社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル(問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等)を身に付ける。また、ゼミナールことにキャリア支援教育が組まれており、身に着けたスキルを将来に生かす方法を探求する。
授業の位置づけ	全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上、論文作成など、一連の方法を身に付けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できるようにする。 ・ 各自の関心に基づき社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。 ・ 関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。 ・ 研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。
------	--

授業全体の内容と概要	それぞれのゼミナール担当教員が学生に提示する「研究テーマ」に沿った形で進められる。「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。
------------	---

授業の方法	各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・制作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。資料等の提示については、板書、資料配布、プレゼンテーションソフトウェア等により行われる。課題等に関するフィードバックはコメントにてフィードバックされる。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
-------	--

アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										

履修上の注意事項	各担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に務めること。大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。前期の「基礎ゼミナール A」の授業内容も含まれる。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。
----------	---

修学サポート(合理的配慮)	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
---------------	---

資格指定科目	
--------	--

評価方法・基準

評価前提条件	単位取得の最低出席条件 10 回以上をクリアすること。												
評価方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	0%	0%	100%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他								
0%	0%	0%	0%	0%	100%								

ルーブリック	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ゼミ研究のテーマをが明確になっている。</td> <td>ゼミ研究のテーマが明確になっている。</td> <td>ゼミ研究のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の研究予定を説明できる。</td> <td>ゼミ研究のテーマに沿って雇立てができており、研究を開始している。</td> <td>ゼミ研究のテーマが明確になっている。</td> <td>左記の内容が何一つできていない。</td> </tr> <tr> <td>研究テーマに関するディスカッションができる。</td> <td>ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。</td> <td>ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。</td> <td>ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望を報告できる。</td> <td>ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。</td> <td>左記の内容が何一つできていない。</td> </tr> <tr> <td>自分の研究テーマについてのプレゼンテーションができる。</td> <td>自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。</td> <td>自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。</td> <td>自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる。</td> <td>自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。</td> <td>左記の内容が何一つできていない。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	ゼミ研究のテーマをが明確になっている。	ゼミ研究のテーマが明確になっている。	ゼミ研究のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の研究予定を説明できる。	ゼミ研究のテーマに沿って雇立てができており、研究を開始している。	ゼミ研究のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。	研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。	自分の研究テーマについてのプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる。	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。	左記の内容が何一つできていない。
評価項目	評価基準																													
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																									
ゼミ研究のテーマをが明確になっている。	ゼミ研究のテーマが明確になっている。	ゼミ研究のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の研究予定を説明できる。	ゼミ研究のテーマに沿って雇立てができており、研究を開始している。	ゼミ研究のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。																									
研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。																									
自分の研究テーマについてのプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる。	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。	左記の内容が何一つできていない。																									

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『相模原事件・裁判傍聴記「役に立ちたい」と「原告者ヘイト」のあいだ』	雨宮処凛	太田出版	2020	9784778317096	
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	担当教員によるガイダンス(シラバスの説明を含む)	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業2	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	担当教員による授業3	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	担当教員による授業4	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	担当教員による授業5	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	担当教員による授業6	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	担当教員による授業7	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	担当教員による授業8	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	担当教員による授業9	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	担当教員による授業10	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	担当教員による授業11	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	担当教員による授業12	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	担当教員による授業13	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	担当教員による授業14	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	担当教員による授業15	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	山本 一彦(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館 8F		
単位数	1 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

1年次前期の学生生活の達成と反省点を振り返り、今後の目標を明確にする。その上で、基礎ゼミナール Aのテーマとの連続として、現代の世代問題とライフコースの変化について理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

世代問題やライフコースの変化について単に知識を習得するだけでなく、自らが対処を求められる問題としてそれらを考える姿勢をもつ。

授業全体の内容と概要

基礎ゼミナール Aの中で考察した青年期問題の理解を前提とした上で、現代青年期の世代的特質と変化するライフコースの中でキャリア形成が求められることを1「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は対話形式と板書筆記を併用して行ない、必要な場合には資料を配布する。テーマによっては小文を提出してもらい、概要を発表する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	○	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習		反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

さまざまなテーマについて自ら考える「主体的・能動的」な姿勢での参加が必要である。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談受け、大学の基本方針および規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	学修した知識を確実に修得し、求められる水準を大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識を概ね修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できる水準に留まっていた。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力等	ゼミナール・テーマに積極的に取り組み、求められる水準を大きく超えて考察できていた。	ゼミナール・テーマに積極的に取り組み、求められる水準で考察できていた。	ゼミナール・テーマ取り組み、広く一般的な水準の考察に達していた。	ゼミナール・テーマに取り組みしたが、考察が最低限の水準に留まっていた。	ゼミナール・テーマへの取り組みが不十分で、内容が理解できていなかった。
テーマへの分析力・主体性	ゼミナール・テーマについて、現代社会の中の自己の問題として十分に主体的分析ができていた。	左記事項について、主体的分析が概ねできていた。	左記事項について、広く一般的な水準の分析には達していた。	左記事項について分析が最低限の水準に留まっていた。	分析が最低限の水準に届かず、ゼミナール・テーマが理解できていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	山本 一彦(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館 8F		
単位数	1 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	科目ガイダンス ゼミナール内容等シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの事前確認(45分)	ガイダンス内容の確認(45分)
2	・前期大学生生活の振り返り 1.何が反省点か?	1年次前期の振り返り(45分)	反省点等の確認(45分)
3	・(続き) 2.後期以降の目標は?	今後の目標の明確化(45分)	目標の再確認(45分)
4	・世代の問題 1.世代とは何だろうか?	世代をどうとらえるかの考察(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
5	・(続き) 1.(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
6	・(続き) 1.(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(4)
7	・(続き) 1.(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
8	・(続き) 2.現代青年期の世代問題	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
9	・(続き) 2.(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
10	・ライフコースの現代的特徴	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
11	・(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
12	・(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
13	・(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
14	・(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
15	・後期学生生活の振り返り 授業改善アンケートの実施	後期のすべての活動の振り返り(45分)	振り返り内容の再確認(45分)
16	総まとめ	15回分の内容の振り返り(45分)	総まとめの再確認(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	木村 浩紀(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 木村 浩紀)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教師に求められる能力、使命感や責任感、教育的愛情、教科や教職に関する専門的な知識、実践的指導力、総合的人間力、コミュニケーション能力、ファシリテーション能力等を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

教育の諸課題についてその概要を理解することができる。
教師に必要な知識・技能等について、理解を深めることができる。

授業全体の内容と概要

教育の諸課題について、各回のテーマごとに考える。
教育にかかわる法令、答申などの通読
教育に関する諸課題についての調べ学習
教師に求められる教職教育等の学修
SDG4「質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

教育にかかわる法令、答申などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッション等を行う。
教育課題に関するキーワードについての調べ学習及びその発表を行う。
教師に求められる教職教育等について演習を行う。
課題や発表等に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。
板書や教材提示装置を活用する。
Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教職課程を履修し、大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。
サブメジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。
各自、ノートを用意すること。(ルーズリーフは不可)
プリント類はフラットファイルに格納し、毎回授業に持参すること。
オンライン授業やハイブリッド授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	20%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
課題に取り組む意欲・態度	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	木村 浩紀(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 木村 浩紀)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する指導を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『別途案内する』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明含む)	前期の課題を整理すること。(45分)	事後課題をい次時に提出すること。(45分)
2	教育の諸課題の解決策を考える 1 ・いじめについて 個人の考えのまとめ	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題をい次時に提出すること。(45分)
3	教育の諸課題の解決策を考える 2 ・いじめについて 意見交流	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題をい次時に提出すること。(45分)
4	教育の諸課題の解決策を考える 1 ・虐待について 個人の考えのまとめ	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題をい次時に提出すること。(45分)
5	教育の諸課題の解決策を考える 2 ・虐待について 意見交流	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題をい次時に提出すること。(45分)
6	教育の諸課題の解決策を考える 3 ・いじめ・虐待について 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題をい次時に提出すること。(45分)
7	教育の諸課題の解決策を考える 1 ・家庭・地域との連携 個人の考えのまとめ	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題をい次時に提出すること。(45分)
8	教育の諸課題の解決策を考える 2 ・家庭・地域との連携 意見交流	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題をい次時に提出すること。(45分)
9	教育の諸課題の解決策を考える 3 ・家庭・地域との連携 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題をい次時に提出すること。(45分)
10	教育の諸課題の解決策を考える 1 ・教師をめぐる課題 個人の考えのまとめ	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題をい次時に提出すること。(45分)
11	教育の諸課題の解決策を考える 2 ・教師をめぐる課題 意見交流	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題をい次時に提出すること。(45分)
12	教育の諸課題の解決策を考える 3 ・教師をめぐる課題 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題をい次時に提出すること。(45分)
13	教育の諸課題の解決策を考える 1 ・自由課題 個人の考えのまとめ	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題をい次時に提出すること。(45分)
14	教育の諸課題の解決策を考える 2 ・自由課題 意見交流	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題をい次時に提出すること。(45分)
15	教育の諸課題の解決策を考える 3 ・自由課題 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題をい次時に提出すること。(45分)
16	後期の学修の絶括及び反省 授業改善アンケートの実施	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	後期の学修を振り返り、自己評価を行うこと。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

- ・前期で学んだ内容を活かしながらeスポーツを通してチームの中での自分の役割を果たすことが出来る。
- ・適切にコミュニケーションを取ることが出来る。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

- ・問題なく人間関係を構築することが出来る。
- ・相手の意見を聞き入れ、自分の意見を主張することが出来る。

授業全体の内容と概要

- ・自身が学んだことを文字に書き起こす。
- ・プレゼンテーションを行い、自分の考えをアウトプットする場を設ける。

授業の方法

- ・不測の事態が無い限り対面にて行う。
- ・Microsoft Teamsにて課題提示、提出を求める。
- ・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・欠席は認めない。体調不良等の場合は、必ず事前に連絡をすること。
- ・課題の提出は必ず期限内に行う。遅れた場合は、単位取得を認めない。
- ・遊びではなく学習の場であることを理解する。
- ・自身のPC(できればデスクトップPC)を持っていることが望ましい。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	50%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
eスポーツについての理解	eスポーツについて何を聞かれても説明をすることが出来る。	eスポーツとは何なのかを理解している。	自分の興味がある分野のeスポーツについて理解している。	eスポーツをプレイすることが出来る。	eスポーツについて理解していない。
自身のアウトプット	レポートやプレゼンテーションを作成し、自分の考えを相手に正しく伝えることが出来る。	誰かに手伝ってもらったことでも、自分の考えを相手に伝えることが出来る。	資料の作成は出来ないが、自分の考えを相手に話せる。	自分の考えを相手に正しく伝えることが出来ない。	全く自分を表現することが出来ない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	・オリエンテーション ・前期の復習	シラバスを読む(45分)	前期に何を行ったか復習する(45分)
2	・チームの作成 ・eスポーツタイトルの選択、実践	どのタイトルをやるか考える(45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出(45分)
3	・eスポーツの実践	チームで作戦を考え、練習する(45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出(45分)
4	・eスポーツの実践 ・発表資料の作成	チームで作戦を考え、練習する(45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出(45分)
5	・eスポーツの実践 ・発表資料の作成	eスポーツについて調べる(45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出(45分)
6	・eスポーツの実践 ・発表資料の作成	チームで作戦を考え、練習する(45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出(45分)
7	・eスポーツの実践 ・発表資料の作成	チームで作戦を考え、練習する(45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出(45分)
8	・eスポーツの実践 ・発表資料の作成	チームで作戦を考え、練習する(45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出(45分)
9	・eスポーツの実践 ・発表資料の作成	チームで作戦を考え、練習する(45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出(45分)
10	・中間発表	発表準備(45分)	批評を受けた部分を修正する(45分)
11	・eスポーツの実践 ・発表資料の作成、修正	チームで作戦を考え、練習する(45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出(45分)
12	・eスポーツの実践 ・発表資料の作成、修正	チームで作戦を考え、練習する(45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出(45分)
13	・eスポーツの実践 ・発表資料の作成、修正、発表練習	チームで作戦を考え、練習する(45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出(45分)
14	・eスポーツの実践 ・発表資料の作成、発表練習	チームで作戦を考え、練習する(45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出(45分)
15	・eスポーツの実践 ・発表資料の作成、発表練習	チームで作戦を考え、練習する(45分)	良かった点、反省点をレポートにて提出(45分)
16	・最終発表	発表準備(45分)	批評を受けた部分を復習する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)					
授業担当者(所属・職名)	佐藤 雅一(経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 雅一)		CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照					

概要

履修目標
グループワークを基本とした様々な演習課題や事例研究、学内外のプロジェクト活動を通して「前に踏み出す力」(主体性・働きかけ力・実行力)・「考え抜く力」(課題発見力・計画力・創造力)・「チームで働く力」(発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力)を修得する。
授業の位置づけ
経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)
到達目標
・失敗を恐れず、自分にとって困難な場面においても打開することを諦めず、最後まで前向きに取り組むことができる。 ・物事を多角的に分析し、発見した課題に対してどのように解決するかを考え抜くことができる。 ・グループの一員であることの自覚を踏まえ、多様な価値観を持つ人たちの意見を拒絶せず、柔軟な視点で物事を把握、適切な意見の発信を行うことで、グループメンバーとの良好な関係性を構築できる。

授業の位置づけ
経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)
到達目標
・失敗を恐れず、自分にとって困難な場面においても打開することを諦めず、最後まで前向きに取り組むことができる。 ・物事を多角的に分析し、発見した課題に対してどのように解決するかを考え抜くことができる。 ・グループの一員であることの自覚を踏まえ、多様な価値観を持つ人たちの意見を拒絶せず、柔軟な視点で物事を把握、適切な意見の発信を行うことで、グループメンバーとの良好な関係性を構築できる。

到達目標
・失敗を恐れず、自分にとって困難な場面においても打開することを諦めず、最後まで前向きに取り組むことができる。 ・物事を多角的に分析し、発見した課題に対してどのように解決するかを考え抜くことができる。 ・グループの一員であることの自覚を踏まえ、多様な価値観を持つ人たちの意見を拒絶せず、柔軟な視点で物事を把握、適切な意見の発信を行うことで、グループメンバーとの良好な関係性を構築できる。
授業全体の内容と概要
グループワークを基本とし、様々な演習課題や事例研究、学内外のプロジェクト活動を通して「チームで働く意義」「チームで働く難しさ」「円滑なコミュニケーションの重要性」について体感してもらい、グループワークの成果物として「レポート」「プレゼンテーション」「Webサイトデザイン・ムービー」などのいずれかを、グループ単位で制作・発表する。 本科目は、以下のSDGs関連授業である。 ・「SDG 8:働きがいも経済成長も」 ・「SDG 9:産業と技術革新の基盤をつくろう」 ・「SDG 16:平和と公正をすべての人に」 ・「SDG 17:パートナーシップで目標を達成しよう」 その他、プロジェクト活動のテーマによって、追加されることがある。

授業の方法
グループで取り組む演習課題や事例研究、学内外のプロジェクト活動開始時点では、その目的や最終目標、背景などについて資料等を提示しながら説明する。その後は、各グループでディスカッション等を行いながら、企画・計画の立案、目標設定、予算作成、調査、制作、発表、自己評価、改善、発表といったPDC Aサイクルを軸とする一連の工程を行う。都度アドバイスやフィードバックを行い、各グループが円滑に進むようサポートする。ゼミナール活動において円滑なコミュニケーションを図れるよう、次の学修支援を実施する。 ・授業時間外において質問及び相談があれば、Teamsチャットまたは音声通話にて受け付ける。 ・提示した教材は、全てTeamsにて公開・配信する。 ・グループワークにおいて、適切かつ円滑なコミュニケーションが図れるよう、適宜介入しサポートする。 ・本科目内で最低1回は個人面談を行い、取り組み状況について確認する。 ・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
・所属学科の制限は設けない。 ・課題制作(デザイン制作)を行う場合は、全学科対応できるよう考慮した内容とする。 ・評価については、チームでの取り組みの姿勢や態度を重視する。 ・取り組んだ結果、「失敗した」としても減点しない。あくまでも、取り組みの「プロセス(過程)」を評価対象とするので、失敗を恐れず積極的に挑戦すること。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準												
評価前提条件												
・単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上とする。 ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	30%	0%	70%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	30%	0%	70%	0%							

ルーブリック																																			
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間に係るレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>前に踏み出す力</td> <td>一定の行動について、主体的に取り組む、周囲に働きかけて巻き込むことができる。目的を持って行動することができる。</td> <td>一定の行動について、主体的に取り組む、周囲に働きかけて巻き込むことができる。一定の行動について、主体的に取り組む、周囲に働きかけて巻き込むことができる。</td> <td>一定の行動について、主体的に取り組む、周囲に働きかけて巻き込むことができる。</td> <td>一定の行動について主体的に取り組むことができた。</td> <td>ほぼ全ての行動について主体的に取り組むことができなかった。</td> </tr> <tr> <td>考え抜く力</td> <td>課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができる。その解決策が効果的で新たな価値を創造することができる。</td> <td>課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができる。</td> <td>課題を発見し、解決策を見出すことができた。</td> <td>課題を発見することができる。</td> <td>課題を発見することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>チームで働く力</td> <td>他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して意見集約ができ、反対意見に対しても柔軟に対応することができた。</td> <td>他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して、意見集約することができた。</td> <td>他の学生の意見をしっかりと傾聴することができた。</td> <td>他の学生の意見を最低限傾聴することができた。</td> <td>他の学生の意見を傾聴することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>成果物の完成度と関与(学意欲)</td> <td>成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として十分に関与し、主体的に行動し、完成させることができた。</td> <td>成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として十分に関与し、完成させることができた。</td> <td>成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として十分に関与し、完成させることができた。</td> <td>成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として最低限関与し、完成させることができた。</td> <td>成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として関与せず、完成させることができなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に係るレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	前に踏み出す力	一定の行動について、主体的に取り組む、周囲に働きかけて巻き込むことができる。目的を持って行動することができる。	一定の行動について、主体的に取り組む、周囲に働きかけて巻き込むことができる。一定の行動について、主体的に取り組む、周囲に働きかけて巻き込むことができる。	一定の行動について、主体的に取り組む、周囲に働きかけて巻き込むことができる。	一定の行動について主体的に取り組むことができた。	ほぼ全ての行動について主体的に取り組むことができなかった。	考え抜く力	課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができる。その解決策が効果的で新たな価値を創造することができる。	課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができる。	課題を発見し、解決策を見出すことができた。	課題を発見することができる。	課題を発見することができなかった。	チームで働く力	他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して意見集約ができ、反対意見に対しても柔軟に対応することができた。	他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して、意見集約することができた。	他の学生の意見をしっかりと傾聴することができた。	他の学生の意見を最低限傾聴することができた。	他の学生の意見を傾聴することができなかった。	成果物の完成度と関与(学意欲)	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として十分に関与し、主体的に行動し、完成させることができた。	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として十分に関与し、完成させることができた。	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として十分に関与し、完成させることができた。	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として最低限関与し、完成させることができた。	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として関与せず、完成させることができなかった。
評価項目		評価基準																																	
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に係るレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																														
前に踏み出す力	一定の行動について、主体的に取り組む、周囲に働きかけて巻き込むことができる。目的を持って行動することができる。	一定の行動について、主体的に取り組む、周囲に働きかけて巻き込むことができる。一定の行動について、主体的に取り組む、周囲に働きかけて巻き込むことができる。	一定の行動について、主体的に取り組む、周囲に働きかけて巻き込むことができる。	一定の行動について主体的に取り組むことができた。	ほぼ全ての行動について主体的に取り組むことができなかった。																														
考え抜く力	課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができる。その解決策が効果的で新たな価値を創造することができる。	課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができる。	課題を発見し、解決策を見出すことができた。	課題を発見することができる。	課題を発見することができなかった。																														
チームで働く力	他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して意見集約ができ、反対意見に対しても柔軟に対応することができた。	他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して、意見集約することができた。	他の学生の意見をしっかりと傾聴することができた。	他の学生の意見を最低限傾聴することができた。	他の学生の意見を傾聴することができなかった。																														
成果物の完成度と関与(学意欲)	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として十分に関与し、主体的に行動し、完成させることができた。	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として十分に関与し、完成させることができた。	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として十分に関与し、完成させることができた。	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として最低限関与し、完成させることができた。	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として関与せず、完成させることができなかった。																														

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 雅一(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 雅一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	【オリエンテーション】 シラバスの説明等	シラバスを確認する(45分)	履修登録結果を確認する(45分)
2	【ビギナーズセミナー】 前期の単位修得状況や学修成績から、今後の学修への取り組み方について説明する。	学生便覧を読む(45分)	不明な点をまとめ、調べる(45分)
3	【ビギナーズセミナー】 前期の単位修得状況や学修成績から、今後の学修への取り組み方について説明する。	学生便覧を読む(45分)	不明な点をまとめ、調べる(45分)
4	【コンセンサスゲーム・演習課題】 グループディスカッションの練習を行う。	グループディスカッションのコツについて調べる(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
5	【コンセンサスゲーム・演習課題】 グループディスカッションの練習を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	グループディスカッションの反省点を整理する(45分)
6	【学内プロジェクト活動】 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
7	【学内プロジェクト活動】 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
8	【学内プロジェクト活動】 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
9	【学内プロジェクト活動】 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
10	【学内プロジェクト活動】 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
11	【学内プロジェクト活動】 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
12	【学内プロジェクト活動】 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
13	【学内プロジェクト活動】 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
14	【学内プロジェクト活動】 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
15	【学内プロジェクト活動(成果発表会)】 グループごとに取り組んだ内容について、プレゼンテーションを行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	反省点をまとめる(45分)
16	【まとめ・総評】	前回までの授業内容を確認する(45分)	フィードバックの内容をまとめる(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	塩崎 大輔(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

地域調査に必要な情報収集・読解・まとめ・発表を行うための基礎的な能力を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

地域調査に必要な情報収集能力の基礎を身につける。
先行研究を収集・レビューし、まとめる基礎的な能力を身につける。
地理空間情報を活用する能力を身につける。

授業全体の内容と概要

本授業は北広島市や北海道における先行研究・GISの活用を通して、地域に対する理解度を高め、地域課題の発見や課題解決のための基礎的な能力を育成することを目標とする。またそうして得られた調査結果や課題をレポートにまとめ表現する能力を育成する。
*SDG11「住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

前半は地域調査に必要な先行研究のレビューをまとめ、発表し議論する。
後半は地域調査に必要なGIS・地理空間情報活用方法を説明する。
最終的にそれらの成果をレポートにまとめる。
なお、レポートにはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席について
毎回出席することが前提となるが、やむを得ず欠席する場合は、担当教員に必ず事前連絡すること。無断欠席は厳禁。

PCについて
本ゼミは地理情報システムを用いるためPCが必要となる。ノートPCを持っている人は持参すること。なお、ゼミ中に貸し出せるPCは4台までとする。

その他
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
地域調査法基礎	レポート課題において、9割以上の得点を上げた。	レポート課題において、8割以上の得点を上げた。	レポート課題において、7割以上の得点を上げた。	レポート課題において、6割以上の得点を上げた。	レポート課題において、6割未満の得点であった。
情報収集・活用能力	複数の先行研究を収集し、高いレベルでまとめることができた。	複数の先行研究を収集し、まとめることができた。	先行研究を収集し、まとめることができた。	先行研究を収集することができた。	先行研究を収集することができなかった。
地理情報活用能力	GISを用いて、複数の地理空間情報を高いレベルで活用することができた。	GISを用いて、複数の地理空間情報を活用することができた。	GISを用いて、地理空間情報を活用することができた。	GISを活用することができた。	GISを活用することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	塩崎 大輔(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、授業の内容・進め方・評価の仕方ガイダンス	事前にシラバスを読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
2	地域に関する先行研究収集	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	先行研究を収集すること。(90分)
3	地域に関する先行研究レビュー	先行研究を収集すること。(90分)	先行研究の内容をまとめること。(90分)
4	地域に関する先行研究発表	発表準備をすること。(90分)	先行研究の内容をまとめること。(90分)
5	地域に関する先行研究発表	発表準備をすること。(90分)	先行研究の内容をまとめること。(90分)
6	地域に関する先行研究発表	発表準備をすること。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
7	地理情報システム	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
8	地理情報システム	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
9	地理情報システム	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
10	地理情報システム	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
11	地理情報システム	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
12	地理情報システム	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
13	地域調査結果報告	報告の準備をしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
14	地域調査結果報告	報告の準備をしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
15	地域調査結果報告	報告の準備をしておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
16	まとめ、課題(レポートなど)の解説 授業改善アンケートの実施	レポート課題等を作成すること。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築計画 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)		研究室等所在	2号館3階	
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

建築計画は、公共施設をはじめ地域に居住する住民の生活に貢献する商業施設等を対象に、現代の社会状況のなかでどのように計画されなければならないかという視点で学ぶ。そのためには各種建築に求められる役割と、建築としてどのように具体的な計画内容と結びつけていかなければならないかを理解することを目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP1, DP3, DP4に対応する。(2024年度)
 建築学科のDP1, DP2に対応する。(2023・2022年度)
 建築学科のDP2, DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

各種建築を対象に、その建築はどのような特徴的なはたらきをもつ建築であるか(基本事項)、どのような社会状況によって建築の役割も変化してきたのか、今後その建築のあるべき姿について等を考察する力を身につけ、それぞれの設計活動に活用できるようになることを目標とする。

授業全体の内容と概要

授業の前半では、対象建築の歴史的背景から現在の建築に求められる機能などの基本事項を解説する。後半では建築をとりまく社会状況をデータや資料をもとに理解し把握する内容になっている。
 「SDGs11.住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業ではテキストのほかに、毎回配布する資料(テキストの内容を補充)を用いて授業を進める。授業の出席を重視するため、原則として授業資料は授業時間開始時のみ配布する。授業内容についての理解度を確認するため、次回授業開始時に小テストをおこなう。小テスト終了後、回答と内容について講評する。基本的に授業は対面で実施するが、不測の事態が起きた際に、授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業開始時に配布する着席票に氏名を記入し回収するので、遅刻者は欠席扱いとなる。また、着席票をもとに意見発表を求め、受講態度もチェックされるので留意すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数10回以上)、毎回授業開始時におこなう小テスト(前回のふり返りテスト)が定期試験の基盤となるため、授業欠席により小テスト未受講は成績評価、さらには不合格に直結することになるので注意すること。最終評価は定期試験、中間テスト(振り返り小テスト)、その他により決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	20%	0%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
公共施設を主体に基本事項としてその施設に求められる役割と機能を理解する。	公共施設の基本的機能および多機能化の可能性への展開の理解を含め、今後の施設のあり方までを理解できた。	公共施設の基本的機能、今後の施設のあり方までを理解できた。	公共施設の基本的機能、および多機能化の可能性を理解できた。	公共施設の基本的機能を理解できた。	公共施設の役割を理解することができなかった。
対象となる施設機能に対して求められる空間構成や諸室構成を理解する。	各種施設の機能と空間構成の関係性およびそれに伴う諸室構成を理解できた。	各種施設の機能と空間構成と基本的諸室構成を理解できた。	各種施設の機能と室構成を理解できた。	各種施設の室構成を理解できた。	施設機能を理解することができなかった。
社会状況により施設のあり方が変化すること、将来的に施設との関係も含めその施設及びあるべき姿について考察する。	社会状況の変化に伴い公共施設の施設機能が変化した際の施設との関係も変化したり施設の在り方が替わることなどを理解できた。	社会状況の変化に伴い公共施設の役割も変化したり施設の在り方が替わることなどを理解できた。	社会状況の変化に伴い公共施設の役割も変化したことを理解できた。	社会状況に伴い施設が変化することを理解できた。	公共施設に求められる施設像が理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築計画 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)		研究室等所在	2号館3階	
単位数	2	(単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『わかる建築学 建築計画 [第二版]』	浅野平八他	学芸出版			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス、シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、授業計画の説明	シラバス事前確認(90分)	教科書確認(90分)
2	計画共通事項 パリアフリー法	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
3	図書館	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
4	スポーツ施設	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
5	幼稚園・保育所	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
6	学校	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
7	美術館・博物館	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
8	公民館・コミュニティ施設	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
9	宿泊施設	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
10	医療施設	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
11	福祉施設	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
12	商業施設・駐車場、業務施設(定義と分類, コアタイプ, オフィスレイアウト, 設備計画, EV計画)	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
13	戸建住宅	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
14	集合住宅	該当単元予習(90分)	授業資料復習(90分)
15	振返り試験	小テスト全体復習(90分)	振返り試験復習(90分)
16	総評(試験結果発表, 成績評価と解説) 授業改善アンケートの実施	資料参照(90分)	全体の振返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	基礎統計演習 (M) (科目ナンバリング:)				
授業担当者 (所属・職名)	河野 善文 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標

複数の基本統計量とそれを組み合わせたデータの読みかたを理解することで、統計にだまされない能力を身につける。また、統計的有意性や推測統計の考え方を理解することで、統計分析の結果が意味することを理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

複数の基本統計量を組み合わせて、データの特性について述べることができる。正規分布に従う分布について、統計的有意性を判断できる。推測統計の考え方の枠組みがわかる。

授業全体の内容と概要

数理・データサイエンス教育の関連授業科目であり、各種データの分析に必要な基本統計量や統計分析の基礎を学ぶ。具体的には、代表値などの基本統計量やヒストグラムによるデータの要約・整理、基本統計量を用いたデータ分析、推測統計学の考え方などについて学ぶ。また、統計量の定義や統計の理論を学ぶだけでなく、チームスポーツ競技の試合結果や選手データ、過去の気象データ、株価データなどを用いた演習を行う。

授業の方法

各回の計画にそって、板書による講義とノートをもちいた演習とを組み合わせた授業をおこなう。講義では、現実データも使用しながら基本統計量や推測統計の考え方について解説をおこなう。演習では、実際にノートを使って統計量を計算したり・グラフを描いたりする。さらに、得られた計算結果やグラフに関する自分なりの解釈も検討する。また、受講生の理解度を把握して解説・指導する目的で、受講生に対する質問やアクションペーパー、Microsoft Forms等のWebフォームを利用する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

基礎統計の演習では、統計量の計算や統計データにかんする意見をまとめるために、電卓やノートが必要である。平常点は、この演習への取り組みを評価するため、欠席・遅刻することなく授業に参加して演習に取り組むことが重要である。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は試験を除く10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本統計量・グラフの理解	複数の基本統計量とグラフとを比較・組み合わせてデータを分析できた。	複数の基本統計量やグラフを求めて、データの性質を読みとれた。	ひとつの基本統計量もしくはグラフを求めて、データの性質を読みとれた。	データから基本統計量を求める・グラフを描くことができた。	基本統計量を求めることができなかった。グラフが描けなかった。
統計学の考え方の理解	推測統計の考え方を理解して、かつ正規分布に従う分布の事例で統計的有意性の判断ができた。	推測統計の考え方を理解し、または正規分布に従う分布の事例をもとに統計的有意性を判断できた。	統計的有意性の意味や推測統計の考え方を説明できた。	推測統計の基礎的な考え方がある程度説明できた。	推測統計の考え方を説明できなかった。
統計学の用語の理解	事例をあげて統計学の基礎的な用語を説明できた。	事例をあげて統計学の基礎的な用語がある程度説明できた。	統計学の基礎的な用語を説明できた。	推測統計の基礎的な用語がある程度説明できた。	推測統計の用語を説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	基礎統計演習 (M) (科目ナンバリング:)				
授業担当者 (所属・職名)	河野 善文 (経営学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『完全独習 統計学入門』	小島 寛之	ダイヤモンド社	2006	4478820090	
2	『数学ガールの秘密ノート やさしい統計』	結城 浩	SBCクリエイティブ	2016	4797387122	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	この授業で学ぶこと ・授業改善アンケート結果反映の説明 ・授業計画(シラバス)の説明	統計とは何か調べる(90分)	この授業で学ぶことについてノートにまとめる(90分)
2	データを代表する値: ・中央値と平均値・最頻値と平均値	代表値とは何か調べる(90分)	授業で学んだ代表値のまとめと演習問題(90分)
3	データの分布と代表値 ・範囲(レンジ)と最大値・最小値・分布と代表値	範囲(レンジ)について調べる(90分)	範囲のまとめと演習問題(90分)
4	度数分布表によるデータの整理 ・度数分布表とヒストグラム	度数分布とヒストグラムについて調べる(90分)	度数分布表・ヒストグラムのまとめと演習問題(90分)
5	グラフによるデータの直感的理解: ・範囲・四分位範囲と分布 ・箱ひげ図と価格変動分析	範囲・四分位範囲を調べる(90分)	グラフと分布との関係のまとめと演習問題(90分)
6	データのバラツキを知る ・バラツキの代表値: 標準偏差	標準偏差について調べる(90分)	標準偏差の計算のまとめと演習問題(90分)
7	バラツキとリスク ・変動係数とは ・バラツキによるビジネス・リスクの分析	変動係数について調べる(90分)	変動係数とバラツキのリスクに関するまとめ、演習問題(90分)
8	バラツキの事例と演習 ・リターンとリスクの資産運用分析	標準偏差とは何か調べる(90分)	標準偏差の計算のまとめと演習問題(90分)
9	統計でもっとも重要な分布 ・正規分布の特徴・正規分布を描いてみる	正規分布について調べる(90分)	正規分布の演習問題(90分)
10	統計的有意性と正規分布 ・身長平均・標準偏差と分布・標準偏差と統計的有意性	正規分布と統計的有意性の関係について調べる(90分)	標準偏差と統計的有意性のまとめと演習問題(90分)
11	推測統計の考え方	推測統計とは何かについて調べる(90分)	推測統計の考え方のまとめ(90分)
12	推測統計と標本調査: ・母集団と標本	母集団と標本について調べる(90分)	標本調査の考え方のまとめ(90分)
13	信頼区間と推定の考え方 ・推定の考え方と例	推定とは何かについて調べる(90分)	推定の考え方のまとめ(90分)
14	検定の考え方 ・仮説検定の考え方と例	仮説検定とは何かについて調べる(90分)	仮説検定の考え方のまとめ(90分)
15	推測統計のまとめ	これまでに学んだことを復習する(90分)	推測統計についてまとめる(90分)
16	定期試験(60分)と試験の説明 授業改善アンケートの実施	各回の演習問題に再度とりくむ(90分)	試験にでた問題の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	基礎統計演習 (S) (科目ナンバリング:)				
授業担当者 (所属・職名)	杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標

量的調査における記述統計(最大値・最小値、分散、歪度、標準偏差、平均値、範囲)と多変量解析、重回帰分析、因子分析、ロジスティック回帰分析の理論と基本的な算出方法、計算方法を身に付ける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP5に対応する(2023・2022年度)

到達目標

記述統計を説明することができる。
積分応用の意味を説明することができる。
各種多変量解析の方法論を説明することができる。

授業全体の内容と概要

データの分析に必要な基本統計量や統計分析の基礎を学ぶ。各種社会調査の統計データを使い、その分析方法と算出方法を演習形式で行い、最終的には、社会科学で扱うデータ分析の理論をマスターする。
数理・データサイエンス教育の関連授業科目

授業の方法

各回の講義プリントを教員が配布し、量的調査における記述統計、分析方法の概念と数式を説明したうえで、実際のデータを使い、学生が各種数式を使って計算を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	〇 双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

基礎統計の演習では、統計量の計算や統計データに関する意見をまとめるために、電卓やノートが必要である。平常点は、この演習への取り組みを評価するため、欠席・遅刻することなく授業に参加して演習に取り組むことが重要である。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
記述統計の理解	平均値、標準偏差、最大・最小値、中央値、最頻値、歪度の概念と理論を理解でき、その算出方法を習得した。	平均値、標準偏差、分散の概念について理解でき、その計算方法を習得した。	中央と、最頻値、平均値の関係を理解し、正規分布上の置ける意味を理解できた。	最大値と最小値、範囲について理解できた。	記述統計について何一つ理解できなかった。
相関についての理解	正・負の相関、相関係数についての概念と算出方法を理解し、相関係数を使って数値を算出できた。	相関係数を使って、数値を算出できた。	正・負の相関と相関係数の概念について理解できた。	正・負の相関の概念について理解できた。	相関について理解できなかった。
多変量解析についての理解	回帰分析、重回帰分析、ロジスティック回帰分析、因子分析の方法を理解し、実際の数値を算出できた。	回帰分析、重回帰分析、ロジスティック回帰分析の方法について理解し、実際の数値を算出できた。	回帰分析、重回帰分析、ロジスティック回帰分析、因子分析の方法を理解できた。	回帰分析、重回帰分析の方法を理解できた。	多変量解析について何も理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	基礎統計演習 (S) (科目ナンバリング:)				
授業担当者 (所属・職名)	杉本 大輔 (社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	この授業で学ぶこと ・統計とは ・授業計画 (シラバス) の説明 ・授業改善アンケート結果反映の説明	統計とは何か調べる (90分)	統計とは何かとこの授業で学ぶことについてノートにまとめる (90分)
2	記述統計 ・中央値と平均値 ・最頻値と平均値	記述統計とは何か調べる (90分)	授業に出てきた代表値のまとめと演習問題 (90分)
3	データの分布と代表値との関係 ・範囲 (レンジ) と最大値・最小値 ・分布と代表値	範囲 (レンジ) について調べる (90分)	範囲のまとめと演習問題 (90分)
4	平均値と分散	分散とは何か調べる (90分)	平均値と分散のまとめと演習問題 (90分)
5	分散と標準偏差	標準偏差とは何か調べる (90分)	平均値と分散と標準偏差のまとめと演習問題 (90分)
6	正の相関、負の相関	相関とは何かを調べる (90分)	正・負の相関のまとめと演習問題 (90分)
7	相関係数	相関係数について調べる (90分)	正・負の相関と相関係数の関係のまとめ (90分)
8	相関係数	相関係数とは何か調べる (90分)	ピアソンの相関係数の計算のまとめと演習問題 (90分)
9	回帰分析	回帰分析について調べる (90分)	回帰分析と相関に関するまとめ、演習問題 (90分)
10	重回帰分析	重回帰分析の特徴について調べる (90分)	重回帰分析に関する演習問題 (90分)
11	ロジスティック回帰分析	ロジスティック回帰分析について調べる (90分)	ロジスティック回帰分析の演習問題 (90分)
12	因子分析	因子分析について調べる (90分)	因子分析のまとめと演習問題 (90分)
13	全数調査と標本調査	標本調査とは何かについて調べる (90分)	サンプリングの考え方のまとめ (90分)
14	サンプリングの方法 (1) - サンプリングの理論 -	サンプリングの方法について調べる (90分)	サンプリングの考え方のまとめ (90分)
15	サンプリングの方法 (2) - 演習問題 - 授業改善アンケートの実施	サンプリングの種類について調べる (90分)	サンプリングの各種算出方法のまとめ (90分)
16	定期試験 (60分) と試験の説明 (各回の演習問題に再度とりくむ (90分)	試験にでた問題の復習 (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年、建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	基礎統計演習 (D・A) (科目ナンバリング:)				
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

自然科学や社会科学、医学などの学問分野だけでなく、ビジネスの世界でも統計学は活用されている。目的に応じて調査や実験が行われているが、観測したい事象のすべてを網羅的に観測できない場合がある。ここでは、一部のデータ(標本)からデータ全体(母集団)の特性を推測する標本調査をあらかじめ、推定および検定という推測統計の手法について学ぶ。

授業の位置づけ

デザイン・建築学科のDP1、DP2、DP4に対応する。(2024年度)
 デザイン・建築学科のDP2に対応する。(2023・2022年度)
 デザイン・建築学科のDP1、DP4に対応する。(2021年度)

到達目標

標本平均についての中心極限定理を理解し、推定手法と検定手法についてはそれぞれの考え方を説明できる。

授業全体の内容と概要

教壇・データサイエンス・AI教育プログラム(数理基礎)の関連授業科目。
 「SDG 4 質の高い教育をみんなに」の関連科目。
 統計量と標本分布については自由度と標本分布表の使い方を理解する。推測統計では、推定手法および検定手法の考え方と処理手順について理解する。授業は、コンピュータ室において表計算ソフトExcelを活用してデータ処理を行う。統計学の専門用語が多く出てくるため、理解するには時間がかかるが、多くの練習問題に触れることで処理手順と専門用語の意味を理解してもらおう。

授業の方法

授業は教科書及びパワーポイントで実施し、必要な統計の処理の流れを説明した後に、演習問題を行う。データ処理には表計算ソフトExcelを使用する。一つのデータ処理をするたびに机間巡視を行って学生の計算状況を確認するとともに、学生の不明点・質問は、チャット形式の支援システムで迅速に回答する。その後、授業内で解答を呈示してフィードバックする。
 不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。
 欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・「統計学入門」の履修・修得を履修の前提とする。
- ・Excelを活用して問題を解く場合に、自分のノートPCを用いて良い。
- ・大学のPCを利用する場合にはUSBメモリーを持参すること。
- ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	15%	0%	0%	25%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
統計量と標本分布についての理解	不偏分散と標本分散について理解し、自由度と標本分布について理解できた。	不偏分散の考え方について理解できた。	さまざまな標本分布表の使い方を理解できた。	中心極限定理について理解できた。	中心極限定理について理解できなかった。
推定手法についての理解	与えられた条件から推定に用いる確率分布を選ぶことができ、区間推定の信頼区間も導出できた。	信頼係数に対応する限界値と信頼限界の幅についての導出方法を理解できた。	与えられた統計データの条件から推定に用いる確率分布を選ぶことができた。	推定手法の考え方を理解できた。	推定手法の考え方を理解できなかった。
検定手法についての理解	限界値と実現値を計算して、帰無仮説が棄却されるかどうかを判断できた。	有意水準に対応する限界値と、検定統計量の実現値を求める方法を理解できた。	検定統計量の分布を定めることができた。	検定手法の考え方を理解できた。	検定手法の考え方を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年、建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	基礎統計演習 (D・A) (科目ナンバリング:)				
授業担当者 (所属・職名)	伊藤 裕康 (建築学科・教授)	研究室等所在	2号館 8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『身につく統計学』	伊藤正義/伊藤公紀	森北出版	2018	9784627082113	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明/情報モラル及び情報セキュリティ/データの整理(表計算ソフトExcel)	シラバスと教科書をよく読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと(90分)
2	標本平均の分布と中心極限定理	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと(90分)
3	推測統計に用いられる標本分布	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと(90分)
4	推定の考え方と手順	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと(90分)
5	母平均の推定	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと(90分)
6	母分散の推定	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと(90分)
7	母比率の推定	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと(90分)
8	母相関係数の推定	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと(90分)
9	推定の演習問題	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと(90分)
10	検定の考え方と手順	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと(90分)
11	母平均の検定	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと(90分)
12	母平均の差の検定	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと(90分)
13	分散比の検定	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと(90分)
14	母分散の検定	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと(90分)
15	検定の演習問題	専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと(90分)
16	授業改善アンケートの実施/定期試験(80分の試験終了後、解説を行う)	試験範囲について復習しておくこと(90分)	試験内容について復習しておくこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	データサイエンス・プログラム (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)・近澤 潤(経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	2号館7階または1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。または、事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

<p>履修目標</p> <p>・ 数理・データサイエンス・AIの基礎的素養を深めることを目的とし、地域社会が抱える課題に対して、データサイエンスの知識・技術を活用して解決する方策を導き出す実践力を習得する。</p> <p>・ 学生間のコミュニケーションを通して、分析・考察をより深め、プロジェクトを完遂する。</p> <p>・ PBL (Project Based Learning / プロジェクト型学習) を通じて、プロジェクト管理能力、ディスカッションスキル、プレゼンテーションスキル、ドキュメント作成スキル、設計力、計画力、コミュニケーションの向上を図り、複合・応用的なスキルを習得する。</p>

授業の位置づけ

<p>経営学科のDP2、DP4に対応する。(2023・2022年度)</p> <p>社会福祉学科のDP2、DP4に対応する。(2023・2022年度)</p> <p>デザイン学科のDP2、DP4に対応する。(2023・2022年度)</p> <p>建築学科のDP2、DP4に対応する。(2023・2022年度)</p>

到達目標

<p>・ 数理・データサイエンス・AIに関する基礎知識・技術を活用した課題解決への取り組みについて体感する。</p> <p>・ 地域社会が抱える課題に関心を持ち、多角的に分析し、解決する方策を考え抜く力を習得する。</p> <p>・ グループの一員であることを自覚し、多様な価値観を認め合い、柔軟な視点で適切な意見を発信する。</p>

授業全体の内容と概要

<p>Society5.0や、データ駆動型社会などと称される現在において、文理問わず、幅広い分野においてデータサイエンス・AIやICTの活用できる基礎的素養を習得し、課題の発見・解決のために活用できる能力が必要となる。本科目では、将来、幅広い分野でデータサイエンスやICTを実際に活用できるよ、これまで習得した知識・技術を活用して、実際に自分たちの周りにある課題の解決に挑戦する。</p>
--

本科目は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム(情報リテラシー)の関連授業科目である。

- 本科目は、以下のSDGs関連授業である。
- ・「SDG 8:働きがいも経済成長も」
 - ・「SDG 9:産業と技術革新の基盤をつくろう」
 - ・「SDG11:住み続けられるまちづくりを」
 - ・「SDG17:パートナーシップで目標を達成しよう」

授業の方法

<p>本科目は、プロジェクト形式で行うため、学生間のコミュニケーションやディスカッション、グループワークなど主体的に取り組む姿勢が重要となる。プロジェクトの開始にあたり、地域社会が抱える課題やその背景、最終目標などについて資料等を、プロジェクター及び大型モニターに提示しながら、解説する。その後、ディスカッションなどを行いながら課題解決に向け、企画・計画の立案、目標設定、予算作成、調査、分析、制作、発表、自己評価・改善といったPDCAサイクルを軸とした一連の工程を行う。担当教員は、都度アドバイスやフィードバックを行い、プロジェクトが円滑に進むようサポートする。</p>
--

- 円滑なコミュニケーションが図れるよう、次の学習支援を実施する。
- ・ 授業時間外において質問及び相談があれば、Teamsチャットまたは音声通話にて受け付ける。
 - ・ 提示した教材は、全てTeamsにて公開・配信する。
 - ・ 一連の活動において、適切かつ円滑なコミュニケーションが図れるよう、適宜介入しサポートする。
 - ・ 不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・ 受講条件あり
- ・ 本科目は「情報基礎演習」で習得した知識を踏まえた高度な技術が求められ、かつデータサイエンスに関して高い関心を持ち主体的な取り組みが必要であることから、成績評価が「S(秀)・A(優)」のいずれかであることを条件とする。
- ・ 本科目受講を希望する場合は、必ず第1回授業に出席すること。
- ・ 本科目はプロジェクト形式で行うため、積極的に他の学生とのコミュニケーションを図ること。

修学サポート(合理的配慮)

<p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
--

資格指定科目

評価方法・基準

<p>評価前提条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上とする。 ・ 遅刻及び早退は20分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。 ・ 評価については、プロジェクトでの取り組みの姿勢や態度、貢献度を重視する。 ・ 取り組みの中で「失敗した」としても減点しない。あくまでも、「プロセス(過程)」を評価対象とするので、失敗を恐れず積極的に挑戦すること。
--

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に係るレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
数理・データサイエンス・AIの知識・技術を活用した課題解決	課題解決に向け、数理・データサイエンス・AIの知識・技術を活用して課題解決	課題解決に向け、数理・データサイエンス・AIの知識・技術を活用して課題解決	課題解決に向け、数理・データサイエンス・AIの知識・技術を活用して課題解決	課題解決に向け、数理・データサイエンス・AIの知識・技術を活用して課題解決	数理・データサイエンス・AIの知識・技術を活用できなかった。
地域社会への関心・課題への主体的な取り組み	地域社会に非常に高い関心を持ち、リーダシップを発揮して、課題に主体的に取り組むことができた。	地域社会に非常に高い関心を持ち、他の学生と関わり合いながら、課題に主体的に取り組むことができた。	地域社会に高い関心を持ち、課題に主体的に取り組むことができた。	地域社会に関心を持ち、課題に主体的に取り組むことができた。	地域社会に関心を持てず、課題に主体的に取り組むことができなかった。
課題解決のために考え抜く姿勢	課題解決に向け、分析結果やディスカッションをもとに、他の学生の価値観を尊重しながら、論理立てて考え抜くことができた。	課題解決に向け、分析結果やディスカッションをもとに、他の学生の価値観を尊重しながら、論理立てて考え抜くことができた。	課題解決に向け、分析結果やディスカッションをもとに、考え抜くことができた。	課題解決に向け、考え抜くことができた。	途中で考えることを諦めてしまった。
柔軟な視点と発信力	グループの一員であることを自覚し、多様な価値観を認め合い、他の学生が意見をしやすい工夫を講じた上で、柔軟かつ独自の視点で適切な意見を発信できた。活発なディスカッションにできた。	グループの一員であることを自覚し、多様な価値観を認め合い、他の学生が意見をしやすい工夫を講じた上で、柔軟かつ独自の視点で適切な意見を発信できた。	グループの一員であることを自覚し、多様な価値観を認め合い、柔軟かつ独自の視点で適切な意見を発信できた。	グループの一員であることを自覚し、多様な価値観を認め合い、柔軟な視点で適切な意見を発信できた。	グループの一員であることを自覚できず、意見を発信できなかった。
プロジェクト活動への理解とスキルの習得	プロジェクトとは何かを十分に理解し、チームのために自分に必要なスキルは何かを主体的に考え、習得できた。また、そのスキルを他の学生に共有できた。	プロジェクトとは何かを十分に理解し、チームのために自分に必要なスキルは何かを主体的に考え、習得できた。	プロジェクトとは何かを十分に理解し、必要スキルを目標として取り組むことができた。	プロジェクトとは何かを理解できず、必要なスキルの習得を目指して取り組むことができなかった。	プロジェクトとは何かを理解できず、必要なスキルの習得を目指して取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	データイン・プログラマ (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)・近澤 潤(経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	2号館7階または1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『教養としてのデータサイエンス』	北川 源四郎・竹村 彰通	講談社	2021	9784065238097	
2	『データサイエンスの基礎』	瀧田 悦生	講談社	2019	9784065170007	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	【オリエンテーション】シラバス・授業改善アンケート結果反映の説明、本科目の受講条件の確認。	シラバスを読む(90分)	プロジェクトについて調べる(90分)
2	【プロジェクトマネジメント入門】プロジェクトとは何か、求められるスキルと姿勢について解説する。	プロジェクトの進め方について調べる(90分)	メモ・ノートを整理する(90分)
3	【プロジェクトテーマの説明】地域社会の課題について説明する。その後、理解を深めるためにディスカッションを行う。	北広島市について調べる(90分)	説明の内容について理解できなかった点について調べる(90分)
4	【リサーチ・データ分析】課題解決に向けて、情報収集(文献検索・データベース活用法等)を行い、データを分析する。	前回のディスカッションの内容を復習する(90分)	データの分析結果の改善点を見つける(90分)
5	【企画立案】課題解決に向けて、データ分析の結果をもとに企画を立案し、提案に向けて準備を行う。	データ分析結果を復習する(90分)	文書作成・プレゼンテーションについて復習する(90分)
6	【提案練習】プレゼンテーション資料を作成し、教員に対して提案の練習をする。	プレゼンテーションのコツについて復習する(90分)	自分の役割を全うできるよう練習する(90分)
7	【提案】教員に対してプレゼンテーションを行う。	自分の役割を全うできるよう練習する(90分)	教員からのフィードバックを整理する(90分)
8	【企画実行】承認を受けた内容について取り組む。	教員からのフィードバックを整理する(90分)	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する(90分)
9	【企画実行】承認を受けた内容について取り組む。	自分の分担業務について進める(90分)	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する(90分)
10	【企画実行】承認を受けた内容について取り組む。	自分の分担業務について進める(90分)	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する(90分)
11	【企画実行】承認を受けた内容について取り組む。	自分の分担業務について進める(90分)	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する(90分)
12	【企画実行】承認を受けた内容について取り組む。	自分の分担業務について進める(90分)	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する(90分)
13	【企画実行】承認を受けた内容について取り組む。	自分の分担業務について進める(90分)	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する(90分)
14	【企画実行】承認を受けた内容について取り組む。	自分の分担業務について進める(90分)	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する(90分)
15	【取り組みの自己評価・まとめ】自分たちの取り組みについて、評価・反省点をまとめる。	実行した結果についてまとめる(90分)	反省点をどのように改善したらよいかを考えまとめる(90分)
16	【講評・まとめ】教員より講評を行う。授業改善アンケートを実施する。	自己評価について確認する(90分)	講評の内容について、今後活用できるかたちに整理する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門 (M) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	石田 暁子(非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 石田 暁子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

英文法の基本を身に付けし、ビジネスでも使われるものを含め、理解できる語彙を増やす。音声変化に慣れることにより、リスニングの能力をつける。

授業の位置づけ

全学科のDP 2に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

今後の英語学習の土台となるよう、語彙、文法、発音面での英語の基本を身に付ける。

授業全体の内容と概要

各ユニットはリーディング、文法、リスニングの3つのセクションで構成されている。ビジネスに関する内容を取り上げているため、「ビジネス英語」への橋渡しにもなっている。「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義形式で、最重要事項は板書によって注意を促し、じっくりと確実に反復学習を進める。発音練習にも力を入れる。各自の理解度を知るため、授業では毎回できるだけ多くの学生を指名し、解答を聞く。テキストのリーディングパートについては必ず予習で翻訳していただくことを課題とし、最後にまとめたものを教員が最終チェックして返却する。これも評価の対象となる。

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教科書を必ず用意し、予習をしていただくこと。前期開講「英語入門」からの継続のため、「英語入門」を履修済みであること。教科書も同じものを使用する。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、10回以上。

評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	30%	0%	30%	0%

ルーブリック					
--------	--	--	--	--	--

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業(語彙・文法・音声変化)の理解度	授業の範囲を超え、関連事項への興味があった。また、自分から発信する意欲が見られる。	授業内容をほぼ理解している。	基本的な語彙や文法事項の理解はできているが、長文の理解にやや不安がある。音声変化を理解し、発音できる。	基本的な事項のみ理解できている。音声変化については、注意をすることで訂正できる。	基本的な事項が身についていない。
発音練習・練習問題の参加度	積極的に参加し、授業の進行に貢献していた。	説明をよく聞き、発音練習や練習問題にも真剣に取り組んだ。ミスを指摘された際、自分で訂正することができ、意欲が認められた。	発音練習や練習問題に真剣に取り組んだ。	自分の力で問題を解くことをあきらめてしまっていたが、解答を聞いた後に理解しようとする努力がみられた。	授業中の活動に集中できなかった。
課題(英文翻訳)の取り組み	予め語や語句の意味を調べ、場面にかきわしい英文の訳ができる。疑問点を自覚した上で授業に臨み、解決することができた。	予習にきめ細かさはないが、ほぼ満足な訳ができた。	毎回予習をせず、復習によって挽回を図ることもあった。	復習だけのことが多く、課題は提出したが、期限を守ることができなかった。	課題を提出しなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門 (M) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	石田 暁子(非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 石田 暁子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『Good Choice!新入社員ショウタと学ぶ大学基礎英語』	津村 修志 他	金星堂	2017	9784764740372	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『英和辞典』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 助動詞	テキストp.51-54 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
2	willの短縮形の音	テキストp.55-56 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
3	WH 疑問文	テキストp.57-60 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
4	疑問文のイントネーション	テキストp.61-62 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
5	可算名詞・不可算名詞	テキストp.63-66 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
6	名詞の複数形の語尾の音	テキストp.67-68 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
7	現在進行形	テキストp.69-72 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
8	弱音の[a]や[ə]の音	テキストp.73-74 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
9	there is, there are	テキストp.75-78 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
10	数字の後の[th]の音	テキストp.79-80 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
11	動詞の過去形	テキストp.81-84 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
12	過去形の語尾の音	テキストp.85-86 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
13	過去形 否定・疑問文	テキストp.87-90 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
14	つながる音	テキストp.91-92 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
15	総復習・要点整理	期末試験準備 (90分)	期末試験準備 (90分)
16	授業改善アンケートの実施 期末試験(60分)・解説(30分)	期末試験準備 (90分)	期末試験内容復習 (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門 (S) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇 (社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

受講者が英文法、読解、作文、会話の基礎的な知識と運用方法を習得する。合わせて、平易な英文の読解と作文の能力が身に付く。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP2に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

受講者において、英文法、読解、作文、会話の基礎的な知識と運用能力の習得がされている。特に英文法の基礎的な知識が身に付いており、基礎的な読解力が身に付いている。

授業全体の内容と概要

この科目はグローバル化に対応するための一助として「外国語」を学ぶための科目である。毎回、英文法、読解、作文、会話の練習問題を解いてもらう。合わせて、適宜、必要最小限の補足説明を行なう。授業の最後にその回の内容についてのまとめと質問への回答(フィードバック)を行う。

授業の方法

毎回、所定のテキストに沿って、1)その回の説明、2)英文法、読解、作文、会話の練習問題を解いてもらい、3)その後解答と説明を行なう。必要に応じて、補足教材(コピー)を配布、使用する。解答と説明は、適宜、口頭と板書、パワーポイントを使って行う。授業の最後にまとめと質問の時間(フィードバック)を設ける。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

欠席、遅刻をしないように留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録音・録音を認める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
英文法の理解	テキストの説明が完全に理解されており、テキストの問題がほとんど解けた。	テキストの説明がほぼ理解されており、テキストの問題が大体解けた。	テキストの説明が大体理解されており、テキストの問題の主要な部分が解けた。	英文法の初歩が理解されており、テキストの問題がいくらか解けた。	英文法の初歩が理解されていなかった。
英文読解・作文の能力	テキストの英文が完全に理解され、基本的な英文が書けた。	テキストの英文がほぼ理解され、基本的な英文が書けた。	テキストの英文が大体わかり、単純な英文が書けた。	簡単な英文が大体わかり、単純な英文が大体書けた。	簡単な英文がわからず、単純な英文が書けなかった。
英会話の能力	テキストの英会話文が完全に理解されており、応用的な展開ができた。	テキストの英会話文がほぼ理解され、応用ができた。	テキストの英会話文が大体わかり、若干の応用ができた。	簡単な英会話文が理解でき、少し応用ができた。	簡単な英会話文が理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門 (S) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇(社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	"English Once More!"	Y.Aiko、他	朝日出版社	2018	978-4-255-15547-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						適宜指示する
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、ガイダンス。	シラバスを読む。(90分)	Unit7の予習(90分)
2	Unit7: 名詞・冠詞の使い方(1)	Unit7の予習(90分)	Unit7の復習(90分)
3	Unit7: 名詞・冠詞の使い方(2)	Unit7の予習(90分)	Unit7の復習(90分)
4	Unit8: 代名詞の使い方(1)	Unit8の予習(90分)	Unit8の復習(90分)
5	Unit8: 代名詞の使い方(2)	Unit8の予習(90分)	Unit8の復習(90分)
6	Unit9: 形容詞の使い方(1)	Unit9の予習(90分)	Unit9の復習(90分)
7	Unit9: 形容詞の使い方(2)	Unit9の予習(90分)	Unit9の復習(90分)
8	Unit10: 副詞の使い方(1)	Unit10の予習(90分)	Unit10の復習(90分)
9	Unit10: 副詞の使い方(2)	Unit10の予習(90分)	Unit10の復習(90分)
10	Unit11: 比較の使い方(1)	Unit11の予習(90分)	Unit11の復習(90分)
11	Unit11: 比較の使い方(2)	Unit11の予習(90分)	Unit11の復習(90分)
12	Unit12: 前置詞の使い方(1)	Unit12の予習(90分)	Unit12の復習(90分)
13	Unit12: 前置詞の使い方(2)	Unit12の予習(90分)	Unit12の復習(90分)
14	Unit13: 受動態の使い方	Unit13の予習(90分)	Unit13の復習(90分)
15	Unit14: 現在完了形の使い方	Unit14の予習(90分)	Unit14の復習(90分)
16	定期試験。60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う。授業改善アンケートの実施。	Unit7から14を通読する(90分)	Unit7から14を通読する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年、建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門 (D・A) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	宮嶋 達也(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

グローバル化に対応し、多様な人と協働するための表現力やコミュニケーション力を学ぶ。講義と演習(ペアワークとグループワーク)を通じて英語コミュニケーションを学ぶ。将来のキャリアと継続教育に役立つ語彙や表現を修得し英語コミュニケーション能力の向上につなげる。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)
 デザイン・建築学科のDP(2)(4)に対応する。(2023・22年度)
 デザイン・建築学科のDP2、DP3、DP8に対応する。(2021年度)

到達目標

英会話の自信を裏付けるためのスピーキング、リスニング能力のスキルアップを目的とする。相手と快適にコミュニケーションを取るための応答やリアクション等、コミュニケーションの技法も修得する。ペアワークを通して、パターンプラクティス等により定型表現を習得し、相手とのコミュニケーションを円滑にする。

授業全体の内容と概要

リーディングや様々なアクティビティを中心に、既存の英語知識を活用させ、スピーキングのスキルを身につけることにフォーカスする。最低限必要な語彙力や文法力を身につけながら、テキスト中のクリティカルシンキングを学び、様々なコミュニケーションの構造を理解し、表現する。

授業の方法

授業では英語によるコミュニケーションへ接続するための運用能力を身に付けることを目的とする。テキストの練習問題を解き、疑問点などは個々に対応、或いはクラス全体への解答を解説し学生へのフィードバックを行う。授業中の発表、ペアワーク、ロールプレイでの活動を取り入れ、コミュニケーション能力向上のために、積極的かつ協力的に行う。テキストの音声ファイルを無料でダウンロードし自習用音声として活用する。NAU'UN-DO(ht t p://nanun-do.com)提供

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

15分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻2回で欠席1回とします。授業には必ずテキスト、辞書を持参すること。テキストを忘れ、授業前に申し出ない場合は欠席扱いとする。授業計画に基づき、事前に各回の授業範囲のリスニングと意味調べをしておくこと。授業を休んだ場合は、次の授業までに、休んだ回の授業内容を担当教員又はクラスメートに確認し、課題など必要な情報を入手してください。不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定の必要となる最低出席回数は11回以上とする。授業の参加姿勢も評価の対象になります。授業活動に積極的に参加することで、授業外での学習成果を実感できます。予習と復習は授業の内容を理解し、学習効果を上げるために必要です。積極的に授業に参加するようにしてください。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	10%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業の理解度	授業内容を超えた学修が認められる	授業内容を十分に理解している	授業内容を理解している	授業内容の理解に不足がある	授業内容を理解していない
英語表現能力(スピーキング)	優れた創造的表現を行うことができる	文献等を参考としながら、創造的表現を行うことができる	自在に定型的表現を行うことができる	与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができる	与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができない
授業の積極的参加	授業全体の流れを理解し、疑問・問題提起により授業展開に貢献する	授業全体の流れを理解し、発問に対して積極的に応じる	発問に対して、指名されれば正しく応じることができる	授業に集中して理解しようとする態度が見られる	授業に集中できず、授業放棄の態度が見られる
事前・事後学修	自ら進んで学修範囲を超えて調べている	学修範囲を十分に調べて、授業内容を他人に説明できる	学修範囲の理解に曖昧な点がある	指示された範囲の事前・事後学修はするが、理解が不十分である	指示された範囲の事前・事後学修をほとんどせず理解が不十分である。
リーディング技能	授業内で取り扱った単語・文章を完璧に理解し、問題なく正確に運用できる	授業内で取り扱った単語・文章の大部分を理解し、問題なく正確に運用できる	授業内で取り扱った単語・文章の大部分を習得し、ほぼ正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・文章の大部分に習得しているが、運用に不適切な部分が見受けられる。	授業内で取り扱った単語・文章の習得が不十分であり、運用に不正確さが目立つ。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年、建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門 (D・A) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	宮嶋 達也(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	"Project English"	Vivian Morooka	南雲堂	2021	978452317936-8	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション 英語で他己紹介文作成 シラバスの説明/授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを参照しながらテキスト内容を理解する。 (90分)	授業各回のテーマを理解しておくこと。(90分)
2	Modal Verbs (助動詞)	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
3	Modal Verbs (助動詞)	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
4	Unit 7 How was your weekend?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
5	Unit 8 What time is your first class?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
6	Unit 9 Have you ever been to Kyoto?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
7	Review Units 7-9	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
8	Grammar Present perfect (完了形)	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
9	Grammar Present perfect (完了形)	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
10	Mid-term Exam.	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
11	Unit 10 Can I ask you a favor?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
12	Unit 11 I'm going to visit my grandparents.	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
13	Unit 12 I'm on the train.	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
14	Review Units 10-12	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
15	Review 1	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
16	Final Exam. 試験終了後、授業改善アンケートの実施	試験範囲の復習。(90分)	試験後に説明を受けた解説を復習。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築構造力学 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正(建築学科・特任教授)	研究室等所在	アトリエ棟 1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 長森 正)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築構造力学の内容を基礎にして、静定トラス・断面の力学特性・応力度・ひずみ度・部材の設計など項目について特徴や解法を学習する。物理学や数学をベースとして基礎知識を修得し、それらを活用する能力を身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)
 建築学科のDP1、DP2に対応する。(2023・2022年度)
 建築学科のDP1、DP5、DP7に対応する。(2021年度)

到達目標

建築構造物に起きている力学的諸現象がイメージし、把握できる。弾性状態における応力とひずみの関係を説明でき、それらを計算できる。断面の力学特性を理解し、断面諸量を計算できる。建築施工管理技士及び建築士程度の問題が解けるようになる。

授業全体の内容と概要

静定力学の基礎知識・初等弾性力学及び静定構造物の応力と変形などである。静定トラスの軸力・部材断面の諸量・ひずみ度・応力度・などの事項について、演習問題を解きながら講義する。

授業の方法

教科書の例題に沿って解説しながら板書にて講義する。積み重ねが重要な科目であるので出席を特に重視し、授業毎に簡単な演習を出題する。参考資料無しで演習を解けるように説明する。不足時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教科書の例題と配布資料を中心に講義を進めるので、休まず出席して知識を集積することが重要である。講義を理解し演習を行うには十分な予習が必要であり、知識の定着には復習(反復練習)が不可欠である。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(工業)必修科目、建築士試験受験資格課程。

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	0%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
静定トラス・断面諸量の知識	様々なトラスの解法(節点法・切断法)及び断面諸量の計算ができ、他の人に説明できた。	様々なトラスの解法(節点法・切断法)及び断面諸量の計算ができた。	基本的なトラスの解法(節点法・切断法)及び断面諸量の計算ができ、他の人に説明できた。	基本的なトラスの解法(節点法・切断法)及び断面諸量の計算ができた。	基本的なトラスの解法(節点法・切断法)及び断面諸量の計算ができなかった。
ひずみ度・応力度・部材設計	応力とひずみの関係を理解し、ヤング係数・ポアソン比・応力度等について計算でき、他の人に説明できた。	応力とひずみの関係を理解し、ヤング係数・ポアソン比・応力度等について計算できた。	応力とひずみの関係を理解し、基本的な応力度計算ができ、他人に説明できた。	応力とひずみの関係を理解し、基本的な応力度計算ができた。	応力とひずみの関係を理解し、基本的な応力度計算ができなかった。
建築士・建築施工管理技士の試験問題対応力	2級建築士問題(構造部門)を解答でき、他人に説明できた。	2級建築士問題(構造部門)を解答できた。	建築施工管理技士(構造部門)を解答でき、他人に説明できた。	建築施工管理技士(構造部門)を解答できた。	建築施工管理技士問題(構造部門)を解答できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築構造力学 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正 (建築学科・特任教授)	研究室等所在	アトリエ棟1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 長森 正)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技術士・測量士・コンクリート技術士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『図説やさしい構造力学』	浅野 清昭	学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『初めての建築構造力学』	建築のテキスト編集委員会編	学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 静定トラス(1)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(90分)	授業内容を整理して、演習問題を復習する(90分)
2	静定トラス(2)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
3	静定トラス(3)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
4	断面の力学的特性(1) 図心	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
5	断面の力学的特性(2) 断面1次モーメント	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
6	断面の力学的特性(3) 断面2次モーメント	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
7	断面の力学的特性(4) 断面係数	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
8	断面の力学的特性(5) 断面2次半径	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
9	ひずみ度と応力度(1) ひずみとひずみ度	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
10	ひずみ度と応力度(2) 梁の応力度	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
11	ひずみ度と応力度(3) 弾性係数	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
12	部材の設計(1) 許容応力度	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
13	部材の設計(2) 曲げ材の設計	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
14	部材の設計(3) 組合せ応力度	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
15	まとめ	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
16	授業改善アンケートの実施 定期試験60分の試験終了後、残りの30分で解説する。	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える(90分)	授業内容全体について資料を整理する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	サブメジャープログラム	対象学科・配当	全学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	防災・治水プログラム (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)		研究室等所在	2号館3階	
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

本科目は北広島市の地域防災を学びことにより、万が一、自然災害発生時に遭遇した際、状況をどのように判断し、どのような行動をとるべきか等の理解と認識を身につけ、自らの行動に反映させられるようになることを目標とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP1, DP3, DP4に対応する。(2024年度)
 建築学科のDP1, DP2に対応する。(2023・2022年度)
 建築学科のDP2, DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

自然災害の恐るしさの理解と防災・治水に関する基礎的な知識を身につけ、万が一の自然災害発生時に自己判断で的確な行動がとれることを目指す。

授業全体の内容と概要

前半は講義と自然災害を想定したシミュレーションゲームを中心に進める。後半はFW(フィールドワーク)を中心に進める。FWは指定地点から指定避難所までの避難経路の踏破から、経路上の危険要因等の抽出等の記録をおこない、そのデータをもとに防災マップを作成する。
 「SDGs11.住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

前半は教室にてPPやシミュレーション用の教材を使用した授業をおこない、後半は実際に指定した北広島市内を踏破(FW)し、観察調査をおこない、そこから得られた情報を防災マップとして作成、そして学習成果をプレゼンテーションする。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	P B L
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業開始時に着席表を配布し氏名の記入をおこなう。したがって、着席表回収後の遅刻は欠席扱いとなる。授業中の受講態度もチェックするので留意すること。基本的に授業は対面で実施するが、不測の事態が起きた際に、授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

講義,実技,FWなど多様な授業形態をとるので、原則毎回出席すること。ただし正当な理由がある場合に限り出席回数12回を認める。授業はもとより実技,FWには積極的に取り組む姿勢を求める。防災マップの評価と制作の態度等(課題作品),FWの参加(その他),FW等のレポート(レポート)で評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	50%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自然災害という事象について客観的に理解することができる。	多様な自然災害の事象と発生する被害を客観的に理解できた。	多様な自然災害の事象を客観的に理解できた。	自然災害の事象を客観的に理解できた。	自然災害の概要を理解できた。	自然災害を理解できなかった。
自然災害が発生した状況を想定でき、その際にどのような行動が求められるかを判断できる。	多様な自然災害に対し、状況により求められる行動の多様性を判断できた。	多様な自然災害に対し、行動の多様性を理解できた。	自然災害の状況に対し求められる行動が理解できた。	自然災害の状況を理解できなかった。	求められる行動が判断できなかった。
FWから避難経路の問題点を明らかにし、研究成果として防災マップにまとめることができる。	避難経路に隠された問題点や避難に有効な要素を見つけ出し、防災マップにまとめることができた。	避難経路に隠された問題点を見つけ出し、防災マップにまとめることができた。	避難経路上の問題点を防災マップにまとめることができた。	防災マップにまとめることができた。	成果をまとめることができなかった。

基本情報

科目分類区分	サブメジャープログラム	対象学科・配当	全学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	防災・治水プログラム (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館3階	
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス、授業計画、シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、防災の基礎知識について	シラバスの確認 (45分)	授業計画の振り返り (45分)
2	北広島市の地域防災	配布資料の確認 (45分)	配布資料の振り返り (45分)
3	DIG (Disaster Imagination Game) の取り組み	配布資料の確認 (45分)	DIGの取り組みのレポート作成 (45分)
4	北広島市庁舎の見学	配布資料の確認 (45分)	見学レポート作成 (45分)
5	DO HUG (Hinanjyo Unei Game 北海道版) の体験1	配布資料の確認 (45分)	DO HUGの振り返り (45分)
6	DO HUG (Hinanjyo Unei Game 北海道版) の体験2	配布資料の確認 (45分)	DO HUGのレポート作成 (45分)
7	避難経路の検証 (FW) の解説	配布資料の確認 (45分)	配布資料の振り返り (45分)
8	避難経路の検証1 (積雪なし) の場合	配布資料の確認 (45分)	検証の振り返り (45分)
9	北広島市指定避難所の見学	配布資料の確認 (45分)	避難所見学のレポート作成 (45分)
10	避難経路の検証1 (積雪なし) の資料・写真データの集約と整理	データの準備 (45分)	データの再確認 (45分)
11	避難経路の検証2 (積雪あり) の場合	配布資料の確認 (45分)	検証の振り返り (45分)
12	避難経路の検証2 (積雪あり) の資料・写真データの集約と整理	データの準備 (45分)	データの再確認 (45分)
13	火災と救急救命について	配布資料の確認 (45分)	講義のレポート作成 (45分)
14	防災マップ制作1 (積雪なし)	データの準備 (45分)	作成データの再確認 (45分)
15	防災マップ制作2 (積雪あり)	データの準備 (45分)	作成データの再確認 (45分)
16	防災マップ提出、発表、講評会、授業改善アンケートの実施	提出課題の確認 (45分)	発表の振り返り (45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	立体構成 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 力(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	アトリエ棟 2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

立体の構成原理を活用し、構造的にも安定した美しい作品を制作することが出来る。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)
デザイン学科のDP1、DP3、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

立体の基本的な構成原理を活用し、作品を制作することが出来る。

授業全体の内容と概要

授業毎に設定された課題を基に、立体作品の制作を行いながら実践的に立体の構成原理を学ぶ。また、作品の見せ方、発表の仕方学ぶ。

授業の方法

スライドを使って課題の説明を行なった後、各自作品制作を行う。作品完成後、評価及び講評を行う。学生は各自で画像を撮影して保存する。最終的に保存した画像を編集し、ポートフォリオを作成し提出する。また自由制作では、作品プレゼンテーションも行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

制作した作品は毎回撮影して保存し、最終的にはポートフォリオにまとめて提出すること。
必要な材料、用具を事前に指示するので、各自忘れずに用意すること。
「立体構成」の展開講座のため、原則立体構成を履修済みの者が対象。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(美術・工芸)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

2回以上の出席がない場合は評価の対象としない。ポートフォリオが提出されない場合は評価の対象としない。
評価は作品点(40%)、ポートフォリオ点(30%)、及び主体的に学ぶ姿勢「平常点」(30%)の基準で行う。
講義の前中で課題を説明するため、30分以上の遅刻は出席として認めない。また遅刻3回で欠席1回と見做す。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
立体の基本的な特性の理解(知識・理解)	作品が自立し、構造的にも安定している。また、デザイン原理を理解し、上手く活用しており、美しい造形である。	作品が自立し、構造的にも安定している。また、デザイン原理を理解し、活用している。	作品が自立し、構造的にも安定している。またデザイン原理を活用しようとする試みがある。	作品が自立し、構造的にも安定している。	作品が自立せず、立体として成立していない。
編集と発表の能力(思考力・表現力・判断力等)	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、美しくデザインされたポートフォリオを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、ポートフォリオを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を収めたポートフォリオを作成した。	制作した作品を収めたポートフォリオを作成した。	制作した作品を収めずポートフォリオを作成しなかった。
主体的に学習に取り組む態度(主体性・多様性・協働性)	課題を予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。また課題を超えて制作を行なった。	課題の予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。	課題の予習または復習をした。自ら計画を立て、制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受け、計画的に制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受けて計画的に制作を行う事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	立体構成 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 力(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	アトリエ棟2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)		CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『美的構成学』パウハウスからフラクタルまで	三井秀樹	中公新書	1996	4121012968	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスをよく読んでおくこと(45分)	オリエンテーションを振り返り、内容を理解しておく事(45分)
2	素材について	身近な素材について、考察してくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
3	素材研究1 線材1	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
4	素材研究1 線材1	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
5	素材研究2 線材2	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
6	素材研究2 線材2	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
7	素材研究3 線材3	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
8	素材研究3 線材3	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
9	素材研究4 面1	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
10	素材研究4 面1	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
11	素材研究5 塊1 彫像	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
12	素材研究5 塊1 彫像	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
13	素材研究6 塊2 塑像1	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
14	素材研究6 塊2 塑像1	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
15	素材研究7 塊3 塑像2	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
16	素材研究7 塊3 塑像2	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	構成の応用1 (課題説明)	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
18	構成の応用1 (アイデア出し)	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
19	構成の応用2	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
20	構成の応用2	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
21	構成の応用3	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
22	構成の応用3	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
23	構成の応用4	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
24	構成の応用4	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
25	構成の応用5	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
26	構成の応用5	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
27	応用作品 作品プレゼンテーション	プレゼンテーション準備(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
28	応用作品 作品プレゼンテーション	プレゼンテーション準備(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
29	ポートフォリオ作成(チュートリアル)	ポートフォリオ作成(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
30	ポートフォリオ作成(チュートリアル)	ポートフォリオ作成(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
31	講評	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと(45分)	講評を再考し、理解を深めること(45分)
32	講評、授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと(45分)	講評を再考し、理解を深めること(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション基礎 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 正人(デザイン学科・客員教授)	研究室等所在	2号館7階・1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 正人)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に促した実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

前期で学んだ画材の特性を活かして、更にイラスト表現の多様性を意識したイラスト制作を目的とする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。(2024年度)
 デザイン学科のDP 1、DP 2、DP 3に対応する。(2023・2022年度)
 デザイン学科のDP 1、DP 4に対応する。(2021年度)

到達目標

発想力、デザイン感性、積極的な探究心、研究心を養いクオリティの高い作品を制作できるようになる。

授業全体の内容と概要

各テーマを意識した制作意図、制作過程に沿ってイラスト表現の多様性を学ぶ。

授業の方法

各課題に合わせて様々なイラスト表現を研究して、イラストレーションの多様性を実習制作することを通して学ぶ。各課題ごとプレゼン実施、作品提出。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

前期に開講する「イラストレーション基礎」の修得を前提とする。遅刻3回で欠席1回とみなす。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イラストレーションに対する制作意欲および授業態度。	授業の事前事後学習を進め、意欲的な制作態度、取り組みがなされ模範的な授業態度であった。	授業の事前事後学習を進め、真面目に授業課題の作品制作に取り組んでいた。	授業課題、内容に真面目に取り組んでいた。	授業課題へ取り組みながらも、制作意欲が乏しかった。	授業に対する意欲が感じられず制作態度の取り組みに欠けていた。
イラスト表現における画材の知識および理解。	授業内容に積極的に真剣に取り組む、知識の習得と理解度を深めていた。	授業内容に真剣に取り組む、授業内容を充分理解していた。	授業内容を真面目に取り組む概ね理解していた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解していなかった。
イラスト表現への研究および習得。	授業内容を深く理解して研究心、習得の向上心が著しくあり実践的にも優れていた。	授業内容を充分理解して研究心があり習得して形になっていた。	授業内容を概ね理解して真面目に研究、習得していた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解せず研究心、習得への意欲に欠けていた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション基礎 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 正人(デザイン学科・客員教授)	研究室等所在	2号館7階・1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 正人)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に促した実習を行う。					

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映。イラストレーションタッチ, 表現研究・1。カラーシュ手法実習・1	シラバスを読んでおくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
2	イラストレーションタッチ, 表現研究・1。カラーシュ手法実習・1	シラバスを読んでおくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
3	イラストレーションタッチ, 表現研究・1。カラーシュ手法実習・2	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
4	イラストレーションタッチ, 表現研究・1。カラーシュ手法実習・2	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
5	イラストレーションタッチ, 表現研究・1。カラーシュ手法実習・3	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。(45分)	作品完成へ向けて取り組みを進めること。(45分)
6	イラストレーションタッチ, 表現研究・1。カラーシュ手法実習・3	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。(45分)	作品完成へ向けて取り組みを進めること。(45分)
7	イラストレーションタッチ, 表現研究・1。カラーシュ手法実習・4。作品提出。	作品完成へ向けて準備をしておくこと。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
8	イラストレーションタッチ, 表現研究・1。ペインティング手法実習・1。	作品完成へ向けて準備をしておくこと。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
9	イラストレーションタッチ, 表現研究・2。ペインティング手法実習・1。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
10	イラストレーションタッチ, 表現研究・2。ペインティング手法実習・1。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
11	イラストレーションタッチ, 表現研究・2。ペインティング手法実習・2。	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
12	イラストレーションタッチ, 表現研究・2。ペインティング手法実習・2。	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
13	イラストレーションタッチ, 表現研究・2。ペインティング手法実習・3。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
14	イラストレーションタッチ, 表現研究・2。ペインティング手法実習・3。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	作品完成へ向けて取り組みを進めること。(45分)
15	イラストレーションタッチ, 表現研究・2。ペインティング手法実習・4。作品提出。	作品完成へ向けて準備をしておくこと。(45分)	作品完成へ向けて取り組みを進めること。(45分)
16	イラストレーションタッチ, 表現研究・2。ペインティング手法実習・4。作品提出。	作品完成へ向けて準備をしておくこと。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『マイワーク31』	北海道イラストレーターズクラブアルファ				
2	『雑誌イラストレーション』		玄光社			バックナンバー
3	『イラストノート』		誠文堂新光社			バックナンバー
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	イラストレーションタッチ, 表現研究・3。その他の描写手法実習・1。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
18	イラストレーションタッチ, 表現研究・3。その他の描写手法実習・1。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
19	イラストレーションタッチ, 表現研究・3。その他の描写手法実習・2。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)
20	イラストレーションタッチ, 表現研究・3。その他の描写手法実習・2。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
21	イラストレーションタッチ, 表現研究・3。その他の描写手法実習・3。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)
22	イラストレーションタッチ, 表現研究・3。その他の描写手法実習・3。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
23	イラストレーションタッチ, 表現研究・3。その他の描写手法実習・4。作品提出。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
24	イラストレーションタッチ, 表現研究・3。その他の描写手法実習・4。作品提出。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
25	オリジナルイラストレーション制作・1。様々な画材を使って画材の併用, 多様性の併用を研究。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
26	オリジナルイラストレーション制作・1。様々な画材を使って画材の併用, 多様性の併用を研究。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
27	オリジナルイラストレーション制作・2。様々な画材を使って画材の併用, 多様性の併用を研究。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
28	オリジナルイラストレーション制作・2。様々な画材を使って画材の併用, 多様性の併用を研究。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
29	オリジナルイラストレーション制作・3。様々な画材を使って画材の併用, 多様性の併用を研究。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
30	オリジナルイラストレーション制作・3。様々な画材を使って画材の併用, 多様性の併用を研究。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
31	総合プレゼンテーション(各作品についてのプレゼン実施), 作品講評, 作品提出。	作品の完成, プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
32	総合プレゼンテーション(各作品についてのプレゼン実施), 作品講評, 作品提出。授業アンケート実施。	作品の完成, プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎セミナル B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	戸佐 晃一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 戸佐 晃一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

本授業では、体力・形態測定を実施することで自己の体力を把握し足りない体力の強化に向けて、様々なトレーニング方法の応用的な理論と実践方法について学習する。また、生涯にわたって運動習慣を継続することで高齢になっても健康で長寿であることを目的とする。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

各自、無理のない体力目標を設定し、様々なトレーニング方法の応用を理解し実践できることを目標とする。生涯を通じて定期的に運動する習慣を養う。

授業全体の内容と概要

体力測定、形態測定により自分の体の状態を知る。様々な種類のトレーニングに関する応用理論を学び、正しいトレーニングの方法を学習する。

授業の方法

教室、体育館を中心に授業を行う。様々なトレーニング方法をグループワークによる実践を通して、課題の発見や指摘をし合い、ディスカッションではタブレット、スマートフォンの活用をすることで正しい技術を習得できるように進めていく。レポートなどの解説のフィードバックを実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

競技経験があり体力があること。遅刻は2回につき1回欠席とする。運動着、飲料水、上靴、タオルの用意。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	30%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ウエイトトレーニングの応用	ウエイトトレーニングの応用が良くできている	ウエイトトレーニングの応用がほぼできている	ウエイトトレーニングの応用力がある程度できている	ウエイトトレーニングの応用ができている	ウエイトトレーニングの応用ができない
体幹トレーニングの応用	体幹トレーニングの応用が良くできている	体幹トレーニングの応用がほぼできている	体幹トレーニングの応用がある程度できている	体幹トレーニングの応用ができている	体幹トレーニングの応用ができない
ラダートレーニングの応用	ラダートレーニングの応用が良くできている	ラダートレーニングの応用がほぼできている	ラダートレーニングの応用がある程度できている	ラダートレーニングの応用ができる	ラダートレーニングの応用ができない

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	戸佐 晃一(経営学科・特任教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 戸佐 晃一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイダンスの内容を理解しておく(45分)
2	個人面談(前期成績・学生生活など)	前期成績を確認しておく(45分)	前期成績を把握しておく(45分)
3	個人面談(前期成績・学生生活など)	前期成績を確認しておく(45分)	前期成績を把握しておく(45分)
4	ウエイトトレーニングの応用	ウエイトトレーニングの応用を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
5	ウエイトトレーニングの応用	ウエイトトレーニングの応用を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
6	ウエイトトレーニングの応用	ウエイトトレーニングの応用を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
7	体幹トレーニングの応用	体幹トレーニングの応用を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
8	体幹トレーニングの応用	体幹トレーニングの応用を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
9	体幹トレーニングの応用	体幹トレーニングの応用を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
10	SPI性格検査の実施(キャリア支援センター)	SPI検査について調べる。(45分)	SPI検査受検の感想を書く。(45分)
11	ラダートレーニングの応用	ラダートレーニングの応用を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
12	ラダートレーニングの応用	ラダートレーニングの応用を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
13	体力測定	体力測定種目の確認をしておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
14	形態測定	形態測定種目の確認をしておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
15	まとめ 授業改善アンケートの実施	授業内容を振り返り確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
16	フィードバック	体力・形態測定結果を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	米野 宏(経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1 (単位認定責任者: 米野 宏)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力の向上をはかる。

授業の位置づけ
全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標
グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。 テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要
授業の前半は、レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議したり、ディスカッションを行う。 後半は、特定のテーマで実践発表を行い、反省やディスカッションを行う。グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、新聞やインターネットによるニュース等を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。 入前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法
小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。 グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、新聞やインターネットによるニュース等を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。 なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td><input type="radio"/></td> <td>プレゼンテーション</td> <td><input type="radio"/></td> <td>グループワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>フィールドワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>模範授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロールプレイ</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>調査学習</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>実験・実習・実技</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>双方向授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL	<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)
<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL																	
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業																	
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
20分以上遅刻は欠席扱いとする。 対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨んでほしい。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	10%	0%	70%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとて巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通でできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取られた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をするのが普通でできた。	討議の中で、対話することが苦手で、ほとんど受け身であった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	米野 宏(経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1 (単位認定責任者: 米野 宏)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明) 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	注意事項を再度確認する。(45分)
2	レポート作成 (高齢者とスポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
3	レポートの発表とディスカッション 1 (高齢者とスポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
4	レポートの発表とディスカッション 2 (高齢者とスポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
5	レポートの発表とディスカッション 3 (高齢者とスポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
6	ニューススポーツの実践発表準備 1 (新しい高齢者スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
7	ニューススポーツの実践発表準備 2 (新しい高齢者スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
8	ニューススポーツの実践発表準備 3 (新しい高齢者スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
9	ニューススポーツの実践発表 1 (新しい高齢者スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
10	SPI性格検査の実施(キャリア支援センター)	SPI検査について調べる。(45分)	SPI検査受検の感想を書く。(45分)
11	ニューススポーツの実践発表 2 (新しい高齢者スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
12	ニューススポーツの実践発表 3 (新しい高齢者スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
13	ニューススポーツの実践発表 4 (新しい高齢者スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
14	ニューススポーツの実践発表 5 (新しい高齢者スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
15	ニューススポーツの実践発表 6 (新しい高齢者スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
16	ふりかえり 授業改善アンケートの実施	ノートに記載された内容を再度確認する。	評価等に関する解説を確認する。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 和裕 (経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 和裕)	CAP制	演習		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

「健康とスポーツ」というテーマを基に、学生と教員双方の人間関係を築き、また大学での学習を進めるにあたり、コミュニケーション能力や思考力・判断力・表現力の能力及び意欲を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

健康とスポーツについて理解し知識を身に付け、自分に必要な課題探求の道筋を明らかにする事ができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は健康とスポーツに関しての学生の実態調査を行い、後半は健康とスポーツに関しての学生の実態調査のアンケートをまとめ、発表と意見交換を行う。
「SDG 4・質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は配布資料で実施し、レポートの書き方については板書または資料にて説明する。授業によってはグループワークで思考・考察・発表を行い学習していく。課題や発表に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は欠席扱いとする。欠席をする場合は必ず事前に連絡すること。注意事項の詳細についてはガイダンスにて説明する。発表と意見交換の機会が多いので、主体的で能動的な姿勢で取り組むこと。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	10%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	健康とスポーツについての基礎的な知識を深く理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を比較的理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を多少理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルに達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体的・多様性・協調性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協調性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協調性に関して期待されるレベルに達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協調性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協調性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 和裕 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 和裕)		CAP制	演習	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験を指す。学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明)	事前にシラバスを読んで確認しておく。(45分)	ガイダンスの内容を理解しておく。(45分)
2	健康とスポーツについての学生調査	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
3	健康とスポーツについての学生調査	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
4	健康とスポーツについての学生調査	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
5	健康とスポーツについての学生調査	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
6	健康とスポーツについての学生調査	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
7	健康とスポーツについての学生調査	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
8	中間報告	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
9	プレゼンテーションの準備(グループに分けて)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
10	SPI性格検査の実施(キャリア支援センター)	SPI検査について調べる。(45分)	SPI検査受検の感想を書く。(45分)
11	プレゼンテーションの準備(グループに分けて)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
12	プレゼンテーションの準備(グループに分けて)	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
13	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
14	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
15	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。(45分)	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。(45分)
16	まとめ	ノートに記載された内容を復習し理解する。(45分)	評価の内容を確認し自己評価を行うこと。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 三嶋 康嗣)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力の向上をはかる。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。
テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議したり、ディスカッションを行う。
後半は、特定のテーマで実践発表を行い、反省やディスカッションを行う。グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、新聞やインターネットによるニュース等を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。
入前て話するための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。
グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、書籍や新聞、インターネット等の情報を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

20分以上遅刻は欠席扱いとする。
対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨んでほしい。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	10%	0%	70%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとて巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通でできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取られた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップもまらず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をするのが普通でできた。	討議の中で、対話することが苦手で、ほとんど受け身であった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 三嶋 康嗣)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明) 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	注意事項を再度確認する。(45分)
2	レポート作成 (生涯スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
3	レポートの発表とディスカッション 1 (生涯スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
4	レポートの発表とディスカッション 2 (生涯スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
5	レポートの発表とディスカッション 3 (生涯スポーツ)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
6	生涯スポーツの実践発表準備 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
7	生涯スポーツの実践発表準備 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
8	生涯スポーツの実践発表準備 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
9	生涯スポーツの実践発表 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
10	SPI性格検査の実施(キャリア支援センター)	SPI検査について調べる。(45分)	SPI検査受検の感想を書く。(45分)
11	生涯スポーツの実践発表 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
12	生涯スポーツの実践発表 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
13	生涯スポーツの実践発表 4	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
14	生涯スポーツの実践発表 5	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
15	生涯スポーツの実践発表のフィードバック	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を確認する。(45分)
16	ふりかえり 授業改善アンケートの実施	ノートに記載された内容を再度確認する。	評価等に関する解説を確認する。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎セミナー B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	井坂 肇(経営学科・助教)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 井坂 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

スポーツパフォーマンスを最大化するために、データを活用しながら不足している体力要素を特定していく。さらには、その体力要素の向上のためのトレーニング方法を理解する。科学的なエビデンスに基づいたトレーニングを行うために、論文を読むようにする。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

トレーニング理論について理解できる。
課題解決のために他者と討議することができる。
トレーニングを実践することができる。
論文を読んで内容について理解することができる。

授業全体の内容と概要

スポーツパフォーマンスを最大化するために、データを活用しながらトレーニングを進めていく。論文を読み、科学的なエビデンスに基づいたトレーニングを行う。

授業の方法

講義はパワーポイント及び配布資料で実施し、資料にて説明した後、グループワークを行う。データやトレーニング方法について考察し、他者と共有する機会を設ける。
学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

15分以上の遅刻は欠席とみなす。
遅刻2回で1回の欠席とみなす。
トレーニングデータの題材として野球の投手を利用することがある。
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	30%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
科学的なエビデンスに基づいたトレーニングの理解	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめた。また様々なケースにおいて採用されたトレーニングの方法について意見を持っていた。	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめた。	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べた。	トレーニング理論を説明できた。	トレーニング理論を説明できなかった。
他者との討議	他者と討議しながら解決のための具体策を提示すると共に、意見を集約してまとめることができた。さらには新たな課題を自ら発見し、他者との討議の場を生み出すことができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示すると共に、意見を集約してまとめることができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示できた。	他者と討議できた。	他者と討議できなかった。
データに対する思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを達成した。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	井坂 肇(経営学科・助教)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1 (単位認定責任者: 井坂 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	シラバスの内容を理解しておく(45分)
2	エビデンスに基づいたトレーニング 論文の読み方	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
3	エビデンスに基づいたトレーニング 論文の読み方	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
4	エビデンスに基づいたトレーニング 論文の読み方	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
5	エビデンスに基づいたトレーニング 論文の読み方	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
6	トレーニングデータの収集と理解 データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
7	トレーニングデータの収集と理解 データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
8	トレーニングの実践	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
9	トレーニングの実践	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
10	SPI性格検査の実施(キャリア支援センター)	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
11	トレーニングデータの収集と理解 データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
12	トレーニングデータの収集と理解 データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
13	トレーニングの実践	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
14	トレーニングの実践	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
15	トレーニングデータの収集と理解 データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	講義全体を振り返り質問事項をまとめておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

動作の質的測定を行うためのシステム「ファンクショナルムーブメントスクリーン:FMA」と「セレクトティブ・ファンクショナルムーブメントアセスメント:SFMA」を理解する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

様々な対象者の動作パターンを調べ、一貫性のある基準を用いて問題の有無を判断する方法と、その問題を修正するために適切なエクササイズを見つける。

授業全体の内容と概要

日本においてもファンクショナルムーブメントスクリーンは、プロのアスリートだけでなく一般のスポーツ愛好家にも行われるようになってきているが、医療の専門家の中ではまだ十分に認識されていないのが現状である。スポーツやフィットネス、リハビリテーションには様々な専門分野の人が関わっているが、ファンクショナルムーブメントスクリーンとセレクトティブ・ファンクショナルムーブメントアセスメントはこのような専門分野の溝を埋めるツールとなりうることを理解し、自身の競技力向上に繋げる。

授業の方法

- ・各回のテーマについてテキストを使用しながら講義をし、さらに、理解を深めるために医学的ビデオも視聴します。
- ・授業はパワーポイントを使用し、DVDの視聴、レポートなどの講義形式で実施します。
- ・不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。
- ・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供します。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻3回で1回の欠席とみなします。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	30%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学修した知識・技能を確実に修得した	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修に真面目に取り組まなかった
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
2	FMSとSFMAの理解と習得 FMSのデザイン	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
3	FMSとSFMAの理解と習得 FMSのデザイン	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
4	FMSとSFMAの理解と習得 FMSのデザイン	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
5	FMSとSFMAの理解と習得 4つの基本的なフィルター	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
6	FMSとSFMAの理解と習得 4つの基本的なフィルター	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
7	FMSとSFMAの理解と習得 4つの基本的なフィルター	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
8	FMSとSFMAの確認	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
9	FMSとSFMAの実践 実施中の疼痛や違和感	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
10	SPI性格検査の実施(キャリア支援センター) FMSとSFMAの実践 実施中の疼痛や違和感	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
11	FMSとSFMAの実践 実施中の疼痛や違和感	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
12	FMSとSFMAの実践 採点方法・結果の序列化	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
13	FMSとSFMAの実践 採点方法・結果の序列化	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
14	FMSとSFMAの実践 採点方法・結果の序列化	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
15	FMSとSFMAの実践 採点方法・結果の序列化	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標

前期の A に引き続き、大学での学習の基礎になる、文献の読み方、発表の仕方、議論の仕方、レポートの書き方等の技能を修得する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP 2、DP 3、DP 4、DP 5 に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。
自分で調べ構想したことを、レジュメやパワーポイントを使用して効果的に発表できる。
学習の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。

授業全体の内容と概要

前期の A に引き続き、講義の受け方・レポート作成方法といった学習のためのスキル、自発的に問題を発見し解決する力といった、大学生としてふさわしい能力や姿勢を修得するために、このゼミナールでは、学生自身によるテキストの読解、内容の報告、参加者による討論、レポートの作成を行う。

授業の方法

授業は次のように進める。
報告者はテキストの内容要約と議論すべきポイントに関するプレゼンテーションを行う。
司会役の進行の下、報告者のプレゼン内容について参加者全員で討論をする。
担当教員による講評を行う。
レポート作成に向けた準備を進める。
輪読するテキストは、社会福祉と政治・行政に関する文献のなかから受講生と相談の上で決める。
Teamsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

毎回出席することが前提となるが、やむを得ず欠席する場合には、担当教員に必ず事前連絡すること。無断欠席は厳禁。
自主的な参加が求められるので、テキストは必ず事前に読んでおくこと
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自分で調べ構想したことをレジュメやパワーポイントを使用して効果的に発表できる。	プレゼンテーション等において、問題の核心をよく理解し、的確にまとめたり表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心をよく理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、部分的に問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできなかった。
学習の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。	独自の着眼点で設定されたテーマに基づいてレポートが作成された。	工夫を凝らして設定されたテーマに基づいてレポートが作成された。	テーマ設定ができたレポートが作成された。	テーマ設定が概ねできたレポートが作成された。	レポートの提出がなされなかった。
自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。	積極的に討論に参加し、リダクションを発揮できた。	他者に協力しながら積極的に討論に参加することができた。	積極的に討論に参加することができた。	討論に参加することができなかった。	討論に参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						相談の上決定。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜指示する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、テキストの決定	シラバスを読む。(45分)	議論内容の整理(45分)
2	テキストの内容報告と討論(1)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
3	テキストの内容報告と討論(2)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
4	テキストの内容報告と討論(3)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
5	テキストの内容報告と討論(4)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
6	テキストの内容報告と討論(5)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
7	テキストの内容報告と討論(6)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
8	テキストの内容報告と討論(7)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
9	テキストの内容報告と討論(8)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
10	SPI性格検査の実施(キャリア支援センター)	実施要領の確認(45分)	検査のふり返り(45分)
11	テキストの内容報告と討論(9)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
12	テキストの内容報告と討論(10)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
13	レポートの進捗状況の報告(1)	関連資料の収集(45分)	議論内容の整理(45分)
14	レポートの進捗状況の報告(2)	関連資料の収集(45分)	議論内容の整理(45分)
15	レポート作成(1)	レポート(課題)の準備(45分)	レポート(課題)の準備(45分)
16	レポート作成(2)	レポート(課題)の準備(45分)	レポート(課題)の仕上げ(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標

本ゼミナールでは数学の歴史的概要と基本的ターム及び理論経済学における基本的な用法を学習することによって、論理的思考方法の構築する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

- ・数学の歴史的外観を理解できる。
- ・数学の持つ論理性を理解できる。
- ・高理法、必要条件、十分条件、帰納法、逆・裏・対偶について理解できる。
- ・数学と近代経済学の関係を理解できる。

授業全体の内容と概要

小室直樹『数学嫌いの人のための数学—数学原論—』(東洋経済)『数式を使わない数学の講義』(ワック出版)を基本参考文献とする。その他『Newton』等の科学雑誌を参考資料とする。音講を基本とする講義を主に、必要に応じて教員が説明を加え、ディスカッションを行う。

授業の方法

- ・音講を基本とする講義を主に、必要に応じて教員が説明を加え、ディスカッションを行う。
- ・ゼミで使用するプリントは前の回に配布する。熟読することが望ましい。
- ・学生の要望には可能な限り対応するが、教育上好ましくない要望には応えられない。
- ・不測の事態が生じたときは、補講、オンライン等で講義を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

主体的・積極的参加を望む。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定の最低出席条件10回以上をクリアする

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	30%	70%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
数学の歴史を理解する。	ディスカッションにおいて自分の意見を言えるだけでなく、他者の意見に対して明確で筋の通った指摘ができた。	ディスカッションにおいて自分の意見を表現できた。	世界史における数学の位置づけを理解できた。	ゼミナールの内容を説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
形式論理学について理解する。	ディスカッションにおいて自分の意見を言えるだけでなく、他者の意見に対して明確で筋の通った指摘ができた。	ディスカッションにおいて自分の意見を表現できた。	命題、逆、裏、対偶についての知識を取得することができた。	ゼミナールの内容を説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
数学と経済学との関連を理解する。	ディスカッションにおいて自分の意見を言えるだけでなく、他者の意見に対して明確で筋の通った指摘ができた。	ディスカッションにおいて自分の意見を表現できた。	必要条件、十分条件、背理法、帰納法についての基礎的知識を習得できた。	ゼミナールの内容を説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『数学が嫌いな人のための数学』	小室直樹	東洋経済新報社	2001年	4-492-27205-7	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明	高校数学の復習(45分)	配布資料の読み込み(45分)
2	数学の論理の源泉-古代宗教から生まれた数学の論理-1	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
3	数学の論理の源泉-古代宗教から生まれた数学の論理-2	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
4	論理とは神との論争の技術1	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
5	論理とは神との論争の技術2	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
6	数学と近代資本主義1	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
7	数学と近代資本主義2	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
8	数学と近代資本主義3	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
9	証明の技術1	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
10	SPI性格検査の実施(キャリア支援センター)	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
11	証明の技術2	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
12	証明の技術3	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
13	数学と近代経済学1	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
14	数学と近代経済学2	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
15	数学と近代経済学3	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
16	数学と近代経済学4	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

前期の A に引き続き、学生が世界と日本の歴史と文化の基礎について理解し、プレゼンテーションと文章作成の基礎的な能力を身につける。

授業の位置づけ

全学科の DP 1、DP 2、DP 3、DP 4、DP 5 に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

受講者が世界と日本の歴史と文化の基礎的な知識を理解、習得し、学んだことを発信できるようになる。合わせて、プレゼンテーション、文章作成の基礎的な能力が身に付く。

授業全体の内容と概要

毎回、受講者が世界と日本の歴史と文化の基礎の学習(文献調査)を行い、合わせて、プレゼンテーション、文章作成のトレーニングを行う。

授業の方法

毎回、1) 受講者による文献調査、2) プレゼンテーション、質疑応答、3) 教員による補足、講評(フィードバック)を行う。適宜、文章作成の練習も取り入れる。プレゼンテーションでは板書、スライド、ボードを使用する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

欠席、遅刻をしないように留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録画・録音を認める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	20%	60%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
情報収集・整理の能力	多様で正確な情報収集と分析、編集、整理ができ、的確な発信ができた。	正確な情報収集・整理と適切な発信ができた。	情報収集・整理と発信の基本が身に付いた。	指示によって情報収集・整理と発信ができた。	指示による情報収集・整理、発信ができなかった。
コミュニケーション・プレゼンテーション能力	的確な議論ができ、明確なプレゼンテーション、応答ができた。	適切な議論、プレゼンテーションができた。	議論とプレゼンテーションの基本が身に付いた。	指示によって議論とプレゼンテーションが運行できた。	指示による議論とプレゼンテーションができなかった。
歴史と文化の理解・認識	ヨーロッパの歴史と文化に関する深く深い理解ができ、発展的な学習ができた。	ヨーロッパの歴史と文化に関する理解ができ、発展的な学習が期待できた。	ヨーロッパの歴史と文化に関する基本的な理解ができた。	指示によってヨーロッパの歴史と文化の基礎が理解できた。	指示によるヨーロッパの歴史と文化の理解ができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇 (社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						教科書なし
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						適宜指示する
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、ヨーロッパの歴史と文化の基礎に関する講義。	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
2	ヨーロッパの歴史と文化の基礎に関する講義。	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
3	受講者による調査とプレゼンテーション(1)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
4	受講者による調査とプレゼンテーション(2)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
5	受講者による調査とプレゼンテーション(3)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
6	受講者による調査とプレゼンテーション(4)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
7	受講者による調査とプレゼンテーション(5)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
8	受講者による調査とプレゼンテーション(6)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
9	受講者による調査とプレゼンテーション(7)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
10	SPI性格検査実施(キャリア支援センター)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
11	受講者による調査とプレゼンテーション(8)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
12	受講者による調査とプレゼンテーション(9)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
13	受講者による調査とプレゼンテーション(10)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
14	受講者による調査とレポート作成(1)	レポート作成の準備(45分)	レポート作成の準備(45分)
15	受講者による調査とレポート作成(2)	レポート作成の準備(45分)	レポート作成の準備(45分)
16	受講者による調査とレポート作成(3)	レポート作成の準備(45分)	レポートの仕上げ(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会福祉実践の現場で、必要な社会的なマナーを学ぶとともに、基礎的なチームワーク力を涵養する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023年度)

到達目標

福祉従事者に求められる態度と人柄を理解する。
他者との共働に必要な要件を身につける。

授業全体の内容と概要

基本的な社会常識を身に付ける。
福祉従事者に求められる資質について学ぶ。
「SDG3、すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

基本はテーマに沿ったグループワークでの展開を基本とする。グループで議論した内容をまとめ、代表者が発表する展開とする。
一部、講義形式で展開をする。講義の際には随時質問を行うので、答えること。
随時、記録物を提出する。記録物はコメントを添えて返却する。
授業毎に使用する資料を配布する。
不測の事態における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する可能性がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

30分以上の遅刻は欠席とする。
出席を重視するので、遅刻や欠席をする場合は事前に連絡をすること。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

10回以上の出席があること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
一般的な社会常識を身につける。	成人として、常識をわきまえた行動ができた。	大学生としての常識をわきまえた行動ができた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
対人技能の基本を身につける。	社会人として求められる人間関係の理解及び福祉従事者として特に留意する点について述べる事ができた。	社会人に求められる人間関係の理解ができた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
クラスのメンバーと協働できる。	状況に応じ、リーダーシップをとったり、他者へのサポートができた。	自分の役割を責任を持ち果たせた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館4階	
単位数	1 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 大学生活を送る上で必要なマナー	大学生としてふさわしいふるまいには何か考える。(45分)	ノートを整理する。(45分)
2	大学生活を送る上で必要なマナー 明るさを備える。	今回のテーマについて自分の意見をまとめる。(45分)	ノートを整理する。(45分)
3	大学生活を送る上で必要なマナー 誠実さを備える。	今回のテーマについて自分の意見をまとめる。(45分)	ノートを整理する。(45分)
4	大学生活を送る上で必要なマナー 良識を持つ	今回のテーマについて自分の意見をまとめる。(45分)	ノートを整理する。(45分)
5	大学生活を送る上で必要なマナー 素直な態度を心得る。	今回のテーマについて自分の意見をまとめる。(45分)	ノートを整理する。(45分)
6	大学生としてのマナー 清潔感に磨きをかける。	今回のテーマについて自分の意見をまとめる。(45分)	ノートの整理をする。(45分)
7	中間まとめ	1回から8回の内容を振り返り、疑問点や議論を深めたい内容をまとめる。(45分)	授業で学んだことを意識し、目上の人と話話する。(45分)
8	社会人としてのマナー 社会人意識とは	今回のテーマについて自分の意見をまとめる。(45分)	ノートを整理する。(45分)
9	社会人としてのマナー 社交儀礼	今回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	ノートを整理する。(45分)
10	SPI性格検査実施(キャリア支援センター)	性格を自己分析する。(45分)	友人から自分の性格について意見を受ける。(45分)
11	社会人としてのマナー 社内の人間関係	今回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	ノートを整理するノートを整理する。(45分)
12	社会人としてのマナー 社外の人間関係	今回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	ノートを整理する。(45分)
13	社会人としてのマナー 事例検討	11回、12回の内容を振り返る(45分)	(クラスのメンバーの意見と自分の意見を比較し考察する。(45分)
14	社会人としてのマナー 接遇実践の基本	今回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	ノートを整理する。(45分)
15	社会人としてのマナー 接遇実践の実際	今回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	ノートを整理する。(45分)
16	まとめ	1回から15回までの授業内容を振り返り、疑問点や議論したい点をまとめる。(45分)	この授業で学んだ事を振り返り、3年生へ向けた自己の課題を明確化する。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 湯浅 頼佳)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標	基礎ゼミナール の目的を踏襲しながら無理なく専門課程へ移行できる様「学びの方法」を修得する。
------	--

授業の位置づけ	全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)
---------	--

到達目標	基礎ゼミナール から継続して考えていながら、学生それぞれが1つのテーマを上げレポートを作成し発表する事を目標とする。
------	--

授業全体の内容と概要	人間は食べることにのみよって栄養を取り入れ、様々な活動を可能としている。乳幼児から高齢者まで各々の目的や問題の違いはあれ、それぞれ生活リズムの確立や健康、QOL、疾病防止などを目的として望ましい食生活をする事が必要となる。学生それぞれが自分自身の食生活だけでなく職業的(保育士、社会福祉士、スポーツトレーナー、教員等)に必要な問題意識を持ち知識を身につけることを目標とする。
------------	---

授業の方法	食生活や栄養に関する問題の中からそれぞれが研究テーマを見つけ、プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等を実施する。また必要に応じて教員がテーマに関する講義も行い、カレントトピックスについても解説する。質疑応答には随時対応する。
-------	--

アクティブラーニングの実施方法						
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	・出席を重視する。欠席をする場合は必ず事前に連絡をすること。出席数を満たしていてもゼミの運営を乱す行為があった場合は評価をしない場合がある。また同じくゼミの運営に支障を来す行為があった場合は途中でゼミ異動を宣告する場合がある。 ・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
----------	---

修学サポート(合理的配慮)	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目	

評価方法・基準

評価前提条件	出席状況(2/3以上)。ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	20%	0%	0%	30%	50%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解(協調性、傾聴力)	ゼミ内でのプレゼンテーションに積極的に耳を傾け、タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け、タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け何回か質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾けることは出来なかった。
知識・理解(興味、関心)	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち積極的に食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち努力しながら食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができなかった。
汎用的機能(トークスキル、表現力)	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう資料を十分揃えわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいようわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができなかった。
態度・志向性(リーダーシップ、態度)	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し、積極的にゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し、ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し、ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し、ゼミ運営に多少関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識できなかった。
態度・志向性(意欲)	休まずゼミに出席できた。(出席16回)	概ねゼミに出席できた。(出席15-14回)	休みがちではあるが出席できた。(出席13-12回)	欠席が目立つが出席できた。(出席11-10回)	評価前提条件を満たす事ができなかった。(出席9-0回)

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1 (単位認定責任者: 湯浅 頼佳)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション及びシラバスの説明	ゼミ初回に必要な事項について考える。(45分)	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の役割について考える(45分)
2	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
3	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
4	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
5	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
6	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
7	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
8	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
9	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
10	SPI性格検査の実施(キャリア支援センター)	「SPI性格検査」についてのポイントを整理する。(45分)	「SPI性格検査」について振り返りを行う。(45分)
11	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
12	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
13	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
14	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
15	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
16	まとめ	まとめの準備を行う。(45分)	まとめの振り返りを行う。(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎セミナー B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	尾西則昭 (社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 尾西 則昭)	CAP制	演習		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

人間生活の基本である健康・体力や身体運動に関する知識を深め、現在不規則になりがちな生活習慣の改善が必要になる。学生生活における健康維持のための運動の大切さについての基礎知識を理解する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

生涯にわたり有意義な人生を送るために、健康的なライフスタイルを確立する方法を身につける。不規則になりがちな生活習慣で留意しなければならない点について、いくつかのテーマを通じて、基本的な知識を学習する。現在だけのことだけでなく、卒業後に訪れるであろう社会人生活における健康づくりについて述べることができる。

授業全体の内容と概要

講義では、健康の意味、特に運動と健康とのかかわりを理解し、現代社会における健康な心身のあり方についての知識を習得する。さらに、生き生きとした人生を送るために運動・栄養・休養について、自らの生活習慣を見直す機会を深める。

授業の方法

資料を通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッションを行います。健康に関するキーワードについて調べ学習の発表を行います。
「不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合があります」

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

積極的に取り組むことを期待します。
20分以上の遅刻は欠席とみなします。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	健康についての基礎的な知識を深く理解できた。	健康についての基礎的な知識を理解できた。	健康についての基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康についての基礎的な知識を多少理解できた。	健康についての基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について十分に考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開についておおむね考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について多少考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度	健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを説明できた。	健康の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを多少説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	尾西則昭 (社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 尾西 則昭)	CAP制	演習		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『資料配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス「シラバス説明」	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
2	健康についての学生調査	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
3	健康についての学生調査	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
4	健康についての学生調査	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
5	健康についての学生調査	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
6	健康についての学生調査	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
7	健康についての学生調査	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
8	健康についての学生調査	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
9	健康についての学生調査	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
10	SPI性格検査実施(キャリア支援センター)	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
11	健康についての学生調査	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
12	健康についての学生調査	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
13	健康についての学生調査	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
14	学生調査研究個人発表リハーサル発表	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
15	学生調査研究個人発表本番	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)
16	総まとめ・講評	ノートに記載された内容を再度復習し、理解する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	西崎 毅(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 西崎 毅)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かし、教職に関連する事項を題材に、学生の主体的な学修姿勢や探究力を培う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標	教員になるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び意欲を身に付ける。
授業の位置づけ	全学科の祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標	教育制度についてその概要を理解することができる。 教育にかかわる諸問題についてその概要を理解することができる。 教員になるために必要な事項についてその概要を理解することができる。
------	---

授業全体の内容と概要	各回の授業テーマについて考える 教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などの通読 教育に関する基本的事項についての調べ学習 教員として求められる一般教職及び教職教職の学修 学校視察やボランティア活動等への参加 漢字検定等への参加 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目
------------	---

授業の方法	教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッションを行います。板書や教材提示装置を活用する。教育に関するキーワードについての調べ学習及びその発表を行う。 教員として求められる一般教職及び教職教職について演習を行う。課題や発表等に対するフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。 不測の事態が生じた際には、授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
-------	---

アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										

履修上の注意事項	<p>教職課程を履修し、大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。 サブメジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。 漢字検定の受検級合格まで毎回検定を受け続けることを条件とする。(目標2級) ○授業内で紹介する体験活動に積極的に取り組むことを条件とする。 ○各自、ノートを用意すること。 ○プリント類はプラットフォームに格納し、毎回授業に持参すること。</p>
----------	--

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目	
--------	--

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は11回。												
評価方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>80%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	20%	0%	80%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他								
0%	0%	20%	0%	80%	0%								

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルに十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルに十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	西崎 毅(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 西崎 毅)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かし、教職に関連する事項を題材に、学生の主体的な学修姿勢や探究力を培う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	*授業内で別途指示する。*					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明含む) 学修計画の作成	基礎ゼミナールでの学修を自己評価すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
2	教育法規のまとめ 教育基本法 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教育の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
3	教育法規のまとめ 学校教育法 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教育の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
4	教育法規のまとめ 学校教育法施行規則 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教育の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
5	教育心理のまとめ 心理学のおこり 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教育の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
6	教育心理のまとめ 学習理論等 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教育の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
7	教育心理のまとめ 心理療法等 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教育の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
8	教育史のまとめ 日本教育史 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教育の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
9	教育史のまとめ 西洋教育史 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教育の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
10	SPI性格検査の実施(キャリア支援センター)	SPI検査について調べる。(45分)	SPI検査受検の感想を書く。(45分)
11	教育原理のまとめ 教育改革の流れ 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教育の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
12	教育原理のまとめ 現代の教育課題 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教育の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
13	小論文についての学修 小論文の構成 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教育の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
14	小論文についての学修 小論文の作成 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教育の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
15	小論文についての学修 小論文の評価 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教育の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
16	後期の学修の総括及び反省	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	1年間の自らの学修姿勢を評価すること。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小山 尋明(建築学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小山 尋明)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

競技スポーツの基礎的トレーニングを基礎ゼミナール A・Bより更に深く理解し、個人に必要なトレーニングを自ら実践できるよう知識を身につける。携っている競技の試合分析をする知識と理解力を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)
 全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・22年度)
 経営学科のDP1、DP8に対応する。(2021年度)
 社会福祉学科のDP2、DP4、DP8、DP10に対応する。(2021年度)
 デザイン学科のDP1、DP8に対応する。(2021年度)
 建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP8に対応する。(2021年度)

到達目標

競技及び個人の特性を理解し、安全にトレーニングできるようにする。また、試合の分析・考察(心理的)も出来る。

授業全体の内容と概要

基礎ゼミナール A・Bを基に個人に必要なフィジカルとメンタルトレーニングを実践し、自分の競技の試合をどのように分析・考察(心理的)すればよいかを考える。

授業の方法

プリントなど資料にて説明したのち、トレーニング室及び体育館などで実際にトレーニング(フィジカルとメンタル)をする。また、コンディショニングの方法・心理的などについての分析を行い、次の大会などに活かせるようにする。なお、今回の授業において前回の反省と確認を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

男子バスケットボール部に所属の学生を対象とする。注意事項等の詳細については、ガイダンスにて説明する。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	60%	40%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心・意欲・態度・判断	積極的に行動し、意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動し、意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことが7割程度できた。	積極的に行動し、意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことが5割程度できた。	積極的に行動し、意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことが3割程度できた。	積極的に行動し、意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことができなかった。
競技及び個人の特性を理解し、安全にトレーニングができる	目標設定の原理、原則、種類とその方法を理解し安全に細心の注意を払うことができた。	目標設定の原理、原則、種類とその方法を理解し安全に細心の注意を払うことが7割程度できた。	目標設定の原理、原則、種類とその方法を理解し安全に細心の注意を払うことが5割程度できた。	目標設定の原理、原則、種類とその方法を理解し安全に細心の注意を払うことが3割程度できた。	目標設定の原理、原則、種類とその方法を理解し安全に細心の注意を払うことができなかった。
知識・理解	フィジカルとメンタルトレーニングの知識、理解があり、心理的スキルも含め分析・考察ができた。	フィジカルとメンタルトレーニングの知識、理解があり、心理的スキルも含め分析・考察が7割程度できた。	フィジカルとメンタルトレーニングの知識、理解があり、心理的スキルも含め分析・考察が5割程度できた。	フィジカルとメンタルトレーニングの知識、理解があり、心理的スキルも含め分析・考察が3割程度できた。	フィジカルとメンタルトレーニングの知識、理解があり、心理的スキルも含め分析・考察ができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小山 尋明(建築学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小山 尋明)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバス説明)。	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイダンスの内容を理解しておく(45分)
2	トレーニング実践 1 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
3	トレーニング実践 2 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
4	トレーニング実践 3 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
5	トレーニング実践 4 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
6	トレーニング実践 5 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
7	トレーニング実践 6 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
8	試合分析 1 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(45分)	コンディショニングの方法を理解しておく(45分)
9	試合分析 2 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(45分)	コンディショニングの方法を理解しておく(45分)
10	試合分析 3 (心理的・コンディショニングの方法) SPI性格検査の実施(キャリア支援センター)	コンディショニングの方法を確認しておく(45分)	コンディショニングの方法を理解しておく(45分)
11	試合分析 4 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(45分)	コンディショニングの方法を理解しておく(45分)
12	試合分析 5 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(45分)	コンディショニングの方法を理解しておく(45分)
13	試合分析 6 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(45分)	コンディショニングの方法を理解しておく(45分)
14	試合分析 7 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(45分)	コンディショニングの方法を理解しておく(45分)
15	試合分析 8 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(45分)	コンディショニングの方法を理解しておく(45分)
16	振り返りと確認	内容を確認し理解を深めておくこと(45分)	専門用語の意味を理解しておくこと(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	宮嶋 達也(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標

学生時代に創作し、制作した作品で地域に貢献するには、その地域や社会(企業)の理解や課題認識が必要であり、また、自らの学習成果を地域社会の中で試し検証する絶好の機会となる。更に、本学の教育理念に、必要とする人々のために新たな道を創造し、人々が共生しえる社会の実現をめざし、それを成し遂げる、を具現する活動でもある。そうした位置付けで、リサーチ・プランニング・クリエイション・プレゼン・制作活動まで一貫して実践する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)
 デザイン・建築学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。(2023・22年度)
 全学科学科のDP2、DP3、DP6、DP7、DP8、DP11に対応する。(2021年度)

到達目標

- (1) 制作活動を通して何を学ぶのか、各自の問題意識を明確にする。
- (2) 様々な活動場面に応じて、適切なコミュニケーションを取りながら、他者との関わりをもつ。
- (3) 各自の活動経験を振り返り、今後進めていく上での自己の学習課題を設定する。

授業全体の内容と概要

授業では、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティビティを多く取り入れる。各自が問題意識を持ち、考察結果などをグループ全体で共有しながら、目標達成に向けて活動をする。地域との取り組みに自分のデザインを交えながら、どんなことができるのか考え楽しく活動する。

授業の方法

グループワークを中心とした活動が多いため、一人ひとりが自主性を持ち、他人任せになるようなことがないように、常に問題意識を持ち、議論しながら問題解決し、積極的に活動に励む。授業では、グループワーク、討論、ワークショップ等のアクティビティを多く取り入れる。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

受講に関して以下の心構えがある学生を条件といたします。

社会に役立って達成感を得たり、自分に自信をつけたい人ややる気があり、最後まで活動をやり通す気力を持ち合わせている人
 協力し合いながら目標に向かい活動を成功させることができる人
 不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	40%	30%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
積極性、社会理解	積極的にアイデアを出し、採用された。他人の発言を聞き、積極的に意見した。	積極的にアイデアを出した。他人の発言を聞き、十分な理解に努めた意見した。	それなりにアイデアを出した。他人の発言を聞き、十分な程度意見した。	アイデアを殆ど出せなかった。他人の意見をあまり理解できなかった。	アイデアを出せなかった。他人の意見を殆ど理解できなかった。
課題解決能力と創造性	仕事を的確に発見し、進め方を共有しあいながら適切に検討し、実行できた。	仕事を進んで発見し、進め方を適切に検討し、実行できた。	仕事を発見し、進め方を検討し、ある程度実行できた。	仕事をあまり発見できず、依頼されたことだけ実行できた。	仕事を発見できず、依頼されたことも、ほとんど実行できなかった。
コミュニケーション能力と行動力	他者をリードする態度で積極的に活動に取り組み、高いコミュニケーション能力と行動力がある。	自主的・協働的に活動に取り組み、コミュニケーション能力や行動力がある。	自らの考えでアクションを起すことはあまりないが必要なコミュニケーション能力や行動力はある。	自らの考えでアクションを起すことは最低限度のコミュニケーション能力や行動力はある。	自らの考えでアクションを起すことができない。最低限度のコミュニケーション能力や行動力もほとんどない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	宮嶋 達也(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	前期の活動における確認と振り返り シラバスの説明	演習の準備 シラバスの熟読(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
2	Planning1	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
3	Planning2	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
4	Planning3	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
5	Research activities 1	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
6	Research activities 2	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
7	Research activities 3	事前に作業しておくなどの準備をすること(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
8	Creative activities 1	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
9	Creative activities 2	事前に作業しておくなどの準備をすること(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
10	SPI性格検査実施	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
11	Creative activities 3	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
12	Creative activities 4	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
13	presentation	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
14	presentation	事前に作業しておくなどの準備をすること(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
15	レポート・後期活動のまとめ	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
16	1年間の活動における総括と振り返り	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が就職活動を行う時に必要なSPIの基礎知識(非言語分野)及び解き方(思考過程)の基本をしっかりと身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)
 全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)
 全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP8に対応する。(2021年度)

到達目標

SPIの基礎知識(非言語分野)及び解き方(思考過程)の基本を修得できる。

授業全体の内容と概要

金銭に関する問題、速さ・時間・距離、確率、推論、集合、論証、グラフの領域等を豊富な練習問題を解くことによって、SPIの基礎知識(非言語分野)と解き方の基本について実感をつかませる。

授業の方法

授業は、板書で実施し、板書にて説明しながら、演習を行う。課題は学生が提出後、解説を行う。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

ゼミナールの内容を十分に理解するために予習・復習を怠らず、また講義や演習に対して積極的に取り組むこと。レポート等の提出方法についてはゼミナール時間中に指示するので、ゼミナールを欠席することのないよう留意すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	30%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
SPIに必要な基礎知識の修得	SPIの基礎知識(非言語分野)及び解き方(思考過程)が100%理解できた。	SPIの基礎知識(非言語分野)及び解き方(思考過程)が90%理解できた。	SPIの基礎知識(非言語分野)及び解き方(思考過程)が80%理解できた。	SPIの基礎知識(非言語分野)及び解き方(思考過程)が70%理解できた。	SPIの基礎知識(非言語分野)及び解き方(思考過程)が70%も理解できなかった。
計算過程において必要な記述内容の修得	演習問題は解き方(思考過程)を100%記述したレポートになった。	演習問題は解き方(思考過程)を90%記述したレポートになった。	演習問題は解き方(思考過程)を80%記述したレポートになった。	演習問題は解き方(思考過程)を70%記述したレポートになった。	演習問題は解き方(思考過程)を70%も記述したレポートにならなかった。
思考過程のプレゼンテーション	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して明確に出来た。また、質問にも正確に対応した。	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して明確に出来た。	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して出来た。	一部筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して出来た。	筋道の立った思考過程のプレゼンテーションが出来なかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス及びシラバスの説明	シラバスを読んでおくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
2	資料の読み取り	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
3	順列・組み合わせ	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
4	確率のとりえ方	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
5	集合	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
6	推論	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
7	ものの流れと比率	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
8	ブラックボックス	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
9	グラフの領域(1)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
10	S P I 性格検査の実施(キャリア支援センター)	S P I 性格検査の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日の S P I 性格検査の再確認(45分)
11	グラフの領域(2)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
12	グラフの領域(3)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
13	論証(1)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
14	論証(2)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
15	論証(3)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
16	まとめ及び要点のフィードバック	総復習(45分)	総理解(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	向井 正伸(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	計画設計等の実務経験を活かし、課題解決法や様々な事例を紹介する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

都市や建築を構想することは、行政や都市計画家、建築家だけの仕事ではない。住民や地域に係る皆が、より良い暮らしを考え実践した積み重ねが都市を形作る。ゼミでは、一人ひとりがより良い未来を提案するための基礎を身につけることを目標とする。ゼミでは都市や建築を空間的な問題として扱う。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)
 建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)
 建築学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP8に対応する。(2021年度)

到達目標

都市や建築の変遷やその社会的背景を理解し、都市や建築について自分なりの意見をもつことができる。

授業全体の内容と概要

実際の都市空間を対象に、パブリックスペースのアップデート手法を検討・表現・発表を行う。また良い提案を行うには綿密な調査が必要であることから、前半は利用者ニーズや将来像のリサーチを重点的に行う。SDGs3.すべての人に健康と福祉を SDGs11.住み続けられるまちづくりを SDGs12.つくる責任 つかう責任

授業の方法

課題の説明はパワーポイント等を用いる。また、課題表現として模型・スケッチ・レイアウト・プレゼンテーション等を用いる。模型製作に必要なカッターマット(A3サイズ推奨)、カッター、ポンド、金尺(15cm、30cm)、スコヤを用意すること。調査や作業、発表はPC作業となることから、各自のノートパソコンを準備すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

能動的な学習姿勢を望む。授業中に引用された建築、書籍に積極的に触れること。20分以上の遅刻は欠席とする。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	10%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
理解度	授業内容を越えた自主的な学習を行なった。	授業内容を理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自分なりの意見をもつことができた。	授業内容を理解しなかった。
調査・課題解決能力	独自の視点で調査し、独自の視点で調査し、独自の手法で課題を解決することができた。	独自の視点で調査し、独自の手法で課題を解決することができた。	独自で調査し、課題を解決することができた。	アドバイスをもち、調査・課題を解決することができた。	アドバイスがあっても自発的に課題を解決することができなかった。
表現力	構想したものを、独自性のある手法で表現し、考えを第三者に共感させることができた。	構想したものを、独自性のある手法で表現し、考えを第三者に理解させることができた。	構想したものを、独自の工夫で表現することができた。	構想したものを表現することができた。	構想したものを表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	向井 正伸(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	計画設計等の実務経験を活かし、課題解決法や様々な事例を紹介する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを事前に把握する(45分)	紹介した書籍・建築事例等について調べる(45分)
2	都市空間の調査・研究	紹介した書籍・建築事例等について調べる(45分)	エスキスを反映する(45分)
3	都市空間の調査・研究	対象を事前に調べる(45分)	エスキスを反映する(45分)
4	都市空間の調査・研究	対象を事前に調べる(45分)	エスキスを反映する(45分)
5	都市空間の調査・研究	対象を事前に調べる(45分)	エスキスを反映しまとめる(45分)
6	都市空間の調査・研究 中間発表	プレゼンテーションをまとめる(45分)	発表を自己評価する(45分)
7	課題「都市空間のアップデート」課題説明	対象を事前に調べる(45分)	エスキスを反映する(45分)
8	課題「都市空間のアップデート」課題 調査	対象を事前に調べる(45分)	エスキスを反映する(45分)
9	課題「都市空間のアップデート」課題 調査	対象を事前に調べる(45分)	エスキスを反映する(45分)
10	SPI 性格検査実施	SPI検査について調べる。(45分)	SPI検査受検の感想を書く。(45分)
11	課題「都市空間のアップデート」課題 作業	対象を事前に調べる(45分)	エスキスを反映する(45分)
12	課題「都市空間のアップデート」課題 作業	提案を事前に考える(45分)	エスキスを反映する(45分)
13	課題「都市空間のアップデート」課題 作業	提案を事前に考える(45分)	エスキスを反映する(45分)
14	課題「都市空間のアップデート」課題 作業	提案を事前に考える(45分)	エスキスを反映しまとめる(45分)
15	課題「都市空間のアップデート」課題 発表	プレゼンテーションをまとめる(45分)	発表を自己評価すること(45分)
16	発表・まとめ 授業改善アンケートの実施	今までの授業を振り返る(45分)	学習を振り返り、自己評価を行う(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期		授業形態	演習・実習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)					
授業担当者(所属・職名)	佐藤 恵利(国際交流センター・センター員)		研究室等所在	本部棟3階 国際交流センター		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 恵利)		CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	基礎ゼミ B			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応。					

概要

履修目標

大学間、または地域との交流活動に参加、また交流活動を企画、実施し、異文化理解、相互理解を得ること。

授業の位置づけ

交流を通じ、日本の時事問題や日本文化、日本の習慣などをトピックに挙げながら日本語の4技能を育成する。トピックを題材に、ディスカッションやグループワークなどの活動をし、自身の専門分野でも自分のことが十分に表現できる能力を身に付ける。日本文化や日本事情を通して「SDG3.すべての人に健康と福祉を」「SDG7.エネルギーをみんなに」「そしてクリーンに」「SDG10.人や国の不平等をなくそう」について考え、知識を深める。

到達目標

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

授業全体の内容と概要

学内異文化交流会や合同授業の内容を企画し、準備、実施する。学生間での交流を通じ、相互理解や異文化理解を得る。交流では、母国紹介や母国の文化紹介等を行うこともある。それらを正しい日本語で伝えることや、他者からの意見を尊重することを学ぶ。大学祭ブースへの参加や、地域の施設見学等に参加し、地域交流を楽しむとともに、北広島市、北海道の問題や課題について考える。

授業の方法

教材は教師が用意する。教材は紙媒体だけではなく、プロジェクターやパソコン、レリアなどを使用する。授業は学生が主体となり、学生間で話し合いながら教師が与える課題や課題に取り掛かる。授業内では決まった人たちのコミュニケーションに終わらず、様々なクラスメートとグループワークやディスカッションをし、自分を表現できる能力を養う。その成果をプレゼンテーションやレポートで表す場合もある。レポートはテーマ、内容、正確さ、長さ、表現力の5項目で評価する。「内容」の項目は特に重要で、自分の言葉でわかりやすく表現できているかを評価する。「正確さ」では文法や文字表記の誤りを提示するので、各自でフィードバックすること。災害等の不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

遅刻、欠席をしないこと。15分以上の遅刻は欠席とみなす。3回遅刻すると1回の欠席とみなす。授業内は原則母語は禁止とする。学生間での交流でも授業中の母語が多い学生は評価に影響する。授業中は携帯電話や辞書、タブレットの使用は原則禁止とする。わからないことがあったら教師に聞くこと。平常点が評価に大きく影響する。授業中は真面目に取り組み、「日本語で表現できない」と思わずなんでもチャレンジすることが求められる。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

全授業回数16回のうち、単位認定に必要な最低出席回数は13回とする。授業への参加、授業態度、ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	0%	0%	35%	5%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすく、文法の間違いがほとんどない。声の大きさ、発音もよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法の間違いが目立つ。声の大きさが、発音もよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法、発音に問題があり、聞き取りにくかった。	自身で考えているが、他者の協力がなく自分の言葉で表現することができないという姿勢が見られない。文法、発音に問題があった。	他者任せで、自身で考え、自分の言葉で表現しようとする姿勢が見られない。文法、発音に問題があった。
思考力・判断力・日本語での表現力等	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも積極的に参加している。発言も多かった。	毎回の授業に参加し、授業対し意欲的で真面目に取り組んでいる。積極性は弱かった。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいる。積極的に活動に参加していた。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいるが、授業内の活動に対し消極的であった。	最低出席日数分授業に参加してあらず、授業態度も問題があった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限確認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習・実習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 恵利(国際交流センター・センター員)	研究室等所在	本部棟3階 国際交流センター		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 恵利)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	基礎ゼミ B		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバス、授業、評価の説明)、自己紹介・授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読む・自己紹介の練習(45分)	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の役割について考える(45分)
2	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
3	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
4	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
5	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
6	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
7	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
8	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
9	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
10	SPI性格検査の実施(キャリア支援センター) 異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
11	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
12	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
13	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
14	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
15	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
16	後期学習範囲の総括および反省・最終課題の提出(担当:佐藤)	最終課題提出の準備(45分)	授業内容復習(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	大島康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 大島康雄)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

福祉現場で使われることが多い技術などを学ぶ。
フィールドワークや参加を体験を通して、福祉の現場を学ぶ。
チームワーク力を涵養する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

福祉に関する専門用語を覚える。
自分に適した暗記方法を身につける。
協調性を身につける。

授業全体の内容と概要

福祉現場で使われることが多い技術などを学ぶ。
フィールドワークや参加を体験を通して、福祉の現場を学ぶ。
他者を尊重しながら自己主張できるようになる。
「SDG3:すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

基本は、テーマに沿ったグループワークでの展開とする。グループで課題に取り組み、代表者が発表をする展開とする。
一部、講義形式で授業を展開する。講義の際は随時質問をするので答える事。
随時記録物を提出する。記録物はコメントを添え返却する。
内容により、使用する資料を配布する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

30分以上の遅刻は欠席とする。
出席を重視するので遅刻や欠席をする場合は事前に連絡をすること。授業を妨害したり他者の学ぶ権利を侵害する場合は、注意をする注意をする注意をするが、改善がない場合には単位を認定しない。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

10回以上の出席があること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉の仕事の場で用いられることが多い技術を使うことができる。	相談援助技術を適切に使用できる。	相談援助技術を使用できる。	相談援助技術を助言の中、使用することができる。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
フィールドワーク、参加、体験を通じて、福祉現場を学ぶことができる。	フィールドワークなどに積極的に参加した。	フィールドワークなどに参加した。	フィールドワークなどを見学した。	見守りの中、フィールドワークなどを見学できた。	フィールドワークなどができなかった。
チームで目標を達成できる。	状況に応じてリーダーシップをとったら、他のメンバーへのサポートができた。	他のメンバーを尊重できた。	自分の役割を責任を持ち果たせた。	助言があればできた。	助言があってもできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	大島康雄(社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1 (単位認定責任者: 大島康雄)		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 現場での実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						※使用しない。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						※使用しない。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術	相談援助技術を調べる。(45分)	相談援助技術をロールプレイする。(45分)
2	専門演習 Aの振り返り	前期のまとめた内容を整理する。(45分)	発表した内容を振り返る。(45分)
3	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術	相談援助技術を調べる。(45分)	相談援助技術をロールプレイする。(45分)
4	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術	相談援助技術を調べる。(45分)	相談援助技術をロールプレイする。(45分)
5	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術	相談援助技術を調べる。(45分)	相談援助技術をロールプレイする。(45分)
6	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術	相談援助技術を調べる。(45分)	相談援助技術をロールプレイする。(45分)
7	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術	相談援助技術を調べる。(45分)	相談援助技術をロールプレイする。(45分)
8	中間まとめ	相談援助技術を調べる。(45分)	相談援助技術をロールプレイする。(45分)
9	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。(45分)	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。(45分)
10	SPI性格検査の実施(キャリア支援センター)	SPI性格検査の準備を行う。(45分)	SPI性格検査の振り返りを行う。(45分)
11	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。(45分)	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。(45分)
12	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。(45分)	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。(45分)
13	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。(45分)	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。(45分)
14	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。(45分)	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。(45分)
15	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。(45分)	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。(45分)
16	まとめ	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。(45分)	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

マンガ、アニメを中心としたポピュラーカルチャーに関する様々な事象、表現の特性、歴史などを考えることを通して、大学での学修に必要な基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習によって学び、自身の大学における活動と運動させながら新たな視点を獲得する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2022・2023年度)

到達目標

マンガを中心とした表現の特性や、専門用語などの知識を身に付け理解する。
文献や資料を考察するための基礎能力を身につける。
ディスカッションや発表などを通じて、大学で学ぶための基礎的な学力(プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など)を身につける。

授業全体の内容と概要

マンガ、アニメを中心としたポピュラーカルチャーに関する講義やグループワーク、ディスカッションを行い、作品の読解の仕方、文献調査の方法や発表資料の作り方などを学ぶ。後半では、各自で自身の活動と関連する作品について調査分析を行い、発表・ディスカッションを行う。

授業の方法

授業ではパワーポイントや配布資料のほか、DVDなどの視聴覚メディアなどを用い、講義形式だけでなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションなどを行う。
授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収のほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

自ら行う資料調査では、図書館などの機関を積極的に利用すること。個人発表では、自ら行った調査について短い時間でプレゼンテーションを行う。授業内でグループワークやディスカッションなどを行うので、積極的に参加すること。
授業の内容は、集まった参加者の興味・関心等に合わせ適宜変更する可能性がある。
1回程度、ゲスト講師(マンガ研究者、マンガ家、マンガ編集者、マンガ施設関係者等)の参加を予定している。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	30%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力(プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力)	授業で学んだことを越えて、自分の視点について他者に伝わりやすく述べ、他者と積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の視点について述べて、積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の意見を述べることができた。	促されれば自分の意見や考えを述べることができた。	授業内で自分の意見を述べられなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『文学・芸術は何のためにあるのか?』	吉岡洋、岡田映生編	東信堂	2009	978-4-88713-894-0	
2	『マンガ産業論』	中野晴行	筑摩書房	2004	978-4480873460	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 オリエンテーション	シラバスを読んでおく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
2	資料を読む(1)文献の読解	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
3	資料を読む(2)文献についての調査	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
4	資料を読む(3)文献についてのディスカッション	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
5	産業としてのマンガ(1)雑誌文化と新しいビジネスモデル ゲスト講師への質問を考える	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく(45分)	ゲスト講師への質問を考える(45分)
6	産業としてのマンガ(2)雑誌文化と新しいビジネスモデル ゲスト講師参加	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
7	読解の仕方、調査・発表資料の作り方などを学ぶ(1)作品分析	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
8	読解の仕方、調査・発表資料の作り方などを学ぶ(2)作品分析	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく(45分)	個人発表の準備をする(45分)
9	個人発表(1)	個人発表の準備をする(45分)	個人発表の振り返りをする(45分)
10	SPI性格検査の実施(キャリア支援センター)	個人発表の準備をする(45分)	個人発表の準備をする(45分)
11	個人発表(2)	個人発表の準備をする(45分)	個人発表の振り返りをする(45分)
12	個人発表(3)	個人発表の準備をする(45分)	個人発表の振り返りをする(45分)
13	個人発表(4)	個人発表の準備をする(45分)	個人発表の振り返りをする(45分)
14	個人発表(5)	個人発表の準備をする(45分)	個人発表の振り返りと、レポートを作成する(45分)
15	まとめ	これまでの授業を振り返り、疑問点を挙げておく(45分)	授業内容を復習する(45分)
16	期末レポートの解説 フィードバック	これまでの授業を振り返り、疑問点を挙げておく(45分)	授業内容を復習する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	千葉 聡美(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 千葉 聡美)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政機関に勤務経験のある教員が、公務員としての資質向上に関連する指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

公務員という仕事の理解を深めるため、行政各種の取り組みを調べ、目指すべき公務員の姿を明らかにして、そのために必要な学習を自ら行うことができるようにする。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023年度)

到達目標

行政の制度や服務について概要を理解することができる。
社会人として必要な基礎学力とマナーを身に付けることができる。

授業全体の内容と概要

公務員の種類と職務内容について調べ学習
行政の機構と今日的課題についてのリサーチ
SP13対策を通した一般教養の学修
漢字検定等への参加
「SDG11 住み続けられるまちづくりを」の関連項目

授業の方法

テーマを選択し、計画、調査、探究、整理、資料作成等の一連の活動を行う。
公務員として求められる一般教養、文筆力、語彙力向上のための演習を行う。
資料内容、発表内容等に対して、自己評価を下にしたフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教育又は行政に強い関心がある者。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	50%	0%	20%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を修得するとともに、関連した事項にも知識を深めることができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、達成は十分ではなかった。	学修した知識・技能を修得したが、期待するレベルまで到達することができなかった。
グループワークによる内容の整理、資料作成、報告、発表等による説明等の思考力、判断力、表現力の向上	内容を的確かつ発展的に整理し、理解しやすい報告、発表等をおこなうことができた。	内容を的確に整理し、理解しやすい報告、発表等をおこなうことができた。	内容を整理し、報告、発表等をおこなうことができた。	内容を整理し、報告、発表等をおこなうことができた。	内容を整理できず、報告、発表等をおこなうことができなかったため、思考力、判断力、表現力を高めることができなかった。
授業への参加意欲や学修に向かう姿勢・態度	授業には意欲的に参加し、自ら積極的に課題を見つけ積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、自ら課題を見つけ積極的に取り組むことができた。	授業に関心をもって参加し、自ら課題を見つけ取り組むことができた。	授業に対してある程度関心をもって参加し、自ら取り組むことができた。	授業に対して消極的であり、自ら行動して取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	千葉 聡美 (社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 千葉 聡美)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政機関に勤務経験のある教員が、公務員としての資質向上に関連する指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(取組の概要、シラバスの説明、基礎ゼミ Aの確認等)	シラバスを読む(45分)	説明内容を整理する(45分)
2	行政課題について漢字小テスト英語読解	ネット等で情報収集。漢字練習(45分)	内容を整理し復習する。(45分)
3	行政課題について漢字小テスト英語読解	ネット等で情報収集。漢字練習(45分)	内容を整理し復習する。(45分)
4	行政課題について漢字小テスト非言語分野テスト	ネット等で情報収集。漢字練習(45分)	内容を整理し復習する。(45分)
5	行政課題について漢字小テスト非言語分野テスト	ネット等で情報収集。漢字練習(45分)	内容を整理し復習する。(45分)
6	行政課題について漢字小テスト非言語分野テスト	ネット等で情報収集。漢字練習(45分)	内容を整理し復習する。(45分)
7	行政課題について漢字小テスト非言語分野テスト	ネット等で情報収集。漢字練習(45分)	内容を整理し復習する。(45分)
8	行政課題について漢字小テスト非言語分野テスト	ネット等で情報収集。漢字練習(45分)	内容を整理し復習する。(45分)
9	行政課題について漢字小テスト非言語分野テスト	ネット等で情報収集。漢字練習(45分)	内容を整理し復習する。(45分)
10	SPI性格検査実施(キャリア支援センター)		
11	行政課題について漢字小テスト非言語分野テスト	ネット等で情報収集。漢字練習(45分)	内容を整理し復習する。(45分)
12	行政課題について漢字小テスト非言語分野テスト	ネット等で情報収集。漢字練習(45分)	内容を整理し復習する。(45分)
13	行政課題について漢字小テスト構造的把握力テスト	ネット等で情報収集。漢字練習(45分)	内容を整理し復習する。(45分)
14	行政課題について漢字小テスト構造的把握力テスト	ネット等で情報収集。漢字練習(45分)	内容を整理し復習する。(45分)
15	行政課題について漢字小テスト構造的把握力テスト	ネット等で情報収集。漢字練習(45分)	内容を整理し復習する。(45分)
16	全活動内容の振り返り学修したことをプレゼンテーションにまとめて発表	プレゼンテーション準備(45分)	1年間の学びを整理する。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	山本 一彦(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

前期基礎ゼミナール A での学びと考察を踏まえ、若者の雇用、大卒者の就職の状況を、日本と諸外国との比較の中で確認し、考察、理解を目指す。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

若者・大卒者の雇用・就職状況について単に知識を習得するだけでなく、現代のライフコース変化の中での自らの問題として考える姿勢をもつ。

授業全体の内容と概要

日本の雇用・就職状況の変化の動きの中で、どのような活動分野でどのような仕事・職業に就くのか具体化することを促し、その実現可能性を考察する。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は対話形式と板書筆記を併用して行ない、必要な場合には資料を配布する。テーマによっては小文を提出してもらい、概要を発表する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	○	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習		反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

さまざまなテーマについて自らが考える「主体的・能動的」な姿勢での参加が必要である。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまっていた。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力等	ゼミナールテーマに積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えて考察できていた。	ゼミナールテーマに積極的に取り組み、求められるレベルで考察できていた。	ゼミナールテーマに取り組み、広く一般的水準の考察に達していた。	ゼミナールテーマに取り組み、考察が最低限の水準にとどまっていた。	ゼミナールテーマへの取り組みが不十分で、内容が理解できていなかった。
テーマへの分析力・主体性	ゼミナールテーマについて、現代社会の中の自己の問題として十分に主体的分析できていた。	左記事項について、主体的分析が概ねできていた。	左記事項について、広く一般的水準の分析には達していた。	左記事項の分析が最低限の水準にとどまっていた。	分析が最低限の水準にとどかず、ゼミナールテーマが理解できていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	山本 一彦(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	科目ガイダンス ゼミ内容等シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの事前確認(45分)	ガイダンス内容の確認(45分)
2	..現代日本社会の雇用・就職 1.大卒就職の歴史	日本の大卒就職の現状の意識化(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
3	..1.(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
4	..1.(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
5	..1.(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
6	..2.若者の雇用の変化と現状	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
7	..2.(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
8	..2.(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
9	..2.(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
10	SPI性格検査の実施(キャリア支援センター)	SPI性格検査の意義確認(45分)	SPI性格検査振り返り(45分)
11	..大卒就職・雇用の国際比較	日本の大卒就職・雇用の特徴のイメージ化(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
12	..(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
13	..(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
14	..自らの進路決定に向けて	自らがどのような活動分野・仕事・職業を選択するか の明確化(45分)	選択分野・仕事・職業の再確認(45分)
15	..後期学生生活の振り返り 授業改善アンケートの実施	後期のすべての活動の振り返り(45分)	振り返り内容の再確認(45分)
16	総括・振り返り	15回分の内容の振り返り(45分)	総括の再確認(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	河田 一郎(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 河田 一郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

基礎ゼミナール に引き続き、建築・絵画・音楽などウィーン文化を考察する。さらにドイツ語学修に重きを置き、ドイツ語検定試験5級合格のための基礎を固める。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

ドイツ語検定試験5級合格のための基礎を固める。観光・留学などドイツ語圏で困らない程度の日常会話を身につける。

授業全体の内容と概要

ドイツと言えば、クラシック音楽である。クラシックをBGMに用いたリラックスした学習環境の中で、ドイツ語の文法と会話を学修する。「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では板書をしながら、ドイツ語の文法・文化を紹介する。ドイツのDVD等も見て講義形式で行う。また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

ウィーンを含めたヨーロッパの絵画、建築、音楽等に興味が有り、ドイツ語を修得したい学生であればだれでも受講可能。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規定等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能をほぼ修得した。	学修した知識・技能を修得したが、最低限確認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組み、最低限確認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組みなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題には積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限確認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まずなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	河田 一郎(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 河田 一郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	【ガイダンス】 授業の進め方・シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明。	シラバスの内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
2	【話法の助動詞について】 話法の助動詞の用法について学び、置き換えができるようにする。	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
3	【話法の助動詞の用法について】 話法の助動詞の用法について学び、置き換えができるようにする。	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
4	【ヒアリング練習】 ヒアリング問題に関する対策を学ぶ。	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
5	【形容詞について】 ドイツ語の形容詞の用法について学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
6	【形容詞の比較・副詞的用法について】 比較・副詞的用法を学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
7	【分離動詞について】 分離動詞について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
8	【動詞の3基本形について】 動詞の3基本形について学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
9	【過去形の変化について】 過去形の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
10	SPI性格検査の実施(キャリア支援センター)	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
11	【完了形の用法について】 完了形の用法について学び、英語との違いを理解する。	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
12	【関係代名詞について】 関係代名詞について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
13	【受動態について】 受動態について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
14	【zu不定詞について】 不定詞について学び、和訳することができる。	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
15	【接続法について】 接続法について学び、用法を理解する。	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
16	【レポートのプレゼンテーション】	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)					
授業担当者(所属・職名)	木村 浩紀(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 木村 浩紀)		CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

教師に求められる能力、使命感や責任感、教育的愛情、教科や教職に関する専門的な知識、実践的指導力、総合的人間力、コミュニケーション能力、ファシリテーション能力等を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

教育の諸課題についてその概要を理解することができる。
教師に必要な知識・技能等について、理解を深めることができる。

授業全体の内容と概要

教育の諸課題について、各回のテーマごとに考える。
教育にかかわる法令、答申などの通読
教育に関する諸課題についての調べ学習
教師に求められる教職教育等の学修
SDG4「質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

教育にかかわる法令、答申などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッション等を行う。
教育課題に関するキーワードについての調べ学習及びその発表を行う。
教師に求められる教職教育等について演習を行う。
課題や発表等に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。
板書や教材提示装置を活用する。
Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教職課程を履修し、大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。
サブメジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。
各自、ノートを用意すること。(ルーズリーフは不可)
プリント類はフラットファイルに格納し、毎回授業に持参すること。
オンライン授業やハイブリッド授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	20%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
課題に取り組む意欲・態度	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール B (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	木村 浩紀(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 木村 浩紀)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する指導を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『別途案内する』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明含む) 学級編成・教職員定数・給与負担と制度と法 関係資料の通読	教育の諸問題についてまとめること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
2	学級編成・教職員定数・給与負担と制度と法 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
3	学校の管理運営と法 関係資料の通読 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
4	学校の管理運営と法 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
5	教員の身分・服務と法 関係資料の通読 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
6	教員の身分・服務と法 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
7	学校の説明責任・地域参画と法 関係資料の通読 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
8	学校の説明責任・地域参画と法 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
9	児童生徒の在学関係・生徒指導と法 関係資料の通読 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
10	職業レディネス・テストのフィードバック(キャリア支援センター)	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	今後の進路について考え、整理すること。(45分)
11	教育課程・教科書・教育評価と法 関係資料の通読 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
12	教育課程・教科書・教育評価と法 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
13	学校保健安全・学校給食と法 ディスカッション関係資料の通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
14	学校保健安全・学校給食と法 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
15	学校事故と法 ディスカッション関係資料の通読	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
16	学校事故と法 学修発表 後期の学修の総括及び反省	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	1年間の学修を振り返り、自己評価を行うこと。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	デザイン学科を除く全学生対象		
開講時期	後期		授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラスト・マンガプロ (科目ナンバリング:)					
授業担当者(所属・職名)	佐藤 正人(デザイン学科・客員教授) 三上 いずみ(デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階(佐藤)・2号館8階(三上)		
単位数	1	(単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	(佐藤)デザイン業界で長年に携わる実務経験者が実践に促した実務を行う。 (三上)漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして漫画の描き方を指導する。			
オフィスアワー	(佐藤)事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。 (三上)研究室前の掲示ボードを参照。					

概要

履修目標

基本的なイラストレーションの技術やマンガの描画技法を身につける。
クリエイティブな作品の制作過程において、積極的に課題に取り組む姿勢を身につける。
イラストやマンガで表現することを学び、広く社会に伝えるスキルを身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP4、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

基本的なイラストレーションの技術やマンガの描画技法を体験する。
クリエイティブな作品の制作過程において、積極的に課題に取り組む姿勢を学ぶ。
イラストやマンガで表現することを学ぶ。

授業全体の内容と概要

クリエイティブな内容に触れることで感性を磨き、視野を広げ、表現力を身につけ、人としての成長を促す。
「SDG4:質の高い教育をみんなに」の関連授業。

授業の方法

いろいろな画材を用いてアナログの制作の体験をする。
使用する画材はすべてこちらで用意する。
PowerPointで技法の説明をする場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

筆記用具のみ持参すること。
授業の始めに説明するので遅刻はしないこと。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

全8回のすべての授業に出席すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	基本的なイラストレーションの技術やマンガの描画技法を身につけ制作に活かすことができた。	基本的なイラストレーションの技術やマンガの描画技法を身につけることができた。	基本的なイラストレーションの技術やマンガの描画技法をある程度身につけることができた。	基本的なイラストレーションの技術やマンガの描画技法を体験することができた。	基本的なイラストレーションの技術やマンガの描画技法を体験することができなかった。
表現力	イラストやマンガで表現することを学び、広く社会に伝えるスキルを十分に身につけることができた。	イラストやマンガで表現することを学び、広く社会に伝えるスキルを身につけることができた。	イラストやマンガで表現することを学び、広く社会に伝えるスキルをある程度身につけることができた。	イラストやマンガで表現することを学ぶ。	イラストやマンガで表現することを学ぶことができなかった。
主体的な学び	クリエイティブな作品の制作過程において、積極的に課題に取り組む姿勢を身につけ、制作に活かすことができた。	クリエイティブな作品の制作過程において、積極的に課題に取り組む姿勢を身につけることができた。	クリエイティブな作品の制作過程において、積極的に課題に取り組む姿勢をある程度身につけることができた。	クリエイティブな作品の制作過程において、積極的に課題に取り組む姿勢を学ぶことができた。	クリエイティブな作品の制作過程において、積極的に課題に取り組む姿勢を学ぶことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科を除く全学生対象		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラスト・マンガプロ (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 正人(デザイン学科・客員教授) 三上 いずみ(デザイン学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階(佐藤)・2号館8階(三上)	
単位数	1	(単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 (佐藤)デザイン業界で長年に携わる実務経験者が実践に促した実務を行う。 (三上)漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして漫画の描き方を指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 マンガ技法 つけペンの使い方・構図	シラバスを読んでおくこと(45分)	授業内容の振り返りと課題制作の続き(45分)
2	マンガ技法 ペン入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	授業内容の振り返りと課題制作の続き(45分)
3	マンガ技法 スクリーントーン	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	授業内容の振り返りと課題制作の続き(45分)
4	マンガ技法 作品発表・講評	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	授業内容を振り返り、理解を深める(45分)
5	イラスト制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	授業内容の振り返りと課題制作の続き(45分)
6	イラスト制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	授業内容の振り返りと課題制作の続き(45分)
7	イラスト制作	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	授業内容の振り返りと課題制作の続き(45分)
8	イラスト制作 作品発表・講評	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	授業内容を振り返り、理解を深める(45分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営戦略論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 重政)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照 Teamsによるチャットは平日午前9時から午後5時まで対応				

概要

履修目標

現実的・実践的なマーケティング論を学ぶことにより、マーケティング的な思考や判断能力を身につけ、企業や社会組織の中で活用できるようになる。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

戦略の内容、策定・選択のプロセスを理解するとともに、戦略的フレームワークを活用する能力を身につけること。

授業全体の内容と概要

戦略の内容、策定・選択のプロセスの概要と、その中で用いられる具体的な理論、フレームワークの理解を重点とする。また、身近な事例を学ぶことでより実践的な経営戦略を理解する。

授業の方法

パワーポイントによるプロジェクト投影と配布レジメによる講義とディスカッションをまじえた授業を行い理解度を高める。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

15分以上の遅刻・途中退席は欠席扱いとする。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経営戦略策定プロセスの理解	経営戦略策定プロセスの理解	戦略策定プロセスを十分に理解し、事例に対して自らの戦略プロセスを策定できた。	戦略策定プロセスを理解し、事例に対して戦略プロセスをあてはめることができた。	戦略策定プロセスを理解していた。	戦略策定プロセスを理解していなかった。
環境分析、全社戦略の理解	環境分析、全社戦略を完全に理解し、事例に対して自らの革新的経営戦略を策定できた。	環境分析、全社戦略を十分に理解し、事例に対して自らの経営戦略を策定できた。	環境分析、全社戦略を理解し、事例の経営戦略をあてはめることができた。	環境分析、全社戦略を理解していた。	環境分析、全社戦略を理解していなかった。
事業戦略、機能別戦略、戦略フレームの理解	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを完全に理解し、事例に対して自らの革新的戦略プロセスを策定できた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを十分に理解し、事例に対して自らの戦略を策定できた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを理解し、事例にあてはめることができた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを理解していた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを理解していなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営戦略論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 重政)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 経営戦略の基本コンセプト 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
2	全社戦略と事業戦略 SCPモデルと5フォース分析	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
3	マイケル・ポーターの3つの基本戦略	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
4	業界内のポジショニング	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
5	バリューチェーン	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
6	事業ドメイン 全社戦略	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
7	VARIO	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
8	SWOT分析(1)	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
9	SWOT分析(2)	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
10	PPM	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
11	アンゾフのマトリックス	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
12	PDCA KPI	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
13	イノベーションと経営戦略	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
14	ブルーオーシャン	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
15	アライアンスとM&A	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
16	試験 授業改善アンケート実施	試験に向け全体を復習する。(90分)	試験及び解説を受けて講義全体を復習する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営戦略論 (SP) (科目ナンバリング:)				
授業担当者 (所属・職名)	鈴木 重政 (経営学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木重政)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照 Teamsによるチャットは平日午前9時から午後5時まで対応				

概要

履修目標

現実的・実践的なマーケティング論を学ぶことにより、マーケティング的な思考や判断能力を身につけ、企業や社会組織の中で活用できるようになる。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

戦略の内容、策定・選択のプロセスを理解するとともに、戦略的フレームワークを活用する能力を身につけること。

授業全体の内容と概要

戦略の内容、策定・選択のプロセスの概要と、その中で用いられる具体的な理論、フレームワークの理解を重点とする。また、身近な事例を学ぶことでより実践的な経営戦略を理解する。

授業の方法

パワーポイントによるプロジェクト投影と配布レジメによる講義とディスカッションをまじえた授業を行い理解度を高める。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

15分以上の遅刻・途中退席は欠席扱いとする。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経営戦略策定プロセスの理解	経営戦略策定プロセスの理解	戦略策定プロセスを十分に理解し、事例に対して自らの戦略プロセスを策定できた。	戦略策定プロセスを理解し、事例に対して戦略プロセスをあてはめることができた。	戦略策定プロセスを理解していた。	戦略策定プロセスを理解していなかった。
環境分析、全社戦略の理解	環境分析、全社戦略を完全に理解し、事例に対して自らの革新的経営戦略を策定できた。	環境分析、全社戦略を十分に理解し、事例に対して自らの経営戦略を策定できた。	環境分析、全社戦略を理解し、事例の経営戦略をあてはめることができた。	環境分析、全社戦略を理解していた。	環境分析、全社戦略を理解していなかった。
事業戦略、機能別戦略、戦略フレームの理解	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを完全に理解し、事例に対して自らの革新的戦略プロセスを策定できた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを十分に理解し、事例に対して自らの戦略プロセスを策定できた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを理解し、事例にあてはめることができた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを理解していた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを理解していなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営戦略論 (SP) (科目ナンバリング:)				
授業担当者 (所属・職名)	鈴木 重政 (経営学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木重政)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 経営戦略の基本コンセプト 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと (90分)	ミニテストが満点になるまで解く (90分)
2	全社戦略と事業戦略 SCPモデルと5フォース分析	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く (90分)
3	マイケル・ポーターの3つの基本戦略	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く (90分)
4	業界内のポジショニング	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く (90分)
5	バリューチェーン	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く (90分)
6	事業ドメイン 全社戦略	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く (90分)
7	VARIO	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く (90分)
8	SWOT分析 (1)	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く (90分)
9	SWOT分析 (2)	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く (90分)
10	PPM	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く (90分)
11	アンゾフのマトリックス	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く (90分)
12	PDCA KPI	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く (90分)
13	イノベーションと経営戦略	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く (90分)
14	ブルーオーシャン	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く (90分)
15	アライアンスとM&A	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	ミニテストが満点になるまで解く (90分)
16	試験 授業改善アンケート実施	試験に向け全体を復習する。(90分)	試験及び解説を受けて講義全体を復習する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	社会科・公民科教育法 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	松下 守邦(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松下 守邦)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム(本科目)には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標

授業の目的は、以下の2つが具体化内容である。
 中学校社会科の公民的分野、高等学校公民科の教科目標と内容を学修する。
 授業実践のための教材作成を学修する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP2、DP3、DP5に対応する。(2022年度)

到達目標

・社会福祉学の学科専攻領域をこえ、広く社会科学の専門性を理解し説明できる。
 ・専門知をふまえて高等学校、中学校レベルの学習内容を抽出できる。
 ・教科目標である公民的資質をふまえた分析説明ができる、教科学習内容の概念的枠組みを説明できる、教材研究に主体的な取り組みができる。
 下記ルーブリックの合格最低レベル(C)、到達目標にとどまることのないよう留意する。相対性と絶対性を勘案するのでベストを尽くすこと。

授業全体の内容と概要

「SDGs4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。
 公民科の教科目標と内容を把握し、現代社会の社会的現象等をとらえる概念、理論について、学習指導理論をふまえ、学習指導時案を作成、模擬授業をおこない、授業設計と改善の方法を学修する。授業全体を通して、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

・後期3Qは、学習指導要領にもとづくシナリオ型学習指導案の作成、模擬授業の観察評価をおこなう。
 ・板書を利用しながら、公民科の学習指導要領の内容について講義形式で学修する。
 ・模擬授業、PBL(Project Based Learning)による主体的実践が評価対象になる。
 ・「課題に関する説明-課題に対するフィードバック」:教材研究、指導案、PBL等の各課題フィードバックは、回収の次の授業にて模範回答例が紹介される機会があるので、次の課題提出の改善材料として利用をすすめる。
 ・「要望等への対応方法」:授業の課題の取り組みなど質問、要望、相談は、随時、対応する。授業中、あるいは研究室に来室など、気軽に相談してほしい。オフィスアワーを利用すると事前の時間予約ができる。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
 ・「社会科・公民科教育法」、「社会科・公民科教育法」は、順序性のある段階的履修が基本になる。単独科目履修を希望する場合、履修登録前に教員へ相談すること。
 ・「社会科・公民科教育法」、「社会科・公民科教育法」の指定テキストは共通のものである。
 ・授業関連情報コース(バケット)をマイクロソフト社Teams科目チャンネル、過去の科目情報は、大学HP教員個人ページにあるので利用してほしい。過去の授業情報の閲覧は、要P10のため、履修学生は授業にて申請すること。https://www.seisadohto.ac.jp/~mmatsu/index.html
 ・学習は、単に教えられたことを暗記し再現するものでなく、「深い理解、深い学習、深い関与」(松下佳代:2015)のアウトプットである。

修学サポート(合理的配慮)

・事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
 ・高校教育までの支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら科目サポートを進めるので、授業開始前に授業者へ相談すること。

資格指定科目

教職課程(社会・公民)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定のためには、授業第1回から第15回までに計10回以上の出席が必要になる。
 ・文献読解(分担報告;教材研究、指導案作成を報告する。教材研究における新しい知見、資料を説明記述する)、プレゼンテーション(分・担当表)をする。学修のまとめとしてレポート作成提出する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	60%	0%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
テキスト資料により学修した知識を使い、収集した情報を分析し、理解すること、情報分析力として学ぶことについて、複数の例をあげながら、自分の言葉でていねいに説明ができた。	テキスト資料の要旨をていねいにまとめであり、これまでの学修内容のいくつかを関連づけて適切にふまえていた。新しく学ぶことについて、自分の言葉で例をあげて説明ができた。	テキスト資料の要旨をまとめてあり、これまでの学修内容のいくつかを関連づけていた。新しく学ぶことについて、自分の言葉で例をあげて説明ができた。	テキスト資料の要旨をまとめてあり、新しく学ぶことについて、自分の言葉で説明ができた。	テキスト資料の要旨は、改める余地があるが、まとめることができ、新しく学ぶことについて、自分自身の言葉でいくらか説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめる作業が難しかった。新しく学ぶことについて、説明することは難しく、知識の修得はできなかった。
文献資料の信頼性を保ちながら、学術概念を使って考察すること、客観的立場から社会的現象について論理的に分析表現をすることができる。思考力・判断力・表現力	課題に関連して、信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用した。新しく学ぶことは、これまでの関連づけをおこない、独自の視点から論理的に表現ができた。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、適切な手書きで引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら表現ができた。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら表現ができた。	課題に関連して、改善の余地があるが、文献資料を適切に引用した。新しく学ぶことは、十分ではないが、これまでのものを関連づけて表現ができた。	課題に関連して、文献資料を選び、引用することが難しかった。新しく学ぶことは、表現することが難しく、思考力・表現力は修得できなかった。
大学の学修環境を創造するメンバー(教職課程の教生)として自覚し、自分の意見と異なる意見を統合させながら、学修経験を高めることとする。関心・意欲・態度	大学生(教職課程の教生)として役割は、おおむね理解しており、行動することができた。	大学生(教職課程の教生)として役割は、おおむね理解しており、行動することができた。	大学生(教職課程の教生)として自分の役割は、基本的な行動ができた。	大学生(教職課程の教生)として自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	大学生(教職課程の教生)として自分の役割は、自ら理解して行動することが難しく、関心・意欲・態度を示すことはできなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	社会科・公民科教育法 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	松下 守邦(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松下 守邦)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校社会 公民 ともに生きる』	成田晋一郎ほか	教育出版	2020		17教出公民902(中学校検定)
2	『詳述公』	中村達也ほか	清水書院	2017		7実教公共703(高校検定活教科)
3	『ズ-ムアップ公共資料 2024』	実教出版編集部	実教出版	2024	9784407363128	
4	『中学校社会科教育の実践と方法』	小泉博明ほか	清水書院	2015	9784389225735	
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス; シラバスの説明、前年度本科目の授業改善アンケート結果反映の説明 中学校公民的分野、高等学校公民科の指導方法と授	シラバスをあらかじめ確認する。(90分)	テキスト(筒井ほか2017:1章-2)を独習する。(90分)
2	模擬授業実践、中学校公民科公民科の分野、学習指導要領の解説	テキスト(中村正美:2022)を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
3	模擬授業実践、高校公民科、公民、学習指導要領の解説	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
4	模擬授業実践、高校公民科、政治経済、倫理、学習指導要領の解説	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習、指導教諭(南英世氏HP)資料を確認する。(90分)
5	模擬授業実践、視聴覚教材	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	授業1-5回学習整理する。(90分)
6	模擬授業実践、中学校公民科公民科の分野、シナリオ型学習指導要領の作成	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習、NIER評価基準、規準を確認する。(90分)
7	模擬授業実践、高校公民科公民科、シナリオ型学習指導要領の作成	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
8	模擬授業実践、高校公民科政治経済、シナリオ型学習指導要領の作成	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
9	模擬授業実践、高校公民科倫理、シナリオ型学習指導要領の作成	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	授業6-9回学習整理する。(90分)
10	模擬授業評価、学生観察シートの作成	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	学習内容を復習する。音声記録文字化と振り返りをする。(90分)
11	模擬授業評価、学生自己評価の作成	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	学習内容を復習する。音声記録文字化と振り返りをする。(90分)
12	模擬授業評価、授業サポーターの分析	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	学習内容を復習する。音声記録文字化と振り返りをする。(90分)
13	模擬授業評価、授業サポーターの分析	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	授業10-14回学習整理、音声記録文字化と振り返りをする。(90分)
14	模擬授業実践、学生評価のまとめ	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	授業全体学習整理する。(90分)
15	課題提出(観察シート、音声記録と作業シート提出)指導方法と評価(振り返り、総括)	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	授業全体の学習整理する。(90分)
16	本科目のまとめ(授業総括と学修の教員講評)授業改善アンケートの実施	全授業のまとめを準備する。(90分)	全授業を振り返り、学習内容の内省的レポートを期日までに提出する。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会』	文部科学省	東京書籍	2018	9784491034713	https://www.mext.g
2	『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 公民編』	文部科学省	東洋館出版社	2019	9784487286331	https://www.mext.g
3	『ベストをつくす教育実習-強みを活かし実力を伸ばす』	筒井 美紀・遠藤野ゆり	有斐閣	2017	9784641174320	
4	『中学校社会 指導スキル大全』	梅津正美	明治図書	2015	9784184522336	
5	『ディープ・アクティブラーニング』	松下佳代	勁草書房	2015	978432625101	

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会学入門 (M) (科目ナンバリング:)				
授業担当者 (所属・職名)	山本 一彦 (経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代社会の特質を知り、さまざまな場面に生ずる問題を生活者としての視点から把握して、持続可能なよりよい社会はどのようなものであるかを理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP2に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

「現代社会の状況」について単に知識を習得するだけでなく、さまざまな社会問題を生活者としての自分自身の問題としてとらえ、批判的に考察できる。

授業全体の内容と概要

まず、社会的存在としての人間という視点に立ち、集団や組織のありようを学ぶ。次に、近代化を遂げた現代社会がどのような問題を持つようになったかを批判的にとらえ、その特質を学び、持続可能な社会を展望する。また、特に、学生世代が該当する現代の青年期問題について考察を加える。

授業の方法

授業は現代社会のさまざまな事例を素材としながら講義形式で行ない(PBL含む)、必要な場合には資料を配布する。単元・項目によっては受講者の見解を知るための小文を提出してもらい、授業で概要を発表してフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	○	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習		反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

さまざまなテーマについて自ら考える「主体的・能動的」な姿勢での受講を求める。本試験・追試験結果が保留となった場合、レポート課題の提出が必要。保留後の合格の場合は、評価はCとする。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	0%	0%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
社会学の知識	定期試験における社会学の基礎事項該当部分で90%以上の正答があった。	左記の同部分が80%以上90%未満の正答であった。	左記の同部分が70%以上80%未満の正答であった。	左記の同部分が60%以上70%未満の正答であった。	左記の同部分の正答が60%に届かなかった。
思考力・判断力等	「人間と人間の関係」の視点から、さまざまな場面の社会的問題を十分に考察できていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的水準の考察に達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。
社会的問題への分析力・主体性等	授業の核となる「現代の社会状況」の視点で、さまざまな社会問題について十分な主体的分析ができていた。	左記の事項について主体的分析が概ねできていた。	左記の事項についての主体的分析が一般的水準でできていた。	左記の事項についての主体的分析が最低限の水準に留まっていた。	主体的分析ができているとはいえず、授業内容が理解されていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会学入門 (M) (科目ナンバリング:)				
授業担当者 (所属・職名)	山本 一彦 (経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館 8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	科目のガイダンス 全体概要、目的とねらい、履修上の注意、評価方	シラバス内容を事前確認 (90分)	目的とねらいについての復習・理解 (90分)
2	近代社会の確立と社会学 1. 社会学成立の時代背景	近代社会とはどのようなものであるかのイメージ化 (90分)	近代社会についての復習・理解 (90分)
3	近代社会の確立と社会学 2. 社会学は何を考えるのか?	近代社会の人間関係とはどのような特質をものかについての意識化 (90分)	人間関係の変化のあり方についての復習・理解 (90分)
4	人間と社会集団 1. 社会的存在としての人間	「ヒト」という動物がもっている特殊性についての意識化 (90分)	人間が「社会的」であることについての復習・理解 (90分)
5	人間と社会集団 2. 社会集団の類型	人間がつくる集団にはどのような特質があるかについての事前考察 (90分)	集団類型の原理についての復習・理解 (90分)
6	人間と社会集団 3. 基礎的生活集団の変化	基礎集団としての家族が現代社会ではどういう特質をもつようになったかの事前考察 (90分)	家族集団のあり方と社会のあり方が密接に関わっていることについての復習・理解 (90分)
7	全体社会の変動 1. 社会変動と近代化	1. の振り返りを基に近代化とはどのような過程であるかの事前考察 (90分)	社会変動パターンとその要因、近代化としての社会変動についての復習・理解 (90分)
8	全体社会の変動 2. 近代市民社会の変化 (1) 大衆社会への移行	近代化によって成立した市民社会がどのように変化しているかの事前考察 (90分)	現代社会の大衆化状況についての復習・理解 (90分)
9	全体社会の変動 2. 近代市民社会の変化 (2) 個人化・リスク化する現代社会	個人を取り巻く不安定な現代社会の状況についての事前考察 (90分)	リスク社会としての現代社会についての復習・理解 (90分)
10	全体社会の変動 3. 近代産業社会の変化 (1) 産業社会の構造変化	近代化によって成立した産業社会がどのように変化しているかの事前考察 (90分)	現代社会の脱工業化状況についての復習・理解 (90分)
11	全体社会の変動 3. 近代産業社会の変化 (2) ポスト産業化の中の現代社会	知識集約化する現代産業社会についての事前考察 (90分)	サービス経済が主軸となった現代社会についての復習・理解 (90分)
12	現代の青年期 1. 青年期とアイデンティティ形成	1. の振り返りを基に社会の中の青年期についての事前考察 (90分)	アイデンティティとはどのような自己のあり方であるかについての復習・理解 (90分)
13	現代の青年期 2. ライフコースの多様化と 通過儀礼の喪失	現代社会の中のライフコースとはどのようなものかについての事前考察 (90分)	標準的ライフコースが失われた現代社会でのアイデンティティ形成が困難であることの復習・理解 (90分)
14	持続可能な社会に向けて	社会が持続可能となるためには何が問題でどのように対処すればよいかについての事前考察 (90分)	後期近代社会に特有な社会問題についての復習・理解 (90分)
15	総括と試験概要説明、授業アンケート実施	ノートの整理と重点項目のチェック (90分)	評価に関する確認と理解、試験対応のための復習・理解 (90分)
16	試験および開設 60分の試験終了後、残りの30分で解説	試験対応準備 (90分)	解説内容の確認・理解 (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会学入門（S・D・A）（科目ナンバリング：）				
授業担当者（所属・職名）	松下 守邦（社会福祉学科・教授）	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2（単位認定責任者：松下 守邦）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム（本科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標	<ul style="list-style-type: none"> 社会学とはどのような学問であるか、その基本的性格を概観する。 社会学は、高校の科目でみると公民「公共」の学修内容に近い。学術3分類（人文科学、自然科学、社会科学）のひとつ、社会科学に含まれる学問である。社会科学のなかでは、経済学は行動の効率合理性、政治学は国家や権力行使、法学は法規範に焦点をおくところならば、社会学はそれらのどれにもとらえられない、社会と人間の側面にこだわる性格を備えるものである。本科目においては、それらの基本的性格を学修する。 社会学は、個人と社会の関係を分析すること、そして常識の批評的理解をおこなうものである。
授業の位置づけ	<p>社会福祉学科のDP2、DP5に対応する。（2023年度） デザイン・建築学科のDP2に対応する。（2023年度） 社会福祉・デザイン・建築学科のDP2、DP5に対応する。（2022年度）</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 社会を構成しているさまざまな領域について、その基本を理解する。 社会でおきているさまざまな問題を、個人の責任のみでとらえるのではなく、社会的な関係性のもたらす要因として説明しようとする方法について、その基本を理解する。

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 社会を構成しているさまざまな領域について、その基本を理解する。 社会でおきているさまざまな問題を、個人の責任のみでとらえるのではなく、社会的な関係性のもたらす要因として説明しようとする方法について、その基本を理解する。
------	--

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 社会を構成しているさまざまな領域について、その基本を理解する。 社会でおきているさまざまな問題を、個人の責任のみでとらえるのではなく、社会的な関係性のもたらす要因として説明しようとする方法について、その基本を理解する。
授業全体の内容と概要	<p>「SDG4 質の高い教育をみんなに」の関連科目 社会学固有の考え方や、社会的行為、相互作用、社会集団、社会構造、社会変動などの概念を使い、私たちの社会でおこっている社会現象を記述説明する知識、技術を学修する。 社会学の基礎知識を、日常生活を例をあげて説明すること、文献を読解引用してコメントを述べること、以上の統合的学習をすすめる。</p>
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。 既習事項の整理作業（第7回、第14回）は、社会学用語の理解を、日常生活を例にあげて記述説明をおこなう、作業学習である。 視聴覚教材、社会学文献の読解（第8回、第15回）は、映像資料を視聴し、社会学用語を使って解説、コメント文を作成する。（学習評価技法 パークレイ/メジャー、2016～2020） 文献読解は、3色線引き読み（齋藤孝『三色ボールペンで読む日本語』角川書店、2005）の技法を利用する。 「課題に関する説明-課題に対するフィードバック」：各課題のフィードバックは、提出の次の授業にて模範回答例を紹介する機会がある。この後の課題提出の改善材料として利用してほしい。 「要望等への対応方法」：授業の課題の取り組み方など質問、要望、相談は、随時、対応する。授業中、あるいは研究室に来室など、気軽に相談してほしい。

アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他（授業の方法参照）
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他（授業の方法参照）										

履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 授業（講義）は学びの基本である。授業外学修として、図書館情報にある学術文献を調べる、自宅で準備学修（予習や復習）をすることにより、学修時間量を増やすことが大切になる。授業の学びは基礎的学修。さらに授業外学修は関連資料（Teamsファイル資料）読解による応用的学修である。 授業の教材準備（テキスト、ファイル資料）をおこない、参加することが学生評価の対象となる。 課題作成は、学術レポート（アカデミック・ライティング、AI）引用手続により文章作成する。（オリエンテーションにて説明する） 学術倫理（剽窃、ほう助の禁止）を守り、学修する。 テキスト自次構成：章の順番を入れ替えて学修すること、関連資料による発展学習がある。 ノートは、授業の再現資料として利用できるものになる。取材メモとして作成する。 欠席、遅刻の際の対応、教室内の授業マナー（水分補給、入退室、スマホ操作自粛、座席表指定）は、社会人モードで対応する。大学生の受講マナーは、高校までのものとは異なる次元になる。 大学から交付される学生メールアドレスを使い、マイクロソフトTeams科目チャネル、Formsを学修利用する。パソコンスキル（レポート作成、準備学修の確認、教員への授業外連絡など、情報通信機器利用マナー）を高めていく。
----------	--

修学サポート（合理的配慮）	<p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。 高校教育までの支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら科目サポートを進めるので、授業開始前に授業者へ相談してほしい。</p>
---------------	---

資格指定科目	
--------	--

評価方法・基準

評価前提条件	<p>単位認定のためには、授業第1回から第15回までに計10回以上の出席が必要である。 【既習事項の整理事項】、【視聴覚教材、社会学文献の読解】課題は、評価資料となる。</p>					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>テキスト資料により学修した知識を使い、収集した情報を分析し、理解すること、情報分析力としての知識、技能</td> <td>テキスト資料の要旨をていねいにまとめてあり、これまでの学修内容のいくつかを関連づけて適切にふまえていた。新しく学ぶ学術用語について、自分の言葉で複数の例をあげながら、自分の言葉でていねいに説明することができた。</td> <td>テキスト資料の要旨をまとめてあり、これまでの学修内容のいくつかを関連づけていた。新しく学ぶ学術用語について、自分の言葉で説明することができた。</td> <td>テキスト資料の要旨をまとめてあり、新しく学ぶ学術用語について、自分の言葉で説明することができた。</td> <td>テキスト資料の要旨は、改善の余地があるが、まとめ用語について、説明することができた。</td> <td>テキスト資料の要旨をまとめる作業、新しく学ぶ学術用語について、説明することは難しく、知識・技能の修得はできなかった。</td> </tr> <tr> <td>文献資料の信頼性を保ちながら、学術概念を使って考察すること、客観的立場から社会的現象について論理的に分析表現をすることができる。思考力・判断力・表現力</td> <td>信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用した。新しく学ぶ学術概念を、これまでのものと対比して、類似点や相違点をあげながら、社会的現象の分析表現することができた。</td> <td>信頼性のある文献資料を選び、適切な手続で引用した。新しく学ぶ学術概念を、これまでのものと関連づけてながら、論理的に社会的現象の分析表現することができた。</td> <td>信頼性のある文献資料を選び、引用した。新しく学ぶ学術概念を使い、これまでのものと関連づけることができた。</td> <td>文献資料を選び、信頼性を保持したうえで引用することができた。改善の余地はあるが、社会的現象の分析表現をすることができた。</td> <td>文献資料を選び、引用する信頼性の確保すること、新しく学ぶ学術概念を使い、社会的現象の分析表現をすることは難しく、思考力・判断力・表現力は修得できなかった。</td> </tr> <tr> <td>大学の学修環境を創造するメンバーとしての自覚し、自分の意見と異なる意見を統合させながら、学修経験を高めたいこととする。関心・意欲・態度</td> <td>大学生としての役割と責任を自覚し、積極的・協同的に行動することができた。</td> <td>大学生として役割は、おおむね理解しており、行動することができた。</td> <td>大学生として自分の役割は、基本的な行動をすることができた。</td> <td>大学生として自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。</td> <td>大学生として自分の役割は、自ら理解して行動することが難しく、関心・意欲・態度を示すことはできなかった。</td> </tr> </table>						評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	テキスト資料により学修した知識を使い、収集した情報を分析し、理解すること、情報分析力としての知識、技能	テキスト資料の要旨をていねいにまとめてあり、これまでの学修内容のいくつかを関連づけて適切にふまえていた。新しく学ぶ学術用語について、自分の言葉で複数の例をあげながら、自分の言葉でていねいに説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめてあり、これまでの学修内容のいくつかを関連づけていた。新しく学ぶ学術用語について、自分の言葉で説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめてあり、新しく学ぶ学術用語について、自分の言葉で説明することができた。	テキスト資料の要旨は、改善の余地があるが、まとめ用語について、説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめる作業、新しく学ぶ学術用語について、説明することは難しく、知識・技能の修得はできなかった。	文献資料の信頼性を保ちながら、学術概念を使って考察すること、客観的立場から社会的現象について論理的に分析表現をすることができる。思考力・判断力・表現力	信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用した。新しく学ぶ学術概念を、これまでのものと対比して、類似点や相違点をあげながら、社会的現象の分析表現することができた。	信頼性のある文献資料を選び、適切な手続で引用した。新しく学ぶ学術概念を、これまでのものと関連づけてながら、論理的に社会的現象の分析表現することができた。	信頼性のある文献資料を選び、引用した。新しく学ぶ学術概念を使い、これまでのものと関連づけることができた。	文献資料を選び、信頼性を保持したうえで引用することができた。改善の余地はあるが、社会的現象の分析表現をすることができた。	文献資料を選び、引用する信頼性の確保すること、新しく学ぶ学術概念を使い、社会的現象の分析表現をすることは難しく、思考力・判断力・表現力は修得できなかった。	大学の学修環境を創造するメンバーとしての自覚し、自分の意見と異なる意見を統合させながら、学修経験を高めたいこととする。関心・意欲・態度	大学生としての役割と責任を自覚し、積極的・協同的に行動することができた。	大学生として役割は、おおむね理解しており、行動することができた。	大学生として自分の役割は、基本的な行動をすることができた。	大学生として自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	大学生として自分の役割は、自ら理解して行動することが難しく、関心・意欲・態度を示すことはできなかった。
評価項目	評価基準																																		
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																														
テキスト資料により学修した知識を使い、収集した情報を分析し、理解すること、情報分析力としての知識、技能	テキスト資料の要旨をていねいにまとめてあり、これまでの学修内容のいくつかを関連づけて適切にふまえていた。新しく学ぶ学術用語について、自分の言葉で複数の例をあげながら、自分の言葉でていねいに説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめてあり、これまでの学修内容のいくつかを関連づけていた。新しく学ぶ学術用語について、自分の言葉で説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめてあり、新しく学ぶ学術用語について、自分の言葉で説明することができた。	テキスト資料の要旨は、改善の余地があるが、まとめ用語について、説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめる作業、新しく学ぶ学術用語について、説明することは難しく、知識・技能の修得はできなかった。																														
文献資料の信頼性を保ちながら、学術概念を使って考察すること、客観的立場から社会的現象について論理的に分析表現をすることができる。思考力・判断力・表現力	信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用した。新しく学ぶ学術概念を、これまでのものと対比して、類似点や相違点をあげながら、社会的現象の分析表現することができた。	信頼性のある文献資料を選び、適切な手続で引用した。新しく学ぶ学術概念を、これまでのものと関連づけてながら、論理的に社会的現象の分析表現することができた。	信頼性のある文献資料を選び、引用した。新しく学ぶ学術概念を使い、これまでのものと関連づけることができた。	文献資料を選び、信頼性を保持したうえで引用することができた。改善の余地はあるが、社会的現象の分析表現をすることができた。	文献資料を選び、引用する信頼性の確保すること、新しく学ぶ学術概念を使い、社会的現象の分析表現をすることは難しく、思考力・判断力・表現力は修得できなかった。																														
大学の学修環境を創造するメンバーとしての自覚し、自分の意見と異なる意見を統合させながら、学修経験を高めたいこととする。関心・意欲・態度	大学生としての役割と責任を自覚し、積極的・協同的に行動することができた。	大学生として役割は、おおむね理解しており、行動することができた。	大学生として自分の役割は、基本的な行動をすることができた。	大学生として自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	大学生として自分の役割は、自ら理解して行動することが難しく、関心・意欲・態度を示すことはできなかった。																														

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会学入門 (S・D・A) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	松下 守邦 (社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松下 守邦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『基礎社会学 新訂第5版』	間瀬領吾ほか	世界思想社	2022	9784790717669	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『社会学用語図鑑』	田中正人	プレジデント社	2019	9784833423113	
2	『参照基準 社会学分野』	日本学術会議社会学委員会		2014		大学教育の分野別質保証のための教育課
3	『社会学の力 改訂版』	友枝俊雄・浜日出夫・山田真茂	有斐閣	2023	9784641174818	
4	『学習評価ハンドブック ALを促す50の技法』	パークレイ/メジャー	東京大学出版会	2020	9784130513531	
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーションでシラバス(ループブック;古語の赤チヨーク、赤土の語源とされ、現在は評価基準表の意味を持つとされる。出典略)を説明する。	シラバスを熟読する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
2	社会学と社会、社会学の歴史、社会学の思考	テキスト(間瀬, 2022)1章を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
3	社会学の説明、社会学の説明論理	テキスト(間瀬, 2022)2章を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
4	社会学の社会調査と計量	テキスト(間瀬, 2022)3、4章を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
5	社会学の基本概念(社会的行為、地位と役割)	テキスト(間瀬, 2022)5章前半を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
6	社会学の基本概念(社会集団、官僚制)	テキスト(間瀬, 2022)5章後半を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
7	【既習事項の整理作業】	授業1回-6回を整理学修する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
8	【視聴覚教材、社会学文献の読解】	テキスト、文献資料を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
9	家族の社会学	テキスト(間瀬, 2022)6章を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
10	都市の社会学	テキスト(間瀬, 2022)7章を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
11	労働の社会学	テキスト(間瀬, 2022)9章を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
12	社会福祉の社会学	テキスト(間瀬, 2022)13章を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
13	差別の社会学	テキスト(間瀬, 2022)14章を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
14	【既習事項の整理作業】	授業9回-13回を整理学修する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
15	【視聴覚教材、社会学文献の読解】、授業改善アンケートの実施	テキスト、文献資料を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
16	授業全体のまとめ、作業解説。	全授業のテキスト、文献資料、ノートの確認準備学修をする。(90分)	全体のふりかえりを行う。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	平面構成 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	グラフィックデザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくは、Teamsなどにより事前に連絡。				

概要

履修目標

デザインの成り立ちに於いて重要とされる要素(エレメント)と原則(プリンシプル)を平面上の造形を通じて学ぶことにより、後に様々な制作活動で応用可能な造形力を養う。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)
 デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2023・2022年度)
 デザイン学科のDP1、DP2、DP5、DP7に対応する。(2021年度)

到達目標

デザインの要素(エレメント)と原則(プリンシプル)を理解した上で、求められた課題のコンセプトを平面上に適切に美しく表現することができる造形力を身に付け、今後の作品制作に必要な応用力を高める。

授業全体の内容と概要

平面構成 で習得した内容を基にして、さらに高度なテーマや複雑なモチーフを用いながら平面を構成する能力を高めるための課題制作を段階を追って積み重ねていく。

授業の方法

各課題作品のテーマや補助的な知識について適宜講義し、制作を進めて行く。
 制作は伝統的なアナログ作業とし、デジタルでの制作は行わない。
 画材はアクリルガッシュ、筆、パレット、鉛筆、定規、コンパス、カッターナイフ、スケッチブックなどを用い、課題の提出形態はA3サイズのケントボードを用いる。
 不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

平面構成 を履修していることが前提である。
 制作には、アクリルガッシュ、筆、パレット、芯の柔らかい鉛筆、定規、コンパス等の筆記具、カッターナイフ、スケッチブックまたはクロッキー帳を必要とする。
 上記のほか、適宜、課題制作前に指示するものを準備すること。
 不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
 板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

教職課程(美術)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
課題のコンセプトを理解し、画材を効果的に用いて、平面上に適切に美しく表現できる。	十分に表現出来ていた。	概ね表現出来ていた。	不十分ではあるが、表現出来ていた。	最低限の表現にとどまった。	表現出来ていなかった。
課題のコンセプトを表現するために必要な工程や画材の選択ができる。	十分に出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限しか出来なかった。	全く出来なかった。
常にデザインの要素(エレメント)と原則(プリンシプル)を意識しながらの制作ができる。	十分に出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限しか出来なかった。	全く出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	平面構成 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	グラフィックデザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験に基づいて指導をする。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 平面構成 の振り返り	シラバスの確認(90分)	平面構成 の内容整理(90分)
2	言葉から発想するイメージ	シラバスの確認(90分)	課題の制作(90分)
3	言葉から発想するイメージ	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
4	言葉から発想するイメージ	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
5	言葉から発想するイメージ	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
6	言葉から発想するイメージ	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
7	プレゼンテーション-講評	課題の制作(90分)	講評内容の整理(90分)
8	具象的表現	シラバスの確認(90分)	課題の制作(90分)
9	具象的表現	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
10	具象的表現	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
11	具象的表現	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
12	具象的表現	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
13	具象的表現	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
14	具象的表現	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
15	プレゼンテーション-講評	課題の制作(90分)	講評内容の整理(90分)
16	全課題の確認・総評 授業改善アンケートの実施	全授業内容のまとめ(90分)	全授業内容のまとめ(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	西洋美術史 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

新古典主義以降の西洋の絵画を中心とする美術の歴史を理解する。各時代を代表する画家の主要作品を通して、西洋美術に慣れ親しむとともに、その画家や作品を生み出した社会や文化に対する理解を深める。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)
デザイン学科のDP1、DP2、DP4に対応する。(2022・2023年度)

到達目標

- 西洋美術史の時代区分、様式、流派、個々の美術作品などに対する基礎的な知識を習得する。
- 作品に関する諸情報を自分の言葉で説明できる。

授業全体の内容と概要

西洋美術の大まかな流れを概観し、具体的な作品を取り上げながら、個々の美術作品の特徴や時代区分、様式、流派について学び、作品の背景にあるものを含めて、美術作品を「見る」能力を高める。

授業の方法

講義形式で、パワーポイントやレジュメ、視聴覚メディア等を使って実施する。グループワークやディスカッションも取り入れる。授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

事前学習として、授業内で取り上げる作品について事前にテキストやインターネット等で予習し、事後学習として取り上げた作家の他の作品について調べると、理解が深まる。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程必修 高・美術、工芸

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
30%	0%	0%	30%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
美術史の内容に対する理解度	授業内容を越えた自主的な学習ができた。	授業内容について自主的な学習ができた。	授業内容について十分な理解ができた。	授業内容について理解できた。	授業内容の理解が不足していた。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力	授業内容を越えて文献や資料を自分で調査して、独自の知見を加えて説得的に論じることができた。	自分の考えをもとに文献や資料を自分で調査して、筋の通った論述を展開できた。	授業内容に沿って自分の考えを深めて展開し論述できた。	定期試験において自分の考えを記述することができた。	定期試験において自分の考えを記述できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	西洋美術史 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『いちばん親切な西洋美術史』	池上英洋、川口清香、荒井咲紀	新星出版社	2016	9784405072282	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『美術でめぐる 西洋史年表』	池上英洋、青野尚子	新星出版社	2021	9784405108134	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、授業についてのオリエンテーション、授業改善アンケート結果反映の説明 西洋美術史1の振り返り	シラバスを読んでおく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
2	新古典主義とロマン主義(1)ダヴィッド	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
3	新古典主義とロマン主義(2)アングル	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
4	新古典主義とロマン主義(3)ジェリコー、ドラクロワ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
5	近代絵画のはじまり クールベ、ミレー、マネ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
6	印象派(1)マネ、モネ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
7	小テスト(1) 印象派(2)ルノワール	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
8	印象派(3)ジャポニスム	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
9	後期印象派と新印象派(1)ゴッホ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
10	後期印象派と新印象派(2)セザンヌ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
11	小テスト(2) 後期印象派と新印象派(3)スーラ、シヤック	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
12	世紀末美術(1)象徴主義 モロー ルドン	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
13	世紀末美術(2)ラファエル前派、分離派、アーツ・アンド・クラフツ運動、アール・ヌーヴォー	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
14	20世紀前半の諸潮流(1)フォーヴィスムとキュビスム マ蒂斯、ピカソ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
15	20世紀前半の諸潮流(2)ダダ、シュルレアリスムなど まとめ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
16	定期試験 フィードバック 授業改善アンケート実施	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	授業内容を復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして漫画の描き方を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

<p>履修目標</p> <p>ストーリー漫画の構成・特徴を理解する。 漫画を描くための技術を身につけ、書く、漫画での表現力を身につけ、自己の可能性を探る。</p>																					
<p>授業の位置づけ</p> <p>デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度) デザイン学科のDP1、DP3、DP5に対応する。(2023、2022年度) デザイン学科のDP2、DP3、DP5に対応する。(2021年度)</p>																					
<p>到達目標</p> <p>ストーリー漫画の構成・特徴を知る。 漫画を描くための技術を身につける。 漫画での表現力を身につける。</p>																					
<p>授業全体の内容と概要</p> <p>ストーリー漫画とはどのようにして作り上げていくのか、その方法を知り、読み物として成立させることを学ぶ。また、どのようなジャンルの漫画を描きたいのか、漫画で伝えたいことは何なのかを考える。漫画課題は制作段階ごとに個別に指導する。作画はアナログ・デジタルとちらにも対応する。</p>																					
<p>授業の方法</p> <p>授業は板書・パワーポイント・資料配布・実演等の方法で説明する。プロジェクター使用。授業後にデジタル資料はTeamsに保存するので振り返り可能。漫画を作成するときは段階ごとに個別に対応する。課題は発表、添削、講評にてフィードバックする。</p>																					
<p>アクティブラーニングの実施方法</p> <table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td>○</td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業															
ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)															
<p>履修上の注意事項</p> <p>漫画を履修していることが望ましい。 授業開始から30分間で学籍内容の説明を行うので遅刻しないこと。 デジタルで描く場合はノートパソコンやタブレットを持参すること。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。</p>																					

<p>修学サポート(合理的配慮)</p> <p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
<p>資格指定科目</p>

評価方法・基準

<p>評価前提条件</p> <p>最低出席回数22回以上。 完成した課題を期日までに提出すること。</p>												
<p>評価方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	50%	0%	50%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	50%	0%	50%	0%							

<p>ルーブリック</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を越えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ストーリー漫画についての知識</td> <td>ストーリー漫画の構成・特徴を理解し、作品に活かすことができた。</td> <td>ストーリー漫画の構成・特徴を理解することができた。</td> <td>ストーリー漫画の構成・特徴を理解することに努めた。</td> <td>ストーリー漫画の構成・特徴を知ることができた。</td> <td>ストーリー漫画の構成・特徴を知ることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>漫画を描くための技術</td> <td>漫画を描くための技術を磨き、作品に活かすことができた。</td> <td>漫画を描くための技術を磨くことができた。</td> <td>漫画を描くための技術を磨くことに努めた。</td> <td>漫画を描くための技術を身につけた。</td> <td>漫画を描くための技術を身につけることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>作品の表現力</td> <td>漫画での表現力を身につけ、自己の可能性を探り、作品に活かすことができた。</td> <td>漫画での表現力を身につけ、自己の可能性を探ることができた。</td> <td>漫画での表現力を身につけること、自己の可能性を探ることに努めた。</td> <td>漫画での表現力を身につけることができた。</td> <td>漫画での表現力を身につけることができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	ストーリー漫画についての知識	ストーリー漫画の構成・特徴を理解し、作品に活かすことができた。	ストーリー漫画の構成・特徴を理解することができた。	ストーリー漫画の構成・特徴を理解することに努めた。	ストーリー漫画の構成・特徴を知ることができた。	ストーリー漫画の構成・特徴を知ることができなかった。	漫画を描くための技術	漫画を描くための技術を磨き、作品に活かすことができた。	漫画を描くための技術を磨くことができた。	漫画を描くための技術を磨くことに努めた。	漫画を描くための技術を身につけた。	漫画を描くための技術を身につけることができなかった。	作品の表現力	漫画での表現力を身につけ、自己の可能性を探り、作品に活かすことができた。	漫画での表現力を身につけ、自己の可能性を探ることができた。	漫画での表現力を身につけること、自己の可能性を探ることに努めた。	漫画での表現力を身につけることができた。	漫画での表現力を身につけることができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
ストーリー漫画についての知識	ストーリー漫画の構成・特徴を理解し、作品に活かすことができた。	ストーリー漫画の構成・特徴を理解することができた。	ストーリー漫画の構成・特徴を理解することに努めた。	ストーリー漫画の構成・特徴を知ることができた。	ストーリー漫画の構成・特徴を知ることができなかった。																								
漫画を描くための技術	漫画を描くための技術を磨き、作品に活かすことができた。	漫画を描くための技術を磨くことができた。	漫画を描くための技術を磨くことに努めた。	漫画を描くための技術を身につけた。	漫画を描くための技術を身につけることができなかった。																								
作品の表現力	漫画での表現力を身につけ、自己の可能性を探り、作品に活かすことができた。	漫画での表現力を身につけ、自己の可能性を探ることができた。	漫画での表現力を身につけること、自己の可能性を探ることに努めた。	漫画での表現力を身につけることができた。	漫画での表現力を身につけることができなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 三上 いずみ)		CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして漫画の描き方を指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 使用道具の説明	シラバスを読んでおくこと(45分)	必要な道具を準備する(45分)
2	ストーリー漫画の構成・特徴 漫画のおもしろさについて どんな漫画を描きたいのか	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
3	プロットづくり	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
4	プロットづくり	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
5	ネーム	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
6	ネーム	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
7	ネーム直し	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
8	ネーム直し	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
9	ネーム直し	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
10	ネーム直し	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
11	下書き	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
12	下書き	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
13	下書き	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
14	下書き	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
15	ペン入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
16	ペン入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	背景	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
18	背景	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
19	ベタぬり	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
20	ベタぬり	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
21	スクリーントン	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
22	スクリーントン	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
23	仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
24	仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
25	表紙	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
26	表紙	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
27	製本	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
28	製本	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
29	発表	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
30	講評	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
31	鑑賞	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要なところまで制作作業を進める(45分)
32	展示 授業改善アンケートの実施	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと(45分)

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期	授業形態	必修・選択
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング:)		
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		
オフィスアワー			

概要

履修目標

授業の位置づけ

到達目標

授業全体の内容と概要

授業の方法

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL		
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業		
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)		

履修上の注意事項

修学サポート(合理的配慮)

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期	授業形態	必修・選択
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング:)		
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	財務会計論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	川津 大樹(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 川津 大樹)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体(商工会)に勤務し、地域の中小企業に対して金融・税務指導を行った経験に基づき、財務会計に関する理論、制度および実務を総合的に取り上げる。			
オフィスアワー	初回講義で説明、または研究室前の掲示等を参照。				

概要

履修目標
<p>会計は、「事業(ビジネス)の言語」と呼ばれており、あらゆる業種や立場(経営者、従業員またはフリーランス等)を問わず、その知識が必要とされている。ところが、会計には、「利益」や「価値権利」のように、会計の世界にしか存在しない用語や概念が存在する。そこで、本講義では、社会人として求められる財務会計の知識・理解を深め、財務諸表分析を通じて会計情報を利用できるようになることを目標とする。</p>

授業の位置づけ
経営学科のDP1、DP2、DP3に対応する。(2023・2022年度)

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ・財務会計の基礎的な仕訳処理を理解する。 ・財務会計の役割と財務諸表の構造に関する理論を理解する。 ・財務諸表分析を行うことができる。

授業全体の内容と概要
<p>講義の前半(第5回まで)は、財務会計の総論として、会計の基本前提や関連規則を取り上げる。講義の後半(第6回以降)は、個別論点を取り上げ、会計処理とそれを支える理論を解説する。本講義は、テキストの解説のみならず、日経新聞の記事や上場企業の財務諸表を用いて、実社会との関わりを意識して進める。また、本授業科目は、「SDG12 つくる責任 つかう責任」の関連授業であり、当該目標で求められているサステナビリティ報告に関しても取り上げる。</p>

授業の方法
<ul style="list-style-type: none"> ・会計処理を取り上げる際には、仕訳の計算を行う時間を設けるため、電卓を用意することを推奨する。 ・Teamsの利用を前提とするので、受講生は全員必ず登録する。登録案内は、初回までに別途行う。 ・不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。 ・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供することがあり得る。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td>○</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
本講義は、簿記の発展科目であることから、「簿記論」の単位を取得していない者は受講できない。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	60%	40%	0%	0%	0%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
60%	40%	0%	0%	0%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を越えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>会計処理の意味を理解する。</td> <td>会計処理の内容を理論と関連づけて詳細に説明できる。</td> <td>会計処理を理解した上で、その背後にある理論を十分に理解している。</td> <td>会計処理を理解した上で、その背後にある理論をある程度理解している。</td> <td>会計処理の意味を最低限理解している。</td> <td>会計処理の意味を理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>財務諸表の内容を理解できる。</td> <td>財務諸表の内容を理論と関連づけて詳細に説明できる。</td> <td>財務諸表の内容を理解した上で、その背後にある理論を十分に理解している。</td> <td>財務諸表の内容を理解した上で、その背後にある理論をある程度理解している。</td> <td>財務諸表に記載されている内容を最低限理解している。</td> <td>財務諸表に記載されている内容を理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>財務諸表の分析について理解できる。</td> <td>財務諸表分析を行い、数値の結果と関連づけて企業の状態を詳細に説明できる。</td> <td>財務諸表分析の数値を見て、企業の状態を判断できる。</td> <td>実際の企業の財務諸表を用いて、財務諸表分析を行い、指標の数値を計算することができる。</td> <td>財務諸表分析に使用される指標の意味を最低限理解している。</td> <td>財務諸表分析に使用される指標の意味を理解できなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	会計処理の意味を理解する。	会計処理の内容を理論と関連づけて詳細に説明できる。	会計処理を理解した上で、その背後にある理論を十分に理解している。	会計処理を理解した上で、その背後にある理論をある程度理解している。	会計処理の意味を最低限理解している。	会計処理の意味を理解できなかった。	財務諸表の内容を理解できる。	財務諸表の内容を理論と関連づけて詳細に説明できる。	財務諸表の内容を理解した上で、その背後にある理論を十分に理解している。	財務諸表の内容を理解した上で、その背後にある理論をある程度理解している。	財務諸表に記載されている内容を最低限理解している。	財務諸表に記載されている内容を理解できなかった。	財務諸表の分析について理解できる。	財務諸表分析を行い、数値の結果と関連づけて企業の状態を詳細に説明できる。	財務諸表分析の数値を見て、企業の状態を判断できる。	実際の企業の財務諸表を用いて、財務諸表分析を行い、指標の数値を計算することができる。	財務諸表分析に使用される指標の意味を最低限理解している。	財務諸表分析に使用される指標の意味を理解できなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
会計処理の意味を理解する。	会計処理の内容を理論と関連づけて詳細に説明できる。	会計処理を理解した上で、その背後にある理論を十分に理解している。	会計処理を理解した上で、その背後にある理論をある程度理解している。	会計処理の意味を最低限理解している。	会計処理の意味を理解できなかった。																								
財務諸表の内容を理解できる。	財務諸表の内容を理論と関連づけて詳細に説明できる。	財務諸表の内容を理解した上で、その背後にある理論を十分に理解している。	財務諸表の内容を理解した上で、その背後にある理論をある程度理解している。	財務諸表に記載されている内容を最低限理解している。	財務諸表に記載されている内容を理解できなかった。																								
財務諸表の分析について理解できる。	財務諸表分析を行い、数値の結果と関連づけて企業の状態を詳細に説明できる。	財務諸表分析の数値を見て、企業の状態を判断できる。	実際の企業の財務諸表を用いて、財務諸表分析を行い、指標の数値を計算することができる。	財務諸表分析に使用される指標の意味を最低限理解している。	財務諸表分析に使用される指標の意味を理解できなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	財務会計論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	川津 大樹(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 川津 大樹)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体(商工会)に勤務し、地域の中小企業に対して金融・税務指導を行った経験に基づき、財務会計に関する理論、制度および実務を総合的に取り上げる。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ケースブック会計入門(第4版)』	永野剛雄	新世社	2014年		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(講義の進め方、簿記論の復習) 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスとテキストの序文を読んでおく(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
2	会計とは何か	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
3	会計の仕組みと規則	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
4	会計基準と企業会計原則	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
5	財務諸表の作成原理	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
6	棚卸資産の会計	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
7	固定資産の会計	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
8	金融資産の会計	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
9	負債の会計	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
10	純資産の会計	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
11	収益・費用・税金の会計	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
12	連結の貸借対照表と損益計算書	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
13	その他の財務諸表	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
14	企業の評価 財務諸表分析	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
15	サステナビリティ報告に関する最新動向 授業改善アンケートの実施	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
16	定期試験と解説(60分の試験終了後、残りの30分で解説)	これまでの内容を復習する(90分)	定期試験の解説内容を復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	マクロ経済学 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	河野 善文(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

マクロ経済学の基本用語や考え方を理解することで、マクロ経済学に関する基礎的な問題が解け、日本のマクロ経済のニュースが自分なりに解釈できる。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

マクロ経済学の基礎的な用語を説明できる。
マクロ経済学の基礎的な理論に関する計算問題や図解問題を解ける。
日本のマクロ経済規模やマクロ経済政策に関するニュースの概要を説明できる。

授業全体の内容と概要

国民所得や三面等価、通貨供給量などのマクロ経済の用語ならびに財市場の均衡理論など、マクロ経済学の基本的な枠組みについてテキストを通じて学ぶ。また、日本のマクロ経済に関する記事や資料を読み、マクロ経済学で学んだことをもとにマクロ経済の動向や政策について考察・解釈する。

授業の方法

各回の計画にそって、板書やスライドによる講義とノートをもちいた演習とを組み合わせた授業をおこなう。講義では、マクロ経済学の用語や基本的な考え方について事例をまじえて解説する。演習では、マクロ経済学に関連する計算問題やグラフの作成、例をあげて用語を説明するなどの演習問題に取り組む。また、理解の確認の意味もふくめて、解説と演習のあいだに受講生に対して随時質問をして意見をもとめながら授業をすすめる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

履修人数によっては座席を指定する場合がある。また、質問や演習問題の回答・解答を書くために必ずノートが必要である。平常点はこの演習課題への取り組みを評価する。このため、欠席・遅刻することなく授業に参加して演習に取り組むことが重要である。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は試験を除く10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
マクロ経済の用語の理解	事例をあげてマクロ経済の用語を明確に説明できた。	事例をあげてマクロ経済の用語を説明できた。	マクロ経済の用語を説明できた。	マクロ経済の用語をある程度説明できた。	マクロ経済の用語を説明できなかった。
マクロ経済理論の理解	図や式を利用してマクロ経済学の問題をとき、その結果についてコメントできた。	図や式を利用してマクロ経済学の問題がとけた。	マクロ経済学の基礎的な図や式を正確に書くことができた。	マクロ経済学の図や式をある程度書くことができた。	マクロ経済学の図や式を書くことができなかった。
日本のマクロ経済の理解	日本のマクロ経済や経済政策の動向について概要を説明できた。	日本のマクロ経済や経済政策の動向について概要をある程度説明できた。	日本のマクロ経済や経済政策の動向についてある程度考察できた。	日本のマクロ経済や経済政策の動向について調べることができた。	日本のマクロ経済や経済政策の動向を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	マクロ経済学 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	河野 善文 (経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『マンキュー入門経済学(第3版)』	N・グレイリー・マンキュー	東洋経済新報社	2019	4492315217	
2	『マクロ経済学の基礎(第2版)』	家森信善	中央経済社	2021	9784502371318	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	マクロ経済学とは ・授業改善アンケート結果反映の説明 ・授業計画(シラバス)の説明	マクロ経済学とは何かについて調べる(90分)	マクロ経済学とは何かについてノートにまとめる(90分)
2	日本のマクロ経済について ・経済活動と国民経済計算 ・日本のマクロ経済の動向	国内総生産GDP・月例経済報告について調べる(90分)	国民経済計算とは何かについてノートにまとめる(90分)
3	マクロ経済学の基本要素 ・マクロ経済の3つの面 ・マクロ経済の3つの市場と経済主体	経済の3つの面と経済主体について調べる(90分)	マクロ経済学の基本要素についてノートに整理してまとめる(90分)
4	経済の3つの面とその関係 ・経済の3つの面と国民所得 ・経済の3つの面の関係	三面等価について調べる(90分)	経済の3つの面の関係をノートに整理してまとめる(90分)
5	財の需要と供給 ・マクロ経済学の記号と式 ・財市場における総需要と総供給の均衡	財市場の均衡について調べる(90分)	財市場の均衡についてノートにまとめる(90分)
6	均衡国民所得 ・国民経済計算 ・所得と消費の関係	消費関数について調べる(90分)	国民経済計算の復習(ノート整理)と演習問題(90分)
7	均衡国民所得の計算 ・均衡国民所得の計算 ・演習:均衡国民所得	均衡国民所得について調べる(90分)	均衡国民所得の計算方法のノート整理と演習問題(90分)
8	有効需要と財政政策 ・有効需要と不況 ・景気対策	有効需要と財政政策について調べる(90分)	財政政策にかんするノート整理と演習問題(90分)
9	均衡国民所得の図解 ・総供給と総需要の図 ・均衡国民所得の図解	45度線分析について調べる(90分)	均衡国民所得の図の描きかたをノートにまとめる(90分)
10	完全雇用と需給ギャップ ・日本の雇用状況 ・完全雇用と完全雇用国民所得	完全雇用について調べる(90分)	完全雇用国民所得の説明をノートにまとめる(90分)
11	需給ギャップと経済政策 ・需給ギャップの復習 ・演習:需給ギャップ	需給ギャップの復習(90分)	需給ギャップにかんする演習問題(90分)
12	投資の決定について ・金利とは ・投資の決定の考え方	金利・期待収益について調べる(90分)	投資決定の考え方についてノートにまとめる(90分)
13	中央銀行と通貨 ・金利の現状 ・通貨と日本銀行	日本銀行について調べる(90分)	通貨と日銀についてノートにまとめる(90分)
14	金融政策と通貨 ・金融政策とは ・日銀と金融政策	金融政策について調べる(90分)	日銀と金融政策についてノートにまとめる(90分)
15	財市場と金融市場のまとめ	これまでの授業ノートを見直し疑問点をまとめる(90分)	不明な点を確認して授業ノートを完成させる(90分)
16	定期試験(60分)と試験の説明 授業改善アンケートの実施	各回の演習問題に再度とりくむ(90分)	試験で間違えた問題に再度とりくむ(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	社会科・地理歴史科教 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	塩崎 大輔(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

中学校の社会科教諭及び高等学校の地理歴史科教諭として最低限、身につけなければならない事、すなわち「社会科」・「地理歴史科」という教科の本質的な意義と目的を、詳細に理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP 4、DP 5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

実際に「社会科」・「地理歴史科」の授業計画を作成することや教壇に立てるだけの最低限のスキルを身につけ、教材研究ができる。

授業全体の内容と概要

教育実習の準備として、基本的な教科の理解及び教科の授業計画、教材研究、模擬授業(後期)等をマスターするので、教員の立場として物事を考えることが望まれる。前期は、社会・地理歴史科の基礎的な内容を学修して教材研究の方法を学び、後期には実践的な模擬授業を実施する。「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連科目。授業全体を通して、情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

授業形態は講義形式(板書を含む)が中心であるが、グループ学習・ディスカッションも含まれる。また、指導案やレポート等は、コメントによりフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

講義内で適宜連絡する。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(社会・地理歴史)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上である。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	30%	0%	25%	25%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	レポート課題において、9割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、8割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、7割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点取ることができなかった。
思考力・判断力・表現力	右の記述を高いレベルで実現ができた。	ディスカッションの課題などで、論理的に自分の意見をまとめ、たいへんわかりやすく説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、わかりやすく説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができなかった。
関心・意欲・態度	右の記述を高いレベルで実現ができた。	実践的な模擬授業において、より詳細な教材研究がなされ、授業として成立していた。	実践的な模擬授業において、詳細な教材研究がなされ、授業として成立していた。	実践的な模擬授業において、教材研究がなされ、授業として成立していた。	実践的な模擬授業において、教材研究がなされず、授業として成立しなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	社会科・地理歴史科教 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	塩崎 大輔(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『中学校学習指導要領解説 社会編』	文部科学省	東洋館出版社	2018	9784491034713	
2	『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』	文部科学省	東洋館出版社	2019	9784491036410	
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明を含む)前年度の授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
2	模擬授業見学(4年生)(1)	模擬授業見学の準備をしておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
3	模擬授業見学(4年生)(2)	模擬授業見学の準備をしておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
4	模擬授業の実践 -地理的な見方・考え方-	模擬授業の資料を作成しておくこと。(90分)	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。(90分)
5	模擬授業の実践 -国際理解-	模擬授業の資料を作成しておくこと。(90分)	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。(90分)
6	模擬授業の実践 -身近な地域-	模擬授業の資料を作成しておくこと。(90分)	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。(90分)
7	模擬授業の実践 -歴史的な見方・考え方-	模擬授業の資料を作成しておくこと。(90分)	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。(90分)
8	模擬授業の実践 -過去と現在のつながり-	模擬授業の資料を作成しておくこと。(90分)	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。(90分)
9	模擬授業の実践 -多面的・多角的に考察する力-	模擬授業の資料を作成しておくこと。(90分)	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。(90分)
10	模擬授業の実践 -地理情報システム-	模擬授業の資料を作成しておくこと。(90分)	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。(90分)
11	模擬授業の実践 -防災-	模擬授業の資料を作成しておくこと。(90分)	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。(90分)
12	模擬授業の実践 -近現代・国際社会-	模擬授業の資料を作成しておくこと。(90分)	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。(90分)
13	模擬授業の実践 -近現代・日本-	模擬授業の資料を作成しておくこと。(90分)	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。(90分)
14	総合的な学習の時間における地理歴史科 -テーマ-	模擬授業の資料を作成しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
15	総合的な学習の時間における地理歴史科 -調査-	模擬授業の資料を作成しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
16	まとめ、課題(レポートなど)の解説 授業改善アンケートの実施	まとめの準備(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生徒・進路指導論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	高井 雅一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 高井 雅一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして生徒・進路指導論に関連する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する。				

概要

履修目標

生徒指導・進路指導の意義や役割をはじめ、その考え方、進め方を学ぶ。今日的な課題や対応できる資質能力を身につけ、学校指導体制や関係諸機関との連携の在り方について理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP2、DP3、DP4に対応する。(2023・2022年度)
 社会福祉学科・デザイン学科・建築学科のDP2、DP4に対応する。(2023・2022年度)
 建築学科のDP2、DP4に対応する。(2023・2022年度)
 建築学科のDP1、DP2、DP3に対応する。(2021年度)

到達目標

生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義や原理及び今日的な課題、望ましい指導体制、家庭や関係機関との連携の在り方、主体的・対話的で深い学びを実現する指導の進め方を理解し、効果的な授業を実践することができる。
 「SDG10」人や国の不平等をなくそう

授業全体の内容と概要

・生徒指導・進路指導は、生徒が社会との調和のもとで自己実現を達成することを援助するためのものであり、個としての個人適応ならびに社会適応の促進を援助するためのものであることをわかりやすく講義する。
 ・各テーマにより、グループ学習など自身の意見をまとめて発表できるとともに、協調性を身に着けられるような活動を行う。
 「SDG10」人や国の不平等をなくそう問題でいじめ・不登校などの対応など体得する。

授業の方法

・各回のテーマに関してプリント等を使用して説明を行う。
 ・各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関して思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。
 ・Formsを使い理解度を把握するための小テストを行い、指導する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・主体的・対話的な学修を行うため、座席を指定する。
 ・講義で配布するプリント等は、ファイルに整然と保管し、必要時に参照できるようにする。
 ・講義中、スマホや飲食物等はカバン等に入れておく。但し、指示のある場合は可。
 ・20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻は3回で欠席1回とみなす。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	20%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
生徒・進路指導の意義と諸問題についての理解できる	基本的な諸問題を認識し生徒理解はいかにあるべきか、豊かな人格形成をどのように実現するか生徒・進路指導の本来の意義と方法を説明できた。(9割)	基本的な諸問題を認識し生徒理解はいかにあるべきか、豊かな人格形成をどのように実現するか生徒・進路指導の本来の意義と方法を説明できた。(8割)	基本的な諸問題を認識し生徒理解はいかにあるべきか、豊かな人格形成をどのように実現するか生徒・進路指導の本来の意義と方法を説明できた。(7割)	生徒・進路指導の基本的な諸問題を理解できた。	生徒・進路指導の基本的な諸問題を理解できなかった。
生徒・進路指導の在り方についての思考・判断ができる	生徒の可能性を引き出し豊かで調和のとれた人格を育成するための生徒・進路指導はいかにあるべきかを思考し判断できた。(9割)	生徒の可能性を引き出し豊かで調和のとれた人格を育成するための生徒・進路指導はいかにあるべきかを思考し判断できた。(8割)	生徒の可能性を引き出し豊かで調和のとれた人格を育成するための生徒・進路指導はいかにあるべきかを思考し判断できた。(7割)	調和のとれた人格を育成するために生徒・進路指導を考えたことができた。	調和のとれた人格を育成するためにの考えや判断ができなかった。
意見発表における主体性を身につける	生徒・進路指導は、生徒が社会との調和のもとで自己実現を達成するために、どのように援助するか自分の考えをまとめ、意見交換をしながら発表できた。(9割)	生徒・進路指導は、生徒が社会との調和のもとで自己実現を達成するために、どのように援助するか自分の考えをまとめ、意見交換をしながら発表できた。(8割)	生徒・進路指導は、生徒が社会との調和のもとで自己実現を達成するために、どのように援助するか自分の考えをまとめ、意見交換をしながら発表できた。(7割)	生徒が自己実現するために援助するかを自分の意見をまとめることができた。	社会で自己実現するための自分の意見をまとめることができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生徒・進路指導論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	高井 雅一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 高井 雅一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして生徒・進路指導論に関連する諸事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新生徒指導・進路指導一理論と方法』	林尚示・伊藤秀樹	学文社	2018	9784762026298	
2	『生徒指導提要』	文部科学省	教育図書	2022	9784877302740	
3	『中学校キャリア教育の手引き』	文部科学省	教育出版	2011		
4	『高等学校キャリア教育の手引き』	文部科学省	教育出版	2012		
5						

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 生徒指導・進路指導の意義と役割について	学校で生徒指導がなぜ必要か自分の考えを言えるようにしておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるできるように準備する。(90分)
2	教育課程と生徒指導・進路指導の関連と進め方について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるできるように準備する。(90分)
3	生徒指導体制と教育相談体制の考え方の違いについて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるできるように準備する。(90分)
4	学校と家庭・地域・関係諸機関との連携と協力について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるできるように準備する。(90分)
5	生徒指導計画と進路指導計画の実践と課題について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるできるように準備する。(90分)
6	校則の意義と改善について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるできるように準備する。(90分)
7	体罰、児童虐待の現状と適切な指導方法について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるできるように準備する。(90分)
8	問題行動等(1)「いじめの定義」「不登校の多様な要因」「暴力行為」等の現状の理解と対応・指導法について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるできるように準備する。(90分)
9	問題行動等(2)事例による対応策の討論・発表について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるできるように準備する。(90分)
10	インターネット・携帯電話の利用の現状と対応について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるできるように準備する。(90分)
11	効果的な職場体験・インターンシップ実施上の留意点について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるできるように準備する。(90分)
12	アクティブ・ラーニングによるキャリア教育の理論と実践について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるできるように準備する。(90分)
13	キャリアプランの作成とキャリアカウンセリングの考え方について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるできるように準備する。(90分)
14	生徒指導・進路指導のアセスメントの意義と目的について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるできるように準備する。(90分)
15	学校安全の現状と現代の労働問題について 授業改善アンケートの実施	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	講義の内容を総復習する。(90分)
16	定期試験(60分)、終了後、試験の解説(30分)	全講義内容の復習。(90分)	本時の学修内容をまとめて提出する。(90分)

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	会社法 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できる。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

会社を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できる。法的な側面から会社とは何かを考えることができる。

授業全体の内容と概要

会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することを目的とし、条文を理解し、適用・解釈できるようになることを目標とし、さらに法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できる人材の育成することを目的とする。会社法は、前期開講された商法をもとに、会社に関する法規制を中心に講義を行う。具体的には、会社法の分野を解説する。「SDG 10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

授業は、資料をパワーポイントで投影し、資料(第3回から第14回の計12回)を配布して実施する。授業の進行は、前回の復習から始まり、本日の講義の内容を講義形式で解説を行う。確認テストは、講義の理解を深めるために4回(前年実績)実施する。ビデオ視聴は、課題解決力を養うために2回(前年実績なし)(受講人数・使用教室などによっては実施しない)実施する。課題は、講義の理解を深めるために2回(前年実績)実施する。についてのフィードバックは、講義内で解説を行う。補講が必要な場合は実施する(公欠などの学生に対しては補講を実施する)実施する。課題は、講義の理解を深めるために2回(前年実績)実施する。についてのフィードバックは、講義内で解説を行う。補講が必要な場合は実施する(公欠などの学生に対しては補講を実施する)。確認テストなどはMicrosoft Formsの小テストから実施し、学生全体の理解度を把握し、指導する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・私語などの迷惑行為は厳禁。
 ・講義中スマホの操作は厳禁、マナーモードで受講してください。
 ・六法を持参することを推奨。
 ・確認テストやビデオ視聴を実施するので遅刻は慎むこと。開始後、プリント配布はしません。
 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
 ・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。
 ・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。

資格指定科目

教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上
 課題の提出等の定期試験以外の割合が単位認定基準の4割を占めるので、12回以上の出席を推奨。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
法律の条文を読み取り、理解できる	法律の条文を読み取り、理解でき、さらに自分の意見を述べる	法律の条文を読み取り、理解でき、自分なりの説明できる	法律の条文を読み取り、理解できる	法律の条文を読み取れる	法律の条文を読み取れない
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べる	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できる	事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を理解できる	事例を読み取れず、法律の条文を理解できない
課題に対し、問題解決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えている	一部に解答と関係ないことを答えている、解答は答えられている	改善すべき点があるが、解答が一通り答えている	的確ではないが、解答を部分的には答えている	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	会社法 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『会社法(ベーシック・シリーズ)』	伊藤雄司・笠原武朗・得津晶	日本評論社	2021年	9784535806863	
2	『ポケット六法 令和6年版』	佐伯仁志・大村敦志・荒木尚志 / 編集代表	有斐閣	2023年	9784641009240	
3	『コア・テキスト会社法』	川村正幸・品谷篤哉・山田剛志	新世社	2020年	9784883843138	
4	『商法 第2版(ファーストトラックシリーズ4)』	伊藤真	弘文堂	2018年	9784335314599	
5	『法学入門』	穴戸常寿・石川博康	有斐閣	2021年	9784641126183	

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認(90分)	復習(90分)
2	シラバスの説明 ガイダンス 株式会社とは	シラバスの確認。株式会社についての調べ学習(90分)	復習(90分)
3	会社法の概要 株主自由譲渡の原則・株主有限責任の原則・株主平等の原則	会社法と株式会社についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)、確認テストの復習
4	株式会社の機関設計(1)	持分会社と株式会社についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
5	株式会社の機関設計(2)大会社で公開会社のCASE	監査役会設置会社・指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
6	株式会社の機関設計(3)大会社で公開会社のCASE しっかり条文を読んでみよう 確認テスト2(前年実績)	監査役会設置会社・指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)、確認テストの復習
7	株式会社の機関設計(4)大会社で株式譲渡制限会社 株式会社の経営体制-骨格と役割(1)会計監査人	大会社で株式譲渡制限会社・会計監査人・内部統制システムについての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
8	株式会社の機関設計(5)大会社で株式譲渡制限会社 株式会社の経営体制-骨格と役割(2)会計監査人	会計監査人・内部統制システムについての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
9	株式会社の経営体制-骨格と役割(3)株主総会	株主総会についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)。特に株主総会決議に瑕疵がある場合についての調べ学習
10	株式会社の経営体制-骨格と役割(4)株主総会 株式会社の経営体制-責任(1)役員 確認テスト3(前年実績)	株主総会・取締役についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)、確認テストの復習
11	株式会社の経営体制-責任(2)役員 課題1(前年実績)	役員についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)、課題作成
12	株式会社の経営体制-責任(3)役取締役の責任 株式会社の経営体制-骨格と役割(1)取締役会 確認テスト4(前年実績)	取締役の責任・取締役会についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)、確認テストの復習
13	株式会社の経営体制-骨格と役割(2)取締役会・代表取締役・表見代表取締役	取締役会・代表取締役・表見代表取締役についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
14	株式会社の経営体制-骨格と役割(3)指名委員会等・監査等委員会・監査役・会計参与・会計監査人 課題2(前年実績)	指名委員会等・監査等委員会・監査役・会計参与・会計監査人についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)、課題作成
15	まとめ 授業改善アンケートの実施 定期試験の説明	課題作成。第3回から第14回まで復習(90分)。	試験範囲の確認により、第3回から第14回まで復習(90分)
16	定期試験(60分) 定期試験の解説、採点方法の説明 授業改善アンケートの実施	試験範囲の確認、第3回から第14回まで復習(90分)	復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	デッサン (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
デザイナーとして、アーティストとして、美術の教員として「デッサン」が全ての基礎基本であることを十分に認識させ、単に技能や知識の向上にとどまらず、美術を愛好し積極的に、学生がそれぞれの専門分野に活かそうとする態度を養うこと。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度) デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2023・2022年度) デザイン学科のDP1、DP2、DP3に対応する。(2021年度)

到達目標
モチーフのかたちを客観的に把握できるようにすること。素描の楽しさや重要性について理解できる。 卒業後の社会での生活を想定した専門性に関する意識の高揚と実践的態度を養成する。

授業全体の内容と概要
デッサンの材料・用具・その要素としてのプロポーション・明暗・質感・空間表現などについての実習。

授業の方法
プレゼンテーションは板書にて行う。授業形態は実技を行う。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
知性と感性を十分に発揮し、根気強くたゆまなく努力すること。 作品の質・課題に取り組む姿勢・鑑賞力などを重視する。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>80%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	80%	0%	0%	20%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	80%	0%	0%	20%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>適正な構図、形のバランス(比例)が正しく捉えられていることを基準とする</td> <td>バランスよく配置や大きさが捉えられている</td> <td>ほぼバランスよく配置されている</td> <td>大きさ等が大体捉えられている</td> <td>左右上下にバランスよく配置されている</td> <td>左右により過ぎや、極端に大きい、小さい等</td> </tr> <tr> <td>光の方向や陰影の濃淡等が分かりやすく表現できているかを基準とする</td> <td>自然な光の流れが表現出来ている</td> <td>ほぼ光の方向が表現出来ている</td> <td>明るい、暗いの描き分けが出来ている</td> <td>明暗で表現している</td> <td>輪郭線等で囲って色を付けている</td> </tr> <tr> <td>陰影法を正しく理解できているかを基準とする</td> <td>陰と投影を正しく理解し描き分けられている。質感の表現も出来ている</td> <td>陰で立体表現が出来ている</td> <td>光の流れで立体表現をしている</td> <td>色の濃淡で表現している</td> <td>輪郭の中に単色の調子を塗り込んで</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	適正な構図、形のバランス(比例)が正しく捉えられていることを基準とする	バランスよく配置や大きさが捉えられている	ほぼバランスよく配置されている	大きさ等が大体捉えられている	左右上下にバランスよく配置されている	左右により過ぎや、極端に大きい、小さい等	光の方向や陰影の濃淡等が分かりやすく表現できているかを基準とする	自然な光の流れが表現出来ている	ほぼ光の方向が表現出来ている	明るい、暗いの描き分けが出来ている	明暗で表現している	輪郭線等で囲って色を付けている	陰影法を正しく理解できているかを基準とする	陰と投影を正しく理解し描き分けられている。質感の表現も出来ている	陰で立体表現が出来ている	光の流れで立体表現をしている	色の濃淡で表現している	輪郭の中に単色の調子を塗り込んで
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
適正な構図、形のバランス(比例)が正しく捉えられていることを基準とする	バランスよく配置や大きさが捉えられている	ほぼバランスよく配置されている	大きさ等が大体捉えられている	左右上下にバランスよく配置されている	左右により過ぎや、極端に大きい、小さい等																								
光の方向や陰影の濃淡等が分かりやすく表現できているかを基準とする	自然な光の流れが表現出来ている	ほぼ光の方向が表現出来ている	明るい、暗いの描き分けが出来ている	明暗で表現している	輪郭線等で囲って色を付けている																								
陰影法を正しく理解できているかを基準とする	陰と投影を正しく理解し描き分けられている。質感の表現も出来ている	陰で立体表現が出来ている	光の流れで立体表現をしている	色の濃淡で表現している	輪郭の中に単色の調子を塗り込んで																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	デッサン (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二 (デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 デッサンのための用具野説明、授業の流れと目的などについて。	シラバスを読んでおくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
2	石膏像(胸像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
3	石膏像(胸像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
4	石膏像(胸像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
5	石膏像(胸像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
6	石膏像(胸像)のデッサン 作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
7	石膏像(胸像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
8	石膏像(胸像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
9	石膏像(胸像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
10	石膏像(胸像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
11	石膏像(胸像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
12	石膏像(胸像)のデッサン 作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
13	石膏像(胸像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
14	石膏像(胸像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
15	石膏像(胸像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
16	石膏像(胸像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	石膏像(胸像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
18	石膏像(胸像)のデッサン 作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
19	石膏像(胸像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
20	石膏像(胸像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
21	石膏像(胸像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
22	石膏像(胸像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
23	石膏像(胸像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
24	石膏像(胸像)のデッサン 作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
25	石膏像(胸像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
26	石膏像(胸像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
27	石膏像(胸像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
28	石膏像(胸像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
29	石膏像(胸像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
30	石膏像(胸像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
31	石膏像(胸像)のデッサン 作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
32	採点及び講評会(解説・フィードバック) 授業改善アンケート実施	講評会の準備を行うこと(45分)	解説・フィードバックを受けて講義内容のふりかえりを行うこと(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CAD演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・伊藤 裕康(建築学科・教授)		研究室等所在	2号館 6階	
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標

「CAD演習」を受けてWindowsの3次元CADの応用及びフローイングソフトの基礎を学ぶ。本科目習得者全員が単にCADを操作できるだけでなく、プレゼンテーションとして表現できるように学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)
 建築学科のDP1、DP2に対応する。(2023・2022年度)
 建築学科のDP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

3次元CADで、3次元作図とアニメーションの基本的な操作までできる。

授業全体の内容と概要

テキストとHPによる解説により3次元CADの操作を学ぶ。3次元CADはVectorworksを使用する。「SDG11、住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業は前半、テキストや資料を基に3次元CADの操作を修得し、後半は課題作品の制作に取り組む。最終日には作図した作品をプレゼンテーションする発表会形式で実施し意見交換を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

USBメモリーは持参すること。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数11回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
3次元CADの3次元機能を用いて表現ができる。	3次元CADの3次元機能を用いて、的確で美しい3次元表現が完璧にできた。	3次元CADの3次元機能を用いて、的確で美しい3次元表現が8割方できた。	3次元CADの3次元機能を用いて、的確で美しい3次元表現がほぼ6割方できた。	3次元CADの3次元機能を用いて、3次元表現ができた。	3次元CADの3次元機能を用いて、3次元表現ができなかった。
3次元CADの3次元表現で相手に伝わるプレゼンテーションができる。	3次元CADの3次元表現で相手に正確に意図を伝えるアニメーションが完璧に作成できた。	3次元CADの3次元表現で相手に正確に意図を伝えるアニメーションが8割方作成できた。	3次元CADの3次元表現で相手に正確に意図を伝えるアニメーションがほぼ6割方作成できた。	3次元CADの3次元表現で相手に意図を伝えるアニメーションが作成できた。	3次元CADの3次元表現で相手に意図を伝えるアニメーションが作成できなかった。
3次元CADと複数のデジタルツールを用いた設計表現ができる。	3次元CADと複数のデジタルツールを用いて、的確で美しい設計表現が完璧にできた。	3次元CADと複数のデジタルツールを用いて、的確で美しい設計表現が8割方できた。	3次元CADと複数のデジタルツールを用いて、的確で美しい設計表現がほぼ6割方できた。	3次元CADと複数のデジタルツールを用いて、設計表現ができた。	3次元CADと複数のデジタルツールを用いて、設計表現ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CAD演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・伊藤 裕康(建築学科・教授)		研究室等所在	2号館 6階	
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。2・3次元CADの基本と柱状体,回転体 授業改善アンケート結果反映の説明	CAD演習 の振返り(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	2次元での作図	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	2次元モデルの移動,整列,回転	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	2次元モデルの複製,反転複写ほか編集	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	3次元モデルの編集	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	3次元での視点と各投影法の違いについて	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	各レンダリングの種類と特性	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	光源,プーリアンの配置	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	ハイブリッド図形の注意点	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業の作図の継続(45分)
10	トータルな3次元表現とアニメーション	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業の作図の継続(45分)
11	設計課題の提示	授業の作図の継続(45分)	授業の作図の継続(45分)
12	設計プランの検討と確認	授業の作図の継続(45分)	授業の作図の継続(45分)
13	エスキスチェック	授業の作図の継続(45分)	授業の作図の継続(45分)
14	作図指導	授業の作図の継続(45分)	授業の作図の継続(45分)
15	3次元設計審査 授業改善アンケートの実施	プレゼンテーション準備(45分)	感想レポート提出(45分)
16	講評会	講評会準備(45分)	振返りレポート作成(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツ指導論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	高井 雅一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 高井 雅一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校の部活動顧問や道高体連役員での指導経験を活かして、今日的な課題への対応を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する。				

概要

履修目標

スポーツ活動における望ましい指導者像、科学的・合理的な指導方法を学ぶ。また、スポーツ指導に必須とされる競技者育成と評価、スポーツ活動と安全管理、ミーティングの方法、指導計画について理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

指導者としての心構え・視点、さまざまなスポーツ指導現場に対応できる基礎能力を身につける。

授業全体の内容と概要

- ・スポーツ指導者に必要とされるプログラム作成手順、教授技術、指導に関する評価及び評定について概説する。
- ・競技者を一言に考え指導のあたり方を認識し、お互いに意見交換をしながら、指導者としてのあるべき姿を身につける。
- ・「SDG4」質の高い指導を身につけるような授業を展開する。

授業の方法

- ・各回のテーマに関するパワーポイントや配布資料で実施し、資料説明とグループワーク・発表等で理解を深める講義を行う。
- ・各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して、思考・考察・意見交換、発表等の一連の活動を行う。
- ・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・主体的・対話的な学修を行うため、座席を指定する。
- ・講義中、スマホや飲食物はカバン等に入れておくこと。 スマホや飲食物は指示があれば可。
- ・講義で配布するプリント類はクリアファイル等に整理と保管し必要時に参照できるようにすること。
- ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。また、遅刻は3回で欠席1回とみなす。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツ指導者(スポーツリーダー)資格課程、スポーツソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	20%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
科学的・合理的な指導方法を学び理解	指導方法を学び、自分の意見を発表した	指導方法を学び、自分なりに思考・判断できた	指導方法を学び、自分なりに判断できた	指導方法を学び、理解できた	指導方法を学んでいるが、理解できなかった
指導現場に対応できる基礎能力	指導現場で基礎能力を身につけ、実践できた	指導現場で基礎能力を身につけ、説明できた	指導現場で基礎能力を身につけ、よく理解できた	指導現場で基礎能力を身につけ、理解できた	指導現場での基礎能力を理解できなかった
指導の在り方を確認し、指導者のあるべき姿の理解	指導者のあるべき姿を理解し、実践できた	指導者のあるべき姿を理解し、自分で判断できた	指導者のあるべき姿を十分理解できた	指導者のあるべき姿を概ね理解できた	指導者のあるべき姿を理解できなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツ指導論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	高井 雅一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 高井 雅一)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校の部活動顧問や道高体連役員での指導経験を活かして、今日的な課題への対応を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	*Reference Book*	JSPQ	公益財団法人日本スポーツ協会	2024		
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 スポーツ指導者とは 授業改善アンケート結果反映の説明	スポーツ指導者として大切にしたいことを説明できるようにしておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
2	スポーツ指導者の倫理について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
3	指導者の心構え・視点について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
4	世界の舞台を目指すアスリートの発掘・育成の重要性と指導者の役割について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
5	指導計画の立て方について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
6	スポーツ活動と安全管理について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
7	総合型地域スポーツクラブの必要性和社会的意義について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
8	プレーヤーと指導者の望ましい関係について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
9	ミーティングの方法について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
10	世界に頂点を目指すアスリートの育成・強化の在り方と指導者の役割について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
11	トップアスリートを育てるために	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
12	トップアスリートの育成・強化の方法とその評価について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
13	競技力向上のためのチームマネジメントについて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
14	競技力向上のための情報とその活用について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
15	ドーピング防止について 授業改善アンケートの実施	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	講義の内容を総復習する。(90分)
16	定期試験(60分)、終了後、試験の解説(30分)	全講義内容を復習する。(90分)	本時の学修内容をまとめて提出する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	外国の歴史 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇 (社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が、ヨーロッパとイギリスの歴史を概観し、政治・社会、文化の歴史(通史)の基本的な知識を習得する。合わせて、歴史的な見方、考え方の基礎を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科、社会福祉学科、デザイン学科、建築学科のDP2に対応する。(2023・2022年度)
経営学科、社会福祉学科、デザイン学科、建築学科のDP2に対応する。(2021年度)

到達目標

ヨーロッパとイギリスの歴史と社会・文化についての基礎的知識を獲得し、自分なりの理解がされ、合わせて、獲得した知識が自身の言葉で的確に説明できる。さらに、歴史的な見方、考え方の基礎が身に付いている。

授業全体の内容と概要

ヨーロッパ、特にイギリスの歴史を時代を追って順次講義形式で概説していく。合わせて、日本を含むアジア等の諸国・地域について関連する部分を必要最小限説明していく。

授業の方法

毎回、講義形式でヨーロッパとイギリスの歴史を述べていく。原則、こちらで用意した原稿に沿って口頭で説明していくが、適宜、パワーポイントと板書、配布資料を併用する。授業の最後に当該箇所のまとめ確認を行い、その際、受講者にはミニッツペーパー(コメント)の提出を求める。ミニッツペーパー(コメント)への講評を次回の授業の冒頭で行い、フィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

欠席、遅刻をしないように留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録音・録画を認める。

資格指定科目

教職科目(社会・地理歴史)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
歴史についての知識・理解	歴史(イギリス史)に関しての理解が正確、十分になされ、的確に説明ができた。	歴史(イギリス史)に関しての理解がおおよそなされ、おおよその説明ができた。	歴史(イギリス史)の主要な部分の理解がなされ、ある程度説明ができた。	歴史(イギリス史)の主要な部分の理解がなされている。	歴史(イギリス史)の理解が全くなされていなかった。
文献読解・考察の能力	歴史に関する初歩的な文献が十分に読解でき、明晰な考察ができた。	歴史に関する初歩的な文献の読解と考察がおおよそできた。	歴史に関する初歩的な文献の読解が大体できた。	指示によって歴史に関する初歩的な文献の読解が一定程度できた。	指示による歴史に関する初歩的な文献の読解ができなかった。
論述の能力	課題に対する説明が正確、論理的にでき、明確な文章で表現できた。	課題に対する説明が論理的にでき、明確な文で提示できた。	課題に対する説明がわかりやすく、読みやすい文で提示できた。	指示によって課題に対する説明がわかりやすく提示できた。	指示による課題に対する説明ができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	外国の歴史 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						なし
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜指示する
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、ガイダンス	シラバスを読んでおく(90分)	歴史の基礎的事項の復習(90分)
2	人類の起源・ヨーロッパの原始時代	原始・古代の予習(90分)	原始・古代の復習(90分)
3	ヨーロッパの古代(1)ギリシャ時代	古代ギリシャ(資料)の予習(90分)	古代ギリシャ(資料)の復習(90分)
4	ヨーロッパの古代(2)ローマ時代	古代ローマ(資料)の予習(90分)	古代ローマ(資料)の復習(90分)
5	ヨーロッパの中世(1)イギリスの中世:王政前期	イギリス王政前期の予習(90分)	イギリス王政前期の復習(90分)
6	ヨーロッパの中世(2)イギリスの中世:王政前期	イギリス王政前期の予習(90分)	イギリス王政前期の復習(90分)
7	ヨーロッパの近世(1)イギリスの近世:王政中期	イギリス王政中期の予習(90分)	イギリス王政中期の復習(90分)
8	ヨーロッパの近世(2)イギリスの近世:王政中期	イギリス王政中期の予習(90分)	イギリス王政中期の復習(90分)
9	ヨーロッパの近世(3)イギリスの近世:王政後期	イギリス王政後期の予習(90分)	イギリス王政後期の復習(90分)
10	ヨーロッパの近世(4)イギリスの近世:王政後期	イギリス王政後期の予習(90分)	イギリス王政後期の復習(90分)
11	ヨーロッパの近代(1)イギリスの近代	イギリス近代の予習(90分)	イギリス近代の復習(90分)
12	ヨーロッパの近代(2)イギリスの近代	イギリス近代の予習(90分)	イギリス近代の復習(90分)
13	ヨーロッパの近代(3)イギリスの近代	イギリス近代の予習(90分)	イギリス近代の復習(90分)
14	今日の世界(1)	既習事項の復習(90分)	既習事項の復習(90分)
15	今日の世界(2)	既習事項の復習(90分)	既習事項の復習(90分)
16	定期試験。60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う。授業改善アンケートの実施。	既習事項の復習(90分)	既習事項の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	権利擁護を支える法制 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	星野 秀治(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 星野 秀治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

相談援助と法の関わりについて学ぶとともに、相談援助業務において必要となる成年後見制度等の仕組みと権利擁護活動の実際を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)

到達目標

憲法、行政法、民法など権利擁護と法との関係について理解できる。
 ソーシャルワーカーに必要な成年後見制度、日常生活自立支援事業等の知識について説明できる。
 権利擁護活動の実際について理解を示すことができる。

授業全体の内容と概要

相談援助業務において必要となる法知識(憲法、民法、行政法など)を学ぶとともに、権利擁護の仕組みとしての成年後見制度や日常生活自立支援事業、成年後見制度利用支援事業についての知識を習得する。
 「SDGs.すべての人に健康と福祉を」、「SDG11.住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業は、パワーポイント及び配布資料を活用しながら、ディスカッションを交えつつ講義形式で行う。適宜、授業内容についてのレポート提出を求める。授業内で実施するレスポンスシートについて、次回の授業でコメントを行うなどのフィードバックを行い双方向性を確保する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

毎回、必ず教科書・配付資料を携行すること。
 不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施することがある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格科目、精神保健福祉士国家試験受験資格科目、保育士養成課程科目(選択)

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	現在の成年後見制度と権利擁護の問題点を理解できた。	成年後見制度の内容と権利擁護の仕組みを理解できた。	権利擁護に関わる法律の仕組みについて理解できた。	権利擁護と法との関係について理解できた。	権利擁護と法との関係について理解できなかった。
思考・判断	現状を踏まえわが国の権利擁護制度に内在する課題について考察できた。	成年後見制度の趣旨を権利擁護活動に活かす方法等を考えることができた。	成年後見制度の仕組みから権利擁護活動の実際をイメージすることができた。	成年後見制度、日常生活自立支援事業等について説明できた。	成年後見制度、日常生活自立支援事業等について説明できなかった。
関心・意欲	権利擁護活動におけるソーシャルワーカーの役割について理解を示すことができた。	利用者の能力に応じた権利擁護活動の実際について関心を示すことができた。	利用者の能力に応じた成年後見制度の仕組みについて理解を示すことができた。	権利擁護活動の実際について理解を示すことができた。	成年後見制度の必要性に関心を寄せることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	権利擁護を支える法制 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	星野 秀治(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 星野 秀治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座9 権利擁護を支える法制度』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編	中央法規出版	2021	978-4-8058-8239-9	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 法とは何か(法と社会規範、法と道徳の関係、法の体系・種類・機能)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
2	法とは何か(法の基礎知識、法の解釈、裁判と判例)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
3	ソーシャルワークに関わる法(憲法の意義、日本国憲法の基本原理、基本的人権)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
4	ソーシャルワークに関わる法(民法の意義、民法総則、債権・契約、不法行為・など)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
5	ソーシャルワークに関わる法(婚姻・離婚、親権・未成年後見、扶養、成年後見、相続)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
6	ソーシャルワークに関わる法(行政法の意義、行政組織、行政行為、行政強制、行政訴訟、国家賠償)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
7	権利擁護を支える仕組み(権利擁護の意義、福祉サービスの適正利用、苦情解決の仕組み)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
8	権利擁護を支える仕組み(高齢者虐待防止法、児童虐待防止法、障害者虐待防止法)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
9	権利擁護を支える仕組み(障害者差別解消法、障害者サービスの利用等に関する意思決定支援ガイドライン)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
10	権利擁護活動における法的諸問題(インフォームド・コンセント、秘密・プライバシー・個人情報、権利擁護活動)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
11	成年後見制度(成年後見制度の意義と仕組み)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
12	成年後見制度(後見、保佐、補助の概要、任意後見の概要)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
13	成年後見制度(成年後見制度利用支援事業、成年後見制度の動向)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
14	権利擁護に関わる組織、団体、専門職	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
15	まとめ 授業改善アンケートの実施	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
16	試験(60分)	全授業を振り返り試験に向けた準備(90分)	試験内容をふまえ授業全体を振り返る(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	島田 晶夫・楠本 祐弘・中島 知之(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	作家としての活動経験を有する教員が、その経験を活かして実践に即した実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

「物」を作るには必ずその物に最も適切な「構造」を考えなければならない。それが出来て初めてデザインするという事になる。デザイン、制作の過程を学び、あわせて、使用する木材の性質、木工の道具と機械類の操作、着色、塗装等も学ぶ。表現したいテーマや目標に対し、発想を展開しデザインする。安全で効率良い制作作業を行う。作品の説明までを一つの作品制作として行うように制作する。素材知識を身につけ、段取りをして物づくりの基本的な効率の良い作業の進め方を身につける。日常の中にある「うつわ」をテーマにした陶芸制作を通じ、「陶器」という素材における表現方法と知識、技術を深めることで、美術表現の幅を広げる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。(2024年度)
 デザイン学科のDP 1、DP 3、DP 5に対応する。(2023・2022年度)
 デザイン学科のDP 1、DP 2、DP 4に対応する。(2021年度)

到達目標

使える物を丁寧に作る。ノミ、鉋、ノコの使い方(手工具の使い方)を身につける。ガラスの素材知識を理解する。ガラス工芸の手法を修得する。テーマを持ってデザイン表現が出来ている。作業を安全に効率よく行える。作品を的確な言葉で説明出来る。陶芸の知識・技法の理解を目標とする。その上で豊かな発想をもって新しく活動を展開する力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

木工の工作機械と工具、道具類の使い方を知り、作業手順の大切さと作業後の片付けの大切さを学ぶ。あわせて、刃物の危険性も学ぶ。素材特性を理解するよう、作業と素材感の異なる3つの技法を行う。パート・ド・ヴェールでは原型・型取りを行い、ガラスを型に流し小皿またはオーナメントを製作する。高温のガラス特性を理解する為にバーナーワーク/吹きガラスを実技する。バーナーワークではガラス棒を溶かしんば玉等を製作、吹きガラスはグラス等を製作する。基本的な焼き物の知識や技術を身につけてもらうため、茶碗・鉢・皿といった身近な物を課題にして成形技術の実習を中心に進める。「土ぬり」「装飾」「釉掛け」「窯詰め」「窯焼き」なども作品の制作経過に沿って学ぶ。それと同時に全国の焼き物・各窯業地などの特色なども学ぶ。

授業の方法

実際に作業を見せて説明し、実技を行う。パート・ド・ヴェールは粘土原型を制作し、耐火石膏で型取りした後ガラスカレットを詰め焼成する。作業日数を考え、段取りをしながらか進める。バーナーワークは交代で作業する。吹きガラスはパート・ド・ヴェールのスケジュールに照らし合わせ行う。講師による作業のチェックは適宜行う。講評会を行い、作品のプレゼンテーションを行う。課題作品の説明、実演ののちに各自練習。講師の示す期間内に課題作品提出し作品批評をおこなう。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席を重視する。作業に適した服装を用意する。安全を確保し、怪我に十分注意し作業する事。作業要点のメモを取る事。成績を主に作品で評価するため必ず作品提出する事。課題提出期限は厳守。遅刻、欠席の無いよう注意すること。課題作品の提出を課す。課題作品の説明、提出の方法は授業時間に指示する。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(美術・工芸)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に達しているレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
工具の使い方、授業態度	授業事前事後の学習はもとより、授業中の積極的な取り組み、模範的な授業態度である。	授業事前事後の学習がなされている。授業中の課題や取り組みをこなしている。また、理解を深めるため真剣に取り組んでいる。	授業中の課題や作業をこなしている。また、理解を深めるため内容を真剣に聞いている。	授業中の課題や作業をこなしている。	授業中着席するものの課題や作業をしていない。
知識、理解	授業内容を越える学習を積極的にすすめる理解度を深めている。	授業内容をほぼすべて理解している。	授業内容の概ねを理解している。	最低限の授業内容を理解している。	授業内容を理解できていない。
展開、安全	授業内容にとどまらず、問題点と課題を発展させ、より良い提案ができる。また、安全な作業を展開できる。	授業内容をほぼすべて理解し、安全な作業を展開できる。	授業内容の概ねを理解し、安全な作業を展開できる。	授業内容の一部から安全な作業の展開を見つけている。	授業内容を理解できていないため、安全な作業を展開することができない。
技法の習得度	課題作品に必要な技法を習得し課題を完成させる。そして、より高難度技法の課題に取り組む。	課題作品に必要な技法をほぼ習得し課題を完成させる。	課題作品に必要な技法をおおむね習得し課題を完成させる。	課題作品に必要な技法を最低限習得し課題を完成させる。	課題を完成できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	島田 晶夫・楠本 祐弘・中島 知之(デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 作家としての活動経験を有する教員が、その経験を活かして実践に即した実習を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	島田晶夫 授業説明 第一課題「象嵌」 シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと。(45分)	制作状況、完成までの確認。(45分)
2	島田晶夫 第一課題のデザイン、制作	完成までの計画を立てる事。(45分)	制作状況、完成までの確認。(45分)
3	島田晶夫 第二課題「カトラリー」 デザイン	完成までの計画を立てる事。(45分)	制作状況、完成までの確認。(45分)
4	島田晶夫 第二課題の制作	完成までの計画を立てる事。(45分)	手工具の使い方の把握。(45分)
5	島田晶夫 第三課題「栴」	完成までの計画を立てる事。(45分)	制作状況、完成までの確認。(45分)
6	島田晶夫 第三課題の練習	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う(45分)	制作状況、完成までの確認。(45分)
7	島田晶夫 第三課題の本番材での加工	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う(45分)	制作状況、完成までの確認。(45分)
8	島田晶夫 第三課題の本番材での加工	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う(45分)	制作状況、完成までの確認。(45分)
9	島田晶夫 第三課題の本番材での加工	完成までの計画を立てる事。(45分)	制作状況、完成までの確認。(45分)
10	島田晶夫 第三課題の細部手直し、組み立て、仕上げ、解説、フィードバック	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う(45分)	指摘事項を確認すること。(45分)
11	楠本裕弘 シラバスの説明-技法説明を行う。 【パート・ド・ヴェール】小皿・オーナメント	シラバスを読んでおくこと。 アイデアの素材収集する。(45分)	制作状況、完成までの確認。(45分)
12	楠本裕弘 【パート・ド・ヴェール】 小皿・オーナメント デザイン 【とんぼ玉】交代で作業	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う(45分)	アイデアの検証する。(45分)
13	楠本裕弘 【パート・ド・ヴェール】 小皿・オーナメント 原型制作 【とんぼ玉】交代で作業	作業の段取りをする。(45分)	制作状況、完成までの確認。(45分)
14	楠本裕弘 【パート・ド・ヴェール】 小皿・オーナメント 原型制作 【とんぼ玉】交代で作業	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う(45分)	原型の修正を行う。(45分)
15	楠本裕弘 【パート・ド・ヴェール】 小皿・オーナメント 耐火石膏型取り 【とんぼ玉】交代で作業	原型の修正をする。(45分)	制作状況、完成までの確認。(45分)
16	楠本裕弘 【パート・ド・ヴェール】 小皿・オーナメント 耐火石膏型取り 【とんぼ玉】交代で作業	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う(45分)	石膏型の点検と修正を行う。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	楠本裕弘 【パート・ド・ヴェール】 小皿・オーナメント 焼成準備 【吹きガラス】ガラス制作	ガラスのデザインをする。(45分)	制作状況、完成までの確認。(45分)
18	楠本裕弘 【パート・ド・ヴェール】 小皿・オーナメント 焼成準備 【吹きガラス】ガラス制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う(45分)	石膏型・カレットの点検を行う。(45分)
19	楠本裕弘 【パート・ド・ヴェール】 小皿・オーナメント 仕上げ	作業の段取りをする。(45分)	制作状況、完成までの確認。(45分)
20	楠本裕弘 【パート・ド・ヴェール】 小皿・オーナメント 講評会	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う(45分)	自己他者の発表を考察する。(45分)
21	中島知之 シラバス説明	シラバスを読んでおくこと(45分)	制作状況、完成までの確認。(45分)
22	中島知之 基本的な陶芸の知識と制作の説明 土ねり指導(荒ねり・菊ねり)	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
23	中島知之 手びねりによる作品制作 カップ(手回しロクロによる粘土成型)	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	制作状況、完成までの確認。(45分)
24	中島知之 手びねりによる作品制作 カップ(手回しロクロによる粘土成型)	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
25	中島知之 手びねりによる作品制作 カップ(装飾、仕上げ)	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
26	中島知之 手びねりによる作品制作 カップ(装飾、仕上げ)	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
27	中島知之 釉掛け・窯詰め・電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
28	中島知之 釉掛け・窯詰め・電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
29	中島知之 課題作品の批評会	質問事項を考えておく(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
30	中島知之 総講評会・解説	質問事項を考えておく(45分)	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと(45分)
31	中島知之 楠本裕弘 島田晶夫 全体的な講評を行う。	これまで学んだ技法等についてまとめておくこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
32	林 春生 各自の振り返りの発表 授業改善アンケートの実施	これまで学んだ技法等についてまとめておく(45分)	他の発表も参考に更に振り返りをおこなうこと(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	レクリエーション概論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	尾西 則昭(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 尾西 則昭)	CAP制	講義		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大学及び専門学校において、レクリエーションの授業を担当した経験を活かし指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標
人々の健康づくりや体力向上、スポーツの振興、高齢者や障がい児(者)福祉、子育て支援や保育・幼児保育、子どもたちの健全育成や学校教育、ボランティアによる地域づくりなど、幅広い連携体制について理解する。

授業の位置づけ
経営学科のDP1、DP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標
レクリエーションの意義や歴史・制度について理解を深め、レクリエーション・インストラクターの役割を確認するとともに、現代社会における、ライフステージごとの課題や乳幼児・児童・障がい児(者)レクリエーションの課題について学び、レクリエーション支援が必要とされる具体的な場面について理解する。また、レクリエーション事業の考え方や展開方法について理解し、且つ安全管理等についても理解する。次世代を生かす子どもたちになぜレクリエーション活動支援が必要なのかについて知る。

授業全体の内容と概要
レクリエーションの主旨(目的)は心を元気にすることであり、レクリエーション支援者は、人々が自主的、主体的心を元気にできるようになることを目的に、ゲームや歌、ダンスといったレクリエーション活動を用いて手助けする指導者である。主に、福祉分野や教育分野の施設、学校、地域の事業などの現場で高齢者や子どもなどの対象者として心の元気づくりの支援を行う。レクリエーション講義では、以上の目的を達成するために、レクリエーション概論 楽しさと心の元気づくりの理論 レクリエーション支援の理論について学ぶ。 *「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
基本的には対面式の授業形態であるが、演習部分ではグループワークの形をとるため、少人数でのグループ形式の授業形態もある。 『不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。』

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○ ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td>○</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	○ ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
○ ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程(保健体育)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数13回以上												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	50%	10%	0%	20%	20%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
50%	10%	0%	20%	20%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>レクリエーションの基礎知識と理解</td> <td>レクリエーションの歴史や制度についての基礎的知識を深めることが理解できた。</td> <td>レクリエーションの歴史や制度の基礎的知識を理解することができた。</td> <td>レクリエーションの歴史や制度についての基礎的知識をおおむね理解できた。</td> <td>レクリエーションの歴史や制度についての基礎的知識を多少理解できた。</td> <td>レクリエーションの歴史や制度についての基礎的知識を理解することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>レクリエーション支援の知識と理解</td> <td>レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本を深く理解できた。</td> <td>レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本を理解できた。</td> <td>レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本をおおむね理解できた。</td> <td>レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本を多少理解できた。</td> <td>レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本をほとんど理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>レクリエーション支援事業の知識と理解</td> <td>レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等について深く理解できた。</td> <td>レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等について理解できた。</td> <td>レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等についておおむね理解できた。</td> <td>レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等について多少理解できた。</td> <td>レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等についてほとんど理解できなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	レクリエーションの基礎知識と理解	レクリエーションの歴史や制度についての基礎的知識を深めることが理解できた。	レクリエーションの歴史や制度の基礎的知識を理解することができた。	レクリエーションの歴史や制度についての基礎的知識をおおむね理解できた。	レクリエーションの歴史や制度についての基礎的知識を多少理解できた。	レクリエーションの歴史や制度についての基礎的知識を理解することができなかった。	レクリエーション支援の知識と理解	レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本を深く理解できた。	レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本を理解できた。	レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本をおおむね理解できた。	レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本を多少理解できた。	レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本をほとんど理解できなかった。	レクリエーション支援事業の知識と理解	レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等について深く理解できた。	レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等について理解できた。	レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等についておおむね理解できた。	レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等について多少理解できた。	レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等についてほとんど理解できなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
レクリエーションの基礎知識と理解	レクリエーションの歴史や制度についての基礎的知識を深めることが理解できた。	レクリエーションの歴史や制度の基礎的知識を理解することができた。	レクリエーションの歴史や制度についての基礎的知識をおおむね理解できた。	レクリエーションの歴史や制度についての基礎的知識を多少理解できた。	レクリエーションの歴史や制度についての基礎的知識を理解することができなかった。																								
レクリエーション支援の知識と理解	レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本を深く理解できた。	レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本を理解できた。	レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本をおおむね理解できた。	レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本を多少理解できた。	レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本をほとんど理解できなかった。																								
レクリエーション支援事業の知識と理解	レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等について深く理解できた。	レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等について理解できた。	レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等についておおむね理解できた。	レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等について多少理解できた。	レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等についてほとんど理解できなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	レクリエーション概論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	尾西 則昭(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 尾西 則昭)	CAP制	講義		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大学及び専門学校において、レクリエーションの授業を担当した経験を活かし指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『レクリエーション支援の基礎』	小西 亘	(財)日本レクリエーション協会	2007年	9784931180819	
2	『楽しいをつくるやさしいレクリエーション実践』	川村 晴章	(財)日本レクリエーション協会	2000年	9784931180611	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス 「シラバス説明」	事前にシラバスを読んで確認する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
2	レクリエーションの意義及び歴史	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
3	レクリエーション運動の歴史	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
4	レクリエーションインストラクターに期待される役割	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
5	レクリエーションの指導法 (ビデオ)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
6	高齢者社会の課題とレクリエーション	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
7	障がい者とレクリエーション	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
8	レクリエーションの企画・運営	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
9	レクリエーションの活動の安全管理	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
10	レクリエーション事業の考え方及び展開方法	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
11	レクリエーションの事業評価	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
12	レクリエーション支援の方法 アイスブレーキング・トレーニング	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
13	レクリエーション支援の方法 ホスピタリティ・トレーニング	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
14	加盟団体とスポーツ	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
15	レクワーク (レク種目体験)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
16	定期試験 まとめ 「授業改善アンケート実施」	ノートに記載された内容を再度確認し、理解する。(90分)	解説の内容を確認する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	外国語コミュニケーション(M) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	岡島 徳昭(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

英文を読み、個々の単語の発音練習を行う。基本的文法事項を復習し、作文練習、会話練習を行い、英語運用能力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP2、DP4に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

英語の発音を修得する。基本的文法事項を理解し、簡単な作文と会話ができる。

授業全体の内容と概要

英文を読み、発音を確認し、基本的表現や文型を学び、英語の運用能力の向上を目指す。
「SDGs 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

板書、CDを用い英語運用能力の向上を計り、学生参加型授業を行う。中間テスト、定期試験の答え合わせ等のフィードバックを実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

平常点重視、テキスト・辞書持参

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

成績評価には10回以上の出席が必要。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	0%	40%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能(発音・語彙・文法・読解等)	定期試験・中間試験で9割以上、文法・語彙に誤りがなく正確に理解していた。	定期試験・中間試験で8割以上、文法・語彙に誤りがほとんどなく大体理解できていた。	定期試験・中間試験で7割以上、文法・語彙に若干誤りがあるが理解していた。	定期試験・中間試験で6割以上、文法・語彙に誤りがあり理解できていない部分が多かった。	定期試験・中間試験で6割以下、文法・語彙に誤りが多く理解に問題があった。
思考力・判断力・表現力	表現方法が適切であり誤りがほとんどなかった。	表現方法はほぼ適切で、小さな誤りが若干ある程度だった。	誤りがあるが、表現方法において誤解を生じるほどの大きな誤りはなかった。	表現方法に誤りがあり、自分の意思を伝えることに支障を少しきたす点があった。	表現方法に誤りがあり、自分の意思を伝えることができなかった。
参加型授業への取り組み姿勢	大いに意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表も多く積極的だった。	意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表に努め積極的だった。	ある程度意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。やや積極的だった。	あまり意欲・関心・興味を感じられなかった。無難に授業を消化していた。やや積極性に欠けていた。	全く意欲・関心・興味を感じられなかった。遅刻・欠席授業を消化していた。積極性に欠けていた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	外国語コミュニケーション (M) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	岡島 徳昭(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『English Indicator 1』	テリー・オブライエン, 三原 京 他	南雲堂	2018	9784523178538	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業の進め方, 採点に関すること, その他授業に関するガイダンス。(シラバスの説明) Unit 1 The Royal Family	シラバスを読むこと。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
2	Unit 2 The Beatles Past tense 復習	リーディングアサインメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
3	Unit 3 Very Cold Progressive forms 復習	リーディングアサインメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
4	Unit 4 Euro Money Auxiliary verbs 復習	リーディングアサインメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
5	Unit 5 To Your Health Perfect tense 復習	リーディングアサインメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
6	Unit 6 Recycling Articles, pronouns 復習	リーディングアサインメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
7	Unit 7 The UK Nouns: countable, uncountable	リーディングアサインメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
8	中間テスト	リーディングアサインメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
9	Unit 8 A Quiet Life Adjectives, adverbs 復習	リーディングアサインメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
10	Unit 9 My Company Comparisons 復習	リーディングアサインメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
11	Unit 10 Advertising Infinitives, conjunctions 復習	リーディングアサインメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
12	Unit 11 Business Trips Prepositions, conjunctions 復習	リーディングアサインメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
13	Unit 12 Get It Cleaned Causative verbs, perceptive	リーディングアサインメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
14	Unit 13 A Storm Passive voice 復習	リーディングアサインメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
15	Unit 14 The Media Relativesの復習	リーディングアサインメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)
16	総合評価 定期試験60分、解説30分 授業改善アンケートの実施	リーディングアサインメント及び語彙の学習。(90分)	授業中に学んだことを復習する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	外国語コミュニケーション(S) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照またはチームズにて要確認				

概要

履修目標

身近な話題を中心とした日常生活の様々な場面を想定し、テキストに沿った文法整理から、会話、発音、語彙を総合的に学習することによってコミュニケーションツールとしての英語運用能力を身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2022年度)

到達目標

簡単な日常会話や場面表現に関して用いられる英文の文法解釈において、文型を理解したうえでコミュニケーションツールとして基礎的な英語運用能力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

文法、語彙、会話表現の向上をはかり、自分が表現したいことを相手に伝えられるようコミュニケーションスキルの基礎を習得する。「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

本講座は講義形式で授業を行い、教科書やハンドアウトを利用して英語の構造について学習しながら指定アプリを活用して単語数や日常表現を増やす活動を行ってもらう。レポート、試験などの解説のフィードバックを実施する。
指定翻訳アプリ: VoiceTra
<VoiceTra(ボイストラ)はNICT(エヌアイシーティ: 国立研究開発法人情報通信研究機構)が、言葉の壁の克服を目指して開発したスマートフォン用の無料多言語音声翻訳アプリです。>

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席を重視する。遅刻は20分までとし2回の遅刻を以って欠席1回とする。特別な理由のない20分以上の遅刻は欠席扱いとする。また、中間試験として文型理解確認テストを実施する。加えて英文日記を1回提出し、レポートとして採用する。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)選択科目 保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

講義による授業形態を採る。教科書・ノート・筆記具を持ってこない学生は欠席とする。また、教科書のない学生は評価の対象としない。12回の出席を基準とし10回の出席を確保できないものは再履修とする。平常点にはノートチェックと授業参加度を含む。前向きな課題の提出には、加点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	10%	10%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で90点以上の得点を挙げた。	定期試験で80点以上の得点を挙げた。	定期試験で70点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、実際の場面で必要となる語彙・表現に取り組み、十分なコミュニケーション能力を獲得するための土台がほぼ完成している。	与えられた課題に取り組み、自分が出会う場面を想定し、コミュニケーションをとる土台が出来つつある。	与えられた課題に取り組み、日々の生活で使用頻度の高い語彙を調べ、辞書を活用してコミュニケーションの土台づくりの努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、語彙力をつける努力は認められるがなかなか定着し、辞書を使うことはできる。	課題への取り組みが不十分で、語彙力の進歩が見られず、翻訳アプリがないと何もしない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる語彙力・表現力の充実に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり国際言語習得に関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書も見られない。	自分から進んで国際言語を身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	外国語コミュニケーション(S) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	PA New Approach to Understanding English Grammar	藤田 直也 著	朝日出版社	2010	9784255154794	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明 授業評価アンケートの結果への対応を説明 英語の構造に関する基本的な考え方	専用のノートを準備する(45分)	自分の弱点確認(45分)
2	英語と日本語の違い&英語の基本文型	テキストの指定範囲を読む(45分)	ノートの作成。課題・宿題(45分)
3	英語の基本文型	テキストの指定範囲を読む(45分)	ノートの作成。課題・宿題(45分)
4	英語の基本文型	テキストの指定範囲を読む(45分)	ノートの作成。課題・宿題(45分)
5	英語の動詞とその使い方 & オーストラリア文化談	テキストの指定範囲を読む(45分)	ノートの作成。課題・宿題(45分)
6	英語の動詞とその使い方 & アメリカ大学文化談	テキストの指定範囲を読む(45分)	ノートの作成。課題・宿題(45分)
7	品詞に関するイメージ	テキストの指定範囲を読む(45分)	ノートの作成。課題・宿題(45分)
8	品詞に関するイメージ	テキストの指定範囲を読む(45分)	ノートの作成。課題・宿題(45分)
9	英文の構造を理解する & アメリカ文化談	テキストの指定範囲を読む(45分)	ノートの作成。課題・宿題(45分)
10	英文の構造を理解する & アメリカ文化談	テキストの指定範囲を読む(45分)	ノートの作成。課題・宿題(45分)
11	英文の構造を理解する	テキストの指定範囲を読む(45分)	ノートの作成。課題・宿題(45分)
12	時制	テキストの指定範囲を読む(45分)	ノートの作成。課題・宿題(45分)
13	時制	テキストの指定範囲を読む(45分)	ノートの作成。課題・宿題(45分)
14	不定詞・動名詞・分詞のイメージ	テキストの指定範囲を読む(45分)	ノートの作成。課題・宿題(45分)
15	不定詞・動名詞・分詞のイメージ & テストReview 授業評価アンケートの実施	テキストの指定範囲を読む(45分)	期末試験に備える(45分)
16	試験(60分)及び授業総評(30分)	試験準備(120分)	授業内容の振り返り(60分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年、建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	外国語コミュニケーション (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	宮嶋 達也(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

グローバル化に対応するため「外国語」を学ぶための科目であり、英語で外国人と最低限のコミュニケーションができるよう実際に使える英語を身につける。また、日本と外国の習慣や文化、考え方の違いについて理解を深める。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)
 デザイン・建築学科のDP(2)(4)に対応する。(2023・22年度)
 デザイン・建築学科のDP2、DP3、DP8に対応する。(2021年度)

到達目標

会話表現の向上をはかり、自分が表現したいことを最低限相手に伝えられるように、コミュニケーションスキルを習得することができる。

授業全体の内容と概要

身近なトピックを扱ったダイアログを通して「聞く・読む」から「話す・書く」へとつなぐ技能統合を重視した英語運用能力育成を目的とし、口語表現などを学習し、会話でよく使用される重要な表現を想定し相手の気持ちを読み取り、相手に自分の気持ちを伝えるコミュニケーションを学ぶことができる。

授業の方法

授業では視聴覚メディアを活用し、講義形式で行う。リスニングで単語の発音をインプットし、リーディングでは英文を声に出して読むアウトプットの作業を行う。また、テキストの練習問題を解き疑問点などは個々に対応、或いはクラス全体への解答を解説し学生へのフィードバックを行う。ペアでのロールプレイ、グループワークなど多く取り入れるので積極的に授業に参加する。音声の無料ストリーミング配信サービスを使えばテキストの音声スマホ・タブレットに簡単にダウンロード。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

15分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻2回で欠席1回。授業には必ずテキスト、辞書を持参すること。テキストを忘れ、授業前に申し出ない場合は欠席扱いとする。不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	10%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
理解度	授業内容を超えた学修が認められる。	授業内容をほぼ理解している。	到達目標に達している。	到達目標は理解しているが、授業内容の理解に少し不足がある。	到達目標に達していない。
英語表現能力	英語で優れた表現を行うことができる。	英語で表現を行うことができる。	英語で表現を一定程度行うことができる。	英語で与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができる。	英語で与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができない。
積極性	授業全体の流れを理解し、疑問・問題提起により授業展開に貢献する。	授業全体の流れを理解し、発問に対して積極的に応じる。	発問に対して、指名されれば正しく応じることができる。	授業に集中して理解しようとする態度が見られる。	授業に集中できず、授業放棄の態度が見られる。
事前・事後学修	自ら進んで学修範囲を超えて調べている。	学修範囲を十分に調べて、授業内容を他人に説明できる。	学修範囲を調べている。	指示された範囲の事前・事後学修はするが、理解が不十分である。	指示された範囲の事前・事後学修が不十分である。
リスニング・スピーキング	授業内で取り扱った単語・表現を完璧に習得し、リスニング・スピーキングの2技能を問題なく正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・表現の大部分を習得し、リスニング・スピーキングの2技能を正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・表現の大部分を習得し、リスニング・スピーキングの2技能をほぼ正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・表現を部分的に習得しているが、リスニング・スピーキングの2技能の運用に不十分な部分が見受けられる。	授業内で取り扱った単語・表現の習得が不十分であり、リスニング・スピーキングの2技能の運用に不正確さが目立つ。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年、建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	外国語コミュニケーション (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	宮嶋 達也(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	*New Getting Into Englisha	Joseph Cronin Eric Bray	NAN 'UN-DO	2021	978-4-523-17918-4	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明/授業改善アンケート結果反映の説明 Unit 1 Hi, I'm Rina.	シラバスを参照しながらテキスト内容を理解する。(45分)	授業各回のテーマを理解しておくこと。(45分)
2	Unit 2 How do you spell that?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(45分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。(45分)
3	Unit 3 What's the time?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(45分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。(45分)
4	Unit 4 Where are you from?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(45分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。(45分)
5	Unit 5 What's your favorite food?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(45分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。(45分)
6	Unit 6 How often do you get your hair cut?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(45分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。(45分)
7	Unit 7 What kinds of music do you like?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(45分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。(45分)
8	Unit 8 Who's older, you or your sister?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(45分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。(45分)
9	Unit 9 How was your weekend?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(45分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。(45分)
10	Unit 10 Have you ever been abroad?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(45分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。(45分)
11	Unit 11 What kinds of movies do you like?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(45分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。(45分)
12	Unit 12 What's the weather going to be like?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(45分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。(45分)
13	Unit 13 What's your favorite coffee shop?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(45分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。(45分)
14	Unit 14 Do you have a part-time job?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(45分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。(45分)
15	Unit 15 How long have you had your phone?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(45分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。(45分)
16	Final Exam. 試験終了後、授業改善アンケートの実施	試験での疑問点などは前もって質問できるように準備しておく。(45分)	間違えた箇所をもう一度復習し理解する。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	貧困に対する支援 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	星野 秀治(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 星野 秀治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代における公的扶助(貧困・低所得者に対する支援制度)の意義を理解するとともに、貧困問題の本質とソーシャルワーカーの役割について知る。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)

到達目標

貧困問題の本質を理解する視点について理解することができる。
現代における貧困原因を分析し、最低生活保障のあり方について考えることができる。
要保護者、低所得者の特性に応じた自立支援の意義について説明することができる。

授業全体の内容と概要

公的扶助の概念、範囲、歴史的展開、現代社会における機能などについて概説したうえで、わが国における公的扶助制度である生活保護制度の仕組みと生活困窮者に対する自立支援のあり方について学び、併せて最近の保護動向から今後の課題について理解を深める。
「SDG1、貧困をなくそう」、「SDG2、飢餓をゼロ」の関連授業

授業の方法

授業は、パワーポイント及び配布資料を活用しながら、ディスカッションを交えつつ講義形式で行う。適宜、授業内容についてのレポート提出を求める。授業内で実施するレスポンスシートについて、今回の授業でコメントを行うなどのフィードバックを行い双方向性を確保する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

毎回、必ず教科書・配付資料を携行すること。
不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施することがある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、保育士養成課程科目(選択)

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	現代における新たな貧困問題に対処するために必要な自立支援のあり方について説明できた。	低所得者の特性に応じた自立支援のあり方について説明できた。	低所得者の特性に応じた自立支援のあり方について説明できた。	低所得者に対する自立支援の意義について説明できた。	低所得者に対する自立支援の意義について説明できなかった。
思考・判断	現代における新たな貧困問題に対処するために必要な自立支援のあり方について説明できた。	低所得者の特性に応じた自立支援のあり方について説明できた。	低所得者の特性に応じた自立支援のあり方について説明できた。	低所得者に対する自立支援の意義について説明できた。	低所得者に対する自立支援の意義について説明できなかった。
関心・意欲	具体的な事例に則して最低生活保障のあり方について考えることができた。	現代における貧困原因を分析しソーシャルワーカーの役割を考えることができた。	現代における貧困問題に対するソーシャルワーカーの役割について考える姿勢を示した。	現代における貧困原因について考えることができた。	現代における貧困原因について考えることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	貧困に対する支援 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	星野 秀治(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 星野 秀治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新社会福祉士養成講座4 貧困に対する支援』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編	中央法規出版	2021	78-4-8058-8247-4	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 貧困とは何か (貧困の概念・絶対的貧困と相対的貧困、社会的排除など)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
2	貧困とは何か (貧困の実態、貧困を取り巻く社会環境、貧困状態にある人に対する福祉の理念、貧困観の変遷)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
3	貧困とは何か (公的扶助の意義と範囲)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
4	貧困に対する取り組みの歴史 (欧米における救貧制度から公的扶助に至る歩み)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
5	貧困に対する取り組みの歴史 (日本における救貧制度から公的扶助に至る歩み)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
6	貧困に対する取り組みの歴史 (日本における近年の取り組み・ホームレス自立支援法、生活困窮者自立支援法など)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
7	貧困に対する法制度 (生活保護法の基本原理、保護の種類と内容、最低生活費と保護基準、保護の動向)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
8	貧困に対する法制度 (生活保護における相談支援活動、自立支援プログラム、保護施設)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
9	貧困に対する法制度 (生活困窮者自立支援法の仕組みと実際)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
10	貧困に対する法制度 (低所得者対策、ホームレス対策)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
11	貧困に対する支援における関係機関と専門職(貧困に対する支援における公私の役割、国と都道府県・市町村の役割)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
12	貧困に対する支援における関係機関と専門職(福祉事務所の組織・業務と社会福祉士専任の役割)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
13	貧困に対する支援における関係機関と専門職(自立相談支援機関その他の関係機関・関連専門職の役割)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
14	貧困に対する支援の実態(貧困に対する支援活動の実態と社会福祉士の役割)	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
15	まとめ 授業改善アンケートの実施	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
16	試験(60分)	全授業を振り返り試験に向けた準備(90分)	試験内容をふまえ授業全体を振り返る(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	デッサン (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即して絵画の基礎を教授する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
デザイナーとして、アーティストとして、美術の教員として「デッサン」が全ての基礎基本であることを十分に認識させ、単に技能や知識の向上にとどまらず、美術を愛好し積極的に、学生がそれぞれの専門分野に活かそうとする態度を養うこと。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度) デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2023・2022年度) デザイン学科のDP1、DP2、DP3に対応する。(2021年度)

到達目標
モチーフのかたちを客観的に把握できるようにすること。素描の楽しさや重要性について理解できる。 卒業後の社会での生活を想定した専門性に関する意識の高揚と実践的態度の養成をする。

授業全体の内容と概要
デッサンの材料・用具・その要素としてのプロポーション・明暗・質感・空間表現などについての実習。

授業の方法
プレゼンテーションは板書にて行う。授業形態は実技を行う。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
知性と感性を十分に発揮し、根気強くたゆまなく努力すること。 作品の質・課題に取り組む姿勢・鑑賞力などを重視する。 不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程(美術)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>80%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	80%	0%	0%	20%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	80%	0%	0%	20%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>適正な構図、形のバランス(比例)が正しく捉えられていることを基準とする</td> <td>バランスよく配置や大きさが捉えられていた</td> <td>ほぼバランスよく配置されていた</td> <td>大きさ等が大体捉えられていた</td> <td>左右上下にバランスよく配置されていた</td> <td>左右により過ぎや、極端に大きい、小さい等</td> </tr> <tr> <td>光の方向や陰影の濃淡等が分かりやすく表現できているかを基準とする</td> <td>自然な光の流れが表現出来ていた</td> <td>ほぼ光の方向が表現出来ていた</td> <td>明るい、暗いの描き分けが出来ていた</td> <td>明暗で表現していた</td> <td>輪郭線等で囲って色を付けていた</td> </tr> <tr> <td>陰影法を正しく理解できているかを基準とする</td> <td>陰と投影を正しく理解し描き分けられている。質感の表現も出来ていた</td> <td>陰で立体表現が出来ていた</td> <td>光の流れで立体表現をしていた</td> <td>色の濃淡で表現していた</td> <td>輪郭の中に単色の調子を塗り込んでいた</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	適正な構図、形のバランス(比例)が正しく捉えられていることを基準とする	バランスよく配置や大きさが捉えられていた	ほぼバランスよく配置されていた	大きさ等が大体捉えられていた	左右上下にバランスよく配置されていた	左右により過ぎや、極端に大きい、小さい等	光の方向や陰影の濃淡等が分かりやすく表現できているかを基準とする	自然な光の流れが表現出来ていた	ほぼ光の方向が表現出来ていた	明るい、暗いの描き分けが出来ていた	明暗で表現していた	輪郭線等で囲って色を付けていた	陰影法を正しく理解できているかを基準とする	陰と投影を正しく理解し描き分けられている。質感の表現も出来ていた	陰で立体表現が出来ていた	光の流れで立体表現をしていた	色の濃淡で表現していた	輪郭の中に単色の調子を塗り込んでいた
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
適正な構図、形のバランス(比例)が正しく捉えられていることを基準とする	バランスよく配置や大きさが捉えられていた	ほぼバランスよく配置されていた	大きさ等が大体捉えられていた	左右上下にバランスよく配置されていた	左右により過ぎや、極端に大きい、小さい等																								
光の方向や陰影の濃淡等が分かりやすく表現できているかを基準とする	自然な光の流れが表現出来ていた	ほぼ光の方向が表現出来ていた	明るい、暗いの描き分けが出来ていた	明暗で表現していた	輪郭線等で囲って色を付けていた																								
陰影法を正しく理解できているかを基準とする	陰と投影を正しく理解し描き分けられている。質感の表現も出来ていた	陰で立体表現が出来ていた	光の流れで立体表現をしていた	色の濃淡で表現していた	輪郭の中に単色の調子を塗り込んでいた																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	デッサン (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二 (デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即して絵画の基礎を教授する			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 デッサンのための用具野説明、授業の流れと目的などについて。	シラバスを読んでおくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
2	石膏像(首像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
3	石膏像(首像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
4	石膏像(首像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
5	石膏像(首像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
6	石膏像(首像)のデッサン 作品画像を保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
7	石膏像(首像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
8	石膏像(首像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
9	石膏像(首像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
10	石膏像(首像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
11	石膏像(首像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
12	石膏像(首像)のデッサン 作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
13	石膏像(首像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
14	石膏像(首像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
15	石膏像(首像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
16	石膏像(首像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	石膏像(首像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
18	石膏像(首像)のデッサン 作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
19	石膏像(首像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
20	石膏像(首像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
21	石膏像(首像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
22	石膏像(首像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
23	石膏像(首像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
24	石膏像(首像)のデッサン 作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
25	石膏像(首像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
26	石膏像(首像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
27	石膏像(首像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
28	石膏像(首像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
29	石膏像(首像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
30	石膏像(首像)のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
31	石膏像(首像)のデッサン 作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
32	採点及び講評会(解説・フィードバック) 授業改善アンケートの実施	講評会の準備を行うこと(45分)	解説・フィードバックを受けて講義内容のふりかえりを行うこと(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	福祉環境計画論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 哲之(建築学科・特任教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 哲之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築の計画や設計をおこなう上での基準は健康者の身体能力であった。しかし、わが国では人口の高齢化が急速に進展し、高齢者は増加の一途を辿っている。さらに人口の高齢化に伴って、障がい者人口もさらに増加すると見られている。そこで、高齢者・障がい者の身体特性を学び、バリアフリー、ユニバーサルデザインの知識の修得により建築計画ができる。

授業の位置づけ

建築学科のDP1, DP3, DP4に対応する。(2024年度)
 建築学科のDP1, DP2, DP3に対応する。(2023・22年度)
 建築学科のDP1, DP2, DP3に対応する。(2021年度)

到達目標

高齢者・障がい者が多く暮らす疾病やこれに伴う心身の特性を理解し、生活上の不便、不都合を知ることによって生活空間の計画・設計上の配慮点を理解できる。また、バリアフリー、ユニバーサルデザインの知識を理解し、それに基づいて建築計画することができる。

授業全体の内容と概要

福祉環境整備に関する法制度の流れを理解し、高齢者・障がい者の身体特性を知る。福祉用具を利用するための住空間の規模計画、生活空間の部位の寸法など要点を把握する。

授業の方法

テキストに加えてプロジェクターによる画像、図表で解説するので、ノートに講義内容と資料を整理すること。また、課題は各単元ごとに出題し、それはレポート形式とする。課題は3課題を準備している。そのうちの最終課題は、住宅のバリアフリー化をテーマに計画・プレゼンし、それを講評する。不測時における授業や補講等オンラインにて授業を実施し、欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

講義における板書内容と配布資料を要領よく整理することが重要である。30分以上の遅刻は欠席とする。また、遅刻3回で欠席1回とみなすので注意すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	10%	20%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉環境に関わる基礎的知識について	知識を十分に習得しており、それを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得しており、それを応用できた。	知識を十分に習得していた。	基礎的な知識を理解できていた。	基礎的な知識が不足していた。
福祉用具と住空間に関わる知識や計画について	知識を十分に習得して計画ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計画ができた。さらにそれを応用できた。	知識を習得して計画ができた。さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計画ができた。	知識が不足し計画ができなかった。
建築空間におけるバリアフリー・ユニバーサルデザインに関わる知識や計画について	知識を十分に習得して計画ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計画ができた。さらにそれを応用できた。	知識を習得して計画ができた。さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計画ができた。	知識が不足し計画ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	福祉環境計画論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 哲之(建築学科・特任教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 哲之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『住環境のバリアフリー・ユニバーサルデザインブック』	野村, 橋本	彰国社	2015	978-4-395-32048-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 福祉環境計画の概要	シラバスにより次回の部分を予習すること(90分)	授業内容を復習すること(90分)
2	ハートビル法, 障害者基本法, 生活福祉空間づくり, その他関係法令	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
3	高齢者・障害者の身体特性	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
4	計画と設計に求められるコンセプト	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
5	高齢者・障害者の福祉用具1	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
6	高齢者・障害者の福祉用具2	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
7	住環境整備の計画1 アプローチ, 駐車場, 建物出入口	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
8	住環境整備の計画2 室内出入口, 廊下, 階段	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
9	住環境整備の計画3 エレベータ, 便所	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
10	住環境整備の計画4 床の配慮, 段差の解消	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
11	住環境整備の計画5 スペースの配慮, 建具, 収納	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
12	生活空間改善の手法 計画の基本と応用	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
13	生活空間改善の手法 計画例1	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
14	生活空間改善の手法 計画例2	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
15	生活空間改善の手法 計画例3 授業改善アンケートの実施	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
16	定期試験(60分)及び解説(30分)	これまでの授業範囲を見直し予習すること(90分)	試験内容を振り返り, 特に専門用語を復習すること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営管理論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

今まで学んできた様々な経営分野の知識を集合体としてとらえマネジメントの本質を理解し実践できる知識として獲得する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

経営に関する実践的な思考を実務に生かすため、種々の理論等が理解できる。

授業全体の内容と概要

板書が多いのできちんとノートを取り、その内容をしっかり理解すること。様々な考え方を利用することによって今まで学んだことがどのようにつながり意思決定やバランスがにつながるのかを考える。積極的な質問や相談は大いに歓迎する。また、興味を持った内容についてはどんどん掘り下げて自分のものとしていくことを励む。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義形式で授業を行う。既習範囲の内容やハンドアウトを利用し、教科書に沿って経営学におけるマネジメントの本質をより深く理解してもらい、ノートの作り方や課題、予習復習の内容・やり方についてはその都度授業中に指示を出す。座席は全席指定としスマホの使用は支持があるとき以外はこれを認めない。板書の写真撮影は認めるが次回の授業までに必ずノートに転記すること。課題や不明点に関してはネットや経営学辞典等で調べたものを必ずノートに筆記保存すること。与えられた課題については個別対応は行わず、授業内でディスカッション形式で確認を行うものとする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席および授業参加度を重視する。出席とは、テキスト・ノート・筆記用具の3点セットを持参することを意味する。授業参加度とは、発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り・スマホゲーム・LINE等の授業妨害行為およびテキストを持参しない学生、手ぶらで着席している学生に関しては欠席扱いとする。中間試験は実施しない。課題提出を複数回行う。ノート提出を1回課し、最終評価の対象とする。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(商業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、試験実施回を含めて11回以上とする。遅刻は20分までとし2回の遅刻を1回の欠席として扱う。予習復習を心がけ、知らない・分からない事柄は必ず調べてノートに記録すること。ノート提出は平常点の最大50%に換算する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で90点以上の得点を挙げた。	定期試験で80点以上の得点を挙げた。	定期試験で70点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組み、マネジメントの真髄や各種理論への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、意思決定に至る考え方や各種理論の理解に対する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランスへの理解に対する進歩が見られず、自分自らのデータベースができていない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる定義や理論の研究・理解に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり経営学における意思決定やバランス理論の習得に関して前向きで、努力が見える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかかわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営管理論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『今さらだけど、ちゃんと知っておきたい「経営学」』	佐藤 耕紀	同文館出版株式会社	2021	9784495540890	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明 授業アンケート結果の説明 経営学の基本的な考え方	専用のノートを準備する(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
2	正しく考え、正しく判断する心理学的側面	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
3	価格の仕組みを理解して、増収・増益を目指す	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
4	相乗効果とコストダウン	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
5	ライバルとの競争を勝ち抜く	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
6	目的実現	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
7	分析手法 復習	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
8	分析手法 復習	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
9	やる気と個性を活かして、強いチームを作る	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
10	やる気と個性を活かして、強いチームを作る	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
11	DX時代の組織の形を考える	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
12	DX時代の組織の形を考える	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
13	DX時代の組織の形を考える	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
14	人材マネジメント&ノートチェック	ノート提出に備える(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
15	テストレビュー&ノートチェック 授業評価アンケートの実施	ノート提出に備える(90分)	試験に備える(90分)
16	試験および総括	試験に備える(90分)	本科目の総復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授) 君 興 治(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館3階	2号館4階	
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

前半では、建築図面の基礎的立体表現として陰影とアークソメ図の課題に、後半ではこれらの手法を統合させた課題に取り組む。立体表現の課題では基本的技術を習得し、応用課題では表現の多様性を理解するとともに実践し技術を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)
 建築学科のDP1、DP2に対応する。(2023・2022年度)
 建築学科のDP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

立体表現の基礎技術力ならびに応用力を養うとともに、表現の対象となる有名建築作品、設計者(建築家)の考え方について理解を深めることができる。

授業全体の内容と概要

各シリーズとも3課題ごとに講評会をおこなう。課題製作、原則として授業時間内におこない即日提出とするが、やむを得ず授業時間内に完成させられなかった場合は、次週授業開始時まで完成させ提出する。

授業の方法

シリーズごとに課題の目的・到達目標等について説明の後、課題制作に取り組む。課題のシリーズ終了ごとに講評会を開催し、各自作品のプレゼンテーションをおこない、その後指導教員が講評・評価をおこなう。基本的に授業は対面で実施するが、不測の事態が起きた際に、授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

実技科目であるため、全授業に出席し期限内に課題を製作し提出すること。また作品講評会に出席し自分の作品の解説(プレゼンテーション)することも評価する。原則授業にはすべて出席し、授業時間内に課題制作をおこなうこと。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席する(ただし最低出席回数10回以上)こととし、積極的に課題に取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	85%	0%	0%	15%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
二次元における立体表現の基礎技術力ならびに応用力と、可塑的素材を使用した模型の立体表現力を修得する。	基礎技術力をもとに応用技術を身に付けることができた。	立体表現の基礎技術をもとに応用技術も身につけようとする姿勢がみられた。	立体表現の基礎技術を身に付けることができた。	立体表現の基礎技術をおおむね身につけることができた。	立体表現の基礎技術を身に付けることができなかった。
表現の対象となる有名建築作品、設計者(建築家)の考え方について理解する。	対象以外の建築にも興味を持ち、建築作品、設計者について進んで調べることができた。	対象となる建築の設計者が設計した他の建築について理解することができた。	建築作品ならびに設計者について理解できた。	建築作品ならびに設計者についておおむね理解できた。	建築作品ならびに設計者について理解することができなかった。
講評会を通して、自分の作品及び他社の作品に対する客観的に受け止め理解し、批評をもとに作品を客観視する力を修得する。	自己の作品に対する評価を客観的に受け止め理解し、改善点について検討することができた。	自己の作品に対する評価を理解し、改善点について検討することができた。	自己の作品に対する評価を理解できた。	自己の作品に対する評価をおおむね理解できた。	自己の作品に対する評価を理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授) 君 興 治(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館3階 2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明, 授業改善アンケート結果反映の説明, 授業計画の説明	シラバスの事前確認(45分)	授業内容の確認(45分)
2	陰影表現1(立面図)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
3	陰影表現2(配置図)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
4	講評会(立面図・配置図)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)分
5	アクソメトリクスの図法解説	授業資料の確認(45分)	授業資料の復習(45分)
6	アクソメトリクスの表現1(外観)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
7	アクソメトリクスの表現2(内観・外観)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
8	講評会(アクソメトリクス 外観・内観)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)分
9	空間要素1	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
10	空間要素2	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
11	講評会(空間要素)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)分
12	可塑的素材を使用した模型の説明と制作	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
13	模型設置用台の制作	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
14	可塑的素材を使用した模型の制作	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
15	可塑的素材を使用した模型の制作	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
16	総評(全作品の講評) 授業改善アンケートの実施	提出作品の最終確認(45分)	総評の振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保健医療と福祉 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	宮崎 剛司(社会福祉学科・講師)	研究室等所在	1号館2階常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 宮崎 剛司)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	医療機関や看護教育現場での経験を活かし、医療・保健・福祉の現況について話をします。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会福祉活動に必要な医療保険制度や保健医療サービスについて学ぶ。また、保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種との協働について理解を深める。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023年度)

到達目標

保健医療サービスについてその概要と保健医療サービス提供が各専門職の連携をもとになされることを説明できる。

授業全体の内容と概要

保健医療の概況や基本事項を学ぶ。それぞれの専門職種が担う役割をもとに保健医療サービス提供における連携とはどのようなものか理解を深める。

授業の方法

講義形式、テキストの活用を中心とし、板書や配布資料を適宜使い解説を行う。また、確認のために小試験を課題とし、添削後、返却し解答・解説を行いフィードバックする。
「基本は対面授業の実施」であるが、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○ その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教科書は必ず持参すること。
必要な資料等は適宜配布するため持参すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程, 精神保健福祉士国家試験受験資格課程, 保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。
20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	20%	10%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
医療保険制度の理解	医療保険制度創設の目的や保険給付、診療報酬について詳細に理解できた。	医療保険制度創設の目的や保険給付、診療報酬について概ね理解できた。	医療保険制度創設の目的や保険給付、診療報酬について部分的に理解できた。	医療保険制度創設の目的や保険給付、診療報酬について助言により部分的に理解できた。	助言しても理解できなかった。
保健医療サービスの概要	医療・福祉施設、保健所の役割と医療法について把握し、健康増進・保健対策との関連を詳しく説明できた。	医療・福祉施設、保健所の役割と医療法、健康増進・保健対策について概ね説明できた。	医療・福祉施設、保健所の役割と医療法、健康増進・保健対策について部分的に説明できた。	医療・福祉施設、保健所の役割と医療法、健康増進・保健対策について助言により部分的に説明できた。	助言しても説明できなかった。
専門職の役割	保健医療分野における社会福祉士の役割を、患者の権利とチーム医療との関連から詳しく説明できた。	保健医療分野における社会福祉士の役割、患者の権利、チーム医療について概ね説明できた。	保健医療分野における社会福祉士の役割、患者の権利、チーム医療について部分的に説明できた。	保健医療分野における社会福祉士の役割、患者の権利、チーム医療について助言により部分的に説明できた。	助言しても説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保健医療と福祉 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	宮崎 剛司(社会福祉学科・講師)	研究室等所在	1号館2階常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 宮崎 剛司)		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	医療機関や看護教育現場での経験を活かし、医療・保健・福祉の現況について話をします。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新社会福祉士養成講座 5 保健医療と福祉』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021	978-4-8058-8248-1	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス説明 授業改善アンケート結果反映の説明 保健医療サービスについて	事前に教科書全体に目をとっておく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
2	医療保険制度	教科書の「医療保険制度」について事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
3	医療保険制度(保険給付)	教科書の「医療保険制度」について事前に読んでおく(90分)	配布資料を見直しておく(90分)
4	医療保険制度(医療費政策)	教科書の「医療保険制度」について事前に読んでおく(90分)	配布資料を見直しておく(90分)
5	診療報酬	教科書の「診療報酬」を事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
6	保健医療サービスの概要(医療法)	教科書の「医療サービス」を事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
7	保健医療サービスの概要(医療・福祉施設と医療計画)	教科書の「医療サービス」を事前に読んでおく(90分)	前半の授業内容を復習しておく(90分)
8	前半のまとめと学習到達度の確認テスト	前半の授業・資料・ノートを見直しテストに臨む(90分)	問題を見直し自己採点しておく(90分)
9	テスト返却。保健医療サービスの概要(衛生行政)	教科書の「保健行政」を事前に読んでおく(90分)	返却テスト結果と授業で行ったことを見直し整理しておく(90分)
10	保健医療サービスの概要(健康増進・保健対策)	教科書の「保健行政」を事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
11	専門職の役割(医療ソーシャルワーカー)	教科書の「専門職について」を事前に読んでおく(90分)	社会福祉士の役割を授業と関連させて復習する(90分)
12	専門職の役割(各専門職とチーム医療)	教科書の「専門職について」を事前に読んでおく(90分)	配布資料を見直しておく(90分)
13	専門職の役割(患者の権利・インフォームドコンセント)	教科書の「専門職について」を事前に読んでおく(90分)	社会福祉士の役割を授業と関連させて復習する(90分)
14	保健医療サービスの連携と実際	教科書の「専門職の連携」について事前に読んでおく(90分)	社会福祉士の役割を授業と関連させて復習する(90分)
15	総括と保健医療サービスの今後の課題 授業改善アンケート実施	これまで授業で行ったことを振り返り準備しておく(90分)	提案した福祉課題に今後取り組んでいく(90分)
16	定期試験60分の終了後、残りの時間で解説します。	定期試験準備を行っておく(90分)	試験及び解説を受けて講義全体を振り返る(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築法規 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

日常生活をとりまく建築関係法令は建築基準法をはじめとして関連する法律が非常に多く、生活環境・社会構造の変化とともに、より複雑化してきている。ここでは建築関係法令のうち建築基準法・建築基準法施行令他、関係法令からまちづくりや住まいづくり、建築のデザインに関わる法令法規について学習し、住宅やまち・都市を取り巻く今日的課題と法整備の状況を理解する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)
 建築学科のDP1、DP3に対応する。(2023・2022年度)
 建築学科のDP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

建築基準法に定める集団規定の持つ意義や規定を理解し、都市デザインに密接な係わりを持つ道路と敷地・用途地域・各種高さ制限などに関する条文を理解できる。

授業全体の内容と概要

建築基準法を理解する上で重要な条文について図解を交えてわかりやすく解説する。更に主要な制度規定について、条文の成立から実例まで併せて解説すると共に条文の理解を深めるための演習を行う。
 「SDG11、住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業は条文の重要項目のチェックと線引きをおこない、板書と配布資料により進めていく。随所に出現する法令独特の語彙の解釈や考え方にも触れて、きめ細やかに進めていく。また、理解度を測るため、単元ごとに課題提示・小テストも行い、解説することでフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

法令集と赤ペン、青ペンを必ず持参のこと。また、本講義にあたっては電卓や携帯電話、スマートフォンなどの計算機能を使った計算を禁止する。必ず筆算のこと。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数11回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
都市計画区域等における建築物の敷地、用途、建築物等の理解	基準法に規定された建築物の一般構造に関する規定を正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の一般構造に関する規定を8割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の一般構造に関する規定を6割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の一般構造に関する規定を理解することができた。	基準法に規定された建築物の一般構造に関する規定を理解することができなかった。
都市計画区域等における建築物の接する道路等の理解	基準法に規定された建築物の接する道路等に関する規定を正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の接する道路等に関する規定を8割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の接する道路等に関する規定を6割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の接する道路等に関する規定を理解することができた。	基準法に規定された建築物の接する道路等に関する規定を理解することができなかった。
その他の建築関連法規の理解	その他の建築関連法規に関する規定を正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を8割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を6割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築法規 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『建築基準法関係法令集 2024年』	日建学院編	建築資料研究社	2024		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。建築基準法と都市計画法 授業改善アンケート結果反映の説明	建築法規 の振り返り(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
2	都市と道路	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
3	用途地域・実例で見る建築用途制限の詳細	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
4	許可申請の手続き	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
5	容積率1-敷地の容積率の限度	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
6	容積率2-建築物の容積率の緩和・特定道路・地区計画	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
7	容積率3-天空率の計算と実例	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
8	都市計画図と建ぺい率	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
9	斜線制限(道路斜線制限・隣地斜線制限)	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
10	斜線制限(北側斜線制限)	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
11	斜線制限(その他の高さ制限)	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
12	斜線制限と緩和規定	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
13	日影規制	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
14	日影図(含 CADによるシミュレーション)	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
15	建築基準法と倫理2 授業改善アンケートの実施	事前提示の条文熟読(90分)	本講義の振り返り(90分)
16	理解度診断試験・試験解説	事前提示の条文熟読(90分)	試験の振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	道徳教育の指導法 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 雅一(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 雅一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

みずからの価値観や道徳観、教育観、道徳教育の方法論、思考力、創造力、リーダーシップ等を身につけることができる。

授業の位置づけ

経営学科のDP 2、DP 4、DP 5に対応する。(2023・2022年度)
 社会福祉学科のDP 2、DP 4、DP 5に対応する。(2023・2022年度)
 デザイン・建築学科のDP 2、DP 4に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

具体例(ビデオ、資料等)やディスカッション等を通じて、みずからの価値観や人生観、そして道徳観を確立するとともに、道徳教育の理想像とその方法論を形成する。
 みずからの考えを明確に表現する能力やコミュニケーション能力を身につける。
 現代社会が抱える問題点やその価値観・道徳観をしっかりと把握する。
 過去の歴史を踏まえつつ、これからの時代に必要な価値観や道徳教育の全体像を構築する。

授業全体の内容と概要

脳科学や精神医学、臨床心理学等の最新成果を踏まえ、みずからの価値観や人生観、そして道徳観を形成し、これからの時代に必要な道徳教育とその方法論を構築する。
 「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

講義。対話や個人発表、ディベートなどによるアクティブラーニングを行う。適宜、平常点を付与する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

講義中はスマホ等の電源を必ずOFFにし、机の上に置かないこと。置いている場合は、講義終了まで預かる。授業に関係のない私語禁止。座席を指定することもありうる。居眠り厳禁。レポートの採点基準は、「どれだけ講義の内容を理解し、自分のものになっているか」ということ。自分自身との対話を通し、自分のことばで語る事が重要。講義で扱っていない内容や自分の考えばかりを書いても合格率に達することはできない。コピペは100%単位認定されない。最後に、全体的感想や自分の意見を付け加えることよりよい。
 公欠や特別な事由で欠席した場合、課題を提出しなければ、授業回数に反映されないことに留意。学務課に成績票を提出した後は受領できない。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(中学)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、12回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	42%	0%	0%	10%	48%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
レポート	講義やビデオの内容を十分に理解し、みずからの教育観に十分に役立てた。	講義やビデオの内容をかなり理解し、みずからの教育観にかなり役立てた。	講義やビデオの内容をそれなりに理解し、みずからの教育観にそれなりに役立てた。	講義やビデオの内容を理解しようとするが、みずからの教育観に役立てようと努めた。	講義やビデオの内容を理解しておらず、みずからの教育観に役立っていなかった。
発言	発言を10回以上した。	発言を7回以上した。	発言を5回以上した。	発言を3回以上した。	発言が3回未満だった。
ディベート、構成的グループエンカウンターなど	ディベート、構成的グループエンカウンターなどにおいて、中心的役割を演じた。	ディベート、構成的グループエンカウンターなどにおいて、積極的に発表した。	ディベート、構成的グループエンカウンターなどにおいて、それなりに発表した。	ディベート、構成的グループエンカウンターなどにおいて、発表しようとするが、発表しなかった。	ディベート、構成的グループエンカウンターなどにおいて消極的で、ほとんど発表していなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	道徳教育の指導法 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 雅一(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 雅一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス、シラバスの解説 授業改善アンケート結果の反映の説明 いま、なぜ、道徳教育なのか	シラバスをきちんと読む(90分)	第1回講義の復習(90分)
2	道徳教育は、何をめざすのか	第1回講義の復習と第2回講義の予習(90分)	第2回講義の復習(90分)
3	少年犯罪と心の教育	第2回講義の復習と第3回講義の予習(90分)	第3回講義の復習(90分)
4	外国での道徳教育の取り扱い	第3回講義の復習と第4回講義の予習(90分)	第4回講義の復習(90分)
5	わが国での道徳教育の歴史 幕末・維新期の道徳観	第4回講義の復習と第5回講義の予習(90分)	第5回講義の復習(90分)
6	わが国での道徳教育の歴史 明治の価値変動の時代の道徳観	第5回講義の復習と第6回講義の予習(90分)	第6回講義の復習(90分)
7	わが国での道徳教育の歴史 大正・昭和前期・統一教科書の時代の道徳	第6回講義の復習と第7回講義の予習(90分)	第7回講義の復習(90分)
8	わが国での道徳教育の歴史 戦後の道徳教育の変遷	第7回講義の復習と第8回講義の予習(90分)	第8回講義の復習(90分)
9	学校における道徳教育	第8回講義の復習と第9回講義の予習(90分)	第9回講義の復習(90分)
10	道徳教育の目標と内容	第9回講義の復習と第10回講義の予習(90分)	第10回講義の復習(90分)
11	道徳教育の計画	第10回講義の復習と第11回講義の予習(90分)	第11回講義の復習(90分)
12	他教科・他領域と道徳教育との関連	第11回講義の復習と第12回講義の予習(90分)	第12回講義の復習(90分)
13	指導の諸方式	第12回講義の復習と第13回講義の予習(90分)	第13回講義の復習(90分)
14	指導案の作成	第13回講義の復習と第14回講義の予習(90分)	第14回講義の復習(90分)
15	道徳教育の課題 家庭・社会および「公」と「私」の関連等	第14回講義の復習と第15回講義の予習(90分)	第15回講義の復習(90分)
16	課題(レポート)に対するフィードバック 授業改善アンケートの実施	第15回講義の復習と第16回講義の予習(90分)	第16回講義の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	管理会計論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 重政)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照 Teamsによるチャットは平日午前9時から午後5時まで対応				

概要

履修目標

適正な経営の意思決定を行うことができるようにマーケティングと経営戦略に会計を加え、経営の総合力をつける。戦略的な予算を策定することができる能力を涵養する。

授業の位置づけ

経営学科のDP3に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

会計情報をもとに経営戦略と予算を策定できる基本能力を有する。

授業全体の内容と概要

テーマの説明を行い、練習問題を解きながら講義を進めていく。また時事問題についても解説を行い、学生から意見を発言してもらう。

授業の方法

毎回プリント(ケース)を配布し、講義内容の管理会計における位置づけを説明し、本題に入る。双方向授業を活用して、学生から意見を発言してもらう。講義の最後にミニテストを実施する。ミニテスト、試験などの解説のフィードバックを実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

正当な理由のない遅刻・途中退席は認めない、電卓を持参すること。ノートをしっかり取ること。原簿計算論を履修済みであることが望ましい。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
CVP分析を用いた分析を行うことができ、経営戦略を策定できる。	CVP分析を用いた経営戦略(販売価格決定、固定費、変動費の設定)ができた。	CVP分析を用いて、目標利益を達成するための営業料を算定することができた。	CVP分析を正しく行うことができた(損益分岐点の算定)。	固定費と変動費の分析ができ、CVP分析を正しく行うことができた。	固定費と変動費の区分ができず、CVP分析を正しく行うことができなかった。
マーケティングと経営戦略を合わせた予算策定	実在する企業について、不足する情報を推察し、適正な経営戦略と予算編成ができた。	経営戦略を達成するための予算を策定することができた。	PPMと5 force分析から経営戦略の策定ができた。	SWOT分析とPPTを行うことができた。	SWOT分析ができなかった。
全社戦略を策定することができない	実在する企業について、不足する情報を推察し、適正なM&A計画を策定することができた。	M&A、多角化における資産評価と投資価値の算定を行うことができた。	DCF(ディスカウントキャッシュフロー)法を用いて全社戦略を策定することができた。	全社戦略について理解していた	全社戦略について理解が不足していた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	管理会計論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 重政)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明など) 企業経営と管理会計の目的 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
2	管理会計のフレームワーク	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
3	管理会計の歴史	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
4	原価計算	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
5	ABC・ABM	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
6	ERPパッケージ	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
7	戦略評価、DCF法	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
8	事業戦略・全社戦略	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
9	製品開発	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
10	短期利益計画	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
11	予算管理	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
12	生産管理	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
13	事業部制会計	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
14	研究開発	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
15	投資計画、M&A	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
16	定期試験および解説(60分の試験終了後、残りの30分で解説) 授業改善アンケートの実施	総復習(90分)	総復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人文地理学 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	塩崎 大輔(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

人文地理学の基礎を理解するとともに、地理空間情報の基礎を知り、地域や教育に活用できる考え方の基礎を身につけることを目的とする。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP4、5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

1. 人文地理学的な見方・考え方を修得する。
2. 地理空間情報及びGISの基礎知識を習得する。

授業全体の内容と概要

近年身近に普及している地理空間情報とGIS(地理情報システム)の基礎と活用方法を学ぶ。その知識を応用し、教育に活かす力を身に付けることを目標とする。またその過程でオープンデータとして公開されている統計情報を活用するスキルを身に付ける。「SDGs4:質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は講義形式で行い、スライド資料及び映像資料を使用して行う。授業中・授業後に適宜、課題に沿った作業・レポート作成を行う。またPCを利用し、GISソフトを活用した作業を行い、その成果についてディスカッションを行う。作業を行う過程で、政府統計の総合窓口e-Statや地理情報分析支援システムMANDARAの活用方法を解説する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

講義内で適宜連絡する。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(地理歴史)必修科目 (社会)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	50%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
人文地理学の理解	レポート課題において、9割以上の得点を上げた。	レポート課題において、8割以上の得点を上げた。	レポート課題において、7割以上の得点を上げた。	レポート課題において、6割以上の得点を上げた。	レポート課題において、6割未満の得点であった。
地理空間情報・GISスキル	右の記述を高いレベルで実現していた。	地理空間情報およびGISを活用し、たいへんわかりやすく説明ができた。	地理空間情報およびGISを活用し、説明することができた。	地理空間情報およびGISを活用することができた。	地理空間情報およびGISを活用することができなかった。
資料収集・活用	統計情報等の資料収集を行い、高いレベルで活用し、説明することができた。	統計情報等の資料収集を行い、活用し説明することができた。	統計情報等の資料収集を行い、活用することができた。	統計情報等の資料収集を行った。	統計情報等の資料収集を行っていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人文地理学 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	塩崎 大輔(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『フリーGISソフトMANDARIN入門 増補版: かんたん!オリジナル地図を作ろう』	谷 謙二	古今書院	2022	4772281231	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、授業の内容・進め方・評価の仕方のガイダンス	事前にシラバスを読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
2	身の回りのGIS	事前にテキストの範囲を読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
3	地理空間情報とGIS	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
4	統計情報とオープンデータ	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
5	統計情報の収集	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
6	統計情報の編集	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
7	統計情報の可視化	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
8	GISの基礎 測地系と座標系	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
9	GISの基礎 地図の作成	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
10	GISの基礎 地理空間情報の可視化・地図化	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
11	GISの基礎 地理空間情報の整理	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
12	GISの基礎 地理空間情報の統合	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
13	GISの基礎 地理空間情報の活用	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	次回成果発表の準備学修。(90分)
14	地理空間情報の活用成果発表	成果発表の準備学修。(90分)	次回成果発表の準備学修。(90分)
15	地理空間情報の活用成果発表	成果発表の準備学修。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
16	まとめ、課題(レポートなど)の解説 授業改善アンケートの実施	まとめの準備。(90分)	まとめの振り返り。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ビジュアルデザイン (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	田中 靖之(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 田中 靖之)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの現場において、実務経験者である教員がその経験を基に実践的な授業を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

1. C I の理念及びその中核となる V I システムを理解する。
 2. C I の基本要素であるシンボルマーク等のデザイン演習を行うことによって、その成り立ちを理解する。
 3. C I のデザイン(形・色)演習を通して、その展開デザインの拡がりを理解する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する。(2024年度)
 デザイン学科のDP 3、DP 4 に対応する。(2023・2022年度)
 デザイン学科のDP 1、DP 2、DP 3、DP 5 に対応する。(2021年度)

到達目標

C I の主体を類別し、シンボルマーク等の形・色のデザインを実施し、V I の基本形と展開形をレイアウトすることができる。

授業全体の内容と概要

C I の概要とV I システムの全体を把握し、その目的と機能・運用に関して理解し、テーマ選択後にデザイン演習を行う。
 『SDG12・つくる責任つかう責任』の関連授業

授業の方法

板書とオリジナルプリント配布を併用し実技形式で行う。また、クライアントにプレゼンすることを前提としたデザイン内容となるよう多角的に確認し、さらにフィードバックを繰り返したのち、演習課題を完成させ提出する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

サムネールやスケッチの実技が重要なため、ノート・筆記具を常備すること。
 不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談で相談のもと、事前に参考資料を提供することができる。

資格指定科目

教職課程(美術・工芸)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は20回以上。
 完成度の高い作品を合格とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	60%	0%	10%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
C I の理念とその中核の V I システム	C I 理念と V I システムを理解し、実例を3つ以上分類・提示し、コメントと改善案をラフスケッチ等で提示できた。	C I 理念と V I システムを理解し、実例を3つ提示し、客観的なコメントを含め改善案も提示できた。	C I 理念と V I システムを理解し、実例を3つ提示し、デザインに対して客観的なコメントを提示できた。	C I 理念と V I システムを理解し、実例を1つ以上提示できた。	C I 理念と V I システムを理解できなかった。
シンボルマークのデザイン演習とその成り立ち	シンボルマークのサムネール(1.5以上)を基本に、フィードバックの繰り返しと、類似パターンを調査の上、オリジナルなデザインを1点仕上げた。	シンボルマークのサムネール(1.5以上)を基本として、客観的なフィードバックを繰り返し、1点に仕上げることができた。	シンボルマークのサムネール(1.0以上)を基礎に、1点に仕上げることができた。	シンボルマークデザインのためのサムネールが複数(1.0以上)できた。	シンボルマークのデザインができなかった。
デザイン(形・色)演習と展開デザイン	ベーシックデザインの要素(マーク・文字・色)及び展開デザインを3つ以上含め、類似パターンを調査の上、オリジナルなレイアウト後に提出できた。	ベーシックデザインの要素(マーク・文字・色)及び展開デザインを2つ以上含め、レイアウト後に提出できた。	ベーシックデザインの要素(マーク・文字・色)をフィードバックを繰り返し、レイアウト後に提出できた。	ベーシックデザインの要素(マーク・文字・色)をレイアウトし提出できた。	ベーシックデザインの演習が完成しなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ビジュアルデザイン (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	田中 靖之(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 田中 靖之)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実場において、実務経験者である教員がその経験を基に実践的な授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 CIの歴史について	「CI」語句としての認識(45分)	CI導入企業や自治体の具体例の収集(45分)
2	CIデザインの事例収集とスケッチ	CI導入企業等のシンボルマーク、ロゴタイプの例を調査(45分)	CIデザイン、具体例の収集(45分)
3	CIS(VIS)の例・ベーシックとアプリケーション	「ベーシック・アプリケーション」語句としての認識(45分)	企業のアプリケーションデザイン例を収集(45分)
4	マークデザインのサムネール作成	シンボルマークの事例収集(45分)	サムネール補足演習(45分)
5	商標登録と企業戦略	「商標登録」語句としての認識(45分)	商標登録の実例調査(45分)
6	マークデザインのサムネール作成	自己で選択した形状のサムネール準備(45分)	サムネール補足演習(45分)
7	シンボルマークとピクトグラム	「ピクトグラム」語句としての認識(45分)	ピクトグラムの事例収集(45分)
8	ピクトグラムのアイデア制作	自己で選択したアイテムのサムネール準備(45分)	アイデア制作補足演習(45分)
9	VIとベーシックカラー	ベーシックカラー事例収集(45分)	「特別色」と「プロセスカラー」の区別と認識チェック(45分)
10	カラーリング演習	PC又は鉛筆色での用具準備(45分)	カラーリング演習(45分)
11	CIS展開デザインの位置づけと応用例	展開デザインの語句と事例認識(45分)	具体例としての展開デザインを収集(45分)
12	CIS企画のためのアイデアフラッシュ	「アイデアフラッシュ」語句としての認識(45分)	アイデアフラッシュ補足(45分)
13	CIS課題演習 - 1 ・シンボルマークの位置づけ	「シンボルマーク」事例収集(45分)	シンボルマークのサムネール作業確認
14	CIS課題演習 - 2 ・シンボルマークの展開使用例とサムネール制作	サムネール案の準備作業(45分)	演習補足(45分)
15	CIS課題演習 - 1 ・シンボルカラーの位置づけ	「シンボルカラー」事例収集(45分)	“色”のもつ意味を確認(45分)
16	CIS課題演習 - 2 ・シンボルカラーリング演習	パソコン又は色鉛筆での着色チェック(45分)	演習補足(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	CIS課題演習 - 1 ・セットロゴ位置づけ	「セットロゴ」事例収集(45分)	セットロゴのパターン(レイアウト)を確認(45分)
18	CIS課題演習 - 2 ・セットロゴデザイン演習	セットロゴパターン(タテ組、ヨコ組)等のラフデザイン(45分)	演習補足(45分)
19	CIS課題演習 - 1 ・タイプフェイスの位置づけ	「タイプフェイス」事例収集(45分)	PCフォントやアナログレタリングでのラフデザイン(45分)
20	CIS課題演習 - 2 ・タイプフェイス演習	PCやアナログでの制作準備(45分)	演習補足(45分)
21	CIS課題演習 - 1 ・ロゴタイプ位置づけ	「ロゴタイプ」事例収集・一般企業(45分)	演習補足(45分)
22	CIS課題演習 - 2 ・ロゴタイプ演習	「ロゴタイプ」事例収集・自治体(45分)	演習補足(45分)
23	CIS課題演習 - 1 ・ベーシックカラーの設定	企業例としてのカラー事例収集(45分)	「特別色」と「プロセスカラー」の使用例の事例確認(45分)
24	CIS課題演習 - 2 ・ベーシックカラーの選択	「特別色」の主体に選定準備(45分)	演習補足(45分)
25	CIS課題演習 - 1 ・フォーマット&レイアウトの意義	レイアウト事例収集(45分)	レイアウトのサムネール準備(45分)
26	CIS課題演習 - 2 ・フォーマット&レイアウト演習	レイアウト作成準備(45分)	演習補足(45分)
27	CIS課題演習 - 1 ・レイアウトバリエーション	アドバイス項目のチェック(45分)	レイアウトの微調整作業(45分)
28	CIS課題演習 - 2 ・レイアウト調整	レイアウトアイテム等の最終チェック(45分)	演習補足(45分以上)
29	CIS今後の課題と未来展望	アドバイス項目のチェック(45分)	CISに対する個人的見解の整理(45分)
30	課題作品の提出	作品の最終チェックなどの(45分)	演習補足(45分以上)
31	課題に対する解説・フィードバック	講義全体を通して質問事項をまとめておく(45分)	質問に対する解説等の理解(45分)
32	課題に対する解説・フィードバック 授業改善アンケートの実施	総合的な質問項目のまとめ(45分)	解説・フィードバックを受けて講義全体の理解を深める(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ユニバーサルデザイン演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

近年、ユニバーサルデザインに関する情報の量は目覚しく増大し、その考え方を反映したものが数多く開発・生産・販売されている。「ものづくり」をとおして共生社会実現のための理解を深めるため、指定した単位空間を対象にその実測調査をおこない、そこから既存施設の問題点を明らかにし、ユニバーサルデザインの視点から改修計画を提案・発表する。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)
 建築学科のDP1、DP2に対応する。(2023・2022年度)
 建築学科のDP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

疑似体験により介助される側、介助する側としての両立場を理解する。生活空間のあり方に対して自分なりの考えを見つめるきっかけとなり、身の回りにある製品・商品および空間に対しての理解、ユニバーサルデザインの視点からの建築空間・都市空間の評価、改修計画の提案とその発表する能力を養うことができる。

授業全体の内容と概要

前半は疑似体験を通して、身体障がい者並びに高齢者の身体機能の低下を体感し、生活活動に対する心理状態を推測し、理解の一助とする。後半はユニバーサルデザインの考え方を製品・商品に積極的に取り入れている企業への現地調査を実施する。さらに、不特定多数の利用者が対象となる空間の実測とその改修計画に取り組みユニバーサルデザインの視点で提案をおこない、プレゼンテーション後、作品ごとに講評をおこなう。(SDGs11.住み続けられるまちづくりを)の関連授業

授業の方法

疑似体験は、体験者・介助者・観察者の三者の視点でおこなう。ユニバーサルデザインを考えた製品・商品の調査には、企業を直接訪問し、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた製品に対する理念、開発から実現へのプロセスを理解する。プレゼンテーション・提案など、指定された課題は全て提出すること。基本的に授業は対面で実施するが、不測の事態が起きた際に、授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

製品調査に際しては大学外での現地調査となるため、建築を学ぶ学生として行動・言動・マナーなど各自責任ある態度が求められる。また積極性と自発的な行動力を求める。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

演習科目であり原則毎回出席すること(最低出席回数10回以上)、ユニバーサルデザイン製品の現地調査は必修とし、授業・演習には積極的に取り組むこと。F/W見学会レポート(レポート)、既存施設図および改修計画図・模型(レポート)課題作品)、課題に取り組む姿勢等(その他)で評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	60%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ユニバーサルデザインとはどのような概念であるかを理解し、実社会にどのように反映され機能しているかを理解する。	ユニバーサルデザインの概念と様々な実例をもとに多面的に理解できた。	概念を理解し、実例を通して有用性実例を認識できた。	概念を理解できた。	おおむね概念が理解できた。	レポートが提出できなかった。
指定した単位空間を対象にその実測調査をもとに図面を作成をおこない、現状における問題点を見つける。	優れた図面を完成し多くの問題点を見つけ出すことができた。	図面を作成し多くの問題点を見つけ出すことができた。	図面を作成し問題点を見つけ出すことができた。	図面を完成することができた。	図面を作成することができなかった。
ユニバーサルデザインの視点から指定した単位空間の改修計画を提案する。	非常に優れた改修計画を提案できた。	優れた改修計画を提案できた。	改修計画を提案できた。	多少問題があるものの改修計画を提案できた。	改修計画を提出することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ユニバーサルデザイン演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一 (建築学科・教授)	研究室等所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、ユニバーサルデザインとは	シラバス事前確認(90分)	受講の注意の確認(90分)
2	「ユニバーサルデザイン」の考え方	配布資料確認(90分)	講義内容の振り返り(90分)
3	疑似体験プログラム(A.高齢者)(B.右片麻痺)	配布資料確認(90分)	体験データのまとめ(90分)
4	疑似体験プログラム(C.車椅子)	配布資料確認(90分)	体験データのまとめ(90分)
5	ハートビル法のチェックリストに基づく校舎内の調査1	配布資料確認(90分)	チェックリストのまとめ(90分)
6	ハートビル法のチェックリストに基づく校舎内の調査2	チェックリストの確認(90分)	チェックリストのまとめ(90分)
7	実測調査 対象の実測	実測用具の確認(90分)	実測データの整理(90分)
8	実測調査 収集データのまとめ	データ不足箇所の確認(90分)	実測データの整理(90分)
9	実測図作成1 平面図	実測データの確認(90分)	図面確認(90分)
10	実測図作成1 平面図	図面確認(90分)	図面確認(90分)
11	実測図作成2 展開図	実測データの確認(90分)	図面確認(90分)
12	実測図作成2 展開図	図面確認(90分)	図面確認(90分)
13	ユニバーサルデザイン製品製造メーカー 講習	見学会場の確認(90分)	配布資料・講習内容の振り返り(90分)
14	ユニバーサルデザイン製品製造メーカーショールーム見学	製造メーカーの商品確認(90分)	見学レポート作成(90分)
15	改修計画案の検討 平面計画	改修条件の確認(90分)	検討内容の振り返り(90分)
16	改修計画案の検討 平面計画	改修条件との整合性確認(90分)	検討内容の振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	改修計画案の検討 断面計画	改修条件の確認(90分)	検討内容の振り返り(90分)
18	改修計画案の検討 断面計画	改修条件との整合性確認(90分)	検討内容の振り返り(90分)
19	改修計画案の作成1 平面図	改修計画内容の確認(90分)	制作図面の確認(90分)
20	改修計画案の作成1 平面図	改修計画内容の確認(90分)	制作図面の確認(90分)
21	改修計画案の作成1 平面図	改修計画内容の確認(90分)	図面の完成度確認(90分)
22	改修計画案の作成1 平面図	改修計画内容の確認(90分)	図面の完成度確認(90分)
23	改修計画案の作成2 展開図A,B	平面図の確認(90分)	制作図面の確認(90分)
24	改修計画案の作成2 展開図A,B	平面図の確認(90分)	制作図面の確認(90分)
25	改修計画案の作成3 展開図C,D	平面図の確認(90分)	制作図面の確認(90分)
26	改修計画案の作成3 展開図C,D	平面図の確認(90分)	制作図面の確認(90分)
27	改修計画案の内部模型製作	制作道具・材料の確認(90分)	制作模型の進捗状況確認(90分)
28	改修計画案の内部模型製作	平面図・展開図の確認(90分)	制作模型の完成度確認(90分)
29	改修計画案 提出	提出準備(90分)	提出物の再確認(90分)
30	改修計画案 グループ別発表	発表準備(90分)	発表内容の振り返り(90分)
31	総評(全作品の講評)	提出作品の最終確認(90分)	総評の振り返り(90分)
32	総評(全作品の講評) 授業改善アンケートの実施	提出作品の最終確認(90分)	総評の振り返り(90分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	職業指導 (M) (科目ナンバリング:)				
授業担当者 (所属・職名)	川津 大樹 (経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 川津 大樹)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体(商工会)に勤務し、地域の中小企業に対して経営指導を行った経験も踏まえて、業界の特徴や企業実務に関する実例も取り上げていく。			
オフィスアワー	初回講義で説明。または研究室前の掲示等を参照。				

概要

履修目標
<p>経済環境の変化により、企業・業界のビジネス環境は大きく変化している。また、個人の就業環境や勤労観も変化しており、企業に努めつつ副業を行ったり、フリーランスとして活躍したりするチャンスも増えている。本講義では、業界・企業分析を通じて、職業を学び、「働くこと」に対する意識向上を目標とする。</p>
授業の位置づけ
<p>経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4に対応する。(2023・2022年度)</p>
到達目標
<ul style="list-style-type: none"> 様々な業界・業種の特徴を学ぶ。 企業分析の手法を習得する。 自分なりの職業観・勤労観を自覚する。

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> 様々な業界・業種の特徴を学ぶ。 企業分析の手法を習得する。 自分なりの職業観・勤労観を自覚する。

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> 様々な業界・業種の特徴を学ぶ。 企業分析の手法を習得する。 自分なりの職業観・勤労観を自覚する。

授業全体の内容と概要
<p>本講義では、「職業観・勤労観の醸成」と「業界・企業分析」という2本柱に基づいて、職業について学ぶ。講義の序盤(第5回まで)は、総論部分として、職業やキャリア教育について学習する。講義の中盤(第6回～第10回)では、業界分析、経営分析および財務諸表分析の手法について学習し、実践する。講義の終盤(第13回以降)では、これまでの総仕上げとして、業界分析と企業分析を組み合わせた総合分析について学ぶ。本授業科目は、「SDG8 経済成長と雇用」の関連授業である。</p>

授業の方法
<p>本講義は、テキストの解説のみならず、受講者自らが実践的に分析を行う機会を設ける。日経新聞の記事や上場企業の財務諸表を用いて、実社会との関わりを意識して講義を進める。授業では、リアクションペーパーを毎回配布し、その回答内容は、次回以降の授業で取り上げる。不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供することがあり得る。</p>

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○ ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	○ ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
○ ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
<p>実践的に分析する機会を設けるので、出席を重視する。出席確認は、授業で毎回配布するリアクションペーパーの提出をもって行う。また、業界・企業分析に際しては、受講者が積極的・能動的に取り組み姿勢を求める。財務分析の際には、計算が必要となるので、計算機の特参を推奨する。</p>

修学サポート(合理的配慮)
<p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
資格指定科目
<p>教職課程(商業)必修科目</p>

評価方法・基準

評価前提条件												
<p>単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。出席確認は、授業で毎回配布するリアクションペーパーの提出をもって行う。「平常点」は、リアクションペーパーの回答内容で評価する。「レポート」は2回行う予定である。具体的な提出時期は、授業内で説明する。</p>												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	70%	0%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	70%	0%	0%	30%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>様々な業界・業種の特徴を理解する。</td> <td>特定の業界と、それに関連する業界について総合的に説明できる。</td> <td>様々な業界・業種の特徴を十分に理解している。</td> <td>自分の関心ある業界・業種を理解するのみならず、関連する業界・業種についても、関心を抱いている。</td> <td>自分の関心ある業界・業種の特徴を最低限理解している。</td> <td>業界・業種の特徴を理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>企業分析(経営・財務諸表分析)の手法を習得する。</td> <td>企業分析を行い、対象企業について詳細に説明できる。</td> <td>企業分析の手法を駆使して対象企業の特徴を十分に把握できる。</td> <td>企業分析の手法を駆使して、対象企業の特徴をある程度把握できる。</td> <td>企業分析に使用される指標の意味を最低限理解している。</td> <td>企業分析に使用される指標の意味を理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>自分なりの職業観・勤労観を自覚する</td> <td>「働くこと」に対して意識が向上し、自分の将来目標に向けて、具体的に取り組み始めた。</td> <td>「働くこと」に対して意識が向上し、自分の将来についてしっかり考えるようになった。</td> <td>職業観・勤労観について自覚し、「働くこと」に対して意識し始めた。</td> <td>職業観・勤労観について最低限自覚できた。</td> <td>職業観・勤労観を自覚できなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	様々な業界・業種の特徴を理解する。	特定の業界と、それに関連する業界について総合的に説明できる。	様々な業界・業種の特徴を十分に理解している。	自分の関心ある業界・業種を理解するのみならず、関連する業界・業種についても、関心を抱いている。	自分の関心ある業界・業種の特徴を最低限理解している。	業界・業種の特徴を理解できなかった。	企業分析(経営・財務諸表分析)の手法を習得する。	企業分析を行い、対象企業について詳細に説明できる。	企業分析の手法を駆使して対象企業の特徴を十分に把握できる。	企業分析の手法を駆使して、対象企業の特徴をある程度把握できる。	企業分析に使用される指標の意味を最低限理解している。	企業分析に使用される指標の意味を理解できなかった。	自分なりの職業観・勤労観を自覚する	「働くこと」に対して意識が向上し、自分の将来目標に向けて、具体的に取り組み始めた。	「働くこと」に対して意識が向上し、自分の将来についてしっかり考えるようになった。	職業観・勤労観について自覚し、「働くこと」に対して意識し始めた。	職業観・勤労観について最低限自覚できた。	職業観・勤労観を自覚できなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
様々な業界・業種の特徴を理解する。	特定の業界と、それに関連する業界について総合的に説明できる。	様々な業界・業種の特徴を十分に理解している。	自分の関心ある業界・業種を理解するのみならず、関連する業界・業種についても、関心を抱いている。	自分の関心ある業界・業種の特徴を最低限理解している。	業界・業種の特徴を理解できなかった。																								
企業分析(経営・財務諸表分析)の手法を習得する。	企業分析を行い、対象企業について詳細に説明できる。	企業分析の手法を駆使して対象企業の特徴を十分に把握できる。	企業分析の手法を駆使して、対象企業の特徴をある程度把握できる。	企業分析に使用される指標の意味を最低限理解している。	企業分析に使用される指標の意味を理解できなかった。																								
自分なりの職業観・勤労観を自覚する	「働くこと」に対して意識が向上し、自分の将来目標に向けて、具体的に取り組み始めた。	「働くこと」に対して意識が向上し、自分の将来についてしっかり考えるようになった。	職業観・勤労観について自覚し、「働くこと」に対して意識し始めた。	職業観・勤労観について最低限自覚できた。	職業観・勤労観を自覚できなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	職業指導 (M) (科目ナンバリング:)				
授業担当者 (所属・職名)	川津 大樹 (経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 川津 大樹)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体(商工会)に勤務し、地域の中小企業に対して経営指導を行った経験も踏まえて、業界の特徴や企業実務に関する実例も取り上げていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『学部生のための企業分析テキスト・財務分析の基本(改定版)』	高橋聡・福川裕徳・三浦敬 著	創成社	2024年		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス(講義の進め方、アンケートによる受講者の意向調査)	シラバスとテキストの序文を読んでおく(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
2	働く目的	事前配布資料を予習する(90分)	配布資料の内容を復習する(90分)
3	キャリア教育・職業選択理論	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
4	業界・業種の概要	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
5	業界・業種の概要	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
6	業界分析の実践	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
7	職業興味と自己理解	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
8	経営分析の概要	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
9	財務諸表分析の概要	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
10	財務諸表分析の実践	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
11	特別講演	事前に指示した内容を調べておく(90分)	講演の内容を復習する(90分)
12	就職活動	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
13	業界・企業の総合分析	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
14	業界・企業の総合分析	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
15	まとめ講義	これまでの内容を復習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
16	課題に対する解説とフィードバック 授業改善アンケートの実施	これまでの内容を復習する(90分)	授業で取り上げた解説の内容を復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会福祉調査の基礎 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

- ・量的調査、質的調査の方法論を習得し、あわせて数学的分析方法を理解する。
- ・ソーシャルワーク技法における評価技法を理解する。
- ・統計法及び社会調査における倫理規定について理解し、ソーシャルワーカーの倫理綱領との共通点を理解する。
- ・社会調査の歴史を理解し、科学的調査技法の発展のプロセスを理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4に対応する(2022年度)

到達目標

- ・量的調査、質的調査の技法と分析方法を習得する。
- ・個人情報保護法における調査倫理を理解する。
- ・データ分析におけるIT機器と統計ソフトの活用方法を習得する。

授業全体の内容と概要

- ・社会調査とソーシャルワークの関係の紹介(調査事例を用いる)。
- ・量的調査、質的調査の技法の紹介。
- ・調査倫理と個人情報保護法について関連法規を紹介して関係性を分析。
- ・データ分析方法と統計ソフトの紹介。

授業の方法

15回の講義において教員がプリント・資料を用意して講義形式で行う。また、データ分析においては基礎解析などの数学の基本が必要になるので数学の基本的講義も行う。課題として高校数学の復習を課す。学生からの質問等に随時対応する。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

社会福祉学科全コースが履修可能である。チャット等に「欠席理由」の連絡がない場合、公欠等の連絡なく欠席した場合は無条件で欠席とみなす。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程、子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

最低出席回数10回以上をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	10%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
量的調査の方法論の理解	テーマ設定、仮説の構成と質問文への昇華、回答選択肢の選定、現地調査の方法、統計分析の手順を全て説明できた。	テーマ設定、仮説の構成と質問文への昇華、回答選択肢の選定について説明できた。	テーマ設定、質問文の作成と注意、回答選択肢の選定、現地調査の方法について説明できた。	質問文の作成と現地調査の方法について説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
質的調査の方法論の理解	参与者と観察者の位置づけ、記述方法、インタビュー方法、質的分析(KJ法、MGT A法)についてすべて説明できた。	参与者と観察者の位置づけ、記述方法、インタビュー方法と質的分析の一つを説明できた。	参与者と観察者の位置づけ、記述方法、インタビュー方法について説明できた。	面接・観察について説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
社会調査者の倫理規定についての理解	社会調査者の倫理規定と社会福祉士の倫理綱領との共通点と各々の独自性を全て言語で説明できた。	社会調査者の倫理規定と社会福祉士の倫理綱領各々の独自性について言語で説明できた。	社会調査者の倫理規定と社会福祉士の倫理綱領各々の共通点について言語で説明できた。	社会調査者の倫理規定について言語で説明できた。	社会調査者の倫理規定についての説明ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会福祉調査の基礎 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 社会調査とソーシャルワーク技法の関連(授業改善アンケート結果反映の説明)	基礎数学の復習(90分)	配布プリントの熟読(90分)
2	量的調査の概要	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
3	量的調査技法1(テーマの設定)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
4	量的調査技法2(仮説の設定)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
5	量的調査技法3(質問文の作成)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
6	量的調査技法4(サンプリング)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
7	量的調査技法5(プリテストと本調査、その注意点)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
8	量的調査技法6(データ解析法 IT機器の活用)	前回プリントの読み込み1次回数2次回数の復習(90分)	配布プリントの熟読 量的調査全体の復習(90分)
9	質的調査技法1(フィールドの設定)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
10	質的調査技法2(フィールドにおけるサンプリング)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
11	質的調査技法3(フィールドにおける記録と聞き取り)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
12	質的調査技法4(質的分析 グランデッドセオリアプローチを中心に)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
13	質的調査技法5(質的調査事例の紹介1)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読 事例の熟読(90分)
14	質的調査技法6(質的調査事例の紹介2)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読 事例の熟読(90分)
15	調査倫理と個人情報保護法との関連(授業改善アンケートの実施)	前回プリントの読み込み(90分)	講義全体の総復習(90分)
16	定期試験(60分試験終了後30分解説をする)	講義全体の総復習(90分)	自己総括(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	鋼構造 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正(建築学科・特任教授)	研究室等所在	アトリエ棟 1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 長森 正)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義をします。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

構造用鋼から圧延された鋼板および各種の形鋼を高力ボルトや溶接などの接合手段によって組み上げた構造または建築物を鉄骨構造という。鉄骨構造建築物の柱、梁、継手、柱梁接合部、柱脚などの断面設計法について演習を通して修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)
 建築学科のDP1、DP2に対応する。(2023・2022年度)
 建築学科のDP1、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

鋼材の種類と記号を学び、引張材、圧縮材など部材設計の基本事項を修得し、簡単な計算例を通してボルト接合、高力ボルト接合、溶接接合による部材接合部の設計ができる。

授業全体の内容と概要

鋼材の種類と記号を学び、設計荷重、鋼材の許容応力度、ボルト接合、高力ボルト接合、溶接接合による部材接合部の設計法を中心に講義・演習を中心に行う。また引張材、圧縮材など部材設計の基本についても講義・演習を行う。

授業の方法

授業は配布物とプロジェクターを中心に講義形式で行う。授業では課題解説・演習等をおり交ぜて行うが、基本的に予習課題を事前学修し重要箇所について確認しながら進めていく。不測時における授業や補講等でオンラインを実施します。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

積重ねの講義内容であるので、毎回出席しなければ分らなくなるので欠席に注意する。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(工業)選択科目、建築士試験受験資格課

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	30%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
鋼材の種類と記号	鉄骨構造・鋼材の特徴を簡潔に説明できた。	鋼材の特徴を簡潔に説明できた。	鋼材の特徴をほぼ簡潔に説明できた。	鋼材の特徴を説明できた。	鋼材の特徴を簡潔に説明できなかった。
引張材、圧縮材など部材設計の基本事項	引張材、圧縮材、曲げ材などの許容応力度について簡単に説明できた。	許容応力度について簡単に説明できた。	許容応力度についてほぼ簡単に説明できた。	許容応力度について説明できた。	許容応力度について簡単に説明できなかった。
設計荷重、鋼材の許容応力度、高力ボルト接合、溶接接合による部材接合部の設計	複雑な接合設計について簡単に説明できた。	接合設計について簡単に説明できた。	接合設計についてほぼ簡単に説明できた。	接合設計について説明できた。	接合設計について簡単に説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	鋼構造 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正 (建築学科・特任教授)	研究室等所在	アトリエ棟 1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 長森 正)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技術士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義をします。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『初めて学ぶ鉄骨構造基礎知識(第三版)』	橋本篤秀	市ヶ谷出版社	2016	9784870711563	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 鋼構造の概要	シラバスを確認する(90分)	授業内容の復習(90分)
2	鋼材の基礎	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業内容の復習(90分)
3	鉄骨の構造設計	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業内容の復習(90分)
4	引張材の力学(1)	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業終了時に示す課題をこなす(90分)
5	引張材の力学(2)	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業終了時に示す課題をこなす(90分)
6	圧縮材の力学(1)	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業終了時に示す課題をこなす(90分)
7	圧縮材の力学(2)	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業終了時に示す課題をこなす(90分)
8	圧縮材の力学(3)	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業終了時に示す課題をこなす(90分)
9	曲げ材の力学(1)	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業終了時に示す課題をこなす(90分)
10	曲げ材の力学(2)	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業終了時に示す課題をこなす(90分)
11	曲げ材の力学(3)	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業終了時に示す課題をこなす(90分)
12	接合部の力学(1)	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業終了時に示す課題をこなす(90分)
13	接合部の力学(2)	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業終了時に示す課題をこなす(90分)
14	接合部の力学(3)	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業終了時に示す課題をこなす(90分)
15	耐震設計概要	教科書の指定箇所の予習(90分)	授業内容の復習(90分)
16	授業改善アンケートの実施 全体のまとめ、フィードバック	全体内容の再確認及び理解(90分)	授業内容の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期		授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生涯学習概論 (科目ナンバリング:)					
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 藤根 収)		CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題(生涯学習)について指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照					

概要

履修目標

生涯学習についての考え方と具体的な活動の現状から学び、生涯学習の学習者・支援者としての理解を深めるとともに生涯学習について国際化・情報化等の視点から、今後の動向を考察する。

授業の位置づけ

経営学科・経営学科スポーツマネジメントコースのDP2、DP5に対応する。(2023・2022年度)
 社会福祉学科のDP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)
 デザイン学科のDP2、DP4に対応する。(2023・2022年度)
 建築学科のDP2、DP4に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

生涯学習の考え方や歴史などの基礎的知識を身に付け、国内外の実践をとあして、人的支援の支援の在り方や施設等の役割、生涯学習における教育の現代的課題を理解できる。

授業全体の内容と概要

毎回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換(グループ)、発表等の一連の活動を行う。また、できるだけ具体的な事例から生涯学習の理解を深め、生涯においてどう関わるか、また、支援者としての関わりを考えられるように構成する。
 「SDG4・質の高い教育をみんなに。」の関連科目。

授業の方法

授業ではパワーポイント及び配布物(レジメ)で実施し、資料にて説明した後、グループワーク等で思考・考察、意見交換・討論、発表等の一連の活動を行う。また、実践事例のVTR教材視聴後に事例に基づくレポート提出を行う。レポートにはコメントにてフィードバックする。なお、学生の質問等は、チャット形式などの支援システムなどで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。
 全学科が同一クラスで授業を行うため、無断でのスマホ使用、私語の禁止、座席の指定など、受講に当たっての注意事項を必ず厳守すること。また、グループワークなど主体的な学修態度が求められる。
 不測の事態が起きた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)の選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	10%	0%	20%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
生涯学習理論等の理解	生涯学習理論等について、学修したを知識・技能を基礎に、さらに知識等を深めようとする事ができた。	生涯学習理論等について、意欲的に学び、必要な知識・技能を理解することができた。	生涯学習理論等について必要な知識・技能を理解できた。	生涯学習理論等についての知識・技能を一定程度理解できた。	生涯学習理論等について、理解が不十分である。
生涯学習に関する情報や実践に対する思考・判断・表現	生涯学習について積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して表現することができた。	生涯学習について思考・判断し、個人やグループで表現することができた。	生涯学習について、個人やグループで思考活動等に取り組む、表現しようとする事ができた。	生涯学習について、思考活動に一定程度取り組み、表現しようとしていた。	生涯学習について、思考・判断・表現について必要な取組ができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度に課題があった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生涯学習概論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 藤根 収)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題(生涯学習)について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『よくわかる生涯学習(改訂版)』	香山正弘 ほか	ミネルブ書房	2016	978-4-623-07631-4	
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『多文化・他民族共生時代の世界の生涯学習』	岩崎正吾	学文社	2018	978-4-7620-2757-4	
2	『生涯学習概論 改訂版』	小林 繁 ほか	エイデル研究所	2020	978-4-87168-613-6	
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、生涯学習について(複習)	教科書から「生涯学習社会」についての課題を整理する(90分)	課題についてノートに整理し、シラバスで確認すること(90分)
2	生涯学習を支える思想1 - 生涯学習の学習論と社会的位相	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
3	生涯学習を支える思想2 - 自己主導的学習論と知識基盤社会における生涯学習	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
4	施設に基づいた生涯学習活動1 - 生涯学習施設と社会教育施設、生涯学習推進センターの役割等	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
5	施設に基づいた生涯学習活動2 - 公民館、図書館、博物館、体育施設等の役割	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
6	生涯学習にかかわる人的支援1 - 生涯学習支援にかかわる人々	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
7	生涯学習にかかわる人的支援2 - 生涯学習支援にかかわる専門職員等	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
8	伝統として息づく日本の生涯学習1 - 生涯学習の先駆的発想と実践	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
9	伝統として息づく日本の生涯学習2 - 地域を育てる生涯学習の実践	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
10	諸外国の生涯学習1 - イギリス、アメリカ、ドイツ等の生涯学習	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
11	諸外国の生涯学習2 - フランス、デンマーク、ブラジル等の生涯学習	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
12	生涯学習の現代的課題1 - 生きがいづくり、健康、まちづくり等の生涯学習	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
13	生涯学習の現代的課題2 - 高齢社会、少子化、高度情報化等の生涯学習	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
14	生涯学習の現代的課題3 - 環境問題、安全・安心な社会づくり等の生涯学習と学習成果の活用	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
15	生涯学習社会の形成と今後の動向 - 生涯学習のまとめ-「これまで」と「これから」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等を整理し、レポートを作成する(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説する。)	教科書等で講義内容を整理する(90分)	試験の結果を見直す(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	グラフィックデザイン (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基に実践的なグラフィックデザインを指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザインにおけるグラフィックデザインについて正しい認識を持ち、その可能性と将来の展望ができる知識と技術を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)
 デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP5に対応する。(2023・2022年度)
 デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

デザインの基本工程を理解し、各メディアのコンテンツを制作する際に必要とされる知識と技術を身につける。そして、一つのプロジェクトを俯瞰し、全体の指揮をシミュレーションすることができる。

授業全体の内容と概要

日常生活や社会生活において必要とされる様々な情報の中から一つを選び、それを公開するための全体計画を立案する。その後、自らが志向とするグラフィックデザイン系メディアコンテンツの制作を行う。
 『SDGs9・産業と技術革新の基盤をつくろう』の関連授業。

授業の方法

情報メディアをデザインすることの意義を再確認するための指導を行う。
 その後情報を公開するための全体計画を「効果的な視覚メディアを用いてプレゼンテーション」するための制作をデジタル環境で行う。
 後半においては自ら強く志向するメディアを選択し、そこに投下するためのコンテンツを制作する。
 メディアの取材や情報の選定は、フィールドワークによる現地取材、他媒体に公開される内容の調査・整理を行うことを前提とする。
 制作に必要なアプリケーション等の指導は個別に行う。
 ChatGPTやCANVAなどの生成AIを積極的に活用させる。
 質問には随時対応する。
 本講義の授業や補講等ではオンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

主として商業美術を志向する者のための演習が中心の授業である。中でも情報メディアにおけるデザインとビジネスを前提とした内容であるから、そのスタンスがアート分野とは相反することを理解し、それを前提として履修しなければならない。
 グラフィックデザイン と同様にAdobe IllustratorやPhotoshopによる課題制作を行うので、履修者は基本操作を身につけていなければならない。
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は26回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「グラフィックデザインを情報メディアとして投入、適切な情報形態を整えることができる」	グラフィックデザインに対する正しい知識と技術を持ち、適切なメディアへ、その特性を理解した上で効果的な情報を身に付けた。	グラフィックデザインに対する正しい知識と技術を持ち、適切なメディアへ情報の投下ができる能力を身につけた。	グラフィックデザインに対する正しい知識と技術を持つことはできたが、適切なメディアの選択と情報の処理が不十分である。	グラフィックデザインに対する知識と技術が不十分であり、メディアと情報の関連性を捉え切れていない。	グラフィックデザインの知識と技術が身につけなかった。
思考力・判断力・表現力 「グラフィックデザインのメディアにおいて、質の高い視覚情報の構築ができる」	適切なメディアの選択や完成度の高い表現を行う技能を身につけ、質の高い実践ができるレベルに到達した。	適切なメディアの選択や表現を行うための技能を身につけ、実践が可能なレベルに到達した。	メディアの選択や表現を行う技能は身につけているが、それを適切に応用することができていない。	適切なメディアの選択や表現を行う技能が不完全なため、メディアの選択や表現が不十分である。	メディアの選択や表現ができなかった。
主体性・多様性・協働性 「社会性・公共性に配慮しつつ、適切な情報形態を以ってのプレゼンテーションが行える」	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に取り組み、完成度の高いメディアの特性を理解した適切なプレゼンテーションを行った。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に取り組み、適切なプレゼンテーションを行った。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に取り組んだが、適切なプレゼンテーションには至っていない。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的でなく、プレゼンテーションも不完全であった。	グラフィックデザインにおける問題解決ができず、プレゼンテーションが行えなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	グラフィックデザイン (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)		CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基に実践的なグラフィックデザインを指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス-シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明「情報とは何か？」	商品企画・広報宣伝企画について研究しておく(45分)	商品企画・広報宣伝企画について研究しておく(45分)
2	「視覚化するべき情報の選択」	商品企画・広報宣伝企画について研究しておく(45分)	「情報の選択」を終えておく(45分)
3	「企画立案」情報の分析とメディア計画	選択した情報の幅広い知識を得ておくこと(45分)	選択した情報の幅広い知識を得ておくこと(45分)
4	「企画立案」コンセプトシートの作成	コンセプトシートは次週授業開始時まで完成(45分)	コンセプトシートは次週授業開始時まで完成(45分)
5	「企画立案」企画書の作成	企画書に必要な素材の収集を行っておく(45分)	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う(45分)
6	「企画立案」企画書の作成	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う(45分)	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う(45分)
7	「企画立案」企画書の作成	企画書完成に必要な準備を終えておく(45分)	企画書完成に必要な準備を終えておく(45分)
8	「企画立案」企画書の完成	企画書完成に必要な準備を終えておく(45分)	次週授業開始時まで完成提出できるよう進捗の調整を行う(45分)
9	制作工程の確認と制作にあたっての留意点について	企画内容を基にしてコピーやビジュアルの発想をしておく(45分)	企画内容を基にしてコピーやビジュアルの発想をしておく(45分)
10	視覚化が可能なメディアの選択とビジュアル計画	企画内容を基にしてコピーやビジュアルの発想をしておく(45分)	ラフ案(3案)を計画しておく(45分)
11	「コピーとビジュアルの作成」ラフ案	ラフ案作成に必要な準備を終えておく(45分)	ラフ案作成に必要な準備を終えておく(45分)
12	「コピーとビジュアルの作成」再ラフ案	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う(45分)	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う(45分)
13	「コピーとビジュアルの作成」再々ラフ案	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする(45分)	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする(45分)
14	「コピーとビジュアルの作成」最終ラフ作成	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする(45分)	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする(45分)
15	「コピーとビジュアルの作成」最終ラフ作成	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする(45分)	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする(45分)
16	「コピーとビジュアルの作成」最終ラフ作成-提出	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする(45分)	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	「コピーとビジュアルの作成」プレゼンテーションと講評	プレゼンテーションの準備(45分)	他者の作例を研究する(45分)
18	「コピーとビジュアルの作成」プレゼンテーションと講評-今後の展開	他者の作例を研究する(45分)	他者の作例を研究する(45分)
19	メディア化にあたっての留意点について	制作すべきメディアを決めておく(45分)	制作すべきメディアを決めておく(45分)
20	コピーとビジュアルの用法の試案	デザイン計画(45分)	デザイン計画(45分)
21	「メディアコンテンツの制作」ラフ案	ラフ案作成に必要な準備を終えておく(45分)	ラフ案の制作(45分)
22	「メディアコンテンツの制作」修正作業	ラフ案の制作(45分)	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う(45分)
23	「メディアコンテンツの制作」再ラフ案	ラフ案に沿って、コピーとビジュアルの修正作業を行っておく(45分)	ラフ案に沿って、コピーとビジュアルの修正作業を行っておく(45分)
24	「メディアコンテンツの制作」修正作業	ラフ案に沿って、コピーとビジュアルの修正作業を行っておく(45分)	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う(45分)
25	「メディアコンテンツの制作」再々ラフ案	ラフ案に沿って、コピーとビジュアルの修正作業を行っておく(45分)	ラフ案に沿って、コピーとビジュアルの修正作業を行っておく(45分)
26	「メディアコンテンツの制作」制作	ラフ案に沿って、コピーとビジュアルの修正作業を行っておく(45分)	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う(45分)
27	「メディアコンテンツの制作」制作	完成に向けての作業効率を上げるための準備をしておく(45分)	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う(45分)
28	「メディアコンテンツの制作」制作	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う(45分)	期間内に完成提出できるよう進捗調整を行う(45分)
29	「メディアコンテンツの制作」制作	完成に向けての作業効率を上げるための準備をしておく(45分)	完成に向けての作業効率を上げるための準備をしておく(45分)
30	「メディアコンテンツの制作」完成	完成に向けての作業効率を上げるための準備をしておく(45分)	次週授業開始時まで完成提出できるよう進捗の調整を行う(45分)
31	メディアコンテンツの発表	自分以外の者の制作物についても事前に知識を得ておく(45分)	自分以外の者の制作物についても事前に知識を得ておく(45分)
32	講評授業改善アンケートの実施	グラフィックデザインについて正しい認識を持たせる(45分)	グラフィックデザインについて正しい認識を持たせる(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築生産 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築生産に必要な内外装工事や施工管理およびそれに至る工事契約や積算について理解を深め、また、建築士試験の施工および建築施工管理技士試験に対応した学力の修得する。

授業の位置づけ

建築学科のD P 2に対応する。(2024年度)
 建築学科のD P 2に対応する。(2023・2022年度)
 建築学科のD P 2に対応する。(2021年度)

到達目標

建築施工に重要な各工事に着目し生産技術を学ぶことで、設計や施工の実務に向けた知識と建築士ならびに建築施工管理技士を見据えた学力を修得できる。

授業全体の内容と概要

配布資料を中心に授業を行い、建築技術者に必要な知識の修得を行う。また、建築士試験にも対応した授業を実施する。

授業の方法

配布資料を基本に板書中心の授業を行うが、その分野ごとに建築士試験の過去問題も提供し、その解説を行うことで、建築士試験を意識させた授業を実施していく。不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○ その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

配布資料を必ず持参すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
100%	0%	0%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
共生社会の実現ならびに貢献できる人材として、建築の基礎力を養うことができる。	建築が社会で果たす役割を理解し、基礎力を修得できた。	建築が社会で果たす役割を理解し、ある程度の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、最低限の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解していた。	建築が社会で果たす役割を理解していなかった。
建築技術者としての問題意識を持ち、その問題解決の意識を持つことができる。	建築についての問題意識を持ち、問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、ある程度の問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、どのような問題が存在しているかを理解していた。	建築についての問題意識を持ち、問題解決の必要性を理解していた。	建築についての問題意識を持たなかった。
「建築生産」の基礎知識を習得することができる。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組むことができた。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組む必要性を理解できた。	基礎知識を修得することができた。	基礎知識をおおむね修得することができた。	基礎知識を修得することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築生産 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『建築施工テキスト』		建築資料研究社	2020		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明 授業改善アンケート結果に関する説明(小笠原)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
2	工事契約と品質保証	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
3	工事監理	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
4	施工業務	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
5	内外装の仕上げ工事: 防水と屋根工事	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
6	内外装の仕上げ工事: 左官工事	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
7	内外装の仕上げ工事: タイル工事・石工事	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
8	内外装の仕上げ工事: 塗装工事	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
9	内外装の仕上げ工事: ガラス工事・建具工事	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
10	内外装の仕上げ工事: 内装工事・断熱工事	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
11	建築物の維持管理(改修工事)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
12	建築物の維持管理(設備工事)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
13	積算	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
14	建築廃棄物の有効利用法(リサイクル法)ほか	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
15	まとめ	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う) 授業改善アンケートの実施	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える(90分)	定期試験内容を整理して、復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域福祉と包括的支援 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上原 正希)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえて講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。 2. 地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。 3. 地域福祉を推進するための、福祉行政の実施体制と果たす役割について理解する。 4. 地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。 5. 包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解する。 6. 地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。 <p>地域福祉と包括的支援体制 で学修した内容をもとに、 では地域における具体的な実践について理解する。</p>

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する(2022年)。

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解することができる。 2. 地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解することができる。 3. 地域福祉を推進するための、福祉行政の実施体制と果たす役割について理解することができる。 4. 地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解することができる。 5. 包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解することができる。 6. 地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解することができる。 <p>地域福祉と包括的支援体制 で学修した内容をもとに、 では地域における具体的な実践について理解することができる。</p>

授業全体の内容と概要
<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について学ぶ。 2. 地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を学ぶ。 3. 地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を学ぶ。 4. 包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について学ぶ。 5. 地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を学ぶ。 6. テキストを中心に関連文献を適宜紹介し、参考文献として、その他文献資料も活用して学ぶ。 7. 授業内容は、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験と関連付けて学ぶ。 8. 地域福祉と包括的支援体制 で学修した内容をもとに、 では地域における具体的な実践について学ぶ。

授業の方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業形態は講義形式だが、適宜、グループワークやディスカッションを含む。 2. テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。 3. 適宜、質疑応答を交える。 4. 自然災害などの状況により、オンライン授業やオンデマンドなどに変更になる場合もある。しかし保育士養成課程学生については対面での実施となるため補講等を実施する。 5. ソーシャルワーカーのお話を聞く授業等もある場合もある。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業形態は講義形式だが、適宜、グループワークやディスカッションを含む。 2. テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。 3. 適宜、質疑応答を交える。 4. 自然災害などの状況により、オンライン授業やオンデマンドなどに変更になる場合もある。しかし保育士養成課程学生については対面での実施となるため補講等を実施する。 5. ソーシャルワーカーのお話を聞く授業等もある。 6. 大学のペーパーレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、保育士課程科目(選択)

評価方法・基準												
評価前提条件												
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書は必ず持参すること。 2. 必要な資料等は適宜配布する。 3. とは同じ教科書を使用する。 4. 自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。 5. ソーシャルワーカーのお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる 												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	70%	0%	0%	0%	0%	30%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
70%	0%	0%	0%	0%	30%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【知識】ソーシャルサポートネットワークについて理解する。</td> <td>ソーシャルサポートネットワークについて非常に理解できた</td> <td>ソーシャルサポートネットワークについておおむね理解できた</td> <td>ソーシャルサポートネットワークについて理解できた</td> <td>ソーシャルサポートネットワークについて一部理解できなかった</td> <td>ソーシャルサポートネットワークについて理解できなかった</td> </tr> <tr> <td>【知識】地域における社会資源について理解する。</td> <td>地域における社会資源について非常に理解できた</td> <td>地域における社会資源についておおむね理解できた</td> <td>地域における社会資源について理解できた</td> <td>地域における社会資源について一部理解できなかった</td> <td>地域における社会資源について理解できなかった</td> </tr> <tr> <td>【知識】災害時における地域福祉問題や対策について理解する。</td> <td>災害時における地域福祉問題や対策について非常に理解できた</td> <td>災害時における地域福祉問題や対策についておおむね理解できた</td> <td>災害時における地域福祉問題や対策について理解できた</td> <td>災害時における地域福祉問題や対策について一部理解できなかった</td> <td>災害時における地域福祉問題や対策について理解できなかった</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	【知識】ソーシャルサポートネットワークについて理解する。	ソーシャルサポートネットワークについて非常に理解できた	ソーシャルサポートネットワークについておおむね理解できた	ソーシャルサポートネットワークについて理解できた	ソーシャルサポートネットワークについて一部理解できなかった	ソーシャルサポートネットワークについて理解できなかった	【知識】地域における社会資源について理解する。	地域における社会資源について非常に理解できた	地域における社会資源についておおむね理解できた	地域における社会資源について理解できた	地域における社会資源について一部理解できなかった	地域における社会資源について理解できなかった	【知識】災害時における地域福祉問題や対策について理解する。	災害時における地域福祉問題や対策について非常に理解できた	災害時における地域福祉問題や対策についておおむね理解できた	災害時における地域福祉問題や対策について理解できた	災害時における地域福祉問題や対策について一部理解できなかった	災害時における地域福祉問題や対策について理解できなかった
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
【知識】ソーシャルサポートネットワークについて理解する。	ソーシャルサポートネットワークについて非常に理解できた	ソーシャルサポートネットワークについておおむね理解できた	ソーシャルサポートネットワークについて理解できた	ソーシャルサポートネットワークについて一部理解できなかった	ソーシャルサポートネットワークについて理解できなかった																								
【知識】地域における社会資源について理解する。	地域における社会資源について非常に理解できた	地域における社会資源についておおむね理解できた	地域における社会資源について理解できた	地域における社会資源について一部理解できなかった	地域における社会資源について理解できなかった																								
【知識】災害時における地域福祉問題や対策について理解する。	災害時における地域福祉問題や対策について非常に理解できた	災害時における地域福祉問題や対策についておおむね理解できた	災害時における地域福祉問題や対策について理解できた	災害時における地域福祉問題や対策について一部理解できなかった	災害時における地域福祉問題や対策について理解できなかった																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域福祉と包括的支援 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上原 正希)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえて講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『地域福祉と包括的支援体制』	福祉臨床シリーズ編集委員会	弘文堂	2022年	9784336612152	価格 \2,750(本体 \2,500)
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『別途指示します。』 ^a					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション・シラバスの説明・ガイダンス(授業改善アンケート結果反映及びシラ)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
2	ソーシャルサポートネットワークについて	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
3	ソーシャルサポートネットワークについて・事例	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
4	地域における社会資源の活用・調整・開発について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
5	地域における社会資源の活用・調整・開発について・事例	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
6	地域における福祉ニーズの把握方法と実際について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
7	地域における福祉ニーズの把握方法と実際について・事例	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
8	地域トータルケアシステムの構築と実際について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
9	地域トータルケアシステムの構築と実際について・展開方法	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
10	地域トータルケアシステムの構築と実際について・事例	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
11	地域における福祉サービスの評価方法について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
12	災害支援と地域福祉について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
13	災害支援と地域福祉について・事例	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
14	地域福祉と海外について・イギリス	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
15	地域福祉と海外について・アメリカ 授業改善アンケートの実施	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
16	【定期試験】60分の試験終了後、残りの30分で解説	テスト勉強をしておくこと(90分)	テストの振り返りを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築設計演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	向井 正伸(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所にて教育、交通、宿泊、居住、文化施設といった様々な用途・規模の施設設計経験を踏まえ、学生との対話を重視した建築設計教育を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

公共建築の設計・プレゼンテーションを通じて、高い社会性と機能を持った建築の設計手法を学ぶ。そのため、建築学科で学んだ知識や人生経験もフル活用しながら、地域の環境や歴史のリサーチ等を通して住民の未来へ意識を向け、未来をつくる建築の設計をおこなう。この授業では特に、「思想をもってデザインする」、そして「考えたことを説得力を持たせて他者に伝える」ことに重きを置く。卒業設計の準備として、社会や地域への問題意識をもって取り組むこと。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)
 建築学科のDP2、DP3に対応する。(2023・2022年度)
 建築学科のDP1、DP2、DP3、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

中・大規模の建築の計画と条件を満たし、設計者の考え方や主旨を盛り込んだ建築の設計ができる。また、その考え方や主旨をわかりやすく表現するプレゼンテーションができる。

授業全体の内容と概要

公共建築を成立させるためには、思い付きのアイデアをカタチにするだけでは不十分である。そのため、本授業では対話を中心としたエスキスを実施する。エスキスを通して、学生自身がより多くのPDCAサイクル(Plan、Do(or Design)、Check、Action)を回す過程でアイデアを明確にし、より良い建築となるよう指導する。作品提出後は発表会を行い、他の作品から多様な考えと自分の作品を比較し、学ぶ機会を設ける。
 「SDGs 1 2 つくる責任、つかう責任」
 「SDGs 1 1 住み続けられるまちづくりを」

授業の方法

授業では、板書やICTを活用しながら構造の考え方を説明し、双方向授業で実施する。また、授業中毎回、進行状況と中間指導を行い添削する。プレゼンテーションに対しては授業内で講評フィードバックする。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	P B L
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業には必ず出席し、途中成果の提示と中間指導を受け、PDCAサイクル(Plan、Do(or Design)、Check、Action)を自主的に行うこと。授業ではエスキスを中心に展開するため、授業時間外、自宅での制作が不可欠である。製図道具やケント紙、トレーシングペーパー、模型材料などは、各自が用意すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上。提出課題と受講態度で総合判定を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
計画の強さ : 自分なりの思想をもち、説得力のある計画をし、説明する計画をしたか。	自分なりの思想をもち、説得力のある計画をし、説明できた。	自分なりの思想をもち、説得力のある計画ができた。	自分なりの思想をもち、説明ができた。	思想をもって計画ができた。	思想をもち計画ができなかった。
計画の正確性 : 与条件や建築基準法に則った計画ができ、正確に作図ができていたか。	条件に適した施設として計画し、各種図面が正しく作図することができた。	条件に合った施設として計画し、各種図面が正しく作図することができた。	条件を踏まえた施設として計画し、各種図面を作図することができた。	各種図面を作図することができた。	各種図面を作図することができなかった。
表現力 : 考えや設計内容をダイアグラムやパース、模型など用いて的確に表現できたか。人に伝わるプレゼンテーションができたか。	考えをダイアグラムやパース、模型など用いて的確に表現ができ、他者を共感させることができた。	考えをダイアグラムやパース、模型など用いて的確に表現ができた。	考えをダイアグラムやパース、模型など用いて表現ができた。	ダイアグラムやパース、模型など用いて表現ができた。	ダイアグラムやパース、模型など用いて表現ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築設計演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	向井 正伸(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所にて教育、交通、宿泊、居住、文化施設といった様々な用途・規模の施設設計経験を踏まえ、学生との対話を重視した建築設計教育を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『第4版 コンパクト建築設計資料集』	日本建築学会	丸善株式会社	2024	978-4621307427	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと (90分)	プリントを読んで理解しておくこと(90分)
2	課題1 まちをリサーチし、大きなテーマで小さな建築をつくる 課題説明	プリントを読んで理解しておくこと (90分)	課題のプリントを読み、デザイン検討する(90分)
3	課題1 エスキスチェック	デザインしたものを表現する(90分)	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
4	課題1 エスキスチェック	デザインを改善し、表現する(90分)	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
5	課題1 発表・質疑応答・課題2 発表	デザインを改善し、表現する(90分)	講評会の内容をまとめる(90分)
6	課題2 課題説明	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	現地見学のポイントをピックアップする(90分)
7	課題2 中間指導 (エスキスチェック:コ ンセプト)	取り組みスケジュールを作成する(90分)	散地調査結果をまとめデザインアイデアを作成する (90分)
8	課題2 中間指導 (エスキスチェック:コン セプトと全体計画)	アイデアをカタチにし、表現する (90分)	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
9	課題2 中間指導 (エスキスチェック:コン セプトと全体計画)	デザインを改善し、表現する(90分)	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
10	課題2 中間指導 (エスキスチェック:ラン ドスケープと平面計画)	デザインを改善し、表現する(90分)	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
11	課題2 中間指導 (エスキスチェック:平面 計画と断面構成)	デザインを改善し、表現する(90分)	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
12	課題2 中間指導 (エスキスチェック:平面 計画と断面構成)	デザインを改善し、表現する(90分)	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
13	課題2 中間指導 (エスキスチェック:作図 ダイアグラム プレゼンテーション)	デザインを改善し、表現する(90分)	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
14	課題2 中間指導 (エスキスチェック:作図 ダイアグラム プレゼンテーション)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
15	課題提出・講評会	プレゼンテーションにまとめる(90分)	改善点をまとめる(90分)
16	合同発表会	プレゼンテーションにまとめる(90分)	ポートフォリオに使用できるようにプレゼンを行う (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツと栄養 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 湯浅 頼佳)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

この科目では「スポーツと栄養」についての理解と実践方法を学ぶ。また、スポーツ選手の栄養・食事管理・コンディショニング維持に必要な知識を修得する。

授業の位置づけ

経営学科のDP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

基本的な栄養学について理解をするとともに日常の食材や食品から栄養のバランスや摂取量を判断できる能力も養い、コンディショニングの維持が実際にできるようになる。

授業全体の内容と概要

スポーツ種目別の栄養・食事内容の特徴、身体組成の測定方法、また、トレーニング期、調整期、試合前後それぞれのステージにおける食事の特徴や、アスリートと一般人における食事の相違点などについて解説する。
SDG4:「質の高い教育をみんなに」の関連授業。

授業の方法

板書を中心に、実際のスポーツチームの栄養管理方法等のDVDなども取り入れながら講義形式で実施する。実際に食事調査に関しても実際にグループワークで行い、そこから見えてくる問題に対して取り上げ解説する。小テストは5回実施し、回収後フィードバックとして回答解説を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・単位認定に必要な出席回数は全体授業数の3分の2回以上とする。また遅刻3回で欠席1回とみなす。
日本体育協会講習会科目#12、#36使用。「公認スポーツ指導者養成テキスト」のワークブックから問題を出す。詳細については授業中に指示する。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツ指導者(スポーツリーダー)資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は全体授業数の3分の2以上とする。定期試験、出席、レポート提出を上表の基準で評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	0%	5%	5%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解(理解力)	スポーツと栄養の関わりについて基礎的な知識を深く理解できた。	スポーツと栄養の関わりについて基礎的な知識を概ね理解できた。	スポーツと栄養の関わりについて基礎的な知識を理解できた。	スポーツと栄養の関わりについて基礎的な知識を多少理解できた。	スポーツと栄養の関わりについて基礎的な知識を理解できなかった。
汎用的機能(思考力)	スポーツリーダーを目指すものとしてスポーツと栄養の関係性について深く考察できた。	スポーツリーダーを目指すものとしてスポーツと栄養の関係性について概ね考察できた。	スポーツリーダーを目指すものとしてスポーツと栄養の関係性について考察できた。	スポーツリーダーを目指すものとしてスポーツと栄養の関係性について多少考察できた。	スポーツリーダーを目指すものとしてスポーツと栄養の関係性について考察できなかった。
態度・志向性(意欲)	授業に意欲的に参加する事ができた。	授業に概ね意欲的に参加する事ができた。	授業に休ほぼ意欲的に参加する事ができた。	授業に意欲的に参加する事が少なかった。	授業に意欲的に参加する事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツと栄養 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 湯浅 頼佳)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『養成講習会用テキストReference Book』	JSPQ	公益財団法人日本スポーツ協会			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明シラバスの説明及びスポーツと栄養(5大栄養素・栄養のバランス)(#12)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
2	炭水化物・穀物・主食	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
3	たんぱく質・筋肉づくり・主食	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
4	脂質の栄養学的意義	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
5	食物繊維・野菜	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
6	スポーツと栄養(食事の摂り方・水分補給)(#12)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
7	コンディショニング維持とビタミン	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
8	コンディショニング維持とミネラル	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
9	アスリートの栄養摂取と食生活 (#36)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
10	アスリートの栄養摂取と食生活 (#36)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
11	アスリートの栄養摂取と食生活 (#36)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
12	アスリートの栄養摂取と食生活 (#36)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
13	外食と栄養のバランス	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
14	減量と食事	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
15	まとめ	今までの小テストについて確認をしておく事(90分)	整理したノートから試験範囲をまとめる事(90分)
16	授業改善アンケートの実施 定期試験実施日 6.0分の試験終了後、残りの3.0分で解説を行う。	試験準備(90分)	試験のふりかえり(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	プロダクトデザイン (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	X		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板を参照				

概要

履修目標

モノ、コト、商品をデザインする、プロダクトデザイナーになる為に必要な知識、技術、人間力を習得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)
 デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2023・2022年度)
 デザイン学科のDP1、DP2、DP3に対応する。(2021年度)

到達目標

プロダクトデザイナーとしてモノの見方、考え方、問題解決の為のアイデア展開、造形力、表現技術、プレゼンテーション技術、デザイナーとしての人間力を習得する。

授業全体の内容と概要

デザインするテーマをマーケットリサーチし、現状を把握、問題点抽出、アイデア展開、造形、ポスター等、表現方法を考察、プレゼンテーションして第三者の意見を考察し、自分の力量を認識する。

授業の方法

課題に沿ってマーケットリサーチをグループでしてモノの潜在価値を把握する。問題点を抽出しアイデアを発想し、デザインして第三者にプレゼンテーションする。ディスカッションをして自分の考察し、デザインの深さを認識する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようすること。
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は20回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
モノの本質を捉え、新しい価値を創り出せる。	モノの本質を完璧に捉え、今まで以上の価値を完璧に創造出来た。	モノの本質を上手に捉え、今まで以上の価値を高められた。	モノの本質を捉え、今まで以上の価値を出せた。	モノの本質を幸うして捉え、今まで以上の価値を幸うして出せた。	モノの本質を捉えられない、今まで以上の価値を出せなかった。
問題解決のアイデアを出せる。	問題解決のアイデアを完璧に出せる。従来の価値以上のものを創造出来た。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを幸うして具現化出来て、造形力やアプローチも幸うして出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。
新デザイン提案出来る	自分のアイデアを完璧に具現化出来て、造形力やアプローチも完璧であった。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを幸うして具現化出来て、造形力やアプローチも幸うして出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	プロダクトデザイン (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	X		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 プロダクトデザインとは デザインテーマ表	プロダクトデザインとは?調べておく、シラバスを読む。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
2	マーケットリサーチ 潜在意識探求、問題点抽出	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
3	グループに分かれてブレインストーミング	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
4	マーケットチャート作成	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
5	まとめ グループごとに見解を発表	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
6	問題定義から解決アイデアを展開 アイデアスケッチスタート	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
7	アイデアスケッチ	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
8	アイデアスケッチまとめ1	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
9	アイデアスケッチ1プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
10	アイデアスケッチ2	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
11	アイデアスケッチ2まとめ	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
12	アイデアスケッチ2プレゼンテーション デザイン審議会	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
13	デザイン方向決定 デザイン作業	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
14	デザイン作業 造形面の確認	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
15	デザイン作業 人に優しいか	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
16	デザイン作業 第三者に伝わるか	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	デザイン審査 第三者の意見を汲む	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
18	デザイン再考 コンセプトは大丈夫か	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
19	デザイン修正	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
20	デザイン修正 ディテールアップ	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
21	レンダリング	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
22	レンダリング 全体の構図チェック	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
23	レンダリング サブモックを作成	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
24	レンダリング モックの作成方法を検討	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
25	レンダリング モックの確認	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
26	レンダリング サブモックを作成仕上げ向かう	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
27	レンダリング サブモックを完成させる	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
28	ポスター作成 プレゼンボード作成	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
29	ポスター作成 プレゼンボード作成 第三者に伝わるか	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
30	ポスター作成 プレゼンボード作成 最終チェック	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
31	プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
32	総評 授業改善アンケートの実施	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	授業全体を俯瞰して、今後の計画を考察する。(45分)

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科（経営スポーツコース）・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修（教
科目名称	保健体育科教育法（科目ナンバリング：）				
授業担当者（所属・職名）	森 靖明（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：森 靖明）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教諭及び教育委員会指導主事の経験を生かして、授業実践の在り方及び指導内容や指導方法の工夫・改善の実践について指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標
中学校及び高等学校教育の目的・目標を明確にするとともに、保健体育科教育としての独自の役割を理解し、学習指導の基本・実務の事項を修得する。また、保健体育科の授業を行ったための必要な知識と指導技術について修得する。
授業の位置づけ
経営学科のDP 1、DP 2、DP 4、DP 5 に対応する。（2023・2022年度）
到達目標
中学校及び高等学校の保健体育科の授業の特質を理解するとともに、教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について説明できるとともに、これらを踏まえて模擬授業を実践することができる。

到達目標
中学校及び高等学校の保健体育科の授業の特質を理解するとともに、教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について説明できるとともに、これらを踏まえて模擬授業を実践することができる。

到達目標
中学校及び高等学校の保健体育科の授業の特質を理解するとともに、教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について説明できるとともに、これらを踏まえて模擬授業を実践することができる。

到達目標
中学校及び高等学校の保健体育科の授業の特質を理解するとともに、教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について説明できるとともに、これらを踏まえて模擬授業を実践することができる。

到達目標
中学校及び高等学校の保健体育科の授業の特質を理解するとともに、教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について説明できるとともに、これらを踏まえて模擬授業を実践することができる。

到達目標
中学校及び高等学校の保健体育科の授業の特質を理解するとともに、教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について説明できるとともに、これらを踏まえて模擬授業を実践することができる。

到達目標
中学校及び高等学校の保健体育科の授業の特質を理解するとともに、教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について説明できるとともに、これらを踏まえて模擬授業を実践することができる。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
復習を中心に毎回の授業内容を自分で保健体育の授業づくりに応用できるようにする。授業時間と同様の復習および次回の授業に向けた予習時間を確保するようにする。授業づくりに係る学習指導案作成、教材作成と模擬授業を実践できる。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%（指導案）	50%（模擬授業）	0%	0%	0%

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
中学校及び高等学校保健体育科教育の目的・目標と評価との関わりについて理解する。	保健体育科の目的、目標と評価との関わりについて、学習指導要領解説、教科書を基に明確に整理することができていた。	保健体育科の目的、目標と評価との関わりについて、学習指導要領解説、教科書を参照しながら必要な情報を整理することができていた。	保健体育科の目標と評価の観点について、学習指導要領解説、教科書を参考にしながら説明できていた。	保健体育科の目標と評価の観点について列挙できていた。	保健体育科の目標と評価の観点について想起することができていなかった。
中学校及び高等学校保健体育科教育に関する学習指導の基本的・実務的事項について理解する。	学習指導案の様式と記載内容について、授業づくりに必要な情報と関連づけながら根拠を持って説明し、学習指導案の様式にあてはめることができていた。	学習指導案の様式と記載内容について、授業づくりに必要な情報を列挙しながら学習指導案の様式にあてはめることができていた。	学習指導案の様式と記載内容について、学習指導要領解説から学年ごとに抜き出して整理することができていた。	学習指導案の様式と記載内容について列挙することができていた。	学習指導案の様式と記載内容について想起することができていなかった。
保健体育科の授業を行うための必要な知識と指導技術を用いて授業実践できる。	学習指導要領解説及び教科書、そのほかの授業づくりに係る資料を参考にして作成した学習指導案や教材を作成して模擬授業を実践できるとともに、他者の授業に対して批判的視点で評価することができていた。	学習指導要領解説及び教科書、そのほかの授業づくりに係る資料を参考にして作成した学習指導案を基に模擬授業を実践できるとともに、他者の授業および教材と比較し、違いについて理解できていた。	学習指導要領解説及び教科書、そのほかの授業づくりに係る資料を参考にして作成した学習指導案および教材を使用して模擬授業を実践できていた。	学習指導要領解説及び教科書、そのほかの授業づくりに係る資料を参考にして作成した学習指導案を基に模擬授業を実践できていた。	学習指導要領解説及び教科書、そのほかの授業づくりに係る資料を参考にして作成した学習指導案を基に模擬授業を実践できていなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科（経営スポーツコース）・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修（教
科目名称	保健体育科教育法（科目ナンバリング： ）				
授業担当者（所属・職名）	森 靖明（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室	
単位数	2（単位認定責任者： 森 靖明 ）		CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教諭及び教育委員会指導主事の経験を生かして、授業実践の在り方及び指導内容や指導方法の工夫・改善の実際について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領解説・保健体育編 - 』	文部科学省	東山書房	平成30年	9784827815603	
2	『高等学校学習指導要領解説・保健体育編 - 』	文部科学省	東山書房	平成31年	9787-4-8278-15689-9	
3	『新しい保健体育』	戸田 芳雄他	東京書籍	2021	978-4487123711	
4	『現代高等保健体育』	衛藤 隆他	大修館	2022	978-4469663198	
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 ガイダンス、保健科教育の意義と目的	シラバスを熟読し、本講義について理解しておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
2	保健科教育の変遷	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
3	「保健」の担当教師に求められる能力	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
4	保健科教育の内的・外的条件	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
5	保健科教育の目標	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
6	「保健」の学習内容	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
7	保健学習を効果的にすすめるための教材作成	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
8	保健学習の評価	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
9	学習指導案の作成 学習指導の様式と指導計画	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
10	学習指導案の作成	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
11	学習指導案の作成	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
12	学習指導案の作成	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
13	模擬授業 - 中学校および高等学校(保健) -	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
14	模擬授業 - 中学校および高等学校(保健) -	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
15	模擬授業 - 中学校および高等学校(保健) -	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
16	模擬授業 - 中学校および高等学校(保健) -、 講義のフィードバック 授業改善アンケートの実施	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと。（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	住宅設計演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	君 興治(建築学科・特任准教授) 向井 正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館4階	
単位数	1 (単位認定責任者: 君 興治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイデアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整し研究室もしくはオンラインで対応。				

概要

履修目標

課題として、住宅建築の計画・設計・作図を行う。土地、地域、利用者、建物の規模、をもとに、利用の目的やそれに合わせた動線計画を行う。本科目では、課題に合わせた平面計画をし、それを正しく作図し、プレゼンテーションする手法を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)
 建築学科のDP3、DP4に対応する。(2023・2022年度)
 建築学科のDP2、DP3に対応する。(2021年度)

到達目標

住宅建築の主要条件、付帯条件を満たし、建築関係法規に則った計画に、設計者の考え方設計主旨を盛り込み、その内容をわかりやすく表現する建築計画とプレゼンテーションができる。

授業全体の内容と概要

木造・RC壁式構造で低層集合住宅の計画とコンセプトを段階的に指導することで、設計者の意図をダイアグラム、パースもしくは模型を使い、伝わるような表現方法を修得する。提出後は、作品の発表会を行い、他の作品から多様な考えと自分の作品を比較し、学ぶ機会を設ける。
 「SDGs 1 2 つくる責任 つかう責任」
 「SDGs 1 1 住み続けられるまちづくりを」
 狭い視野での設計だけでなく町や地域を念頭にいた設計を指導する。

授業の方法

授業では、板書やICT(チームスを使用しながら、図面をオンライン上その場で液晶ペンタブレットで添削し、毎事業ごとに保存することで、授業の課題経過をデジタル的にの残し、振り返りの自習を実現する。)をしながら詳細図をもとに構造的な考え方を説明し、双方向授業で実施する。また、授業中毎回、進捗状況と中間指導を行い添削する。プレゼンテーションに対しては授業内で講評しフィードバックする。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

課題を構築するために、授業には必ず出席し、成果の提示と中間指導を受けなければならない。また、課題の説明等主要な説明は授業の最初に行われるため遅刻は厳禁とする。時間割上の授業時間内だけで図面を完成させることはむずかしいと思われるので、時間外、および自宅での製図が不可欠である。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上。提出課題と受講態度との総合判定

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に達しているレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
住宅建築において、主要条件、付帯条件に則った計画ができていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
建築関係法規に則った計画ができていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
設計主旨に合った建築計画が出来ていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
初めてこの作品を見た人が理解しやすいプレゼンテーションで表現されていたか。	各種図面が適したデザインであり、正しく表現することができていた。	各種図面のデザインができ、正しく表現することができていた。	各種図面を正しく表現することができていた。	各種図面を表現することができていた。	各種図面を表現することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	住宅設計演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	君 興治(建築学科・特任准教授) 向井 正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館4階	
単位数	1 (単位認定責任者: 君 興治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイデアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『コンパクト建築設計資料集 第3版』 日本建築学会編	日 村田誠四郎	丸善株式会社	2005	9784621075098	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと (90分)	プリントを読んで理解しておくこと(90分)
2	即日課題1 低層集合住宅計画 木構造	即日課題用低層集合住宅について考えをまとめる (90分)	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
3	即日課題2 低層集合住宅計画 木構造	即日課題用低層集合住宅について考えをまとめる (90分)	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
4	即日課題3 低層集合住宅計画 RC壁式構造	即日課題用低層集合住宅について考えをまとめる (90分)	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
5	即日課題4 低層集合住宅計画 RC壁式構造	即日課題用低層集合住宅について考えをまとめる (90分)	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
6	設計課題 低層集合住宅計画 木構造・RC壁式構造 (課題説明、集合住宅の解説)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
7	設計課題 低層集合住宅計画 木構造・RC壁式構造 (課題説明、集合住宅の解説)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
8	中間指導 コンセプトと全体計画 (エスキスチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
9	中間指導 全体計画とランドスケープ (エスキスチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
10	中間指導 ランドスケープと平面計画 (エスキスチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
11	中間指導 平面計画と断面構成 (エスキスチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
12	中間指導 平面計画と断面構成 (ダイアグラムについて)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
13	中間指導 模型とプレゼンテーション (模型の造り方 レイアウトチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
14	中間指導 プレゼンテーション (レイアウトチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
15	課題提出・講評会	提出課題の準備をしておくこと(90分)	他の学生の発表内容をまとめる(90分)
16	最終指導 プレゼンテーションの指導 解説し、フィードバック 授業改善アンケートの実施	講評会の内容からさらにどのようにプレゼンするか 考えておくこと(90分)	作品の調整、ポートフォリオに使用できるように プレゼンを行う(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『矩計図で徹底的に学ぶ住宅設計「RC編」』	中山 繁信	オーム社	2016	9784274218828	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期	授業形態	必修・選択
科目名称	地域政策論 (科目ナンバリング:)		
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在	
単位数	2 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		
オフィスアワー			

概要

履修目標

授業の位置づけ

到達目標

授業全体の内容と概要

授業の方法

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL		
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業		
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)		

履修上の注意事項

修学サポート(合理的配慮)

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期	授業形態	必修・選択
科目名称	地域政策論 (科目ナンバリング:)		
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在	
単位数	2 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義・演習	必修・選択	選択
科目名称	保健体育科教育法 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	高井 雅一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 高井 雅一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして保健体育科教育法に関する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する。				

概要

履修目標

保健体育科の意義や内容をはじめ、各領域の内容・計画方法・評価等を学科目であり、授業設計を身につけ、保健体育教師としての基本的な学習指導理論を理解できるようにする。

授業の位置づけ

経営学科のDP2、DP4に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

保健体育科の目標・内容をはじめ、体育の各領域の特性に応じた指導計画の作成や評価の在り方並びに基礎的な学習指導理論等を理解し、子どもの実態を視野に入れた効果的な授業を設計する。

授業全体の内容と概要

・中学校及び高等学校教育の目的・目標を明確にするとともに、保健体育科教育としての独自の役割をわかりやすく理解させる。
 ・保健体育科の授業を行うための必要な知識と指導技術について、意見交換で自分の意見を述べることができ、グループ学習の中で、多様な指導方法を身につけるとともに、多様な評価方法の在り方を理解する。
 授業全体を通して、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。(SDG)質の高い教育活動を進めていくための指導計画案の作成。

授業の方法

・各回のテーマに関してプリント等を使用して説明を行う。
 ・各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換、発表等一連の活動を行う。
 ・テーターを共有しながら、パソコンを使用し、仲間と相談しながら作成する。
 ・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・講義で配布するプリント類はファイル等の整然と保管し必要時に参照できるようにすること。
 ・20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とみなす。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(保健体育)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、12回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	20%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保健体育科教育の基本的構造についての理解	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解できた。(9割)	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解できた。(8割)	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解できた。(7割)	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程について理解できた。	保健体育教育の基本的構造を理解できなかった。
教師としての基本的な学習指導理論の認識、思考・判断および実践	各領域の内容・計画方法・評価などを学び授業設計を身につけるため教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。(9割)	各領域の内容・計画方法・評価などを学び授業設計を身につけるため教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。(8割)	各領域の内容・計画方法・評価などを学び授業設計を身につけるため教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。(7割)	教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。	教師としての基本的な学習指導理論を理解できず実践できなかった。
指導案作成・模擬授業	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成し模擬授業ができた。(9割)	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成し模擬授業ができた。(8割)	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成し模擬授業ができた。(7割)	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成できた。	知識と指導技術が身につけられず指導案の作成ができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義・演習	必修・選択	選択
科目名称	保健体育科教育法 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	高井 雅一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 高井 雅一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして保健体育科教育法 に関する諸事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編』	文部科学省	東山書房	2018	9784827815603	
2	『高等学校学習指導要領(平成30年告示)保健体育編 体育編』	文部科学省	東山書房	2019	9784827815689	
3	『新しい中学保健体育』	戸田芳雄 他	東京書籍	2024	9784487123711	
4	『現代高等保健体育』	衛藤 隆 他	大修館書店	2024	9784469663198	
5	『(指導と評価の一体化)のための学習評価に関する参考資料 中学校「保健体育」』	文部科学省	東洋館出版社	2020	9784491041384	

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 今、求められている体育教師とは	理想の体育教師像とはどのような教師なのか考えておく。(90分)	まとめられる体育教師像で、自身が不足していることをまとめる
2	体育授業で取り上げる内容・領域について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。(90分)
3	体づくり運動の特性と授業づくりの順序について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。(90分)
4	器械運動の特性と情報機器を活用した授業づくりの順序について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。(90分)
5	陸上競技の特性と授業づくりの順序について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。(90分)
6	水泳の特性と授業づくりの順序について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。(90分)
7	球技(1)ネット型の特性と授業づくりの順序について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。(90分)
8	球技(2)ゴール型の特性と授業づくりの順序について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。(90分)
9	教球技(3)ベースボール型の特性と授業づくりの順序について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。(90分)
10	武道(1)柔道の特性と授業づくりの順序について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。(90分)
11	武道(2)剣道の特性と授業づくりの順序について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。(90分)
12	ダンスの特性と情報機器を活用した授業づくりの順序について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。(90分)
13	体育理論の指導内容と指導上の留意点について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。(90分)
14	指導案の作成方法について(その1)	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。(90分)
15	指導案の作成方法について(その2) 授業改善アンケートの実施	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	講義の内容を総復習する。(90分)
16	定期試験(60分)、終了後、試験の解説(30分)	全講義内容を復習(90分)	本時の学修内容をまとめて提出する。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ステップアップ中学体育2024』	高橋 健夫 他	大修館書店	2024		
2	『ステップアップ高校スポーツ2024』	高橋 建夫 他	大修館書店	2024		
3	『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説』	文部科学省	東山書房	2018		
4	『高等学校学習指導要領平成30年告示)解説』	文部科学省	東山書房	2019		
5	『体育科教育入門 三訂版』	岡出美則、友添秀則、岩田靖	大修館書店	2016		

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク演習(専門) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	・杉本 大輔(社会福祉学科・准教授) ・櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1	(単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	SW, CWとしての経験を有する教員が担当し、実践事例を参照しながら講義を進める。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標
高齢・障がい、地域・行政、児童といった社会福祉各領域の事例を検証することによって、クライアントの主訴の読み取り、ニーズに合致した支援方法を考察することにより、ソーシャルワーク実践を考察する視点を養う。あわせてロールプレイングを通して面接技法における要点を理解する。
授業の位置づけ
社会福祉学科のDP1, DP2, DP3, DP4に対応する(2023年度)
到達目標
事例を検討することから真のニーズを把握する洞察力を養い、ロールプレイを通して面接技法を習得する。また、次年度以降の現場実習に向けて、積極的な討議参加や自己表現ができる。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP1, DP2, DP3, DP4に対応する(2023年度)
到達目標
事例を検討することから真のニーズを把握する洞察力を養い、ロールプレイを通して面接技法を習得する。また、次年度以降の現場実習に向けて、積極的な討議参加や自己表現ができる。

到達目標
事例を検討することから真のニーズを把握する洞察力を養い、ロールプレイを通して面接技法を習得する。また、次年度以降の現場実習に向けて、積極的な討議参加や自己表現ができる。
授業全体の内容と概要
事例検討を中心に、相談援助演習 で学んだことを、グループワーク、ロールプレイ等を通して、実践に近い形で学び、体得する。
授業の方法
3-4グループに分かれ(1グループ20名以内)事例検討、ロールプレイ、事例検討の結果発表を行う。教員のアドバイスの講義を含めつつ、学生自身が積極的に学び取るアクティブラーニング演習を行う。また、附属の事態が生じたときは補講、オンライン等で講義を行う。

授業全体の内容と概要			
事例検討を中心に、相談援助演習 で学んだことを、グループワーク、ロールプレイ等を通して、実践に近い形で学び、体得する。			
授業の方法			
3-4グループに分かれ(1グループ20名以内)事例検討、ロールプレイ、事例検討の結果発表を行う。教員のアドバイスの講義を含めつつ、学生自身が積極的に学び取るアクティブラーニング演習を行う。また、附属の事態が生じたときは補講、オンライン等で講義を行う。			
アクティブラーニングの実施方法			
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

アクティブラーニングの実施方法			
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
履修上の注意事項			
この科目の単位が取得できない場合、次年度の相談援助実習及び相談援助実習指導 は履修できないので注意すること。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。			

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程, 精神保健福祉士国家試験受験資格課程, 子育て支援ソーシャルワーカー資格課程, スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程

資格指定科目					
社会福祉士国家試験受験資格課程, 精神保健福祉士国家試験受験資格課程, 子育て支援ソーシャルワーカー資格課程, スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程					
評価方法・基準					
評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数20回以上をクリアすること					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	0%	0%	0%	70%

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数20回以上をクリアすること					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	0%	0%	0%	70%

ループリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソーシャルワーク実践事例の理解。	ソーシャルワーク実践事例を読み込み、グループディスカッションに積極的に参加し、付随した課題に明確な回答を与え、且つ、その理由を説明できた。	ソーシャルワーク実践事例を読み込み、グループディスカッションに積極的に参加できた。	ソーシャルワーク実践事例の読み込みが的確であった	グループディスカッションに積極的に参加できた。	ディスカッションへの参加も消極的で、事例に付随した課題にも回答できなかった。
ロールプレイングへの積極的参加	ロールプレイングの場面の作成を積極的にを行い、且つC L、S W各々の役割をこなし、O S C E項目の平均4点以上をキープできた。(5段階評価)	ロールプレイングの場面の作成を積極的にを行い、且つC L、S W各々の役割をこなし、O S C E項目の平均3点以上をキープできた。(5段階評価)	ロールプレイングの場面の作成を積極的にを行い、且つC L、S W各々の役割をこなし、O S C E項目の平均3点以上をキープできた。	ロールプレイングに積極的に参加してできた。	ロールプレイングへの積極的参加ができなかった。
チームワーク、リーダーシップ、スーパービジョン、ソーシャルワークの視点、といった応用課題を理解する	チームワーク、リーダーシップ、スーパービジョン、ソーシャルワークの視点等について明確に言語で説明できた。	チームワーク、スーパービジョン、ソーシャルワークの視点について明確な言語で説明できた。	チームワーク、ソーシャルワークの視点について明確な言語で説明できた。	ソーシャルワークの視点について明確な言語で説明できた。	左記の言語全てを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク演習(専門) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	・杉本 大輔(社会福祉学科・准教授) ・櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	SW, CWとしての経験を有する教員が担当し、実践事例を参照しながら講義を進める。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『「ソーシャルワーク演習ワークブック」』	相澤謙治 植戸貴子	(株)みらい	2013年	978-4-86015-123-2	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明	前期科目の復習(45分)	テキストの読み込み(45分)
2	ソーシャルワークプロセスの再確認	前期科目の復習(45分)	テキストの読み込み(45分)
3	事例研究1「倫理と組織：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
4	事例研究1「倫理と組織：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
5	事例研究2「高齢者介護：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
6	事例研究2「高齢者介護：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
7	事例研究3「知的障がい者：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
8	事例研究3「知的障がい者：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
9	事例研究4「児童虐待：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
10	事例研究4「児童虐待：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
11	事例研究5「DV：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
12	事例研究5「DV：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
13	事例研究6「ストレングス：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
14	事例研究6「ストレングス：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
15	事例研究7「障がい児：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
16	事例研究7「障がい児：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み(90分)	事例検討結果の検証(90分)

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	事例研究8「生活保護：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
18	事例研究8「生活保護：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
19	事例研究9「生活保護：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
20	事例研究9「生活保護：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
21	事例研究10「権利擁護：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
22	事例研究10「権利擁護：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
23	事例研究11「地域：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
24	事例研究11「地域：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み(45分)	事例検討結果の検証(45分)
25	応用演習(チームワーク)	テキストの読み込み(45分)	講義中の自己の振り返り(45分)
26	応用演習(リーダーシップ)	テキストの読み込み(45分)	講義中の自己の振り返り(45分)
27	応用演習(スーパービジョン)	テキストの読み込み(45分)	講義中の自己の振り返り(45分)
28	応用演習(ソーシャルワークの視点)	テキストの読み込み(90分)	講義中の自己の振り返り(90分)
29	各学生の気づき(グループ討議)	テキストの読み込み(45分)	講義中の自己の振り返り(45分)
30	振り返りと相談援助実習に向けて	テキストの読み込み(45分)	講義中の自己の振り返り(45分)
31	実習事例検討(利用者理解とコミュニケーション)	テキストの読み込み(45分)	全体を通しての振り返り(45分)
32	実習事例検討(アセスメントと生活場面面接)	テキストの読み込み(45分)	全体を通しての振り返り(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築環境 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	伊藤 裕康(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

外界の厳しい自然環境から人間生活を護り、快適な室内環境を実現するために、「建築環境」の内容に引き続き、建築伝熱、建築音響、湿気・結露の物理的基礎、及びその建築計画上の方法を理解する。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)
 建築学科のDP1に対応する。(2023・2022年度)
 建築学科のDP1、DP2、DP7に対応する。(2021年度)

到達目標

建築計画上の物理的基礎として、熱費流の3つの過程、音波の基本的性質や音の強さ、湿り空気の性質を理解できる。

授業全体の内容と概要

「SDG3 すべての人に健康と福祉を」の関連授業。
 室内と外部の温度差を生じる伝熱理論、室内の湿り空気や結露問題、音波の性質や吸音・遮音について、その基礎的取扱いからその建築計画上の方法までを学ぶ。さらに演習問題を通して理解を深める。

授業の方法

授業は、パワーポイントおよび配付資料で実施し、資料にて説明をした後、演習問題を行う。学生の不明点・質問は、まず一人で考え、次に隣の人と意見交換し、最後に教室全体で共有して議論する。その後、授業内で解答を呈示してフィードバックする。また、学生の不明点・質問は、チャット形式の支援システムで迅速に回答する。授業の最後には「ふりかえり」レポートを提出し、レポートにはコメントにてフィードバックする。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・ A4版ポケットタイプのファイルとノートを毎回持参すること。
- ・ 20分以上の遅刻は欠席とみなす。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
45%	15%	0%	40%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築伝熱の理解	外気から室内までの熱費流抵抗と熱費流量を計算できた。	熱費流および換気による熱損失や評価指標を理解できた。	熱費流率と熱伝達率、熱費流率の関係を理解できた。	熱費流の3つの過程を理解できた。	熱費流の3つの過程を理解できなかった。
建築音響の理解	音の反射や残響と室内音響計画の考え方について理解できた。	吸音材料と吸音構造について理解できた。	吸音や遮音の考え方について理解できた。	音波の基本的性質や音の強さについて理解できた。	音波の基本的性質や音の強さについて理解できなかった。
湿気と結露の理解	表面結露と内部結露のそれぞれの防止対策について理解できた。	室内側表面結露が発生するかどうかを材料表面温度の式を用いて判断できた。	空気線図の見方を理解できた。	相対湿度と絶対湿度について理解できた。	相対湿度と絶対湿度について理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築環境 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	伊藤 裕康(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新建築環境工学 改定4版』	田中俊六	井上書院	2014	9784753017577	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明/授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスと教科書をよく読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
2	熱環境 - 1 伝熱の基礎 熱エネルギーの流れ	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
3	熱環境 - 2 固体中の熱伝導・熱伝達と熱貫流	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
4	熱環境 - 3 熱伝導率や熱伝達率と熱貫流率の関係	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
5	熱環境 - 4 熱貫流量の計算	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
6	熱環境 - 5 建物外表面の熱授受と熱損失評価	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
7	音環境 - 1 音の性質と伝播、音の表し方と単位、音の大きさと聴感	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
8	音環境 - 2 室内音響 室内音響計画、室内音響の評価、室内音響設計	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
9	音環境 - 3 壁・床の遮音対策、音響透過損失	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
10	音環境 - 4 建築音響の材料と構造	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
11	音環境 - 5 騒音とその防止 騒音の測定と評価、騒音の伝播、騒音防止計画	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
12	湿気と結露 - 1 湿り空気、露点温度と結露、空気線図	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
13	湿気と結露 - 2 壁の透湿と結露、定常透湿計算	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
14	湿気と結露 - 3 表面結露と内部結露、断熱と温度・湿度の関係	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
15	湿気と結露 - 4 結露の発生と防止対策	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う)授業改善アンケートの実施	試験範囲について復習しておくこと(90分)	試験内容について復習しておくこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	北海道経済論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小林 大州介 (経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小林 大州介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前相談の上調整か、もしくは研究室前のボードにて確認のこと。				

概要

履修目標
<p>開拓庁舎の開校に始まる北海道の近代的経済は、本土の政治的・経済的恩恵におおきく左右されつつも、第1次産業やエネルギー産業を主体とする自律的な経済として発展を続けてきた。また1960年代以降、観光産業において顕著な発展を見せ、また70年代以降は情報産業の盛り上がりも見せた。他方で、石炭から石油へのエネルギー転換による相次ぐ炭鉱の閉山、200カイリ問題、そしてパブル崩壊以降の北海道拓殖銀行の破たん等、困難な時期を経験し、さらに現在では、COVID-19の蔓延により、基幹産業となるべき観光業も、インバウンド需要の大きな落ち込みを経験し、危機を迎えている。本講義では、北海道経済の特色を学びながら今後の北海道経済の行方を考えるきっかけを作ることを目的とする。</p>

授業の位置づけ
経営学科のDP1、DP2、DP4に対応する。(2023・2022年度)

到達目標
北海道経済の歴史、主要産業、現状について説明することが出来る。

授業全体の内容と概要
<ol style="list-style-type: none"> 北海道の地理・歴史 北海道経済の日本経済・世界経済におけるプレゼンス 北海道経済の現状とICTパラダイム 北海道経済の今後の課題、進むべき方向を考える

授業の方法
<p>パワーポイント資料、DVD、統計資料などを使う。 また外部から講師を招き、講演をしてもらう予定である(第13回講義中を予定)。 なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。</p>

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
普段からよく北海道経済について関心を持ち、ニュースや資料を調べておくこと。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定のために必要な出席回数は11回以上												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	70%	0%	0%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
70%	0%	0%	0%	30%	0%							

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
北海道の地理・歴史	北海道の位置、人口、本州との関係、歴史的背景について、網羅的に理解でき、説明することが出来る。	北海道の位置、人口、本州との関係、歴史的背景について、理解しており、説明することが出来る。	北海道の位置、人口、本州との関係、歴史的背景などについて理解、している。	北海道の位置、歴史的背景などについて理解している	北海道の位置、歴史的背景などについて理解が見られない
北海道経済について	北海道経済の特色である第1次産業、北方圏経済、環日本海経済、福祉政策について、良く理解が出来ており、説明できる。	北海道経済の特色である第1次産業、北方圏経済、環日本海経済、福祉政策について、良く理解が出来ている。	北海道経済の特色である第1次産業、北方圏経済、良理解が出来ている。	北海道経済の特色である第1次産業について理解が出来ている。	北海道経済に関する理解が見られない。
北海道経済の今後について	現在苦境の中に在る北海道の観光業、第1次産業について、そして各産業が活路を見出そうとしているICT産業の可能性について良く理解し説明することが出来る。	現在苦境の中に在る北海道の観光業、第1次産業について、そして各産業が活路を見出そうとしているICT産業の可能性について良く理解している。	現在苦境の中に在る北海道の観光業、第1次産業について、解決策を議論できる。	現在苦境の中に在る北海道の観光業、第1次産業について理解している。	北海道経済の諸問題について理解が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	北海道経済論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小林 大州介 (経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小林 大州介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『北海道の経済と歴史』	小林好宏	北海道大学出版	2010	978-4832967298	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	初回オリエンテーション 本講義について 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを良く読み、講義の進行を良く理解しておく(90分)。	講義で話した年間スケジュールを良く見直す(90分)
2	北海道経済の今	ニュース等で近年話題に上がっている北海道経済に関する問題をピックアップしておく。(90分)	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく(90分)
3	北海道経済の地理・歴史	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく(90分)	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく(90分)
4	北海道経済vs九州経済	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく(90分)	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく(90分)
5	環日本海経済圏と北海道	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく(90分)	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく(90分)
6	「北方圏」の有利・不利	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく(90分)	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく(90分)
7	札幌圏と道東・道北・道南地方	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく(90分)	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく(90分)
8	北海道の社会福祉	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく(90分)	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく(90分)
9	北海道の主要産業1・農林水産業	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく(90分)	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく(90分)
10	北海道の主要産業2・観光・スポーツ産業	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく(90分)	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく(90分)
11	北海道経済の基本的体質：官庁と民間企業	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく(90分)	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく(90分)
12	北海道経済とICTパラダイム1：官民の取り組みと課題	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく(90分)	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく(90分)
13	北海道経済とICTパラダイム2：実際の現場では...	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく(90分)	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく(90分)
14	世界経済の中の「北海道」	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく(90分)	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく(90分)
15	北海道経済はどこへ向かうべきか？	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく(90分)	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく(90分)
16	定期試験(60分)と試験の解説 授業改善アンケートの実施	試験勉強(90分)	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	写真表現 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業でデザイン実務40年間の実績を活かした写真表現講義です。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

表現者になる為に必要な基礎写真技術を習得する。
頭の中にイメージを形成出来るようにして、そのイメージを第三者へ伝達、表現出来るようにする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)

到達目標

自分のイメージを具体的に効果的に写真を使って表現出来るようにする。

授業全体の内容と概要

学生の脳内にイメージが形成出来るように、写真のアイデアスケッチを行う。
自分の想像(脳内のイメージ)を完成した作品に自分の意図したポイントや表現を発表して第三者と意見交流をする。
SDGs 12.、つくる責任、つかう責任に準じる。

授業の方法

写真機の構造や成り立ちを理解しつつ、自分のイメージが的確に表現出来るように切磋琢磨する。
写真をプレゼンテーションして第三者の意見を考察する。課題に対するフィードバックを得る。
カメラ機材、ストロボ機材は少数だが用意する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようにすること。
個人用のSDメモリーカードを用意の事。
出来れば個人的にカメラを用意する事をお勧めします。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上
課題提出は全点必ず。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イメージを頭の中に形成出来る。それを写真で表現する事を学ぶ。	イメージを頭の中に完璧に描くことができる。それを写真として完璧に表現できる。	イメージを頭の中に描くことができる。それを写真として完璧に表現できる。	イメージを頭の中に描くことができる。それを写真として表現できる。	イメージを頭の中に辛うじて描くことができる。それを写真として表現できる。	イメージを頭の中に辛うじて描くことができる。それを写真として辛うじて表現できる。
写真の原理、器材の使い方を学ぶ。	自分のイメージしたモノを効果的に完璧に表す為の機材を使用できる。写真を通して表現を完璧に出来る。	自分のイメージしたモノを効果的に表す為の機材を良く使用できる。写真を通して表現が良く出来る。	自分のイメージしたモノを効果的に表す為の機材を使用できる。写真を通して表現が出来る。	自分のイメージしたモノを効果的に表す為の機材を辛うじて使用できる。写真を通して表現が出来る。	自分のイメージしたモノを効果的に表す為の機材を辛うじて使用できる。写真を通して表現が辛うじて出来る。
写真に対する評価が出来る。	写真の品評、評価が完璧に出来る。	写真の品評、評価が良く出来る。	写真の品評、評価が出来る。	写真の品評、評価がやっと出来る。	写真の品評、評価が辛うじて出来る。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	写真表現 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業でデザイン実務40年間の実績を活かした写真表現講義です。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、写真とは? 深く考察 歴史的な作品を鑑賞	シラバスを読んでおく。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
2	写真機材の特性、使い方(より深く考察する)	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
3	レンズの特性、シャッタースピードの特性、絞りの特性、撮像素子の特性による画像の変化を理解1	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
4	レンズの特性、シャッタースピードの特性、絞りの特性、撮像素子の特性による画像の変化を理解2、ストロボを使用しして光と影を理解する。	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
5	自分の目指す写真アイデアを出す。コンテ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
6	撮影	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
7	撮影	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
8	作品をプレゼンテーション、評価	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
9	次改善作品撮影	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
10	作品撮影	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
11	作品撮影	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
12	作品中間審査1、品評会	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
13	作品中間審査2、フィードバック	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
14	最終作品撮影	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
15	最終作品撮影、プリントアウト	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
16	最終作品プレゼンテーション 総評 授業改善アンケート	要求された課題を作成する。(90分)	全授業を俯瞰して、今後の行動計画を建てる。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義・実習	必修・選択	選択
科目名称	保健体育科教育法 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	高井 雅一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 高井 雅一)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして保健体育科教育法に関連する諸事項を講義・実習する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する。				

概要

履修目標

保健体育科の意義や内容をはじめ、各領域の内容・計画方法・評価等を学ぶ科目であり、授業設計を身につけ、保健体育教師としての基本的な学習指導理論を理解できるようにする。

授業の位置づけ

経営学科のD P 2、DP 4に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

保健体育科の目標・内容をはじめ、体育の指導計画の作成や評価の在り方並びに基礎的な学習指導理論等を理解するとともに、具体的な授業を想定した効果的な授業設計や学習指導案の作成を行うことができる実践的な力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

・中学校及び高等学校教育の目的・目標を明確にするとともに、保健体育科教育としての独特の役割をわかりやすく理解させる。
 ・保健体育科の授業を行うための必要な知識と指導技術について、意見交換で自分の意見を述べることで、グループ学習の中で、多様な指導方法を身につける活動を行う。「SDG4」質の高い授業は、対象生徒にあった内容を工夫し指導案を作成するところからのスタートが大切であることを理解させる。
 ・模擬授業を実践し、指導技術・内容(情報機器の活用を含む)を再確認するために自分の意見を述べながら、意見交換し改善点を見つける。
 授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

・各回のテーマに関してプリント等を使用して説明を行う。
 ・各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察・意見交換、発表等の一連の活動を行う。
 ・模擬授業では、ビデオ機器等を活用し、指導内容の確認などを実践する。
 ・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・講義で配布したプリントや模擬授業の指導案等は、ファイル等の整理と保管し、必要時に参照できるようにすること。
 ・20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とみなす。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(保健体育)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、12回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	20%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保健体育科教育の基本的構造についての理解	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解できた。(9割)	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解できた。(8割)	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解できた。(7割)	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程などについて理解できた。	保健体育教育の基本的構造を理解できなかった。
教師としての基本的な学習指導理論の認識、思考・判断および実践	各領域の内容・計画方法・評価などを学び授業設計を身につけるため教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。(9割)	各領域の内容・計画方法・評価などを学び授業設計を身につけるため教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。(8割)	各領域の内容・計画方法・評価などを学び授業設計を身につけるため教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。(7割)	教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。	教師としての基本的な学習指導理論を理解できず実践できなかった。
指導案作成・模擬授業	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成して模擬授業ができた。(9割)	の授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成して模擬授業ができた。(8割)	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成して模擬授業ができた。(7割)	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成できた。	授業を行うための知識と指導技術が身につけなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義・実習	必修・選択	選択
科目名称	保健体育科教育法 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	高井 雅一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 高井 雅一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして保健体育科教育法 に関連する諸事項を講義・実習する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編』	文部科学省	東山書房	2018	9784827815603	
2	『高等学校学習指導要領(平成30年告示)保健体育編 体育編』	文部科学省	東山書房	2019	9784827815689	
3	『新しい中学保健体育』	戸田芳雄 他	東京書籍	2024	9784487123711	
4	『現代高等保健体育』	衛藤 隆 他	大修館書店	2024	9784469663198	
5	『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 保健体育』	文部科学省	東洋館出版社	2020	9784491041384	

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 学校における体育科の役割について	本時の課題について教科書等を参考に自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
2	選択制授業のねらいと進め方について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
3	指導案の作成について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
4	模擬授業の進め方について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
5	模擬授業の指導案作成と指導上の留意点について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
6	模擬授業の実施	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
7	模擬授業(選択制授業)の指導案作成と指導上の留意点について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
8	模擬授業(選択制授業)の実施	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
9	情報機器を活用した模擬授業の指導案作成と指導上の留意点について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
10	情報機器を活用した模擬授業の実施	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
11	体育理論の模擬授業の指導案作成と授業展開について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
12	体育理論の模擬授業の実施	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
13	模擬授業の振り返り	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
14	模擬授業のまとめ	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
15	体育におけるスポーツ障害について 授業改善アンケートの実施	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	講義の内容を総復習する。(90分)
16	定期試験(60分)、終了後、試験の解説(30分)	全講義内容を復習(90分)	本日の学修内容をまとめて提出する。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ステップアップ中学校体育2024北海道編』	高橋 健夫 他	大修館書店	2024		
2	『ステップアップ高校スポーツ2024』	高橋 健夫 他	大修館書店	2024		
3	『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説』	文部科学省	東山書房	2018		
4	『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説』	文部科学省	東山書房	2019		
5	『体育科教育入門 三訂版』	岡出美則、友添秀則、岩田靖	大修館書店	2016		

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク実習指導 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)・小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)・大	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上原 正希)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえて講義を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等対応				

概要

履修目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワーク実習の意義について理解する。 2. 社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を理解する。 3. ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を理解する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP 1、DP 2、DP 3、DP 4、DP 5に対応する(2023年度)。

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワーク実習の意義について理解することができる。 2. 社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を理解することができる。 3. ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を理解することができる。

授業全体の内容と概要
<ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワーク実習の意義について学ぶ。 2. 社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を学ぶ。 3. ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を学ぶ。

授業の方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業形態は講義形式だが、適宜、グループワークやディスカッションを含む。 2. テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。 3. 適宜、質疑応答を交える。 4. 自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。 5. ソーシャルワーカーのお話を聞く授業等もある。 6. 大学のペーパーレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td>○</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td>○</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の意見等を積極的に発言すること。 2. 多くの考えがあることを理解し、他者の意見を否定しない行動が必要となる。 3. 教科書は必ず持参すること。 4. 必要な資料等は適宜配布する。 5. 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。 6. ソーシャルワーカーや学生・教員のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。 7. 大学のペーパーレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件												
<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席回数は最低10回なければ試験を受験することはできない。 2. その他については、出席状況15%、ボランティア参加(2回)15%、ボランティアレポート10%の評価となる。 												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	60%	0%	0%	0%	0%	40%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
60%	0%	0%	0%	0%	40%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>ソーシャルワークの各領域における職場について理解する。</td> <td>高齢、障がい、児童、地域・行政の各職場について、その具体的な業務と課題、公的法制度と利用者について具体的に説明できた。</td> <td>高齢、障がい、児童、地域・行政の各職場における職種の違いを具体的に説明でき、且つ、根拠となる法制度について説明できた。</td> <td>高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域における職種の違いを具体的に説明できた。</td> <td>高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域における職種の違いを具体的に説明できた。</td> <td>左記の内容を一つも説明できなかった。</td> </tr> <tr> <td>ソーシャルワークの各領域における職種について理解する。</td> <td>高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域の職種について具体的に説明できた。</td> <td>高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域における職種の違いを具体的に説明でき、且つその特徴の違いについて説明できた。</td> <td>高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域における職種の違いを具体的に説明できた。</td> <td>高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域における職種の違いを具体的に説明できた。</td> <td>左記の内容を何一つ説明できなかった。</td> </tr> <tr> <td>ソーシャルワーク各領域におけるソーシャルワーク実践についての理解する。</td> <td>高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域におけるソーシャルワーク実践について、その具体的な方法と課題、公的法制度と利用者の自立について具体的に説明できた。</td> <td>高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域におけるソーシャルワーク実践について、その特徴と違いを具体的に説明でき、且つ根拠となる法制度について説明できた。</td> <td>高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域におけるソーシャルワーク実践の特徴と違いを具体的に説明できた。</td> <td>高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域におけるソーシャルワーク実践について説明できた。</td> <td>左記の内容を何一つ説明できなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	ソーシャルワークの各領域における職場について理解する。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各職場について、その具体的な業務と課題、公的法制度と利用者について具体的に説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各職場における職種の違いを具体的に説明でき、且つ、根拠となる法制度について説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域における職種の違いを具体的に説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域における職種の違いを具体的に説明できた。	左記の内容を一つも説明できなかった。	ソーシャルワークの各領域における職種について理解する。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域の職種について具体的に説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域における職種の違いを具体的に説明でき、且つその特徴の違いについて説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域における職種の違いを具体的に説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域における職種の違いを具体的に説明できた。	左記の内容を何一つ説明できなかった。	ソーシャルワーク各領域におけるソーシャルワーク実践についての理解する。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域におけるソーシャルワーク実践について、その具体的な方法と課題、公的法制度と利用者の自立について具体的に説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域におけるソーシャルワーク実践について、その特徴と違いを具体的に説明でき、且つ根拠となる法制度について説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域におけるソーシャルワーク実践の特徴と違いを具体的に説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域におけるソーシャルワーク実践について説明できた。	左記の内容を何一つ説明できなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
ソーシャルワークの各領域における職場について理解する。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各職場について、その具体的な業務と課題、公的法制度と利用者について具体的に説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各職場における職種の違いを具体的に説明でき、且つ、根拠となる法制度について説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域における職種の違いを具体的に説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域における職種の違いを具体的に説明できた。	左記の内容を一つも説明できなかった。																								
ソーシャルワークの各領域における職種について理解する。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域の職種について具体的に説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域における職種の違いを具体的に説明でき、且つその特徴の違いについて説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域における職種の違いを具体的に説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域における職種の違いを具体的に説明できた。	左記の内容を何一つ説明できなかった。																								
ソーシャルワーク各領域におけるソーシャルワーク実践についての理解する。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域におけるソーシャルワーク実践について、その具体的な方法と課題、公的法制度と利用者の自立について具体的に説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域におけるソーシャルワーク実践について、その特徴と違いを具体的に説明でき、且つ根拠となる法制度について説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域におけるソーシャルワーク実践の特徴と違いを具体的に説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域におけるソーシャルワーク実践について説明できた。	左記の内容を何一つ説明できなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク実習指導 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)・小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)・大	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上原 正希)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえて講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ソーシャルワーク実習・実習指導(社福専門)』	福祉臨床シリーズ編集委員会	弘文堂	2023年	9784336612275	価格 1,2750(本体) 2,500)
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『別途指示します。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(前年度実施した授業改善アンケートの結果反映およびシラバスの説明)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
2	ソーシャルワーク実習では、なにを学ぶのか ソーシャルワーク実習Q&A	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
3	ソーシャルワーク実習における実習計画書の作成のあり方について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
4	ソーシャルワーク実習における記録のあり方について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
5	ソーシャルワーク実習におけるケース研究のあり方について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
6	ソーシャルワーク実習の実習先について概論	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
7	障害分野のソーシャルワーク実践とは-担当教員からの報告-	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
8	障害領域のソーシャルワーク実践とは-障害領域のソーシャルワーカーからの報告-	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
9	児童分野のソーシャルワーク実践とは-担当教員からの報告-	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
10	児童領域のソーシャルワーク実践とは-児童領域のソーシャルワーカーからの報告-	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
11	高齢分野のソーシャルワーク実践とは-担当教員からの報告-	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
12	高齢領域のソーシャルワーク実践とは-高齢者領域のソーシャルワーカーからの報告-	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
13	地域分野のソーシャルワーク実践とは-担当教員からの報告-	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
14	地域分野のソーシャルワーク実践とは-地域分野のソーシャルワーカーからの報告-	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
15	実習に行った先輩の実習報告-児童分野・高齢分野・障害分野・地域分野の実習より 授業改善アンケートの実施	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
16	【定期試験】60分の試験終了後、残りの30分で解説をする)	テスト勉強をしていくこと(90分)	テストの振り返りを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	イラスト漫画概論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	マンガミュージアムでの勤務や、公的なメディア芸術関連事業に関わった経験をもとに、イラストやマンガに関わる表現や文化について講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
社会や文化におけるイラスト・マンガ表現の意義や歴史。これまで問われてきたことを学び、知識や多様な視点を身に付ける。イラストやマンガをめぐる様々な現象や事象、歴史を考慮することや、具体的な作品の考察とそれについてのディスカッションを通して、私たちがそれらの文化とどのように関わっているかを考え、自分の創作活動を幅広い社会の中に位置づける意識を養う。
授業の位置づけ
デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。(2024年度)
到達目標
現代社会におけるメディアとしてのマンガやアニメに関わる知識を身に付け理解する。芸術・文化についての興味や関心、批判的思考を養う。自分の考えを根拠づけ明確に他者に表現する力を身につける。

到達目標
現代社会におけるメディアとしてのマンガやアニメに関わる知識を身に付け理解する。芸術・文化についての興味や関心、批判的思考を養う。自分の考えを根拠づけ明確に他者に表現する力を身につける。
授業全体の内容と概要
これまでイラストやマンガ表現に関して問われてきたさまざまなトピックを考慮することや、具体的な作品の考察を通して、作品とその社会的位置づけについて多様な視点から考える力を養い、自身の制作に生かす。
授業の方法
講義形式で、パワーポイントやレジュメ、視聴覚メディア等を使って実施する。授業内のトピックについてグループワークやディスカッション、反転授業も取り入れる。授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td>○</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td>○</td> <td>調査学習</td> <td>○</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業	○	ディスカッション	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL															
模範授業		ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業															
○	ディスカッション	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															
履修上の注意事項																					
事前学習として、授業内で取り上げるテーマについて事前に書籍やインターネット等で予習し、事後学習として取り上げたテーマを掘り下げて調べると、より理解が深まる。作品考察においては、各学生が一つ作品(短い作品)を選び、その作品について調べ、発表を行うほか、その他の学生も同じ作品を授業までに読んでおくこと。																					

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	40%	20%	0%	40%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	40%	20%	0%	40%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>授業内容の理解</td> <td>授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。</td> <td>授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。</td> <td>授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。</td> <td>授業で得た用語や概念が理解できた。</td> <td>授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。</td> </tr> <tr> <td>批判的思考力・視点の多様性</td> <td>対象に対する、さらに自分なりの新しい視点や考えを生み出すことができた。</td> <td>授業で取り上げた内容を超えて、作品に対して多様な視点から考えることができた。</td> <td>授業で取り上げた内容に基づき、多様な視点から作品を考察することができた。</td> <td>授業で取り上げた内容に基づき、作品に対する多様な視点があることを理解できた。</td> <td>当初の意見から意見を広げたり視点を多様化させることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>論理・文章表現力</td> <td>自身の観点から、深い洞察をもって論考を書くことができた。</td> <td>自身の観点から、充分に考えられた内容の論考を書くことができた。</td> <td>自身の観点はまだ不十分だが、充分に考えられた内容の論考を書くことができた。</td> <td>課題に応じた内容・形式の論考を書くことができた。</td> <td>課題に応じた内容・形式の論考を書くことができなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。	批判的思考力・視点の多様性	対象に対する、さらに自分なりの新しい視点や考えを生み出すことができた。	授業で取り上げた内容を超えて、作品に対して多様な視点から考えることができた。	授業で取り上げた内容に基づき、多様な視点から作品を考察することができた。	授業で取り上げた内容に基づき、作品に対する多様な視点があることを理解できた。	当初の意見から意見を広げたり視点を多様化させることができなかった。	論理・文章表現力	自身の観点から、深い洞察をもって論考を書くことができた。	自身の観点から、充分に考えられた内容の論考を書くことができた。	自身の観点はまだ不十分だが、充分に考えられた内容の論考を書くことができた。	課題に応じた内容・形式の論考を書くことができた。	課題に応じた内容・形式の論考を書くことができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。																								
批判的思考力・視点の多様性	対象に対する、さらに自分なりの新しい視点や考えを生み出すことができた。	授業で取り上げた内容を超えて、作品に対して多様な視点から考えることができた。	授業で取り上げた内容に基づき、多様な視点から作品を考察することができた。	授業で取り上げた内容に基づき、作品に対する多様な視点があることを理解できた。	当初の意見から意見を広げたり視点を多様化させることができなかった。																								
論理・文章表現力	自身の観点から、深い洞察をもって論考を書くことができた。	自身の観点から、充分に考えられた内容の論考を書くことができた。	自身の観点はまだ不十分だが、充分に考えられた内容の論考を書くことができた。	課題に応じた内容・形式の論考を書くことができた。	課題に応じた内容・形式の論考を書くことができなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	イラスト漫画概論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	マンガミュージアムでの勤務や、公的なメディア芸術関連事業に関わった経験をもとに、イラストやマンガに関わる表現や文化について講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『日本イラストレーション史』	美術手帖編集部	美術出版社	2010	978-4568430691	
2	『女性マンガ研究 欧米・日本・アジアをつなぐ MANGA』	大城房美編	青弓社	2015	978-4787233868	
3	『マンガ文化 55のキーワード』	竹内オサム、西原麻里編	ミネルヴァ書房	2016	978-4623075409	
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 オリエンテーション	シラバスを読んでおく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
2	SNS時代のイラスト・マンガ(1) イラスト/コミックエッセイの隆盛	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
3	SNS時代のイラスト・マンガ(2) デジタル環境と変化するメディア特性	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
4	作品考察(1):『電脳MAVO』より水野清香「家族喧嘩」	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
5	作品考察(2)『電脳MAVO』よりムライ「鳥の眼」	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
6	作品考察(3)高野文子「田辺のつる」(1980)	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
7	作品考察(4)高野文子「田辺のつる」(1980)	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
8	作品考察(5)こうの史代「古い女」(2006)	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
9	作品考察(6)こうの史代「古い女」(2006)	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
10	作品考察(7)個別作品分析	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
11	作品考察(8)個別作品分析	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
12	作品考察(9)個別作品分析	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
13	AI時代のイラスト・マンガ(1)生成AIが提起する諸問題	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
14	AI時代のイラスト・マンガ(2)著作権に関わる諸問題	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
15	まとめ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
16	期末レポートの解説 授業改善アンケート実施	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	これまでの授業内容を復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期	授業形態	必修・選択
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング:)		
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		
オフィスアワー			

概要

履修目標

授業の位置づけ

到達目標

授業全体の内容と概要

授業の方法

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL		
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業		
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)		

履修上の注意事項

修学サポート(合理的配慮)

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期	授業形態	必修・選択
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング:)		
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築法規 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

広範な建築関係法令の中で、建築基準法を取り巻き「建築行政」を構成する各法律がどのような役割を持ち、社会の中でどう機能し、運営されているのかを認識する。そして建築関係法令のうち都市整備の基幹である都市計画法、何かと話題で今後も改正が予想される建築士法、ユニバーサルデザイン・バリアフリーの観点からの新ハートビル法、都市防災の要である消防法他、関係法令を実務的視点も含めて理解する。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)
 建築学科のDP1、DP3に対応する。(2023・2022年度)
 建築学科のDP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

都市計画法の建築基準法に關する規定や、建築士法および建設業法の建築基準法に關する規定、その他の建築関連法規に關する規定を理解することができる。

授業全体の内容と概要

建築基準法を理解する上で重要な条文について図解を交えてわかりやすく解説する。更に主要な制度規定について、条文の成立から実例まで併せて解説すると共に条文の理解を深めるための演習を行う。
 「SDG11、住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業は条文の重要項目のチェックと線引きを行い、板書と配布資料により進めていく。随所に出現する法令独特の語彙の解釈や考え方にも触れて、きめ細やかに進めていく。また、理解度を測るため、単元ごとに課題提示・小テストを行い、解説も行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

法令集と赤ペン・青ペンを必ず持参のこと。また、本講義にあたっては電卓や携帯電話、スマートフォンなどの計算機能を使った計算を禁止する。必ず筆算のこと。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数11回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にいるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
都市計画法の建築基準法に關する規定の理解	都市計画法の建築物の一般構造その他に關する規定を正確に理解することができた。	都市計画法の建築物の一般構造その他に關する規定を8割方正確に理解することができた。	都市計画法の建築物の一般構造その他に關する規定を6割方正確に理解することができた。	都市計画法の建築物の一般構造その他に關する規定を理解することができた。	都市計画法の建築物の一般構造その他に關する規定を理解することができなかった。
建築士法、建設業法の建築基準法に關する規定の理解	建築士法、建設業法の建築基準法に關する規定を正確に理解することができた。	建築士法、建設業法の建築基準法に關する規定を8割方正確に理解することができた。	建築士法、建設業法の建築基準法に關する規定を6割方正確に理解することができた。	建築士法、建設業法の建築基準法に關する規定を理解することができた。	建築士法、建設業法の建築基準法に關する規定を理解することができなかった。
その他の建築関連法規の理解	その他の建築関連法規に關する規定を正確に理解できた。	その他の建築関連法規に關する規定を8割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に關する規定を6割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に關する規定を理解できた。	その他の建築関連法規に關する規定を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築法規 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『基本建築関係法令集2023年版』	建築資料研究社	建築資料研究社	2023		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。都市計画法1-建築基準法と都市計画法 授業改善アンケート結果反映の説明	建築法規 の振返り(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
2	都市計画法2-都市形成	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
3	都市計画法3-開発	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
4	都市計画法4-地域・区域	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
5	都市計画法5-都市の構成	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
6	建築士法1-建築士の役割	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
7	建築士法2-業務と倫理	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
8	建設業法1-施工管理	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
9	建設業法2-生産管理	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
10	新ハートビル法-やさしいまちづくり	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
11	消防法1-消防設備	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
12	消防法2-防災計画	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
13	品確法・耐震改修法	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
14	都市再開発法・その他	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
15	民法-建築関係抜粋 授業改善アンケートの実施	事前提示の条文熟読(90分)	本講義の振返り(90分)
16	理解度診断試験(60分)・試験解説(30分)	事前提示の条文熟読(90分)	試験の振返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課）
科目名称	総合的な学習の時間の（科目ナンバリング：）				
授業担当者（所属・職名）	西崎 毅（社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2（単位認定責任者：西崎 毅）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして総合的な学習の時間の指導法に関連する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

<p>履修目標</p> <p>各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するための指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。</p>
--

<p>授業の位置づけ</p> <p>経営・デザイン・建築学科のDP2、DP4に対応する。（2023・2022年度） 社会福祉学科のDP2、DP4、DP5に対応する。（2023・2022年度）</p>
--

<p>到達目標</p> <p>総合的な学習の時間の意義や目標等をはじめ、指導計画の作成や指導と評価の考え方、実践上の留意点について理解できる。</p>
--

<p>授業全体の内容と概要</p> <p>各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。授業進行上、シラバスに記載したテーマが前後することがあるが、各授業の冒頭において、当該の授業内容とシラバス上の授業テーマとの関連を明示する。「SD4・質の高い教育をみんなに」の関連科目</p>

<p>授業の方法</p> <p>各回のテーマに関してプレゼンテーションソフトウェア等を使用して説明を行う。各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して、グループワークを中心として思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。課題については、観点別の評価とコメントによりフィードバックを行う。要望については口頭及びメール等に対応する。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。</p>
--

<p>アクティブラーニングの実施方法</p> <table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他（授業の方法参照）
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他（授業の方法参照）									

<p>履修上の注意事項</p> <p>主体的・対話的で深い学びを行うため、思考・考察、討論・発表等の活動を行うので、積極的に参加すること。 ○講義においては、PC及びスマートフォンを活用するので、特に指示がある場合を除き毎時間必ず持参すること。持参なき場合は当該時間の履修を認定しない。 ○受講に支障が出ることのないよう、事前にPC及びスマートフォンの充電を十分に行うなど、対策を講じること。 授業資料等は、Microsoft Teams の「投稿欄」の「ファイル」に格納するので必要に応じてダウンロードすること。 講義中の私語・居眠りは厳に禁むこと。 講義中の「退室」は、許可を得ること。 ○講義開始時間までに用度を済ませておくこと。 講義では演習を行うため、座席を指定する。 教職の講義であるため、「起立」「礼」の挨拶をする。 ○上記以外の授業に関する事項については、担当教員が判断し決定する。</p>
--

<p>修学サポート（合理的配慮）</p> <p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。</p>
<p>資格指定科目</p> <p>教職課程（全教科）必修科目</p>

評価方法・基準

<p>評価前提条件</p> <p>○単位認定に必要な出席回数は13回。 成績評価は、定期試験（60%）、課題等への対応、講義に臨む姿勢、積極性など（40%）を参考に総合的に判断して行う。 ○各授業回の課題（授業中の課題、事前事後課題）の全提出を単位認定の条件とする。 ○受講姿勢及び課題はすべて点数化・集積し、評価に活用する。 ○自発的な発表の意欲は別途加点、講義中における私的なサイトの閲覧およびSNS等の使用、私語、居眠り、出席管理システムの不正利用などの授業妨害行為は別途減点する。 ○S評価は全体の10%、S評価とA評価を合わせて40%以内となっています。</p>												
<p>評価方法</p> <table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	60%	0%	0%	0%	40%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
60%	0%	0%	0%	40%	0%							

<p>ルーブリック</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・技能</td> <td>定期テストで9割以上の得点を上げた。</td> <td>定期テストで8割以上の得点を上げた。</td> <td>定期テストで7割以上の得点を上げた。</td> <td>定期テストで6割以上の得点を上げた。</td> <td>定期テストの得点が6割未満であった。</td> </tr> <tr> <td>思考の深さ</td> <td>右の記述を高いレベルで実現した。</td> <td>与えられた思考テーマについて、既に学修した知識や自らの経験等と関連させながら深く多面的に考え、根拠を明らかにしながら、論理的に自分の意見をまとめることができた。</td> <td>与えられた思考テーマについて、既に学修した知識や自らの経験等と関連させながら深く多面的に考え、根拠を明らかにしながら、論理的に自分の意見をまとめることができた。</td> <td>与えられた思考テーマについて自分の意見をまとめていくが、思考テーマの意図や論理性に課題があった。</td> <td>与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめていくが、根拠の記述や論理性が著しく欠けており、期待される最低限の基準に到達することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>判断的的確性</td> <td>右の記述を高いレベルで実現した。</td> <td>与えられた思考テーマの意味を的確にとらえ、期待されるすべての論点に言及し、各論点について論理を明確にし、自分の意見をまとめることができた。</td> <td>与えられた思考テーマの意味をとらえているが、期待されるすべての論点には言及できなかった。言及した論点については論理を明確にし、自分の意見をまとめることができた。</td> <td>与えられた思考テーマについて自分の意見をまとめるが、思考テーマの意味のとなえに課題があり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。</td> <td>与えられた思考テーマについて記述しているが、思考テーマの意味のとなえが不十分であり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>表現の適切性</td> <td>右の記述を高いレベルで実現した。</td> <td>他の成員の意見の趣旨を的確にとらえ、簡潔にまとめて記述した。誤字脱字が少なく、丁寧な書き方ができた。各欄の記述の分量が期待される分量の9割を超えた。</td> <td>他の成員の意見の趣旨を簡潔にとらえ、簡潔にまとめて記述することができた。誤字脱字が少なく、丁寧な書き方ができた。各欄の記述の分量が期待される分量の7割程度であった。</td> <td>他の成員の意見を記述しているが、その趣旨を十分にまとめることができなかった。誤字脱字が多量にみられた。各欄の記述の分量が期待される分量の3割程度であるなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。</td> <td>他の成員の意見を記述しているが、内容が極めて不十分であった。誤字脱字が多量にみられた。各欄の記述の分量が期待される分量の3割程度であるなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>主体性・協働性</td> <td>右の記述を高いレベルで実現した。</td> <td>他の成員と積極的に意見交換を行った。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができた。自分の意見と異なる他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述し、意見を述べることができた。</td> <td>他の成員と意見交換しているが、特段積極性は見られなかった。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができた。自分の意見と異なる他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述し、意見を述べることができた。</td> <td>他の成員と意見交換しているが、消極的であった。他の成員の意見の理解が極めて不十分であった。自分の感想等を記述しているが、表面的なものにとどまっていた。</td> <td>他の成員との意見交換に消極的であった。他の成員の意見の理解が不十分であった。自分の感想等を記述しているが、期待される最低限の基準に到達することができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・技能	定期テストで9割以上の得点を上げた。	定期テストで8割以上の得点を上げた。	定期テストで7割以上の得点を上げた。	定期テストで6割以上の得点を上げた。	定期テストの得点が6割未満であった。	思考の深さ	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマについて、既に学修した知識や自らの経験等と関連させながら深く多面的に考え、根拠を明らかにしながら、論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて、既に学修した知識や自らの経験等と関連させながら深く多面的に考え、根拠を明らかにしながら、論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて自分の意見をまとめていくが、思考テーマの意図や論理性に課題があった。	与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめていくが、根拠の記述や論理性が著しく欠けており、期待される最低限の基準に到達することができなかった。	判断的的確性	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマの意味を的確にとらえ、期待されるすべての論点に言及し、各論点について論理を明確にし、自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマの意味をとらえているが、期待されるすべての論点には言及できなかった。言及した論点については論理を明確にし、自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて自分の意見をまとめるが、思考テーマの意味のとなえに課題があり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。	与えられた思考テーマについて記述しているが、思考テーマの意味のとなえが不十分であり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。	表現の適切性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員の意見の趣旨を的確にとらえ、簡潔にまとめて記述した。誤字脱字が少なく、丁寧な書き方ができた。各欄の記述の分量が期待される分量の9割を超えた。	他の成員の意見の趣旨を簡潔にとらえ、簡潔にまとめて記述することができた。誤字脱字が少なく、丁寧な書き方ができた。各欄の記述の分量が期待される分量の7割程度であった。	他の成員の意見を記述しているが、その趣旨を十分にまとめることができなかった。誤字脱字が多量にみられた。各欄の記述の分量が期待される分量の3割程度であるなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。	他の成員の意見を記述しているが、内容が極めて不十分であった。誤字脱字が多量にみられた。各欄の記述の分量が期待される分量の3割程度であるなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。	主体性・協働性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員と積極的に意見交換を行った。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができた。自分の意見と異なる他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述し、意見を述べることができた。	他の成員と意見交換しているが、特段積極性は見られなかった。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができた。自分の意見と異なる他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述し、意見を述べることができた。	他の成員と意見交換しているが、消極的であった。他の成員の意見の理解が極めて不十分であった。自分の感想等を記述しているが、表面的なものにとどまっていた。	他の成員との意見交換に消極的であった。他の成員の意見の理解が不十分であった。自分の感想等を記述しているが、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
知識・技能	定期テストで9割以上の得点を上げた。	定期テストで8割以上の得点を上げた。	定期テストで7割以上の得点を上げた。	定期テストで6割以上の得点を上げた。	定期テストの得点が6割未満であった。																																				
思考の深さ	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマについて、既に学修した知識や自らの経験等と関連させながら深く多面的に考え、根拠を明らかにしながら、論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて、既に学修した知識や自らの経験等と関連させながら深く多面的に考え、根拠を明らかにしながら、論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて自分の意見をまとめていくが、思考テーマの意図や論理性に課題があった。	与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめていくが、根拠の記述や論理性が著しく欠けており、期待される最低限の基準に到達することができなかった。																																				
判断的的確性	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマの意味を的確にとらえ、期待されるすべての論点に言及し、各論点について論理を明確にし、自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマの意味をとらえているが、期待されるすべての論点には言及できなかった。言及した論点については論理を明確にし、自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて自分の意見をまとめるが、思考テーマの意味のとなえに課題があり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。	与えられた思考テーマについて記述しているが、思考テーマの意味のとなえが不十分であり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。																																				
表現の適切性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員の意見の趣旨を的確にとらえ、簡潔にまとめて記述した。誤字脱字が少なく、丁寧な書き方ができた。各欄の記述の分量が期待される分量の9割を超えた。	他の成員の意見の趣旨を簡潔にとらえ、簡潔にまとめて記述することができた。誤字脱字が少なく、丁寧な書き方ができた。各欄の記述の分量が期待される分量の7割程度であった。	他の成員の意見を記述しているが、その趣旨を十分にまとめることができなかった。誤字脱字が多量にみられた。各欄の記述の分量が期待される分量の3割程度であるなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。	他の成員の意見を記述しているが、内容が極めて不十分であった。誤字脱字が多量にみられた。各欄の記述の分量が期待される分量の3割程度であるなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。																																				
主体性・協働性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員と積極的に意見交換を行った。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができた。自分の意見と異なる他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述し、意見を述べることができた。	他の成員と意見交換しているが、特段積極性は見られなかった。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができた。自分の意見と異なる他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述し、意見を述べることができた。	他の成員と意見交換しているが、消極的であった。他の成員の意見の理解が極めて不十分であった。自分の感想等を記述しているが、表面的なものにとどまっていた。	他の成員との意見交換に消極的であった。他の成員の意見の理解が不十分であった。自分の感想等を記述しているが、期待される最低限の基準に到達することができなかった。																																				

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課）
科目名称	総合的な学習の時間の（科目ナンバリング：）				
授業担当者（所属・職名）	西崎 毅（社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2（単位認定責任者：西崎 毅）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして総合的な学習の時間の指導法に関連する諸事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』	文部科学省	東山書房	2017	9784827815610	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』	文部科学省	学校図書	2018	9784762505362	
2	『中学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2017	9784827815795	
3	『高等学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2018	9784827815672	
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	学習指導要領の変遷並びに総合的な学習の時間の創設及び改訂の趣旨について シラバスの説明	シラバスを確認して学修の心構えを、持つこと。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
2	総合的な学習の時間の意義について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
3	総合的な時間の目標について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
4	各学校において定める目標及び内容について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
5	指導計画の作成上の配慮事項と内容の取扱いについての配慮事項について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
6	総合的な学習の時間の目標を実現するにふさわしい探究課題について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
7	総合的な学習の時間の全体計画の作成について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
8	総合的な学習の時間の年間指導計画の作成について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
9	総合的な学習の時間の単元計画の作成について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
10	総合的な学習の時間の学習指導の基本的な考え方について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
11	探究的な学習の過程における「主体的・対話的で深い学び」について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
12	探究的な学習の指導上の留意点について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
13	総合的な学習の時間の評価について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
14	総合的な学習の時間を充実させるための校内組織体制の整備について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（90分）
15	総合的な学習の時間を充実させるための環境整備及び外部との連携について 授業改善アンケートの実施	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	前15回の学修内容を復習すること。（90分）
16	70分の試験終了後、残りの20分で解説を行う。	前15回の学修内容を復習すること。（90分）	試験を振り返り、自分の学修姿勢を評価すること。（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉制度論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士や教員として相談援助を行っていたが、実際に活用する制度やサービスを実践面に即して授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

精神保健福祉に関する制度とサービスについて理解する。精神障害者の特徴、生活状況、精神保健福祉法、障害者総合支援法、年金・医療・生活保護など各種制度を理解し、マネジメントを把握する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP 1、DP 2、DP 3、DP 4に対応する。(2023年度)

到達目標

精神保健福祉領域の基礎知識をもとに、自分なりの考えを述べることができる。

授業全体の内容と概要

精神障害者を取り巻く課題を学び、グループワークやディスカッションを行う。板書やプリントの確認問題を行いながら学習を行う。確認問題は解説を行う。また、事例検討に関しては、事後の状況を説明し制度と生活支援がイメージできるようにフィードバックを行う。「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目である。

授業の方法

教科書は必ず持参すること。小テスト、レポートの内容や提出方法は、授業内にて指示する。精神疾患や障害のある人の社会生活にとって、制度やサービスがもつ意義を絶えず問い直ししながら、学習を進めてほしい。ICT活用(双方向型授業・自主学習支援など)、Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

授業態度、単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	30%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に参加し、教科書や板書、確認テストを受けている。	15回以上授業に参加し、積極的に学習ができた。	14回授業に参加し、積極的に学習ができた。	13回授業に参加し、積極的に学習ができた。	12~10回授業に参加し、積極的に学習ができた。	9回以下授業に参加し、積極的に学習できなかった。
確認テストの内容を理解し、定期試験の成績が60点以上である。	確認テストで平均100~90点を獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が89~80点以上を獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が79~70点以上を獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が69~60点以上を獲得できた。	確認テストをある程度受け、定期試験の成績が59点以下しか獲得できなかった。
教科書、資料の内容を理解するため事前学習を行い、授業内で質問や自分の意見をプレゼンテーションする。	事前学習を行い、授業中に5回以上質問や意見を出すことができた。	事前学習を行い、授業中に4回以上質問や意見を出すことができた。	事前学習を行い、授業中に3回以上質問や意見を出すことができた。	事前学習を行い、授業中に2回以上質問や意見を出すことができた。	事前学習や質問、意見を出すことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉制度論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士や教員として相談援助を行っていたが、実際に活用する制度やサービスを実践に即して授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『精神保健福祉制度論』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021年	978-4-8058-8255-9	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション、シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
2	精神障害者に関する制度・施策の理解	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
3	精神障害者に関する制度・施策の理解	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
4	精神障害者の医療に関する制度	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
5	精神障害者の医療に関する制度	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
6	精神障害者の医療に関する制度	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
7	精神障害者の生活支援に関する制度	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
8	精神障害者の生活支援に関する制度	事前に教科書を確認(90分)	事前に教科書を確認(90分)
9	精神障害者の生活支援に関する制度	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
10	精神障害者の経済的支援	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
11	精神障害者の経済的支援	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
12	精神障害者と生活困窮	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
13	精神障害者と生活困窮	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
14	精神保健福祉領域の近年の動向	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
15	まとめ	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える。(90分)
16	確認テスト及びテストの解説 授業改善アンケートの実施	テストの事前学習(90分)	テストの振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育実習(事 (科目ナンバリング:))				
授業担当者(所属・職名)	木村浩紀(社会福祉学科・特任教授)、 千葉聡美(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階(木村)・2号館7階(千葉)		
単位数	1 (単位認定責任者: 木村 浩紀)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教育経験がある教員が、その経験を活かして教育実習について事後指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

特殊教育から特別支援教育に転換した趣旨を的確に把握し、特別支援学校教育実習の意義を認識するとともに、常に教育実習を見据えて、特別支援学校における教師の役割について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP2、DP3、DP5、DP7、DP9に対応する。(2021年度)

到達目標

特別支援学校の教育の概要について理解し、障害のある子どもの教育指導の在り方について基礎的な知識・技能・態度を身に付けることができる。

授業全体の内容と概要

特別支援学校の教育の概要及び授業の実際について理解できるようにするとともに、学校の教育活動全般についても具体的な理解をはかるようにする。また、テーマに関する事項に関して思考・考察、意見交換、討論、発表等の一連の活動を行う。
「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

基本的な授業は、パワーポイント及び配布物資料で実施する。実際に教育実習に行く予定の学校の授業を想定した模擬授業を受講者に行っていたり、模擬授業の感想・意見を発表し、フィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

特別支援教育実習(事前指導 4年)を併せた2単位の取得が必要である。教職科目(特別支援教育)であることから、遅刻や欠席をしないように努めること。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(特別支援)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	70%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
特別支援学校の教育の概要及び障害のある子どもの教育指導の在り方	特別支援教育に係る知識・技能を積極的に習得し、ニーズに対応した教育指導が実施できた。	特別支援教育に係る知識・技能を習得し、ニーズに対応した教育指導が実施できた。	特別支援教育に係る知識・技能を習得し、ニーズに対応した教育指導がほぼ実施できた。	特別支援教育に係る基本的な知識・技能を習得し、ニーズに対応した教育指導がほぼ実施できた。	特別支援教育に係る基本的な知識・技能を習得し、ニーズに対応した教育指導が実施できなかった。
授業テーマに関するレポートの記述・発表	テーマに基づき、的確な思考力・判断力のもと、論理的な内容で、時間内に記述・発表ができた。	テーマに基づき、思考力・判断力を活かした内容で、時間内に記述・発表ができた。	テーマに基づき、資料を参考にして、思考力・判断力のもと、時間内に記述・発表ができた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、ほぼ時間内に記述・発表ができた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、時間内に記述・発表ができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に主体的・積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業にほぼ関心を持って参加することができた。	授業に関心を持って参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育実習(事 (科目ナンバリング:))				
授業担当者(所属・職名)	木村浩紀(社会福祉学科・特任教授)、 千葉聡美(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階(木村)・2号館7階(千葉)		
単位数	1 (単位認定責任者: 木村 浩紀)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 学校現場における教育経験がある教員が、その経験を活かして教育実習について事後指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本 改訂版』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2015		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、オリエンテーション	関連する資料の収集に努めること。(90分)	オリエンテーションの重要事項を整理すること。(90分)
2	学習指導方法の研究(1) ・教育課程の研究 ・関係資料等の調査	事前に内容を確認し、調べておくこと。(90分)	調査内容を整理すること。(90分)
3	学習指導方法の研究(2) ・生徒指導の研究生徒 ・関係資料等の調査	事前に内容を確認し、調べておくこと。(90分)	調査内容を整理すること。(90分)
4	学習指導方法の研究(3) ・特別活動・学校行事の研究 ・関係資料等の調査	事前に内容を確認し、調べておくこと。(90分)	調査内容を整理すること。(90分)
5	模擬授業の実際(各教科等を合わせた指導)	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしておくこと。(90分)	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること。(90分)
6	模擬授業の実際(各教科等を合わせた指導)	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしておくこと。(90分)	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること。(90分)
7	模擬授業の実際(各教科等を合わせた指導)	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしておくこと。(90分)	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること。(90分)
8	模擬授業の実際(各教科等を合わせた指導)	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしておくこと。(90分)	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること。(90分)
9	学習指導方法の研究(4) ・キャリア教育の研究 ・関係資料等の調査	事前に内容を確認し、調べておくこと。(90分)	調査内容を整理すること。(90分)
10	学習指導方法の研究(5) ・「保護者や地域との連携」の研究 ・関係資料等の調査	事前に内容を確認し、調べておくこと。(90分)	調査内容を整理すること。(90分)
11	特別支援教育実習報告会 *指導方法の研究	報告内容を整理し、プレゼンの準備をすること。(90分)	報告内容を整理し、今後の参考にすること。(90分)
12	特別支援教育実習報告会 *指導方法の研究	報告内容を整理し、プレゼンの準備をすること。(90分)	報告内容を整理し、今後の参考にすること。(90分)
13	特別支援教育実習報告会 *指導方法の研究	報告内容を整理し、プレゼンの準備をすること。(90分)	報告内容を整理し、今後の参考にすること。(90分)
14	特別支援教育実習報告会 *指導方法の研究	報告内容を整理し、プレゼンの準備をすること。(90分)	報告内容を整理し、今後の参考にすること。(90分)
15	特別支援教育実習報告会 *指導方法の研究	報告内容を整理し、プレゼンの準備をすること。(90分)	報告内容を整理し、今後の参考にすること。(90分)
16	特別支援教育実習(事後学習)のまとめ ・教職員としての心構え 授業改善アンケートの実施	調査や報告内容を整理しておくこと。(90分)	講義内容を整理すること。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	浩而 魅諭(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 浩而 魅諭)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家(パレオアーティスト)、野生動物画家(ワイルドライフアーティスト)、ボールペン画家(イラストレーター)として活動する教師が、実践に即した実習を通して、指導に当たる。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

学生が、イラストレーションを仕事にしていく上で必要とされる技術や社会人としての素養を身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する。(2024年度)

到達目標

学生が、自分の個性に気付きそれをイラストレーションで表現することができる。
 学生が、仕事をしていく上での社会人としての素養を身に付けることができる。
 学生が、依頼者の希望に沿うイラストレーションを制作し提出することができる。

授業全体の内容と概要

学生が、イラストレーションを理解し己の個性をイラストレーションで表現しつつ、依頼者の希望を理解し応えることが出来るようになるため、教師は経験を生かし実践的な教授を行う。

授業の方法

授業は、板書をしたり実物商品や作品を活用しながらイラストレーションの仕事の事例を紹介する講義形式と、疑似依頼者と実践的やりとりを交わしながら社会性を身ににつけつつ、イラストレーション作品を完成させる実技形式で行う。授業は、各課題の説明の後、実技制作にあたる。板書や実際の作品を用いた講義形式の一言授業と、こまめな机間巡視による個々の学生への個別の指導とを組み合わせて行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

設定した課題の締め切りを遵守。実際の仕事の納期を意識すること。
 指定した用具・用品、各自が必要とする材料、道具などを必ず持参すること。
 授業は第一回目からの積み重ね型の形態で行われるので欠かさず出席する事が大前提。
 受講人数や習熟度などによりシラバスの内容の順番を組み替えたり、削ったりすることもある。
 (その都度説明しますのでご理解ください。)
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は2/2回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自己表現について	自分らしさを生かした自分 にしか出来ないイラストレ ーションに気付き制作を十 分的確に行えた。	自分らしさを生かした自分 にしか出来ないイラストレ ーションに気付き制作を 確に行えた。	自分らしさを生かした自分 にしか出来ないイラストレ ーションに気付き制作を 確に行えた。	自分らしさを生かした自分 にしか出来ないイラストレ ーションに気付き制作を 確に行えた。	自分らしさを生かした自分 にしか出来ないイラストレ ーションに気付き制作を 確に行うことが出来な かった。
依頼者との仕事の進め方について	依頼者とやりとりを交わす 中で、依頼者の希望を理解 しそれを表現していく技術 が十分身についた。	依頼者とやりとりを交わす 中で、依頼者の希望を理解 しそれを表現していく技術 が身についた。	依頼者とやりとりを交わす 中で、依頼者の希望を理解 しそれを表現していく技術 がほぼ身についた。	依頼者とやりとりを交わす 中で、依頼者の希望を理解 しそれを表現していく技術 がある程度身についた。	依頼者とやりとりを交わす 中で、依頼者の希望を理解 しそれを表現していく技術 が身につかなかった。
依頼作品(課題)について	自分らしい作品でありなが ら、依頼者の希望に沿うイ ラストレーションを十分 的確に制作することが出来 た。	自分らしい作品でありなが ら、依頼者の希望に沿うイ ラストレーションを 的確に制作することが出来 た。	自分らしい作品でありなが ら、依頼者の希望に沿うイ ラストレーションを 的確に制作することが出来 た。	自分らしい作品でありなが ら、依頼者の希望に沿うイ ラストレーションをある程 度的に制作することが出来 た。	自分らしい作品でありなが ら、依頼者の希望に沿うイ ラストレーションを的確 に制作することが出来な かった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	浩而 魅諭 (デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 浩而 魅諭)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家(パレオアーティスト)、野生動物画家(ワイルドライフアーティスト)、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師が、実践に即した実習を通して指導に当たる。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 授業の説明	予めシラバスに目を通しておく。(45分)	自己をみつめる。(45分)
2	自己紹介(自己プレゼン)	自己の持ち味を考える。 ポートフォリオなどあれば準備しておく。(45分)	明らかになった自己についてまとめておく。(45分)
3	イラストレーションの仕事の流れ	イラストレーションを仕事にするということについて考える。(45分)	イラストレーションという仕事をイメージトレーニングする。(45分)
4	課題提示(擬似依頼者)	自己の強みを改めて意識しておく。(45分)	課題となった仕事(依頼)の内容について整理する。(45分)
5	課題制作1・依頼者とのやりとりの仕方	一社会人としてのメールのマナーや敬語の使い方を確認しておく。(45分)	自分の身に置き換え学習を振り返る。(45分)
6	課題制作2・自己を見つめる	依頼者からの文面をよく読み、熟考しておく。(45分)	依頼者の希望に沿うよう、アイデアを練る。(45分)
7	課題制作3・自己を知る、更に探る	思いを形にする(線で描く、相手に視覚で伝える)準備をする。(45分)	思いを形にするにはどうするかを考える。(45分)
8	課題制作4・タイトル・テーマ決定	依頼内容に合う内容について熟考する(45分)	可能な限り多くのラフ画を考えておく。(45分)
9	課題制作5・構図、画面構成、ラフアイデア	候補のラフ画を厳選しておく。(45分)	ボツになったラフ画も過程として残してまとめておく。(45分)
10	課題制作6・エスキース(構想)	自己の画風について考える。 最終形を頭に思い描く。(45分)	課題の進捗状況を確認する。(45分)
11	課題制作7・エスキース(構想、彩色構成)	自己の画風にあった画材について考える。(45分)	課題の進捗状況を確認し、見直しを持つ。(45分)
12	課題制作8・エスキース(決定)	制作の完成までの見直しを持つ。(45分)	課題の進捗状況を確認し、遅れている場合は進める。(45分)
13	課題制作9・エスキース(完成・チェックを受ける) 作品制作	完成に向けて各所を検討する。(45分)	依頼者の希望に沿っているか再度確認する。 欠けている点があれば補う。(45分)
14	課題制作10・作品制作	依頼者へ添える文面を幾つか考えたり調べたりしておく。(45分)	依頼-提出までの一連の流れを記録して整理しておく。(45分)
15	課題制作11・作品制作	自らの作品を客観的に見つめる。(45分)	本日の反省と次回へのめあてを持つ(45分)
16	課題制作12・作品制作	自らの作品を客観的に見つめる。(45分)	本日の内容の振り返りと次回の課題を自ら探す。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	課題制作13・作品制作	依頼-提出までの流れを予め確認しておく。(45分)	課題の進捗状況を把握し、完成までの見直しをもつ(45分)
18	課題制作14・作品制作	自分の持ち味を再認識、再確認しておく。(45分)	今一度受け取った課題(仕事の依頼)について考える。(45分)
19	課題制作15・作品制作	課題の進め方について復習しておく。(45分)	完成までの見直しを持ち、時間が足りなさそうなら自主的に進めておく(45分)
20	課題制作16・作品制作	今一度依頼の内容を確認しておく。(45分)	依頼者の希望を読み取る。 依頼が生じないよう多方面から気持ちを読み取る。(45分)
21	課題制作17・作品制作	依頼者の立場に立って依頼の内容を見返してみる。(45分)	依頼者がどうしたら納得できるか、どうしたら自己の画風を生かせるか考える。(45分)
22	課題制作18・作品制作	依頼者に伝わる言葉を考えておく。(45分)	依頼者と気持ちを合わせる自己の態度、姿勢について、己を省みる。(45分)
23	課題制作19・作品制作11	依頼者の気持ちを再度考えておく。(45分)	依頼者の希望に沿うことが出来ているか作品を客観的に見つめる(45分)
24	課題制作20・作品制作12	依頼者へ提示する準備をしておく。(45分)	依頼者に納期などを含めた提出までの流れを提示出来たか、漏れはないかを確認する。(45分)
25	課題制作21・作品制作13	自己の画風について整理しておく。(45分)	自己を生かす画風について再考する。(45分)
26	課題制作22・作品制作14	依頼者との信頼関係を維持するときに必要なことは何かを考えておく。(45分)	依頼者の気持ちになって自己の動きを省みる。(45分)
27	課題制作23・作品制作15	自己の画風を追究する。(45分)	それぞれの制作中の作品を客観的な目で見つめてみる。(45分)
28	課題制作24・作品制作16 依頼者へ提出(メール)	客観的に作品を見つめる。(45分)	それぞれの制作中の作品を他者(身内や友達でよい)に見てもらふ。(45分)
29	講評会1	全ての作品の細部を確認しておく。(45分)	作品を客観的な目で見つめる。(45分)
30	講評会2	自らの作品の自己評価を行う。(45分)	他の学生の作品に触れ、多様な価値観を知る、気づく。(45分)
31	講評会3	自らの作品の自己評価を行う。(45分)	他の学生の作品に触れ、多様な価値観を知る、気づく。(45分)
32	講評会4 他已評価 授業改善アンケートの実施	他者の意見、感想を参考に自らの作品についての評価を再検討する。(45分)	合評を通して感じたこと学んだことを以後の制作にどう反映させていくか考える。(45分)

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修・選
科目名称	介護等体験指導 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	堀川厚志(社会福祉学科・特任教授)、 木村浩紀(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階	
単位数	1 (単位認定責任者: 堀川厚志)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を生かして、今日的な課題について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教員として必要な人間関係を養い、個人の尊厳及び共生社会の理念に関する知識を深めるため、特別支援学校の児童生徒や教職員及び社会福祉施設の利用者と職員から貴重な時間提供を受けた中で、介護等体験が実施されることを理解し、積極的、主体的に体験に臨むための知識や態度を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科・経営学科サポートマネジメントコースのDP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)
デザイン学科・建築学科のDP2、DP4に対応する。(2023・2022年度)
社会福祉学科のDP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

特別支援教育の意義を理解するとともに、特別支援学校に在籍する児童生徒の特徴がわかり、適切なかかわり方を理解する。
社会福祉施設の役割を理解するとともに、社会福祉施設や利用者の特徴がわかり、適切なかかわり方について理解する。

授業全体の内容と概要

介護等体験の制度と趣旨及びその目的について指導する。
特別支援学校の校種や教育の概要及び社会福祉施設の役割、介助・介護の実際、体験の際に守るべき基本的なマナーを指導する。体験を想定した心構えや実際にどう行動するかなどについて思考・考察・意見交換等の活動を行う。
「SDGs4:質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、パワーポイントのスライド資料の提示と資料配布による講義形式を主とする。
前半には前時使用する資料を使用し、内容の振り返りと確認を実施する。
資料中には課題を用意し、少人数によるグループワークやペアワークを実施する。
内容によっては、Webサイト検索を通して内容を探究する。
後半には内容の確認小テスト等を実施し、重要ポイントを確認する。
Microsoft Forms等を活用し、小テスト等を実施するなどして、理解度を把握し指導する。
学生の不明点等については、チャットなどを活用し迅速に解決できるようにする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

小学校・中学校の教員免許状を取得するための必修科目である。

修学サポート(合理的配慮)

本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
事前相談を受け、学生の希望する修学サポート内容と授業及び尿かの成立要件等を調整し、修学サポートを実施する。

資格指定科目

教職課程(小学校・中学校)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定必要な最低出席回数は6回以上。
中間で提示課題に沿ったレポートの提出は、単位取得に必須条件とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	30%	0%	0%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
介護等体験についての知識・技能	介護等体験の意義や内容を明確に理解し、体験する上での自己課題や心構えなどを自ら整理することができた。	介護等体験の意義や内容を明確に理解し、自分の考えを整理できた。	介護等体験の意義や内容について一定程度の理解ができた。	介護等体験の意義や内容について一部理解ができた。	介護等体験の意義や内容について理解ができなかった。
介護等体験についての思考・判断・表現	介護等体験について積極的に思考・判断し、自ら表現を工夫して活動することができた。	介護等体験について思考・判断し、自ら表現することができた。	介護等体験について、思考活動に取り組み表現しようすることができた。	介護等体験について、思考することができた。	介護等体験にかかわる思考・判断・表現について必要な取り組みができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業にとっても積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に参加することができた。	授業にいくらかの関心をもって参加できた。	授業に関心がなく参加できなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修・選
科目名称	介護等体験指導 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	堀川厚志(社会福祉学科・特任教授)、 木村浩紀(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 堀川厚志)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を生かして、今日的な課題について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援学校における介護等体験ガイドブック 新エリア』	全国特別支援学校長会、全国特別支援教育推進連盟(編)	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-522-6	
2	『第5版 よくわかる社会福祉施設 教員免許志願者のためのガイドブック』	社会福祉法人全国社会福祉協議会	図書印刷	2020	978-4-7935-1277-3	
3	『5訂版 教師をめざす人の介護等体験ハンドブック』	現代教師養成研究会(編)	大修館書店	2020	978-4-469-26876-8	
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 介護等体験制度の歴史、目的、意義等について	シラバスを確認する 介護等体験制度を調べる (90分)	介護等体験制度の意義等をまとめる (90分)
2	特別支援学校における介護等体験の意義、内容等について	特別支援学校で体験する意義を考える (90分)	内容を整理する (90分)
3	特別支援学校の児童生徒の特徴、教育の概要、授業での働きかけ、教育的配慮等について	特別支援学校の校種、教育概要を知る (90分)	特別支援学校の教育等をまとめる (90分)
4	特別支援学校における介護等体験実施に向けた手続き、体験に際しての留意点と心構えについて	特別支援学校の校種、教育概要を知る (90分)	特別支援学校の教育等をまとめる (90分)
5	社会福祉施設における介護等体験の意義、内容及び社会福祉施設の概要、利用者、活動等について	社会福祉施設について調べる (90分)	社会福祉施設についてまとめる (90分)
6	社会福祉施設の種類、概要、利用者、活動等について 利用者とのかかわりと配慮等について	社会福祉施設について調べる (90分)	社会福祉施設についてまとめる (90分)
7	社会福祉施設における介護等体験に向けた手続き、体験に際しての留意点と心構えについて 授業改善アンケートの実施	社会福祉施設について調べる (90分)	社会福祉施設についてまとめる (90分)
8	介護等体験の意義、内容についてのまとめと定期試験(60分間筆記試験、解答説明10分)	意義、内容について調べ、自己課題を明確にする (90分)	自己課題をまとめる (90分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	測量学 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正(建築学科・特任教授)	研究室等所在	アトリエ棟 1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 長森 正)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義をします。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

古典的測量から現代の測量迄の建築測量関連としての教養的測量を修得し、建築に関する狭い範囲の測量のみならず測量を体系的に広がりを持った理解ができるようになる。

授業の位置づけ

建築学科のDP13、DP4、DP5に対応する。(2024年度)
 建築学科のDP1、DP2に対応する。(2023・2022年度)
 建築学科のDP1、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

建築に必要な基本的測量知識の修得ができる。

授業全体の内容と概要

初めて測量学を学ぶことを前提にして、社会における測量の役割を理解し、実務に合わせた最新測量技術を用いた測量から地図の作成から建築工事測量までの基礎を講義する。

授業の方法

授業は教科書と配布資料を中心にプロジェクターを利用した講義形式で行う。
 建築工事測量の演習も実施して理解を深める。フィードバックとして演習の解説を行う。
 不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

関数電卓持参すること。数学が不得意の学生は基礎となる三角関数の復習に努めること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(工業)選択科目、建築士試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	0%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
測量全般の基礎理解	測量の内容や用語を理解し、測量学全般に関する基礎的な知識を修得し、他人に説明できた。	測量の内容や用語を理解し、測量学全般に関する基礎的な知識を修得できた。	基本的な測量内容や用語について理解し、他人に説明できた。	基本的な測量内容や用語について理解できた。	基本的な測量内容や用語について理解できなかった。
測量機器全般の基礎理解	測量機器・器具の構造と使用法を理解し、正確に操作でき、他人に説明できた。	測量機器・器具の構造と使用法を理解し、正確に操作できた。	測量機器・器具の構造と使用法を理解し、説明できた。	測量機器・器具の構造と使用法を理解できた。	測量機器・器具の構造と使用法を理解できなかった。
測量データの理解	測量におけるデータの意味を理解し、データを用いた計算や成果の表示ができ、他人に指導できた。	測量におけるデータの意味を理解し、データを用いた計算や成果の表示ができた。	測量におけるデータの意味を理解し、簡単な測量計算ができ、他人に説明できた。	測量におけるデータの意味を理解し、簡単な測量計算ができた。	測量におけるデータの意味を理解し、簡単な測量計算ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	測量学 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正 (建築学科・特任教授)	研究室等所在	アトリエ棟1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 長森 正)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技術士・測量士・コンクリート技術士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義をします。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『図説わかる測量』	猪木幹雄・中田勝行・那須充	学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 概論、測量の役割	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
2	地球の形と地図の表し方	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
3	測量の基本(1) 基準点・三角測量	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
4	測量の基本(2) 距離測量・補正演習	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
5	測量の基本(3) 水平角・鉛直角	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
6	測量の基本(4) 単角法・倍角法・方向法	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
7	衛星測位	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
8	トラバース測量	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
9	水準測量(1) 水準測量の基本	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
10	水準測量(2) 昇降式・器高式	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
11	地形測量・平板測量	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
12	建築工事測量・写真測量・GIS測量	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
13	角測量演習	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
14	水準測量演習	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
15	距離測量演習・まとめ	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
16	授業改善アンケートの実施 定期試験60分の試験終了後、残りの30分で解説を行います。	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える(90分)	授業内容全体について資料を整理する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。
 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。
 精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する。
 精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解する。
 個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をマイクロ・メソ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。
 精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023年度)

到達目標

ソーシャルワークの展開に必要な知識や手法等を理解する。

授業全体の内容と概要

精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要、過程、実際について学ぶ。
 多職種連携多機関連携について学ぶ。
 ソーシャルアドミニストレーション、コミュニティワークソーシャルアクション等について学ぶ。
 「SDG3.すべての人に健康と福祉を」の関連科目

授業の方法

授業形態は講義形式で行う。
 テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとすべき箇所は説明、板書を行う。
 質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。
 確認テストを実施し、解答回収後解説を行う。
 Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教科書は必ず持参すること。
 必要な資料等は適宜配布する。
 20分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。
 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	10%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識をおおむね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開についておおむね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことをおおむね説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法 [精神専門]』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版株式会社	2021	9784805882573	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業内容の説明、シラバスの説明 ソーシャルワークの構成要素について	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
2	ソーシャルワークの展開過程について (インターク-プランニング)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
3	ソーシャルワークの展開過程について (インターベンション-アフターケア)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
4	精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点について	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
5	アウトリーチについて	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
6	インタークについて(主訴の把握、スクリーニング、契約)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
7	アセスメント(本人に関する理解、環境に関する理解、アセスメントツール)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
8	援助関係の形成技法について(自己決定、意思決定、パートナーシップ、バウンダリー)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
9	面接技術について(面接の構造、マイクロカウンセリング)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
10	支援の展開(人、環境へのアプローチ)についての事例分析	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
11	支援の展開(ケアマネジメント)について	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
12	精神障害者家族の課題について(ケアラー・ヤングケアラー支援)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
13	家族理解の変遷について(家族システム論、家族の感情表出研究)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
14	家族支援の方法について(家族相談面接、家族関係における暴力への介入)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
15	家族支援の方法について(家族のリカバリー、家族のセルフヘルプグループ)	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
16	試験(60分)実施、終了後解説(30分) 授業改善アンケートの実施	試験のための学習(90分)	試験の振り返りを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	キャラクターデザイン (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

二次元のデザインを三次元に変換させ、その構造を知り、具現化する。自らのデザインを三次元につくり上げるための表現方法を学び、模索する。オリジナルのキャラクターを生み出し、装着の持てる作品に仕上げる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)
 デザイン学科のDP1、DP3、DP5に対応する。(2023、2022年度)
 デザイン学科のDP2、DP3、DP5に対応する(2021年度)

到達目標

二次元のデザインを三次元に変換させ、その構造を知る。自らのデザインを三次元につくり上げるための表現方法を学ぶ。オリジナルのキャラクターを生み出し、立体作品に仕上げる。

授業全体の内容と概要

テーマに沿ったキャラクターを発想し、立体物として仕上げる。張り子技法で制作する。完成後、作品を撮影し、発表する。その後、展示を行い講評にてフィードバックする。「SDGs12・つくる責任つかう責任」の関連授業。

授業の方法

授業内容は板書・パワーポイント・資料配布・実演等の方法で説明する。プロジェクター使用。授業後、デジタル資料はTeam s に保存するので振り返り可能。共同使用する材料はこちらで準備する。個人で使用する物は各自で準備する。ラフデザインの段階でグループワークで野ディスカッションを行い、学生相互でデザインのクオリティ向上を目指す。デザイン決定後、立体制作に入る。課題は講評にてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

課題制作に真剣に取り組むこと。
 ハサミ、カッター、ガムテープ、刷毛、筆、ボウル(入れ物)、は各自で用意すること。
 授業開始から30分で作業の説明をするので遅刻しないこと。
 欠席した場合は次の授業までに同じ段階まで作業を進めておくこと。
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

最低出席回数11回以上。
 作品が期日までに完成していること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
構造の理解	二次元のデザインを三次元に変換させ、その構造を知り、理解し、作品に活かすことができた。	二次元のデザインを三次元に変換させ、その構造を知り、理解することができた。	二次元のデザインを三次元に変換させ、その構造を知り、理解することに努めた。	二次元のデザインを三次元に変換させ、その構造を知ることができた。	二次元のデザインを三次元に変換させ、その構造を知ることができなかった。
表現方法	自らのデザインを三次元につくり上げるための表現方法を学び、模索し、作品に活かすことができた。	自らのデザインを三次元につくり上げるための表現方法を学び、模索することができた。	自らのデザインを三次元につくり上げるための表現方法を学び、模索することに弱めた。	自らのデザインを三次元につくり上げるための表現方法を学ぶことができた。	自らのデザインを三次元につくり上げるための表現方法を学ぶことができなかった。
作品への情熱	オリジナルのキャラクターを生み出し、装着の持てる作品に仕上げ、完成度の高い作品ができた。	オリジナルのキャラクターを生み出し、装着の持てる作品に仕上げることができた。	オリジナルのキャラクターを生み出し、装着の持てる作品に仕上げることに努めた。	オリジナルのキャラクターを生み出し、作品に仕上げることができた。	オリジナルのキャラクターを生み出し、作品に仕上げることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	キャラクターデザイン (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 道具の説明	シラバスを読んでおくこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
2	ラフデザイン グループでのディスカッション	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
3	立体造形 芯づくり	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
4	立体造形 芯づくり	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
5	立体造形 成形	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
6	立体造形 成形	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
7	立体造形 補強	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
8	立体造形 補強	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
9	立体造形 着色	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
10	立体造形 着色	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
11	立体造形 表面加工	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
12	立体造形 表面加工	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
13	立体造形 仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
14	立体造形 仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
15	撮影・発表	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
16	展示・講評 授業改善アンケートの実施	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	技法・材料研究 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安田 祐造)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照してください。				

概要

履修目標
<p>油彩やエッグテンペラだけでなく、その他のものについてもより深く学修し、支持体についても様々な処方を試みる。また、絵画制作をとおし、自らをより深く探求するとともに社会とのかかわりについても考察を深化させることを目標とする。技法材料・研究と重複する部分が多いが、繰り返すことにより、より確かなものを獲得できるようにする。</p>

授業の位置づけ
<p>デザイン学科のDP3、DP4、DP54に対応する。(2024年度) デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2023・2022年度) デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2021年度)</p>

到達目標
<p>油彩やエッグテンペラ、その他のテンペラ、水彩等の技法等から、自らの表現の意図に最も相応しい技法を採用し、作品制作を通して個性豊かに自己実現につなげることができる。</p>

授業全体の内容と概要
<p>自ら採用した技法と材料とを駆使し、自らが設定したテーマに沿って制作を行う。客観的評価を得て自らの表現力を検証する意味で公募展等にも挑戦が、発表の場や形式についても自らの作風や大きさに合わせて選択する。</p>

授業の方法
<p>様々な技法材料について学修するだけでなく、主体的に自らが選択した技法や材料に重点を置き、自己表現する実技形式の授業である。それぞれの個性や哲学に相応しいテーマを設定し、表現した作品を創り上げることを課題とするものである。授業での視聴覚機器を活用した情報提供はもとより、履修生自らが美術館や公募展等で得た情報等を作品や人間形成に寄与させるものである。</p>

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
<p>この授業を履修するに当たっては、間もなく卒業し社会に出ることを前提として、以後美術を通して何が出来るかを引き続き模索するものでもあることを十分に認識したうえで履修すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。</p>

修学サポート(合理的配慮)
<p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>

資格指定科目
<p></p>

評価方法・基準

評価前提条件												
<p>単位認定に必要な最低出席回数は22回以上。</p>												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	70%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	70%	0%	30%	0%							

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
支持体について	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴に習熟し、それらを自らの表現に十分効果的に活かした。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を理解し、それらを自らの表現に効果的に活かした。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を理解し、それらを自らの表現にほぼ効果的に活かした。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を理解し、それらを自らの表現にある程度効果的に活かした。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を十分に理解してあらず、自らの表現に効果的に活かせなかった。
彩色材料について	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴に習熟し、それらを自らの表現に十分効果的に活かした。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を十分理解し、それらを自らの表現に効果的に活かした。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を理解し、それらを自らの表現にほぼ効果的に活かした。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を理解し、それらを自らの表現にある程度効果的に活かした。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を十分に理解してあらず、自らの表現に効果的に活かせなかった。
描写について	モチーフの面やパルルルをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法をより確かに、より効果的に取り入れられた。	モチーフの面やパルルルをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法を確かに、効果的に取り入れられた。	モチーフの面やパルルルをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法をほぼ確かに、ほぼ効果的に取り入れられた。	モチーフの面やパルルルをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法をある程度確かに、ある程度効果的に取り入れられた。	モチーフの面やパルルルをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法が不十分なもので、効果的に取り入れられなかった。
自らについて	自らの感性や個性をより深く認識し、社会とのかかわり方についてもより確かな見識を見出した。	自らの感性や個性を認識し、社会とのかかわり方についての見識も見出した。	自らの感性や個性をほぼ認識し、社会とのかかわり方についてもほぼ確かな見識を見出した。	自らの感性や個性をある程度認識し、社会とのかかわり方についてもある程度の見識を見出した。	自らの感性や個性を認識し、社会とのかかわり方についても見識を見出しえなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	技法・材料研究 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安田 祐造)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
		50年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスについて、授業改善アンケート結果反映の 説明、公募展について	予めシラバスに目をおし、出品予定の公募展につ いても下調べをしておく。(45分)	シラバスの中身に従い、自らの制作についての計画 を立てる。(45分)
2	オリエンテーション シラバスについて、公募展について	自らの感性や表現の意図に相応しい公募展につい て下調べをしておく。(45分)	どの公募展を目指すかを決め、新作のテーマやモ ティーフについて検討する。(45分)
3	様々な技法や材料についての復習 エッグテンペラや油彩の技法・材料について	これまでに学修した様々な絵画技法や材料の特徴を 復習し、新作の表現に最も相応しいものを検討する (45分)	新作についての構想を練る。(45分)
4	様々な技法や材料についての復習 エッグテンペラや油彩の技法・材料について	新作についての構想を取りまとめ、その制作に要す る技法や材料を検討する。(45分)	構想を具体的に下絵として取りまとめ、制作のため の技法や材料を決める。(45分)
5	支持体製作(支持体をどの様にどれだけの大きさ のものにするかは任意選択) 基底材の選択と組み立てについて	新作の表現に最も相応しい基底材を決める。(45 分)	基底材に足りないものがあれば補充を行う。(45 分)
6	支持体製作 基底材の選択と組み立てについて	基底材の組み立てについて、自らの制作に相応しい ものとなるように作業計画を立てる。(45分)	作品の構想を具現化するために、必要とする資料な どの収集を行う。(45分)
7	支持体製作 地塗り材の選択と地塗り作業について	作品の具現化に最も効果的な地塗り材と塗布の仕方 について検討する。(45分)	本時の制作の進捗を観察し、思い通りの地塗りを行 えるように検討する。(45分)
8	支持体製作 地塗り材の選択と地塗り作業について	作品の構想に照らし、最も相応しい地塗りの仕方に ついて検討する。(45分)	本時の地塗りで足りない点がないかを観察する。 (45分)
9	支持体製作 地塗面の仕上げ	作品の構想に照らし、地塗り面の平滑の程度や吸収 の程度を調整する。(45分)	作り上げた支持体を観察し、不備な個所がないかを 観察する。(45分)
10	下絵の支持体への転写	下絵の転写の仕方を決める。(45分)	転写に不足した点はないかを観察し、必要に応じて 加筆する。(45分)
11	本制作 A(制作のための描法・技法・は任意選択) 大まかな色面把握について	大まかな色面把握ということについて予習する。 (45分)	細部に捉われて基本的な骨格を失っていないかを 検討する。(45分)
12	本制作 B 大まかな色面把握について	足りない点や過ぎた点がないかについて検討する。 (45分)	他の学生の制作を参考にすることで、自らの制作 の進め方について検討する。(45分)
13	本制作 C 大まかな色面把握について	明度、彩度、色相のそれぞれの差異に目をやり、自 らの制作の進捗を検討する。(45分)	本時の制作を省みて足りない点や過ぎた点について 修正を行う。(45分)
14	本制作 D 大まかな色面把握について	上描きを繰り返しながら制作を進めることを念頭に 、初期段階から細部に捉われすぎないように注意す る。(45分)	今一度、色の三属性のそれぞれの要素について、大 まかに捉えられているかを確認し、必要に応じて修 正を行う。(45分)
15	本制作 E 上描きによる細部の表現について	局部的に細密に描写するのではなく、常に全体的に 、次第に細部に目をやるように注意する。(45分)	全体に目をやり、全体的にかつ段階的に描き込みが 行われているかを確認する。(45分)
16	本制作 F 上描きによる細部の表現について	色の三属性のそれぞれの要素は、周囲の色との関係 から変化して見えることを再確認する。(45分)	ここで、写実的な描写を行う場合は、まず明度につ いて、構想したものと間に隔たりが生じていない かを検討する。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	本制作 G 上描きによる細部の表現について	色の明度の観点から、足りない点や過ぎた点がない かについて検討する。(45分)	同様に、彩度や色相についても、周囲の色の影響を 考慮し、構想したものと間に隔たりが生じていな いかを検討する。(45分)
18	本制作 H 上描きによる細部の表現について	過ぎた点については、必要に応じて、削ったり拭 いたりして後戻りすることを検討する。(45分)	削除したり加筆したりする場合、描画材料により、 溶剤や用具について慎重に検討する。(45分)
19	中間発表	これまでの自らの制作振り返る。(45分)	中間発表会で寄せられた他者の意見や助言や感想に ついて取りまとめる。(45分)
20	中間発表	他の学生の制作について、各々の感性や表現の仕方 など、それぞれの良さを見つけ出すように努める。 (45分)	他者の意見や感想などを糧として、これからの制作 の仕方について計画を立てる。(45分)
21	本制作 I さらなる描き込みについて(質感表現を主に)	ことに、明度に着目し、質感表現について検討する (45分)	明度差・コントラスト・やタッチにより質感が変化 することに着目し、これまでの制作を検討する。 (45分)
22	本制作 J さらなる描き込みについて(質感表現を主に)	それぞれの色相の明度を見極めて、質感が十分に表 現されつつあるかを検討する。(45分)	色合いのある色面の明度について着目し、古今の作 品などを参照する。(45分)
23	本制作 K さらなる描き込みについて(陰影表現を主に)	明部と暗部のそれぞれの明るさの差を見極められ るように努める。(45分)	次第に、作品の構成要素が増加し複雑化するが、部 分と部分だけでなく部分と全体との関係について 、隔たりが生じていないかを検討する。(45分)
24	本制作 L さらなる描き込みについて(陰影表現を主に)	確かな陰影表現により、空気感が表現できるように 努める。(45分)	陰影の部分と明部との関係について、明度だけでな く、彩度や色相についても検討する。(45分)
25	本制作 M さらなる描き込みについて(色彩調和を主に)	かたちや立体感を追い求めるのと同時に、表現の意 図に合った色彩調和について目をやる。(45分)	美しい調和だけでなく、良い調和とはどういうことか について検討する。(45分)
26	本制作 N さらなる描き込みについて(色彩調和を主に)	かたちを損なうことのないように、色彩調和を求め る。(45分)	立体感や奥行きの感を損なうことなく、色彩調和をは かるための要点は何かについて検討する。(45分)
27	本制作 O 仕上げに向けて	さらに全体を見通して、部分どうしや全体とのバラ ンスや調和について検討する。(45分)	仕上げに向け、かたちや色についてだけでなく、質 感の表現についても検討する。(45分)
28	本制作 P 仕上げに向けて	立体感や空気感が表現できているかを検討する。 (45分)	明部と暗部とについて、かたちや色彩調和を描き ながら、足りない点や過ぎた点について修正を行 う。(45分)
29	本制作 Q 仕上げに向けて	構想や表現の意図が作品に反映されているかの検討 を行う。(45分)	構想や表現の意図に照らし、的確な色彩表現が行 えているかを検討する。(45分)
30	本制作 R 仕上げに向けて	色彩調和について、全体調整を行う。(45分)	発表を前に、さらに全体に目をやり、自らの構想や 表現の意図に照らし調整を行う。(45分)
31	合評 A	これまでの制作活動を振り返り、良い点や足りない 点などについて検討する。(45分)	他者の意見や助言や感想を参考に、自らの制作と作 品についての自己評価を行う。(45分)
32	合評 B、授業改善アンケートの実施	他者との感性や価値観の相違、多様性などを認め、 卒業後の社会生活のあり方についての考えをまと める。(45分)	合評会での他者の意見や助言や感想を参考に、卒業 後の制作活動について検討する。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	施工管理技士演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

1級建築施工管理技士(学科)試験の合格に必要な知識を修得し、学科試験に合格できる学力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のD P 2に対応する。(2024年度)
 建築学科のD P 2に対応する。(2023・2022年度)
 建築学科のD P 2に対応する。(2021年度)

到達目標

国家資格である「1級建築施工管理技士」の学科試験に合格できる学力を備えることができる。

授業全体の内容と概要

使用テキストに沿って「1級建築施工管理技士学科試験」項目の講義および演習問題の実施・解説を行い、建築施工管理について修得する。

授業の方法

授業は配布する各章の過去問題をテスト形式で実施し、次回にその解説を行う。事前学習と各章の小テストの解説によって理解を深める。不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○ その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

準備学習として教科書の読み込みを行い、当日の過去問題の小テストに備え、講義後はその復習に努める。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

評価方法は、毎回の各章の小テストの合計得点を勘案し、総合的に判断する。単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。また、定期試験は実施せず、日常授業の8回の小テスト(課題)の結果を勘案して総合評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
1級建築施工管理技士の学科試験に必要な知識を修得できる。	1級建築施工管理技士(学科)試験の合格に必要な知識を修得できていた。	1級建築施工管理技士(学科)試験の合格に必要な知識をおおむね修得できていた。	1級建築施工管理技士(学科)試験の合格に必要な知識を最低限修得できていた。	1級建築施工管理技士(学科)試験の合格に向けて取り組む意志があった。	1級建築施工管理技士(学科)試験の合格に必要な知識を修得できていなかった。または、取り組む意志がなかった。
共生社会の実現ならびに貢献できる人材として、建築の基礎力を養うことができる。	建築が社会で果たす役割を理解し、基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、ある程度の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、最低限の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解していた。	建築が社会で果たす役割を理解していなかった。
建築技術者としての問題意識を持ち、その問題解決の意識を持つことができる。	建築についての問題意識を持ち、問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、ある程度問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、どのような問題が存在しているかを理解していた。	建築についての問題意識を持ち、問題解決の必要性を理解していた。	建築についての問題意識を持たなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	施工管理技士演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『令和5年度 1級建築施工管理技士学科テキスト』		建築資料研究社	2023		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明 授業改善アンケート結果に関する説明(小笠原)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
2	構造力学・問題・解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
3	計画原論・一般構造・問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
4	計画原論・一般構造・解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
5	建築材料・問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
6	建築材料・解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
7	躯体工事・問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
8	躯体工事・解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
9	躯体工事・問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
10	躯体工事・解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
11	仕上工事・問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
12	仕上工事・解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
13	仕上工事・問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
14	仕上工事・解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
15	設備工事・その他・問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
16	設備工事・その他・解説 授業改善アンケートの実施	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 力(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	アトリエ棟 2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実技経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

彫刻の特性を活かして、構造的にも安定した美しい作品を制作することが出来る。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)
デザイン学科のDP1、DP3、DP5に対応する。(2023-2022年度)

到達目標

彫刻の特性を理解して作品を制作することが出来る。

授業全体の内容と概要

彫刻では、木彫の基本的な技法、用具の使いかた、材料についての知識を実践的に学ぶ。課題はAまたはBのどちらか1つを選択して行う。Aは写実表現を深く学ぶ。Bは写実表現+抽象彫刻。

授業の方法

スライドを使って課題の説明を行なった後、各自作品制作を行う。作品完成後、プレゼンテーションを行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

立体構成1及び2、彫刻1を履修したものが望ましい。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

20回以上の出席がない場合は評価の対象としない。
評価は作品点(70%)、及び主体的に学ぶ姿勢「平常点」(30%)の基準で行う。
講義の前半で課題を説明するため、30分以上の遅刻は出席として認めない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
彫刻の基本的な特性の理解(知識・理解)	作品が自立し、構造的にも安定している。また、彫刻の特性を理解し、上手く活用しており、美しかった。	作品が自立し、構造的にも安定している。また、彫刻の特性を理解し、活用していた。	作品が自立し、構造的にも安定している。また、彫刻の特性を活用しようとしていた。	作品が自立し、構造的にも安定していた。	作品が自立せず、彫刻として成立していなかった。
編集と発表の能力(思考力・表現力・判断力等)	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、美しくデザインされたボードを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、ボードを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を収めたボードを作成した。	制作した作品を収めたボードを作成した。	制作した作品を収めずボードを作成しなかった。
主体的に学習に取り組む態度(主体性・多様性・協働性)	課題を予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。また課題を超えて制作を行なった。	課題の予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。	課題の予習または復習をした。自ら計画を立て、制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受け、計画的に制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受けて計画的に制作を行う事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 力(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	アトリエ棟2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実技経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスをよく読んでおくこと(45分)	オリエンテーションを振り返り、内容を理科しておく事(45分)
2	彫刻を考える	身近な彫刻作品について考えてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
3	木彫 A「りんご」ドローイング B「たまご」ドローイング	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
4	木彫 A「りんご」ドローイング B「たまご」ドローイング	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
5	木彫 A「りんご」 B「たまご」	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
6	木彫 A「りんご」 B「たまご」	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
7	木彫 A「りんご」荒彫り B「たまご」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
8	木彫 A「りんご」荒彫り B「たまご」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
9	木彫 A「りんご」彫り B「たまご」仕上げ	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
10	木彫 A「りんご」彫り B「たまご」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
11	木彫 A「りんご」 B「たまご」	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
12	木彫 A「りんご」彫り B「たまご」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
13	木彫 A「りんご」彫り B「たまご」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
14	木彫 A「りんご」彫り B「たまご」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
15	木彫 A「りんご」彫り B「たまご」仕上げ	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
16	木彫 A「りんご」彫り B「たまご」仕上げ	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	木彫 A「りんご」彫り B「抽象彫刻」ドローイング	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
18	木彫 A「りんご」彫り B「抽象彫刻」ドローイング	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
19	木彫 A「りんご」彫り B「抽象彫刻」荒彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
20	木彫 A「りんご」彫り B「抽象彫刻」荒彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
21	木彫 A「りんご」彫り B「抽象彫刻」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
22	木彫 A「りんご」彫り B「抽象彫刻」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
23	木彫 A「りんご」彫り B「抽象彫刻」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
24	木彫 A「りんご」彫り B「抽象彫刻」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
25	木彫 A「りんご」彫り B「抽象彫刻」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
26	木彫 A「りんご」彫り B「抽象彫刻」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
27	木彫 A「りんご」仕上げ B「抽象彫刻」仕上げ	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
28	木彫 A「りんご」仕上げ B「抽象彫刻」仕上げ	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
29	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
30	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
31	講評	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと(45分)	講評を再考し、理解を深めること(45分)
32	講評 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと(45分)	講評を再考し、理解を深めること(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	応用数学 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

学生が微分積分の基礎知識を養う力を身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)
建築学科のDP2に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

基本的な数学の知識から学び、微分積分の基礎知識までを修得する。さらに、それらのことを通して、答えだけでなく、計算過程(思考過程の説明)も大切であることを理解し、習得することができる。

授業全体の内容と概要

数の計算から始まり、分数・因数分解・平方根・一次関数・極限値、導関数、微分法の公式、べき・三角関数・指数関数・対数関数などの微分、不定積分、置換積分法、部分積分法など、豊富な練習問題を計算することによって、微分積分の知識の定着を図る。「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、板書及び配布資料で実施し、板書及び資料にて説明した後、課題演習を行う。また、課題及び演習の解答は時間内に行うようにする。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	〇 双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

講義内容を十分に理解するために予習・復習を怠らず、また講義や演習に対して積極的に取り組むこと。予習・復習を怠らないこと。授業時間の半分以上の遅刻は欠席とみなします。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(工業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

11回以上の出席、レポート課題の提出と定期試験の結果を総合し絶対評価及び相対評価を併用して判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	20%	0%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
微分積分の基礎知識の修得	極限及び微分積分の基礎知識が100%理解できた。	極限及び微分積分の基礎知識が90%以上理解できた。	極限及び微分積分の基礎知識が80%以上理解できた。	極限及び微分積分の基礎知識が70%以上理解できた。	極限及び微分積分の基礎知識が70%も理解できなかった。
計算過程(思考過程の説明)の習得	演習問題は計算過程(思考過程の説明)を100%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程(思考過程の説明)を90%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程(思考過程の説明)を80%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程(思考過程の説明)を70%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程(思考過程の説明)を70%も記述したレポートにならなかった。
微分積分を学ぶために必要な基礎数学の知識の修得	基礎数学の知識が100%理解できた。	基礎数学の知識が90%以上理解できた。	基礎数学の知識が80%以上理解できた。	基礎数学の知識が70%以上理解できた。	基礎数学の知識が70%も理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	応用数学 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適時資料配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス、シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
2	整数と計算	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
3	分数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
4	展開・因数分解	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
5	平方根・一次関数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
6	極限值・連続関数	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
7	導関数	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
8	べきの微分	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
9	微分法の公式1(極限值)	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
10	微分法の公式2(導関数)	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
11	初等関数の微分1(三角関数)	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
12	初等関数の微分2(指数関数・対数関数)	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
13	不定積分1(原始関数と不定積分)	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
14	不定積分2(初等関数の積分)	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
15	まとめ及び授業改善アンケートの実施	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説を行います。	全内容の再確認及び理解を行う。(90分)	総理解(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	五十嵐 優美子(デザイン学科・客員教授)	鴨 修平(デザイン学科・非常勤)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 鴨 修平)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	漫画連載・単行本出版経験のある教員が、漫画の描き方を基礎から指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

漫画の基礎技術の向上と現代における表現技法の多様性を学習し、漫画雑誌だけを発表の場としない柔軟な考えを身につけ、芸術文化の推進に率先垂範できる能力を身に付けることにも、芸術文化をとおし社会における使命・役割を理解する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。(2024年度)
 デザイン学科のDP 1、DP 3、DP 5に対応する。(2023・2022年度)
 デザイン学科のDP 2、DP 3、DP 5、DP 6に対応する。(2021年度)

到達目標

漫画の作業工程を理解し、制作する中で漫画の読者の立場から作者の立場に視点を変化することができる。

授業全体の内容と概要

いくつかの課題を通して基礎的なテクニックの確認と補強をしながら、雑誌投稿などを想定した漫画作品の制作を各自で行う。個人の能力にあわせて指導し、漫画を完成させる。

授業の方法

板書及び参考資料とプリントを使って説明をし、各自で制作の実技を行う。制作の際は適宜講師との打ち合わせを行う。制作期間中は宿題とし、期限内に提出する。作品によってはその日の授業内に提出するものもある。提出物にはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

作品制作に応じて必要な画材があれば持参すること。デジタル作品を制作する場合はノートパソコンやタブレットを持参すること。(持参できない場合は講師と相談) 3回の遅刻で1回の欠席とみなす。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上。
 授業内で示した作業スケジュールを遵守し、期日内に作品を提出する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
漫画表現(知識と理論の理解)	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論を十分に理解し、それらを自らの創作に活かして作品を完成できた。	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論を理解し、それらを自らの創作に活かして作品を制作できた。	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論をある程度理解し、それらを自らの創作に活かす努力ができた。	漫画・イラスト制作における知識を理解できた。	漫画・イラスト制作における知識を理解できなかった。作品を提出できなかった。
漫画制作(ストーリー創作技術)	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを十分に理解し、自らの表現したいテーマを決めて創作し作品を完成できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解し、作品を創作できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックをある程度理解し、作品を創作する努力をした。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割等のテクニックを理解できなかった。作品を創作できなかった。
漫画制作(作画技術)	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し適切に使用して、自らの考えたテーマや個性を十分に表現し、完成できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し適切に使用して、自らのテーマや個性を表現できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し、使用できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	五十嵐 優美子(デザイン学科・客員教授)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 鴨 修平)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 漫画連載・単行本出版経験のある教員が、漫画の描き方を基礎から指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	*必要に応じて参考資料を提示、プリントを配布					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケートの結果反映の説明 シラバスの説明・原稿の制作手順	シラバスを読んでおくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
2	好きな作品のプレゼンイラスト2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
3	ストーリーのネームと実技1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
4	ストーリーのネームと実技2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
5	ストーリーのネームと実技3	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
6	ストーリーのネームと実技4	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
7	ストーリーのネームと実技5	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
8	ストーリーのネームと実技6	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
9	4P漫画制作 プロット	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
10	4P漫画制作 プロット	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
11	4P漫画制作 ネーム1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
12	4P漫画制作 ネーム2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
13	4P漫画制作 ネーム3	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
14	4P漫画制作 下書き	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
15	4P漫画制作 ペン入れ	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
16	4P漫画制作 仕上げ	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	ストーリー漫画制作 プロット	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
18	ストーリー漫画制作 ネーム1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
19	いがらしゆみこ特別講座	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
20	いがらしゆみこ特別講座	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
21	ストーリー漫画制作 ネーム2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
22	ストーリー漫画制作 下書き1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
23	ストーリー漫画制作 下書き2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
24	ストーリー漫画制作 ペン入れ1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
25	ストーリー漫画制作 ペン入れ2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
26	ストーリー漫画制作 ペン入れ3	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
27	ストーリー漫画制作 背景	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
28	ストーリー漫画制作 ベタぬり・効果線	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
29	ストーリー漫画制作 スクリーントーン	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
30	ストーリー漫画制作 仕上げ	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
31	授業改善アンケートの実施 講評	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
32	講評	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	松岡 龍介（デザイン学科・准教授）		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	造形論（科目ナンバリング： ）				
授業担当者（所属・職名）	松岡 龍介（デザイン学科・准教授）	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2（単位認定責任者：松岡 龍介）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が美術、デザインの専門家に必要な基礎的素養としての造形解釈について理解することが目的である。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
 デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2023・2022年度）
 デザイン学科のDP1、DP2、DP3に対応する。（2021年度）

到達目標

学生が造形論に関わる内容に関して(最低限の)口頭での発表またはレポート形式で記述することを学ぶことができる。

授業全体の内容と概要

学生が美術、デザインにおける基本的素養としての造形解釈について理解するために、授業計画に記載されている「ハイブリッド感覚」や「類像現象」などの直観的で造形の本質に関するテーマに触れ、理解した内容やコンセプト、自らの思考を口頭での発表やレポート形式で記述する。

授業の方法

授業のプレゼンテーションの方法としてパワーポイントを用いて授業を実施し、講義形式で授業をすすめる。毎回の授業の要点を各自が自筆ノートにまとめる。これらをもとに、各自が毎回のテーマについてアクティブラーニングとして各自が自らが主体となって能動的に口頭での発表や、レポート形式で記述（レポート制作）する。
 学生が、プレゼンテーションとしての口頭での発表やレポート形式で記述を行う。
 実験・実習・実技として各自が制作した課題レポート（13課題）の確認とアドバイスによる双方向授業を行う。
 また、毎回の口頭での発表や、レポートに対して、フィードバックとして添削およびコメントをする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。但し、高等学校教諭一種免許状（工芸）の科目として履修している学生は除く。
 自筆ノートを制作すること。
 レポートの作成について、特に、ウェブを参考にした場合、その記述について注意すること。
 出席を取り終わったあとは欠席とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術・工芸）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

10回以上の最低出席回数。および、レポート課題10課題以上の提出の双方。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
造形論における対象が、人間に関わる文化的な表徴であることを理解し表現している。	口頭の発表ないしはレポートで記述の中で、例えば、造形によって表現されたものが何処か文化的な普遍性のようなものが表現されていることについて、十分に目標に達成していた。	口頭の発表ないしはレポートで記述の中で、例えば、造形によって表現されたものが何処か文化的な普遍性のようなものが表現されていることについて、概ね出来ていた。	口頭の発表ないしはレポートで記述の中で、例えば、造形によって表現されたものが何処か文化的な普遍性のようなものが表現されていることについて、不十分ではあるが出来ていた。	口頭の発表ないしはレポートで記述の中で、例えば、造形によって表現されたものが何処か文化的な普遍性のようなものが表現されていることについて、最低限出来ていた。	口頭の発表ないしはレポートで記述の中で、例えば、造形によって表現されたものが何処か文化的な普遍性のようなものが表現されていることについて、全く出来ていなかった。
各回のテーマに対して対象としたものの解説と、さらには自らが対象としたものについての考察の内容が充実している。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、対象としたものの考察に自らの“発明”“発見”的な要素のある内容が含まれていることが、十分に目標に達成していた。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、対象としたものの考察に自らの“発明”“発見”的な要素のある内容が含まれていることが、概ね出来ていた。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、対象としたものの考察に自らの“発明”“発見”的な要素のある内容が含まれていることが、不十分ではあるが出来ていた。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、対象としたものの考察に自らの“発明”“発見”的な要素のある内容が含まれていることが、最低限出来ていた。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、対象としたものの考察に自らの“発明”“発見”的な要素のある内容が含まれていることが、全く出来ていなかった。
レポートとしての構成、内容、および、基本的な記述の形式が正しく表現されている。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、十分に目標に達成していた。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、概ね出来ていた。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、不十分ではあるが出来ていた。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、最低限出来ていた。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	松岡 龍介 (デザイン学科・准教授)		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	造形論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者 (所属・職名)	松岡 龍介 (デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館 7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松岡 龍介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス, 授業の進め方, 単位認定について シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認(90分)	ガイダンス, 授業の進め方についての確認 (90分)
2	ハイブリッド感覚	ハイブリッド感覚(90分)	ハイブリッド感覚(90分)
3	類像現象	類像現象(90分)	類像現象(90分)
4	手法としての流用	手法としての流用(90分)	手法としての流用(90分)
5	架空の風景	架空の風景(90分)	架空の風景(90分)
6	ミニチュア化	ミニチュア化(90分)	ミニチュア化(90分)
7	表現形式としてのドット	表現形式としてのドット(90分)	表現形式としてのドット(90分)
8	組み替えのデザイン	組み替えのデザイン(90分)	組み替えのデザイン(90分)
9	表現形式のアーキタイプ	表現形式のアーキタイプ(90分)	表現形式のアーキタイプ(90分)
10	構成要素で構成されている造形	構成要素で構成されている造形(90分)	構成要素で構成されている造形(90分)
11	擬態するデザイン	擬態するデザイン(90分)	擬態するデザイン(90分)
12	作品の再解釈について	作品の再解釈について(90分)	作品の再解釈について(90分)
13	見立て	見立て (90分)	見立て (90分)
14	簡略化のデザイン	簡略化のデザイン(90分)	簡略化のデザイン(90分)
15	まとめ レポート提出	簡略化のデザイン(90分)	まとめ レポート提出(90分)
16	講評 レポート返却 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問事項をまとめておく(90分)	評価を受け講義全体の理解を深める(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	國松 明日香(デザイン学科・客員教授)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 國松 明日香)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

(課題)では形として目で見ることができないものをテーマとして、それを目に見える形として表現する技量を身につける。
 (課題)では(課題)で取り組んだ結果を更に発展させ、北海道らしい四季を作品制作のテーマとして掲げ、その形象化を目指し、彫刻作品として完成させ、併せて様々な素材を体験し、今後の制作活動に役立てる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)
 デザイン学科のDP1、DP2に対応する。(2023・2022年度)
 デザイン学科のDP2、DP3、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

自然が持つ優れた造形性を理解し、形態の美しさについて学び、それらを他者に伝えることができる。

授業全体の内容と概要

(課題)では「暖かさ」をテーマに抽象彫刻をテラコッタ(粘土を素焼きにしたもの)として制作。陶芸用の粘土で制作し、乾燥後陶芸用の窯にて焼成する。
 (課題)では「四季」あるいは「春」、「夏」、「秋」、「冬」の中からひとつの季節を選び、様々な素材(金属、流木、石膏、粘土など)にて立体造形作品として制作する。

授業の方法

(課題)抽象彫刻をテーマにパワーポイントにて講義をする。「暖かさ」という言葉からイメージする形態を導き出し、アイディアスケッチを制作。陶芸用粘土にて実制作に入り、乾燥後陶芸用の窯にて焼成する。完成作品についてプレゼンテーションしてもらう。それについて講評する。
 (課題)四季を表現した美術作品や音楽作品を鑑賞し、意見を述べ合う。「四季」あるいは「春」、「夏」、「秋」、「冬」の中からひとつの季節を選び、アイディアスケッチを制作。実制作に使用する素材を決め、実制作に移る。使用する素材へのアドバイスや立体に組み立てるための技法を指導する。完成作品についてプレゼンテーションしてもらい、それについて講評する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

実制作に入ってから、作業に適した服装で受講すること。
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にいるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
資料の活用(知識の習得)	課題の意味をしっかりと理解し、それに関する情報を積極的に収集し、必要資料等を活用しながら的確に作品に反映させることができた。	課題の意味をしっかりと理解し、それらの資料等の収集に努め、それらの内の数点を的確に作品に反映させることができた。	課題の意味を理解し、資料を複数収集し、それらの資料をよく活用しながら作品に反映させることができた。	資料を収集しそれを活用して作品を完成させることができた。	資料の収集ができなかった。更に作品を完成させることができなかった。
作品とコンセプトの考え方(思考力・表現力)	作品制作のコンセプトが的確であり、それらの表現力に優れ、更に技術力も高い。又作品の完成度も高い。	作品制作のコンセプトをしっかりと持って、それらの表現力も的確に持っている。又作品の完成度も高い。	作品制作のコンセプトを持っている。それを作品に反映させている。又作品の完成度も高い。	作品制作のコンセプトを持っている。それを作品に反映させている。又作品の完成度も認められる。	作品制作のコンセプトが認められない。更に作品を完成させることができなかった。
プレゼンテーション(表現力)	自分自身が制作した作品について、作品を客観的に眺めることができ、その制作プロセスやコンセプトを他者に的確にプレゼンテーションすることができた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることがしっかりとできた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることができた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることがある程度できた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	國松 明日香(デザイン学科・客員教授)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 國松 明日香)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 (課題)についてのオリエンテーション。パワーポイントを使って課題のテーマに沿った彫刻作品の解説。併せてテラコッタ作品を鑑賞。	シラバスを読んでおくこと。(45分)	制作に参考となる資料の収集。(45分)
2	(課題)についてのオリエンテーション。パワーポイントを使って課題のテーマに沿った彫刻作品の解説。併せてテラコッタ作品を鑑賞。	シラバスを読んでおくこと。(45分)	制作に参考となる資料の収集。(45分)
3	集めた資料を基に発表。	制作に参考となる資料の収集。(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
4	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
5	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
6	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
7	粘土にて制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
8	粘土にて制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
9	粘土にて制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
10	粘土にて制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
11	粘土にて制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
12	粘土にて制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
13	粘土作品の完成・プレゼンテーション・講評及び採点。	提出すべき作品の確認。(45分)	講義全体を振り返り、まとめを行うこと。(45分)
14	粘土作品の完成・プレゼンテーション・講評及び採点。	提出すべき作品の確認。(45分)	講義全体を振り返り、まとめを行うこと。(45分)
15	(課題)についてのオリエンテーション。東洋・西洋の自然観が判る作品についてパワーポイントにて解説。	制作に参考となる資料の収集。(45分)	制作に参考となる資料の収集。(45分)
16	(課題)についてのオリエンテーション。東洋・西洋の自然観が判る作品についてパワーポイントにて解説。	制作に参考となる資料の収集。(45分)	制作に参考となる資料の収集。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	東洋・西洋の自然観が判る音楽を鑑賞。	制作に参考となる資料の収集。(45分)	制作に参考となる資料の収集。(45分)
18	集めた資料を基に発表。	制作に参考となる資料の収集。(45分)	制作に参考となる資料の収集。(45分)
19	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
20	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
21	各自が使う素材の収集。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
22	各自が使う素材の収集。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
23	実制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
24	実制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
25	実制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
26	実制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
27	実制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
28	実制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
29	実制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
30	実制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
31	作品の完成・プレゼンテーション・講評及び採点。	提出すべき作品の確認。(45分)	講義全体を振り返り、まとめを行うこと。(45分)
32	作品の完成・プレゼンテーション・講評及び採点 授業改善アンケートの実施	提出すべき作品の確認。(45分)	講義全体を振り返り、まとめを行うこと。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築学特講 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	柿沼 博彦(建築学科・客員教授)		研究室等所在	1号館1階・非常勤講師室	
単位数	1 (単位認定責任者: 柿沼 博彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	鉄道技術の基礎知識をもとに、新幹線開発、交流回生及び振子特急の車両などの開発に従事してきたこと等を授業に関連させ教授する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

イノベーションとは何か、デザインとは何か、その本質を知り、今後の授業・社会生活に役立てる。

授業の位置づけ

建築学科のDP 3、DP 4、DP 5 に対応する。(2024年度)
 建築学科のDP 2、DP 3、DP 5 に対応する。(2023・2022年度)
 建築学科のDP 2、DP 3、DP 5、DP 6 に対応する。(2021年度)

到達目標

イノベーションとデザインの理解を深め、イノベーションとデザインの本質及び関係を理解する。

授業全体の内容と概要

イノベーションとは何か、なぜイノベーションが必要なのかを講義する。
 鉄道の視点から見たデザイン(車両・駅舎など)を講義をする。パワーポイントと板書を中心に講義する。
 SDGsの全般的な内容について解説する。

授業の方法

パワーポイントと黒板への板書を中心に講義をする。
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

時間厳守。筆記具(黒板、口述の内容を各自メモ)
 月1回程度の頻度で課題を報告

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。
 レポートや課題作品の提出を課す。出席(率)や受講する姿勢、授業態度等も評点に運動する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	20%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イノベーションとは何か、デザインとは何か、そして双方の関係を理解すること、社会生活の問題を解決することに繋がることを理解できる。	イノベーション、デザイン双方の関係から社会生活の問題解決に繋がることを理解できた。	イノベーション、デザイン双方の関係が新たなものを生み出すことに繋がることを理解できた。	イノベーション、デザイン双方の関係を理解することができた。	イノベーション、デザインそれぞれを理解することができた。	イノベーション、デザインが理解できなかった。
イノベーションの創生に必要なデザイン思考の重要性を理解する。	イノベーションを生み出すためにデザイン思考が担う役割の重要性を理解できた。	イノベーションを生み出すためにデザイン思考が担う役割を理解できた。	イノベーションとデザイン思考との関係を理解できた。	デザインの思考を理解できた。	デザインの思考を理解できなかった。
イノベーションとデザインの本質を知ることから、ものの方、考え方に役立てることができる。	考え方の理解した上で新たなものを生み出す意志を持つことができた。	ものの方、考え方の理解した上で新たなものを生み出す意志を持つことができた。	ものの方、考え方が理解できた。	ものの方を理解できた。	ものの方を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築学特講 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	柿沼 博彦(建築学科・客員教授)		研究室等所在	1号館1階・非常勤講師室	
単位数	1 (単位認定責任者: 柿沼 博彦)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	鉄道技術の基礎知識をもとに、新幹線開発、交流回生及び振り子特急の車両などの開発に従事してきたこと等を授業に関連させ教授する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『イノベーションへの挑戦』	柿沼博彦	中西出版	2015年	4891153091	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	・シラバスの説明・授業改善アンケート結果、反映の説明・イノベーションとは何か。デザインとは何か?	シラバスを読んでおくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
2	・イノベーションとは何のこと? ・何故、現在社会においてイノベーションが求められるのか	イノベーションとは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
3	・様々なイノベーションの創生プロセス(1回) 破壊的イノベーション	イノベーションはいかに誕生するのか調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
4	・様々なイノベーションの創生プロセス(2回) 破壊的イノベーション シュンペーターのイノベーション?	イノベーションはいかに誕生するのか調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
5	・様々なイノベーション 中間まとめ その特徴と共通を考える	イノベーションはどんな特徴と共通性があるのか調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
6	・行動変容から考えるイノベーションの本質 ・3つのドライバー(技術革新・心理変化・社会構造)	行動変容の意味を調べておくこと。・ドライバーの意味を調べておくこと。・技術革新・心理変化・社会構造とは何か調べておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
7	・イノベーションに求められる資質とは ・失敗はイノベーションの糧 ・イノベーションを拒む壁	イノベーションに求められる資質と失敗との関わりについて考えておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
8	・これからのイノベーション環境(グローバル化・多様性・AI時代のイノベーションを考える)	これからのイノベーションは何が求められるのか今までの講義を振り返って考えておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
9	・広義のデザインとシステムデザインについて デザインに求められる資質	広義のデザインとシステムデザインに必要な資質について調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
10	・デザインとデザイン思考について・イノベーションに重要なデザイン思考	デザイン思考とは何か調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
11	・システムデザインの視点から鉄道を考える 鉄道は巨大なシステムである。鉄道の公共性・特殊性(公共・安全・サービス)について	鉄道をシステムデザインするとはどのようなことが調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
12	・鉄道システムデザイン 鉄道のシステムデザインのいくつかの特異性	鉄道のシステムデザインについて調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
13	車両システムと形のデザイン 設計から完成まで	車両システムデザインのプロセスについて調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
14	・駅舎のシステムのデザイン 駅舎の変遷と機能(BF,UD) 駅舎の機能3つのパターン	・駅舎の歴史と役割・機能の変遷を調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
15	・駅舎のシステムのデザイン 新千歳空港駅(デンマーク国鉄とのコラボ)	可能な限り新千歳空港駅をデザインの視点で調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをまとめておくこと。(90分)
16	・駅舎のシステムのデザイン 都市計画と駅舎のデザイン・全体まとめ イノベーションとデザインの共通性・矛盾と向き合う能力を磨く(知性の時	可能な限り旭川駅を中心とした都市計画の視点で調べておくこと。・15回の講義の振り返りをしておくこと。(90分)	解説・フィードバックを受けて講義全体を振り返り理解を深めること。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築学特講 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	柿沼 博彦(建築学科・客員教授)		研究室等所在	1号館1階・非常勤講師室	
単位数	1 (単位認定責任者: 柿沼 博彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	鉄道技術の基礎知識をもとに、新幹線開発、交流回生及び振子特急の車両などの開発に従事してきたこと等を授業に関連させ教授する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

イノベーションとは何か、デザインとは何か、その本質を知り、今後の授業・社会生活に役立てる。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)
 建築学科のDP2、DP3、DP5に対応する。(2023・2022年度)
 建築学科のDP2、DP3、DP5、DP6に対応する。(2021年度)

到達目標

イノベーションとデザインの理解を深め、イノベーションとデザインの本質及び関係を理解する。

授業全体の内容と概要

イノベーションとは何か、なぜイノベーションが必要なのかを講義する。
 鉄道の視点から見たデザイン(車両・駅舎など)を講義をする。パワーポイントと板書を中心に講義する。
 SDGsの全般的な内容について解説する。

授業の方法

パワーポイントと黒板への板書を中心に講義をする。
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
	模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

時間厳守。筆記具(黒板、口述の内容を各自メモ)
 月1回程度の頻度で課題を報告

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。
 レポートや課題作品の提出を課す。出席(率)や受講する姿勢、授業態度等も評点に運動する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	20%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イノベーションとは何か、デザインとは何か、そして双方の関係を理解すること、社会生活の問題を解決することに繋がることを理解できる。	イノベーション、デザイン双方の関係から社会生活の問題解決に繋がることを理解できた。	イノベーション、デザイン双方の関係が新たなものを生み出すことに繋がることを理解できた。	イノベーション、デザイン双方の関係を理解することができた。	イノベーション、デザインそれぞれを理解することができた。	イノベーション、デザインが理解できなかった。
イノベーションの創生に必要なデザイン思考の重要性を理解する。	イノベーションを生み出すためにデザイン思考が担う役割の重要性を理解できた。	イノベーションを生み出すためにデザイン思考が担う役割を理解できた。	イノベーションとデザイン思考との関係を理解できた。	デザインの思考を理解できた。	デザインの思考を理解できなかった。
イノベーションとデザインの本質を知ることから、ものの方、考え方に役立てることができる。	考え方の理解した上で新たなものを生み出す意志を持つことができた。	ものの方、考え方の理解した上で新たなものを生み出す意志を持つことができた。	ものの方、考え方が理解できた。	ものの方を理解できた。	ものの方を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築学特講 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	柿沼 博彦(建築学科・客員教授)		研究室等所在	1号館1階・非常勤講師室	
単位数	1 (単位認定責任者: 柿沼 博彦)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	鉄道技術の基礎知識をもとに、新幹線開発、交流回生及び振り子特急の車両などの開発に従事してきたこと等を授業に関連させ教授する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『イノベーションへの挑戦』	柿沼博彦	中西出版	2015年	4891153091	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	・シラバスの説明・授業改善アンケート結果、反映の説明・イノベーションとは何か。デザインとは何か?	シラバスを読んでおくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
2	・イノベーションとは何のこと? ・何故、現在社会においてイノベーションが求められるのか	イノベーションとは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
3	・様々なイノベーションの創生プロセス(1回) 破壊的イノベーション	イノベーションはいかに誕生するのか調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
4	・様々なイノベーションの創生プロセス(2回) 破壊的イノベーション シュンペーターのイノベーション?	イノベーションはいかに誕生するのか調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
5	・様々なイノベーション 中間まとめ その特徴と共通を考える	イノベーションはどんな特徴と共通性があるのか調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
6	・行動変容から考えるイノベーションの本質 ・3つのドライバー(技術革新・心理変化・社会構造)	行動変容の意味を調べておくこと。・ドライバーの意味を調べておくこと。・技術革新・心理変化・社会構造とは何か調べておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
7	・イノベーションに求められる資質とは ・失敗はイノベーションの糧 ・イノベーションを拒む壁	イノベーションに求められる資質と失敗との関わりについて考えておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
8	・これからのイノベーション環境(グローバル化・多様性・AI時代のイノベーションを考える)	これからのイノベーションは何が求められるのか今までの講義を振り返って考えておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
9	・広義のデザインとシステムデザインについて デザインに求められる資質	広義のデザインとシステムデザインに必要な資質について調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
10	・デザインとデザイン思考について・イノベーションに重要なデザイン思考	デザイン思考とは何か調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
11	・システムデザインの視点から鉄道を考える 鉄道は巨大なシステムである。鉄道の公共性・特殊性(公共・安全・サービス)について	鉄道をシステムデザインするとはどのようなことが調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
12	・鉄道システムデザイン 鉄道のシステムデザインのいくつかの特異性	鉄道のシステムデザインについて調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
13	車両システムと形のデザイン 設計から完成まで	車両システムデザインのプロセスについて調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
14	・駅舎のシステムのデザイン 駅舎の変遷と機能(BF,UD) 駅舎の機能3つのパターン	・駅舎の歴史と役割・機能の変遷を調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
15	・駅舎のシステムのデザイン 新千歳空港駅(デンマーク国鉄とのコラボ)	可能な限り新千歳空港駅をデザインの視点で調べておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、課題提出へ向けノートをとめておくこと。(90分)
16	・駅舎のシステムのデザイン 都市計画と駅舎のデザイン・全体まとめ イノベーションとデザインの共通性・矛盾と向き合う能力を磨く(知性の時	可能な限り旭川駅を中心とした都市計画の視点で調べておくこと。・15回の講義の振り返りをしておくこと。(90分)	解説・フィードバックを受けて講義全体を振り返り理解を深めること。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	乳児保育 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場での実務経験のある教員が、実際の保育現場の事例等を通じて、3歳未満児の心身諸機能の発達など乳児保育について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

乳児(3歳未満児)期は人間形成の基礎づくりの時期であることを知り、乳児保育の大切さを理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP3に対応する。(2023年度)

到達目標

3歳未満児の心身諸機能の発達など、乳児保育の知識が身につく。

授業全体の内容と概要

3歳未満児の保育について、心身の発達にそって諸機能の発達と健康と安全の基本を理解する。
SDG4「質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義を中心とした授業を行っていく中で、実際の保育現場の事例をあげ、子どもや保護者、保育者の様子をイメージしながら、一人ひとり学生の考える場となるように授業を進めていく。質問については随時対応する。レポートは解説し、フィードバックする。Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

遅刻した場合、入室はできるが20分以上の遅刻は欠席となる。
教科書がない場合、受講できませんので必ず購入のこと(乳児保育 / 演習でも同じ教科書を活用)。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
乳児保育の基礎的知識・技能(何を知っているか、何ができるか)	乳児保育について基礎的な知識を深く理解できた。	乳児保育について基礎的な知識をおおむね理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を多少理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について十分に考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開についておおむね考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について多少考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことを説明できた。	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことを多少説明できた。	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	乳児保育 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉江 幸子)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場での実務経験のある教員が、実際の保育現場の事例等を通じて、3歳未満児の心身諸機能の発達など乳児保育について講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『はじめて学ぶ乳児保育』	志村聡子	同文書院	2019	9784810314731	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						授業内で適宜紹介
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
2	乳児保育の役割と機能	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
3	乳児保育における養護及び教育	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
4	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
5	保育所における乳児保育	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
6	保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
7	家庭的保育等における乳児保育	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
8	3歳未満児とその過程を取り巻く環境と子育て支援の場	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
9	3歳未満児の生活と環境	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
10	3歳未満児の遊びと環境	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
11	3歳以上児の保育に移行する時期の保育	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
12	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
13	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
14	乳児保育における計画・記録・評価とその意義	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
15	乳児保育における職員間及び保護者や自治体等関係機関との連携・協働、まとめ	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
16	定期試験(解説およびフィードバック) 授業改善アンケートの実施	講義全体をとおして質問など整理しておくこと(90分)	解説を受け、講義全体をふりかえること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習 (三上) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

テキスタイルデザインについての知識を深める。
技法の特徴を理解し、習得する。
技法を活かした作品を制作する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)
デザイン学科のDP1、DP3、DP5に対応する。(2023、2022年度)
デザイン学科のDP2、DP3、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

テキスタイルデザインについて知る。
技法を理解する。
技法を用いて作品を制作する。

授業全体の内容と概要

スクリーンプリント技法の特徴と制約を活かし、試行錯誤してものづくりをする。制作の目的を設定し、各自で作業計画を立てる。完成後、作品を発表し、展示する。
「SDG12、つくる責任つかう責任」の関連授業。

授業の方法

授業は板書・パワーポイント・資料配布・実演等の方法で説明する。授業後、デジタル資料はTeam5に保存するので振り返り可能。デザインはアナログ・デジタルどちらにも対応する。テキスタイル作品についての調査をして作品制作の展開を図る。制作段階ごとにグループワークでディスカッションを行い、学生相互に作品の向上に努める。また個別にも指導する。課題は講評にてフィードバックする。作品完成後、発表し、展示する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="radio"/>	フィールドワーク	<input type="radio"/>	PBL
<input type="radio"/>	模範授業	<input type="radio"/>	ロールプレイ	<input type="radio"/>	調査学習	<input type="radio"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="radio"/>	実験・実習・実技	<input type="radio"/>	双方向授業	<input type="radio"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

必要な道具と生地は各自で用意する。
授業開始30分間で説明をするので遅刻しないこと。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

最低出席回数は2回以上。
自分の作業日は欠席しないこと。
作品を期日までに提出すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
テキスタイルデザインについての知識を深める。	テキスタイルデザインについての知識を深め、活かすことができた。	テキスタイルデザインについての知識を深めることができた。	テキスタイルデザインについて知り、その知識を深めることに努めた。	テキスタイルデザインについて知ることができた。	テキスタイルデザインについて知ることができなかった。
技法の特徴を理解し、習得する。	技法の特徴を理解し、習得し、活かすことができた。	技法の特徴を理解し、習得することができた。	技法を理解し、習得することに努めた。	技法を理解することができた。	技法を理解することができなかった。
技法を自己の作品に活かす。	技法を自己の作品に活かす、完成度の高いものができた。	技法を自己の作品に活かすことができた。	技法を用いて作品を制作し、作品に活かすことに努めた。	技法を用いて作品を制作することができた。	技法を用いて作品を制作することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習 (三上) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 テキスタイルデザインとはなにか	シラバスを読んでおくこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
2	スクリーンプリント技法について テキスタイル作品の調査	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
3	作品制作の目的を設定する	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
4	作業計画を立てる	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
5	ラフデザイン	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
6	ラフデザイン	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
7	素材研究	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
8	素材研究	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
9	技法研究	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
10	技法研究	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
11	デザイン決定	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
12	デザイン決定	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
13	原画作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
14	原画作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
15	版下作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
16	版下作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	版下作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
18	版下作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
19	製版	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
20	製版	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
21	刷り	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
22	刷り	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
23	落版	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
24	落版	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
25	作品加工	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
26	作品加工	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
27	仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
28	仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
29	展示計画	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
30	展示計画	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
31	展示・発表・鑑賞	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
32	講評 授業改善アンケートの実施	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（梅田力）（科目ナンバリング：）				
授業担当者（所属・職名）	梅田 力（デザイン学科・准教授）	研究室等所在	アトリエ棟 2階		
単位数	2（単位認定責任者：梅田 力）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

金属の加工技法を活かして、美しい作品を制作することができる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
 デザイン学科のDP1、DP3、DP5に対応する。（2023-2022年度）
 デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

金属の加工技法を理解して作品を制作することができる。

授業全体の内容と概要

工芸実習（金属）では指輪制作（ろう付け技法）と、銅板レリーフ（打ち出し技法）の2課題を通じて、実践的に金属の表現力を磨く。

授業の方法

スライドを使って課題の説明を行なった後、各自作品制作を行う。作品完成後、作品評価及び講評を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

20回以上の出席がない場合は評価の対象としない。
 評価は作品点（70%）、及び主体的に学ぶ姿勢「平常点」（30%）の基準で行う。
 講義の前半で課題を説明するため、30分以上の遅刻は出席として認めない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
金属表現の基本的な特性の理解（知識・理解）	金属における道具の使い方を理解し、鍛金、ろう付け技法の特性を活用して美しい作品を制作した。	金属における道具の使い方を理解し、鍛金、ろう付け技法の特性を活用した作品を制作した。	金属における道具の使い方を理解し、鍛金、ろう付け技法の作品を制作した。	鍛金、ろう付け技法の作品を制作した。	鍛金、ろう付け技法が理解できず、作品が制作できなかった。
技術を応用したデザインの能力（思考力・表現力・判断力等）	習得した技術を生かした独自の美しいデザインをすることが出来た。	習得した技術を生かした独自のデザインをすることが出来た。	習得した技術を使って自分なりにデザインをすることが出来た。	習得した技術を使ってデザインをすることが出来た。	習得した技術を使ってデザインをすることが出来なかった。
主体的に学習に取り組む態度（主体性・多様性・協働性）	課題を予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。また課題を超えて制作を行なった。	課題の予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。	課題の予習または復習をした。自ら計画を立て、制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受け、計画的に制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受けて計画的に制作を行う事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（梅田力）（科目ナンバリング： ）				
授業担当者（所属・職名）	梅田 力（デザイン学科・准教授）	研究室等所在	アトリエ棟 2階		
単位数	2（単位認定責任者：梅田 力）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスをよく読んでおくこと（45分）	オリエンテーションを振り返り、内容を理解しておく事（45分）
2	金属工芸について	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
3	指輪制作 ドローイング	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
4	指輪制作 ドローイング	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
5	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
6	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
7	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
8	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
9	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
10	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
11	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
12	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
13	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
14	指輪制作 仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
15	指輪制作 仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
16	銅板レリーフ ドローイング	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	銅板レリーフ ドローイング	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
18	銅板レリーフ ドローイング	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
19	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
20	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
21	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
22	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
23	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
24	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
25	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
26	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
27	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
28	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
29	銅板レリーフ 仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
30	銅板レリーフ 仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	制作の参考となる作品を調べる事（45分）
31	講評	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと（45分）	講評を再考し、理解を深めること（45分）
32	講評 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと（45分）	講評を再考し、理解を深めること（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（中島義）（科目ナンバリング：）				
授業担当者（所属・職名）	中島 義博（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	アトリエ棟 2階		
単位数	2（単位認定責任者：中島 義博）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

孔版の2技法、スクリーンプリントと合羽摺り（ステンシル）を利用して、染色パネルを制作する。隣接する技法の組み合わせによって、生ずる効果を知り、合わせて染料と顔料の違いを学ぶ。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。（2024年度）
 デザイン学科のDP 1、DP 2、DP 3、DP 5に対応する。（2023・2022年度）
 デザイン学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する。（2021年度）

到達目標

染料と道具の実践的知識を身につけ正しく使用できる。
 版と型、スキージと刷毛の使用法と効果の違いを知る。2つの技法を習得し、制作ができる。
 用具、用材の実践的知識を身につけ正しく使用できる。

授業全体の内容と概要

異なる技法と道具の組み合わせに挑戦する。版を使ってプリントし、その上から型を通して刷毛染め施して完成する。

授業の方法

視聴覚メディアと板書、作例によって効果と作業の基礎を学び各自の発想による原画をもとにオリジナル作品を制作する実技科目である。完成作品の発表を行う機会を設け講評をする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

工具類、染料の使用に対応した服装の用意。
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

20回以上の出席と課題作品の完成、提出を求める。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	0%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
孔版とは何かを知る。	孔版とは何かを詳しく知り作品に応用できた。	孔版とは何かを詳しく知っていた。	孔版とは何かを知っていた。	孔版とは何か、最低限のことを知っていた。	孔版とは何かを知らなかった。
二つの技法を習得し制作できる。	二つの技法を習得し優れた作品を制作し、後進に技法を伝えることができた。	二つの技法を習得し優れた作品を制作できた。	二つの技法を習得し制作できた。	どちらか一つの技法を習得し制作できた。	どちらもできなかった。
顔料と道具を正しく使用できる。	顔料と助剤、今回の道具を全て正しく使用でき、それを周囲に伝えることができた。	顔料と助剤、今回の道具を全て正しく使用できた。	顔料と道具を正しく使用できた。	顔料と道具をある程度正しく使用できた。	顔料と道具を正しく使用できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（中島義）（科目ナンバリング：）				
授業担当者（所属・職名）	中島 義博（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	アトリエ棟 2階		
単位数	2（単位認定責任者：中島 義博）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
2	課題説明	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
3	実作業による作例	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
4	アイデアスケッチ	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
5	アイデアスケッチ	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
6	アイデアスケッチ	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
7	アイデアスケッチ	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
8	アイデアスケッチ	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
9	版下作業	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
10	版下作業	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
11	版下修正	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
12	製版準備	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
13	製版	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
14	製版	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
15	プリント	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
16	プリント	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	型彫り	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
18	型彫り	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
19	刷毛差し	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
20	刷毛差し	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
21	刷毛差し	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
22	刷毛差し	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
23	応用作品	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
24	応用作品	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
25	応用作品	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
26	応用作品	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
27	応用作品	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
28	応用作品	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
29	パネル製作	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
30	パネル貼り	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
31	作品発表、講評	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること。（45分）
32	課題解説、質疑応答 授業改善アンケートの実施	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（45分）	作品を持ち帰り使用または展示し課題を振り返る。（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（鳴海）（科目ナンバリング：）				
授業担当者（所属・職名）	鳴海 伸一（非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室・アトリエ棟2階版画教室	
単位数	2	（単位認定責任者：鳴海 伸一）	CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	作家（アートワーク依頼作品設置と作品発表）およびJDP 日本美術家連盟会員 / 版画学会会員		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室・アトリエ棟で対応。				

概要

履修目標

本講義では基本版種となる凹凸孔平、各版の知識と理解を深め、デザインの発想やイラストなどの表現の幅を広げ、自己の才能と可能性を探索・追求する事を目的とする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。（2024年度）
 デザイン学科のDP 1、DP 2、DP 3、DP 5に対応する。（2023・2022年度）
 デザイン学科のDP 1、DP 2、DP 5に対応する。（2021年度）

到達目標

版の知識と技術を深め、自身で正確で安全な制作が可能な実力を養う。
 また、その版表現によって個性のある作品成果を目標とする。

授業全体の内容と概要

本講義では主要4版種の中から、「銅版画」と「リトグラフ」の小作品を制作する。美術家やイラストレーター、クリエイター、メディアアーティストを目指す方々の印刷技術の理解にも有意義な実技である。
 作品づくりをとおして制作の喜びと楽しさ、難しさを体験する。

授業の方法

「描画」－「製版」－「刷り」と作業を進める。油性描画材、腐蝕液、溶剤、油性インクなど版画ならではの専用画材を扱い、プレス機を用いて各版種ひとり1作品を制作する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

制作の特性上、汚れてもよい服装や保護具を着用のこと。
 制作過程で乾燥・化学反応などの待機時間や日数を要し、設備の台数制限から作業の順番待ちが発生します。
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は22回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	0%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
版の原理と制作工程を理解しようとしている。	知識と技術が伴って安全かつ正確な制作ができている。他版種にも関心を寄せ、作品発表につなげている。	知識だけではなく、実技としてほぼ正しい制作工程が可能である。	助言をもとに、制作工程を理解し、製版と向き合っている。	凹凸孔平の基本版種の原理を図として理解できている。	版表現に興味をもてず、原理を理解しようとしていない。版が完成していない。
扱っている道具、材料の特性を理解しようとしている。	道具、材料を応用的に用いることが出来、経済的な制作とメンテナンスができる。	授業内容に準じた内容で道具と材料を自身の的確に扱って使用することができる。	材料の特性を理解し、助言をもとに効率的な制作ができる。	授業内容に沿った内容で道具、材料の特性を理解し、助言をもとに制作ができる。	自身が扱っている道具や材料に関心をよせていない。道具を大切に扱っていない。
安全で正確な制作工程を理解している。	教室の安全維持、環境維持に積極的に取り組んでいる。	換気、環境、設備の理解と保護具の着用など安全に配慮した制作ができる。	道具、材料の扱い方法を理解し、正しい使い方で正確な制作が可能である。	道具、材料の扱い方法を理解し、正しい使い方で正確な制作が可能である。	無頓着で雑な制作を行い、工程を把握しようとしていない。
作品の仕上りに成果が反映されている。	授業外の技法にも挑戦し、研究的な手法を身につけている。楽しんで制作ができている。	授業内の技法を理解し、画面の中に効果的に表現されている。	画面、サインなどが明記され、版表現の魅力を感じ取っている。	本刷りがされ、判断も行われシート作品として完成している。	本刷りがされていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（鳴海）（科目ナンバリング：）				
授業担当者（所属・職名）	鳴海 伸一（非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室・アトリ棟2階版画教室	
単位数	2（単位認定責任者：鳴海 伸一）		CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	作家（アートワーク依頼作品設置と作品発表）およびDTP 日本美術家連盟会員 / 版画学会会員		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明とガイダンス / 版画について 授業改善アンケート結果反映の説明	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
2	シラバスの説明とガイダンス / 版画の魅力と感性	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
3	凹版画制作 / エッチング - 下絵制作 -	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（45分程度）	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（45分程度）
4	凹版画制作 / エッチング - 下絵制作 -	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（45分程度）	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（45分程度）
5	凹版画制作 / エッチング - 下絵と転写 -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
6	凹版画制作 / エッチング - 下絵と転写 -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
7	凹版画制作 / エッチング - 腐蝕製版 -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
8	凹版画制作 / エッチング - 腐蝕製版 -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
9	凹版画制作 / エッチング - 腐蝕製版と刷り -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
10	凹版画制作 / エッチング - 腐蝕製版と刷り -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
11	凹版画制作 / エッチング - 刷り -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
12	凹版画制作 / エッチング - 刷り -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
13	凹版画制作 / エッチング - 刷りとアクアチント -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
14	凹版画制作 / エッチング - 刷りとアクアチント -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
15	凹版画制作 / エッチング - 仕上げと署名 -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
16	凹版画制作 / エッチング - 仕上げと署名 -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	平版画制作 / リトグラフ - 下絵制作 -	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（30分程度）	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（30分程度）
18	平版画制作 / リトグラフ - 下絵制作 -	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（30分程度）	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（30分程度）
19	平版画制作 / リトグラフ - 転写と描画 -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
20	平版画制作 / リトグラフ - 転写と描画 -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
21	平版画制作 / リトグラフ - 第1製版 -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
22	平版画制作 / リトグラフ - 第1製版 -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
23	平版画制作 / リトグラフ - 第2製版 -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
24	平版画制作 / リトグラフ - 第2製版 -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
25	平版画制作 / リトグラフ - 刷り -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
26	平版画制作 / リトグラフ - 刷り -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
27	平版画制作 / リトグラフ - 刷りと裁断 -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
28	平版画制作 / リトグラフ - 刷りと裁断 -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
29	平版画制作 / リトグラフ - 仕上げと署名 -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
30	平版画制作 / リトグラフ - 仕上げと署名 -	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
31	まとめ / 鑑賞と講評 授業改善アンケートの実施	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）
32	まとめ / 鑑賞と講評	事前に内容を確認のこと（45分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（45分程度）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	乳児保育 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場での実務経験のある教員が、実際の保育現場の事例等を通じて、3歳未満児の新書機能の発達など乳児保育について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

乳児(3歳未満児)期は人間形成の基礎づくりの時期であることを知り、乳児保育の大切さを理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP3に対応する。(2023年度)

到達目標

3歳未満児の心身諸機能の発達など、乳児保育の知識が身につく。

授業全体の内容と概要

3歳未満児の保育について、心身の発達にそって諸機能の発達と健康と安全の基本を理解する。
「SDGs4・質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義・演習を中心とした授業を行っていく中で、実際の保育現場の事例をあげ、子どもや保護者、保育者の様子をイメージしながら、一人ひとり学生の考える場となるように授業を進めていく。質問については随時対応する。レポートは解説し、フィードバックする。Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席とレポート提出、発表・発言を重要視する。
「乳児保育」を履修した後に受講すること(教科書は引き続き使用する)。
遅刻した場合、入室はできるが20分以上の遅刻は欠席となる。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
乳児保育の基礎的知識・技能(何を知っているか、何ができるか)	乳児保育について基礎的な知識を深く理解できた。	乳児保育について基礎的な知識をおおむね理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を多少理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を理解することができなかった。
思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について十分に考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開についておおむね考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について多少考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことを説明できた。	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことを多少説明できた。	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	乳児保育 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 吉江 幸子)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場での実務経験のある教員が、実際の保育現場の事例等を通じて、3歳未満児の新書機能の発達など乳児保育について講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『はじめて学ぶ乳児保育』	志村聡子	同文書院	2019	9784810314731	乳児保育 で使用する教科書と同じです
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 オリエンテーション 子どもと保育士等との関係の重要性	シラバスを読んでおくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
2	個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
3	子どもの主体性の尊重と自己の育ち	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
4	子どもの体験と学びの芽生え	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
5	子どもの1日の生活の流れと保育の環境	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
6	子どもの生活や遊びを支える環境の構成	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
7	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
8	3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
9	子ども同士の関わりとその援助の実際	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
10	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
11	集団での生活における配慮	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
12	環境の変化や移行に対する配慮	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
13	長期的な指導計画と短期的な指導計画	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
14	個別的な指導計画と集団の指導計画	教科書を読み、学習しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
15	計画実践発表とまとめ	教科書を読み、学修しておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(45分)
16	レポートに関する解説及びフィードバック 授業改善アンケートの実施	講義全体とおして質問など整理しておく。(45分)	解説を受け、講義全体をふりかえること。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	一級対策製図 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士である。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

国家資格である「一級建築士二次試験(製図試験)」における技量の修得を目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)
 建築学科のDP1、DP2に対応する。(2023・2022年度)
 建築学科のDP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

一級建築士二次試験で実施される製図試験と記述試験の基礎スキルを修得することができる。

授業全体の内容と概要

提示されたテーマ課題に従い、テキストを参考に製図演習問題を実施、その製図・記述に対し、添削指導により、製図スキルを向上させていく。

授業の方法

実際に一級建築士二次試験(製図試験)で使用するA2サイズの平行定規盤を使用し、与えられた課題を担当教員の指導のもと、期限内に完成させる。完成させた課題については、個別指導を行う。
 不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

課題は、与えられた期限内に提出すること。平行定規盤は各履修者が用意して毎回持参すること。
 配布したテキストおよびプリントは毎回持参すること。
 この講座の履修は、建築プロフェッショナル専攻「一級建築士特別養成コース」に所属する学生に限る。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数11回以上。課題はすべて提出のこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
一級建築士二次試験(製図試験)の過去問題または想定問題に対する正確なエスキスと平面プランの構築をすることができる。	設計課題をすべて理解した上で不備のないエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をすべて理解した上でエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をおおむね理解した上でエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をある程度理解した上でエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題の内容を理解することができなかった。
記述問題に対する適切な解答を修得することができる。	記述問題に対するすべてを満足させる適切な解答ができた。	記述問題を満足させる適切な解答ができた。	記述問題をおおむね満足させる適切な解答ができた。	記述問題をおおむね満足させる解答ができた。	記述問題をおおむね満足させる解答ができなかった。
限られた時間内に図面を完成させることができる。	時間内にすべての図面を書き残すことなく完成することができる。	時間内に書き上げることができた。	時間内におおむね書き上げることができた。	時間内にほぼ書き上げることができた。	時間内に完成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	一級対策製図 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士である。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。授業の進め方について説明。テキスト・課題1の配布。	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(90分)	授業の作図の継続(90分)
2	課題1-記述・製図トレース	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
3	課題1-記述・製図トレース	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
4	課題1-記述・製図トレース	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
5	課題1-課題製出 課題2-エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
6	課題1-添削指導 課題2-エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
7	課題1-添削指導 課題2-エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
8	課題1-添削指導 課題2-エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
9	課題2-エスキス・記述	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
10	課題2-エスキス・記述	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
11	課題2-製図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
12	課題2-製図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
13	課題2-課題提出 課題3-エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
14	課題2-添削指導 課題3-エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
15	課題2-添削指導 課題3-エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
16	課題2-添削指導 課題3-エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	課題3-エスキス・記述	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
18	課題3-エスキス・記述	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
19	課題3-エスキス・記述	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
20	課題3-エスキス・記述	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
21	課題3-製図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
22	課題3-製図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
23	課題3-製図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
24	課題3-製図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
25	課題3-課題提出 課題4-エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
26	課題3-添削指導 課題4-エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
27	課題3-添削指導 課題4-エスキス・記述	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
28	課題3-添削指導 課題4-エスキス・記述	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
29	課題4-製図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
30	課題4-製図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
31	課題4-製図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
32	課題4-課題完成・提出	作図準備をする(90分)	授業の復習(90分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育の計画と評価 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における計画立案の経験を活かし、保育所における計画作成と保育内容の関連を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

1. 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する。
2. 保育の全体計画の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。
3. 計画・実践・省察・評価、改善の過程についてその全体構造を動的にとらえ、理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP4に対応する。(2023年度)

到達目標

保育の計画と評価の基本、保育所における保育の計画、保育の計画の作成と展開、保育所における保育の評価について理解し、保育の内容を具体的に説明する。

授業全体の内容と概要

保育の計画と評価の基本、保育所における保育の計画、保育の計画の作成と展開、保育所における保育の評価など保育の内容について学修する。保育の計画と作成では、思考・考察、他者との意見交換、討論、発表等一連の活動を行う。「SDGs4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、板書とパワーポイントを活用しながら講義形式で行う。授業の理解度を深めるためのグループ学習も取り入れ、質疑応答の時間を設定する。提出された課題・作品はコメントをつけてフィードバックする。Microsoft Teams/Formsの諸機能も活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

課題の内容・提出方法及び課題・平常点の評価は、授業時間に説明する。遅刻した場合、入室は可能だが20分以上の遅刻は欠席扱いとするので注意すること。評価Sは履修者の10%以内、評価SとAを合わせて40%以内となっている。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	30%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育計画の知識・技能(何を知っているか、何ができるか)	保育の計画について基礎的な知識を深く理解できた。	保育の計画について基礎的な知識をおおむね理解できた。	保育の計画について基礎的な知識を理解できた。	保育の計画について基礎的な知識を多少理解できた。	保育の計画について基礎的な知識を理解することができなかった。
計画を立案するための思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	保育の内容を踏まえた計画作成について十分に考察できた。	保育の内容を踏まえた計画作成についておおむねに考察できた。	保育の内容を踏まえた計画作成について考察できた。	保育の内容を踏まえた計画作成について多少考察できた。	保育の内容を踏まえた計画作成について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	保育の計画作成と評価について理解したことをわかりやすく説明できた。	保育の計画作成と評価について理解したことをおおむね説明できた。	保育の計画作成と評価について理解したことを説明できた。	保育の計画作成と評価について理解したことを多少説明できた。	保育の計画作成と評価について理解したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育の計画と評価 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉江 幸子)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容を講義する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画第2版』	神永直美	南文書林	2018	9784893472397	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『保育所保育指針<平成29年告示>』	厚生労働省	フレーベル館	2017	9784577814239	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	指定した教科書を事前に読むこと(90分)。	1回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
2	保育の計画と評価の基本(1)カリキュラムの基礎理論	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	2回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
3	保育の計画と評価の基本(2)保育所における保育の計画と評価の意義	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	3回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
4	保育の計画と評価の基本(3)保育所以外の児童福祉施設における計画と評価の意義	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	4回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
5	保育の計画と評価の基本(4)計画、実践、省察・評価、改善の過程の循環による保育の質の向上	保育計画の意味を理解しておく(90分)。	5回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
6	保育所における保育の計画(1)保育所保育指針と幼稚園教育要領	保育計画と指針、要領との関連を理解しておく(90分)。	授業終了時に示す1回目の課題を作成する(90分)。
7	保育所における保育の計画(2)保育の全体的な計画と指導計画	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	7回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
8	保育所における保育の計画(3)全体的な計画の編成	発達心理等発達過程を理解しておく(90分)。	授業終了時に示す2回目の課題を作成する(90分)。
9	保育所における保育の計画(4)指導計画(長期的・短期的)の作成と作成上の留意事項	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	9回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
10	保育の計画の作成と展開(1)保育の全体的な計画の編成と展開	計画作成の方法をよく読んでおく(90分)。	授業終了時に示す3回目の課題を作成する(90分)。
11	保育の計画の作成と展開(2)指導計画の実際の作成と展開	対象年齢と計画の運動性を理解しておく(90分)。	11回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
12	保育所における保育の評価(1)保育の省察及び記録	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	12回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
13	保育所における保育の評価(2)保育士及び保育所の自己評価	教科書の評価頁を事前に読んでおく(90分)。	13回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
14	保育所における保育の評価(3)保育の計画の再編成	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	授業終了時に示す4回目の課題を作成する(90分)。
15	保育所における保育の評価(4)生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録	保育の計画で学んだ事を整理しておく(90分)。	授業の目的の達成度を自己評価する(90分)。
16	定期試験60分。試験終了後に解説を行う提出された課題の総合評価をフィードバック 授業改善アンケートの実施	15回の講義内容を振り返り復習する(90分)	試験、課題の解説に基づき復習し整理する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子どもの健康と安全 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	宮崎 剛司(社会福祉学科・講師)	研究室等所在	1号館2階常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 宮崎 剛司)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践、看護教育の実務経験あり。子どもの発達状態や健康状態の把握の方法について演習する。また、子どもが育つ環境づくりや子ども自身で心身健康で安全な生活をつくりだせるような支援方法を考える。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標	保育における保健の観点から保育環境や支援のあり方について学ぶ。子どもを取り巻く社会状況・指針をふまえた衛生・安全管理やその対策を学び、体制づくり、活動計画・評価等の一連について理解を深める。また、子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について学ぶ。
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023年度)
到達目標	子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。 子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。 子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。

到達目標	子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。 子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。 子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。
------	--

到達目標	子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。 子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。 子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。
------	--

到達目標	子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。 子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。 子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。
------	--

到達目標	子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。 子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。 子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。
------	--

到達目標	子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。 子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。 子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。
------	--

到達目標	子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。 子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。 子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。
------	--

到達目標	子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。 子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。 子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。
------	--

到達目標	子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。 子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。 子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。
------	--

評価方法・基準

到達目標	子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。 子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。 子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。
------	--

到達目標	子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。 子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。 子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。
------	--

到達目標	子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。 子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。 子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。
------	--

到達目標	子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。 子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。 子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。
------	--

到達目標	子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。 子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。 子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。
------	--

到達目標	子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。 子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。 子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。
------	--

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子どもの健康と安全 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	宮崎 剛司(社会福祉学科・講師)		研究室等所在	1号館2階常勤講師室	
単位数	1 (単位認定責任者: 宮崎 剛司)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践、看護教育の実務経験あり。子どもの発達状態や健康状態の把握の方法について演習する。また、子どもが育つ環境づくりや子ども自身で心身健康で安全な生活をつくりだせるような支援方法を考える。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『子どもの健康と安全 改訂第2版』	大西文子	中山書店	2022	9784521749778	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『授業の中で随時案内する』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス、シラバス説明 授業改善アンケート結果反映の説明 子どもを取り巻く社会状況と子ども保健	履修を終えている「子どもの保健」の概要を理解しておく(90分)	当日の授業で行ったことをノートにまとめておく(90分)
2	事故防止及び健康安全管理1 保育環境と衛生・安全対策	指定した参考図書・配布資料を読んでおく(90分)	当日授業や討議で行った課題について調べ、レポート作成する(90分)
3	事故防止及び健康安全管理2 子どもの事故、危機回避と体づくり	討議・発表準備のため十分に予習して授業に臨む(90分)	返されたコメントや他の評価を参考に自己課題を見直し追加修正しておく(90分)
4	子どもの健康に関する適切な対応1 保健的対応・対策	指定した参考図書・配布資料を読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをノートにまとめ、出された課題を調べておく(90分)
5	子どもの健康に関する適切な対応2 健康状態の把握 計測・測定	発表・実施準備のため十分に予習して授業に臨む(90分)	返されたコメントや他の評価を参考に自己課題を見直し整理しておく(90分)
6	子どもの健康に関する適切な対応3 病児の状態把握の方法と対応	指定した参考図書・配布資料を読んでおく(90分)	当日授業や討議で行った課題について調べ、レポート作成する(90分)
7	子どもの健康・安全にかかわる実施体制	指定した参考図書・配布資料を読んでおく(90分)	返されたコメントや他の評価を参考に自己課題を見直し追加修正しておく(90分)
8	提出レポート・課題について解説、フィードバックし総括します。 授業改善アンケートの実施。	これまで授業で行ったことを振り返り準備しておく(90分)	子どもの保健の課題に今後も取り組んでいく(90分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	映像表現 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	映像制作の実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして映像制作の基礎から応用までを指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザインやアートのコンテンツとして映像を捉え、その基本的な撮影・編集技術を学び、制作工程に携わることで、その表現の可能性を知ることができる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)
 デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4に対応する。(2023・2022年度)
 デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

映像制作の過程を通じて、作品の完成度を高めるために必要な要素は何か? に気付かせ、それを実践できる。
 映像メディアの必要性、映像ならではの表現を用いることができる。

授業全体の内容と概要

映像表現の内容を踏まえ、映像の制作工程とチームワークについて学ぶ。同時に、映像制作のアプリケーションとしてAfterEffectsの操作講習を行い、履修者全員に必要な最低限の技術を身に付けさせる。
 「SDGs9、産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。

授業の方法

映像表現 で用いたPowerPointと提出されたストーリーボードを用いて、知識の再確認を行う。その後、実践として、作品制作のためのグループを編成し、役割分担を行い、映像制作の工程に沿ったスケジュールを作成し作品の制作を進行する。毎週、グループ毎に進行確認のミーティングやディスカッションを行い、その報告はメールにて提出する。ロケハンやログのための現地調査・取材は時間外でも良しとする。これと並行して、前半の5週を自習としてAfterEffectsの操作講習を行う。質問には随時対応し、技術的な指導も随時行う。制作完了後は上映会にてプレゼンテーションし、意見交換を行わせて後に全体講評を行う。不測の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク		P B L
	模範授業		ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習		反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

映像制作の実技になるので、全授業を通じてチームワークとなる。もちろん、完成作品についての評価はチーム毎になるので、役割分担の際には公平な仕事量を中心掛けることが重要。
 不測の事態の際にはオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

教職課程(美術)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「映像の撮影・編集に関する基本的な技術を身に付けている」	映像の撮影・編集に於ける基本的な技術が十分に修得でき、制作時に効果的な応用作業が行えた。	映像の撮影・編集に於ける基本的な技術が修得でき、制作時に応用作業が行えた。	映像の撮影・編集に於ける基本的な技術は修得できているが、制作時に応用するまでには至らなかった。	映像の撮影・編集に於ける基本的な技術が不完全であり、制作時に用いることができなかった。	映像の撮影・編集に於ける基本的な技術が修得できなかった。
思考力・判断力・表現力 「映像制作において、グループ内の役割についてその必然性を理解し、自らに与えられた役割を果たすことができる」	作品制作に於いて、自らの役割を正しく理解し、十分な知識と技術を活用することができた。	作品制作に於いて、自らの役割を正しく理解し、十分な知識と技術を活用するよう努力した。	作品制作に於いて、自らの役割を正しく理解していたが、知識と技術の活用は十分ではなかった。	作品制作に於いて、自らの役割を正しく理解できなかった。	作品制作に於いて、自らの役割を果たすことができず、携わることができなかった。
主体性・多様性・協働性 「グループ制作作業における全工程を把握し、その中で与えられた工程に取り組み、積極的に意見交換をしながら、作品の質を高めることができた」	制作グループ内で、積極的に作業に取り組み、協働性に於いては求められるレベルを超えて活動していた。	制作グループ内で、積極的に作業に取り組み、協働性に於いては求められるレベルに達していた。	制作グループ内で、与えられた作業には取り組んでいたが、積極性や協働性に於いては求められるレベルには達していなかった。	制作グループ内で、作業への取り組みが消極的であり、協働性については極めて限定的であった。	制作グループ内で、全ての取り組みが不十分であり、責任感に乏しかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	映像表現 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	映像制作の実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして映像制作の基礎から応用までを指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス-シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明「ストーリーメイク」「リアリズム、オポテュニ	シラバスを一読しておくこと(45分)	グループ設定について代表者が取り纏め、次週の授業開始時までに提出(45分)
2	After Effects の操作講習 「入力-出力」	授業用素材のダウンロードと確認(45分)	授業内容の反復(45分)
3	After Effects の操作講習 「編集」	授業用素材のダウンロードと確認(45分)	授業内容の反復(45分)
4	After Effects の操作講習 「エフェクト」	授業用素材のダウンロードと確認(45分)	授業内容の反復(45分)
5	After Effects の操作講習 「試作」	授業用素材のダウンロードと確認(45分)	授業内容の反復(45分)
6	After Effects の操作講習 「試作」	授業用素材のダウンロードと確認(45分)	授業内容の反復(45分)
7	映像制作(180sec-) テーマ - コンセプト	グループ内での役割分担と仕事内容について、明確にしておくこと(45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える(45分)
8	映像制作(180sec-) シナリオ - 設計	映像表現 の授業内容を再確認すること(45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える(45分)
9	映像制作(180sec-) 素材制作	撮影など素材収集は事前に終わらせておくこと(45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える(45分)
10	映像制作(180sec-) 素材制作	撮影など素材収集は事前に終わらせておくこと(45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える(45分)
11	映像制作(180sec-) 素材制作	撮影など素材収集は事前に終わらせておくこと(45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える(45分)
12	映像制作(180sec-) 編集	設計図の再確認と修正(45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える(45分)
13	映像制作(180sec-) 編集	設計図の再確認と修正(45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える(45分)
14	映像制作(180sec-) 編集	設計図の再確認と修正(45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える(45分)
15	映像制作(180sec-)	微調整や修正のためのミーティングをしておくこと(45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える(45分)
16	映像制作(180sec-)発表 授業改善アンケートの実施	プレゼン用のコンセプトシートを纏めておく(45分)	他のグループへの意見や感想を纏めて、既定の日時までに提出する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	一級建築士演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士である。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

国家資格である「一級建築士一次(学科)試験」に合格できる学力の修得を目標とする。この講座では、特に一級建築士一次試験の科目のうち、「**契約**」、「**図面**」、「**施工分野**」の傾向と対策を行う。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)
 建築学科のDP1、DP2に対応する。(2023・2022年度)
 建築学科のDP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

提示された一級建築士試験の過去問題に対し、出題者の意図を探り、解答上の留意点を解説等をもとに理解できる。

授業全体の内容と概要

一級建築士学科試験(学科・施工分野)に出題される過去問題を毎回、小テストを実施し、その解説書に基づいて、復習を行う。

授業の方法

授業では、配布する各章の過去問題をテスト形式で実施し、次回にその解説を行う。事前学習と各章の小テストの解説によって理解を深める。なお、事前に小テストの出題範囲を予告しておくこと。不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

この一級建築士資格試験対策は、3年生までの専門科目の集大成の総まとめとして、建築業界最高峰の国家資格である「一級建築士試験」に挑戦するものである。よって、覚悟を以って取り組むこと。なお、毎回、テキストを必ず持参すること。この講座の履修は、建築プロフェッショナル専攻「一級建築士特別養成コース」に所属する学生に限る。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。また、定期試験にて成績評価を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
100%	0%	0%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
契約約款・施工計画の定義を理解	契約約款・施工計画の定義を理解し、それに関する問題をすべて正確に解くことができた。	契約約款・施工計画の定義を理解し、それに関する問題を正確に解くことができた。	契約約款・施工計画の定義を理解し、それに関する問題をほぼ正確に解くことができた。	契約約款・施工計画の定義を理解し、それに関する問題を解くことができた。	契約約款・施工計画の定義を理解し、それに関する問題を解くことができなかった。
各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題を正確に解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題を解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題を解くことができなかった。
仕上げ工事・改修工事・設備工事に関する用語の定義と業務の理解	仕上げ工事・改修工事・設備工事に関する用語の定義と業務の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	仕上げ工事・改修工事・設備工事に関する用語の定義と業務の理解に関する問題を正確に解くことができた。	仕上げ工事・改修工事・設備工事に関する用語の定義と業務の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	仕上げ工事・改修工事・設備工事に関する用語の定義と業務の理解に関する問題を解くことができた。	仕上げ工事・改修工事・設備工事に関する用語の定義と業務の理解に関する問題を解くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	一級建築士演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士である。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『一級建築士学科 施工(2024年度版)』	日建学院	協建築資料研究社	2023		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。契約約款・工事監理・施工計画・施工管理の小テスト	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	契約約款・工事監理・施工計画・施工管理の小テストの解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	仮設工事・地盤調査・土工事・山留め工事・基礎地業工事の小テスト	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	仮設工事・地盤調査・土工事・山留め工事・基礎地業工事の小テストの解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	鉄筋工事・型枠工事・コンクリート工事の小テスト	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	筋工事・型枠工事・コンクリート工事の小テストの解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	プレキャスト鉄筋コンクリート・鉄骨工事の小テスト	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	プレキャスト鉄筋コンクリート・鉄骨工事の小テストの解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	仕上げ工事の小テスト	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
10	仕上げ工事の小テストの解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
11	改修工事・設備工事の小テスト	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
12	改修工事・設備工事の小テストの解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
13	複合問題対策の小テスト	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
14	複合問題対策の小テストの解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
15	定期試験	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
16	定期試験の解説 授業改善アンケートの実施	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義、実技	必修・選択	選択
科目名称	運動学(運動方法学を (科目ナンバリング:))				
授業担当者(所属・職名)	米野 宏(経営学科・准教授)	天野 雅斗(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階(米野)	2号館7階(天野)
単位数	2 (単位認定責任者: 米野 宏)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	約7年にわたる本科目の授業経験とその他の体育・スポーツ関係の授業経験も活かしながら授業を進める。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
身体運動におけるメカニズムについての理論的学習に加え、スポーツ活動の実践を通して、グループワークなどにより、主体的に指導方法を身につける。

授業の位置づけ
経営学科のDP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標
学校の体育やスポーツ指導現場で必要な運動の見方や考え方を学び、その質的評価ができる。

授業全体の内容と概要
前半は、人体の解剖学的な学びに加え、力・重心・モーメントなどの運動力学的な基礎知識を学ぶ。後半は、具体的な運動をテーマに実践やグループワークを通して方法を学ぶ。

授業の方法
基本的には教室において、板書またはパワーポイントで理論的学習を行うが、授業の後半は、運動場において、実践的な活動の中で運動方法を学ぶ。さらに、理解を深めるためにグループワークやビデオ視聴もする。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
20分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻3回で1回の欠席とみなします。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
教職課程(保健体育)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要となる出席回数は、11回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>30%</td> <td>10%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	30%	0%	30%	30%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	30%	0%	30%	30%	10%							

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
運動における解剖学的、生理学的な基礎知識の理解	人体の筋、骨格などの解剖学的知識やガス交換、血液についての生理学的知識が専門的なレベルで得られた。	人体の筋、骨格などの解剖学的知識やガス交換、血液についての生理学的知識が比較的よく得られた。	人体の筋、骨格などの解剖学的知識やガス交換、血液についての生理学的知識がおおよそ得られた。	人体の筋、骨格の基礎的知識や基礎的な生理的機能が理解できた。	人体の筋、骨格の基礎的知識がほとんど無い。生理学的基礎知識もほとんど得られなかった。
スポーツバイオメカニクスに関する知識と理解	身体運動の力学的な知識はとて豊かで運動の分析も多種できた。	身体運動の力学的な知識は比較的豊かで分析もおおよそできた。	身体運動の力学的な基礎的知識が備わり応用もできた。	身体運動の力学的な基礎的知識はあるが応用までには至らなかった。	身体運動の力学的な知識がほとんど理解できなかった。
バイオメカニクスの原則に則った運動の実践と指導法の理解	理論に則った考えでの運動を模範的な動きで実践でき、指導法の理解もとても深い。	理論に則った考えでの運動を模範的な動きで実践でき、指導法の理解も比較的できた。	理論に則った考えでの運動はおおよそ実践でき、指導のポイントも理解できた。	理論に則った考えでの運動はあまりできないが、指導のポイントは理解できた。	理論に則った考えでの運動が実践や指導のポイントも理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義、実技	必修・選択	選択
科目名称	運動学(運動方法学を (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	米野 宏(経営学科・准教授) 天野 雅斗(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階(米野) 2号館7階(天野)		
単位数	2 (単位認定責任者: 米野 宏)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	約7年にわたる本科目の授業経験とその他の体育・スポーツ関係の授業経験も活かしながら授業を進める。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『スポーツバイオメカニクス』	金子公宥	杏林書院	2017	978-4-7644-1079-4c3047	
2	『スポーツバイオメカニクス20講』	阿江通良	朝倉書院	2017	978-4-254-68040c3075	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明)(授業改善アンケート結果反映の説明) 運動学とは	事前にシラバスを読んで確認する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
2	人体の構造(骨格・骨格筋) (担当:天野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
3	バイオメカニクスの基礎(エンジンとしての筋) (担当:天野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
4	バイオメカニクスの基礎(エネルギー供給) (担当:天野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
5	バイオメカニクスの基礎(運動の指令と調節) (担当:天野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
6	バイオメカニクスの基礎(運動の力学と法則) (担当:米野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
7	バイオメカニクスの実際(立つ) (担当:米野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
8	バイオメカニクスの実際(歩く) (担当:米野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
9	バイオメカニクスの実際(走る) (担当:米野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
10	バイオメカニクスの実際(跳ぶ) (担当:天野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
11	バイオメカニクスの実際(跳ぶ) (担当:天野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
12	バイオメカニクスの実際(投げる) (担当:米野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
13	バイオメカニクスの実際(打つ) (担当:米野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
14	バイオメカニクスの実際(蹴る) (担当:米野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
15	バイオメカニクスの実際(その他の運動) (担当:米野)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する(90分)
16	まとめ	ノートに記載されたすべての内容を再度復習する(90分)	課題の内容を確認し、準備する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習（人間（科目ナンバリング：））				
授業担当者（所属・職名）	松下 守邦（社会福祉学科・教授）	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：松下 守邦）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。Teamsチーム（本科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標

授業の目的は、保育実践の内容を理解することである。そのための具体的内容は、保育者の専門性である。養護と教育にかかわる保育の内容を展開するための知識、技術、判断力を修得すること。保育の内容は領域、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」を総合的にとらえ、人は社会と関わり生活していくための「人間関係」の重要性について、子どもの理解を深めることである。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP3、DP5に対応する。（2023年度）

到達目標

領域「人間関係」について、子どもの適切な理解を深めながら保育内容を実践することができる。テキスト課題「考えてみよう」を具体的に識別して列挙することができる。

授業全体の内容と概要

・授業の概要は、幼児教育の基本・乳幼児期の発達、子どもと保育者、遊びと人間関係・家庭生活と子ども、幼児教育と課題となる。授業内容の取扱いには、保育の実践に必要な知識、理論、保育現場で起こり得る事例、事例を考える際の課題点、事例の対応方法、の4観点から構成される。
・「SDGs4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

テキストのワークシート「事例 考えてみよう」（66例）を利用して、ケース学習をすすめる。「保育の現場で実際に起こり得る事例」について、ケース学習（下記、アクティブ・ラーニングの実施方法、その他）、グループワークをおこない、授業展開する。授業では視聴覚教材を利用する。課題レポートのコメントはフィードバックされる機会がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業		ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	双方向授業	○ その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・「保育内容演習（人間関係）」は、保育の内容（5領域）から「人間関係」を抽出する科目である。・保育の内容を統合する理解の視点がもとめられる。

・配布資料はファイリングし、授業内容、資料の欠落することのないように留意する。

・授業は学生のみなさんと担当教員による協同学習となるので、主体的に参加、授業貢献する。

・大学交付学生用メールアドレスを使い、マイクロソフト社Teams科目チャネル、Formsを学修利用する。
・パソコンスキル（レポート作成、準備学修の確認、教員への授業外連絡など、情報通信機器利用マナー）を高めていく。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。高校教育までの支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら科目サポートを進める。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定のための出席要件は、授業第1回から第8回までに計6回以上の出席が必要になる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	30%	0%	0%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育の内容の統合的視点をふまえながら、領域「人間関係」について、知識・技能を修得する。（知識・技能）	領域（人間関係）について、深く理解ができた。	領域（人間関係）について、おおむね理解ができた。	領域（人間関係）について、基本的な知識の理解ができた。	領域（人間関係）について、基本的な知識に欠ける部分はあるが、理解することができた。	領域（人間関係）について、基本的な知識を著しく欠いており、理解することが難しかった。
保育内容の統合的視点をふまえながら、領域「人間関係」について、展開することができる。（思考力・判断力・表現力）	領域（人間関係）について、十分に思考をして、表現することができた。	領域（人間関係）について、おおむね思考して、表現することができた。	領域（人間関係）について、基本的な思考をして、表現することができた。	領域（人間関係）について、改善の余地はあるが、思考をして、表現することができた。	領域（人間関係）について、思考をして、表現することが難しかった。
保育者として、保育内容の理解に関心と意欲を持ち、積極的に参加することができる。（関心・意欲・態度）	領域（人間関係）について、保育者の役割と責任を自覚し、積極的に参加することができた。	領域（人間関係）について、保育者の役割をおおむね理解して、自ら行動することができた。	領域（人間関係）について、保育者の役割について、基本的な行動をすることができた。	領域（人間関係）について、改善の余地はあるが、自らの役割を考えながら、行動することができた。	領域（人間関係）について、自分の役割を理解して、行動することが難しかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習（人間（科目ナンバリング：））				
授業担当者（所属・職名）	松下 守邦（社会福祉学科・教授）	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：松下 守邦）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『事例と図解で学ぶ保育実践 子どもの心の育ちと人間関係 第2版』	寺見陽子	教育情報出版	2016	9784938795771	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『保育所保育指針解説(2018)』	厚生労働省	国立国会図書館	2023		https://warp.da.ndl.go.jp/info
2	『保育を支えるネットワーク：支援と連携 保育学講座5』	日本保育学会	東京大学出版会	2016	9784130522052	
3	『子どもの育ちをエピソードで描く』	鯨岡峻	ミネルヴァ書房	2013	9784623066414	
4	『札幌市・帯広市・江別市 公立保育士 採用試験対策シリーズ2024年度版』	協同教育研究会	協同出版	2023	9784319337354	
5	『子どもの経験から振り返る保育プロセス』	秋田喜代美	幼児教育映像制作委員会	2010		DVD教材

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 幼児教育の基本と教育学の接近	シラバスを熟読する。（45分）	今回の学習内容を復習する。（45分）
2	幼児教育の基本・乳幼児期の発達（視聴覚教材の視聴）	テキスト、章と演習課題を熟読する。（45分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（45分）
3	子どもと保育者（社会学的接近）	テキスト学習範囲を熟読する。（45分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（45分）
4	子どもと保育者（保育学的接近）	テキスト学習範囲を熟読する。（45分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（45分）
5	遊びと人間関係・家庭生活と子ども（社会学的接近と社会心理学的接近）	テキスト、章と演習課題を熟読する。（45分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（45分）
6	遊びと人間関係・家庭生活と子ども（視聴覚教材の視聴）	テキスト学習範囲を熟読する。（45分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（45分）
7	幼児教育と課題 まとめ（エピソード記述法）	テキスト学習範囲を熟読する。（45分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（45分）
8	幼児教育と課題 まとめ（保育学） 授業改善アンケートの実施	これまでのテキスト、資料、視覚教材の学習内容を整理する。（45分）	全授業を振り返り、学習内容の反省的レポートを期日までに提出する。（45分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	一級建築士演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	赤木 良子(准教授)		研究室等所在	2号館6階	
単位数	1 (単位認定責任者: 赤木 良子)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士資格保有		
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。				

概要

履修目標

将来受験する一級建築士試験(学科IV構造)に合格するための受験対策を目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)
 建築学科のDP1、DP2に対応する。(2023・2022年度)
 建築学科のDP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

提示された一級建築士試験の学科IV各分野の過去問題に対し、解答上の留意点を解説等をもとに理解できる。

授業全体の内容と概要

各自単元ごとに小テストを実施し、自己採点した上で、その解説書に基づいて復習を行う。

授業の方法

授業では、各章の問題をテスト形式で実施し、必要であれば、次回にその解説を行う。
 事前学習と各章の小テストの解説によって理解を深める。
 不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○ その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

建築プロフェッショナル専攻の一級建築士特別養成コース学生のみ履修可能。
 毎回、テキストを必ず持参すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
30%	0%	0%	70%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
「力学(つりあい、反力、応力)、断面の性質、産屈、変形」各項目の理解	関連する問題を全て正確に解くことができた。	関連する問題をほぼ正確に解くことができた。	関連する問題を半分程度解くことができた。	関連する問題内容を理解することができた。	理解することができなかった。
「構造設計」各項目の理解	関連する問題を全て正確に解くことができた。	関連する問題をほぼ正確に解くことができた。	関連する問題を半分程度解くことができた。	関連する問題内容を理解することができた。	関連する問題内容を理解することができなかった。
「各種構造」各項目の理解	関連する問題を全て正確に解くことができた。	関連する問題をほぼ正確に解くことができた。	関連する問題を半分程度解くことができた。	関連する問題内容を理解することができた。	関連する問題内容を理解することができなかった。
「地盤・基礎、その他の構造等」各項目の理解	関連する問題を全て正確に解くことができた。	関連する問題をほぼ正確に解くことができた。	関連する問題を半分程度解くことができた。	関連する問題内容を理解することができた。	関連する問題内容を理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	一級建築士演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	赤木 良子(准教授)		研究室等所在	2号館 6階	
単位数	1 (単位認定責任者: 赤木 良子)		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士資格保有		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『P一級建築士学科 構造(2024年度版)』	日建学院	株建築資料研究社	2023		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明・授業ガイダンス 第1章 力の釣り合い・反力	試験範囲の学習(45分)	試験内容の確認(45分)
2	第1章 力の釣り合い・反力 解説	試験範囲の学習(45分)	試験内容の確認(45分)
3	第2章 静定構造物の応力・第3章 断面の性質	試験範囲の学習(45分)	試験内容の確認(45分)
4	第2章 静定構造物の応力・第3章 断面の性質 解説	試験範囲の学習(45分)	試験内容の確認(45分)
5	第4章 応力度・座屈・変形・第5章 不静定構造物の応力	試験範囲の学習(45分)	試験内容の確認(45分)
6	第4章 応力度・座屈・変形・第5章 不静定構造物の応力 解説	試験範囲の学習(45分)	試験内容の確認(45分)
7	第6章 振動・構造物の崩壊・一次設計・第7章 構造設計・構造計画	試験範囲の学習(45分)	試験内容の確認(45分)
8	第6章 振動・構造物の崩壊・一次設計・第7章 構造設計・構造計画 解説	試験範囲の学習(45分)	試験内容の確認(45分)
9	第8章 木質構造・第9章 鉄骨構造	試験範囲の学習(45分)	試験内容の確認(45分)
10	第8章 木質構造・第9章 鉄骨構造 解説	試験範囲の学習(45分)	試験内容の確認(45分)
11	第10章 鉄筋コンクリート構造・第11章 鉄骨鉄筋コンクリート構造	試験範囲の学習(45分)	試験内容の確認(45分)
12	第10章 鉄筋コンクリート構造・第11章 鉄骨鉄筋コンクリート構造 解説	試験範囲の学習(45分)	試験内容の確認(45分)
13	第12章 地盤と基礎構造・第13章 その他の構造等	試験範囲の学習(45分)	試験内容の確認(45分)
14	第12章 地盤と基礎構造・第13章 その他の構造等 解説	試験範囲の学習(45分)	試験内容の確認(45分)
15	定期試験/授業改善アンケートの実施	試験範囲全体の復習(45分)	試験内容の確認(45分)
16	定期試験の解説	試験問題の復習(45分)	試験範囲の復習(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	教育行政学 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	木村 浩紀(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 木村 浩紀)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政の経験のある教員がその経験を活かして、教育行政に係る今日的課題への対応を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教育の理想や思想は、「教育制度」とならなければ実際に力をもつものとはならないとの観点から教育を把握するとともに、21世紀の教育行政に対応できる教育行政学について理解する。

授業の位置づけ

経営学科、経営学科スポーツマネジメントコースのDP2、DP4に対応する。(2023・2022年度)
デザイン学科・建築学科のDP2、DP4に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

教育行政の組織や権限等の法制的な理解にとどまらず、学習するものの立場に立った教育条件整備の在り方について考察し、説明するとともに、テーマに即して、限られた時間内でレポートを記述できる。

授業全体の内容と概要

教育行政というものがあり、どうあるべきかを理論的・体系的にとらえるとともに、教育内容から教育環境の問題までを現実即して具体的に考えていく。また、毎回設定する「授業テーマ」をもとに、思考・考察・発表等の活動を行う。「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、パワーポイント等の配布資料で実施し、資料にて説明した後、レポートを作成して提出する。各回のテーマごとに意見や感想を発表する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教職科目であることから、遅刻や欠席をしないように努めること、不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全学科)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	40%	0%	0%	0%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
教育行政の法的理解と教育制度の習得	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る知識・技能を積極的に習得し、その内容を的確に説明できた。	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容をほぼ説明できた。	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容を説明できなかった。
授業テーマに関するレポートの作成	テーマに基づき、的確な思考力・判断力のもと、論理的な内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、思考力・判断力を活かした内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、思考力・判断力のもと、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、ほぼ時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、時間内に記述できなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に主体的・積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業にほぼ関心を持って参加することができた。	授業に関心を持って参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	教育行政学 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	木村 浩紀(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 木村 浩紀)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政の経験のある教員がその経験を活かして、教育行政に係る今日的課題への対応を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『教育行政学』	横井敬部	八千代出版	2022	978-4-8429-1839-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明・教育行政の身近な課題について、授業改善アンケート結果反映の説明	授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
2	憲法・教育基本法と教育行政制度 ・憲法・教育基本法について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
3	憲法・教育基本法と教育行政制度 ・文部科学省と教育政策形成について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
4	憲法・教育基本法と教育行政制度 ・教育委員会制度について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
5	憲法・教育基本法と教育行政制度 ・教育財政と教職員配置について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
6	憲法・教育基本法と教育行政制度 ・教育課程について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
7	憲法・教育基本法と教育行政制度のまとめ	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
8	公教育制度と学校・教員 ・教育を受ける権利と公教育制度について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
9	公教育制度と学校・教員 ・学校組織と学校経営について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
10	公教育制度と学校・教員 ・教職員制度と教員の仕事について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
11	公教育制度と学校・教員 ・学校を支える教職員・施設と専門職協働について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
12	子ども・若者支援と権利保障 ・子どもの権利条約と学校の課題について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
13	子ども・若者支援と権利保障 ・子どもの成長・発達を支える行政について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
14	子ども・若者支援と権利保障 ・進路を拓く若者支援と学校の取り組みについて	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
15	公教育制度と学校・教員 子ども・若者支援と権利保障 のまとめ	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
16	教育行政学のまとめ 定期試験(60分) 授業改善アンケートの実施	講義資料等で講義内容を整理する。(90分)	試験の結果を見直す。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	教育行政学 (S) (科目ナンバリング:)				
授業担当者 (所属・職名)	木村 浩紀 (社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 木村 浩紀)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政の経験のある教員がその経験を活かして、教育行政に係る今日的課題への対応を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教育の理想や思想は、「教育制度」とならなければ実際に力をもつものとはならないとの観点から教育を把握するとともに、21世紀の教育行政に対応できる教育行政学について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

教育行政の組織や権限等の法制的な理解にとどまらず、学習するものの立場に立った教育条件整備の在り方について考察し、説明するとともに、テーマに即して、限られた時間内でレポートを記述できる。

授業全体の内容と概要

教育行政というものがあり、どうあるべきかを理論的・体系的にとらえるとともに、教育内容から教育環境の問題までを現実において具体的に考えていく。また、毎回設定する「授業テーマ」をもとに、思考・考察・発表等の活動を行う。「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、パワーポイント等の配布資料で実施し、資料にて説明した後、レポートを作成して提出する。各回のテーマごとに意見や感想を発表する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教職科目であることから、遅刻や欠席をしないように努めること、不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全学科)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	40%	0%	0%	0%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
教育行政の法的理解と教育制度の習得	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る知識・技能を積極的に習得し、その内容を的確に説明できた。	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容をほぼ説明できた。	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容を説明できなかった。
授業テーマに関するレポートの作成	テーマに基づき、的確な思考力・判断力のもと、論理的な内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、思考力・判断力を活かした内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、思考力・判断力のもと、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、ほぼ時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、時間内に記述できなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に主体的・積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業にほぼ関心を持って参加することができた。	授業に関心を持って参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	教育行政学 (S) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	木村 浩紀 (社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 木村 浩紀)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政の経験のある教員がその経験を活かして、教育行政に係る今日的課題への対応を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『教育行政学』	横井敬部	八千代出版	2022	978-4-8429-1839-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 教育行政の身近な課題について、授業改善アンケート結果反映の説明	授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
2	憲法・教育基本法と教育行政制度 ・憲法と教育基本法について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
3	憲法・教育基本法と教育行政制度 ・文部科学省と教育政策形成について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
4	憲法・教育基本法と教育行政制度 ・教育委員会制度について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
5	憲法・教育基本法と教育行政制度 ・教育財政と教職員配置	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
6	憲法・教育基本法と教育行政制度 ・教育課程について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
7	憲法・教育基本法と教育行政制度のまとめ	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
8	公教育制度と学校・教員 ・教育を受ける権利と公教育制度について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
9	公教育制度と学校・教員 ・学校組織と学校経営について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
10	公教育制度と学校・教員 ・教職員制度と教員の仕事について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
11	公教育制度と学校・教員 ・学校を支える教職員・施設と専門協働について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
12	子ども・若者支援と権利保障 ・子どもの権利条約と学校の課題について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
13	子ども・若者支援と権利保障 ・子どもの成長・発達を支える行政について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
14	子ども・若者支援と権利保障 ・進路を拓く若者支援と学校の取り組みについて	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
15	公教育制度と学校・教員 子ども・若者支援と権利保障 のまとめ	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
16	教育行政学のまとめ 定期試験(60分) 授業改善アンケートの実施	講義資料等で講義内容を整理する。(90分)	試験の結果を見直す。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	プロダクトデザイン (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	X		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板参照				

概要

履修目標

モノ、コト、商品をデザインする、プロダクトデザイナーになる為に必要な知識、技術、人間力を習得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)
 デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2023・2022年度)
 デザイン学科のDP1、DP2、DP3に対応する。(2021年度)

到達目標

プロダクトデザイナーとしてモノの見方、考え方、問題解決の為のアイデア展開、造形力、表現技術、プレゼンテーション技術、デザイナーとしての人間力を習得する。

授業全体の内容と概要

デザインするテーマをマーケットリサーチし、現状を把握、問題点抽出、アイデア展開、造形、ポスター等、表現方法を考察、プレゼンテーションして第三者の意見を考察し、自分の力量を認識する。

授業の方法

課題に沿ってマーケットリサーチをグループでしてモノの潜在価値を把握する。問題点を抽出しアイデアを発想し、デザインして第三者にプレゼンテーションする。ディスカッションをして自分の考察し、デザインの深さを認識する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようすること。
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は20回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
モノの本質を捉え、新しい価値を創り出せる。	モノの本質を完璧に捉え、今まで以上の価値を完璧に創造出来た。	モノの本質を上手に捉え、今まで以上の価値を高められた。	モノの本質を捉え、今まで以上の価値を出せた。	モノの本質を幸うして捉え、今まで以上の価値を幸うして出せた。	モノの本質を捉えられない、今まで以上の価値を出せなかった。
問題解決のアイデアを出せる。	問題解決のアイデアを完璧に出せる。従来の価値以上のものを創造出来た。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを幸うして具現化出来て、造形力やアプローチも幸うして出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。
新デザインを提案出来る	自分のアイデアを完璧に具現化出来て、造形力やアプローチも完璧であった。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを幸うして具現化出来て、造形力やアプローチも幸うして出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	プロダクトデザイン (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	X		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 プロダクトデザインとは デザインテーマ表	プロダクトデザインとは?調べておく、シラバスを読む。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
2	マーケットリサーチ 潜在意識探求、問題点抽出	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
3	グループに分かれてブレインストーミング	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
4	マーケットチャート作成	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
5	まとめ グループごとに見解を発表	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
6	問題定義から解決アイデアを展開 アイデアスケッチスタート	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
7	アイデアスケッチ	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
8	アイデアスケッチまとめ1	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
9	アイデアスケッチ1プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
10	アイデアスケッチ2	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
11	アイデアスケッチ2まとめ	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
12	アイデアスケッチ2プレゼンテーション デザイン審議会	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
13	デザイン方向決定 デザイン作業	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
14	デザイン作業 第三者の意見を汲む	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
15	デザイン作業 コンセプト確認	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
16	デザイン作業 アイデアは反映されているか	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	デザイン審査	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
18	デザイン再考 第三者の意見を汲む	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
19	デザイン修正	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
20	デザイン修正 レイアウト確認	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
21	レンダリング モック作成	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
22	レンダリング モック作成、効果的な方法考察	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
23	レンダリング モック作成、何を表現するか	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
24	レンダリング モック作成、材料を検討	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
25	レンダリング モック作成、考えていたのと造形は合っているか	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
26	レンダリング モック作成 完成に近づける	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
27	レンダリング モック作成完成させる	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
28	ポスター作成 プレゼンボード作成	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
29	ポスター作成 プレゼンボード作成 レイアウト考察	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
30	ポスター作成 プレゼンボード作成 表現として効果的か	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
31	プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
32	総評 授業改善アンケートの実施	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	授業全体を俯瞰して、今後の計画を考察する。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CG技法研究 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザインに於ける3DCG技術の習得。モデリング、シェーディング、レンダリング、アニメーション、シミュレーションを網羅し、制作のための基礎を身につけるためのアクティブラーニングである。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)
 デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP5に対応する。(2023・2022年度)
 デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

ビジュアル制作に於ける表現の幅を広げるための、3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作を身に付ける。
 「自らが学ぶ力」と「汎用的能力」を養うことで、実践力と社会性の伴った専門性を身に付ける。

授業全体の内容と概要

3DCGの制作工程を理解した後、モデリング-レンダリングの基礎、アニメーションの基礎について、アプリケーション(Maya)の基本操作を含めて系統的に学ぶための教材が配信される。
 これを基にして、受講者各自が、「体験」、「調査」、「発見」、「課題解決」などの学習を能動的に行う。

授業の方法

専門講師によるオンデマンドでの講義と実技指導の配信を教材として、受講生各自が主体的に学ぶ。
 受講生は指定されたアプリケーション(Maya)を用いることが可能な環境と、オンデマンドの受信が可能な環境の構築を事前に行う。
 操作講習から課題制作まで、全てを自学自習の形式で行う内容であり、環境の整備以外は全て教員の手を借りない自己解決を常とする。
 不測の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

受講者はオンデマンドの受信から課題の制作まで事前事後の学習を含む全授業内容でコンピュータを用いることになるので、自身のコンピュータを持ち込めることが望ましい。
 さらに、受講者はコンピュータとアプリケーションに関する知識と技術に習熟しており、トラブルには自己対応が可能でなければならない。
 3DCGはデザインに於ける表現分野の一つであるが、自らの制作活動に於いてその表現技法を必要とする者のための内容である。
 習う授業ではなく自学自習を原則とした授業であり、基本操作から課題制作まで自主的に積極的に取り組む姿勢が重要である。
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
 板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「3DCGをデザインの表現分野として正しく認識できている」	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性を90%以上理解し、可能性をシミュレーションできた。	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性を80%以上理解していた。	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性を70%以上理解していた。	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性を60%以上理解していた。	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性の理解が60%未満であった。
思考力・表現力・判断力 「デザインの志向に基づき、3DCGを用いた作品制作が行える」	3DCGアプリケーション(Maya)を適切に操作し、その特性を効果的に用いた完成度の高い作品制作が行えた。	3DCGアプリケーション(Maya)を適切に操作し、その特性を用いた完成度の高い作品制作が行えた。	3DCGアプリケーション(Maya)を操作して、その特性を用いた作品制作が行えた。	3DCGアプリケーション(Maya)を操作し、作品制作が行えた。	3DCGアプリケーション(Maya)の操作が不十分であり、作品制作には至らなかった。
主体性・多様性・協調性 「3DCGの基本操作から課題制作までの流れを通して、主体的に学ぶ姿勢が身に着いている」	与えられた教材の習得と課題提出を90%以上完了している。 授業の内容を十分に理解しており、今後の制作活動に於いて自主的に応用することが可能な姿勢を身に付けていた。	与えられた教材の習得と課題提出を80%以上完了している。 授業の内容を理解しており、今後の制作活動に於いて自主的に応用することが可能な姿勢を身に付けていた。	与えられた教材の習得と課題提出を70%以上完了している。 授業の内容を理解しており、今後の制作活動に於いて自主的に応用することが可能な姿勢を身に付けていた。	与えられた教材の習得と課題提出を60%以上完了している。 授業の内容を理解しているが、今後の制作活動に於いて自主的に応用する意思が育っていなかった。	与えられた教材の習得と課題提出が60%未満である。 授業の内容理解が不十分であり、今後の制作活動に向けて自主的に学び応用しようとする意思を持っていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CG技法研究 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス-シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 教材と受講環境の確認	シラバスの確認(90分)	受講環境整備(90分)
2	第1章 3DCGのワークフローと基本操作	第1章の講義内容を確認しておく(90分)	課題制作の継続(90分)
3	第1章 3DCGのワークフローと基本操作	課題制作の継続(90分)	課題制作の継続(90分)
4	第1章 3DCGのワークフローと基本操作	課題制作の継続(90分)	課題制作の継続(90分)
5	第1章 3DCGのワークフローと基本操作	課題制作の継続(90分)	課題の完成(90分)
6	第2章 基本操作とモデリング基礎	第2章の講義内容を確認しておく(90分)	課題制作の継続(90分)
7	第2章 基本操作とモデリング基礎	課題制作の継続(90分)	課題制作の継続(90分)
8	第2章 基本操作とモデリング基礎	課題制作の継続(90分)	課題制作の継続(90分)
9	第2章 基本操作とモデリング基礎	課題制作の継続(90分)	課題制作の継続(90分)
10	第2章 基本操作とモデリング基礎	課題制作の継続(90分)	課題の完成(90分)
11	第3章 シェーディング・UV・基礎	第3章の講義内容を確認しておく(90分)	課題制作の継続(90分)
12	第3章 シェーディング・UV・基礎	課題制作の継続(90分)	課題制作の継続(90分)
13	第3章 シェーディング・UV・基礎	課題制作の継続(90分)	課題制作の継続(90分)
14	第3章 シェーディング・UV・基礎	課題制作の継続(90分)	課題制作の継続(90分)
15	第3章 シェーディング・UV・基礎	課題制作の継続(90分)	課題の完成(90分)
16	各章課題の確認 CG技法研究のガイダンス 授業改善アンケートの実施	各章課題の最終確認(90分)	CG技法研究のシラバス確認(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級対策製図 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として設計事務所にて設計業務に携わった経験を踏まえ、授業を実施する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

今日の生活習慣や価値観の多様化は、建築空間にも急速に進展してきた。そしてそれは建築士試験における出題傾向にも色濃く反映されている。建築士試験の2次試験製図課題の傾向を探り、実践的な設計手法を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

設計業務に於いて即座に提示される付与条件と課題目標に対応した設計手順を学び、多様な図面表現をすることができる。

授業全体の内容と概要

建築士の想定製図課題を提示し、出題者の意図を探り、計画上の決まりごとや作図上の留意点をエスキス等をもとに理解し、作図する。

授業の方法

授業は授業初めに板書と配布資料、ビデオによる視聴覚資料により解説をおこない、エスキス・作図については基本的に個別にチェックをしてフィードバックする。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

コンセプトを構築し空間として具現化を図るためには、とりもなおさず人の話を「注意深く」聞き、その内容を理解するという作業から始まる。時間外の指導及び作業を課す。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席し全課題に取り組むこと(ただし最低出席回数11回以上)と、積極的に課題に取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	10%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
一級建築士製図試験想定問題に対する正確なエスキスと平面プランの構築をすることができる。	設計課題をすべて理解した上で不備のないエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をすべて理解した上でエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をおおむね理解した上でエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をある程度理解した上でエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題の内容を理解することができなかった。
設計と条件に対する適切な解答としての表現力を修得することができる。	与条件すべてを満足させる適切な表現ができた。	与条件を満足させる適切な表現ができた。	与条件をおおむね満足させる適切な表現ができた。	与条件をおおむね満足させる表現ができた。	与条件をおおむね満足させる表現ができなかった。
限られた時間内に図面を完成することのできる作図スピードを修得することができる。	時間内にすべての図面を書き残すことなく完成することができた。	時間内に書き上げることができた。	時間内におおむね書き上げることができた。	時間内にほぼ書き上げることができた。	時間内に完成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級対策製図 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として設計事務所にて設計業務に携わった経験を踏まえ、授業を実施する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの確認。授業の進め方と課題提出までのスケジュール	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
2	平面計画とプランニング	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
3	平面計画とプランニング	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
4	プランニングからエスキスへ	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
5	プランニングからエスキスへ	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
6	建築士試験想定製図課題の設計	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
7	建築士試験想定製図課題の設計	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
8	建築士試験想定製図課題の設計	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業の作図の継続(90分)
9	建築士試験想定製図課題の設計	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
10	建築士試験想定製図課題の設計	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
11	建築士試験想定製図課題の設計	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
12	建築士試験想定製図課題の設計	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
13	建築士試験想定製図課題の設計	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
14	建築士試験想定製図課題の設計	作図準備をする(90分)	プレゼンテーション準備(90分)
15	建築士試験想定製図課題の設計	プレゼンテーション準備(90分)	感想レポート提出(90分)
16	講評会	プレゼンテーション準備(90分)	感想レポート提出(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CG技法研究 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザインに於ける3DCG技術の習得。モデリング、シェーディング、レンダリング、アニメーション、シミュレーションを網羅し、制作のための基礎を身につけるためのアクティブラーニングである。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)
 デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP5に対応する。(2023・2022年度)
 デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

ビジュアル制作に於ける表現の幅を広げるための、3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作を身に付ける。「自らが学ぶ力」と「汎用的能力」を養うことで、実践力と社会性の伴った専門性を身に付ける。

授業全体の内容と概要

CG技法研究 で学んだ内容を踏まえた次の段階であり、3DCGのモデリング-レンダリングの基礎、アニメーションの基礎について、アプリケーション(Maya)の基本操作を含めて系統的に学ぶための教材が配信される。これを基にして、受講者各自が、「体験」、「調査」、「発見」、「課題解決」などの学習を能動的に行う。

授業の方法

専門講師によるオンデマンドでの講義と実技指導の配信を教材として、受講生各自が主体的に学ぶ。受講生は指定されたアプリケーション(Maya)を用いることが可能な環境と、オンデマンドの受信が可能な環境の構築を事前に行う。操作講習から課題制作まで、全てを自学自習の形式で行う内容であり、環境の整備以外は全て教員の手を借りない自己解決を常とする。不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

CG技法研究 からの連続した内容であり、CG技法研究 を履修した者であることが前提となる。そして自らの制作活動に於いて3DCGの表現技法を必要とする者のための内容である。習う授業ではなく自学自習を原則とした授業であり、基本操作から課題制作まで自主的に積極的に取り組む姿勢が重要である。受講者は、オンデマンドの受信から課題の制作まで、事前事後の学習を含む全授業内容でコンピュータを用いることになるので、自身のコンピュータを持ち込めることが望ましい。さらに、受講者はコンピュータに関する知識と技術に習熟しており、トラブルには自己対応が可能でなければならない。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「3DCGをデザインの表現分野として正しく認識できている」	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性を90%以上理解し、可能性をシミュレーションできた。	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性を80%以上理解していた。	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性を70%以上理解していた。	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性を60%以上理解していた。	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性の理解が60%未満であった。
思考力・表現力・判断力 「デザインの志向の基に3DCGを用いた作品制作が行える」	3DCGアプリケーション(Maya)を適切に操作し、その特性を効果的に用いた完成度の高い作品制作が行えた。	3DCGアプリケーション(Maya)を適切に操作し、その特性を用いた完成度の高い作品制作が行えた。	3DCGアプリケーション(Maya)を操作して、その特性を用いた作品制作が行えた。	3DCGアプリケーション(Maya)を操作し、作品制作が行えた。	3DCGアプリケーション(Maya)の操作が不十分であり、作品制作には至らなかった。
主体性・多様性・協調性 「3DCGの基本操作から課題制作までの流れを通して、主体的に学ぶ姿勢が身に着いている」	与えられた教材の習得と課題提出を90%以上完了している。授業の内容を十分に理解しており、今後の制作活動に於いて自主的に応用することが可能な姿勢を身に付けていた。	与えられた教材の習得と課題提出を80%以上完了している。授業の内容を理解しており、今後の制作活動に於いて自主的に応用することが可能な姿勢を身に付けていた。	与えられた教材の習得と課題提出を70%以上完了している。授業の内容を理解しており、今後の制作活動に於いて自主的に応用することが可能な姿勢を身に付けていた。	与えられた教材の習得と課題提出を60%以上完了している。授業の内容を理解しているが、今後の制作活動に於いて自主的に応用する意思は育っていなかった。	与えられた教材の習得と課題提出が60%未満である。授業の内容理解が不十分であり、今後の制作活動に向けて自主的に学び応用しようとする意思を持っていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CG技法研究 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス-シラバス及び授業改善アンケート結果 反映の説明 受講環境の再確認と教材の確認	第1・2・3章の講義内容を復習しておく (90分)	教材と環境の再確認 (90分)
2	第4章 レンダリング基礎	第4章の講義内容を確認しておく (90分)	課題制作の継続 (90分)
3	第4章 レンダリング基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
4	第4章 レンダリング基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
5	第4章 レンダリング基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
6	第4章 レンダリング基礎	課題制作の継続 (90分)	課題の完成 (90分)
7	第5章 アニメーション基礎	第5章の講義内容を確認しておく (90分)	課題制作の継続 (90分)
8	第5章 アニメーション基礎	課題確認と制作 (90分)	課題確認と制作 (90分)
9	第5章 アニメーション基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
10	第5章 アニメーション基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
11	第5章 アニメーション基礎	課題制作の継続 (90分)	課題の完成 (90分)
12	第6章 シミュレーション基礎	第6章の講義内容を確認しておく (90分)	課題制作の継続 (90分)
13	第6章 シミュレーション基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
14	第6章 シミュレーション基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
15	第6章 シミュレーション基礎	課題制作の継続 (90分)	課題の完成 (90分)
16	各章課題の確認-講評 授業改善アンケートの実施	各章課題の最終確認 (90分)	第1-6章の全内容を復習する (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代の精神保健分野の動向と課題、精神保健の基本的考え方、現代社会における精神保健の諸課題の実際に関わる教育の専門職に必要な知識を習得する。

授業の位置づけ

経営学科のDP2に対応する。(2023年度)

到達目標

現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。
精神保健の基本的考え方を理解する。
現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。

授業全体の内容と概要

ライフサイクルや生活習慣をはじめとする精神保健の基本的な考え方と、それに関連する人間の心理行動面の特徴と現在の動向について学ぶ。
現在注目されている精神保健の問題と解決策について学ぶ。
「SDGs. すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式になるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習(グループワーク等)も取り入れる。配布される資料に板書事項を記述すること。
毎回の振り返り(小テスト・感想・質問)等をMicrosoft Formsを通して提出し、次回授業開始時にフィードバックを行う。
第10回目の前半には中間テストを実施し、理解度を確認する(出題形式・試験時間等は授業内で説明)。
授業資料の配信や感想等の提出にMicrosoft Teamsを活用する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教科書は毎回持参すること。
配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。
ニュース等で報道される福祉に関わる話題について興味を持つこと。
新聞記事等を題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。

修学サポート(合理的配慮)

・事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(保健体育)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

出席回数は定期試験前までに10回以上あることを評価の前提条件とし、第10回目に実施する中間テスト(30点)、第16回目に実施する定期試験(70点)の結果を総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	30%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね説明できた。	現代の精神保健分野の動向と課題に関するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
精神保健の基本的考え方を理解する。	関係するキーワードを用いて精神保健の基本的考え方について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて精神保健の基本的考え方についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の基本的考え方について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の基本的考え方についておおむね説明できた。	精神保健の基本的考え方に関するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
現代社会における精神保健の諸課題の実際を理解する。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね説明できた。	現代社会における精神保健の諸課題の実際に関するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座 2 現代の精神保健の課題と支援』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	4805882530	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、精神保健の概要	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
2	現代の精神保健の動向と基本的考え方(精神保健の動向、精神保健活動の三つの対象)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
3	現代の精神保健の動向と基本的考え方(精神の健康に関する心的態度、生活と嗜好)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
4	家族に関連する精神保健の課題と支援(家族関係における暴力と精神保健、出産・育児をめぐる精神保健)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
5	家族に関連する精神保健の課題と支援(介護をめぐる精神保健、社会的ひきこもりをめぐる精神保健)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
6	家族に関連する精神保健の課題と支援(家族関係の課題、グリーフケア、精神保健支援を担う機関)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
7	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ(学校教育における精神保健的課題、教員の精神保健)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
8	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ(関与する専門職と関係法規)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
9	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ(スクールソーシャルワーカーの役割、学校精神保健にかかわる社会資源)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
10	中間テスト、振り返り	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。(90分)	試験で間違えたところ、理解があまりなかった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)
11	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ(現代日本の労働環境、産業精神保健とその対策)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
12	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ(職場のメンタルヘルスのための相談、職場内の問題を解決するための機関および関係法規)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
13	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ(災害被害者の精神保健、犯罪被害者等の支援、自殺予防)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
14	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ(精神保健の身体疾患に伴う精神保健、貧困問題と精神保健、社会的孤立)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
15	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ(性同一性障害と精神保健、多文化に接することで生じる精神保健上の課題、反復違法行為)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説)、授業改善アンケートの実施	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。(90分)	試験で間違えたところ、理解があまりなかった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	肢体不自由教育 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	千葉 聡美(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 千葉 聡美)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題(肢体不自由教育及び重複障害教育)について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
共生社会の創造のための教養として肢体不自由者及び重複障害者の教育を効果的に行うために必要な基本的な知識と障害の状況等に応じた指導の在り方等の実践的な知識を取得する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。(2023・2022年度)

到達目標
肢体不自由教育を効果的に行うために必要な指導内容・方法等についての実践的な知識を具体的に述べることができる。

授業全体の内容と概要
特別支援教育の対象となる肢体不自由教育及び重複障害のある子供の教育の現状を押しえ、児童生徒の実態に応じた教育課程や指導内容・方法について事例研究や映像教材等も活用しながら構成する。 「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法
授業は、パワーポイント及び配付資料で教科書の内容を確認するとともに、その回の内容に応じた思考・考察・意見交換、討議等の活動を行う。また、教育の実際場面の動画を視聴しレポートにまとめたり、指導事例に基づいて指導案を作成し模擬授業を行う等で、総合的に教育の方法を取得させる。レポートや模擬授業についてはコメントによりフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
肢体不自由者の障害特性に応じた指導を効果的に行うために必要な知識を積極的に学ぶ姿勢で臨むこと。また、重複障害児指導事例集等の事例に基づく指導案の作成と模擬授業の実施及びレポート提出を求めないので、授業を欠席することのないよう留意すること。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程(特別支援)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	40%	40%	0%	20%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	40%	40%	0%	20%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を越えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>肢体不自由及び重複障害のある子どもの教育の理解</td> <td>肢体不自由及び重複障害のある子どもの教育について、学修した知識・技能を基礎に、さらに学修を深めようとする事ができた。</td> <td>肢体不自由及び重複障害のある子どもの教育について、必要な知識・技能を理解することができた。</td> <td>肢体不自由及び重複障害のある子どもの教育について、一定程度の理解ができた。</td> <td>肢体不自由及び重複障害のある子どもの教育について、一部理解することができた。</td> <td>肢体不自由及び重複障害のある子どもの教育について、理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>肢体不自由を主とする重複障害のある子どもの実態に応じた指導内容・方法における思考・判断・表現</td> <td>肢体不自由を主とする重複障害のある子どもの実態に応じた指導内容・方法を深く思考し、模擬授業を通して自ら工夫して表現することができた。</td> <td>肢体不自由を主とする重複障害のある子どもの実態に応じた指導内容・方法を思考し、模擬授業を通して表現することができた。</td> <td>肢体不自由を主とする重複障害のある子どもの実態に応じた指導内容・方法を思考し、模擬授業を通して表現することができた。</td> <td>肢体不自由を主とする重複障害のある子どもの実態に応じた指導内容・方法を思考し、模擬授業を通して一部表現することができた。</td> <td>肢体不自由を主とする重複障害のある子どもの実態に応じた指導内容・方法を思考し、模擬授業を通して表現するための必要な取り組みができなかった。</td> </tr> <tr> <td>授業への参加態度・姿勢</td> <td>授業に非常に積極的に参加することができた。</td> <td>授業に積極的に参加することができた。</td> <td>授業に関心を持って参加することができた。</td> <td>授業にいくらかの関心をもつことができた。</td> <td>授業へ積極的に参加することができなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	肢体不自由及び重複障害のある子どもの教育の理解	肢体不自由及び重複障害のある子どもの教育について、学修した知識・技能を基礎に、さらに学修を深めようとする事ができた。	肢体不自由及び重複障害のある子どもの教育について、必要な知識・技能を理解することができた。	肢体不自由及び重複障害のある子どもの教育について、一定程度の理解ができた。	肢体不自由及び重複障害のある子どもの教育について、一部理解することができた。	肢体不自由及び重複障害のある子どもの教育について、理解できなかった。	肢体不自由を主とする重複障害のある子どもの実態に応じた指導内容・方法における思考・判断・表現	肢体不自由を主とする重複障害のある子どもの実態に応じた指導内容・方法を深く思考し、模擬授業を通して自ら工夫して表現することができた。	肢体不自由を主とする重複障害のある子どもの実態に応じた指導内容・方法を思考し、模擬授業を通して表現することができた。	肢体不自由を主とする重複障害のある子どもの実態に応じた指導内容・方法を思考し、模擬授業を通して表現することができた。	肢体不自由を主とする重複障害のある子どもの実態に応じた指導内容・方法を思考し、模擬授業を通して一部表現することができた。	肢体不自由を主とする重複障害のある子どもの実態に応じた指導内容・方法を思考し、模擬授業を通して表現するための必要な取り組みができなかった。	授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業にいくらかの関心をもつことができた。	授業へ積極的に参加することができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
肢体不自由及び重複障害のある子どもの教育の理解	肢体不自由及び重複障害のある子どもの教育について、学修した知識・技能を基礎に、さらに学修を深めようとする事ができた。	肢体不自由及び重複障害のある子どもの教育について、必要な知識・技能を理解することができた。	肢体不自由及び重複障害のある子どもの教育について、一定程度の理解ができた。	肢体不自由及び重複障害のある子どもの教育について、一部理解することができた。	肢体不自由及び重複障害のある子どもの教育について、理解できなかった。																								
肢体不自由を主とする重複障害のある子どもの実態に応じた指導内容・方法における思考・判断・表現	肢体不自由を主とする重複障害のある子どもの実態に応じた指導内容・方法を深く思考し、模擬授業を通して自ら工夫して表現することができた。	肢体不自由を主とする重複障害のある子どもの実態に応じた指導内容・方法を思考し、模擬授業を通して表現することができた。	肢体不自由を主とする重複障害のある子どもの実態に応じた指導内容・方法を思考し、模擬授業を通して表現することができた。	肢体不自由を主とする重複障害のある子どもの実態に応じた指導内容・方法を思考し、模擬授業を通して一部表現することができた。	肢体不自由を主とする重複障害のある子どもの実態に応じた指導内容・方法を思考し、模擬授業を通して表現するための必要な取り組みができなかった。																								
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業にいくらかの関心をもつことができた。	授業へ積極的に参加することができなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	肢体不自由教育 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	千葉 聡美(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 千葉 聡美)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題(肢体不自由教育及び重複障害教育)について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本 2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020年	978-4-86371-548-6	
2	『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』	文部科学省	海文堂出版	平成29年	978-4-303-12424-3	
3	『特別支援学校学習指導要領解説総則編』	文部科学省	開隆堂出版	平成30年	978-4-304-04229-4	
4	『特別支援学校学習指導要領解説自立活動編』	文部科学省	開隆堂出版	平成30年	978-4-304-04231-7	
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明及び肢体不自由者・重複障害者の教育の概要 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを確認しておくこと(90分)	配付資料に基づいて、年間の授業内容の見直しを立てる(90分)
2	重複障害児の教育の意義	教科書の「重複障害」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
3	肢体不自由者のコミュニケーション支援(1) ことばの獲得のプロセスと支援	教科書の「各教科等の指導の工夫」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
4	肢体不自由者のコミュニケーション支援(2) コミュニケーション手段と支援	教科書の「各教科等の指導の工夫」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
5	重複障害児の教育の内容と方法	教科書の「重複障害」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
6	重複障害のある幼児児童生徒の指導事例(1) 「観察することを中心に」	教科書の「重複障害」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
7	重複障害のある幼児児童生徒の指導事例(2) 「知的障害」と「視覚障害」との重複	教科書の「重複障害」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
8	重複障害のある幼児児童生徒の授業づくり 「指導案の書き方」	教科書の「重複障害」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき指導案作成に着手(90分)
9	重複障害のある幼児児童生徒の授業づくり 「指導案の作成」(1)	教科書の「重複障害」を事前に読んでおくこと(90分)	助言を受けて指導案を修正する(90分)
10	重複障害のある幼児児童生徒の授業づくり 「指導案の作成」(2)	配布した資料を事前に読んでおくこと(90分)	助言を受けて指導案を修正する(90分)
11	重複障害のある幼児児童生徒の授業づくり 「教材教具の作成」	配布した資料に基づき指導案について事前に調べておくこと(90分)	助言を受けて指導案を修正する(90分)
12	重複障害のある幼児児童生徒の授業づくり 「モデル授業」	配布された指導案を事前に読んでおくこと(90分)	示範授業を見て自分の指導案修正する(90分)
13	肢体不自由教育の指導案に基づく指導の工夫(1) 模擬授業	配布された指導案を事前に読んでおくこと(90分)	指導案を修正する(90分)
14	肢体不自由教育の指導案に基づく指導の工夫(2) 模擬授業	配布された指導案を事前に読んでおくこと(90分)	指導案を修正する(90分)
15	肢体不自由教育の指導案に基づく指導の工夫(3) 模擬授業 授業改善アンケートの実施	配布された指導案を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
16	肢体不自由教育の指導案作成のポイントと評価の方法・まとめ	指導案や模擬授業の振り返り(90分)	検討の結果を見直す(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	工業科教育法 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が高等学校工業科教員としての必要な資質を身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP2に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

工業教育の意義と役割を考え、基礎的知識及び技術、指導内容及び指導方法を理解することができる。

授業全体の内容と概要

工業教育の基礎的知識及び技術、指導内容・指導方法を理解し学ぶ。授業全体を通して、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

授業は、板書で実施し、板書にて説明しながら、演習を行う。課題提出後、解説も行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	グループワーク		フィールドワーク		P B L
○	模擬授業	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

積極的に教育に関心をもつこと。授業時間の半分以上の遅刻は欠席とみなします。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(工業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

11回以上の出席、レポート課題の提出と平常点の結果を総合して判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	20%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
工業教育の意義と役割の理解	講義の内容から工業教育の意義と役割について完璧に理解した。	講義の内容から工業教育の意義と役割について理解した。	講義の内容から工業教育の意義と役割についてほぼ理解した。	講義の内容から工業教育の意義と役割について大体理解した。	工業教育の意義と役割について理解しなかった。
工業教育の基礎的知識及び技術の理解	講義の内容から工業教育の基礎的知識及び技術について完璧に理解した。	講義の内容から工業教育の基礎的知識及び技術について理解した。	講義の内容から工業教育の基礎的知識及び技術についてほぼ理解した。	講義の内容から工業教育の基礎的知識及び技術について大体理解した。	工業教育の基礎的知識及び技術について理解しなかった。
指導内容及び指導方法の理解	講義の内容から指導内容及び指導方法について完璧に理解した。	講義の内容から指導内容及び指導方法について理解した。	講義の内容から指導内容及び指導方法についてほぼ理解した。	講義の内容から指導内容及び指導方法について大体理解した。	指導内容及び指導方法について理解しなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	工業科教育法 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『高等学校学習指導要領』	文部科学省				
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜指示』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、カリキュラムとその在り方及び授業改善アンケート結果反映の説明	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
2	カリキュラムの要素と構成	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
3	工業教育のカリキュラムの編成1	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
4	工業教育のカリキュラムの編成2	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
5	工業教育のカリキュラムの変遷	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
6	模擬授業1	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
7	模擬授業2	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
8	工業高校のカリキュラム	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
9	カリキュラムへの作業分析方法の導入1	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
10	カリキュラムへの作業分析方法の導入2	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
11	学習指導と工業教育1	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
12	学習指導と工業教育2	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
13	評価	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
14	模擬授業3	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
15	模擬授業4	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
16	授業改善アンケートの実施及び総解説しフィードバックします	総復習(90分)	総理解(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	知的障害教育 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 藤根 収)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

特別な支援を必要とする知的障害児の教育課程及び指導・支援の方法を理解し、知的障害児の教育を効果的に行うために必要な基本的知識と障害の状況等に応じた指導のあり方等の実践的な知識を習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

特別支援学校学習指導要領等を基準として、知的障害のある児童生徒の障害の状態や特性及び発達段階等を踏まえた教育課程の編成や個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成する意義と活用方法を理解する。また、知的障害教育を効果的に行うために必要な指導内容・方法等についての基礎的な知識を理解する。

授業全体の内容と概要

毎回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。知的障害教育の歴史の変遷と現状を知り、児童生徒の実態把握の方法、教育課程や指導内容・方法、評価等を具体的な事例や映像等の視聴覚教材を活用し、総合的に構成する。「SDGs4: 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業はパワーポイント及び配布物(レジメ)で実施し、テーマに関する説明をした後、グループワーク等で、テーマに関する事項に関して、思考・考察、意見交換、討議、発表等の一連の活動を行うなどして理解を深める。また、実践事例のVTR教材視聴の事例に基づくレポート提出を行う。なお、レポート等にはコメントにてフィードバックする。ICT活用に関連して、授業についての質問などはチャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。不測の事態が起きた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(特別支援学校教諭)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	20%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知的障害教育の知識・技能の習得	知識・技能の基礎的な内容について高い関心をもって理解し、さらに深めてようとして、学修することができた。	知識・技能の基礎的な内容について、関心をもって理解し、学修することができた。	知識・技能の基礎的な内容を学修することができた。	知識・技能の基礎的な内容について一定程度理解することができた。	知識・技能の基礎的な内容についての理解ができなかった。
知的障害教育に関する思考・判断・表現	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して積極的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで意欲的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで表現できた。	テーマに基づき、一部、思考・判断し、個人やグループで表現しようとした。	テーマの受け止めが不十分で、思考・判断・表現が十分にできなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度・姿勢が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	知的障害教育 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 藤根 収)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本 2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(平成29年4月告示)』	文部科学省	海文堂出版	2018	978-4-303-12424-3	
2	『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)』	文部科学省	開隆堂出版	2018	978-4-304-04230-0	
3						
4						
5						

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション - 授業改善アンケート結果反映の説明とシラバスの説明、知的障害教育の概要	教科書から「知的障害教育」についての課題を整理する。(90分)	課題についてノートに整理し、シラバスを確認すること。(90分)
2	知的障害児教育の歴史 - 戦前の教育	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
3	知的障害児教育の歴史 - 戦後の教育	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
4	知的障害の理解と教育の制度について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
5	学習指導要領と教育課程編成の基本的な考え方について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
6	実態把握の方法と個別の指導計画について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
7	個別の指導計画と授業づくりについて	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
8	知的障害のある子どもの日常生活の指導と遊びの指導について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
9	知的障害のある子どもの作業学習の指導について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
10	知的障害のある子どもの生活単元学習の指導について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
11	知的障害のある子どもの教科別の指導などについて	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
12	知的障害のある子どもの自立活動の指導について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
13	知的障害のある子どもの個別的教育支援計画等について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
14	知的障害のある子どもの交流及び共同学習について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
15	知的障害教育におけるカリキュラム・マネジメント 学習評価の方法について 授業改善アンケートの実施	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な語句や内容を整理するとともにレポートを作成する。(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説する。)	教科書等で講義内容を整理する。(90分)	試験の結果を見直す。(90分)

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 正人(デザイン学科・客員教授)	研究室等所在	2号館7階・1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 正人)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に即した実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

大型オリジナルイラストのためのイラストの多様性、表現方法を学び、完成度の高い作品作りを目指す。イラスト、デザイン、アートのみならず様々なものから積極的な探求心、研究心を養う。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP 3、DP 4、DP 5に対応する。(2024年度)
 デザイン学科のDP 1、DP 2、DP 3、DP 5に対応する。(2023・2022年度)
 デザイン学科のDP 1、DP 2、DP 3、DP 5に対応する。(2021年度)

到達目標

完成度の高いオリジナル作品の完成を目指し、独自のイラスト表現を確立。各自に合うコンペなどへの応募も検討する。

授業全体の内容と概要

個々のイラスト表現を模索して、オリジナルの方向性を確立。作品制作の中で画材表現、イラスト表現を身につける。ビジュアル本制作に於いて独自のイラストの方向性の研究。

授業の方法

イラストレーターの仕事について、イラスト表現の多様性等について講義を行った後、各自の過去のイラスト作品の研究を行う。その後で、実技にて作品制作を行っていく。また各自作品ビジュアル本を制作する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

遅刻3回で欠席1回とみなす。
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は20回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イラストレーションに対する制作意欲および授業態度。	授業の事前事後学習を進め、意欲的な制作態度、取り組みがなされ模範的な授業態度であった。	授業の事前事後学習を進め、真面目に授業課題の作品制作に取り組んでいた。	授業課題、内容に真面目に取り組んでいた。	授業課題へ取り組みながらも、制作意欲が乏しかった。	授業に対しての意欲が感じられず制作態度の取り組みに欠けていた。
イラスト表現における表現・描法への知識および理解。	授業内容に積極的に真剣に取り組む、知識の習得と理解度を深めていた。	授業内容に真剣に取り組む、授業内容を充分理解していた。	授業内容を真面目に取り組む概ね理解していた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解していなかった。
イラスト表現への研究および習得。	授業内容を深く理解して研究心、習得の向上心が著しくあり実践的にも優れていた。	授業内容を充分理解して研究心があり習得して形になっていた。	授業内容を概ね理解して真面目に研究、習得していた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解せず研究心、習得への意欲に欠けた。
イラストの多様性・実践的創作への理解。	授業内容を深く理解して実践的応用や表現の多様性にも優れ、完成度にも著しく優れていた。	授業内容を充分理解して実践的創作、多様性を習得し表現していた。	授業内容を概ね理解して真面目に多様性・実践的創作をしていた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解せず制作意欲に欠けた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 正人(デザイン学科・客員教授)	研究室等所在	2号館7階・1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 正人)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に即した実習を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明。オリエンテーション(イラストレーターの仕事について)	シラバスを読んでおくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
2	制作への心構え,制作意識について,イラスト表現の多様性についてなど講義	シラバスを読んでおくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
3	各自過去のイラスト作品を持参して,各自のオリジナリティを探索。テーマ性,イラスト表現の研究。	持参する各自の過去のイラスト作品を用意しておくこと。(45分)	作への取り組みを進めること。(45分)
4	各自過去のイラスト作品を持参して,各自のオリジナリティを探索。テーマ性,イラスト表現の研究。	持参する各自の過去のイラスト作品を用意しておくこと。(45分)	各自のイラスト表現の方向性を固めて制作への取り組みを進めること。(45分)
5	オリジナルイラストのコンセプト確定(テーマ性,媒体など)。画材,タッチ表現の決定。	イラストの構想,テーマ,コンセプトなどを練っておくこと。(45分)	作品制作に向けて具体的な作品イメージを固めておくこと。(45分)
6	オリジナルイラストのコンセプト確定(テーマ性,媒体など)。画材,タッチ表現の決定。	イラストの構想,テーマ,コンセプトなどを練っておくこと。(45分)	作品制作に向けて具体的な作品イメージを固めておくこと。(45分)
7	大型作品への取り組みについて。水張り作業,下地作業。ラフ制作。	制作作業の道具準備を行っておくこと。(45分)	アイデア出し,ラフ作業制作に向けて取り組みを進めておくこと。(45分)
8	大型作品への取り組みについて。水張り作業,下地作業。ラフ制作。	制作作業の道具準備を行っておくこと。(45分)	アイデア出し,ラフ作業制作に向けて取り組みを進めておくこと。(45分)
9	着色作業1。下地作業終了後にトレース作業。	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
10	着色作業1。下地作業終了後にトレース作業。	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
11	着色作業2	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
12	着色作業2	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
13	着色作業3	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
14	着色作業3	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
15	着色作業4	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
16	着色作業4	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	着色作業5	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
18	着色作業5	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
19	着色作業6	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
20	着色作業6	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
21	プレゼンテーション,作品講評,コンセプトシート&作品提出。	作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
22	プレゼンテーション,作品講評,コンセプトシート&作品提出。	作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
23	イラストレーションを使ったビジュアル本の制作(絵本的表現の習得)。	制作へ向けて課題説明書を読み作品の構想を練っておくこと。(45分)	作品資料をまとめて完成品のイメージを固めておくこと。(45分)
24	イラストレーションを使ったビジュアル本の制作(絵本的表現の習得)。	制作へ向けて課題説明書を読み作品の構想を練っておくこと。(45分)	作品資料をまとめて完成品のイメージを固めておくこと。(45分)
25	ビジュアル本制作-1。絵コンテ,ページの構成。	制作作業に必要な作品準備を行っておくこと。(45分)	作品資料をまとめて作品プリントの準備を進めておくこと。(45分)
26	ビジュアル本制作-1。絵コンテ,ページの構成。	制作作業に必要な作品準備を行っておくこと。(45分)	作品資料をまとめて作品プリントの準備を進めておくこと。(45分)
27	ビジュアル本制作-2。製本作業1	製本作業に必要な作品,道具の準備を行っておくこと。(45分)	製本制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
28	ビジュアル本制作-2。製本作業1	製本作業に必要な作品,道具の準備を行っておくこと。(45分)	製本制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
29	ビジュアル本制作-3。製本作業2	製本作業に必要な作品,道具の準備を行っておくこと。(45分)	製本制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
30	ビジュアル本制作-3。製本作業2	製本作業に必要な作品,道具の準備を行っておくこと。(45分)	製本制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
31	ビジュアル本制作-4,製本完成。プレゼンテーション,作品講評,コンセプトシート&作品提出。	作品完成,プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
32	ビジュアル本制作-4,製本完成。プレゼンテーション,作品講評,コンセプトシート&作品提出。授業	作品完成,プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所に勤めた経験を活かして実践的な授業を展開していく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
「資格が無ければ食えない」とも言われる建設業界でその根幹である建築士、その中でも大学卒業後すぐに受験可能な2級建築士試験の学科「建築構造」にターゲットを絞り、その傾向と対策を学ぶ。

授業の位置づけ
建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度) 建築学科のDP1、DP2に対応する。(2023・2022年度) 建築学科のDP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標
提示された建築士の過去問題に対し出題者の意図を探り、試験の決まりごとや回答上の留意点を解説等をもとに理解できる。

授業全体の内容と概要
2級建築士学科試験学科 に出題される過去問題の回答・解説について網羅する。 「SDG11・住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法
テキストや配布資料をもとに、視聴覚資料も交えて講義を行う。また講義後には毎回確認実施テストを行う。不測の事態の際にオンライン及びオンデマンドにて授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
資格試験対策は、通常授業とはそのアプローチも異なり、そして学習方法もちがう。しかし3年生までの専門科目の集大成と総まとめとして、そして建築士は建築学科出身の学生には選けては通れないものなので、覚悟を以って取り組んで欲しい。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準												
評価前提条件												
原則毎回出席すること(最低出席回数11回以上)												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>60%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	60%	40%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	60%	40%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解</td> <td>構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。</td> <td>構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題を正確に解くことができた。</td> <td>構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。</td> <td>構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題を解くことができた。</td> <td>構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題を解くことができなかった。</td> </tr> <tr> <td>各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法の性状理解</td> <td>各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題をすべて正確に解くことができた。</td> <td>各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題を正確に解くことができた。</td> <td>各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題をほぼ正確に解くことができた。</td> <td>各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題を解くことができた。</td> <td>各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題を解くことができなかった。</td> </tr> <tr> <td>各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解</td> <td>各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。</td> <td>各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題を正確に解くことができた。</td> <td>各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。</td> <td>各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題を解くことができた。</td> <td>各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題を解くことができなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題を正確に解くことができた。	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題を解くことができた。	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題を解くことができなかった。	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法の性状理解	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題をすべて正確に解くことができた。	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題を正確に解くことができた。	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題を解くことができた。	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題を解くことができなかった。	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題を正確に解くことができた。	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題を解くことができた。	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題を解くことができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題を正確に解くことができた。	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題を解くことができた。	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題を解くことができなかった。																								
各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法の性状理解	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題をすべて正確に解くことができた。	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題を正確に解くことができた。	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題を解くことができた。	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題を解くことができなかった。																								
各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題を正確に解くことができた。	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題を解くことができた。	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題を解くことができなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 設計事務所に勤めた経験を活かして実践的な授業を展開していく。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。静定構造物・反力・応力 授業改善アンケート結果反映の説明	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	静定ラーメン・静定トラス	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	断面の性質	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	応力度と許容応力度	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	座屈・変形	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	地震力	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	風圧力	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	荷重・外力融合	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	地盤・基礎構造	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
10	木構造 耐力壁・接合法	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
11	R C造 構造設計・各部の設計	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
12	S造 構造設計・接合部	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
13	その他構造 壁式鉄筋コンクリート構造・補強コンクリートブロック造・組積造	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
14	建築材料 木材・セメント・骨材・コンクリート	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
15	建築材料 金属・ガラス・材料融合 授業改善アンケートの実施	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
16	実力診断試験・解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	アクション・プログラム (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	民間企業に従事		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

建設業界の各企業の実務担当者を招き、直接、業務内容等の建設業界の現状を理解することで、在学中の学習意欲の向上と就職意識の醸成を目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のD P 2に対応する。(2024年度)
 建築学科のD P 2に対応する。(2023・2022年度)
 建築学科のD P 2に対応する。(2021年度)

到達目標

建設業界は非常に幅広い業界であり、各分野ごとの建設業としての業務や立場を理解でき、就職活動に活かすことができる。

授業全体の内容と概要

建設業界の設計事務所・建設会社者・設備業者・ハウスメーカー・デベロッパーなどの様々な業種に勤務する実務担当者から、実際の業務について経験をまじえて実体験の講演を実施。
 また、講義後には、感想文などのアンケートを実施し、その内容による成績評価を行う。

授業の方法

各企業担当者を外部講師として招き、それぞれの業界について講義を実施する。
 不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

講義後、振り返りアンケートを実施するが、期限までに未提出の場合は、欠席扱いとする。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	100%	0%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建設業界について、必要な知識を修得できる。	建設業界について必要な知識を修得できていた。	建設業界について必要な知識をおおむね修得できていた。	建設業界について必要な知識を最低限修得できていた。	建設業界について必要な知識を知ることができた。	建設業界についての知識を知る意志がなかった。
建設業界における各業種について、必要な知識を修得できる。	建設業界における各業種について必要な知識を修得できていた。	建設業界における各業種について必要な知識をおおむね修得できていた。	建設業界における各業種について必要な知識を最低限修得できていた。	建設業界における各業種について必要な知識を知ることができた。	建設業界における各業種について必要な知識を知る意志がなかった。
建設業界への就職活動について、必要な知識を修得できる。	建設業界への就職活動について必要な知識を修得できていた。	建設業界への就職活動について必要な知識をおおむね修得できていた。	建設業界への就職活動について必要な知識を最低限修得できていた。	建設業界への就職活動について必要な知識を知ることができた。	建設業界への就職活動について必要な知識を知る意志がなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小笠原 健)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	民間企業に従事		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	^F 適宜。					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。授業の進め方について説明。企業1(外部講師による建設業界についての講義)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
2	企業2(外部講師による建設業界についての講義)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
3	企業3(外部講師による建設業界についての講義)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
4	企業4(外部講師による建設業界についての講義)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
5	企業5(外部講師による建設業界についての講義)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
6	企業6(外部講師による建設業界についての講義)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
7	企業7(外部講師による建設業界についての講義)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
8	企業8(外部講師による建設業界についての講義)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
9	企業9(外部講師による建設業界についての講義)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
10	企業10(外部講師による建設業界についての講義)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
11	企業11(外部講師による建設業界についての講義)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
12	企業12(外部講師による建設業界についての講義)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
13	企業13(外部講師による建設業界についての講義)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
14	企業14(外部講師による建設業界についての講義)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
15	企業15(外部講師による建設業界についての講義)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
16	企業16(外部講師による建設業界についての講義)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	美術科教育法 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	中学校教諭専修免許状(美術)と高等学校教諭専修免許(美術)を有し、公立小学校で教員経験がある教員が、その経験を元に美術科教育法について授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

美術科教育の目標、内容及び指導の方法について、学習指導要領を基に基礎的な理解を深め、美術科の学習指導に必要な基礎的な知識や技能を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、に対応する。(2022・2023年度)

到達目標

- ・学習指導要領を理解し、美術科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解できる。
- ・中等・高等教育段階における美術科の意義を踏まえ、学習指導案を作成し、実際に授業を行うことができる。

授業全体の内容及概要

中学校を中心に美術科の学習指導要領を基に基礎的な内容を理解する。いくつかの教材研究を通して、中等・高等教育における美術科の意味を考え、表現に関する指導計画の作成および学習の方法などを学び、美術科の学習指導に必要な基礎的な知識や技能を身につけていく。

授業全体を通して、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

授業ではパワーポイントや配布資料のほか、DVDなどの視聴覚メディアなどを用い、講義形式だけでなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーション、模擬授業などを行う。模擬授業では他の学生の授業について検討し、ディスカッションを行う。模擬授業実施後、再度修正した指導案を提出する。なお、提出された指導案にはコメントにてフィードバックする。授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

指導案の作成や模擬授業などを実施するため、やむを得ない場合を除き欠席はしないことが望ましい。授業内で行うグループワークやディスカッションには積極的に参加する態度が求められる。

『中学校美術の教科書1-3年』(開隆堂出版、日本文教出版、光村図書出版など)について、授業で何冊か準備するが、どの学年でもよいので各自が1冊は購入することが望ましい。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(美術)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	20%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
美術科の内容に対する理解度	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自の視点から考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自の視点から考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
学習指導案の作成能力	授業内容を越えて文献や資料を自分で調査して、学習指導案を適切に作成することができた	学習指導要領に沿って、考察をより深めながら適切に学習指導案を作成することができた	学習指導要領に沿って、考察の程度適切に学習指導案を作成することができた	学習指導要領に沿って学習指導案を作成することができた	学習指導案を作成することができなかった
模擬授業などの演習やディスカッションを通じた考察	自ら進んで課題の範囲を超えて調べ、自主的な学習が認められた。	演習において他者との意見交換を通して考察を深めることができた。	演習を通して考察を深めることができた。	演習を通して考察することができた。	演習を通して考察することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	美術科教育法 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	中学校教諭専修免許状(美術)と高等学校教諭専修免許(美術)を有し、公立小学校で教員経験がある教員が、その経験を元に美術科教育法について授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『美術教育概論 新訂版』	大橋 功他	日本文教出版	2018年	9784536601030	
2	『中学校学習指導要領解説 美術編 平成29年7月平成29年度版』	文部科学省	日本文教出版大版	2018年	9784536590136	
3	『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽・美術・工芸・書道)編 音楽編・美術編 平成30年7月版』	文部科学省	教育図書	2019年	9784877304201	
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『美術科教育の基礎知識』	福田隆真、茂木一司、福本謙一	建帛社	2010年	9784767921013	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業についてのオリエンテーション 授業改善アンケート結果に関する説明	シラバスを読んでおく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
2	学習指導要領における「鑑賞」:その意義と目的、内容	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく。(90分)	配布プリントや教科書の該当ページを読み、授業内容を復習する(90分)
3	鑑賞教育の歴史と種類	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく。(90分)	配布プリントや教科書の該当ページを読み、授業内容を復習する(90分)
4	「鑑賞」の教材研究(1)アートカードを使った鑑賞教育	教科書の該当ページを参考に、鑑賞の教材について調べておく。(90分)	鑑賞の教材について、授業内容を復習する(90分)
5	「鑑賞」の教材研究(2)「分析批評」による名画鑑賞の授業	教科書の該当ページを参考に、鑑賞の教材について調べておく。(90分)	鑑賞の教材について、授業内容を復習する(90分)
6	「鑑賞」の教材研究(3)対話型鑑賞による授業	教科書の該当ページを参考に、鑑賞の教材について調べておく。(90分)	鑑賞の教材について、授業内容を復習する(90分)
7	ICT機器の活用について	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく。(90分)	配布プリントや教科書の該当ページを読み、授業内容を復習する(90分)
8	学習指導案の作成(1)年間指導計画・学習指導案の構成と作成方法	事前配布プリント教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく。(90分)	配布プリント教科書の該当ページを読み、授業内容を復習する(90分)
9	学習指導案の作成(2)学習指導案の構成と作成方法	学習指導案を作成する(90分)	学習指導案を作成する(90分)
10	学習指導案の作成(3)制作した指導案の確認 模擬授業へ向けた準備	学習指導案を作成する(90分)	模擬授業の準備をする。(90分)
11	模擬授業(1)	模擬授業の準備をする。(90分)	授業後の振り返りや気づきをまとめる(90分)
12	模擬授業(2)	模擬授業の準備をする。(90分)	授業後の振り返りや気づきをまとめる(90分)
13	模擬授業(3)	模擬授業の準備をする。(90分)	授業後の振り返りや気づきをまとめる(90分)
14	模擬授業振り返り 指導案の修正	模擬授業を受けて、指導案を改めて作成する(90分)	学習指導案を作成する(90分)
15	まとめ 授業改善アンケートの実施	これまでの授業の疑問点をまとめておく(90分)	配布プリントや教科書の該当ページを読み、授業内容を復習する(90分)
16	指導案講評 フィードバック	これまでの授業の疑問点をまとめておく(90分)	講評のフィードバックを受けて、授業の内容の理解を深める(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	病弱者の心理・生理・（科目ナンバリング：）				
授業担当者（所属・職名）	千葉 聡美（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2	（単位認定責任者：千葉 聡美）	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験から、その経験を活かして具体的な実践例を中心に各特性等の理解を図り、さらに教育実習に必要な内容を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
特別な支援を必要とする病弱教育の教育課程及び支援の方法を理解し、病弱・身体虚弱児の心理・生理・病理、行動特性等の基本的な知識を理解する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP2、DP4、DP5に対応する。（2023年度・2022年度）

到達目標
病弱・身体虚弱児の心理・生理・病理の各特性や行動特性等について理解することができる。

授業全体の内容と概要
病弱・身体虚弱児の身体的・心理的な特性や病理の特性について、できるだけ具体的な事例や視聴覚教材等を活用しながら構成する。 *SDG3:すべての人に健康と福祉を」の関連科目。

授業の方法
各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。授業ではパワーポイント及び配布物（レジュメ）で実施し、資料にて説明した後、グループワーク等でグループ協議を行う。具体的な事例のVTR視聴後にレポート提出を行う。レポートはコメントしてフィードバックする。質問等随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）																	

履修上の注意事項
20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなします。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>10%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	50%	20%	0%	0%	20%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
50%	20%	0%	0%	20%	10%							

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

病弱者の心理・生理・病理の理解	心理・生理・病理の理解について高い関心をもって理解し、さらに深めることができた。	心理・生理・病理について関心をもって理解し学修できた。	心理・生理・病理についてほぼ学修できた。	心理・生理・病理について不十分ながら理解することができた。	心理・生理・病理について理解できなかった。
病弱者の心理・生理・病理についての思考・判断・表現	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して積極的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで意欲的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し個人やグループで表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し個人やグループで多少表現できた。	テーマの受け止め方が不十分で思考・判断・表現にできなかった。
病弱者の心理・生理・病理に係る授業への関心・意欲・態度	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が低いが多少参加できた。	授業への参加態度に課題が残った。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	病弱者の心理・生理・（科目ナンバリング：）				
授業担当者（所属・職名）	千葉 聡美（社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2（単位認定責任者：千葉 聡美）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験から、その経験を活かして具体的な実践例を中心に各特性等の理解を図り、さらに教育実習に必要な内容を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本 2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジヤース教育新社	2020年	978-4863715486	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明と授業改善アンケート結果反映の説明	教科書から「病弱者の心理・生理・病理」についての課題を整理する（90分）	課題についてノートに整理し、シラバスで確認すること。（90分）
2	病弱者と病弱教育について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（90分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（90分）
3	小児慢性特定疾患についての理解について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（90分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（90分）
4	障がいの受容と支援の理解について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（90分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（90分）
5	発達段階とプレパレーションの理解と方法について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（90分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（90分）
6	腎臓疾患の理解と支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（90分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（90分）
7	悪性新生物の理解と支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（90分）	重要な語句や内容の整理とレポートの作成（90分）
8	こころの病の理解と支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（90分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（90分）
9	小児の心身症の理解と支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（90分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（90分）
10	てんかんと脳腫瘍の理解と支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（90分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（90分）
11	筋ジストロフィーの理解と支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（90分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（90分）
12	障がいの理解と支援・自立に向けて	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（90分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（90分）
13	自立と進路指導について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（90分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（90分）
14	病弱者の「限界への挑戦」について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（90分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（90分）
15	緩和ケアとトータルケアの課題について 授業改善アンケートの実施	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（90分）	重要な語句や内容の整理とレポートの作成（90分）
16	定期試験（60分の試験終了後、残りの30分で解説する。）	講義内容の重要事項について整理しておくこと（90分）	試験の結果を見直す（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所に勤めた経験を活かして実践的な授業を展開していく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「資格が無ければ食えない」とも言われる建設業界でその根幹である建築士、その中でも大学卒業後すぐに受験可能な2級建築士試験の学科「建築施工」にターゲットを絞り、その傾向と対策演習を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)
 建築学科のDP1、DP2に対応する。(2023・2022年度)
 建築学科のDP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

提示された建築士の過去問題に対し出題者の意図を探り、試験の決まりごとや回答上の留意点を解説等をもとに理解できる。

授業全体の内容と概要

2級建築士学科試験学科 に出題される過去問題の回答・解説について網羅する。
 「SDG11・住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

テキストや配布資料をもとに、視聴覚資料も交えて講義を行う。また講義後には毎回確認実施テストを行う。不測の事態の際にオンライン及びオンデマンドにて授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

資格試験対策は、通常授業とはそのアプローチも異なり、そして学習方法もちがう。しかし3年生までの専門科目の集大成と総まとめとして、そして建築士は建築学科出身の学生には選けては通れないものなので、覚悟を以って取り組んで欲しい。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数11回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	60%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解	施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解に関する問題を解くことができた。	施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解に関する問題を解くことができなかった。
各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題を正確に解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題を解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題を解くことができなかった。
積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解	積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解に関する問題を正確に解くことができた。	積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解に関する問題を解くことができた。	積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解に関する問題を解くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1	(単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 設計事務所に勤めた経験を活かして実践的な授業を展開していく。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。施工計画・ネットワーク工程表 授業改善アンケート結果反映の説明	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	安全衛生管理・材料管理・工事管理業務	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	渉外諸手続き	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	仮設工事・地盤調査	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	土工事・基礎地業工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	鉄筋工事・型枠工事・コンクリート工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	鉄骨工事・コンクリートブロック工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	木工事・防水・屋根工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	左官工事・タイル・張石工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
10	塗装工事・建具・ガラス工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
11	内装・断熱工事・設備工事・ユニット工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
12	改修工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
13	用語・機械-工法	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
14	建築積算・測量	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
15	工事契約-請負契約・契約図書 授業改善アンケートの実施	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
16	実力診断試験・解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	教職課程必修
科目名称	工芸科教育法 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教諭専修免許状(芸術)を有し、公立高等学校で教員経験がある教員が、その経験をもとに工芸科教育法について授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

工芸科教育の意味と目的を理解し、教員に必要な資質を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP 1、DP 3、DP 5に対応する。(2023-2022年度)
デザイン学科のDP 1、DP 2、DP 3に対応する。(2021年度)

到達目標

工芸科教育の意味と目的を考え、教員として最低限の知識と技能を身につける。

授業全体の内容と概要

工芸教育の基礎知識と技術、学習指導要領の内容、授業計画、教材研究、指導方法、評価方法を学び、模擬授業の準備を行う。
授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。
「SDGs4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

学習指導要領解説を用いて行い、学習内容はパワーポイントやプリント資料で説明する。
主体的で対話的な学びを目指し、グループ学習・ディスカッション・発表などを行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教育について興味・関心を持ち、教員としての心構えを身につけ、行動すること。
課題は期日までに提出すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(美術・工芸)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	40%	20%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	工芸科教育の意味と目的を理解し、問題点や目指すことを述べる事ができた。	工芸科教育の意味と目的を理解し、問題点を考える事ができた。	工芸科教育の意味と目的を理解できた。	工芸科教育の意味と目的を考える事ができた。	学習指導要領の要点をまとめる事ができなかった。
思考力・判断力・表現力	課題を多面的に捉え、自分の意見を論理的に述べ、問題に対応する事ができた。	課題を多面的に捉え、自分の意見を論理的に述べることができた。	課題を捉え、自分の意見を述べることができた。	自分の意見を述べる事ができた。	意見を述べる事ができない。
関心・意欲・態度	責任や自覚を持ち、積極的に知識を身につけ、役立てて、考察する事ができた。	責任や自覚を持ち、積極的に知識を身につけ、役立てることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につけ、役立てることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につける事ができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につける事ができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	教職課程必修
科目名称	工芸科教育法 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教諭専修免許状(芸術)を有し、公立高等学校で教員経験がある教員が、その経験をもとに工芸科教育法について授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領解説 美術編』	文部科学省	日本文教出版大版	2018	9784536590136	
2	『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽・美術・工芸・書道)編・音楽編・美術編』	文部科学省	教育図書	2019	9784877304201	
3	『工芸の教育』	大坪圭輔	武蔵野美術大学出版局	2017	9784864630580	
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 教科書分析	シラバスをよく読んでおくこと(90分)	授業内容を復習する(90分)
2	工芸の技法	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
3	工芸の鑑賞	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
4	年間指導計画の作成	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
5	ICT機器の活用について	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
6	模擬授業見学(4年生)1	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
7	模擬授業見学(4年生)2	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
8	教材研究	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
9	評価の観点	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
10	学習指導案の作成1	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
11	模擬授業1	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
12	模擬授業振り返りと改善1	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
13	学習指導案作成2	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
14	模擬授業2	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
15	指導案作成の振り返りと改善2	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
16	課題・レポートの解説 授業改善アンケートの実施	講義全体をふりかえりまとめを行うこと(90分)	フィードバックの内容を受けて、講義全体のふりかえりを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技（バドミントン）（科目ナンバリング： ）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐 晃一（経営学科・特任教授）	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者： 戸佐 晃一）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

共生社会の実現に寄与できる人材となるため、さまざまな情報の中から必要と思われる知識を幅広く理解・体得する科目である。さらに、教職課程の科目なので、基礎からゲームに至るまでのさまざまな技術や方法を実践し、自らの技術向上のみならず、作戦をいかに攻防を展開しゲームが出来るようになるまでの指導力を修得する。

授業の位置づけ

経営学科のDP2、DP4、DP5に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

競技の特性やルールを学び理解するとともに、施設等の安全を確かめ、健康・安全に留意できる教員としての指導能力が身につく。

授業全体の内容と概要

バドミントンの基礎技術の習得及びゲームを中心に授業を進める。

授業の方法

バドミントンという種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながら応用できるように配慮していく。また授業の中で基本的な技術を反復し課題をグループワークで指摘し合いディスカッションをして技術の改善に反映できるように工夫を進めていく。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合はある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ジャージ・屋内運動靴を必ず用意する。アクセサリ（時計、指輪、ピアス等）は全て外す。携帯電話の電源は必ず切る。その他注意事項の詳細は授業ガイダンスで指示する。
健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上指示を受けること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	10%	20%	60%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本技術の理解	基本技術を良く理解できた	基本技術をほぼ理解できた	基本技術のある程度理解できた	基本技術を理解できた	基本技術を理解できなかった
基本技術の実践	基本技術の実践が良くできた	基本技術の実践がほぼできた	基本技術の実践がある程度できた	基本技術の実践ができた	基本技術の実践ができなかった
戦術に関する理解	戦術に関して良く理解できた	戦術に関してほぼ理解できた	戦術に関してある程度理解できた	戦術に関して理解できた	戦術に関して理解できなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技（バドミントン）（科目ナンバリング： ）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐 晃一（経営学科・特任教授）	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者： 戸佐 晃一）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ステップアップ高校スポーツ2024』	荒木達雄他	大修館	2024	9784469365638	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（45分）	ガイダンスの内容を理解しておく（45分）
2	基本技術の理解と実践 グリップ、オーバーヘッド	バドミントンの基本技術を確認しておく（45分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（45分）
3	基本技術の理解と実践 アンダーハンド・プッシュ、ハイグリアー	バドミントンの基本技術を確認しておく（45分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（45分）
4	基本技術の理解と実践 ドリブングリアー、ドロップカット	バドミントンの基本技術を確認しておく（45分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（45分）
5	基本技術の理解と実践 スマッシュ・ヘアピン・サービス	バドミントンの基本技術を確認しておく（45分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（45分）
6	基本技術の確認	バドミントンの基本技術を確認しておく（45分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（45分）
7	バドミントンのフットワーク	バドミントンの基本技術を確認しておく（45分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（45分）
8	戦術に関する理解と実践 シングルス	バドミントンの戦術を確認しておく（45分）	バドミントンの戦術を理解しておく（45分）
9	戦術に関する理解と実践 ダブルス	バドミントンの戦術を確認しておく（45分）	バドミントンの戦術を理解しておく（45分）
10	審判法とゲーム運営	バドミントンのルールを確認しておく（45分）	バドミントンのルールを理解しておく（45分）
11	ゲーム シングルス	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
12	ゲーム シングルス	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
13	ゲーム シングルス	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
14	ゲーム ダブルス	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
15	ゲーム ダブルス 授業改善アンケートの実施	ゲーム運営について確認しておく（45分）	ゲーム運営について理解しておく（45分）
16	実技試験	実技試験の準備をしておく（45分）	試験内容を練習しておく（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク実習指導 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)・ 上原 正希(社会福祉学科・教授)・杉	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験のある教員が、実践現場における事例を参照しながら、現場実習の事後指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボードなどを参照すること				

概要

履修目標
各領域の相談援助実習を終了した後、実習中の振り返り(利用者との関り、他職種・他機関連携、地域連携)を行うことによって、実習中の行為がSW実践の具体的な技法とどのような関連するか、SW諸理論とどのように関連するか、あるいは逸脱しているかを理解する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023年度)

到達目標
専門職として求められる資質、専門的知識・技術、倫理、自己に求められる問題把握など、総合的に対応できる能力を習得する。さらに、現場実習での具体的援助経験を、専門性を踏まえて概念化し理論化できる能力を習得する。

授業全体の内容と概要
「相談援助実習」と「相談援助実習」は3つの授業に分かれているが、1対のものとして理解すべきである。「相談援助実習指導」は事前指導、「相談援助実習」は現場実習、「相談援助実習指導」は事後指導と考える。「相談援助実習」での課題への取り組みを振り返り、それをレポートおよび報告書にまとめる。また「相談援助実習指導」の最終講義において「相談援助実習」の報告(各領域1名程度)、「相談援助実習指導」(2年生向け)での報告会(各領域から1名程度)を行う。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

授業の方法
高齢、障がい、児童、地域・行政の各実習領域に分かれ、各々の担当教員が講義を行う。講義方法は各担当教員に一任されているが、各領域の制度、法規、実践事例、そして実習後の振り返りをメインに行う。講義資料は各担当教員が用意するが、実習後の振り返りについては学生自身が発表者になりプレゼンを行う(方法については担当教員に一任されるが、最低限シメの配布は行うこと)。年間を通して実習終了後のレポート、報告書の提出を課題として義務付けている。学生からの要望・課題については、可能な範囲で随時対応していく。

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
各領域担当教員の指示に従うこと。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程、子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件
単位認定の最低出席回数10回以上をクリアすること。

評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	0%	0%	30%	40%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
実習中の利用者との関りやSW理論・技法と位置付けて説明できる。	実習中の利用者とのコミュニケーション場面における成功事例と失敗事例を振り返り、それを具体的に説明でき、且つ、具体的な技法との関連を説明できる。	実習中の利用者とのコミュニケーション場面における成功事例と失敗事例を振り返り、その各々の場面を通じての自己覚知ができる。	実習中の利用者とのコミュニケーション場面における成功事例と失敗事例を振り返り、それを具体的に説明できる。	実習中の利用者とのコミュニケーション場面における成功事例と失敗事例を振り返り、それを具体的に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。
実習中の他職種・他機関連携をSW理論・技法と位置付けて説明できる。	実習中の他職種・他機関連携について具体的なSW理論と結び付けて説明でき、且つ、ジェネリックソーシャルワークの視点から普遍的なSW理論に昇華できる。	実習中の他職種・他機関連携を全て説明でき、実習の領域の特性と合わせて説明できる。	実習中の他職種・他機関連携について、どんな職種・機関と連携したかを説明できる。	実習中の他職種・他機関連携について具体的なSW理論と結び付けて説明できる。	左記の内容が何一つできていない。
実習中の地域連携についてSW理論・技法と位置付けて説明できる。	実習中の地域連携について説明でき、その具体的な業務内容をSW理論を用いて説明でき、且つ、地域ネットワーク構築の特徴を考察できる。	実習中の地域連携について説明でき、具体的な業務内容をSW理論を用いて説明できる。	実習中の地域連携について説明でき、その具体的な業務内容をSW理論を用いて説明できる。	実習中の地域連携について説明でき、どんな機関と連携したかを説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク実習指導 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)・ 上原 正希(社会福祉学科・教授)・杉		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2	(単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験のある教員が、実践現場における事例を参照しながら、現場実習の事後指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 事後学習(振り返り)	実習の振り返り(90分)	配布プリントの熟読(90分)
2	事後学習(振り返り)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
3	事後学習(振り返り)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
4	事後学習(自己覚知)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
5	事後学習(自己覚知)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
6	事後学習(自己覚知)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
7	事後学習(他職種・他機関連携)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
8	事後学習(他職種・他機関連携)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
9	事後学習(他職種・他機関連携)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
10	事後学習(地域連携)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
11	事後学習(地域連携)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
12	事後学習(地域連携)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
13	事後学習(ソーシャルワーク実践理論)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
14	事後学習(ソーシャルワーク実践理論)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
15	事後学習(ソーシャルワーク実践理論)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
16	実習報告会	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	WEBデザイン (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	上坂 恒章(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上坂 恒章)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
学生がコンピュータを用いWebデザインの応用できる手法を学び、表現を修得する。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP3、DP4、DP54に対応する。(2024年度) デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2023・2022年度) デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標
Webプログラミングの基礎とコンテンツデザインの手法をマスターし、実際のコンテンツ制作の基礎、応用まで可能なスキルを修得することができる。

授業全体の内容と概要
コンセプト設定、情報の構造化、ページデザイン、インターフェース、画像処理手法等の講義とJavaScriptのプログラミングを学び、その成果を作品として制作し発表する。

授業の方法
授業では、テキスト及び配布したプリントの内容をプロジェクターにより投影し解説する。各項目ごとの課題に対してそれぞれが解決しながら学習する。提出された課題のプレゼンテーションを行い、評価をフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
コンピュータを利用するため、遅刻・欠席すると次の授業の理解が難しくなるので注意すること。 「コンテンツデザイン」知識が必要なので履修済みであること。 HTML5 & CSS3の基本を理解していること。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施することができる。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>40%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	30%	40%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	30%	40%	30%	0%							

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

インターネットやWebデザインに関する知識の理解	学習した内容から範囲を広げて、自ら学び、理解を深めていた。	学習した内容を理解していた。検定に合格できるレベルに達している。	学習した内容を概ね理解していた。	学習した内容を最低限理解していた。	学習した内容を理解していなかった。
Webプログラミングの理解	JavaScriptを完全に理解し、自ら更に理解を深めていた。	JavaScriptを理解し、検定に合格できるレベルに達している。	JavaScriptをお概ね理解していた。	JavaScriptを最低限理解していた。	JavaScriptの理解できていなかった。
Webサイトの制作	学んだ知識、技術を更に深めて、意図したとおりWebサイトを制作することができる。	Webサイトを制作することができる。	Webサイトを概ね制作することができた。	Webサイトを最低限制作することができた。	Webサイトを制作することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	WEBデザイン (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	上坂 恒章(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上坂 恒章)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『いちばんやさしいJavaScriptの教本 第2版』	岩田宇史	インプレス	2023	9784295005926	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション - シラバスの説明, コンテンツデザインとは - 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読み、コンテンツの意味を調べておくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
2	Webデザインのアプローチ	テキストの該当部分読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
3	コンセプトと情報設計	テキストの該当部分読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
4	コンセプトと情報設計	テキストの該当部分読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
5	デザインと表現手法	プリントを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
6	デザインと表現手法	プリントを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
7	知的財産権	プリントを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
8	知的財産権	プリントを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
9	JavaScriptの基本	テキストの該当部分読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
10	JavaScriptの基本	テキストの該当部分読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
11	JavaScriptの基本 条件分岐	テキストの該当部分読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
12	JavaScriptの基本 関数	テキストの該当部分読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
13	JavaScriptの基本 繰り返し	テキストの該当部分読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
14	JavaScriptの応用 画像操作	テキストの該当部分読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
15	JavaScriptの基本応用 サンプル	テキストの該当部分読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
16	作品講評 - 授業改善アンケートの実施	全授業の振り返りを行う(90分)	作品講評の内容を振り返り自己評価を行う(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	WEBデザイン (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	上坂 恒章(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上坂 恒章)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

Webサイトのデザインをマスターする。また、サイトの企画力、デザイン力、情報収集能力を身に付ける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP54に対応する。(2024年度)
 デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2023・2022年度)
 デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

Webサイトの企画力、デザイン力、情報収集能力を身に付ける。

授業全体の内容と概要

Webサイトにおけるデザインカンプの手法をマスターし、テーマに従ってチームで制作を行うことにより実践力を養う。

授業の方法

授業では、各ステップの課題に対してそれぞれが解決しながら学習する。提出された課題のプレゼンテーションを行い、評価をフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

デジタルデザイン、Webデザインを履修済みであること。
 遅刻・欠席すると次の授業の理解が難しくなるので注意すること。
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	20%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ワイヤーフレームについて	ワイヤーフレームを理解し、自ら学習して、更に理解の向上に努めていた。	ワイヤーフレームを理解していた。	ワイヤーフレームについて概ね理解していた。	ワイヤーフレームを最低限理解していた。	ワイヤーフレームを理解できなかった。
Webサイトのプロトタイプ	プロトタイプ制作でき、自ら応用することができた。	プロトタイプを適切に制作することができる	プロトタイプを概ね理解し、制作することができる。	プロトタイプを最低限制作することができた。	プロトタイプを制作することができなかった。
Webサイトにおけるデザインカンプの制作	オリジナルのデザインカンプを制作することができる。	デザインカンプを制作することができる。	概ねデザインカンプ制作することがきり。	最低限のデザインカンプ制作することができる。	デザインカンプ制作することができない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	WEBデザイン (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	上坂 恒章(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上坂 恒章)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	*AdobeXDではじめるWebデザイン&プロトタイプ	松下 絵梨	翔泳社	2020	978-4-7981-5871-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション - シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと。メディアアートについて調べておくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
2	ワイヤーフレームの制作手法	指定部分のテキストを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
3	スマートフォン用デザインカンパの方法	指定部分のテキストを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
4	スマートフォン用デザインカンパの方法	指定部分のテキストを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
5	インタラクティブ・プロトタイプの制作	指定部分のテキストを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
6	プロトタイプとデザインスペックの共有	指定部分のテキストを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
7	デザインカンパ	指定部分のテキストを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
8	Web動画基礎	指定部分のテキストを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
9	Web動画応用	指定部分のテキストを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
10	Webサイトのデザイン(企画、調査)	指定部分のテキストを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
11	Webサイトのデザイン(テーマの設定と情報収集)	作品の構想を完成させること(90分)	メディアアート作品の制作(90分)
12	Webサイトのデザイン(ラフデザインの検討)	メディアアート作品の制作(90分)	メディアアート作品の制作(90分)
13	Webサイトのデザイン(ワイヤーフレーム)	メディアアート作品の制作(90分)	メディアアート作品の制作(90分)
14	Webサイトのデザイン(デザイン制作、フォントの決定)	メディアアート作品の制作(90分)	メディアアート作品の制作(90分)
15	Webサイトのデザイン(制作完成)	プレゼン用レジュメの準備をすること(90分)	プレゼン用レジュメの準備をすること(90分)
16	プレゼンテーション 授業改善アンケートの実施	プレゼン用レジュメの準備をすること(90分)	作品講評の内容を振り返り自己評価を行う(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ビジネス法務 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
法令違反が企業の存亡をも左右する現在、法律を守りそれに従って行動することが強く求められる。ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を習得することを目指す。さらにビジネス活動で生じる法的問題の発見能力とコンプライアンス能力を修得することを目的とする。
授業の位置づけ
経営学科のDP1、DP2、DP3に対応する。(2023・2022年度)

到達目標
ビジネス実務法務検定試験(東京商工会議所主催)を通して、ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を習得する。基本的法律知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できるようになる。

授業全体の内容と概要
ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を修得することにより、ビジネス活動で生じる法的問題の発見能力とコンプライアンス能力を修得することを目的とする。ビジネス活動で日常起こりうる法的な問題点の認識。具体的には、民法・商法・経済刑法・知財法・独禁法・労働法・税法等、コンプライアンス・CSR(企業の社会的責任)・内部告発、ビジネス実務法務検定試験受験対策講座。「SDG 10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。
授業の方法
授業(第3回から第4回の計2回)は、資料をパワーポイントで投影し、資料を配布して実施する。授業の進行は、前回の復習から始まり、本日の講義の内容を講義形式で解説を行う。問題演習を行う授業(第5回から第14回の計10回)は、資料を配布して実施する。確認テストは、講義の理解を深めるために4回(前年実績)実施する。ビデオ視聴は、課題解決力を養うために1回(前年実績なし)(受講人数・使用教室などによっては実施しない)実施する。小テストは、講義の理解を深めるために2回(前年実績)実施する。についてのフィードバックは、講義内で解説を行う。補講が必要な場合は実施する(欠欠などの学生に対しては補講を実施する)。確認テストなどは、Microsoft Formsの小テストから実施し、学生全体の理解度を把握し、指導する。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
<ul style="list-style-type: none"> ・私語などの迷惑行為は厳禁。 ・講義中スマホの操作は厳禁、マナーモードで受講してください。 ・六法を持参することを推奨。 ・確認テストやビデオ視聴を実施するので遅刻は慎むこと。 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。 <ul style="list-style-type: none"> ・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。 ・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。

資格指定科目
教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上 課題の提出等の定期試験以外の割合が単位認定基準の4割を占めるので、12回以上の出席を推奨。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	60%	0%	0%	20%	20%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
60%	0%	0%	20%	20%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>法律の条文を読み取り、理解できる</td> <td>法律の条文を読み取り、理解でき、さらに自分の意見を述べた。</td> <td>法律の条文を読み取り、理解でき、自分なりの説明できた。</td> <td>法律の条文を読み取り、理解できた。</td> <td>法律の条文を読み取れた。</td> <td>法律の条文を読み取れなかった。</td> </tr> <tr> <td>事例を理解し、法律の条文を適用できる</td> <td>事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べた。</td> <td>事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できた。</td> <td>事例を理解し、法律の条文を適用できた。</td> <td>事例を理解し、法律の条文を理解できた。</td> <td>事例を読み取れず、法律の条文を理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>課題に対し、問題解決ができる</td> <td>解答が的確で、過不足なく網羅して答えられた。</td> <td>解答は答えているが、一部に解答と関係ないことを答えていた</td> <td>解答が一通り答えているが、改善すべき点があった</td> <td>解答を部分的には答えているが、的確ではなかった</td> <td>解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではなかった</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	法律の条文を読み取り、理解できる	法律の条文を読み取り、理解でき、さらに自分の意見を述べた。	法律の条文を読み取り、理解でき、自分なりの説明できた。	法律の条文を読み取り、理解できた。	法律の条文を読み取れた。	法律の条文を読み取れなかった。	事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べた。	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できた。	事例を理解し、法律の条文を適用できた。	事例を理解し、法律の条文を理解できた。	事例を読み取れず、法律の条文を理解できなかった。	課題に対し、問題解決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えられた。	解答は答えているが、一部に解答と関係ないことを答えていた	解答が一通り答えているが、改善すべき点があった	解答を部分的には答えているが、的確ではなかった	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではなかった
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
法律の条文を読み取り、理解できる	法律の条文を読み取り、理解でき、さらに自分の意見を述べた。	法律の条文を読み取り、理解でき、自分なりの説明できた。	法律の条文を読み取り、理解できた。	法律の条文を読み取れた。	法律の条文を読み取れなかった。																								
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べた。	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できた。	事例を理解し、法律の条文を適用できた。	事例を理解し、法律の条文を理解できた。	事例を読み取れず、法律の条文を理解できなかった。																								
課題に対し、問題解決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えられた。	解答は答えているが、一部に解答と関係ないことを答えていた	解答が一通り答えているが、改善すべき点があった	解答を部分的には答えているが、的確ではなかった	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではなかった																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ビジネス法務 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ポケット六法 令和6年版』	佐伯仁志・大村敦志・荒木尚志 / 編集代表	有斐閣	2023年	9784641009240	
2	『民法 第2版(ファーストトラックシリーズ2)』	伊藤真	弘文堂	2020年	9784335314612	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ビジネス実務法務検定とは	シラバスの確認(90分)	復習(90分)
2	ガイダンス シラバスの説明 ビジネスに関わる法律とは コンプライアンス能力とは	シラバスの確認 コンプライアンス能力についての調べ学習(90分)	復習(90分)
3	民法の概要1 民法の基本原則 契約とは 賃貸借・使用貸借・消費貸借	民法の基本原則、契約(賃貸借・使用貸借・消費貸借)についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
4	民法の概要2 民法の基本原則、契約(諾成契約と要物契約) 契約の一般的なきまり(承諾、条件・期限)	民法の基本原則、契約のきまりについての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
5	問題演習 契約・不動産物権変動 確認テスト2(前年実績)	契約、物権変動についての調べ学習(90分)	問題演習の復習(90分) 確認テストの復習
6	問題演習 債務不履行、同時履行の抗弁権、担保責任、危険負担	債務不履行、同時履行の抗弁権、担保責任、危険負担についての調べ学習(90分)	問題演習の復習(90分)
7	問題演習 未成年者、成年被後見人、意思表示(心裡留保・虚偽表示・錯誤・詐欺・強迫)	制限行為能力者、意思表示についての調べ学習(90分)	問題演習の復習(90分)
8	制限行為能力者の法の見方・考え方	制限行為能力者についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
9	錯誤・詐欺の法の見方・考え方 問題演習 賃貸・賃借人の義務、借地・借家・賃借権	賃貸・賃借人の義務、借地・借家・賃借権についての調べ学習(90分)	配布資料の復習 問題演習の復習(90分)
10	電子消費者契約特例法・消費者契約法の見方・考え方 問題演習 債権譲渡、物権(留置・質・抵当権)	債権譲渡、物権(留置・質・抵当権)、保証債務についての調べ学習(90分)	配布資料の復習 問題演習の復習(90分)
11	不法行為についての演習問題 確認テスト4(前年実績)	不法行為についての調べ学習(90分)	問題演習の復習(90分) 次回小テストを実施するので、復習しておくこと
12	問題演習 代理(表見・無権)、不法行為 小テスト1(前年実績)	過失相殺、使用者責任、製造物責任、時効についての調べ学習(90分)	問題演習の復習(90分) 小テスト1の復習 次回小テストを実施するので、復習しておくこと
13	問題演習 過失相殺、使用者責任、製造物責任、時効	第5回から第13回まで復習(90分)	問題演習の復習(90分) 小テスト2の復習
14	まとめ 問題演習の復習 小テスト2(前年実績)	第5回から第13回まで復習(90分)	問題演習の復習(90分)
15	まとめ 問題演習の復習 定期試験の説明 授業改善アンケートの実施	第5回から第13回まで復習(90分)	試験範囲の確認により、第3回から第14回まで復習(90分)
16	定期試験(60分) 定期試験の解説、採点方法の説明 授業改善アンケートの実施	試験範囲の確認、第3回から第14回まで復習(90分)	復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	産業心理学 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

産業・組織について、心理学の領域ではどのような研究がなされているのかを理解する。さらに、そのような心理学的知見が社会(産業・福祉)の中でどのように活用されているのかを考える。

授業の位置づけ

経営学科のDP1に対応する。(2022年度)
 社会福祉のDP1に対応する。(2022年度)
 経営学科のDP2、DP9に対応する。(2021年度)
 社会福祉学科のDP2、DP9に対応する。(2021年度)

到達目標

産業心理学領域で扱われる理論や専門用語の内容を説明する。
 産業心理学領域で扱われる理論や専門用語が、社会活動の中でどのように活かされているのかを指摘する。
 学んだ知識の枠組みを手掛かりとして、現在の産業分野の社会問題の原因や解決方法を考察する。

授業全体の内容と概要

心理学は医療・保健・教育・福祉・司法・産業と、さまざまな領域で応用されている。産業心理学では、そのような基礎心理学の知見が産業分野でどのように応用されているのかを理解する。さらに、産業が抱える問題に対して心理学がどのように貢献できるのかについても知る。
 『SDGs:すべての人に健康と福祉を』の関連授業

授業の方法

スライドや板書を提示しながら講義形式を中心に進行する。講義の最後にMicrosoft Formsを活用した振り返りを実施する。質問には随時対応し、振り返りにはフィードバックをする。
 授業で使用するスライドはMicrosoft Teamsを用いて共有する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業の運営・進行を著しく妨害するような行為(私語、大学で認められたもの以外の飲食、代返 等)が認められた場合、総合評価から大幅に減点することがある
 不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
55%	0%	45%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
専門知識の理解	専門知識について、9割以上理解できた。	専門知識について、8割程度理解できた。	専門知識について、7割以上理解できた。	専門知識について、6割以上理解できた。	専門知識について理解できなかった。
専門知識の活用と応用	提示された専門知識が活かされるような社会的(産業・福祉)活動を複数挙げ、その根拠についても非常によく説明できた。	提示された専門知識が活かされるような社会的(産業・福祉)活動を複数挙げ、その根拠についても説明できた。	提示された専門知識が活かされるような社会的(産業・福祉)活動を挙げ、その根拠についても説明できた。	提示された専門知識が活かされるような社会的(産業・福祉)活動を挙げることができた。	提示された専門知識が活かされるような社会的(産業・福祉)活動を挙げることができなかった。
アカデミック・スキル(文章表現)	自らの考えを、アカデミックのルール(序論・本論・結論や文体の統一、引用など)に沿って、非常に表現できた。	自らの考えを、アカデミックのルール(序論・本論・結論や文体の統一、引用など)に沿って、かなり表現できた。	自らの考えを、アカデミックのルール(序論・本論・結論や文体の統一、引用など)に沿って、やや表現できた。	自らの考えを、アカデミックのルール(序論・本論・結論や文体の統一、引用など)に沿って、最低限表現できた。	自らの考えを、アカデミックのルール(序論・本論・結論や文体の統一、引用など)に沿って、表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	産業心理学 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『産業・組織心理学への招待』	白樫三四郎	有斐閣	2009	9784641183797	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション(シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明, 産業心理学の歴史と研究領域)	産業心理学とはどのような学問領域かを調べる (90分)	産業心理学で扱う内容について確認する (90分)
2	動機づけ (モチベーションの特徴、内容理論)	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
3	動機づけ (過程理論 ほか)	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
4	作業の心理学 (作業の評価)	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
5	作業の心理学 (ヒューマンエラー、作業環境)	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
6	まとめ (動機づけと作業の心理学)	2回から5回までの内容を振り返る (90分)	これまでの内容について、疑問点を整理する (90分)
7	集団と組織 (人々の認識とそのゆがみ)	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
8	集団と組織 (集団・組織の議論過程の問題)	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
9	集団と組織 (集団状況におけるパフォーマンス)	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
10	リーダーシップ	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
11	まとめ (集団と組織、リーダーシップ)	7回から10回までの内容を振り返る (90分)	これまでの内容について、疑問点を整理する (90分)
12	職場ストレスとカウンセリング(ストレスモデル)	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
13	消費者行動 (消費者の心理的メカニズム ほか)	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
14	消費者行動 (販売・広告と消費者行動 ほか)	関連する文献を読む (90分)	授業内容を振り返る (90分)
15	まとめ (職場ストレスとカウンセリング、消費者行動) 授業改善アンケートの実施	12回から14回までの内容を振り返る (90分)	これまでの内容について、疑問点を整理する (90分)
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う。	資料を確認し、自分の言葉で授業内容を説明できるように準備する (90分)	試験でわからなかったことを再確認する (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技 (ラグビー) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 和裕 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 和裕)	CAP制	実技		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、安全かつ基礎的な技術を正確に指導できるようにしていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標
教職課程の科目なので、基礎からゲームに至るまでのさまざまな技術や方法を実践し自らの技術向上のみならず作戦をいかにした攻防を展開しゲームが出来るようになるまでの指導力を修得する。

授業の位置づけ
経営学科のDP4、DP5に対応する。(2023・22年度)

到達目標
競技の特性やルールを学び理解するとともに、練習場などの安全を確かめ健康・安全に留意できる教員としての指導能力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要
ラグビーの基礎技術の習得及びルールを学び、ゲームが出来るように授業を進める。 「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
ラグビーという種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながら応用できるように配慮していく。また授業の中で基本的な技術を反復し課題をフィールドバックしながら技術に反映できるように工夫し進めていく。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
服装は実技にふさわしい物を着用して下さい。グラウンドでの実技はアップシューズを使用します。雨又は雪の場合は体育館で実技を行います。その際に屋内運動靴を必ず用意する。健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上指示を受けること。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程(保健体育)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>60%</td> <td>10%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	30%	60%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	30%	60%	10%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>運動技能(基本技能)</td> <td>ラグビーの各技能に優れ十分にできた。</td> <td>ラグビーの各技能が7割程度できた。</td> <td>ラグビーの各技能が5割程度できた。</td> <td>ラグビーの各技能が3割程度できた。</td> <td>ラグビーの各技能が全くできなかった。</td> </tr> <tr> <td>競技知識(ルールの理解)</td> <td>ルールを詳細まで理解していて審判を行うことができた。</td> <td>細かいルールも理解することができた。</td> <td>主なルールを理解することができた。</td> <td>曖昧ではあるが少しルールを理解することができた。</td> <td>全くルールを理解することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>社会的行動(挑戦する姿勢)</td> <td>好奇心を持ち積極的に挑戦し成し遂げることができた。</td> <td>前向きに取り組み努力することができた。</td> <td>挑戦することができた。</td> <td>とりあえずやってみるが、諦めないでできた。</td> <td>できないと決めつけ、挑戦することができなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	運動技能(基本技能)	ラグビーの各技能に優れ十分にできた。	ラグビーの各技能が7割程度できた。	ラグビーの各技能が5割程度できた。	ラグビーの各技能が3割程度できた。	ラグビーの各技能が全くできなかった。	競技知識(ルールの理解)	ルールを詳細まで理解していて審判を行うことができた。	細かいルールも理解することができた。	主なルールを理解することができた。	曖昧ではあるが少しルールを理解することができた。	全くルールを理解することができなかった。	社会的行動(挑戦する姿勢)	好奇心を持ち積極的に挑戦し成し遂げることができた。	前向きに取り組み努力することができた。	挑戦することができた。	とりあえずやってみるが、諦めないでできた。	できないと決めつけ、挑戦することができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
運動技能(基本技能)	ラグビーの各技能に優れ十分にできた。	ラグビーの各技能が7割程度できた。	ラグビーの各技能が5割程度できた。	ラグビーの各技能が3割程度できた。	ラグビーの各技能が全くできなかった。																								
競技知識(ルールの理解)	ルールを詳細まで理解していて審判を行うことができた。	細かいルールも理解することができた。	主なルールを理解することができた。	曖昧ではあるが少しルールを理解することができた。	全くルールを理解することができなかった。																								
社会的行動(挑戦する姿勢)	好奇心を持ち積極的に挑戦し成し遂げることができた。	前向きに取り組み努力することができた。	挑戦することができた。	とりあえずやってみるが、諦めないでできた。	できないと決めつけ、挑戦することができなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技 (ラグビー) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 和裕 (経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 和裕)	CAP制	実技		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、安全かつ基礎的な技術を正確に指導できるようにしていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	文部科学省	大修館書店	2019	4469365603	
2	『ラグビー上達テクニック』	林 雅人	実業之日本社	2009	4408452548	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明) 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイダンスの内容を理解しておく(45分)
2	基本技術の理解と習得(ボールコントロール・パス)	ラグビーの競技特性を確認しておく(45分)	ラグビーの競技特性を理解しておく(45分)
3	基本技術の理解と習得(ボールコントロール・キック)	ラグビーの競技特性を確認しておく(45分)	ラグビーの競技特性を理解しておく(45分)
4	本技術の理解と習得(タックル)	ラグビーの競技特性を確認しておく(45分)	ラグビーの競技特性を理解しておく(45分)
5	基本技術の理解と習得(スクラム)	ラグビーの競技特性を確認しておく(45分)	ラグビーの競技特性を理解しておく(45分)
6	基本技術の理解と習得(ラインアウト)	ラグビーの競技特性を確認しておく(45分)	ラグビーの競技特性を理解しておく(45分)
7	基本技術の理解と習得(モール・ラック)	ラグビーの競技特性を確認しておく(45分)	ラグビーの競技特性を理解しておく(45分)
8	応用技術の理解と習得	ラグビーの応用技術を確認しておく(45分)	ラグビーの応用技術を理解しておく(45分)
9	戦術に関する理解と実践 攻撃編	ラグビーの攻撃について 確認しておく(45分)	ラグビーの攻撃について 理解しておく(45分)
10	術に関する理解と実践 守備編	ラグビーの守備について 確認しておく(45分)	ラグビーの守備について 理解しておく(45分)
11	試合形式による審判法の実践	ラグビーのルールについて 確認しておく(45分)	ラグビーのルールについて 理解しておく(45分)
12	試合形式による戦術の理解と実践 攻撃編	ラグビーの攻撃の戦術について確認しておく(45分)	ラグビーの攻撃の戦術について理解しておく(45分)
13	試合形式による戦術の理解と実践 守備編	ラグビーの守備の戦術について確認しておく(45分)	ラグビーの守備の戦術について理解しておく(45分)
14	試合形式(少人数でのゲーム)	少人数でのゲームについて確認しておく(45分)	少人数でのゲームについて理解しておく(45分)
15	試合形式(ゲーム)	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
16	総合評価、到達度確認(授業改善アンケートの実施)	ラグビーの特性やルールについて確認しておく(45分)	指導における留意点を復習し理解しておく(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神障害リハビリテーション論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則、精神障害リハビリテーションの構成及び展開、精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関、精神障害リハビリテーションの動向と実際について学び、精神保健福祉士に求められる知識および技術を習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP5に対応する。(2022年度)

到達目標

精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について理解し、援助場面で活用できる。
精神障害リハビリテーションプログラムの知識を援助場面で活用できる。
精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について理解し、援助場面で活用できる。

授業全体の内容と概要

精神障害リハビリテーションが医学的な回復にとどまらず、一人の人として尊厳のある社会生活を送ることを保障するものであることを学ぶ。
精神障害リハビリテーションの歴史と現状、精神障害リハビリテーションプログラムの内容について学ぶ。
「SDGs3. すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式になるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習(グループワーク等)も取り入れる。配布された資料には板書事項を記述すること。
毎回の感想・質問等をMicrosoft Formsを通して提出し、次回授業開始時にフィードバックを行う。
第10回目の前半には中間テストを実施し、理解度を確認する(出題形式・試験時間等は授業内で説明)。
授業資料の配信等においてMicrosoft Teamsを活用する。
基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教科書は毎回持参すること。
配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。
ニュースなどで報道される福祉に関わる話題について興味を持つこと。
新聞記事などを題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。

修学サポート(合理的配慮)

・事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程、スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

出席回数は定期試験前までに10回以上あることを評価の前提条件とし、第10回目に実施する中間テスト(30点)、第16回目に実施する定期試験(70点)の結果を総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	30%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について理解し、援助場面で活用できる。	関係するキーワードを用いて精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について理解し、援助場面で活用できる。	関係するキーワードを用いて精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割についておおよそ具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割についておおよそ具体的に説明できた。	精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割についておおよそ具体的に説明できなかった。
精神障害リハビリテーションプログラムの知識を援助場面で活用できる。	関係するキーワードを用いて精神障害リハビリテーションプログラムについて具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて精神障害リハビリテーションプログラムについておおよそ具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神障害リハビリテーションプログラムについて具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神障害リハビリテーションプログラムについておおよそ具体的に説明できた。	精神障害リハビリテーションプログラムに關係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について理解し、援助場面で活用できる。	関係するキーワードを用いて精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連についておおよそ具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連についておおよそ具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連についておおよそ具体的に説明できた。	精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連に關係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神障害リハビリテーション論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座3 精神障害リハビリテーション論』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	9784805882542	
2						
3						
4						
5						

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、精神障害リハビリテーションとソーシャルワーク(精神障害リハビリテーションとソーシャルワーク(精神障害リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割))	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
2	精神障害リハビリテーションとソーシャルワーク(精神障害リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
3	精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則(精神障害リハビリテーションの理念と定義)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
4	精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則(医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
5	精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則(精神障害リハビリテーションの基本原則、地域およびリカバリー概念を基礎としたリハビリテーション)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
6	精神障害リハビリテーションの構成および展開(精神障害リハビリテーションの対象)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
7	精神障害リハビリテーションの構成および展開(チームアプローチ)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
8	精神障害リハビリテーションの構成および展開(精神障害リハビリテーションのプロセス)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
9	まとめ	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
10	中間テスト、振り返り	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。(90分)	試験で間違えたところ、理解があまりなかった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)
11	精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関(医学的リハビリテーションプログラム)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
12	精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関(職業的リハビリテーションプログラム)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
13	精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関(社会的リハビリテーションプログラム、教育的リハビリテーションプログラム)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
14	精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関(家族支援プログラム、リハビリテーションプログラムに用いられるその他の手法・プログラム)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
15	精神障害リハビリテーションの動向と実際	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説)、授業改善アンケートの実施	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。(90分)	試験で間違えたところ、理解があまりなかった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	民法 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

民法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することを目的とする。法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できるよう、条文を理解し、適用・解釈できるように学ぶ。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

法律に対して感じるむずかしさや抵抗感を取り除き、法学の基礎となる民法の面白さを伝える。法律の基本知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できる。

授業全体の内容と概要

法律の基本となる知識を修得することを目的とし、条文を理解し、適用・解釈できるようにすることを目標とし、さらに法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できる人材の育成することを目的とする。民法は、市民生活や経済活動を法をうえて基本となる法律であり、最も身近な法律である。民法の基本となる知識を修得し、事例に即し講義を行う。具体的には、総則・物権・債権からなる財産法を中心に解説する。SDG 10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

授業は、資料をパワーポイントで投影し、資料(第3回から第14回の計12回)を配布して実施する(調査学習含む)。授業の進行は、前回の復習から始まり、本日の講義の内容を講義形式で解説を行う。確認テストは、講義の理解を深めるために6回(前年実績)実施する。ビデオ視聴は、課題解決力を養うために2回(前年実績なし)(受講人数・使用教室などによっては実施しない)実施する。課題は、講義の理解を深めるために1回(前年実績)実施する。についてのフィードバックは、講義内で解説を行う。補講が必要な場合は実施する(欠欠などの学生に対しては補講を実施する)。確認テストなどはMicrosoft Formsの小テストから実施し、学生全体の理解度を把握し、指導する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・私語などの迷惑行為は厳禁。
- ・講義中スマホの操作は厳禁、マナーモードで受講してください。
- ・六法を持参することを推奨。
- ・確認テストやビデオ視聴を実施するので遅刻は慎むこと。
- ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
 ・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。
 ・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上
 課題の提出等の定期試験以外の割合が単位認定基準の4割を占めるので、12回以上の出席を推奨。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	10%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
法律の条文を読み取り、理解できた。	法律の条文を読み取り、理解でき、さらに自分の意見を述べる事ができた。	法律の条文を読み取り、理解でき、自分なりの説明できた。	法律の条文を読み取り、理解できた。	法律の条文を読み取れた。	法律の条文を読み取れなかった。
事例を理解し、法律の条文を適用できた。	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べる事ができた。	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できた。	事例を理解し、法律の条文を適用できた。	事例を理解し、法律の条文を理解できた。	事例を読み取れず、法律の条文を理解できなかった。
課題に対し、問題解決ができた。	解答が的確で、過不足なく網羅して答えていた。	一部に解答と関係ないことを答えていたが、解答は答えていた。	改善すべき点があったが、解答を一通り答えていた。	的確ではないが、解答を部分的には答えていた。	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	民法 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『民法 第2版(ファーストラックシリーズ2)』	伊藤真	弘文堂	2022年	9784335314612	
2	『ポケット六法 令和6年版』	佐伯仁志・大村敦志・荒木尚志 / 編集代表	有斐閣	2023年	9784641009240	
3	『大学生生活と法学』	江藤祥平・大塚智貞・遠藤聡大・豊谷しのぶ・原野真剛・田島	有斐閣	2022年	9784641126312	
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンス	シラバスの確認(90分)	復習(90分)
2	シラバスの説明 ガイダンス 民法全体の概観	シラバスの確認 民法の特徴と基本原理の調べ学習(90分)	復習(90分)
3	民法の基本原理, 契約, 制限行為能力者(未成年者, 成年被後見人)	民法の基本原理, 契約, 制限行為能力者についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
4	成年被後見人, 意思表示(錯誤・心裡留保・通謀虚偽表示・詐欺・強迫)	成年被後見人, 意思表示についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
5	代理(代理, 表見代理, 無権代理) 確認テスト1(前年実績)	代理(代理, 表見代理, 無権代理)についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分), 確認テストの復習
6	代理(無権代理) 確認テスト2(前年実績)	代理(無権代理)についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分), 確認テストの復習
7	問題演習の解答と解き方 時効(取得時効, 消滅時効) 確認テスト3(前年実績)	時効(取得時効, 消滅時効)についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分), 確認テストの復習
8	物権 - 物権法の概観	物権法についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
9	物権 - 用益物権(地上権, 永小作権, 地役権, 入会権), 物権の変動(動産, 不動産), 即時取得 確認テスト4(前年実績)	用益物権, 物権の変動, 即時取得についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分), 確認テストの復習
10	物権 - 物権の変動(登記), 担保物権(留置権, 先取特権, 質権, 抵当権) 確認テスト5(前年実績)	物権の変動(登記), 担保物権(留置権, 先取特権, 質権, 抵当権)についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分), 確認テストの復習
11	債権 - 法定地上権, 保証契約 課題1(前年実績)	保証契約, 連帯保証についての調べ学習(90分)	課題の作成 配布資料の復習(90分)
12	答案練習 債権 - 手付, 担保責任	課題の作成 手付, 担保責任についての調べ学習(90分)	答案練習の復習 配布資料の復習(90分)
13	債権 - 債務不履行, 同時履行の抗弁権, 危険負担 確認テスト6(前年実績)	債務不履行, 同時履行の抗弁権, 危険負担についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分), 確認テストの復習
14	債権 - 不当利得, 不法行為, 使用者責任, 工作物責任	不当利得, 不法行為, 使用者責任, 工作物責任についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
15	まとめ 授業改善アンケートの実施 定期試験の説明	第3回から第14回まで復習(90分)	試験範囲の確認により, 第3回から第14回まで復習(90分)
16	定期試験(60分) 定期試験の解説, 採点方法の説明 授業改善アンケートの実施	試験範囲の確認, 第3回から第14回まで復習(90分)	復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	コンテンツデザイン (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	上坂 恒章(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上坂 恒章)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標

コンピュータプログラムを用いメディアアート制作の基礎の学び、表現手法を修得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP5に対応する。(2023・2022年度)
 デザイン学科のDP2、DP32、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

メディアアート作品を創作するための基礎技術を修得することができる。

授業全体の内容と概要

メディアアートの現状を紹介し、実施にプログラム(Processing)を学び、各自のメディアアート作品を創作する。

授業の方法

授業では、各ステップの課題に対してそれぞれが解決しながら学習する。提出された課題のプレゼンテーションを行い、評価をフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

デジタルデザイン を履修済みであること。
 遅刻・欠席すると次の授業の理解が難しくなるので注意すること。
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	20%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
プログラムのコーディングの理解	学んだコーディングを理解し、自ら学習して、更に理解の向上に努めていた。	学んだコーディングを理解していた。	学んだコーディングを概ね理解していた。	学んだコーディングを最低限理解していた。	学んだコーディングを理解できなかった。
プログラムの操作スキル	学習したプログラムを適切に使うことができ、応用するkとができた。	学習したプログラムを適切に使うことができた。	学習したプログラムを概ね使うことができた。	学習したプログラムを最低限使うことができた。	学習したプログラム使うことができなかった。
メディアアート作品の制作	オリジナルのメディアアート作品を制作することができた。	学習した内容を応用して、メディアアート作品を制作することができた。	学習した内容の知識でメディアアート作品を制作することができた。	非常に簡単なメディアアート作品を制作することができた。	メディアアート作品を制作することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	コンテンツデザイン (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	上坂 恒章 (デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上坂 恒章)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『「Processingをはじめよう 第2版」』	Casey Reas, Ben Fry	オライリー・ジャパン	2016	9784873117737	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション - シラバスの説明 メディアアートとは	シラバスを読んでおくこと。メディアアートについて調べておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
2	Processingの基礎	指定部分のテキストを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
3	計算と変数について	指定部分のテキストを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
4	繰り返しとランダムについて	指定部分のテキストを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
5	条件分岐命令について	指定部分のテキストを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
6	データの読み込みと画像の取り扱い	指定部分のテキストを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
7	変換について	指定部分のテキストを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
8	関数について	指定部分のテキストを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
9	アニメーション	指定部分のテキストを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
10	配列	指定部分のテキストを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
11	オリジナルメディアアート作品の制作 1	作品の構想を完成させること (90分)	メディアアート作品の制作 (90分)
12	オリジナルメディアアート作品の制作 2	メディアアート作品の制作 (90分)	メディアアート作品の制作 (90分)
13	オリジナルメディアアート作品の制作 3	メディアアート作品の制作 (90分)	メディアアート作品の制作 (90分)
14	オリジナルメディアアート作品の制作 4	メディアアート作品の制作 (90分)	メディアアート作品の制作 (90分)
15	プレゼンテーション	プレゼン用レジュメの準備をすること (90分)	フィードバックするので、自己評価をすること (90分)
16	作品講評 授業改善アンケートの実施	全授業の振り返りを行う (90分)	作品講評の内容を振り返り自己評価を行う (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ダンス（科目ナンバリング：）				
授業担当者（所属・職名）	是枝 亮（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	1（単位認定責任者：是枝 亮）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

学校教育においてダンス教材を扱うのに相応しい、態度・能力・指向性のある人材を目指す。まずは履修者自身がダンスを楽しむ素養を身に付け、親しみを持つようにする。その過程において、他者との関わり方や実施環境への配慮といった要素についても留意できるようにする。

授業の位置づけ

経営学科のDP2、DP4、DP5に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

ダンスに親しみ、楽しむことができる。ダンスの基本的動き、音楽に合わせた動きの表現を理解し発表できるようになる。

授業全体の内容と概要

ダンスの基本的動き、音楽に合わせた動きの表現を中心に学び、最終的には課題に応じた創作ダンスの発表ができるようになる。

授業の方法

毎回の授業の中で、様々なダンスの動きや表現を学習する。単なる模倣ではなく、個人やグループでテーマやモチーフを表現したダンスを創作していく。不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実技科目のため、運動できる服装で参加すること。その他注意事項及び詳細に関しては、オリエンテーションで説明する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、11回以上。授業に対する意欲・態度・技術の上達等を総合的に判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	30%	0%	60%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ダンスに対する姿勢	音楽に合わせて自然と身体を動かしたり、自分の持つ考えや決められたモチーフについて表現することに楽しさを覚え、授業を通じてダンスに対して親しみを持つことができた。	音楽に合わせて身体を動かしたり、決められたモチーフについて表現することを楽しくすることがあり、ダンスにみもあつた。	音楽に合わせて表現することを楽しみ、発表会等に向けて表現や創作をすることができた。	音楽や表現を楽しみ、身体を動かすことができた。	音楽に合わせた動きや表現に取り組むことができなかった。
グループでの創作および発表	グループでの創作において、主体的にテーマに対する斬新なアイデアや大胆な動きの提言し、印象的な作品の創作につなげることができた。	グループでの創作において、テーマや動きのアイデアを考え、主体的に作品創作をすることができた。	グループでの創作において、テーマや動きのアイデアについての話し合いに十分参加できた。	グループでの創作や、他者の前での発表ができた。	グループでの創作や、他者の前での発表が十分できなかった。
他者との主体的なコミュニケーション	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを常にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを十分にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを自らとることがあった。	他の履修者とコミュニケーションがとれた。	他の履修者と十分なコミュニケーションがとれなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ダンス（科目ナンバリング： ）				
授業担当者（所属・職名）	是枝 亮（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1（単位認定責任者： 是枝 亮）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	高等学校体育実技指導資料第9集 表現運動系及びダンス指導の手引	文部科学省	東洋館出版社	2013 年	9784491029771	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、ガイダンス・レクリエーション 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認（45分）	ガイダンス内容の理解（45分）
2	からだほぐし、ダンスへの導入	授業内容のイメージ（45分）	学習内容の復習（45分）
3	ダンスへの導入 リズムに合わせて動く	授業内容のイメージ（45分）	学習内容の復習（45分）
4	ダンスへの導入 誰かと一緒に動く	授業内容のイメージ（45分）	学習内容の復習（45分）
5	ダンスへの導入 動きから作品へ	授業内容のイメージ（45分）	学習内容の復習（45分）
6	即興による表現 他者との関係	授業内容のイメージ（45分）	学習内容の復習（45分）
7	即興による表現 ものをを使った表現	授業内容のイメージ（45分）	学習内容の復習（45分）
8	即興による表現 他者との関係	授業内容のイメージ（45分）	学習内容の復習（45分）
9	即興による表現 空間を活かした表現	授業内容のイメージ（45分）	学習内容の復習（45分）
10	作品創作への導入 イメージ・表現・動き	授業内容のイメージ（45分）	学習内容の復習（45分）
11	作品創作への導入 テーマ・モチーフ	授業内容のイメージ（45分）	学習内容の復習（45分）
12	作品創作	作品創作の準備（45分）	進捗の振り返りと確認（45分）
13	作品創作	発表会へ向けた創作（45分）	進捗の振り返りと確認（45分）
14	作品創作	発表会へ向けた創作（45分）	進捗の振り返りと確認（45分）
15	発表会	発表会への準備（45分）	作品の振り返り（45分）
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	授業全体の振り返り（45分）	身に付いた事の確認（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	柔道 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 三嶋 康嗣)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、柔道の精神と嘉納治五郎の目指す柔道修行の礎を理解させ、安全に柔道の技術的特性を指導していく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ポ・ド等を参照				

概要

履修目標	柔道の技術(礼法、基本動作、対人技能の投げ技・固め技等)を自ら身につけ、安全に配慮しながら指導できるよう、指導法を実践し学ぶ。練習方法と審判法、試合運営法を習得し、安全かつ健康を保持増進し、加納治五郎先生の精神である「人格の完成をはかり、社会に貢献できるよう」学習する。
授業の位置づけ	経営学科のDP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)
到達目標	学校体育の柔道指導法、武道の指導法を実践し学ぶ。基本動作、対人技能の投げ技・固め技、練習方法と審判方を習得する。また、安全指導のあり方を学習する。

到達目標	学校体育の柔道指導法、武道の指導法を実践し学ぶ。基本動作、対人技能の投げ技・固め技、練習方法と審判方を習得する。また、安全指導のあり方を学習する。
------	---

到達目標	学校体育の柔道指導法、武道の指導法を実践し学ぶ。基本動作、対人技能の投げ技・固め技、練習方法と審判方を習得する。また、安全指導のあり方を学習する。
------	---

授業全体の内容と概要	基本動作、基本的な技術を実践し習得する。安全指導への注意点を学び実践する。試合運営の方法を習得する。
授業の方法	授業は実技のため、各人の技量が必要となってくる。基本的な動作(礼法・受身・技)を習得し、安全に注意を払いながら指導できるようにしていく。また、審判法やルールを理解し、円滑に試合運営ができるようにする。欠席・見学は無いよう体調管理に気を付け技の習得につとめる事。習得状況の確認試験を実施する。なお、不測時における授業や補講等オンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	双方向授業
				その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	柔道衣を正しく清潔に着用する。柔道衣はJF規格若しくは全日本柔道連盟規格に適合するものを用意する。武道の精神である、礼節を大切に励行する。ル・ルで決められている、危険な物は身につけない(時計・指輪・ピアス・ミサンガ等)。体調の悪い時は、事前に申し出ること。
----------	--

修学サポート(合理的配慮)	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
---------------	---

資格指定科目	教職課程(保健体育)必修科目
--------	----------------

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な出席回数は、11回以上。												
評価方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>60%</td> <td>10%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	30%	0%	0%	0%	60%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他								
30%	0%	0%	0%	60%	10%								

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
柔道に対する関心・意欲・態度・判断	日本古来の武道である柔道の精神を理解し、自ら意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	指示された事を普通に言い、安全に注意を払っていた。	指示されたことが理解できず、意欲もなく安全に注意を配っていないかった。	指示どおりにおこなわず、意欲も全くなく、安全に注意を配っていないかった。
各運動技能	礼法・受身・技の理合いを理解し、各項目において特に優れている技能を有する事ができた。	各項目において技能が7割程度習得できている事ができた。	各項目において技能が5割程度習得できている事ができた。	各項目において技能が3割程度しか習得できていなかった。	各項目において技能が習得できていない、やる気がなかった。
知識・理解(ルール、審判、運営の仕方)	審判規定を完全にマスターし、審判やゲームの運営をスムーズに実施することができた。	審判規定をマスターし、審判やゲームの運営を助言を受けながら実施することができた。	審判規定を最低限マスターし、審判やゲームの運営を行うことができた。	審判規定を理解することができず、部分的にしか審判やゲームの運営をすることができなかった。	審判規定を習得できず、審判やゲームの運営を行うことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	柔道 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 三嶋 康嗣)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、柔道の精神と嘉納治五郎の目指す柔道修行の礎を理解させ、安全に柔道の技術的特性を指導していく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『柔道上達BOOK』	小俣幸嗣	成美堂出版	2004		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(授業の進め方、柔道の教育的意義、武道の歴史)シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読み確認をおこなう(45分)	ガイダンスの内容を理解する(45分)
2	柔道衣の着方、礼法、指導のあり方と基本動作と受身(後ろ受身、横受身、横転受身)	事前に柔道衣の着方、礼法、受身を学習する(45分)	本日の授業内容を復習し、確認を行う(45分)
3	基本動作、受身の復習(前回り受身)、安全な投げ方、袈裟固め	事前に基本動作の知識や投げ方の学習をする(45分)	本日の授業内容を復習し、確認を行う(45分)
4	投げ技(膝車、支え釣り込み足)、固め技(横四方固め)	事前に膝車、支え釣り込み足、横四方固めの学習を行う(45分)	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める(45分)
5	投げ技(体落とし、大腰)、固め技(上四方固め)、固め技のゲ・ム	事前に体落とし、大腰、上四方固めの学習を行う(45分)	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める(45分)
6	投げ技(小内刈、大内刈、大外刈)、固め技(縦四方固め)、固め技のゲ・ム	事前に小内刈、大内刈、大外刈、縦四方固めの学習を行う(45分)	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める(45分)
7	投げ技、固め技の復習、約束練習、固め技の簡易試合	事前に今まで習得した技の復習を行っておく(45分)	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める(45分)
8	投げ技(背負投、一本背負)、約束練習、かかり練習、固め技の簡易試合	事前に背負投、一本背負投の投げ方を学習する(45分)	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める(45分)
9	かかり練習、約束練習、自由練習の練習法	事前に練習方法の学習を行う(45分)	本日の授業内容を復習し、さまざまな練習法を習得する(45分)
10	投げ技(払腰、内股)、固め技(絞め技と間接技の原理と安全指導)	事前に払腰、内股、絞め技、間接技の学習をする(45分)	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める(45分)
11	投げ技11・固め技6つの復習、約束練習	事前に、今までに学習した技を復習しておく(45分)	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める(45分)
12	試合の方法、審判法、かかり練習、自由練習 担当:三嶋	事前に試合の方法、審判法を学習する(45分)	本日の授業内容を復習し、審判法の習得に努める(45分)
13	試合の運営法、技の判定基準、約束練習、かかり練習、自由練習	事前に審判法の復習及び試合の運営方法を学習する(45分)	本日の授業内容を復習し、審判法、試合運営法を習得する(45分)
14	簡易試合を通じ、試合の運営方法、審判法、技の判定基準、役割、役割分担を学ぶ	事前に13時間目の復習をしておく(45分)	試合の運営法を習得し、安全に試合が運営できるか理解し工夫をする(45分)
15	ミニ大会を実施、運営法を学ぶ	スム・ズに大会を行えるよう手順を学習する(45分)	技術、指導法、審判法を習得し、安全に授業を行えるようにする(45分)
16	実技試験、到達度確認、授業改善アンケートの実施	実技試験のための用具等の準備を行う(45分)	指導における留意点を復習し、円滑に授業が行えるようまとめる(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	課程必修
科目名称	教職実践演習(中・高) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)、 堀川 厚志(社会福祉学科・特任教)		研究室等所在	未定	
単位数	2 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

- (1) 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項
 - (2) 社会性や対人関係能力に関する事項
 - (3) 生徒理解や学級経営等に関する事項
 - (4) 教科等の指導力に関する事項
- 以上の項目で、個々の不足している知識や技能を身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)、DP(3)、DP(4)、DP(5)に対応する。(2021年度)
 経営学科のDP(2)、DP(3)、DP(4)に対応する。(2021年度)
 デザイン学科のDP(1)、DP(2)に対応する。(2021年度)
 建築学科のDP(1)に対応する。(2021年度)

到達目標

教員に求められる必要不可欠な資質能力、更に本学が掲げる教員養成理念に基づく必要な資質を身に付けることができる。

授業全体の内容と概要

大学4年間のそれぞれの学習内容、理解度を把握するための教職課程履修カルテ等に基づく担当教員の指導により、個々の能力・技能等の課題を理解し、その不足している知識や技能等を補うため自己目標を設定し、課題解決に向け取り組みを行う。授業の内容は、教職課程の個々の科目の履修により修得した専門的知識・技能を基に、教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を持って、学級や教科を担当しつつ、教科指導、生徒指導等の職務を着しい支障が生じることなく実践できる資質能力を養うため、教職経験者を含めた複数教員の協力方式による効果的な授業(ロールプレイング・フィールドワーク・ワークショップ等)を展開する。
 『SDG4:質の高い教育をみんなに』の関連科目。

授業の方法

授業形態は講義形式であるが、板書の他に視聴覚メディア等を利用する。教職に関する科目の担当複数教員を中心に実践的な授業(ロールプレイング・フィールドワーク・ワークショップ等)を展開する。また、内容によって、教科に関する科目の担当教員や教職の現場経験者、更に地元教育委員会等の連携により授業を運営する。また、学生は進んで学校ボランティア・学校サポーター等に参加して教育経験を得る。なお、課題として提出するレポート等については、評価とコメントによりフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席状況、受講態度の点で適格性を欠いていると判断された学生は、以後受講できなくなる場合があるので、真剣な取り組みを要する。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業の参加態度、発表内容、レポート等を総合的に評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	20%	0%	25%	25%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	レポート課題において、9割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、8割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、7割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができなかった。
思考力・判断力・表現力	右の記述を高いレベルで実現できた。	グループ討議などで、自分の意見を論理的なまとめ、進んで発表することができた。	グループ討議などで、自分の意見を論理的なまとめ発表することができた。	グループ討議などで、自分の意見をやや論理的なまとめ発表することができた。	グループ討議などで、自分の意見を論理的なまとめ発表することができなかった。
関心・意欲・態度	右の記述を高いレベルで実現できた。	学校サポーター・学校ボランティア・TAなどに進んで参加し、「教育実習」における課題解決学習の意義を理解することができた。	学校サポーター・学校ボランティア・TAなどに参加し、「教育実習」における課題解決学習の意義を理解することができた。	学校サポーター・学校ボランティア・TAなどに参加し、「教育実習」における課題解決学習の意義をやや理解することができた。	学校サポーター・学校ボランティア・TAなどに参加し、「教育実習」における課題解決学習の意義を理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	課程必修
科目名称	教職実践演習(中・高) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)、 堀川 厚志(社会福祉学科・特任教)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領解説 各教科編(最新版)』					
2	『高等学校学習指導要領解説 各教科編(最新版)』					
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明、資料の配布、各授業の到達目標の提示、学生個々の課題提示、学生の自己目標設定)、前年度の授業改善アンケート結果反	事前にシラバスを読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
2	使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 1. 教職現場経験者(中学校、高等学校、特別支援学校)による「理想の教師像」の講義	事前に講義内容のプリントを読んでおくこと。(90分)	今回の授業をまとめておくこと。(90分)
3	2. 講義を参考にしたグループ討議「理想の教師像・私の教師像について」	グループ討議に参加できるよう準備をしておくこと。(90分)	今回の授業をまとめておくこと。(90分)
4	社会性や対人関係能力に関する事項 1. 「教育現場でのいじめや不登校、特別支援教育等の現状と課題について」の講義	事前に講義内容のプリントを読んでおくこと。(90分)	今回の授業をまとめておくこと。(90分)
5	2. 講義を参考にしたグループ討議「課題解決に向けての教師としてのアプローチについて」	グループ討議に参加できるよう準備をしておくこと。(90分)	今回の授業をまとめておくこと。(90分)
6	3. 場面に応じた教師としての話し方(挨拶・言葉遣い等)及び日常的に発生する学級内の問題解決について	ロールプレイングについて学習しておくこと。(90分)	今回の授業をまとめておくこと。(90分)
7	4. 「地元学校における現地調査」<フィールドワーク>	フィールドワークの準備をしておくこと。(90分)	フィールドワークの内容をまとめておくこと。(90分)
8	5. 「福祉施設等における現地調査」<フィールドワーク>	フィールドワークの準備をしておくこと。(90分)	フィールドワークの内容をまとめておくこと。(90分)
9	生徒理解や学級経営等に関する事項 1. 講演「生徒が所属感、効力感を感じる学級経営について」(教育委員会指導主事又は地元学校)	学級経営について、学習しておくこと。(90分)	今回の授業をまとめておくこと。(90分)
10	2. 講演を参考にした意見発表と集団討議「私の学級経営方針について」	グループ討議に参加できるよう準備をしておくこと。(90分)	今回の授業をまとめておくこと。(90分)
11	1. 教科等の指導力に関する事項 1. 教育実習経験を踏まえた授業設計と模擬授業の実施	模擬授業の準備をしておくこと(90分)	今回の授業をまとめておくこと。(90分)
12	2. 教育実習経験を踏まえた授業設計と模擬授業の実施	模擬授業の準備をしておくこと。(90分)	今回の授業をまとめておくこと。(90分)
13	学生個々の課題解決の実施 1. 学校サポーター・学校ボランティア・TA等の参加	参加準備をしておくこと。(90分)	今回の体験をまとめておくこと。(90分)
14	2. 学校サポーター・学校ボランティア・TA等の参加	参加準備をしておくこと。(90分)	今回の体験をまとめておくこと。(90分)
15	3. 学校サポーター・学校ボランティア・TA等の参加	参加準備をしておくこと。(90分)	今回の体験をまとめておくこと。(90分)
16	まとめ(レポート課題等)の解説 授業改善アンケートの実施	まとめの準備をしておくこと。(90分)	今回の授業をまとめておくこと。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・准教授)、 畠山 明子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助に従事していた教員が、実習に向けた学習・体験などを通じて精神保健福祉援助実習が効果的になるように授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標	<p>ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について理解する。 精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的なかつ実際に理解し実践的な技術を体得する。 精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p>
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2022年度)

到達目標	<p>ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について理解する。 精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的に理解し実践的な技術を体得する。 精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</p>
------	---

授業全体の内容と概要	<p>教科書をもとに、実習前・実習中・実習後の学習方法を理解する。 事前には、実習の目的と構造(実習および実習指導の意義や目的、実習におけるスーパービジョン、実習における教育評価、実習の構造、実習におけるリスクマネジメント)、実習先に向けた準備(情報収集の方法、実習記録の書き方、精神保健医療福祉の現状と精神保健福祉士の役割、精神保健福祉実習の施設・機関の理解)、実習先決定後の準備(実習先決定後の学習の内容と方法、実習計画の作成、事前訪問/事前打ち合わせ)を行い、実習中には、実習スーパービジョン、実習中の評価、実習中に直面する悩み、実習中に起こり得る問題から学び、事後には、実習後に行う評価、事後学習の目的と方法、実習成果の報告(実習報告会)を通じて振り返りを行う。 *SDG 3、すべての人に健康と福祉を、*SDG 4、質の高い教育をみんなにの関連授業。</p>
授業の方法	<p>教科書の主要な内容をまとめたレジュメを作成し報告することを通して、実習前・中・後に必要となる準備を行う。報告の分担は授業開始後に決定する。 実習配属先が決定後、実習に向けた事前学習・実習計画書の作成を通して、自らの実習課題を設定すること。事前学習・実習計画書は個別指導を実施する。 質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。 Microsoft Teams / Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。</p>

アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td>○</td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td>○</td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL		模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業	○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		PBL																		
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業																		
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)																		

履修上の注意事項	<p>教科書は毎回持参すること。 実習準備を行うことから出席を重視する。やむを得ず遅刻や欠席をするときは事前に連絡をすること。 講義、演習を含めた形態とするが、施設見学や外部講師による講義等も実施の予定である。実習生である前提に社会人としてのマナーを意識し、日頃の自らの言動に気を付けて行動すること。 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。</p>
----------	--

修学サポート(合理的配慮)	<p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
資格指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件	<p>単位認定に必要な最低出席回数は、1回以上。成績は、レジュメの作成・報告(20点)、事前学習・実習計画書の作成(50点)、平常点(30点)で総合して評価する。</p>					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について理解する。</td> <td>関係するキーワードを用いてソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを用いてソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義についておおむね具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することによりソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することによりソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義についておおむね説明・記述できた。</td> <td>ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。</td> </tr> <tr> <td>精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。</td> <td>関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難についておおむね具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について説明・記述できた。</td> <td>精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状、その生活の実態や生活上の困難について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。</td> </tr> <tr> <td>ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的に理解し実践的な技術を体得する。</td> <td>関係するキーワードを用いて精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを用いて精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術についておおむね具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について説明・記述できた。</td> <td>精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。</td> </tr> <tr> <td>精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</td> <td>関係するキーワードを用いて精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを用いて精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等についておおむね具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等について説明・記述できた。</td> <td>精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。</td> </tr> <tr> <td>具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</td> <td>関係するキーワードを用いて具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てて具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを用いて具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てておおむね具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てて具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てて説明・記述できた。</td> <td>具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てて関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。</td> </tr> </table>					評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について理解する。	関係するキーワードを用いてソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いてソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義についておおむね説明・記述できた。	ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。	精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について説明・記述できた。	精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状、その生活の実態や生活上の困難について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。	ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的に理解し実践的な技術を体得する。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について説明・記述できた。	精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。	精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等について説明・記述できた。	精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。	具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	関係するキーワードを用いて具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てて説明・記述できた。	具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てて関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
評価項目	評価基準																																													
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																									
ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について理解する。	関係するキーワードを用いてソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いてソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義についておおむね説明・記述できた。	ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。																																									
精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について説明・記述できた。	精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状、その生活の実態や生活上の困難について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。																																									
ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的に理解し実践的な技術を体得する。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について説明・記述できた。	精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。																																									
精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等について説明・記述できた。	精神保健福祉士として求められる資質・技能、倫理、自己に求められる課題把握等について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。																																									
具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	関係するキーワードを用いて具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てて説明・記述できた。	具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てて関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。																																									

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・准教授)、 畠山 明子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助に従事していた教員が、実習に向けた学習・体験などを通して精神保健福祉援助実習が効果的になるように授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ソーシャルワーク実習指導-ソーシャルワーク実習【精神専門】』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021年	978-4-8058-8259-7	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション、シラバス説明、講義-演習-実習の循環	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
2	ソーシャルワーク実習の目的と構造 (実習および実習指導の意義と目的)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
3	ソーシャルワーク実習の目的と構造 (実習におけるスーパービジョン、実習における教育評価)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
4	ソーシャルワーク実習の目的と構造 (実習における教育評価、実習の構造)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
5	実習先決定に向けた準備 (情報収集の方法、実習記録の書き方)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
6	実習先決定に向けた準備 (精神保健医療福祉の現状と精神保健福祉士の役割、精神保健福祉士実習の施設・機関の理解)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
7	実習先決定後の準備 (実習先決定後の学習の内容と方法)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
8	実習先決定後の準備 (実習計画の作成、事前訪問/事前打ち合わせ)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
9	実習中の学習 (実習スーパービジョン、実習中の評価)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
10	実習中の学習 (実習中に直面する悩み、実習中に起こり得る問題)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
11	実習後の学習 (実習後に行う評価、事後学習の目的と方法)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
12	実習後の学習 (実習成果の報告)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
13	実習の実際 (実習先で必要とされる精神保健福祉士としての専門的知識と技術、精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
14	実習の実際 (精神科医療機関における実習)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
15	実習の実際 (障害福祉サービス事業所における実習)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
16	実習の実際 (行政機関における実習)、まとめ	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	コミュニティ心理学 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が、コミュニティ心理学の理念と目標を理解し、コミュニティ心理学の介入方法について理解する。さらに、学生が、いくつかのコミュニティ活動の事例について見聞きしながら、実際のコミュニティにおける問題解決への心理学的アプローチの可能性について考察する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3に対応する。(2022年度)
 社会福祉のDP1、DP3に対応する。(2022年度)
 経営学科のDP2、DP9に対応する。(2021年度)
 社会福祉学科のDP4、DP9に対応する。(2021年度)

到達目標

コミュニティ心理学で扱われる理論や専門用語の内容を理解する。
 実際のコミュニティ活動を通じた問題解決の事例を、心理学の知見を援用しながら説明する。
 コミュニティ心理学に関するテーマについて、調べ、整理し、スライド資料を用いて紹介する。

授業全体の内容と概要

コミュニティ心理学の理念・目的に基づき、人が環境に適応するための援助だけでなく、個人を取り巻く環境改善への介入・援助の方法について学ぶ。さらに、従来の臨床心理学的なアプローチに加え、社会心理学的アプローチの可能性についても考察する。
 「SDG3:すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

前半は板書とパワーポイント、配布印刷物を活用しながら、講義形式で行う。前半の最後に授業内課題を実施し、知識の定着を図る。後半は履修生によるプレゼンテーションを実施する。質問には随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業の運営・進行を著しく妨害するような行為(私語、大学で認められたもの以外の飲食、携帯電話・スマートフォンの使用、代返 等)が認められた場合、総合評価から大幅に減点することがある。
 プレゼンテーション発表の枠は、6枠×3回であり、その中で全履修者の発表を終わらせる必要がある。そこで、履修者の人数が多い(概ね20名以上)の場合、グループでの発表になることがある。
 不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	60%	0%	0%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
専門知識の理解	専門知識を非常に理解できた。	専門知識をかなり理解できた。	専門知識をやや理解できた。	最低限の専門知識を理解できた。	最低限の専門知識を理解できなかった。
専門知識の応用	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができ、その理由を詳しく説明できた。さらに、コミュニティ心理学の知識の枠組みを元に、自ら社会問題の原因や優れた解決策を提示することができた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができ、その理由を説明できた。さらに、コミュニティ心理学の知識の枠組みを元に、自ら社会問題の原因や解決策を提示することができた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができ、その理由を説明できた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げる事ができなかった。
プレゼンテーション	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を9割以上でできた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を8割程度でできた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を7割程度でできた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を6割程度でできた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を満たすことができなかった。
授業への積極的参加	授業へ非常に参加できた。	授業へかなり参加できた。	授業へやや参加できた。	授業へ最低限の参加ができた。	授業へ積極的に参加できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	コミュニティ心理学 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション(シラバス及び授業改善アンケートの結果反映の説明, コミュニティとは)	コミュニティについて調べる(90分)	本授業で扱うテーマを確認する(90分)
2	コミュニティ心理学の歴史と特徴	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
3	コミュニティ心理学の理念と心理学者の役割	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
4	コミュニティ心理学の理論とモデル	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
5	予防プログラム	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
6	危機介入とコンサルテーション	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
7	ソーシャルサポートとセルフヘルプ	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
8	コミュニティ感覚と市民参加	関連する文献を読む(90分)	授業内容を振り返る(90分)
9	これまでの振り返り	これまでの内容を振り返る(90分)	疑問点をまとめる(90分)
10	プレゼンテーション (テーマ, 発表順の決定, 準備)	関連する文献を読む(90分)	発表テーマに関する資料を収集する(90分)
11	プレゼンテーション (準備, ディスカッション)	発表テーマに関する資料を収集する(90分)	スライド資料をまとめる(90分)
12	プレゼンテーション (準備, ディスカッション)	プレゼンテーションの準備をする(90分)	発表された内容を振り返る(90分)
13	プレゼンテーション発表とディスカッション (第1グループ)	プレゼンテーションの準備をする(90分)	発表された内容を振り返る(90分)
14	プレゼンテーション発表とディスカッション (第2グループ)	プレゼンテーションの準備をする(90分)	発表された内容を振り返る(90分)
15	プレゼンテーション発表とディスカッション (第3グループ)	これまでの内容を振り返る(90分)	疑問点をまとめる(90分)
16	これまでの内容の振り返り(プレゼンテーションの準備日を兼ねる) 授業改善アンケートの実施	これまでの内容を振り返る(90分)	疑問点をまとめる(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	社会的養護 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標

以下について理解し、事例研究やロールプレイ等を通して自己覚知を行う。
 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について理解する。
 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。
 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。
 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。
 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について理解することができる。
 施設養護及び家庭養護の実際について理解することができる。
 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解することができる。
 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解することができる。
 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解することができる。

授業全体の内容と概要

子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に学ぶ。
 施設養護及び家庭養護の実際について学ぶ。
 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について学ぶ。
 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について学ぶ。
 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について学ぶ。

授業の方法

授業は、演習テーマに基づき思考・考察・意見交換・討論・発表等の一連の活動を行う。小グループでの話し合い、事例分析・ロールプレイング等を行い、それに基づき各自の感想、意見、振り返りを毎回述べてもらう。グループ発表、個人発表等に対してコメントを速ベフィードバックを行う。レポートについても解説によるフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

保育士を目指す者として積極的に参加し、専門職としての自己を成長させるための時間として活用して欲しい。演習テーマに基づき小グループでの話し合い、ロールプレイング等を行うので主体的に参加して欲しい。そのためにも「準備学習」については、示したテーマに係るこれまでの学びを踏まえて整理すること。「事後学習」については、その自取組んだ演習内容を記録し保育士を目指す者としての自己覚知を重視すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について、理解を深めた。	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について、ほぼ理解を深めた。	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について、やや理解を深めた。	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について、理解することができた。	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について、理解することができなかった。
施設養護及び家庭養護の実際について	施設養護及び家庭養護の実際について、理解を深めた。	施設養護及び家庭養護の実際について、ほぼ理解を深めた。	施設養護及び家庭養護の実際について、やや理解を深めた。	施設養護及び家庭養護の実際について、理解することができた。	施設養護及び家庭養護の実際について、理解することができなかった。
社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について	社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について、理解を深めた。	社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について、やや理解を深めた。	社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について、理解することができた。	社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について、理解することができなかった。
社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について	社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について、理解を深めた。	社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について、やや理解を深めた。	社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について、理解することができた。	社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について、理解することができなかった。
社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について	社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について、理解を深めた。	社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について、やや理解を深めた。	社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について、理解することができた。	社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について、理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	社会的養護 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバス確認)、社会的養護における子どもの理解 授業改善アンケートの結果反映説明	社会的養護とは(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
2	社会的養護の内容 日常生活支援	日常生活とは(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
3	社会的養護の内容 治療的支援	治療とは(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
4	社会的養護の内容 自立支援	自立とは(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
5	社会的養護の実際 施設養護の生活特性及び実際	施設養護の生活特性とは(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
6	社会的養護の実際 家庭養護の生活特性及び実際	家庭養護の生活特性とは(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
7	アセスメントと個別支援計画の作成	アセスメントとは(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
8	記録及び自己評価	記録のあり方について(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
9	保育の専門性に関わる知識・技術とその実践	保育の専門性とは(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
10	社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践	相談援助の知識・技術について(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
11	社会的養護における家庭支援	家庭支援について(90分)	レポート作成(90分)
12	社会的養護の課題と展望	社会的養護の課題と展望について(90分)	レポート作成(90分)
13	社会的養護に関わる事例研究	事例研究(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
14	社会的養護に関わる事例に基づくロールプレイ	ロールプレイの準備(90分)	演習の記録と自己覚知(90分)
15	まとめ(授業改善アンケートの実施)	文献学習(90分)	文献学習(90分)
16	フィードバックとしてレポートに対する解説を行う	文献学習(90分)	文献学習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツ生理学（科目ナンバリング： ）				
授業担当者（所属・職名）	天野 雅斗（経営学科・専任講師）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2	（単位認定責任者： 天野 雅斗 ）	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	スポーツ医科学研究所や大学院生理学研究室での経験を活かして、スポーツ生理学の実践的活用方法について講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標	運動・スポーツによる身体機能の変化について理解し、競技スポーツおよび健康増進のために必要な運動処方や理論を指導する知識を習得する。
------	---

授業の位置づけ	経営学科のDP2、DP4に対応する。（2023・2022年度）
---------	---------------------------------

到達目標	人間の筋・神経・呼吸・循環における生理学的基礎知識を学ぶとともに、運動・スポーツにおける生理学的変化を理解することで、健康維持や運動能力向上に効果的な運動処方を指導できる。
------	--

授業全体の内容と概要	前半は、骨格筋の収縮、呼吸に伴うガス交換や酸素摂取の基礎知識を学ぶ。後半はホルモン、体脂肪、体温、栄養と身体機能の関係について学び、さらには老化と身体機能、運動と生活習慣病との関係も理解させる。
------------	---

授業の方法	各回のテーマについてテキストを使用しながら講義する。また、スポーツ現場で起こる生理的要因が影響するシーンを題材にしてグループディスカッションを行い理解を深める。双方向授業を展開するためにMentimeterやMicrosoft Teams を活用したExcelやPower Pointでの意見集約・共同作業、Formsでの確認テスト等を実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。
-------	--

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	P B L
模範授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項	20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で1回の欠席とする。
----------	--------------------------------

修学サポート（合理的配慮）	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目	教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。												
評価方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	30%	0%	40%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他								
30%	0%	40%	0%	30%	0%								

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学習した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても修得できた。	学習した知識・技能をおおむね修得できた。	学習した知識・技能を一定程度修得できた。	学習した知識・技能を最低限容認できるレベルで修得できた。	学習した知識・技能を修得できなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組み、その課題に対する理解力やプレゼンテーション能力に関して、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、その課題に対する理解力やプレゼンテーション能力に関して、求められるレベルに達した。	与えられた課題に取り組み、その課題に対する理解力やプレゼンテーション能力に関して、求められるレベルに一定程度到達した。	与えられた課題に取り組み、その課題に対する理解力やプレゼンテーション能力に関して、求められる最低限容認できるレベルで到達した。	与えられた課題に取り組み、その課題に対する理解力やプレゼンテーション能力に関して、求められる最低限容認できるレベルで到達できなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組み、積極性や協働性に関して、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、積極性や協働性に関して、求められるレベルに達した。	与えられた課題に取り組み、積極性や協働性に関して、求められるレベルに一定程度到達した。	与えられた課題に取り組み、積極性や協働性に関して、求められる最低限容認できるレベルで到達した。	与えられた課題に取り組み、その課題に対する理解力やプレゼンテーション能力に関して、求められる最低限容認できるレベルで到達できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツ生理学（科目ナンバリング： ）				
授業担当者（所属・職名）	天野 雅斗（経営学科・専任講師）	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2（単位認定責任者：天野 雅斗）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	スポーツ医科学研究所や大学院生理学研究室での経験を活かして、スポーツ生理学の実践的活用方法について講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『入門運動生理学』	和田正信	杏林書院	2015	9784764411593	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	スポーツ生理学について シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
2	筋収縮とエネルギー	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
3	筋線維の種類と特徴	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
4	筋の収縮様式と筋力	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
5	神経系の役割	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
6	運動と循環	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
7	運動と呼吸（ガス交換、酸素解離）	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
8	運動と呼吸（酸素摂取量）	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
9	運動とホルモン	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
10	身体組成と肥満	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
11	運動と体温	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
12	運動と疲労	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
13	運動と栄養	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
14	老化と身体機能	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
15	運動と生活習慣病	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）
16	テスト及び解説 授業改善アンケートの実施	教科書理解（90分）	学習内容の復習（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地誌 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	塩崎 大輔(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

海外の事例と身近な事例を通して地誌学の基礎概念や方法論に触れ、議論することができる知識を習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP4、5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

地誌学の基礎を身につける。
東南アジアの事例から、地域と経済の関係を考えることができる。

授業全体の内容と概要

本授業では東南アジアを対象とし、その土地の地理的条件と人々の活動の関係をj通じて地誌学の基礎概念を身につけることを目標とする。また東南アジアというグローバルな視点から日本との関係を知ることにより、多面的多角的なモノの見方を習得する。まずマレーシアを中心とした東南アジアの地理的条件および産業を学び、アジア通貨危機と世界金融危機によってどのような影響を受けたのかを解説する。そして東南アジア諸国における港湾の発達、知的クラスターの形成、そして生み出された知的財産家の保護に焦点をあて説明する。
「SDGs4・質の高い教育をみんなに」および「SDGs9・産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連科目。

授業の方法

授業は基本的に講義形式で行い、適宜課題に沿った作業を行う。教科書を中心にスライド資料及び映像資料を交えながら講義を進める。そのため、教科書を必ず用意すること。また適宜国土地理院地理院地図などのWebGISを利用する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

講義内で適宜連絡する。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(社会・地理歴史)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	50%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
北海道誌の理解	レポート課題において、9割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、8割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、7割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができなかった。
地誌的記述	右の記述を高いレベルで実現できた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、地域をより深く考察することができた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、地域を深く考察することができた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、地域を考察することができた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、地域を考察することができなかった。
情報収集・整理	右の記述を高いレベルで実現できた。	地域の情報を収集し、わかりやすく整理することができた。	地域の情報を収集し整理することができた。	地域の情報を収集することができた。	地域の情報を収集することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地誌 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	塩崎 大輔(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『東南アジアの経済発展と世界金融危機』	橋本 雄一	古今書院	2014	4772252746	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明(授業内容と課題・評価基準の説明含む)	事前にシラバスを読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
2	地誌学概論	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
3	東南アジアの地理的条件	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
4	マレー半島の歴史	レポート課題等を作成すること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
5	東南アジアの産業政策	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
6	グローバル化と金融	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
7	アジア通貨危機の概要と発生	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
8	アジア通貨危機と東南アジア経済	レポート課題等を作成すること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
9	金融と土地利用 -住宅バブル-	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
10	COOとCDS	レポート課題等を作成すること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
11	世界金融危機の概要と発生	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
12	世界金融危機と東南アジアへの影響	レポート課題等を作成すること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
13	東南アジアにおけるインフラ整備と地域開発	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
14	東南アジアにおける知的クラスターの形成	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
15	これからの地理教育における地誌の課題	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
16	まとめ、課題(レポートなど)の解説 授業改善アンケートの実施	まとめの準備。(90分)	まとめの振り返り。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期	授業形態	必修・選択
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング:)		
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		
オフィスアワー			

概要

履修目標

授業の位置づけ

到達目標

授業全体の内容と概要

授業の方法

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業	ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

修学サポート(合理的配慮)

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期	授業形態	必修・選択
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング:)		
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	クラウドコンピューティング (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 由水 伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システムの運用経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報ネットワークの構築・運用に必要な知識について講義を行う		
オフィスアワー	講義時間以外は随時入室可(会議等で不在時を除く) 詳しくは研究室前の掲示板を参照してください。				

概要

履修目標

・クラウドコンピューティングの理論知識、実践的スキル、クリティカルシンキングと問題解決力を養う科目である。
 ・インターネットを支える技術を基盤とした応用性の高い仕組・技術を理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)(2)に対応する。(2023・2024年度)

到達目標

・クラウドコンピューティングの基本概念、サービスモデルおよびクラウドの利点と課題に関する知識を修得する。
 ・クラウドサービスプロバイダーの基本的操作、クラウドリソース管理、アプリケーションのデプロイメントとモニタリングを行うことができる。
 ・クラウドコンピューティングを用いたビジネスや技術的課題の解決策の考案ができる。
 ・クラウドコンピューティングの利用に関連するコストとセキュリティを考慮に入れた提案ができる。

授業全体の内容と概要

基礎から応用まで段階的に学習を進め、クラウドコンピューティングの重要性とその応用を理解する。
 「SDGs 9.産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。

授業の方法

授業の中ではパソコンやモバイル端末などICT機器を利用し、実践的な学習機会を提供し、理論と実践の橋渡しを図る。
 また、プロジェクトやケーススタディを取り入れることで、自発的な学習につなげる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・受講にあたり、情報システム論、情報ネットワーク論を受講しておくことが望ましい。
 ・講義内容には前後の相関性があるので欠席しないこと。
 ・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は11回以上。
 30分以上の遅刻、早退は欠席とみなす。
 授業中の課題も評価に含めるので、欠席をするとS評定の取得は困難となる点に注意すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	50%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
理論知識の理解 クラウドコンピューティングの基本概念、サービスモデル(IaaS, PaaS, SaaS)、およびクラウドの利点と課題に関する知識。	クラウドコンピューティングの高度な概念と技術を深く理解しており、授業外の事例や最新のトレンドについても言及できる。	必要な理論知識を正確に理解している。授業で学んだ内容を具体的な事例に適用できる。	基本的な理論知識は理解しているが、深い理解や事例への適用に若干の困難がある。	基本概念の理解に不足がある。重要なポイントを見落としている。	クラウドコンピューティングの基本概念の理解が不十分。授業内容の基本的な事項も理解していない。
実践的スキル クラウドサービスプロバイダーの基本的な操作、クラウドリソースの設定と管理、簡単なアプリケーションを利用可能とし、モニタリングを行う能力。	実践的なスキルで顕著な能力を示し、クラウド環境で複雑なタスクを自立して解決できる。	ほとんどの実践的なタスクを適切に実行でき、問題が生じた際には適切な解決策を見つげることができる。	基本的な実践的スキルはあるが、より高度なタスクや問題解決には支援が必要。	実践的な操作に苦手意識があり、基本的なタスクの実行も不安定。	実践的な操作やタスクの実行がほとんどできない。
クリティカルシンキングと問題解決 クラウドコンピューティングに関する課題に対して独創的かつ効果的な解決策を提案できる。業界の最新の課題の解決策の提案、クラウドコンピューティングの利用に関連するコストとセキュリティの考慮。	与えられた課題に対して論理的で実用的な解決策を提案できる。	基本的な問題解決はできるが、解決策に深みや創造性が欠けることがある。	単純な問題に対してのみ解	問題解決能力が不足しており、課題に対して効果的な解決策を提案できない。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	クラウドコンピューティング (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システムの運用経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報ネットワークの構築・運用に必要な知識について講義を行う		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明と受講の注意点 授業の概要	シラバスを確認し、新出の用語を理解する(90分)	授業内容の復習をする(90分)
2	クラウドコンピューティングとは何か クラウドの歴史と進化 基本用語と概念	クラウドコンピューティングとは何かを予習する(90分)	授業内容の復習をする(90分)
3	クラウドコンピューティングの基本構成要素 ハードウェアとソフトウェア サーバ、ストレージ、ネットワーク	コンピュータを構成する主な部品とその役割を予習する(90分)	授業内容の復習をする(90分)
4	インターネットの理解 ネットワーク概論 インターネットの仕組み	インターネットの歴史的と背景について予習する(90分)	授業内容の復習をする(90分)
5	クラウドコンピューティングとネットワーク CDN(Content Delivery Network) VPN(Virtual Private Network)とクラウドネット	VPNを予習する(90分)	授業内容の復習をする(90分)
6	クラウドサービスモデル IaaS、PaaS、SaaS	IaaS、PaaS、SaaSをそれぞれ予習する(90分)	授業内容の復習をする(90分)
7	クラウドストレージとデータ管理 クラウドストレージの種類 データの移行と統合	GoogleドライブとOneDriveについて比較する(90分)	授業内容の復習をする(90分)
8	クラウドアプリケーション クラウドアプリケーションの利用 クラウドネイティブアプリケーション開発	クラウドアプリケーションの実例を調査する(90分)	授業内容の復習をする(90分)
9	クラウドの経済性とビジネスモデル オンデマンド・セルフサービス 広範囲なネットワークアクセス	オンデマンド・セルフサービスの関と用語をいくつか選び理解する(90分)	授業内容の復習をする(90分)
10	データ分析とクラウド ビッグデータとデータウェアハウジング AIと機械学習サービス	ビッグデータとは何かと使用例について予習する(90分)	授業内容の復習をする(90分)
11	クラウドプロバイダー 主要なクラウドプロバイダーの特徴とサービスの比較	AWS、Azure、Google Cloudについて調査する(90分)	授業内容の復習をする(90分)
12	クラウドのセキュリティとプライバシー セキュリティの基礎、暗号化とデータ保護 法規制と標準	インターネット上の情報流出事件と原因について調査する(90分)	授業内容の復習をする(90分)
13	クラウドコンピューティングの将来とトレンド エッジコンピューティング クラウドとIoT(Internet of Things)	IoTについて予習する(90分)	授業内容の復習をする(90分)
14	実世界のクラウドコンピューティングの事例研究 グループ分け 事例研究テーマ選択と発表資料作成	企業におけるクラウドコンピューティングの事例を調査する(90分)	発表資料の作成を続ける(90分)
15	プレゼンテーションとフィードバック グループ別発表 フィードバックと質疑応答	発表資料を完成させる(90分)	定期試験に備えて全講義内容を復習する(90分)
16	定期試験(60分)と解説 (授業アンケート実施回)	定期試験に備えて全講義内容を復習する(90分)	総復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	知的障害教育 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 藤根 収)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、特別支援教育(知的障害教育)について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標

特別な支援を必要とする知的障害児の教育課程及び指導・支援の方法を理解し、知的障害児の教育を効果的に行うために必要な基本的知識と障害の状況等に応じた指導のあり方等の実践的知識を習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

特別支援学校学習指導要領等を基準として、知的障害教育における教育課程の編成やカリキュラム・マネジメントの考え方、個別の指導計画や個別的教育支援計画を作成する意義と活用方法を理解する。また、知的障害教育における自立活動の指導や各教科等の授業づくりにあたって、効果的な指導を行うために必要な指導内容・方法や児童生徒理解の方法等についての基礎的知識を理解する。

授業全体の内容と概要

毎回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察・意見交換・発表等の一連の活動を行う。また、知的障害教育に係わる教育課程の編成や個別の指導計画の作成、授業づくりの仕方、各種検査の理解について、具体的な事例や演習方式も取り入れながら行う。
S D G s 4「質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業ではパワーポイント及び配布物(レジメ)で実施し、資料にて説明した後、グループワーク等で、テーマに関する事項に関して、思考・考察・意見交換、討議、発表等の一連の活動を行うなどして理解を深める。また、実践事例のVTR教材視聴の事例に基づくレポート提出を行う。なお、レポート等にはコメントにてフィードバックする。
ICTに関連して、授業についての質問などは、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="radio"/>	フィールドワーク	<input type="radio"/>	P B L
<input type="radio"/>	模擬授業	<input type="radio"/>	ロールプレイ	<input type="radio"/>	調査学習	<input type="radio"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="radio"/>	実験・実習・実技	<input type="radio"/>	双方向授業	<input type="radio"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。
不測の事態が起きた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(特別支援学校教諭)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	20%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知的障害教育の専門的な知識・技能の習得	専門的な内容について高い関心をもって理解し、さらに深めてようとする事ができた。	専門的な内容について、関心をもって理解し、学ぶ事ができた。	専門的な内容を学ぶ事ができた。	専門的な内容について一定程度理解することができた。	専門的な内容について理解できなかった。
知的障害教育に関する思考・判断・表現	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して積極的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで意欲的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで表現できた。	テーマに基づき、一部思考・判断し、個人やグループで表現できた。	テーマの受け止めが不十分で、思考・判断・表現が十分にできなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度・姿勢が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	知的障害教育 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 藤根 収)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、特別支援教育(知的障害教育)について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本 2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション - 授業改善アンケート結果反映の説明とシラバスの説明、知的障害教育について	教科書から「知的障害教育」についての課題を整理する。(90分)	課題についてノートに整理し、シラバスを確認すること。(90分)
2	知的障害教育の基礎知識、関係する法令・制度等教育基本法や学校教育法、学習指導要領等の理解について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
3	特別支援学校学習指導要領のポイントとカリキュラム・マネジメントについて	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
4	特別支援学校や特別支援学級における教育について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
5	知的障害教育の歴史的変遷 - 戦前・戦後の教育、学習指導要領等の変遷等について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
6	教育課程(1) - 教育課程編成上の基本事項と指導の形態について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
7	教育課程(2) - 各教科等の指導における授業づくりについて	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
8	教育課程(3) - 各教科等を合わせた指導における授業づくりについて	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
9	教育課程(4) - 自立活動の指導と個別の指導計画の作成について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
10	教育課程(5) - 学習指導案の作成と教材・教具の工夫、ICTの活用等	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
11	知的障害に関する理解(1) - 児童生徒理解と就学相談等の実際	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
12	知的障害に関する理解(2) - 発達検査の理解と活用	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
13	知的障害に関する理解(3) - 社会生活能力検査の理解と活用	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
14	知的障害に関する理解(4) - 知能検査の理解と活用	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する。(90分)
15	まとめと今後の課題 授業改善アンケートの実施	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。(90分)	重要な語句や内容を整理するとともにレポートを作成する。(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説する。)	教科書等で講義内容を整理する。(90分)	試験の結果を見直す。(90分)

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の授業づくり』	太田正己	黎明書房	2016	978-4-654-01929-8	
2	『特別支援教育の学習指導案と授業研究』	肥後祥治 ほか	ジアース教育新社	2013	978-4-86371-213-3	
3	『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)』	文部科学省	開隆堂出版	2018	978-4-304-04230-0	
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	金融論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小林 大州介		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 小林 大州介)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	基本的には事前調整による。もしくは、研究室前のボードを参照。				

概要

履修目標

昨今の世界経済における金融の役割は非常に大きくなっている。貿易額を見ても、実物取引よりも金融取引の方がはるかに規模が大きい。こうした金融のダイナミクスは取引の電子化により、世界経済の変転を加速しつつある。世界経済に大きな影響を与える金融のみかニズムについて、その歴史とシステムを良く理解し、今後の世界経済を分析する目を養う事を履修の目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のD P 1、DP 2に対応する。(2022年度)

到達目標

日本の金融システムを理解し、現状の世界経済を分析・説明出来る。

授業全体の内容と概要

1. 金融の歴史
2. 日本の金融
3. 金融システムの理解
4. 金融システムとマクロ経済学の関係の理解

授業の方法

パワーポイントによる講義・必要に応じて板書。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

本講義は教科書を使用せず、板書と配付資料によって行うので、必ず出席する事。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数11回。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
金融の歴史について	貨幣の発生から保険や株式、金融システムの成立に至る歴史や、日本の金融史を網羅的に把握している。	貨幣の発生から保険や株式、金融システムの成立に至る歴史を把握している。	貨幣の発生から金融システムの成立に至る歴史を把握している。	金融システムの成立について、把握している。	金融システムの成立について、理解が見られない。
金融システムについて	金融システムにおける銀行の役割、利子形成の問題、資産保有とリスクの問題などについて網羅的に理解している。	金融システムにおける銀行の役割、利子形成の問題、資産保有とリスクの問題などについて理解している。	金融システムにおける銀行の役割、利子形成の問題について網羅的に理解している。	金融システムにおける銀行の役割について理解している。	金融システムに関する理解が見られない。
金融とマクロ経済について	景気循環やインフレ、デフレ、バブルが生じる一般的なメカニズムなどに関して、網羅的に理解している。	景気循環やインフレ、デフレ、バブルが生じる一般的なメカニズムなどに関して理解している。	景気循環やインフレ、デフレに関して理解している。	金融と景気循環の関係を理解している。	金融と景気循環の関係に関して理解が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	金融論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小林 大州介		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2	(単位認定責任者: 小林 大州介)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	初回オリエンテーション:本講義の進め方 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを良く読み、金融に関するネットニュースや新聞を良く読んでおく。(90分)	今後のスケジュールをよく確認しておく。(90分)
2	「金融」とは何か	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく(90分)	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく(90分)。
3	金融システム発達の歴史	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく(90分)	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく(90分)。
4	日本の金融システム1:日本の金融史	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく(90分)	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく(90分)。
5	日本の金融システム2:日本の金融システム	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく(90分)	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく(90分)。
6	「貨幣」とは何か:交換と貯蔵	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく(90分)	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく(90分)。
7	資産と金融1:不確実性の回避手段としての金融	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく(90分)	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく(90分)。
8	資産と金融2:金融市場と資産価格	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく(90分)	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく(90分)。
9	銀行の役割と「利子」	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく(90分)	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく(90分)。
10	イノベーションと金融:資金はどこから来るのか?	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく(90分)	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく(90分)。
11	マクロ経済学から見た金融の役割1:金融と景気	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく(90分)	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく(90分)。
12	マクロ経済学から見た金融の役割2:マクロ経済システム	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく(90分)	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく(90分)。
13	バブル経済と金融:日本の経験を踏まえて	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく(90分)	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく(90分)。
14	昨今の金融ニュースを読む:日本と世界の情勢	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく(90分)	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく(90分)。
15	講義全体のまとめ	これまで講義で学んだ事を復習し、まとめておく(90分)	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく(90分)。
16	定期試験(60分)と試験の解説 授業改善アンケートの実施	試験の準備をする(90分)。	これまで講義で学んだ事を復習する(90分)。

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会心理学 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	松下 守邦(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松下 守邦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム(本科目)には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標
<p>社会心理学は私たちの日常生活をあつかう学問である。この授業では、「私たちが社会からどのような影響をうけているのか」、「私たちが社会をどのように理解しているのか」について学修する。</p> <p>・理解するためのアプローチは大きく2つがある。一人ひとりの人間の心の仕組みに関心に向ける「心理学的社会心理学」と、集団に関心をおいてマクロな構造や社会的変化をあつかう「社会的社会心理学」(中村陽吉:2006)である。</p> <p>・ここでは、社会的理解と心理学的理解の2つの観点から、社会意識、実験社会心理学の基礎を学ぶ。</p>

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP2、DP5に対応する。(2022年度)

到達目標

社会心理学の基本になる学術用語の説明ができる。
社会心理学の応用領域における日常生活について、概念である学術用語、理論等を用いて課題を把握して考察ができる。

評価基準の5指標は、履修目標をこえた(S)、履修目標をほぼ達成できた(A)、履修目標と到達目標の間であった(B)、到達目標をみたく、合格最低レベル(C)、到達目標に達することができなかった不合格(F)の段階的区分がある。成績分布目標は、履修状況により相対性と絶対性が勘案される規定があるので留意する。

授業全体の内容と概要

・「SDGs4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。
社会心理学における自己研究を学修する。日常生活において私たちの思考や行動が「適応的無意識」のなかで大量の情報処理を瞬時におこなっている、その情報の解釈過程について考察する。

授業の方法

・「授業の進行方法」: 授業の初回にて、文献精読の方法、学生分担報告について説明をおこなう。
・文献精読は埴野(大野鶴『日本語練習帳』岩波書店、1999)、三色線引き読み(露藤孝『三色ボールペンで読む日本語』角川書店、2005)、論理的な文章: 段落と全体の要旨把握(遠藤・渡辺:2021)の技法をもとに、プレゼンテーション、グループワーク、文献読解(下記、アクティブ・ラーニングの実施方法、その他)の授業構成になる。
・「使用教材」: 授業はテキスト、副教材(プリント資料、映像資料)を紹介しながら、自己研究についての社会心理学基礎を学修する。
・「課題に関する説明-課題に対するフィードバック」: 「要望等への対応方法」: 授業中の個別報告、授業のまとめレポートなど課題と要望等の質問相談には、随時、対応する。授業中、あるいは研究室オフィスアワー利用により、気軽に相談してほしい。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
履修学生は、文献精読、報告作業を担当する。
個別報告とレポート作成提出は、協同学習として役割と時間を遵守する。
大学から交付される学生メールアドレスを使い、マイクソフト社Teams科目チャネル、Formsを学修利用する。パソコンスキル(レポート作成、準備学修の確認、教員への授業外連絡など、情報通信機器利用マナー)を高めていく。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
高校教育までの支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら科目サポートを進めるので、授業開始前に授業者へ相談してほしい。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件
<p>・単位認定に必要な最低出席要件は11回(全授業回数2/3以上)である。 ・文献精読の分担報告(本文、ソースノートの要旨をまとめる。新しい知見、学術用語等について、例をあげて説明記述する)をおこなう。学修のまとめとしてレポート作成提出する。テキストに各自が線を引き、書き込みながら読み込む「アクティブ・リーディング」、実践確認のため、各自、テキスト作業後、提出準備をすすめる。</p>

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	40%	60%	0%	0%	0

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
修得した知識を使い、収集した情報を分析し、理解することができる。情報分析力としての知識・技能	文献の要旨をていねいにまとめることができ、理解することができる。新しく学ぶことについて、複数の例をあげながら、自分の言葉で説明した。	文献の要旨をまとめており、これまでの学修内容のいくつかを関連づけていた。新しく学ぶことについて、自分の言葉で例をあげて説明した。	文献の要旨をまとめており、新しく学ぶことについて、自分の言葉で説明した。	文献の要旨は、改善の余地があるが、まとめている。新しく学ぶことについて、証明することが難しく、情報分析の知識・技能の修得ができなかった。	文献の要旨をまとめる作業が難しく、新しく学ぶことについて、証明することが難しく、情報分析の知識・技能の修得ができなかった。
収集した情報を分析して課題を発見し、客観的立場から成果を論理的に表現することができる。思考力・判断力・表現力	課題に関連して、信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら表現をした。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、適切な手書きで引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら表現をした。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら表現をした。	課題に関連して、改善の余地があるが、文献資料を適切に引用した。新しく学ぶことは、充分ではないが、これまでのものを関連づけて表現をおこなうことができた。	課題に関連して、文献資料を選び、引用すること、新しく学ぶことを表現することが難しく、思考力・判断力・表現力の修得がなかった。
大学の学修環境を創造するメンバーとして自覚し、自分の意見と異なる意見を統合させながら、学修経験を高めていこうとする。関心・意欲・態度	大学生としての役割と責任を自覚し、積極的・協同的に行動することができた。	大学生として役割は、おおむね理解しており、行動することができた。	大学生として自分の役割は、基本的な行動をすることができた。	大学生として自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	大学生として自分の役割を、自ら理解して行動することが難しく、関心・意欲・態度を示すことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会心理学 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	松下 守邦(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松下 守邦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『選択の科学』	S・アイエンガー/櫻井祐子訳	文藝春秋	2014	9784167901554	文春文庫S13-1
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『自分とは何か・「自我の社会学」入門』	船津 衛	恒星社厚生閣	2011	9784769912415	
2	『選択日記』	S・アイエンガー	文藝春秋	2012	9784163756004	
3	『THINK BIGGER』	S・アイエンガー	NewsPicksパブリッシング	2023	9784910063348	
4	『新 心理学的社会心理学』	中村陽吉	ブレーン出版	2006	9784892428401	
5	『現代文解釈の基礎』	遠藤嘉基・渡辺実	筑摩書房	2021	9784480510730	

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスと前年度本科目、授業改善アンケート結果反映の説明をおこなう。報告役割分担を確認する。	シラバスを熟読する(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
2	自我の3側面(C・H・クーリー)、「人間の自我は、他の人間の認識や評価を想像し、それによって生じる自己感情からなっている」(船津衛)	配布資料を読んで予習をする。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
3	運命、偶然と選択、自分自身、自分の置かれた環境とセルフ・コントロール、自己決定権の自己認識	テキスト第1講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
4	宗教と幸福度、個人主義的文化と集団主義的文化の自己認識	テキスト第2講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
5	恋愛結婚と取り決め婚、日本人とアメリカ人の自己認識	テキスト第2講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
6	バーナム効果、認知不協和、就職活動の自己認識	テキスト第3講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
7	他者の自己評価、多面評価とフィードバック、社会資本の変化とエコーチェンバー効果をもたらす自己認識	テキスト第3講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
8	マシュマロテスト、ヒューリスティック、提示方法バイアス、確認バイアス、感情の自己認識	テキスト第4講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
9	視覚文化、流行、単純接触効果、広告と自己認識	テキスト第5講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
10	プライミング、投票行動と自己認識	テキスト第5講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
11	選択条件、選択行動、マジカルナンバー、ロングテールと自己認識	テキスト第6講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
12	退職金積立制度、医療保険制度、選択の多様性、選択の飽和と自己認識	テキスト第6講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
13	医療における治療方針の選択行動、父権主義、絶対的価値、相対的価値と自己認識	テキスト第7講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
14	選択的決定、非選択的決定、心理的反発、アクラシア、自己決定の委譲と自己認識	テキスト第7講 - を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
15	三元(選択、偶然、運命)の連立、直感、熟考、選択死と自己認識	テキスト最終講の予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
16	自己研究の心理学的理解と社会学的理解の総括 授業改善アンケートの実施	これまでのテキスト、資料、視覚教材の学習内容を整理する。(90分)	全授業を振り返り、学習内容の内容的レポートを期日までに提出する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年 経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際政治論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

国際社会の抱える諸問題の現状と歴史および国際政治を把握するための基礎的な理論を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP2、DP5に対応する。(2023・2022年度)
経営学科のDP2に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

国際政治の歴史的な展開を理解し説明することができる。
国際政治に関する理論を理解し説明することができる。
国際政治の理論を用いて国際社会の諸問題を考察することができる。

授業全体の内容と概要

国境を越えたモノ、カネ、ヒトの自由移動の進展に伴い、今日、世界の国々はますます相互に依存し合うようになっている。この授業では、国際社会が抱える諸問題について、歴史的な経緯と国際政治の理論をもとに学んでいく。
「SDG1.貧困をなくそう」、「SDG10.人や国の不平等をなくそう」、「SDG16.平和と公正をすべての人に」の関連授業

授業の方法

授業は講義形式で行う。書き込み式のレジュメを配布して補足の説明を行う。
書き込む内容は板書またはパワーポイントで示す。
教科書を使用しないので講義をしっかりと聴いてメモをとること。
毎回の感想・質問等を記入するリアクションペーパーを配布し、次回授業時にフィードバックを行う。
TeamsやFormsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業中の私語、スマホの使用は厳禁。受講マナーを守ること。
正当な理由のない20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(社会)の選択科目、教職課程(公民)の必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
国際政治の歴史的な展開を理解し説明することができる。	国際政治の歴史的な展開を発展的に理解し、説明することができた。	国際政治の歴史的な展開を正確に理解し、説明することができた。	国際政治の歴史的な展開をある程度理解し、説明することができた。	国際政治の歴史的な展開を理解し、説明することができた。	国際政治の歴史的な展開を理解し、説明することができなかった。
国際政治に関する理論を理解し説明することができる。	国際政治に関する理論を発展的に理解し、説明することができた。	国際政治に関する理論を正確に理解し、説明することができた。	国際政治に関する理論をある程度理解し、説明することができた。	国際政治に関する理論を理解し、説明することができた。	国際政治に関する理論を理解し、説明することができなかった。
国際政治の理論を用いて国際社会の諸問題を考察することができる。	国際政治の理論を用いて国際社会の諸問題を発展的に考察することができた。	国際政治の理論を用いて国際社会の諸問題を十分に考察することができた。	国際政治の理論を用いて国際社会の諸問題をある程度考察することができた。	国際政治の理論を用いて国際社会の諸問題を考察することができた。	国際政治の理論を用いて国際社会の諸問題を考察することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年 経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際政治論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						なし。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜紹介する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	配布資料の整理・再読(90分)
2	国際関係の成立	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布資料の整理・再読(90分)
3	第一次世界大戦	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布資料の整理・再読(90分)
4	第二次世界大戦 ヨーロッパ	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布資料の整理・再読(90分)
5	第二次世界大戦 アジア	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布資料の整理・再読(90分)
6	冷戦の始まり	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布資料の整理・再読(90分)
7	冷戦の展開	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布資料の整理・再読(90分)
8	冷戦後の国際政治 湾岸戦争	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布資料の整理・再読(90分)
9	冷戦後の国際政治 9・11アメリカ同時多発テロ	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布資料の整理・再読(90分)
10	日米関係の歴史	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布資料の整理・再読(90分)
11	国際政治理論からみた日米関係	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布資料の整理・再読(90分)
12	東アジアの国際情勢(朝鮮半島)	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布資料の整理・再読(90分)
13	東アジアの国際情勢(中国)	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布資料の整理・再読(90分)
14	国際政治の理論	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布資料の整理・再読(90分)
15	授業のまとめ 授業改善アンケートの実施	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布資料の整理・再読(90分)
16	定期試験(試験60分+解説30分)	試験の準備(90分)	試験のふり返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年、経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際経済論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学部・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

経済・国際経済の基礎となる理論を学び、日本経済・国際経済の動き(特に要因)を把握し、政治動向やその他の状況変化等を考慮することにより、将来の日本社会及び国際情勢を展望できるようにする。日本経済の他国への影響、他国経済の日本社会への影響を考えつつ、グローバル化した経済が我々の日々の生活に大きく関わっていることを理解できるようにする。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP2、DP3に対応する。(2023・2022年度)
経営学科のDP2、DP3に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

国際経済の修学基礎として、需要と供給、財政政策、金融政策を理解する。
国際経済の中心となる代表的な貿易理論、外国為替理論を理解する。
地域の経済統合に関するFTA・EPAの理解と共に、APEC・EUの経済統合の大枠を理解する。

授業全体の内容と概要

グローバル化の進展と瞬時に変化する国際情勢を念頭に、講義前半は経済学の基礎・基本理論の理解を深めることに集中する。講義後半では、貿易、外国為替、国際経済システム、経済統合(EU・ユーロ圏)の課題を考察すると共に、時事問題を通して世界経済の課題と解決策を探っていく。
*SDG10「人や国の不平等をなくそう」の関連授業

授業の方法

授業のポイントを記したレジュメ(プリント)をteamsのファイルに格納するので自身でプリントアウトするか、端末を持参して授業に臨む。
開始5～10分は、前回の復習を口頭試問形式で行う。その後は、パワーポイントを使用し、レジュメの空き行間に重要・理解できた事項をメモする形の講義形式をとる。理解度の確認のため随時問いかけをさせてもらう。質問には随時対応する。
復習を兼ねて、授業中のメモと書籍などを参考にノートにまとめることを推奨する。
中間試験(論述)を採点后返却する際、解答の仕方など個別に指導する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業中の積極性(質問、質問への解答など)は、その場で確認することで成績に反映させる。
遅刻3回で欠席1回とみなす。
尚、不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。その他、個別案件に対しては要相談。

資格指定科目

中学校教諭一種免許状(社会)、高等学校教諭一種免許状(地理歴史・公民)

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10/15回以上(16回目は定期試験)。
積極的な授業参加(発言する、質問する、回答する、メモを取る、など)を平常点とする。
論述の中間試験と定期試験、平常点の総計で単位認定を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	20%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経済政策の基礎理論を理解する。	どの国の経済政策が、どの国に、日本経済に影響を及ぼすのか、その要因を説明することができた。	日本の経済状況と経済政策の関連を説明することができた。	総需要と総供給の関連を理解できた。	財政政策、金融政策の主体と方法を理解することができた。	財政政策、金融政策の主体と方法を理解することができなかった。
貿易と外国為替について理解できた。	主要国の経済政策と貿易・外国為替との因果関係をその要因から説明することができた。	経済政策と貿易・外国為替との関係を説明することができた。	貿易と外国為替の因果関係を説明することができた。	貿易および外国為替の仕組みを理解することができた。	貿易および外国為替の仕組みを理解することができなかった。
地域の経済統合について理解できた。	EUの経済統合のメリットとデメリットを説明することができた。	経済統合の深化として、通関手と通関士を説明することができた。	貿易を主とした経済統合のメリットとデメリットを説明することができた。	自由貿易の考えから地域経済統合の必要性を説明することができた。	自由貿易の考えから地域経済統合の必要性を説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年、経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際経済論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学部・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション、授業改善アンケート結果反映の説明(シラバスの説明を含む)と市場メカニズムについて	シラバスの読み込みと価格メカニズムを調べてくる(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
2	総需要と総供給(GDP、GNI、など)及び景気	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
3	経済活動と物価(インフレーションとデフレーション)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
4	財政政策(政府の役割を含む)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
5	金融政策(中央銀行の役割・機能を含む)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
6	ポリシー・ミックス(財政政策と金融政策)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	今回のノートをまとめるとともに中間試験のため見直しを行う(90分) 中間試験のため見直しを行う(90分)
7	経済学の基本的考え方についての復習と中間テスト(小試験)	中間試験の準備をする(90分)	自身の解答を振り返る(90分)
8	貿易理論(比較優位など)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	今回のノートをまとめるとともに自身の課題克服の方法を考える(90分)
9	外国為替理論(中央銀行のスタンスなど)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
10	貿易と外国為替(為替リスク、多国籍企業の行動)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
11	ブレトンウッズ体制(IMF、世界銀行、GATT、WTO、変動相場制など)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
12	経済統合 (FTA・EPA、ASEAN、TPP、APEC、EU、など概要)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
13	経済統合 (統合の深化およびメリットとデメリット)	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
14	欧州通貨統合とユーロの課題	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
15	まとめとして経済統合とポリシー・ミックス 授業改善アンケートの実施	ポリシー・ミックスを復習してくる(90分)	定期試験に向け自身のノートの最終チェックを行う(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、試験のポイントを解説)	定期試験の準備をする(90分)	試験の振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	倫理学概論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	尾崎 有紀(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 尾崎 有紀)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室で対応。				

概要

履修目標

規範倫理学の主要な立場である義務論と功利主義の考え方について学ぶ。また、現代的なトピックに照らしてこれらの考え方をみずから評価することで、みずからの価値観や人間観を構築する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)
 社会福祉学科のDP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)
 社会福祉学科のDP3、DP4、DP5、DP6に対応する。(2021年度)

到達目標

規範倫理学の主要な立場である義務論と功利主義の考え方を理解し、具体的なケースに照らして各立場の考え方についてのみずからの見解を述べ他者と議論することができる。

授業全体の内容と概要

過去の倫理思想を紹介しながら、学生自身が主体的に価値観や人間観を構築していく。
 「SDGs17. パートナリシップで目標を達成しよう」の関連授業

授業の方法

規範倫理学の概要を講義形式で説明する。また、講義内容について自らの知識として定着が図れるよう、レポート作成やグループディスカッション等を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・レポート課題の進め方等については、その都度指示する。
- ・配布する講義資料を活用し、講義内容の理解に努めること。
- ・不測の事態が起きた際には、オンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位の認定に必要な最低出席回数は11回。定期試験(期末試験)は行わないが、数回のレポート課題(グループディスカッション課題を含む)に対するレポートの論理構成と内容、講義期間中に行う中間テストの結果などを総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	0%	20%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
規範倫理学における各立場の考え方の理解	各立場の基本的な考え方を深く理解でき、みずからの実践に役立てられた。	各立場の基本的な考え方を深く理解できた。	各立場の基本的な考え方をよく理解できた。	各立場の基本的な考え方を理解できた。	各立場の基本的な考え方を理解できなかった。
具体的なケースにおける道徳的判断の考察	具体的なケースのみずから考え、そこにおける道徳的判断について考察できた。	与えられた具体的なケースにおける道徳的判断について深く考察できた。	与えられた具体的なケースにおける道徳的判断についてよく考察できた。	与えられた具体的なケースにおける道徳的判断について考察できた。	与えられた具体的なケースにおける道徳的判断について考察できなかった。
ディスカッションとグループワークにおける発表	ディスカッションとグループワークにおいて中心的役割を演じた。	ディスカッションとグループワークにおいて積極的に質の高い発表ができた。	ディスカッションとグループワークにおいて積極的に発表できた。	ディスカッションとグループワークにおいて発表できた。	ディスカッションとグループワークにおいてほとんど発表できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	倫理学概論 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	尾崎 有紀(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 尾崎 有紀)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『道徳形而上学原論』	カント	岩波書店	1960	4-00-336251-9	
2	『功利主義』	J. S. ミル	岩波書店	2021	978-4003900048	
3	『科学者の社会的責任』	藤垣裕子	岩波書店	2018	978-4-00-029679-3	
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。授業改善アンケート結果の反映の説明。 イントロダクション：因果関係と自由	シラバスを読む(90分)	第1回講義の復習(90分)
2	ケーススタディ：トロッコ問題	第1回講義の復習と第2回講義の予習(90分)	第2回講義の復習(90分)
3	カントの義務論(1)：義務と傾向性	第2回講義の復習と第3回講義の予習(90分)	第3回講義の復習(90分)
4	カントの義務論(2)：自律と他律	第3回講義の復習と第4回講義の予習(90分)	第4回講義の復習(90分)
5	カントの義務論(3)：定言命法と仮言命法	第4回講義の復習と第5回講義の予習(90分)	第5回講義の復習(90分)
6	全体討論(1)	第5回講義の復習と第6回講義の予習(90分)	第6回講義の復習(90分)
7	ケーススタディ：ミニョネット号事件	第6回講義の復習と第7回講義の予習(90分)	第7回講義の復習(90分)
8	功利主義(1)：J. ベンサムの「最大多数の最大幸福」	第7回講義の復習と第8回講義の予習(90分)	第8回講義の復習(90分)
9	功利主義(2)：J. S. ミルの質的功利主義	第8回講義の復習と第9回講義の予習(90分)	第9回講義の復習(90分)
10	全体討論(2)	第9回講義の復習と第10回講義の予習(90分)	第10回講義の復習(90分)
11	R. ノージックの自由至上主義	第10回講義の復習と第11回講義の予習(90分)	第11回講義の復習(90分)
12	J. ロールズの正義論	第11回講義の復習と第12回講義の予習(90分)	第12回講義の復習(90分)
13	科学倫理(1)：科学者の社会的責任	第12回講義の復習と第13回講義の予習(90分)	第13回講義の復習(90分)
14	科学倫理(2)：ラッセル=アインシュタイン宣言とバグワットシュ会議	第13回講義の復習と第14回講義の予習(90分)	第14回講義の復習(90分)
15	科学倫理(3)：責任概念の現代的分析	第14回講義の復習と第15回講義の予習(90分)	第15回講義の復習(90分)
16	課題(レポート)に対するフィードバック 授業改善アンケートの実施	第15回講義の復習(90分)	第16回講義の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目		対象学科・配当	社会福祉学科・経営学科・デザイン学科・建築		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	社会福祉施設の人事・ (科目ナンバリング:)					
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)・市内包括連携施設職員ほか	研究室等所在	1号館2階			
単位数	1 (単位認定責任者: 上原 正希)	CAP制				
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえて講義を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

- 福祉施設などの経営を取り巻く環境について理解する。
- 社会福祉法人・施設が地域共生社会づくりのイニシアチブをとりかたについて理解する。
- 多様で複合的な課題に対応できる総合性や専門性について理解する。
- 組織の力を最大限に引き出すうえでの、福祉施設長のマネジメントについて理解する。
- 課題の解決に向けて、経営に生かせる実践力を理解する。

授業の位置づけ

全学科のDP3、DP4、DP5に対応する(2021年)。

到達目標

- 福祉施設などの経営を取り巻く環境について理解することができる。
- 社会福祉法人・施設が地域共生社会づくりのイニシアチブをとりかたについて理解することができる。
- 多様で複合的な課題に対応できる総合性や専門性について理解することができる。
- 組織の力を最大限に引き出すうえでの、福祉施設長のマネジメントについて理解することができる。
- 課題の解決に向けて、経営に生かせる実践力を理解することができる。

授業全体の内容と概要

- 福祉施設などの経営を取り巻く環境について学ぶ。
- 社会福祉法人・施設が地域共生社会づくりのイニシアチブをとりかたについて学ぶ。
- 多様で複合的な課題に対応できる総合性や専門性について学ぶ。
- 組織の力を最大限に引き出すうえでの、福祉施設長のマネジメントについて学ぶ。
- 課題の解決に向けて、経営に生かせる実践力を学ぶ。
- 社会福祉施設の施設長など職員からお話を聞く授業等で学ぶ。
- 「SDG3.すべての人に健康と福祉を」「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

- 授業形態は基本は「講義及び演習形式」であるが、グループで話し合うなどの作業を行うこともある。
- 適宜質問を促し、質問に対応する。
- 自然災害等などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。
- 社会福祉施設の施設長などの職員からお話を聞く授業等がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- 教員や学生が板書した内容や演習で話し合った内容、フィードバックなどもある授業であるので、しっかりとノートに写し、毎回の授業後にノートの整理をする。
- 適宜質問に対応する。
- 自然災害等などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。
- 社会福祉施設の施設長や職員からお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

サブメジャープログラム(知識拡大講座 社会福祉施設経営者養成プログラム)

評価方法・基準

評価前提条件

- 必要な資料等は適宜配布する。
- 授業は8回ですので、最低5回は出席しなければ評価はできません。
- その他については、出席状況と質問や発言、グループワークなどの活動状況で80%、20%はレポートで評価する。
- 成績評価分布の目標について「S」は履修者の10%以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の40%以内とする。但し、履修者が10人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする(絶対評価と相対評価を併用する)。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	0%	80%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。	社会福祉士の職域と求められる役割について、理解を深めた。	社会福祉士の職域と求められる役割について、ほぼ理解を深めた。	社会福祉士の職域と求められる役割について、やや理解を深めた。	社会福祉士の職域と求められる役割について、理解することができた。	社会福祉士の職域と求められる役割について、理解することができなかった。
ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、理解を深めた。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、ほぼ理解を深めた。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、やや理解を深めた。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、理解することができた。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、理解することができなかった。
ミクロ・メソ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。	ミクロ・メソ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、理解を深めた。	ミクロ・メソ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、ほぼ理解を深めた。	ミクロ・メソ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、やや理解を深めた。	ミクロ・メソ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、理解することができた。	ミクロ・メソ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、理解することができなかった。
総合的かつ包括的な支援について理解する。	総合的かつ包括的な支援について、理解を深めた。	総合的かつ包括的な支援について、ほぼ理解を深めた。	総合的かつ包括的な支援について、やや理解を深めた。	総合的かつ包括的な支援について、理解することができた。	総合的かつ包括的な支援について、理解することができなかった。
多職種連携の意義と内容について理解する。	多職種連携の意義と内容について、理解を深めた。	多職種連携の意義と内容について、ほぼ理解を深めた。	多職種連携の意義と内容について、やや理解を深めた。	多職種連携の意義と内容について、理解することができた。	多職種連携の意義と内容について、理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・経営学科・デザイン学科・建築		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会福祉施設の人事・ (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)・市内包括連携施設職員ほか	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 上原 正希)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえて講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『別途指示します』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『別途指示します』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(授業改善アンケート結果反映及びシラバスの説明)、これからの社会福祉法人・施設の役割と経営のあり方	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
2	・今日の社会福祉施設長に求められるものとは ・社会福祉施設の経営管理	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
3	・社会福祉施設におけるサービスの質と権利擁護 ・社会福祉施設のサービス管理	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
4	・地域共生社会の実現における社会福祉施設の役割と実践	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
5	・社会福祉施設の財務管理	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
6	・社会福祉施設の人事労務管理	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
7	・社会福祉施設におけるリスクマネジメント ・レポート課題課題の発表	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
8	・レポート提出 ・授業改善アンケートの実施 ・まとめ(事例研究)及びレポートに対するフィードバック	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神医学と精神医療 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	伊東 隆雄(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊東 隆雄(社会福祉学科・非常勤講師))	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健指定医、精神科専門医として、大学病院や総合病院精神科での豊富な臨床経験に基づいて、授業を展開する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標	精神医学の歴史や現状を理解する。脳および神経の解剖と生理を理解する。さらに、代表的な精神疾患を理解し、精神を病む人間存在を支援するための福祉の理念を論じる。
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP1、DP2、DP9に対応する。(2021年度)
到達目標	1. 精神医学、精神医療の歴史を説明する。2. 脳および神経の生理・解剖の基礎を説明する。3. 代表的な精神障害について説明する。

授業全体の内容と概要	精神保健福祉士の業務に必要な精神医学の知識の理解、とくに主要な精神疾患の症状、経過、治療等についての理解を深める。
------------	---

授業の方法	講義形式で各授業を進行する。教科書の概説および毎回、関連する資料を配布し説明する。適宜グループワークやディスカッションを行い理解を深める。授業の冒頭において、前回のまとめを行う。わからない部分については質問を受け付ける。
-------	--

アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>プレゼンテーション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>グループワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>フィールドワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>模範授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロールプレイ</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>調査学習</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>実験・実習・実技</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>双方向授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL	<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL																		
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業																		
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)																		

履修上の注意事項	必ず予習をして、積極的に質問して、わからないことをその場できちんと理解してほしい。授業の冒頭で前回のまとめを行う。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
----------	--

修学サポート(合理的配慮)	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。筆記試験で規定の成績を得たもの。												
評価方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	100%	0%	0%	0%	0%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他								
100%	0%	0%	0%	0%	0%								

ルーブリック	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>精神医学の歴史についての理解が目標のレベルを達成しているか。</td> <td>精神医学、精神医療の歴史を、批判的に考察して、支援のあり方について説明できた。</td> <td>精神医学、精神医療の歴史から、支援のあり方を説明できた。</td> <td>精神医学、精神医療の歴史の詳細を説明できた。</td> <td>精神医学、精神医療の歴史の概要を説明できた。</td> <td>精神医学、精神医療の歴史を説明できなかった。</td> </tr> <tr> <td>脳や神経の解剖学と生理学の理解が目標のレベルを達成しているか。</td> <td>脳の解剖学と生理学について理解し、精神症状との関連を説明できた。</td> <td>脳の解剖学と生理学について理解し、精神疾患の病態を説明できた。</td> <td>脳の解剖学と生理学についての基本的な知識について説明できた。</td> <td>脳の解剖学についての基礎的な知識を説明できた。</td> <td>脳の解剖学について説明できなかった。</td> </tr> <tr> <td>代表的な精神疾患についての理解が目標のレベルを達成しているか。</td> <td>代表的な精神疾患の原因、診断、治療および福祉的支援のあり方について説明できた。</td> <td>代表的な精神疾患の原因、診断、治療の詳細について説明できた。</td> <td>代表的な精神疾患の診断と治療の概要について説明できた。</td> <td>代表的な精神疾患の概要について説明できた。</td> <td>代表的な精神疾患について説明できなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	精神医学の歴史についての理解が目標のレベルを達成しているか。	精神医学、精神医療の歴史を、批判的に考察して、支援のあり方について説明できた。	精神医学、精神医療の歴史から、支援のあり方を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史の詳細を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史の概要を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史を説明できなかった。	脳や神経の解剖学と生理学の理解が目標のレベルを達成しているか。	脳の解剖学と生理学について理解し、精神症状との関連を説明できた。	脳の解剖学と生理学について理解し、精神疾患の病態を説明できた。	脳の解剖学と生理学についての基本的な知識について説明できた。	脳の解剖学についての基礎的な知識を説明できた。	脳の解剖学について説明できなかった。	代表的な精神疾患についての理解が目標のレベルを達成しているか。	代表的な精神疾患の原因、診断、治療および福祉的支援のあり方について説明できた。	代表的な精神疾患の原因、診断、治療の詳細について説明できた。	代表的な精神疾患の診断と治療の概要について説明できた。	代表的な精神疾患の概要について説明できた。	代表的な精神疾患について説明できなかった。
評価項目	評価基準																													
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																									
精神医学の歴史についての理解が目標のレベルを達成しているか。	精神医学、精神医療の歴史を、批判的に考察して、支援のあり方について説明できた。	精神医学、精神医療の歴史から、支援のあり方を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史の詳細を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史の概要を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史を説明できなかった。																									
脳や神経の解剖学と生理学の理解が目標のレベルを達成しているか。	脳の解剖学と生理学について理解し、精神症状との関連を説明できた。	脳の解剖学と生理学について理解し、精神疾患の病態を説明できた。	脳の解剖学と生理学についての基本的な知識について説明できた。	脳の解剖学についての基礎的な知識を説明できた。	脳の解剖学について説明できなかった。																									
代表的な精神疾患についての理解が目標のレベルを達成しているか。	代表的な精神疾患の原因、診断、治療および福祉的支援のあり方について説明できた。	代表的な精神疾患の原因、診断、治療の詳細について説明できた。	代表的な精神疾患の診断と治療の概要について説明できた。	代表的な精神疾患の概要について説明できた。	代表的な精神疾患について説明できなかった。																									

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神医学と精神医療 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	伊東 隆雄(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊東・隆雄(社会福祉学科・非常勤講師))	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健指定医、精神科専門医として、大学病院や総合病院精神科での豊富な臨床経験に基づいて、授業を展開する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座 第1巻 精神医学と精神医療』	日本精神保健福祉士養成校協会=編纂	中央法規出版	2021年	978-4-8058-8252-8	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 オリエンテーション・シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと (90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
2	代表的な精神障害 成人の人格および行動の障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
3	代表的な精神障害 精神遅滞	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
4	代表的な精神障害 心理的発達障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
5	代表的な精神障害 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害および特定不能の精神障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
6	代表的な精神障害 神経系の疾患(てんかんを含む)	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
7	治療法 身体的療法 薬物療法とその副作用	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
8	治療法 身体的療法 電気ショック療法	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
9	治療法 精神療法	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
10	治療法 環境・社会療法	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
11	治療法 精神科リハビリテーション	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
12	病院精神医療(身体合併症医療、インフォームドコンセントを含む)	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
13	精神科救急医療(インフォームドコンセントを含む)	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
14	地域精神医学	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
15	まとめ	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
16	定期試験 60分の試験終了後、残りの30分で解説 授業改善アンケートの実施	試験に備えて講義全体のふりかえりを行うこと(90分)	試験および解説を受けて講義全体をふりかえり理解を深めること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)、 西野 克俊(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標

精神保健福祉士に必要な専門的知識・技術・実践ができる。
記録や報告書等の作成能力を高め、実践現場で適用する社会性・主体性を身につけて実践できる。
福祉実践者として自己覚知を深め、対象者理解と地域での生活支援について理解できる。

授業全体の内容と概要

総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶ。
個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により学ぶ。
「SDGs「すべての人に健康と福祉を」の関連科目

授業の方法

個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。
教科書および配布資料を使用し、ポイントとなるべき箇所は説明、板書を行う。
質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。
Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。
基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教科書は毎回持参すること。
演習は、自分で考え実践すること、また、仲間と協同して取り組むことが重要であることから、積極的な発言や参加を求める。
講義、演習を含めた形態とするが、施設見学や外部講師等による講義等も実施予定である。学生である前提に社会人としてのマナーを意識し、日頃の自らの言動に気を付けて行動すること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。成績は、レポート(50点)、平常点(50点)で総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を概ね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について概ね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを概ね説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)、 西野 克俊(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新 精神保健福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習「精神専門」』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021	978-4-8058-8258-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(授業内容・シラバスの説明) 授業改善アンケート結果反映の説明	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	復習・資料整理を行うこと(90分)
2	退院支援・地域移行・定着支援に関する考察	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	復習・資料整理を行うこと(90分)
3	退院支援・地域移行・定着支援に関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	復習・資料整理を行うこと(90分)
4	地域精神保健に関する考察	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	復習・資料整理を行うこと(90分)
5	地域精神保健に関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	復習・資料整理を行うこと(90分)
6	精神科リハビリテーションに関する考察	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	復習・資料整理を行うこと(90分)
7	精神科リハビリテーションに関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	復習・資料整理を行うこと(90分)
8	インテーク・アセスメント・プランニングに関する考察	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	復習・資料整理を行うこと(90分)
9	インテーク・アセスメント・プランニングに関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	復習・資料整理を行うこと(90分)
10	インターベンション・モニタリング・エバリュエーションに関する考察	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	復習・資料整理を行うこと(90分)
11	インターベンション・モニタリング・エバリュエーションに関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	復習・資料整理を行うこと(90分)
12	ケアマネジメントに関する考察	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	復習・資料整理を行うこと(90分)
13	ケアマネジメントに関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	復習・資料整理を行うこと(90分)
14	チームアプローチに関する考察	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	復習・資料整理を行うこと(90分)
15	チームアプローチに関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	復習・資料整理を行うこと(90分)
16	まとめ(具体的習得知識・技術)	授業を振り返り学習内容をまとめておくこと(90分)	復習・資料整理を行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)、 西野 克俊(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実践経験がある教員がその経験を活かして、基礎能力・技術等を実践的に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標
<p>ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について理解する。 精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的なかつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p>

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2021年度)

到達目標
精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

授業全体の内容と概要
障害福祉サービス事業所や行政機関等、及び精神科病院等の医療機関理解のための個別指導及び集団指導を受ける。 精神保健福祉領域における精神保健福祉士の倫理・責務・義務理解のための個別指導及び集団指導を受ける。 「SDGs「すべての人に健康と福祉を」の関連科目

授業の方法
個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。 教科書および配布資料を使用し、ポイントとなるべき箇所は説明、板書を行う。 質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。 Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。 基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td>○</td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業															
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
精神保健福祉援助実習指導 を修了していることを前提とする。 テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとすべき箇所は説明、板書を行う。 Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	0%	0%	100%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	0%	0%	100%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を越えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td>精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の発展的な知識を概ね理解できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・考察力</td> <td>精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。</td> <td>精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について概ね考察できた。</td> <td>精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。</td> <td>精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。</td> <td>精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。</td> </tr> <tr> <td>主体性・情意</td> <td>精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明・表現できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを概ね説明・表現できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明・表現できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を概ね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。	思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について概ね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。	主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを概ね説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を概ね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。																								
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について概ね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。																								
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを概ね説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)、 西野 克俊(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実践経験がある教員がその経験を活かして、基礎能力・技術等を実践的に指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新 精神保健福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習「精神障害者支援」』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021	978-4-8058-8259-7	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバス説明	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
2	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
3	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
4	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
5	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
6	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
7	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
8	実習の評価全体総括会	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
9	実習の評価全体総括会	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
10	実習の評価全体総括会	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
11	実習の評価全体総括会	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
12	個別振り返り指導	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
13	個別振り返り指導	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
14	個別振り返り指導	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
15	個別振り返り指導	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
16	総まとめ	個人の振り返りをしておくこと(90分)	実習資料・日誌などの整理を行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育実践演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場において実務経験がある教員が、実際の保育現場の事例等を活用して、保育実践に必要な総合力を高める指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか自らの学びを振り返り把握する。保育実習等を通して理解した課題を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力が身につく。自己課題の明確化及び保育の実践に際して必要となる基礎的資質・能力が身につく。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP3、DP4、DP5、DP6、DP7、DP9に対応する。(2021年度)

到達目標

保育士として必要な専門的知識、技術、職業倫理観について振り返ることができる。保育実習後の自己課題に気づき、保育士に求められる資質・能力が何かを認識できる。

授業全体の内容と概要

保育士として必要な専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等の習得について振り返る。さらに、保育実習等体験学習を通して、自己課題を明確にして保育士に求められる資質・能力とは何かを認識する。「SDGs4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

演習を中心とした授業を行っていく中で、実際の保育現場の事例をあげ、子どもや保護者、保育者の様子をイメージしながら、一人ひとり学生の考える場となるように授業を進めていく。質問については随時対応する。レポートは解説し、フィードバックする。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="radio"/>	フィールドワーク	<input type="radio"/>	PBL
<input type="radio"/>	模擬授業	<input type="radio"/>	ロールプレイ	<input type="radio"/>	調査学習	<input type="radio"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="radio"/>	実験・実習・実技	<input type="radio"/>	双方向授業	<input type="radio"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席とレポート提出、発表・発言を重要視する。遅刻した場合、入室はできるが20分以上の遅刻は欠席となる。学外の保育現場等へ出向くこともあるため、社会人としてふさわしい態度を求める。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育の実践方法の基礎的知識・技能(何を知っているか、何ができるか)	保育実践について基礎的な知識を深く理解できた。	保育実践について基礎的な知識をおおむね理解できた。	保育実践について基礎的な知識を理解できた。	保育実践について基礎的な知識を多少理解できた。	保育実践について基礎的な知識を理解することができなかった。
思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	保育実践の基本を踏まえた保育内容の展開について十分に考察できた。	保育実践の基本を踏まえた保育内容の展開についておおむね考察できた。	保育実践の基本を踏まえた保育内容の展開について考察できた。	保育実践の基本を踏まえた保育内容の展開について多少考察できた。	保育実践の基本を踏まえた保育内容の展開について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	保育実習の振り返り及び保育実践を通して自己課題を明確にできた。	保育実習の振り返り及び保育実践を通して自己課題をおおむね明確にできた。	保育実習の振り返り及び保育実践を通して自己課題を理解できた。	保育実習の振り返り及び保育実践を通して多少自己課題を理解できた。	保育実習の振り返り及び保育実践を通して自己課題を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育実践演習 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉江 幸子)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場において実務経験がある教員が、実際の保育現場の事例等を活用して、保育実践に必要な総合力を高める指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 オリエンテーション 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
2	学びの振り返り 保育士の意義、役割についてグループ討論	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
3	学びの振り返り 保育士の職務内容、子どもに対する責任、倫理についてグループ討論	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
4	学びの振り返り 社会性、対人関係能力についてロールプレイ	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
5	学びの振り返り 子どもやその家庭の理解についてロールプレイ	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
6	学びの振り返り 職員間、関係機関との連携についてロールプレイ	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
7	学びの振り返り 保育や子育て家庭に対する支援の展開に関する討論	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
8	保育に関わる今日の社会的状況等課題に関するグループワーク 課題について	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
9	保育に関わる今日の社会的状況等課題に関するグループワーク 要因、背景について	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
10	保育に関わる今日の社会的状況等課題に関するグループワーク 課題解決の内容と方法	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
11	保育に関わる今日の社会的状況等課題に関するグループ発表、評価	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
12	これまでの学修を踏まえ、自己の課題の明確化	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
13	これまでの学修を踏まえ、目指す保育士像について明確化	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
14	自己の課題、保育士像に向けて取り組むべき具体的手段や方法の明確化	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
15	保育士としての資質、能力についての研究発表とまとめ	資料を読み、学習しておくこと。(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。(90分)
16	レポートに関する解説及びフィードバック 授業改善アンケートの実施	講義全体をおとして質問など整理しておく。(90分)	解説を受け、講義全体をふりかえること。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	北海道誌 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	塩崎 大輔(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標

身近な地域の地誌を学ぶことによって、その地域性を理解し、また地域を多面的多角的に議論する能力を身に付ける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP4、5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

1. 北海道の地域性を説明することができ、他地域の地域性を学ぶ力を身につける。
2. 地域をマイクロスケールからミクロスケールで見ること学び、多面的多角的な視点を養う。

授業全体の内容と概要

本授業では北海道と対象とし、その土地の地理的条件と人々の活動の関係を通して地誌学の基礎概念を身につけることを目標とする。また、北海道や市町村といったローカルな視点で地域を知ることにより、多面的多角的なモノの見方を習得する。まず北海道の自然条件と歴史に着目し、その地域性を俯瞰する。そして北海道の市町村レベルで地域の形成過程を見ていく。そうした中で近年スキーリゾート開発が進み、インバウンド観光が盛んとなった二世コエリアを対象とし、ミクロな地域の変容を解説する。
「SDG4.質の高い教育をみんなに」および「SDG11.住み続けられるまちづくりを」の関連科目。

授業の方法

授業は基本的に講義形式で行い、適宜課題に沿った作業を行う。スライド資料を中心に映像資料を交えながら講義を進める。また適宜国土地理院地理院地図などのWebGISを利用する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

講義内で適宜連絡する。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(社会・地理歴史)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	50%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
北海道誌の理解	レポート課題において、9割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、8割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、7割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができなかった。
地誌的記述	右の記述を高いレベルで実現できた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、北海道の地域性を深く考察することができた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、北海道の地域性を考察することができた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、北海道の地域性を考察することができた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、北海道の地域性を考察することができなかった。
情報収集・整理	右の記述を高いレベルで実現できた。	地域の情報を収集し、わかりやすく整理することができた。	地域の情報を収集し整理することができた。	地域の情報を収集することができた。	地域の情報を収集することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	北海道誌 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	塩崎 大輔(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、授業の内容・進め方・評価の仕方 ガイダンス、授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
2	北海道の地理的条件 気候と地形	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
3	北海道の地理的条件 土地成因	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
4	北海道の地理的条件 北海道の開発	レポート課題等を作成すること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
5	北海道とアイヌ文化	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
6	北海道の農業	レポート課題等を作成すること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
7	北海道の工業	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
8	北海道の商業	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
9	広域中心都市の形成	レポート課題等を作成すること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
10	港湾都市の形成と再開発	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
11	災害とまちづくり	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
12	自然環境の保全と共存	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
13	ニセコエリア -インバウンド観光と新たなまちづくり-	レポート課題等を作成すること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
14	ニセコエリア -土地利用変化-	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
15	ニセコエリア -近年のスキーリゾート開発-	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
16	まとめ、課題(レポートなど)の解説 授業改善アンケートの実施	まとめの準備。(90分)	まとめの振り返り。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本政治史 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

近現代日本政治外交の歴史的展開に関する基本的な知識を身につけ、説明することができる。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP 2、DP 8に対応する。(2021年度)

到達目標

近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を理解することができる。
 事実に基づいて日本政治外交史の展開を説明することができる。
 現代日本政治外交の論点を歴史的に考察することができる。

授業全体の内容と概要

本授業では、近現代日本政治外交の歴史的展開について解説する。とくに、戦争や植民地支配に関する事実と背景を、東アジア諸国との相互関係に配慮しながら解説していく。近代日本の政治と東アジア諸国との関係を学ぶことで現在の日本を取り巻く国際環境の成り立ちを理解するとともに、自国だけでなく他国の立場からもみた歴史を学ぶ。
 『SDGs10.人や国の不平等をなくそう』、『SDGs16.平和と公正をすべての人に』の関連授業。

授業の方法

授業は講義形式で行う。書き込み式のレジュメを配布して補足の説明を行う。
 書き込む内容は板書またはパワーポイントで示す。
 教科書を使用しないので講義をしっかりと聴いてメモをとること。
 毎回の感想・質問等を記入するリアクションペーパーを配布し、次回授業時にフィードバックを行う。
 TeamsやFormsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業中の私語、スマホの使用は厳禁、受講マナーを守ること。
 正当な理由のない20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。
 不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(社会・地理歴史)の選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を理解することができる。	近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を発展的に理解することができた。	近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を正確に理解することができた。	近現代日本の政治外交史に関する基礎事実をある程度理解することができた。	近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を理解することができた。	近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を理解することができなかった。
事実に基づいて日本政治外交史の展開を説明することができる。	事実に基づいて日本政治外交史の展開を発展的に説明することができた。	事実に基づいて日本政治外交史の展開を正確に説明することができた。	事実に基づいて日本政治外交史の展開をある程度説明することができた。	事実に基づいて日本政治外交史の展開を説明することができた。	事実に基づいて日本政治外交史の展開を説明することができなかった。
現代日本政治外交の論点を歴史的に考察することができる。	現代日本政治外交の論点を発展性をもって歴史的に考察することができた。	現代日本政治外交の論点を十分に歴史的に考察することができた。	現代日本政治外交の論点をある程度歴史的に考察することができた。	現代日本政治外交の論点を歴史的に考察することができた。	現代日本政治外交の論点を歴史的に考察することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本政治史 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						なし。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜紹介する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	配布資料の整理・再読(90分)
2	日本の近代化	授業中に示したキーワードを調べる(90分)	配布資料の整理・再読(90分)
3	近代日本と東アジア国際秩序	授業中に示したキーワードを調べる(90分)	配布資料の整理・再読(90分)
4	日清戦争と日露戦争	授業中に示したキーワードを調べる(90分)	配布資料の整理・再読(90分)
5	韓国併合	授業中に示したキーワードを調べる(90分)	配布資料の整理・再読(90分)
6	日本の植民地支配	授業中に示したキーワードを調べる(90分)	配布資料の整理・再読(90分)
7	対中21カ条要求をめぐる日本と中国	授業中に示したキーワードを調べる(90分)	配布資料の整理・再読(90分)
8	近代日本の政党政治	授業中に示したキーワードを調べる(90分)	配布資料の整理・再読(90分)
9	ワシントン体制と日本	授業中に示したキーワードを調べる(90分)	配布資料の整理・再読(90分)
10	満洲事変	授業中に示したキーワードを調べる(90分)	配布資料の整理・再読(90分)
11	日中戦争	授業中に示したキーワードを調べる(90分)	配布資料の整理・再読(90分)
12	アジア太平洋戦争	授業中に示したキーワードを調べる(90分)	配布資料の整理・再読(90分)
13	戦時下の人々	授業中に示したキーワードを調べる(90分)	配布資料の整理・再読(90分)
14	終戦過程	授業中に示したキーワードを調べる(90分)	配布資料の整理・再読(90分)
15	授業のまとめ 授業改善アンケートの実施	授業中に示したキーワードを調べる(90分)	配布資料の整理・再読(90分)
16	定期試験(試験60分+解説30分)	試験の準備(90分)	試験のふり返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会福祉事業史 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学部・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

福祉概念の変遷を時代背景と共に理解する。
 異々の時代背景と福祉の制度を含む社会システムの関連を理解する。
 第二次世界大戦後の我が国の福祉の変遷を理解する。
 現代の課題とソーシャルポリシーを結び付けることができるようになる。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP2, DP3, DP4, DP5, DP6, DP9, DP10に対応する。(2021年度)

到達目標

福祉に関する自身の考えを論理的に述べる力を獲得する。
 時代背景と社会の在り方を理解することから、社会の変化と福祉体制、福祉概念の変化と社会の在り方の関連性を理解する。
 ファシリテーターとしてグループワークを取りまとめることができる。

授業全体の内容と概要

学んできたことを基盤として、更なる福祉観の醸成を図る。
 1つのテーマを講義、グループワーク、プレゼンテーションを通して、背景(要因・理由)とその内容(考え方・概念)を論理的に考察する。
 現代の課題をテーマとした際は、社会背景(要因・理由)から解決策を考察する。
 『SDG3「すべての人に健康と福祉を」の関連授業。』

授業の方法

3コマを1パッケージとして(1.5コマ+3コマ=5パッケージ)展開する。
 1コマ目を講義、2コマ目は講義を基本にグループワーク、3コマ目はグループワークから結論等をプレゼンする。
 テマにより、3コマ目のプレゼンをディベートに置き換える。
 講義のポイントを記したレジュメ(プリント)をTeamsのファイルに格納するので自身でプリントアウトするか、端末を持参して授業に臨む。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

これまでに学んできたこと、例えば社会保障、社会福祉の原理と政策など、他の授業との関わりに注意する。
 授業中の積極性(質問、質問への回答、課題提供、ファシリテーションなど)は、その場で確認することで成績に反映させる。
 遅刻3回で欠席1回とみなす。
 尚、不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
 講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。その他、個別案件に対しては要相談。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回/15回以上
 積極的な発言・質問・回答、課題提供、ファシリテーション、プレゼンテーションなどと、平常点(授業への真摯な取り組み)の総計で単位認定を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	20%	80%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉に関する自身の考えを論理的に述べる事ができた。	自身の福祉観を構築することができた。	論理性に時代背景、社会背景が含まれていた。	福祉に関する自身の考えを論理的に述べる事ができた。	福祉に関する自身の考えを述べる事ができた。	福祉に関する自身の考えを述べる事ができなかった。
時代背景と福祉の制度を含む社会システムの関連を理解することができた。	具体的な関連性を例を使い説明することができた。	時代背景と福祉の制度を含む社会システムの関連を理解することができた。	社会システムが変化することが理解できた。	時代背景とは何かを理解することができた。	時代背景とは何かを理解することができなかった。
現代の課題とソーシャルポリシーを結び付けることができた。	昨今、なぜソーシャルポリシーが必要なのかを説明できた。	現代の課題とソーシャルポリシーを結び付けることができた。	ソーシャルポリシーの概念を理解できた。	現代の福祉的社会課題を提示することができた。	現代の福祉的社会課題を提示することができた。
社会の変化と福祉体制、福祉概念の変化と社会の在り方を関連付けられる。					

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会福祉事業史 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学部・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(授業改善アンケート結果について、シラバスの説明を含む)と欧米の福祉の歴史(講義)	シラバスの読み込みとレジユメの下調べ(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
2	欧米の歴史的時代背景と福祉体制の関連についてのグループワーク	講義の復習(90分)	グループワークのまとめとプレゼンの準備(90分)
3	プレゼンと討議	プレゼン及び討議の準備(90分)	次回講義テーマの下調べ(90分)
4	戦前日本の福祉について(講義)	レジユメの下調べ(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
5	戦前日本の福祉についてのグループワーク	講義の復習(90分)	グループワークのまとめとプレゼンの準備(90分)
6	プレゼンと討議	プレゼン及び討議の準備(90分)	次回講義テーマの下調べ(90分)
7	保健制度と税金によるサービス(講義)	レジユメの下調べ(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
8	保健制度と税金によるサービスについてのグループワーク	講義の復習(90分)	グループワークのまとめとプレゼンの準備(90分)
9	保険or税金? ディベート	プレゼン及び討議の準備(90分)	次回講義テーマの下調べ(90分)
10	戦後日本の福祉の歴史(講義)	レジユメの下調べ(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
11	戦後日本の福祉の歴史についてのグループワーク	講義の復習(90分)	グループワークのまとめとプレゼンの準備(90分)
12	戦後日本の福祉の歴史についてのプレゼン	プレゼン及び討議の準備(90分)	次回講義テーマの下調べ(90分)
13	現代日本の福祉的課題(講義)	レジユメの下調べ(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
14	現代日本の福祉的課題と対策についてのグループワーク	講義の復習(90分)	グループワークのまとめとプレゼンの準備(90分)
15	現代日本の福祉的課題と対策についてのプレゼン	プレゼン及び討議の準備(90分)	これまでのまとめと自身の福祉観をまとめる(90分)
16	予備時間		

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	福祉士国家試験対策 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)、 上原 正希(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	4 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	実際に受験を経験した教員を中心に試験対策に特化した指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験に合格できる力を身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP 1、DP 2、DP 3、DP 4に対応する科目。(2021年度)

到達目標

過去3年間の過去問の8割程が正解できる。

授業全体の内容と概要

科目ごとに過去問を行い、解答の解説を行う。また、宿題を課し、問題毎に説明ができるようになる。
*SDG 4.質の高い教育をみんなにの関連科目。

授業の方法

過去問を回答してもらい、頻出分野を解説する。板書や資料などを用いて学習を進める。質問や疑問点などは解説を行い、そのつど対応する。ICT活用(双方向型授業・自主学習支援など)、Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。基本は対面授業の実施だが、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業の実施をおこなう。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

受験科目になるため、基本的には毎回出席をすること。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程
精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は12回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	25%	25%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に出席し、科目ごとに問題を解説することができる。	15回以上出席し、共通科目の問題を5科目以上解説することができる。	15回以上出席し、共通科目の問題を4科目解説することができた。	14回出席し、共通科目の問題を3科目解説することができた。	13回出席し、共通科目の問題を2科目解説することができた。	12回以下の出席しかできなかった。
社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の第35回、36回の共通科目を8割以上の点数で回答できる。	第35、36回の共通科目の点数が8割以上できた。	第35、36回の共通科目の点数が7割できた。	第35、36回の共通科目の点数が6割できた。	第35、36回の共通科目の点数が5割できた。	第35、36回の共通科目の点数が4割以下しかできなかった。
第36回の共通科目の解説が行える。	11科目の解説を行うことができた。	9-10科目の解説を行うことができた。	7-8目の解説を行うことができた。	5-6科目の解説が行うことができた。	解説を行うことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	福祉士国家試験対策 (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)、 上原 正希(社会福祉学科・教授)杉本		研究室等所在	1号館2階	
単位数	4	(単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 実際に受験を経験した教員を中心に試験対策に特化した指導を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック2023(共通科目編)』		中央法規	2024		
2	『社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック2023』		中央法規	2024		
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『社会福祉士国家試験過去問題解説集 2024』		中央法規	2024		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション、シラバスの説明。 医学概論	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
2	心理学と心理的支援	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
3	社会学と社会システム	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
4	社会福祉の原理と政策	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
5	社会福祉調査の基礎	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
6	地域福祉と包括的支援体制	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
7	社会保障	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
8	障害者福祉	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
9	権利擁護を支える法制度 刑事司法と福祉	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
10	中間テスト	中間テストに向けた学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
11	ソーシャルワークの基礎と専門職 ソーシャルワークの理論と方法	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
12	福祉サービスの組織と経営 高齢者福祉	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
13	児童・家庭福祉 貧困に対する支援	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
14	保健医療と福祉 ソーシャルワークの理論と方法(専門)	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
15	第35回過去問のテスト	第35回の予習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
16	各科目の解説	解説のロールプレイ(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			